新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 212 集

北陸新幹線関係発掘調査報告書ⅩⅦ

北前田遺跡Ⅱ
野畔遺跡
諏訪前遺跡
北新田遺跡Ⅱ
中田原遺跡Ⅱ
岩ノ原遺跡Ⅱ

２０１０

新潟県教育委員会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

北陸新幹線関係発掘調査報告書ⅩⅦ

北前田遺跡Ⅱ
野畔遺跡
諏訪前遺跡
北新田遺跡Ⅱ
中田原遺跡Ⅱ
岩ノ原遺跡Ⅱ

２０１０

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

北陸新幹線は、東京を基点に上越新幹線高崎駅から分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を経て、大阪市に至る総延長 700km の新幹線鉄道です。全面開通により、北陸地方と関東圏・関西圏は短時間で結ばれ、日本海沿岸地域の産業・経済・文化の交流発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

本書は、この北陸新幹線建設に伴って実施した上越市に所在する北前田遺跡Ⅱ、野畔遺跡、諏訪前遺跡、北新田遺跡Ⅱ、中田原遺跡Ⅱ、岩ノ原遺跡Ⅱの発掘調査報告書です。

発掘調査面積に多少の差があるものの、それぞれの遺跡からは多くの遺構・遺物が見つかりました。

特に岩ノ原遺跡Ⅱは竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑などの遺構や墨書土器から荘園遺跡であることが分かり、中田原遺跡Ⅱは墨書土器からその外郭部と推定できました。平成 18 年度に実施した岩ノ原遺跡の発掘調査と合わせ、8 世紀中葉の奈良時代に上越地方で成立した「東大寺領石井荘」が、9 世紀後葉の平安時代までこの地に存続していたことが明らかになりました。また、北前田遺跡Ⅱでは石井荘の存続時期に並行する時期の集落が検出されました。

これらの発掘調査で得られた資料や本報告書が、埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されることを期待しています。

最後に、この発掘調査に対し、多大な御協力と御理解をいただきました上越市教育委員会、並びに地元の方々、また発掘調査から本書の作成まで格別な御配慮をいただきました独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北陸新幹線建設局、同上越鉄道建設所に対し厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

新潟県教育委員会
教 育 長　武藤　克己

例　　言

1　本報告書は、新潟県上越市に所在する北前田遺跡・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡・中田原遺跡・岩ノ原遺跡の発掘調査記録である。各遺跡の所在地は、北前田遺跡は大字上中田字北前田 471 番地ほか、野畔遺跡は大字上中田字野畔 1085 番地ほか、諏訪前遺跡は大字寺町字諏訪前 1365 番地 3 ほか、北新田遺跡は大字荒町字南新田、中田原遺跡は大字上中田字中田原 81 番地 2 ほか、岩ノ原遺跡は大字向橋字岩ノ原 162 番地ほかである。

2　この調査は、北陸新幹線の建設に伴い、新潟県教育委員会（以下、県教委）が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、鉄道運輸機構）から受託したものである。

3　発掘調査は、県教委が主体となり、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）に調査を依頼した。埋文事業団は、発掘調査作業及び関連諸工事を株式会社ノガミに委託し、埋文事業団の管理・監督のもと平成 20 年 4 月から 12 月にかけて株式会社ノガミが実施した。発掘調査面積は、北前田遺跡は 2,100㎡、野畔遺跡は 160㎡、諏訪前遺跡は 230㎡、北新田遺跡Ⅱは 250㎡、中田原遺跡Ⅱは 830㎡、岩ノ原遺跡Ⅱは 1,250㎡である。

4　整理作業及び報告書作成に係る作業は、平成 20 年度に埋文事業団の管理・監督のもと株式会社ノガミが行った。

5　出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料（含観察データ）は、一括して県教委が保管・管理している。データの有無や閲覧希望者は県教委に問い合わせ願いたい。

6　遺物の注記は、北前田遺跡Ⅱの略記号「08 北マエ」、野畔遺跡の略記号「ノアゼ」、諏訪前遺跡の略記号「スワマ」、北新田遺跡Ⅱの略記号「08 北シン」、中田原遺跡Ⅱの略記号「08 中タ」、岩ノ原遺跡Ⅱの略記号「08 イワノ」として、遺構名、出土地点や層位を続けて記した。

7　本書の図版で示す方位は、すべて真北である。

8　遺物番号は種別に係わらず遺跡ごとに通し番号を付した。本文及び観察表、図面･写真図版の番号は一致している。

9　本文中の注は脚注とし、頁ごとに番号を付した。また引用文献は著者及び発行年（西暦）を文中に［　　］で示し、巻末に一括して掲載した。

10　自然科学分析（花粉分析・樹種同定・植物珪酸体分析）はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行い、原稿は再編集したものを掲載した。

11　調査成果の一部は『埋文にいがた』63・65・66 号、『平成 20 年度　新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』で公表しているが、本報告書をもって正式とする。

12　遺構・遺物図面・挿図のトレース及び遺構・遺物写真の各種図版は、アドビシステムズ株式会社製 Illustrator・Photoshop を用いて編集・作成した。本文編は同社製 InDesign を用いて編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

13　本書の執筆は髙橋保雄（埋文事業団調査課長代理）の指導のもと、戸根与八郎（株式会社ノガミ埋蔵文化財調査部調査室長）、岡本範之、土沼章一、大谷祐司、金内元、村端和樹、秋山泰利（以上、同調査員）がこれにあたり、岩ノ原遺跡Ⅱの墨書土器に関しては相沢央氏（新潟市教育委員会）から執筆いただいた。第Ⅱ章 1 は新潟県埋蔵文化財調査報告書第 197 集『北前田遺跡Ⅰ･北新田遺跡Ⅰ』に掲載したものを一部改変した上で再掲した。編集は金内･秋山が担当した。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章 1･2A･B…髙橋、2C…土沼・大谷・秋山、2D･E…岡本　第Ⅱ章 1…大谷、2…秋山　第Ⅲ章 1･4A ～ C…岡本、2…土沼、3A･5…金内、3B･4F…秋山、3C…土沼･秋山、4D…大谷、4E…村端　第Ⅳ章 1･4B…岡本、2･3･4A…土沼、4C…村端、5…戸根　第Ⅴ章 1･4A ～ B…岡本、2･3･4C ～ D…大谷、5…千葉博俊・高橋敦・馬場健司（パリノ・サーヴェイ株式会社）、6…戸根　第Ⅵ章 1･4…岡本、2･3･5…秋山　第Ⅶ章 1･4B…岡本、2･3･4A･4D…大谷、4C…村端、5…千葉・高橋・馬場、6…戸根　第Ⅷ章 1･4A ～ B…岡本、2…土沼、3A･5A…金内、3B…土沼・大谷・秋山、4C･4E･4F…大谷、4D…村端、5B…相沢

14　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くのご教示・ご協力をいただいた。ここに記して厚く御礼を申し上げます。（敬称略　五十音順）

金子　拓男　　草間　敬子　　小池　義人　　笹澤　正史　　高橋　理彦　　高橋　道房　　中西　　聡
野村　忠司　　水澤　幸一

上越市大字上中田町内会　　上越市大字寺町町内会　　上越市大字中田原町内会　　上越市大字向橋町内会
上越市大字大和三丁目町内会　　上越市教育委員会　　上越市都市整備部新幹線建設対策課

目　次

第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査と整理の経過 …… 1

A　試掘確認調査 …… 1
B　試掘確認調査体制 …… 6
C　本発掘調査 …… 7
D　整　　理 …… 8
E　本発掘調査・整理体制 …… 8

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 10

1　地理的環境 …… 10

2　歴史的環境 …… 11

第Ⅲ章　北前田遺跡Ⅱ …… 13

1　グリッドの設定 …… 13

2　基本層序 …… 14

3　遺　　構 …… 14

A　概　　要 …… 14
B　記述方法 …… 15
C　遺構各説 …… 16

4　遺　　物 …… 25

A　概　　要 …… 25
B　土器の分類 …… 25
C　土　　器 …… 27
D　土製品 …… 28
E　石製品 …… 28
F　金属製品 …… 29

5　まとめ …… 29

第Ⅳ章　野畔遺跡 …… 37

1　グリッドの設定 …… 37

2　基本層序 …… 37

3　遺　　構 …… 37

A　概　　要 …… 37
B　遺構各説 …… 38

4　遺　　物 …… 39
A　概　　要 …… 39
B　土　　器 …… 39
C　石　製　品 …… 39
5　ま　と　め …… 40
第Ⅴ章　諏訪前遺跡 …… 42
1　グリッドの設定 …… 42
2　基 本 層 序 …… 42
3　遺　　構 …… 43
A　概　　要 …… 43
B　遺 構 各 説 …… 43
4　遺　　物 …… 43
A　概　　要 …… 43
B　土器・陶磁器 …… 43
C　土　製　品 …… 44
D　木　製　品 …… 44
5　自然科学分析 …… 44
A　試　　料 …… 44
B　分 析 方 法 …… 44
C　結　　果 …… 45
D　考　　察 …… 46
6　ま　と　め …… 47
第Ⅵ章　北新田遺跡Ⅱ …… 49
1　グリッドの設定 …… 49
2　基 本 層 序 …… 50
3　遺　　構 …… 50
A　概　　要 …… 50
B　遺 構 各 説 …… 50
4　遺　　物 …… 53
A　概　　要 …… 53
B　土　　器 …… 54
5　ま　と　め …… 54
第Ⅶ章　中田原遺跡Ⅱ …… 56
1　グリッドの設定 …… 56
2　基 本 層 序 …… 56

3　遺　　構 …… 57
A　概　　要 …… 57
B　遺構各説 …… 57
4　遺　　物 …… 60
A　概　　要 …… 60
B　土器・陶磁器 …… 61
C　石器・石製品 …… 62
D　木製品・竹製品 …… 62
5　自然科学分析 …… 63
A　分析方法 …… 63
B　結　　果 …… 64
C　考　　察 …… 64
6　ま　と　め …… 66
第Ⅷ章　岩ノ原遺跡Ⅱ …… 69
1　グリッドの設定 …… 69
2　基本層序 …… 70
3　遺　　構 …… 70
A　概　　要 …… 70
B　遺構各説 …… 71
4　遺　　物 …… 84
A　概　　要 …… 84
B　土器・陶磁器 …… 86
C　土　製　品 …… 92
D　石　製　品 …… 92
E　銭　　貨 …… 92
F　木　製　品 …… 92
5　ま　と　め …… 93
A　岩ノ原遺跡における遺構の変遷 …… 93
B　岩ノ原遺跡Ⅱ出土の墨書土器について …… 95
《要　　約》 …… 112
《引用・参考文献》 …… 114

挿図目次

第 1 図　北陸新幹線の路線と遺跡の位置 …… 2
第 2 図　諏訪前遺跡　試掘トレンチ位置図 …… 3
第 3 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　試掘トレンチ位置図 …… 3
第 4 図　北前田遺跡・北新田遺跡　試掘トレンチ位置図 …… 4
第 5 図　中田原遺跡　試掘トレンチ位置図 …… 5

第 6 図　野畔遺跡　試掘トレンチ位置図 …… 5
第 7 図　遺跡とその周辺の地形 …… 10
第 8 図　北前田遺跡　グリッド設定図 …… 13
第 9 図　小グリッド模式図 …… 13
第 10 図　北前田遺跡Ⅱ　基本土層図 …… 14
第 11 図　遺構の平面形状の分類 …… 15
第 12 図　遺構の断面形状の分類 …… 15
第 13 図　覆土の堆積形状の分類 …… 15
第 14 図　器種分類図（古代）…… 26
第 15 図　北前田遺跡Ⅱにおける遺構の変遷 …… 30
第 16 図　野畔遺跡　グリッド設定図 …… 37
第 17 図　小グリッド模式図 …… 37
第 18 図　諏訪前遺跡　グリッド設定図 …… 42
第 19 図　小グリッド模式図 …… 42
第 20 図　植物珪酸体含量 …… 45
第 21 図　植物珪酸体 …… 46
第 22 図　北新田遺跡Ⅱ　グリッド設定図 …… 49
第 23 図　小グリッド模式図 …… 49
第 24 図　北新田遺跡Ⅱ　基本土層図 …… 50
第 25 図　中田原遺跡Ⅱ　グリッド設定図 …… 56
第 26 図　小グリッド模式図 …… 56
第 27 図　中田原遺跡Ⅱ　基本土層図 …… 57
第 28 図　樹種同定結果 …… 65
第 29 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　グリッド設定図 …… 69
第 30 図　小グリッド模式図 …… 69
第 31 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　基本土層図 …… 70
第 32 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　出土土器分布図 …… 85
第 33 図　岩ノ原遺跡における遺構の変遷 …… 94
第 34 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　出土の墨書土器一覧 …… 96
第 35 図　岩ノ原遺跡Ⅱの墨書土器出土地点 …… 97

表 目 次

第 1 表　北前田遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（1）…… 32
第 2 表　北前田遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（2）…… 33
第 3 表　北前田遺跡Ⅱ　掘立柱建物・杭列柱穴観察表 …… 34
第 4 表　北前田遺跡Ⅱ　畑作溝観察表 …… 35
第 5 表　北前田遺跡Ⅱ　土製品観察表 …… 35
第 6 表　北前田遺跡Ⅱ　石製品観察表 …… 35
第 7 表　北前田遺跡Ⅱ　金属製品観察表 …… 35
第 8 表　北前田遺跡Ⅱ　土器観察表 …… 36
第 9 表　野畔遺跡　掘立柱建物柱穴観察表 …… 41
第 10 表　野畔遺跡　土器観察表 …… 41
第 11 表　野畔遺跡　石製品観察表 …… 41
第 12 表　植物珪酸体含量 …… 45
第 13 表　諏訪前遺跡　土器観察表 …… 48
第 14 表　諏訪前遺跡　土製品観察表 …… 48
第 15 表　諏訪前遺跡　木製品観察表 …… 48
第 16 表　北新田遺跡Ⅱ　杭列柱穴観察表 …… 55
第 17 表　北新田遺跡Ⅱ　溝観察表 …… 55
第 18 表　北新田遺跡Ⅱ　土器観察表 …… 55
第 19 表　樹種同定結果 …… 65
第 20 表　中田原遺跡Ⅱ　土器観察表 …… 67
第 21 表　中田原遺跡Ⅱ　石器・石製品観察表 …… 68
第 22 表　中田原遺跡Ⅱ　木製品観察表 …… 68
第 23 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（1）…… 100
第 24 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（2）…… 101
第 25 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（3）…… 102
第 26 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（4）…… 103
第 27 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（5）…… 104
第 28 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（6）…… 105
第 29 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物・杭列柱穴観察表 …… 106
第 30 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　土器・陶磁器観察表（1）… 107
第 31 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　土器・陶磁器観察表（2）… 108
第 32 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　土器・陶磁器観察表（3）… 109
第 33 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　土器・陶磁器観察表（4）… 110
第 34 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　土製品観察表 …… 111
第 35 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　石製品観察表 …… 111
第 36 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　銭貨観察表 …… 111
第 37 表　岩ノ原遺跡Ⅱ　木製品観察表 …… 111

図版目次

[図面図版]

図版 1　北前田遺跡Ⅱ　遺構配置図
図版 2　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 1
図版 3　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 1　SB381・383・412・482、SA486、SE378、SK364・365・384・385
図版 4　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 2　SK386 ～ 389・408・463・468・475 ～ 477・491、畑作溝
図版 5　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 2
図版 6　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 3　SB307、SE111・341・474、SK178・189・347・369
図版 7　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 3
図版 8　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 4
図版 9　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 4　SB269・319・320・358、SK112・326・397
図版 10　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 5　SK327、SB288、SK207・313・478、畑作溝
図版 11　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 5
図版 12　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 6
図版 13　北前田遺跡Ⅱ　遺構分割図 7
図版 14　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 6　SB98・108・258・259・287
図版 15　北前田遺跡Ⅱ　遺構個別図 7　SA266、SE277、SK160・200・203・213・228・251・271・359・382、SD109、SB99、SK282、SX55、SB100
図版 16　北前田遺跡Ⅱ　遺構出土土器 1
図版 17　北前田遺跡Ⅱ　遺構出土土器 2・遺構外出土土器・土製品・石製品・金属製品
図版 18　野畔遺跡　遺構配置図・基本層序・遺構個別図 1　SB34・46、SD1
図版 19　野畔遺跡　遺構個別図 2　SE10、SK11・14、SX41・43　遺構出土土器・石製品
図版 20　諏訪前遺跡　遺構配置図・基本層序・遺構個別図　SK5・11・遺構外出土土器・木製品
図版 21　北新田遺跡Ⅱ　遺構配置図
図版 22　北新田遺跡Ⅱ　遺構分割図 1
図版 23　北新田遺跡Ⅱ　遺構分割図 2
図版 24　北新田遺跡Ⅱ　遺構個別図 1　SI847、SB1605、SX1609、SK1619、SD845・846・1612・1614、SI203、SX1676
図版 25　北新田遺跡Ⅱ　遺構個別図 2　SI1660、SK1645･1678･1679、SX1665、畑作溝･遺構出土土器・遺構外出土土器
図版 26　中田原遺跡Ⅱ　遺構配置図
図版 27　中田原遺跡Ⅱ　遺構分割図 1
図版 28　中田原遺跡Ⅱ　遺構分割図 2
図版 29　中田原遺跡Ⅱ　遺構分割図 3
図版 30　中田原遺跡Ⅱ　遺構個別図　SE13・15、SK32・38・42・44、SX12・31・39・40、TP14・18・20・23・24・26・37・41
図版 31　中田原遺跡Ⅱ　遺構出土土器・遺構外出土土器・遺構出土木製品 1
図版 32　中田原遺跡Ⅱ　遺構出土木製品 2
図版 33　中田原遺跡Ⅱ　遺構出土木製品 3
図版 34　中田原遺跡Ⅱ　石器・石製品
図版 35　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構配置図
図版 36　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構分割図 1
図版 37　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 1　SB1501 ～ 1504
図版 38　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 2　SB1533・1534、SE337・609・760、SD1265
図版 39　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構分割図 2
図版 40　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 3　SB1508・1518・1521、SA1510、SE788・826・830・834・1565
図版 41　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構分割図 3
図版 42　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 4　SI1312、SB1505・1511・1512
図版 43　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 5　SB1513 ～ 1517、SE1139・1221
図版 44　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構分割図 4
図版 45　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 6　SI1311・1344、SB1519、SK1345
図版 46　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 7　SB1520・1523・1525・1529・1576、SA1524・1530
図版 47　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 8　SE488・1155・1493、SK476・477・483・1500・1554
図版 48　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構分割図 5
図版 49　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 9　SB1522・1526 ～ 1528、SA1531・1532
図版 50　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 10　SE1405、SK1087・1399、SD724
図版 51　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構分割図 6

図版 52　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 11　SB276・288 ～ 292
図版 53　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構個別図 12　SB293 ～ 295、SE143・200 ～ 203、SK4・61・132・182・183・187・206、SD106・190
図版 54　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器 1
図版 55　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器 2
図版 56　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器 3
図版 57　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器 4
図版 58　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器 5・遺構外出土土器 1
図版 59　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構外出土土器 2・石製品・木製品・金属製品

[写真図版]

図版 60　北前田遺跡Ⅱ　調査区全景
図版 61　北前田遺跡Ⅱ　調査区全景
図版 62　北前田遺跡Ⅱ　基本層序、SB381・383・482・412・269・307
図版 63　北前田遺跡Ⅱ　SB319・320・358・108・258・259・287・288
図版 64　北前田遺跡Ⅱ　SB98、SA266、SB99・100、SE378・474・111・277
図版 65　北前田遺跡Ⅱ　SK463・468・476・475・389・491・364・365
図版 66　北前田遺跡Ⅱ　SK369・189・327・207・228・112・200・313
図版 67　北前田遺跡Ⅱ　SK251・203・160・213、P308、SD115・116・119・109
図版 68　北前田遺跡Ⅱ　遺構出土土器 1
図版 69　北前田遺跡Ⅱ　遺構出土土器2・遺構外出土土器・土製品・石製品・金属製品
図版 70　野畔遺跡　調査区全景、基本層序、SB34・46
図版 71　野畔遺跡　SE10、SK11・14、SD1、SX41・43、P13・42、遺構出土土器・石製品
図版 72　諏訪前遺跡　調査区全景、基本層序、SK5・11、遺構外出土土器、木製品
図版 73　北新田遺跡Ⅱ　調査区全景、基本層序、SI203
図版 74　北新田遺跡Ⅱ　SI203・1660
図版 75　北新田遺跡Ⅱ　SB1605、SK1645、SI847、遺構出土土器、遺構外出土土器
図版 76　中田原遺跡Ⅱ　調査区全景、基本層序、TP14
図版 77　中田原遺跡Ⅱ　TP20・23・24・26
図版 78　中田原遺跡Ⅱ　TP18・37・41、SE13
図版 79　中田原遺跡Ⅱ　SE15、SK32・38・42・44、SX12・31
図版 80　中田原遺跡Ⅱ　SX39・40、足跡
図版 81　中田原遺跡Ⅱ　遺構出土土器・遺構出土木製品1
図版 82　中田原遺跡Ⅱ　遺構出土木製品2
図版 83　中田原遺跡Ⅱ　遺構出土木製品3
図版 84　中田原遺跡Ⅱ　石器・石製品
図版 85　岩ノ原遺跡Ⅱ　調査区全景
図版 86　岩ノ原遺跡Ⅱ　掘立柱建物群、基本層序、SI1311・1312
図版 87　岩ノ原遺跡Ⅱ　SI1312・1344
図版 88　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB276・288・293・294・289～292・295
図版 89　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB276・288～292・295・1501
図版 90　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1501～1505
図版 91　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1505・1508・1511～1515
図版 92　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1514～1518
図版 93　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1519～1521
図版 94　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1522、SA1532・1523・1525・1526
図版 95　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1527～1529・1533
図版 96　岩ノ原遺跡Ⅱ　SB1534・1576、SA1530～1532
図版 97　岩ノ原遺跡Ⅱ　SE143・200・201・337
図版 98　岩ノ原遺跡Ⅱ　SE337・488・609 ・760・788
図版 99　岩ノ原遺跡Ⅱ　SE826・830・834・1139
図版 100　岩ノ原遺跡Ⅱ　SE1139・1155・1221・1363・1405
図版 101　岩ノ原遺跡Ⅱ　SE1405・1493・1565、SK4・61・132・182・SB289、SK183 P6・16・297
図版 102　岩ノ原遺跡Ⅱ　SK187・476・477・483・1087・1345、P169
図版 103　岩ノ原遺跡Ⅱ　SK1345・1399・SB1519、SK1500、SD106・190・724・1265、P623
図版 104　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器1
図版 105　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器2
図版 106　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器3
図版 107　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構出土土器4・遺構外出土土器1
図版 108　岩ノ原遺跡Ⅱ　遺構外出土土器2・石製品・木製品・金属製品
図版 109　岩ノ原遺跡Ⅱ　墨書土器1
図版 110　岩ノ原遺跡Ⅱ　墨書土器2

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

北陸新幹線は、「全国新幹線鉄道整備法」に基づき建設される新幹線鉄道である。上越新幹線高崎駅から分岐し、長野市・上越市・糸魚川市・富山市・小浜市を経由し、東京都と大阪市を結ぶ路線である。総延長 700km のうち、高崎・長野間は既に平成９（1997）年 10 月に開業している。その後、長野市を基点とし、長野県飯山市を経て上越市に至る長野･上越間の延長 60km は、昭和 47（1972）年に基本計画が、翌年に整備計画が決定され、平成 10 年３月に工事実施計画が認可された。これを受けて、日本鉄道建設公団（以下「鉄建公団」という）北陸新幹線建設局と県教委との間で、建設用地内における埋蔵文化財の分布調査・試掘確認調査等に関する協議が本格化した。

平成 10 年９月、鉄建公団から埋蔵文化財の分布調査の依頼を受けた県教委は、平成 10 年 11 月に調査を実施した。その結果、埋蔵文化財の具体的な規模・内容等は不明であるものの、今後、試掘確認調査を実施して取り扱いを判断する必要があると回答した。

上越市内の試掘確認調査は、平成 14 年度から本格的に始まった。諏訪前遺跡は平成 15・17・19 年度、岩ノ原遺跡は平成 16・19・20 年度、北前田遺跡・北新田遺跡は平成 18・19 年度、中田原遺跡は平成 18･19 年度、野畔遺跡は平成 19 年度の試掘確認調査を経て、いずれも新遺跡としてそれぞれ周知化され、最終的な本調査範囲が確定した。これらの試掘確認調査の結果を受け、鉄道運輸機構は県教委に対して発掘調査の早期実施を要望した。

その結果、鉄道運輸機構と県教委の協議が整った遺跡から本発掘調査を実施することとなった。岩ノ原遺跡・中田原遺跡は平成 18 年度、北前田遺跡・北新田遺跡は平成 19 年度に既に本発掘調査の一部を実施した。平成 20 年３月、鉄道運輸機構はこれらの遺跡の未調査部分と野畔遺跡・諏訪前遺跡を加えた６遺跡の発掘調査を県教委に委託した。県教委は同年４月、埋文事業団に調査を依頼し、本発掘調査に着手することとなった。最終的な調査面積[1]は北前田遺跡Ⅱ[2]：2,100㎡、野畔遺跡：160㎡、諏訪前遺跡：230㎡、北新田遺跡Ⅱ：250㎡、中田原遺跡Ⅱ：830㎡、岩ノ原遺跡Ⅱ：1,250㎡である。

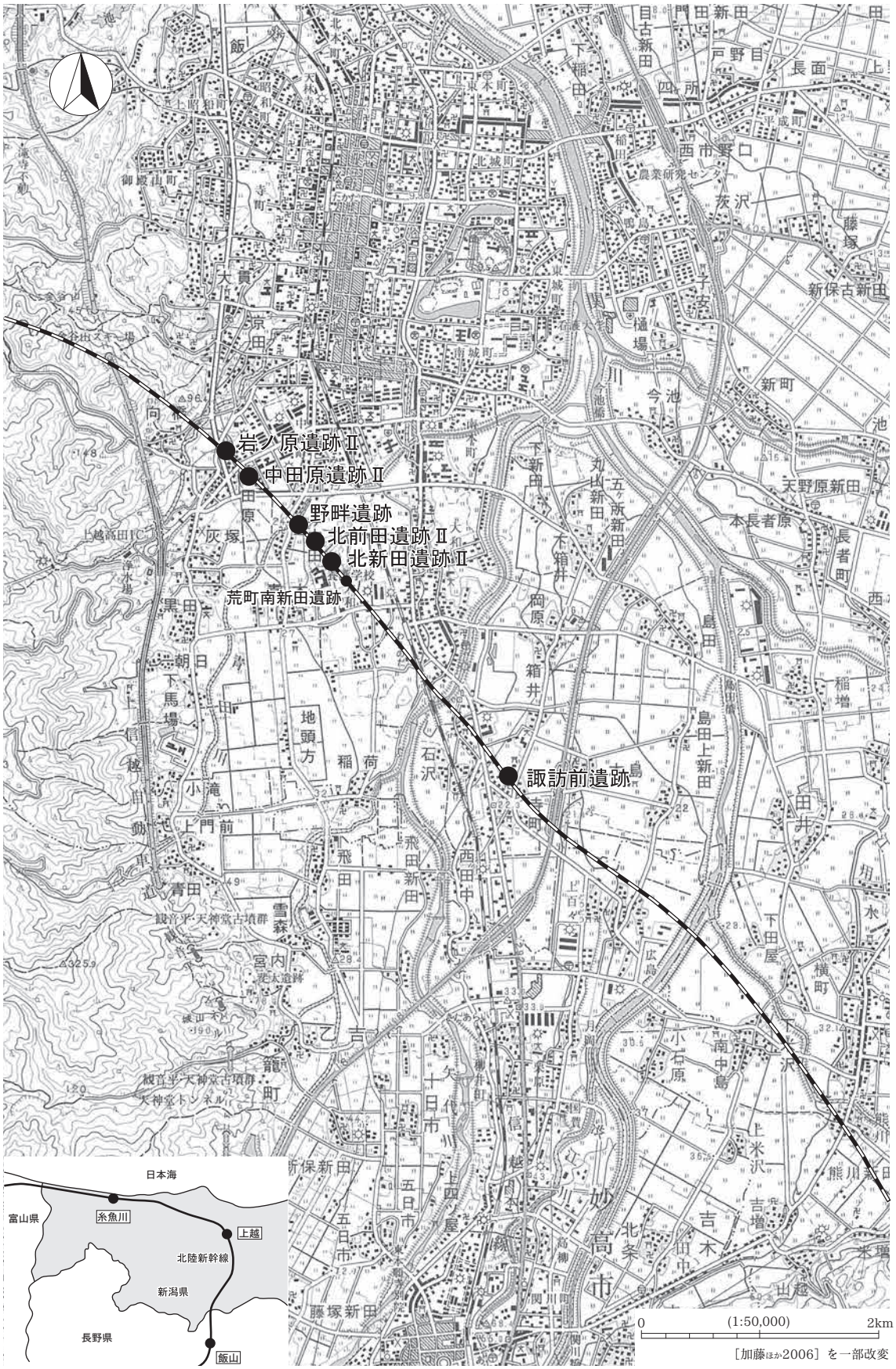
2　調査と整理の経過

A　試掘確認調査

いずれも試掘確認調査以前は未周知の遺跡で、試掘確認調査の結果、新たに発見された遺跡である。分布調査、地形等から遺跡が存在する可能性があることから、試掘確認調査を行った。調査方法の詳細は各遺跡で異なるが、基本的には調査対象範囲内において任意にトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認しながら調査を進めた。掘削はバックホーを中心に行い、遺構・遺物の有無、層序観察など、必要に応じ

１）当初、北前田遺跡Ⅱは 1,950㎡であったが、消雪基地に伴うパイプ埋設部分 150㎡が追加された。同じく岩ノ原遺跡Ⅱは 150㎡であったが、その後の確認調査を経て橋脚工事範囲及び市道付替部分、橋脚建設に伴う土壌改良部分の 1,100㎡が追加された。

２）遺跡名の後に「Ⅱ」が付く場合は、２回目の本発掘調査であることを表している。以下同じ。



［加藤ほか2006］を一部改変

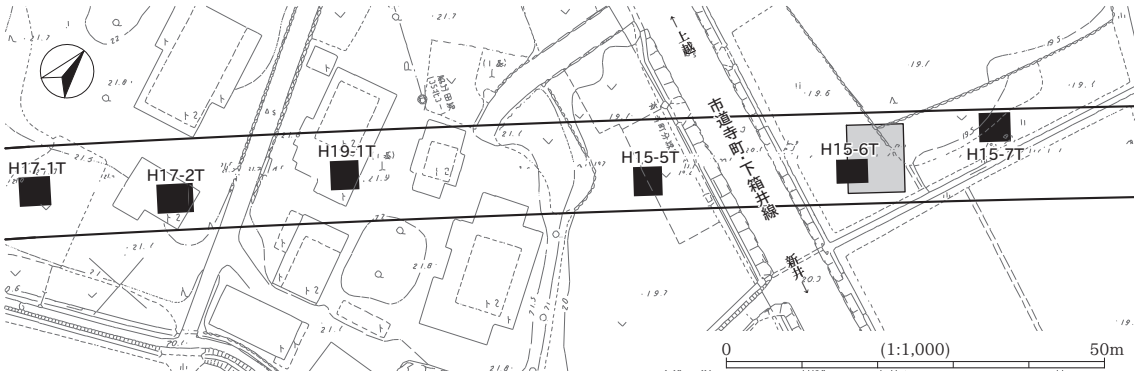
第１図　北陸新幹線の路線と遺跡の位置

［国土地理院発行　「高田東部」「高田西部」　１：50,000 原図］

て人力で掘削を行った。以下、各遺跡の調査の概略を記述する。

１)諏訪前遺跡　（平成 15 年 11 月 25 日～ 12 月５日、平成 17 年４月 11 日、平成 19 年 10 月 29 日）

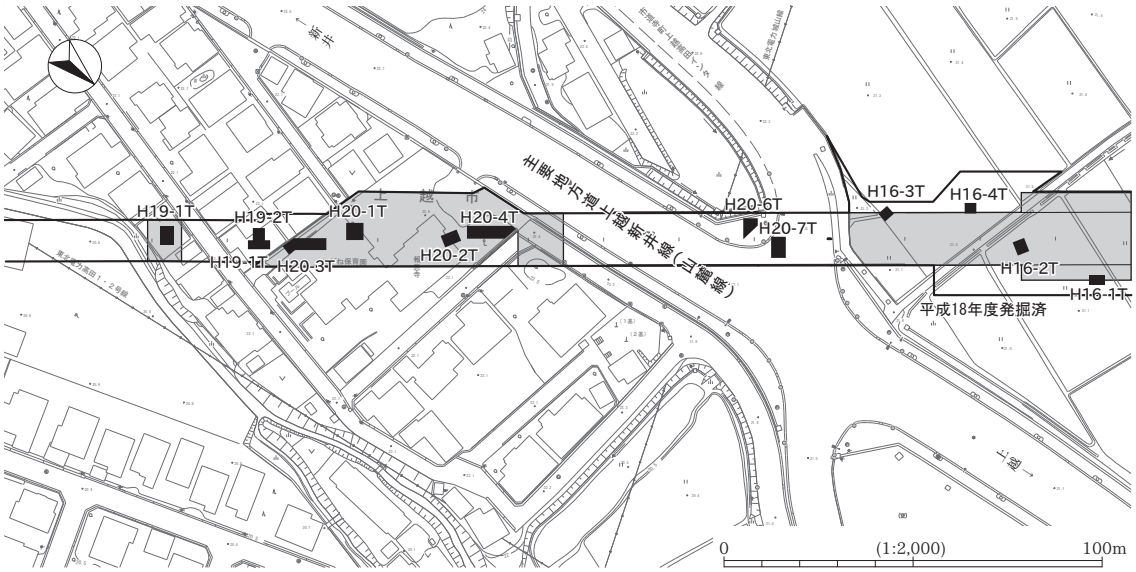
用地買収の関係から調査は３回に分けて行った。調査対象範囲の約 1,800㎡に６か所のトレンチを設定した。現況は水田であることから、バックホーで掘削を行った。調査の結果、平成 15 年度調査の H15 －６T で土坑が検出され、５T･６T で古代の遺物が数点出土した。しかし、平成 17･19 年度の調査では、いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出できなかった。これらの状況を受けて、H15 －６T を含む周辺を小字名から「諏訪前遺跡」として周知し、H15 －６T 付近の橋脚及び橋脚工事範囲の 150㎡を本調査必要範囲とした。



第２図　諏訪前遺跡　試掘トレンチ位置図（S＝1/１,０００）

２）岩ノ原遺跡　（平成 16 年 11 月８日～ 11 月 10 日、平成 19 年４月 10 日、平成 20 年８月４日･９月９日･　10 月 29 日）

用地買収、工事工程の関係から調査は５回に分けて行った。平成 16 年度は県道上越新井線（山麓線）の西側を調査対象とし、調査対象面積 4,956㎡に７か所のトレンチを設定した。現況は水田であることから、バックホーで掘削を行った。調査の結果、すべてのトレンチから古代の土師器・須恵器が出土し、H16 －１T・２T・４T・６T で土坑・ピットなどの遺構を検出した。また遺物包含層も良好に遺存し、

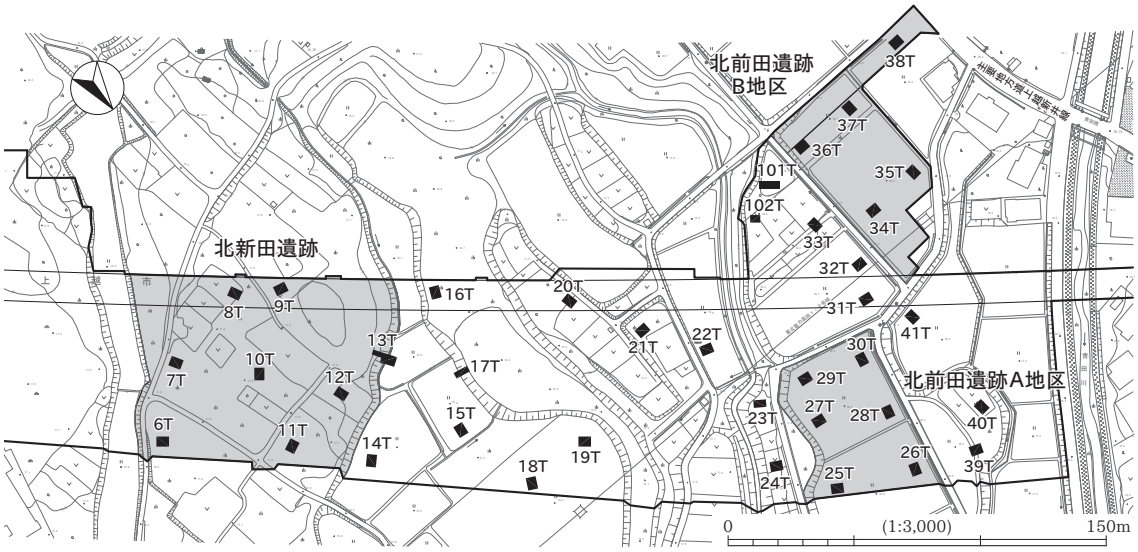


第３図　岩ノ原遺跡Ⅱ　試掘トレンチ位置図（S＝1/2,０００）

低湿地であることから木製品等の出土も期待された。このように新遺跡の存在が明らかになり、遺跡名は小字名から「岩ノ原遺跡」として周知された。したがって、県道上越新井線の西側は、遺跡に影響のある新幹線本線部分及び工事範囲の 3,750㎡を本調査必要範囲とし、平成 18 年度に本調査を実施した。本調査の結果、「石井庄」「石庄」の墨書土器などから、８世紀中葉に上越地方で成立した東大寺領石井荘の荘園遺跡であることが判明した。一方、県道上越新井線（山麓線）の東側は、平成 19 年度から試掘確認調査を行った。調査対象範囲の約 2,800㎡に９か所のトレンチを設定した。調査の結果、H19 －１T、H20 －１T ～４T で古代の土師器・須恵器などの土器と、土坑・柱穴などの遺構を検出し、岩ノ原遺跡の範囲が拡大することになった。したがって、県道上越新井線の東側は、これらのトレンチ付近の橋脚工事範囲及び市道付替部分、橋脚建設に伴う土壌改良部分の 1,250㎡を本調査必要範囲とした。

３）北前田遺跡・北新田遺跡　（平成 18 年 11 月 13 日～ 11 月 30 日、平成 19 年４月 25 日）

試掘調査未同意地の関係から調査は２回に分けて行った。調査対象地は新幹線本線部分、車両基地、消雪基地の広大な範囲であった。調査対象範囲の約 34,000㎡に 38 か所[1)]のトレンチを設定した。現況は畑・水田であることから、バックホーで掘削を行った。調査の結果、７T・10T ～ 14T・25T・27T ～ 32T・34T・36T ～ 38T で古墳時代の土師器や古代の土師器・須恵器が出土し、６T ～ 11T・25T・28T・30T・34T・37T で土坑・溝・ピット等の遺構を検出した。これらの結果、複数の新遺跡の存在が明らかになった。遺跡は遺構・遺物の分布状況、調査地の地形等を考慮し、小字名から６T ～ 13T を含む範囲を「北新田遺跡」､同じく 25T ～ 30T･34T ～ 38T を含む範囲を「北前田遺跡」として周知した。したがって、北新田遺跡は新幹線本線部分及び車両基地が係る 6,800㎡、北前田遺跡は車両基地及び消雪基地が係る 4,850㎡を本調査必要範囲[2)] とした。このうち、工事工程の関係から平成 19 年度に北前田遺跡の A・B 地区 3,110㎡、北新田遺跡の農道部分を除いた 6,550㎡の本発掘調査を実施した。

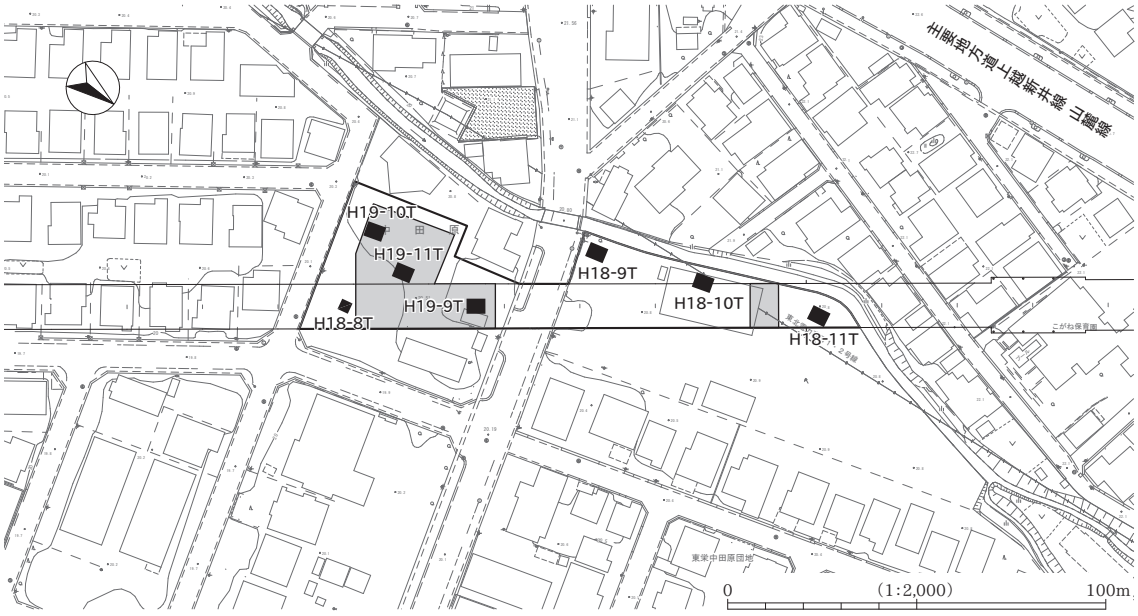


第４図　北前田遺跡・北新田遺跡　試掘トレンチ位置図（S ＝ 1 /3, ０００）

1）平成 18 年度は６T ～ 41 T の 36 か所、平成 19 年度は 101 T・102 T の２か所である。
2）その後、平成 20 年度にＣ地区北側の鉄塔嵩上げ仮設範囲、消雪基地パイプ埋設範囲の 360㎡が本調査必要範囲として追加されている。

４）中田原遺跡　（平成 18 年４月 25 日～ 27 日、平成 19 年６月６日）

用地買収の関係から調査は２回に分けて行った。調査対象範囲の約 2,700㎡に７か所のトレンチを設定した。現況は宅地・車庫・駐車場跡であることから、支障物件を避けながらバックホーで掘削を行った。調査の結果、平成 18 年度調査では H18 － 8T で土師器、H18 － 11T で土師器・須恵器と土坑２基が確認され、新遺跡の存在が明らかとなった。新遺跡は小字名から「中田原遺跡」として周知し、H18 － 11T 付近の橋脚及び橋脚工事範囲 78㎡が本調査必要範囲とした。なお本調査は範囲が狭いことから、平成 18 年度の岩ノ原遺跡の本調査と並行して行った[1)]。平成 19 年度調査では、遺構が検出されなかったものの、いずれのトレンチからも土師器・須恵器、また H19 － 9T から縄文土器が出土した。これらの結果を受けて、本線・通信基地部分の 830㎡を本調査必要範囲とした。



第５図　中田原遺跡　試掘トレンチ位置図（S ＝ 1 /2, ０００）

第６図　野畔遺跡　試掘トレンチ位置図（S ＝ 1 /1, ０００）

1）　調査の結果、平安時代の溝１条とピット２基の遺構、須恵器６点・土師器５点の遺物を検出した。詳細は平成 18 年度の年報を参照のこと。

５）野畔遺跡　（平成 19 年６月４日～６日）

調査対象範囲の約 930㎡に７か所のトレンチを設定した。現況は宅地・竹林・ガス管埋設地であることから、支障物件を避けながらバックホーで掘削を行った。調査の結果、１Ｔ・５Ｔ・７Ｔで土師器・須恵器、４Ｔで中世土師器、また７Ｔで縄文土器が出土した。しかし、１Ｔ以外は散発的な出土であった。遺構は１Ｔで溝１条を検出した。これらの状況から１Ｔを含む周辺に遺跡の存在する可能性が明らかとなり、小字名から「野畔遺跡」として周知した。したがって、１Ｔ付近の橋脚及び橋脚工事範囲の 160㎡を本調査必要範囲とした。

Ｂ　試掘確認調査体制

【平成 15 年度】　　【平成 16 年度】

調査主体	新潟県教育委員会（教育長　板屋越　麟一）	新潟県教育委員会（教育長　板屋越　麟一）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	黒井　幸一　（事務局長）	黒井　幸一　（事務局長）
管　　理	長谷川二三夫　（総務課長）	長谷川二三夫　（総務課長）
庶　　務	高野　正司　（総務課班長）	高野　正司　（総務課班長）
調査総括	藤巻　正信　（調査課長）	藤巻　正信　（調査課長）
指　　導	田海　義正　（調査課担当課長代理）	
調査担当	石川　智紀　（調査課班長）	山本　　肇　（調査課担当課長代理）
職　　員	片岡　千恵　（調査課嘱託員）	田中　一穂　（調査課嘱託員）

【平成 17 年度】　　【平成 18 年度】

調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	波多　俊二　（事務局長）	波多　俊二　（事務局長）
管　　理	長谷川二三夫　（総務課長）	斎藤　　栄　（総務課長）
庶　　務	長谷川　靖　（総務課班長）	長谷川　靖　（総務課班長）
調査総括	藤巻　正信　（調査課長）	藤巻　正信　（調査課長）
調査担当	寺崎　裕助　（調査課担当課長代理）	田海　義正　（調査課担当課長代理）
職　　員	田中　一穂　（調査課嘱託員）	田中　一穂　（調査課嘱託員）

【平成 19 年度】　　【平成 20 年度】

調査主体	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）	新潟県教育委員会（教育長　武藤　克己）
調　　査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総　　括	木村　正昭　（事務局長）	木村　正昭　（事務局長）
管　　理	斎藤　　栄　（総務課長）	斎藤　　栄　（総務課長）
庶　　務	長谷川　靖　（総務課班長）	長谷川　靖　（総務課班長）
調査総括	藤巻　正信　（調査課長）	藤巻　正信　（調査課長）
調査担当	田海　義正　（調査課担当課長代理）	田海　義正　（調査課担当課長代理）
職　　員	田中　一穂　（調査課嘱託員）	畠野　義昭　（調査課主任調査員）

C　本発掘調査

北前田遺跡Ⅱ　4月17日、平成19年度の発掘調査区域と接する南側から北へ向けてバックホーによる表土除去を行う。包含層は残存しておらず、遺構検出面までバックホーで下げることとした。4月21日、表土除去は調査区北側を中心に行った。遺構検出面（地山）は南から北にかけて黄褐色シルト・暗灰黄褐色シルト・黒色シルトへと移行することを確認した。4月24日、作業員説明会を行う。表土除去を調査区北東部の鉄塔代替地を除き終了する。4月28日、作業員を投入し、調査区南端部から遺構検出を行う。この結果、平成19年度の調査で確認した掘立柱建物の続きを検出する。その北側では掘立柱建物・土坑・井戸等を検出する。5月1日、遺構掘削を行う。土坑は遺物の出土状況から廃棄用に掘られたものと想定した。5月27日、調査区北東部の鉄塔代替地の表土除去をバックホーで行った。6月19日、遺跡全景の航空写真撮影を行う。6月21日、現地説明会を開催（見学者約109名）。6月25日、遺構掘削及び平面測量を終了し、県教委に終了確認の検査を受ける。本発掘調査は全て終了した。

野畔遺跡　6月16日、調査区東側から西へ向けてバックホーによる表土除去を行う。包含層が残存していないことから、遺構検出面までバックホーで下げることとした。6月20日、表土除去を終了する。その後遺構検出を行い、掘立柱建物・溝・井戸等を検出する。6月27日、遺構掘削を行う。掘立柱建物（SB34）は柱穴の底面の形状から2回の建て替えを行ったものと想定した。7月10日、遺構掘削を終了する。7月11日、全景の写真撮影を行う。県教委に終了確認の検査を受ける。7月14日、平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

諏訪前遺跡　6月17日、調査区北側から南へ向けてバックホーによる表土除去を開始する。6月18日、表土除去を終了する。その後サブトレンチを設定し、遺構検出面の確定作業を行う。6月27日、遺構検出面はⅣ層と判明する。包含層（Ⅱ・Ⅲ層）掘削を人力で行う。7月15日、包含層掘削を終了する。その後遺構検出を行い、土坑2基を検出する。7月16日、遺構掘削を行い、当日終了した。7月17日、遺跡全景の写真撮影を行い、平面測量を終了する。県教委に終了確認の検査を受ける。本発掘調査は全て終了した。

北新田遺跡Ⅱ　6月23日、調査区南西側から北東へ向けてバックホーによる表土除去を行い、当日終了した。包含層は残存しておらず、遺構検出面まで掘り下げていったが、32I12・17グリッド付近では遺物が出土し始めたため、遺構検出面より20cm程高い位置でバックホーによる表土除去から人力による表土除去に切り替えた。7月7日作業員を投入し、表土除去及び遺構検出・遺構掘削を並行して行った。その結果、平成19年度の調査で検出した竪穴住居（SI203・847）の続きを確認し、他にも竪穴住居・土坑等を検出した。7月30日、SI203の土層断面観察のためのベルトを残して掘削し、焼土を検出した。焼土は遺構の東側で検出したことから、SI203は東側にカマドをもつ竪穴住居と断定した。7月31日、SI203のほぼ中央部で地床炉と考える焼土を検出した。県教委に終了確認の検査を受ける。8月5日、遺構掘削を終了する。8月6日、遺跡全景の写真撮影を行う。8月8日、平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

中田原遺跡Ⅱ　7月10日、調査区南西側から北へ向けてバックホーによる表土除去を行う。7月22日、作業員を投入し、調査区周囲に排水を兼ねたサブトレンチの掘り下げを行い、遺構検出面の確定作業を行う。その結果、遺構検出面は南東へ向けて緩く傾斜していることが判明した。7月24日、表土除去を終了し、包含層掘削を人力で行う。8月1日、包含層掘削を終了し、遺構検出を行う。その結果、陥穴（T

ピット）・土坑・井戸を検出する。引き続き遺構掘削を開始する。８月 27 日、陥穴の掘削を終了し、完掘状況の写真撮影を行う。陥穴（Ｔピット）は７基、北から南へ向けて３～５ｍ間隔で並列することを確認した。８月 28 日、陥穴の構築状況確認のため断ち割りを行う。９月 11 日、土坑･井戸の掘削を終了する。調査区南東端部で検出した沢状の落ち込みからは、多量の自然木に混じって加工痕のある木製品が出土した。９月 17 日、遺跡全景の写真撮影を行う。撮影後、木製品の取上げを開始する。９月 19 日、県教委に終了確認の検査を受ける。９月 30 日、木製品の取上げを終了する。平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

岩ノ原遺跡Ⅱ　９月 16 日、調査区北側から南へ向けてバックホーによる表土除去を開始した。表土除去は当日終了し、引き続き包含層掘削を人力で行う。９月 25 日、包含層掘削を終了し、遺構検出を北端部から中央へ向けてと南端部から中央へ向けての２方向で実施した。その結果、南半部では大型の掘立柱建物・井戸等を検出した。北半部では、井戸のほかに多数の小ピット群を検出した。10 月９日、遺構掘削を開始する。10 月 16 日、調査区北東端部に接する市道路下を対象に、バックホーによる表土除去を行った。その結果、調査範囲内のほとんどは撹乱により破壊されており、検出した遺構はピット１基のみである。10 月 17 日、市道路下の調査を終了する。11 月６日、井戸・土坑等の掘削をほぼ終了する。引き続き竪穴状遺構・掘立柱建物の掘削を中心に行う。２か所で確認した竪穴状遺構は、規模や平面形態も同じ様相を呈し、貼床をしている点でも同タイプのものと判断した。また、調査区中央東端で検出した竪穴状遺構では、遺構の南壁中央にカマドの痕跡と思われる焼土の堆積を確認する。11 月 12 日、遺跡全景の航空写真撮影を行う。11 月 15 日、現地説明会を開催（見学者約 188 名）する。11 月 20 日、遺構掘削を終了する。11 月 21 日、県教委に終了確認の検査を受ける。11 月 27 日、平面測量を終了し、本発掘調査は全て終了した。

Ｄ　整　　理

平成 20 年５月から、写真の整理及び出土遺物の水洗・注記・接合・復元は現地作業棟で、本発掘調査と並行して行った。本発掘調査終了後の 12 月から、株式会社ノガミ亀田営業所で、野畔ほか５遺跡の本格的な整理を実施した。遺物の実測・拓本・版組みを 12 月から２月中旬にかけて行い、２月から３月に遺物写真撮影・遺構実測図編集・版組み、遺物写真図版組み作業、原稿作成、編集・校正を行った。整理作業の主な流れは下記のようになる。

内容	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
水洗・注記	━	━	━	━	━	━	━				
接合・復元			━	━	━	━	━	━			
実測・拓本				━	━	━	━	━	━	━	
遺物写真撮影										━	
図版作成										━	━
原稿作成										━	━
編集・校正											━

Ｅ　本発掘調査・整理体制

調査期間　北前田遺跡Ⅱ：平成 20 年４月 17 日～６月 25 日

　　野　畔　遺　跡：平成 20 年６月 16 日～７月 14 日

諏訪前遺跡：平成20年6月17日～7月17日
北新田遺跡Ⅱ：平成20年6月23日～8月8日
中田原遺跡Ⅱ：平成20年7月10日～9月30日
岩ノ原遺跡Ⅱ：平成20年9月16日～11月27日

整理期間　全遺跡：平成20年11月28日～平成21年3月31日

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克己）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

管　　理　木村　正昭（事務局長）
斎藤　　栄（総務課長）
藤巻　正信（調査課長）

庶　　務　長谷川　靖（総務課班長）

監　　督　髙橋　保雄（調査課本発掘調査担当課長代理）

調査組織　株式会社ノガミ

現場代理人　中里　幸道（埋蔵文化財調査部）
調査指導　戸根与八郎（　同　調査室長）
調査担当　岡本　範之（　同　調査員）
調　査　員　土沼　章一（　同　調査員）
大谷　祐司（　同　調査員）
調査補助員　秋山　泰利（　同　調査員）

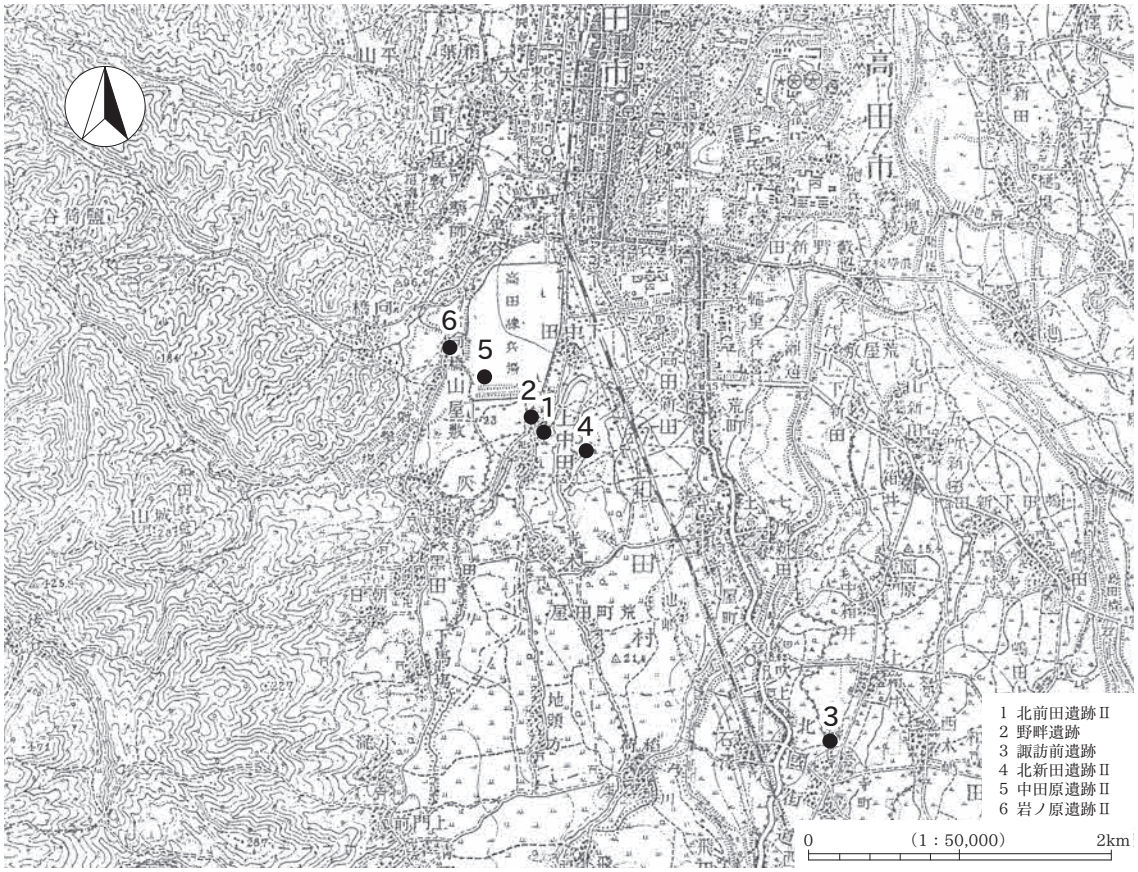
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

北前田遺跡・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡・中田原遺跡・岩ノ原遺跡が所在する高田平野は、新潟県の南西部に位置する。各々の遺跡は直線距離にして最大 1.8km 範囲に入り、非常に近接し、さらにその営まれた時期もほぼ同じである。

高田平野の周辺を概観すると、北側は海岸砂丘である潟町砂丘を隔てて日本海と接する。北東～南東側は東頸城丘陵を隔てて、標高 993m の米山を主峰とする米山山地や、標高 1,000m 前後の山が連なる関田山脈がある。南側は富士火山帯の北端部にあたる妙高・黒姫・飯縄・焼山の各火山、南西～西側は標高 2,462m の火打山から同 949m の南葉山（青田難波山）に至る西頸城山地、西～北西側は西頸城丘陵がある。

高田平野で最大の河川である関川は、西頸城山地や信越国境の山々を水源として信越国境沿いを東へ流れ、野尻湖から流れ出た池尻川と合流後、北東に向きを変え、妙高市で平野に入って扇状地を形成し、平野部の西寄りを北へ貫流して直江津で日本海に注ぎ込む。その途上には多くの支流が平野部で扇状地を形成して合流する。そのうち本遺跡が所在する関川の左岸では、西頸城山地を水源とする矢代川が遺跡の南側を流れ、高田城の東側で関川と合流する。本遺跡のすぐ北西側を流れる青田川や、その北西に流れる儀



第７図　遺跡とその周辺の地形（大日本陸地測量部発行『高田西部』・『高田東部』1：50,000 、明治 44 年）

明川はいずれも西頸城丘陵から流れ出し、高士町付近で両河川が一本となり、さらに関川に流れ込む。関川・青田川・儀明川は、近世初頭の高田城築城の際に付け替え工事が行われ、関川は現在の稲田橋付近の旧蛇行部分をカットして、外堀として利用され、青田川や儀明川もこの時にほぼ現在の流路となった［高野 2004］。

高田平野は約 80 万～１万年前の氷河期に形成された洪積台地と、約１万年前以降の完新世に形成された沖積低地に大別される。このうち沖積低地は平野の大部分を占め、標高が高く形成時期が古い面から順に高田面・関川面に分けられる。高田面は、平野の沖積面で最も広い面積を占める。高田面を構成する高田層は、最終氷期であるヴュルム氷期の最盛期（２万～１万８千年前）以降、海面水位の上昇によって低地を埋没させた関川やその支流による堆積物と考えられる。高田層は下位から下部高田層、中部高田層及び上部高田層に分けられる。最上位の上部高田層は粘土層とシルト層を主体としている。その堆積時期は約１万年前以降の完新世である［高野 2004］。その後、約 6,000 年前をピークとする縄文海進期を経て、海面水位の低下に伴って弥生時代には高田面が段丘化したと考えられる。関川面はその高田面を関川が侵食して一段低い段丘面ができ、その上を氾濫原性堆積物である関川層が覆うことによって、中世末頃に形成された。したがって、その分布域は関川及びその支流に沿っており、ごく狭小である［高田平野団体研究グループ 1981］。

北前田遺跡Ⅱ･北新田遺跡Ⅱは高田平野の西縁部、青田川の右岸、標高 17 ～ 19 ｍの高田面上に立地する。調査前の地目は水田と畑である。野畔遺跡は北前田遺跡Ⅱの西側に隣接する上中田集落内の標高 20 ｍ前後の青田川扇状地端部にあり、調査前の地目は竹藪である。岩ノ原遺跡Ⅱは儀妙川右岸、標高 19 ｍの高田面上に立地する。調査前の地目は宅地である。中田原遺跡Ⅱは洪積台地の一つ標高 20 ｍの灰塚面上に立地する。調査前の地目は宅地である。諏訪前遺跡は高田平野の西部を流れる矢代川と関川の間の沖積地、自然堤防上に立地する。標高は約 19 ｍを測る。調査前の地目は宅地及び水田である。

2　歴史的環境

北前田遺跡Ⅱ・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱの調査では、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の遺構・遺物が出土し、中でも、平安時代が主体となる。高田平野とその周辺に広がる平安時代の遺跡分布は、［金内ほか 2008］を参照されたい。ここでは上越地方の平安時代の代表的な遺跡と東大寺領荘園について記述する。

頸城郡には、『和名類聚抄』に「国府在頸城郡」とあるように国府が置かれ、越後国の政治・経済・文化の中心地として機能するようになる［笹澤 2003］。国府がどこに置かれていたかについては現在でも不確定であるが、関川右岸、高田平野中央部の今池遺跡周辺に求める意見もある。また、郡衙についても同様で、新井市栗原遺跡からは、銙帯や、「郡」の墨書土器が出土したことなどから、官衙的性格のもの、あるいは郡衙官人の居宅的な性格の官衙関連遺跡である可能性が高いとされる［高橋 1984］。「越後国留守所牒」によれば、石井荘は「府辺之要地」と記され、越後国府周辺に存在した［市澤 2004］。岩ノ原遺跡は、国府が所在していたと推定される今池周辺から関川を挟んで西方向約 4.2km に所在し、関川右岸、儀明川の左岸に近接する。国府に隣接する比較的交通や灌漑の便の良い所に設置されていたものであろう［木村 1984］。また、岩ノ原遺跡は「大字向橋字内沖」･「大字向橋字岩ノ原」に所在する。荘園名の「石荘」「石井荘」の「石」･「石井」が「岩ノ」に転訛し、字名として現在まで残されてきたものである［高

橋 2008]。

諸寺の墾田所有許可の勅『続日本紀』（寺々爾墾田地許奉）が下された後、『続日本紀』（天平勝宝元年七月乙巳条）によれば、天平勝宝元年七月に諸寺の所有すべき墾田地の額の上限が定められ、東大寺は四千町の所有を認められた。石井荘は散在した田地からなる荘園であるから、条里上のどの坪にその田地を設定するかを決めることが、荘園の成立にとって必須の条件だった［市澤 2004］。東大寺が北陸道の北限である越後国にまで荘園を設定することができたのは、海運と河川水運を利用して河口の津に至る水系を考慮して設営されたためである［荻野 1986］。その他に、律令官寺の中で、後進的立場にある東大寺にとって、法隆寺・大安寺等の先進的勢力の進出地帯との重複・競合を避けた点も挙げられる［藤井 1986］。古代荘園の分布状況を見ると、東大寺の荘園の数は北陸道に最も多く三十荘となる。これは、本地域に比較的未開拓地域が多かったことを示し、寺院の技術と資力によってこの地方を開かんとする政策の一顕現とも見られる［竹内 1999］。

［小口 1999］は、政治史との関係から八世紀の東大寺領荘園を三期に時期区分した上で、その経営形態の変遷を論じ、「第１期は、造東大寺司という強力な国家機関が荘園の直接的な管理者であった時期である。（中略）第１期の経営は、造寺司の意図としては造寺司―専当国司―専当郡司という律令制的管理系統をとることによって国郡衙の収取機構を利用することにあった」という。［藤井 1986］によれば、荘園の管理運営は八省にも匹敵する律令制官司である造東大寺司という強力な国家機関の主導の下に行われ、荘地を占定する前段階では田地の所有権は東大寺にあらず、荘地一円化のための編成は在地農民を圧倒して権力的に行われたと思われるという。第２期は、天平宝字二年頃から寺田圧迫の兆しが現れ始め、藤原仲麻呂政権は自らの土地経営のためにも東大寺領荘園を抑圧するようになり［小口 1991］、「東大寺の対立という状況下で、三綱管理による政策にもかかわらず一時的に衰退していった時期である。（中略）寺田に関する直接的な史料が何も残っていないこともそれによっているものと思われる。第３期は、天平宝字八年以後、道鏡による僧綱政治を背景に東大寺田の回復がなされた時期である」［小口 1999］。道鏡政権下では、第１期にもまして太政官との密接な関係を保つことが可能となり、東大寺はその権威を背景に強力な経営を推し進めていくのである［小口 1991］。道守荘（福井県福井市）においては、寺田再編の過程で必要が生じた寺田と口分田との交換に際しては農民に有利に交換することも行い、また周辺農民によって共同利用されていたと推測されるいくつかの泉を荘域内に取り込むことを避けている。こうした在地共同体の取り組みともいうべき動きは第１期には見られなかったものであり、東大寺が直接在地への影響力を及ぼした現れである［小口 1991］。同時に、在地農民は荘園経営ないしは耕営において有効に参画していたものと思われる［藤井 1986］。このように、８世紀における初期（古代）荘園は成立―衰退―再編と盛衰を繰り返し、経営管理主体も造寺司から三綱へと代わっていった。

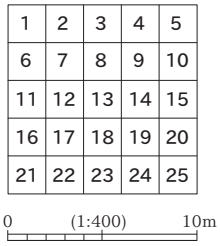
延暦十七（798）年、『日本紀略』延暦十七年九月十九日条に「土井庄在越後國古志郡」とある。土井庄は他の越後国三荘（石井荘・吉田荘・真沼荘）とは異なり、酒人内親王賜田の施入という形で成立した。９世紀になると、律令制の崩壊とともに、北陸における荘園は荒廃していった。承和八（841）年の某院政所文書案「某院政所告状案」（未見）には、「さきごろ某院の荘に寄進されたため寺家の産業は年々廃怠」と記されている［荻野 1986］。長徳四（998）年「東大寺領諸国庄家田地目録案」によれば、越前国荘園は「右件郡々荒廃数多、熟田不幾」・「荒塾」、越中国は「郡々庄田悉荒廃」、越後国石井庄は「荒損得」、真沼庄・吉田庄は「荒廃」などと記され［小口 1999］、両荘園はこれを以て史料には見られなくなる。そして、東大寺は越後国において、石井荘・土井荘のみを存続させていくのである。

第Ⅲ章　北前田遺跡Ⅱ

1　グリッドの設定

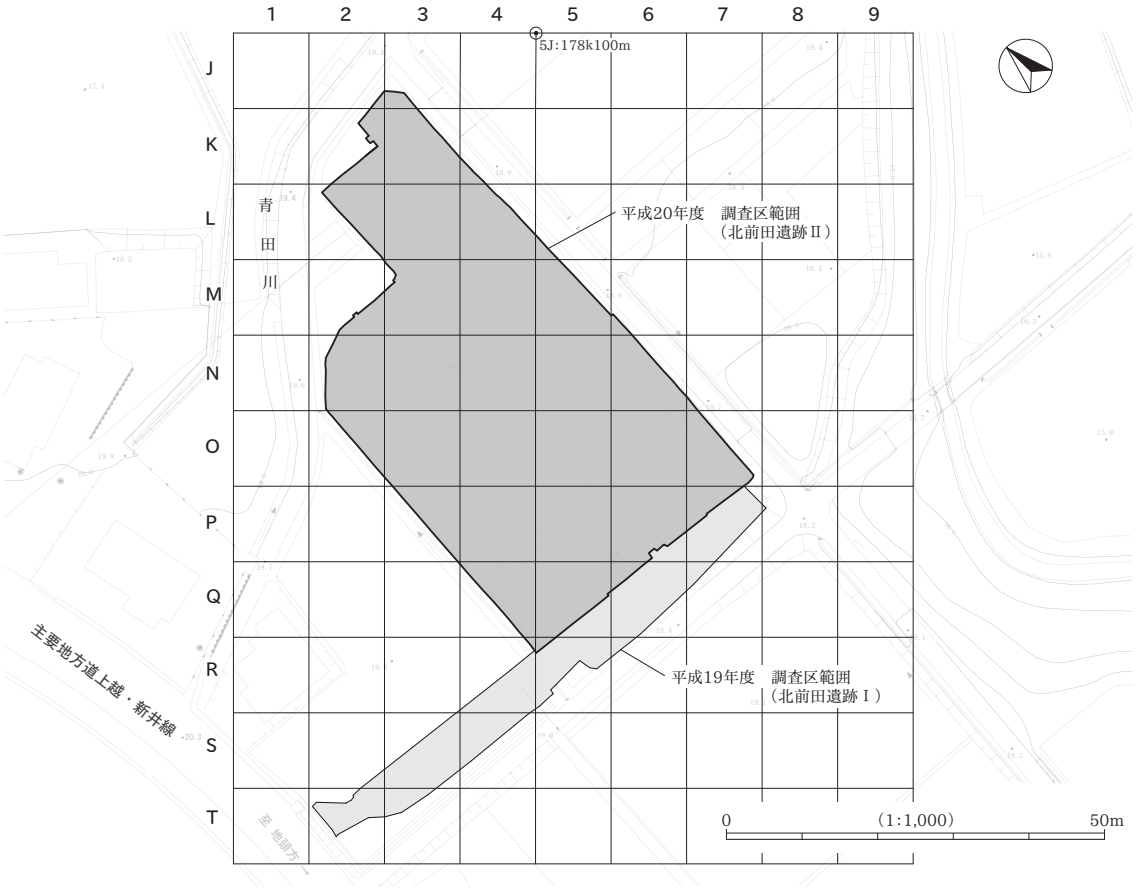
グリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか2008］のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標178k100m（世界測地系X＝120937.0055: 北緯37°05′22.73502″、Y＝-23149.5914：東経138°14′22.54033″、５J杭）と同177k900m（世界測地系X＝120791.299、Y＝-23012.611、25J杭）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横10m方眼を組み、大グリッドとした。

大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。北前田遺跡Ⅱは、横軸が大グリッド２～７、縦軸がＪ～Ｒである（第８図）。両者を組み合わせて「２J」のように表記した。



第9図　小グリッド模式図

小グリッドは第９図のように北隅を起点として、大グリッドを２m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「２J15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して46°46′05″東偏する。



第８図　北前田遺跡　グリッド設定図

２　基本層序

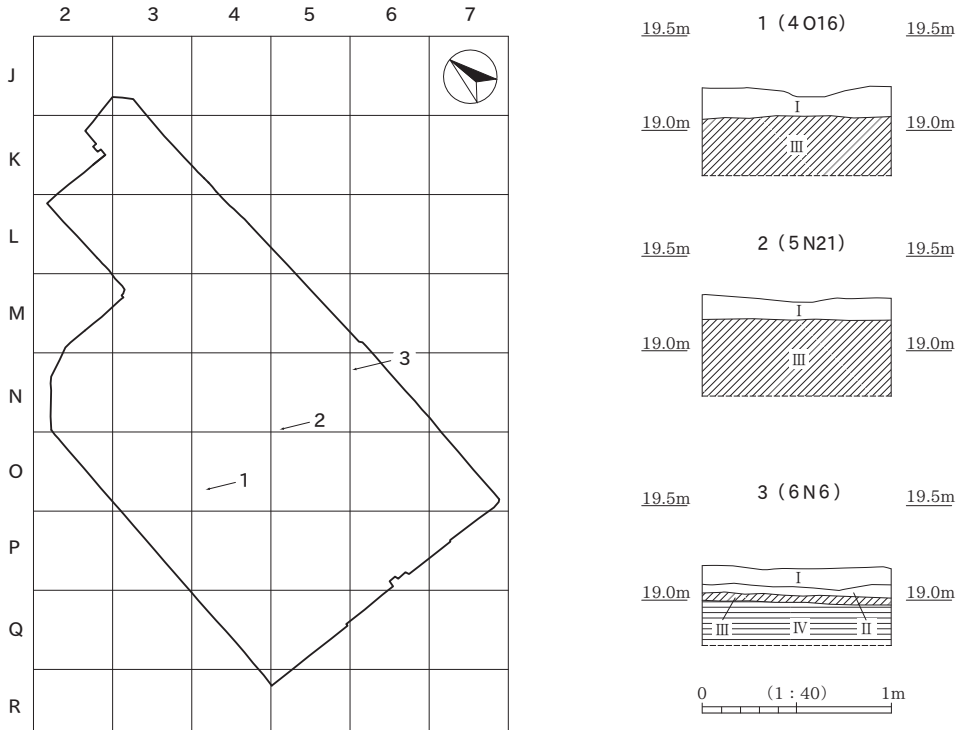
北前田遺跡は青田川右岸の沖積地に立地する。調査前現況標高 19.4m 前後、遺構検出面標高 19m 前後を測る。遺構検出面は基本的に平坦であるが、調査区北西側から南東側にかけて比高差 60cm の傾斜が見られる。基本層序は『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか 2008］に準じ、４層に分層した（第 10 図）。

Ⅰ層：灰色粘土（N6/）　現水田耕作土。

Ⅱ層：黒色シルト（N2/）　粘性弱、しまり中。調査区内で部分的に見られる。

Ⅲ層：にぶい黄橙色シルト（10YR6/3）　粘性弱、しまり中。調査区東側では堆積が 10cm 程度と薄い（地山）。

Ⅳ層：黒色シルト（N1.5/）　粘性弱、しまり中（地山）。



第 10 図　北前田遺跡Ⅱ　基本土層図

３　遺　　構

A　概　　要

北前田遺跡Ⅱは基本層序Ⅲ及びⅣ層（地山）を遺構検出面として、掘立柱建物 17 棟（柱穴 122 基、雨落ち溝２条）、掘立柱建物の目隠し塀と推定される杭列２基、井戸５基、土坑 36 基を検出した。このうち掘立柱建物３棟は平成 19 年度に調査を行った北前田遺跡Ⅰ（B 地区）［金内ほか 2008］で検出したものである。構築時期は出土遺物から古代に比定される。この他に調査区北東側から東側にかけて畑作溝 25 条がほぼ東西方向に走っているのを検出した。遺構の切り合い関係から上記の遺構よりも新しいものと考えられる。

調査区西側の一部は低湿地状を呈し、北前田遺跡Ⅰ（B 地区）で検出した自然流路（SD51）に関連したものと考えられる。この部分に数本のトレンチを設定し掘り下げを行ったが、遺物は出土しなかった。

B　記 述 方 法

記述方法は北前田遺跡Ⅱ・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱで共通のものとし、遺構の説明は本文・観察表・図面図版・写真図版を用いた。

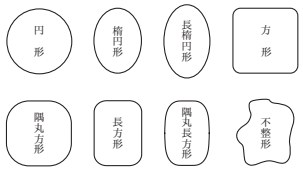
遺構名　遺構種別ごとに略号を用い、番号は遺跡ごとに遺構種別に関係なく検出順に通し番号を付けた。北前田遺跡Ⅱ及び北新田遺跡Ⅱは平成 19 年度の調査区と隣接しており、遺構が連続しているものも見られる。そのため平成 19 年度調査から連続した通し番号を付し、番号が重複しないようにした。また検出段階に遺構番号を付したものが調査の結果、撹乱と判断されたものなどは、その番号を欠番とした。したがって、遺構番号の数は遺構数と一致しない。竪穴住居・掘立柱建物・杭列はそれぞれに上記の手順に基づいて略号と番号を付し、それぞれの遺構を構成する柱穴の遺構名は、SI1312-P 1・SB1519-P 1のように記載した。土坑と柱穴以外のピットに関してはおおむね長径が 60cm 以上のものを土坑とし、それ以下のものをピットとした。

遺構の略号は以下の通りである。SI：竪穴住居、SB：掘立柱建物、SA：杭列、SE：井戸、SK：土坑、SX：性格不明遺構・焼土遺構・道状遺構、TP：陥穴、SD：溝・畑作溝、P：ピット

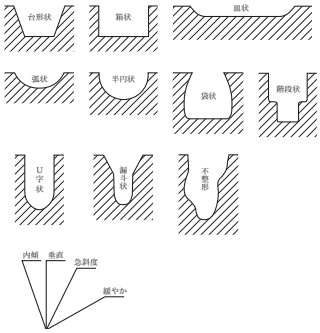
本文　遺構の説明は、他の遺構との関連が認められない単独のピットや一部の溝を除き、原則として個別に記述した。遺構各説及び遺構観察表に記載した遺構の平面及び断面の表記は、和泉Ａ遺跡［荒川・

平面形状

円形	長径が短径の1.2倍未満のもの。
楕円形	長径が短径の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長楕円形	長径が短径の1.5倍以上のもの。
方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角のあるもの。
隅丸方形	長軸が短軸の1.2倍未満で、角に丸みがあるもの。
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角のあるもの。
隅丸長方形	長軸が短軸の1.2倍以上で、角に丸みがあるもの。
不整形	凸凹が激しく一定の平面形をもたないもの。 但し、おおよその形状のわかるものは不整円形、不整楕円形などと呼ぶ。



第 11 図　遺構の平面形状の分類（荒川・加藤 1999 から転載・一部改変）



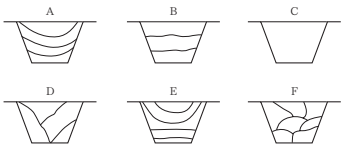
段面形状

台形状	底部に平坦面をもち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
皿状	溝を除いた平面長径が深さの10倍以上で、底部に平坦面をもち、緩やかに立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面をもたない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面をもたない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。
袋状	検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの。
階段状	階段状の立ち上がりをもつもの。
U字状	平面長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
不整形	凸凹で一定の断面形をもたないもの。

第 12 図　遺構の断面形状の分類（荒川・加藤 1999 から転載・一部改変）

覆土堆積形状

A レンズ状	複数層がレンズ状に堆積するもの。
B 水平	複数層が水平に堆積するもの。
C 単層	覆土が単一層のもの。
D 斜位	覆土が斜めに堆積するもの。
E 水平レンズ	覆土下位は水平、上位はレンズ状に堆積するもの。
F ブロック状	覆土がブロック状に堆積するもの。



第 13 図　覆土の堆積形状の分類（荒川・加藤 1999 から転載・一部改変）

加藤 1999］に準拠する（第 11 ～ 13 図）。規模は 1m 以上のものはメートル、1m 以下のものはセンチメートルで表した。遺構の主軸方向は、長径を基準に真北から角度を測定し、[N － 25° － E]のように記載した。但し、カマドを持つ竪穴住居は、カマドの位置する辺と直行する線を主軸とした。掘立柱建物に関しては、主軸は設定せず柱間の多い方向を桁行（長軸）、少ない方向を梁行（短軸）とした。

遺構観察表　掘立柱建物・杭列の柱穴、畑作溝について観察項目を設け記載した。観察項目は、柱穴が位置・平面形・断面形・標高・規模・柱遺存状況・柱間寸法・出土遺物、畑作溝が位置・断面形・規模・長軸方向・覆土・出土遺物などである。遺構の新旧関係は、「＜」・「＞」・「＝」の記号を用いた。「A ＜ B」は「A は B より古い」、「A ＞ B」は「A は B より新しい」、「A ＝ B」は「A と B の切り合い関係は不明」である。

図面図版　遺構図面は配置図・分割図・個別図で構成される。個別図は分割図ごとに竪穴住居、掘立柱建物、杭列、陥穴、井戸、土坑、性格不明遺構、溝の順で掲載した。平面図は配置図・分割図に示し、個別図には断面図のみを掲載した。但し、遺物の出土位置が特定できる遺構に関しては個別図に平面図と断面図を併せて掲載した。重複する遺構の表示は、切り合い関係が明確であるものに限り、切っている遺構を実線で表示し、切られている遺構は残存している部分を破線で表示した。

図面の縮尺は基本的に以下の通りである。遺構配置図：１/100 ～１/300、遺構分割図：１/80 ～１/100、掘立柱建物の断面図・エレベーション図：１/60、遺構個別図の平面図、掘立柱建物以外の遺構の断面図：１/40 である。但し、状況に応じて前述した縮尺でない遺構もある。

写真図版　遺構図面において掲載した遺構を中心に種別順に掲載した。掘立柱建物・杭列は柱痕検出状況・柱痕完掘状況などを優先して掲載した。

C　遺 構 各 説

１）　掘立柱建物

古代の掘立柱建物を 17 棟検出した。調査区全体で検出し、SB288 及び長軸方向が明らかでない SB482 を除くすべてが東西棟である。検出した遺構はすべて側柱建物で、面積は 15.15㎡から 52.83㎡まで幅がある。SB98･383 には目隠し塀が伴い、SB99･108 には雨落ち溝が伴う。桁行と梁行の間数は、３×２間が６棟と最も多く存在する。次いで、２×２間４棟、４×２間３棟（SB319 は１間分の廂が付く）、３×１間・２×２間・１×２間がそれぞれ１棟ずつ存在するが、規模にばらつきが見られる。

SB381（図版２・３・61・62）

２K・L、３K グリッドに位置する側柱建物である。建物の北側は調査区域外へ延びるが、柱並びから桁行４間（6.87m）、梁行２間（4.48m）の東西棟と推定される。面積は 30.97㎡以上を測る。長軸方向は N － 76° － W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 を除くすべての柱穴に認められ、径約 20 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P3 ～ P7 から古代（８世紀中葉～後葉）の土師器が出土している。

SB383（図版２・３・61・62）

SB383 は３・４L グリッドに位置する側柱建物である。P4 が SD361、P8 が SD342 とそれぞれ重複し、これらに切られている。桁行４間（7.25 ～ 7.43m）、梁行２間（4.77 ～ 5.00m）で、梁行中央の柱穴が若干外側に張り出すことで長六角形を呈する。面積は 36.14㎡を測る。長軸方向は N － 60° － W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認

められ、径約 15 ～ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P3・P5 ～ P9・P12 から古代の須恵器・土師器が出土している。

SA486 は４Ｌグリッドに位置する杭列である。南北方向に２間（３本）検出した。長さ 4.38m、柱間寸法 2.11 ～ 2.27 m を測る。柱穴の規模は SB383 のそれと比べて一回り小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P3 から古代の土師器が出土している。SB383 の南東側約 2m 先に位置し、短軸方向と近似することから、SB383 の目隠し塀と推測される。

SB412（図版２・３・61・62）

２・３Ｌ、３Ｋグリッドに位置する側柱建物である。Ｐ４が SD361 と重複し、これに切られる。桁行２間（5.00 ～ 5.06m）、梁行２間（4.39 ～ 4.85m）で、桁行及び梁行中央の柱穴が若干外側に張り出す長六角形を呈する。面積は 24.10㎡を測る。長軸方向はＮ－ 72°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P8 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB482（図版２・３・61・62）

３・４Ｋグリッドに位置する側柱建物である。北東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行１間以上（2.25m 以上）、梁行１間以上（1.66m 以上）の南北棟と推定される。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB307（図版５・６・62）

２・３Ｍグリッドに位置する側柱建物である。北側は調査区域外へ延びるため明らかではないが、柱並びから桁行３間以上（5.73m 以上）、梁行１間以上（2.13m 以上）の東西棟と推定される。面積は 15.15㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 63°－ W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P5 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB269（図版７・９・61・62）

３Ｎグリッドに位置する側柱建物である。P6 が SK112、P7 が SB320-P7 とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行３間（6.1m）、梁行２間（4.22m）で、長方形と呈すると考えられるが、北西隅の柱穴は検出できなかった。面積は 27.39㎡を測る。長軸方向はＮ－ 43°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P7 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P6・P8 から古代の土師器が出土している。

SB319（図版７・９・61・63）

２・３Ｎ、３・４Ｍグリッドに位置する側柱建物である。桁行４間（7.80 ～ 8.00m）、梁行２間（5.15 ～ 5.43m）で、北側の桁行の柱穴が若干外側に張り出す長方形を呈する。面積 52.83㎡を測る。長軸方向はＮ－ 84°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、径約 15 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。建物の東側に廂と推定される１間分の張り出しがある。遺物は P3 ～ P7・P9・P10・P13・P14 から古代（８世紀末葉）の須恵器・土師器が出土している。

SB320（図版７・９・61・63）

３Ｎグリッドに位置する側柱建物である。P5・P6 が SK112 と重複し、これを切っている。また P7 は SB269-P7 と重複し、これに切られている。桁行３間（4.70 ～ 4.71m）、梁行２間（4.45 ～ 4.84m）であるが、北側の桁行で P5・P6 に対応する柱穴は検出できなかった。西側の梁行中央の柱穴が外側に張り出す長方形を呈する。面積は 23.20㎡を測る。長軸方向はＮ－ 81°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、径約 20 ～ 40cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2 ～ P7 から古代の須恵器･土師器､P3 から土製品(35)が出土している。

SB358（図版７・９・61・63）

３・４Ｍ、４Ｎグリッドに位置する側柱建物である。P2 が SD130、P3 が SD116 とそれぞれ重複し、これらに切られている。桁行１間（4.50 ～ 4.74m）、梁行２間（4.02 ～ 4.10m）で、梁行中央の柱穴が外側に若干張り出す長六角形を呈する。面積は 19.28㎡を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はすべての柱穴に認められ、径約 20 ～ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 ～ P4・P6 から古代（８世紀末葉）の土師器が出土している。

SB288（図版８・10・60・63）

５Ｎ・Ｏグリッドに位置する側柱建物である。桁行２間（5.35 ～ 5.51m）、梁行２間（3.45 ～ 3.88m）で、P2・P6 が北側、P4 が東側に若干張り出す長方形を呈する。面積は 21.06㎡を測る。長軸方向はＮ－ 19°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P5 ～ P7 に認められ、径約 20 ～ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P4 ～ P7 から古代の土師器が出土している。

SB108（図版 11・14・15・60・63・67）

SB108 は３・４P、４Ｏグリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（6.74 ～ 6.80m）､梁行２間（4.60 ～ 4.70m）の長方形で、面積は 31.26㎡を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模は P10 を除き径 57 ～ 91cm、検出面からの深さ 43 ～ 73cm を測り、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P4・P6 ～ P8 に認められ、径約 20 ～ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 ～ P9 から古代の須恵器・土師器が出土している。

SD109 は４・５Ｐグリッドに位置する溝である。SK213 と重複し、これに切られる。長さ 6.65m、幅 1.50m、検出面からの深さ９cm を測る。長軸方向はＮ－ 83°－ W を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は４層に識別され､レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代(８世紀中葉～後葉)の須恵器･土師器(29)が出土している。SB108 の南側に近接し、長軸方向が同一であることから、SB108 の雨落ち溝である可能性が高い。

SB258（図版 11・14・60・63）

４・５Ｑグリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（4.62 ～ 5.85m）、梁行２間（4.05 ～ 4.66m）の不整方形を呈する。桁行南側と梁行西側で P3・P5 にそれぞれ対応する柱穴は検出できなかった。面積は 21.39㎡を測る。長軸方向はＮ－ 64°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P4 ～ P8 に認められ、径約 20 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB259（図版 11・14・60・63）

４P・Q グリッドに位置する側柱建物である。西側は調査区域外へ延びるため明らかではないが、柱並びから桁行２間以上（3.34m 以上）、梁行２間（3.96m）の東西棟と推定される。面積は 13.36㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 85°－ W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2 ～ P5 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P5 から古代（８世紀第中葉～後葉）の土師器が出土している。

SB287（図版 11・14・60・63）

４O・P、５O・P グリッドに位置する側柱建物である。P2 が SK160 と重複し、これに切られる。桁行２間（5.00 ～ 5.35m）、梁行２間（4.95 ～ 5.05m）の方形を呈し、梁行西側で P4 に対応する柱穴は検出できなかった。面積は 25.74㎡を測る。長軸方向はＮ－ 82°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2 ～ P7 に認められ、径約 15 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 ～ P3・P5 ～ P7 から古代（８世紀中葉～後葉）の土師器が出土している。

SB98（図版 11・14・15・64）

SB98 は５Q・R グリッドに位置する側柱建物である。南側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。桁行３間（6.10 ～ 6.33m）、梁行２間（3.67 ～ 3.83m）の長方形で、面積 23.57㎡を測る。長軸方向はＮ－ 78°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P4 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 ～ P3 から古代の土師器が出土している。

SA266 は４・５Q グリッドに位置する杭列である。南北方向に２間（３本）検出した。長さ 4.10m、柱間寸法 1.76 ～ 2.34 m を測る。柱穴の規模は SB98 のそれと比べて一回り小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は全ての柱穴から古代の土師器が出土している。SB98 の北西側に近接し、長軸方向と近似することから、SB98 の目隠し塀と推測される。

SB99（図版 12・15・64）

SB99 は６P・Q、７P・Q グリッドに位置する側柱建物である。南側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。桁行３間（5.72m）、梁行２間（4.90 ～ 5.15m）で、西側の梁行中央の柱穴が若干外側に張り出す長方形を呈する。面積は 28.76㎡を測る。長軸方向はＮ－ 79°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P3 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2 から古代の土師器が出土している。

SX55 は６P･Q グリッドに位置する溝である。南側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。長さ 5.50m、幅 1.65m、検出面からの深さ 28cm を測る。長軸方向はＮ－ 13°－ E を示す。断面形は台形状を呈する。覆土は２層に識別でき、水平に堆積するが、北側では覆土２層は見られず、覆土１層の単層となる。平成 19 年度の調査では覆土中から古墳時代前期の土師器と古代（８世紀中葉）の須恵器が出土している。SB99 の西側約１m 先に位置しており、軸方向が近似していることから、SB99 の雨落ち溝である可能性が高い。

SB100（図版 13・15・64）

７P グリッドに位置する側柱建物である。南側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。桁

行２間（4.30 ～ 4.44m）、梁行２間（3.80 ～ 3.93m）で、西側と北側中央の柱穴が若干外側に張り出す方形を呈する。面積は 17.78㎡を測る。長軸方向はＮ－ 80°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P2 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたと推定される。遺物は P1 ～ P3 から古代（８世紀末葉）の須恵器・土師器片が出土している。

２）井　　戸

古代の井戸を５基検出した。全て素掘りの井戸で、掘立柱建物の近くに位置する。覆土の堆積状況は、レンズ状に堆積するものと水平に堆積するものがある。覆土が水平に堆積する井戸は、遺構の約３分の２まで短期的に埋め戻されている。

SE378（図版２・３・61・64）

３J・K グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 82 ～ 84cm、検出面からの深さ 87cm を測る。断面形はU字状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器・土師器が出土している。

SE111（図版５・６・61・64）

４N・O グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈し、径 1.26 ～ 1.50m、検出面からの深さ 1.51m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルト・灰黄褐色シルトを主体とし、７層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SE341（図版５・６）

３O グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 83 ～ 91cm、検出面からの深さ 1.38m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の土師器（２）が出土している。

SE474（図版５・６・64）

３M グリッドに位置する。SK369 と重複し、これに切られる。平面形は不整円形を呈し、径 1.57 ～ 1.71m、検出面からの深さ 2.06m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、３層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土３層から古代（９世紀中葉）の須恵器（３）・土師器が出土している。

SE277（図版 11・15・60・64）

５P グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.47 ～ 1.52m、検出面からの深さ 1.91m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色粘質シルトを主体とし、３層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器（１）が出土している。

３）土　　坑

古代の土杭を 36 基検出した。いずれも掘立柱建物の近くに位置する。平面形は円形・長楕円形のものが多く、断面形は台形状が最も多く存在する。遺物が出土している土杭は、須恵器片・土師器片が散在的に出土する傾向があることから、その多くは廃棄土杭であると考える。

SK364（図版２・３・61・65）

３L グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径 1.11m、短径 70cm、検出面からの深さ 38cm を測る。長軸方向はＮ－ 63°－ W を示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい

黄褐色シルトを主体とし、４層に識別され、ブロック状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK365（図版２・３・61・65）

２Ｌグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 81 ～ 86cm、検出面からの深さ 24cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの２層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器、刀子（37）が出土している。

SK384（図版２・３・61）

３Ｌグリッドに位置する。SK491 と重複し、これを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径 1.12m、短径 76cm、検出面からの深さ７cm を測る。長軸方向はＮ－ 25°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK385（図版２・３・61）

３Ｌグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 52 ～ 59cm、検出面からの深さ４cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK386（図版２・４・61）

２・３Ｌグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.36 ～ 1.48m、検出面からの深さ３cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK387（図版２・４・61）

２Ｌグリッドに位置する。SK388 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径 2.25m、短径 1.58m、検出面からの深さ１cm を測る。長軸方向はＮ－ 66°－Ｗを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は灰黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK388（図版２・４・61）

２Ｌグリッドに位置する。SK387 と重複し、これに切られている。平面形は楕円形を呈し、長径 58cm、短径 45cm、検出面からの深さ４cm を測る。長軸方向はＮ－ 22°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK389（図版２・４・61・65）

３Ｋグリッドに位置する。SK475・476・477 と重複し、これらに切られている。東側は調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈すると推定される。長径 3.97m、短径 3.22 m、検出面からの深さ８cm を測る。長軸方向はＮ－ 44°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルト、にぶい黄褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（25）、土師器（26）が出土している。

SK408（図版２・４・61）

４Ｍグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 71 ～ 79cm、検出面からの深さ９cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK463（図版２・４・61・65）

２Ｋグリッドに位置する。SK468 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 69 ～ 76cm、検出面からの深さ 28cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK468（図版２・４・61・65）

２Ｋグリッドに位置する。SK463 と重複し、これに切られている。平面形は長楕円形を呈する。長径 2.37m、短径 1.33 m、検出面からの深さ 30cm を測る。長軸方向はＮ－ 45°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと灰黄褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（８世紀）の須恵器（27）・土師器（28）が出土している。

SK475（図版２・４・61・65）

３Ｋグリッドに位置する。SK389 と重複し、これを切っている。平面形は不整形を呈し、長径 1.02m、短径 62cm、検出面からの深さ 15cm を測る。長軸方向はＮ－ 55°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK476（図版２・４・61・65）

３Ｋグリッドに位置する。SK389 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈する。径 81 ～ 88cm、検出面からの深さ 40cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK477（図版２・４・61）

３Ｋグリッドに位置する。SK389 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径 86cm、短径 54cm、検出面からの深さ 27cm を測る。長軸方向はＮ－ 17°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK491（図版２・４）

２Ｌ・Ｍ、３Ｌ・Ｍグリッドに位置する。SK384 と重複し、これに切られる。西側が調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈すると推定される。径 3.14m、検出面からの深さ９cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、斜位に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK369（図版５・６・66）

３Ｍグリッドに位置する。SE474 と重複し、これを切っている。平面形は長楕円形を呈する。長径 1.36m、短径 80cm、検出面からの深さ 39cm を測る。長軸方向はＮ－ 56°－Ｗを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器が出土している。

SK178（図版５・６・61）

３Ｍグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 73 ～ 84cm、検出面からの深さ 16cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古代の土師器が出土している。

SK347（図版５・６）

２Ｎグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈する。長径 77cm、短径 50cm、検出面からの深さ 19cm を測る。長軸方向はＮ－ 57°－Ｅを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK189（図版５・６・61・66）

２Ｍ・Ｎ、３Ｍ・Ｎグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 4.30m、短径 2.18m、検出

面からの深さ 31cm を測る。長軸方向はＮ－ 74°－Ｅを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色粘質シルトの２層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土１層から古代の須恵器（８）・土師器（10）、覆土２層から古代（８世紀中葉）の須恵器（９）が出土している。

SK112（図版７・９・61・66）

３Ｎグリッドに位置する。SB269-P6・SB320-P5・SB320-P6 と重複し、これらに切られている。平面形は楕円形を呈し、長径 2.77m、短径 1.88m、検出面からの深さ 34cm を測る。長軸方向はＮ－８°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトと灰黄褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土１・２層から古代の須恵器（４～６）・土師器（７）が出土している。

SK326（図版７・９・61）

３Ｍグリッドに位置する。平面形は円形を呈する。径 72 ～ 75cm、検出面からの深さ 10cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトを主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は古代の土師器が出土している。

SK397（図版７・９・61）

３Ｍグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 66cm、短径 36cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－ 80°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK327（図版７・10・61・66）

３・４Ｍグリッドに位置する。平面形は不整円形を呈し、径 3.00 ～ 3.23m、検出面からの深さ 12cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は炭化物と焼土を含む黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（８世紀末葉）の須恵器（21 ～ 24）・土師器が出土している。

SK207（図版８・10・66）

５Ｌグリッドに位置する。東側が調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整方形を呈すると推定される。検出面からの深さ 29cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の土師器（15）が出土している。

SK313（図版８・10・60・66）

５Ｏグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 88 ～ 99cm、検出面からの深さ 23cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SK478（図版８・10）

４Ｎグリッドに位置する。平面形は不整形を呈し、長径 2.16m、短径 87cm、検出面からの深さ 10cm を測る。長軸方向はＮ－ 59°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK200（図版 11・15・60・66）

５Ｐグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 2.71m、短径 1.44 m、検出面からの深さ９cm を測る。長軸方向はＮ－ 65°－Ｗを示す。断面は皿状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、壁面付近は明黄褐色シルトブロックを多量に含んでいる。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（11・12）・土師器（13）が出土している。

SK251（図版 11・15・60・67）

５Ｐグリッドに位置する。SK203 と重複し、これに切られている。平面形は長楕円形を呈する。長径 3.26m、短径 1.64 m、検出面からの深さ 29cm を測る。長軸方向はＮ－ 88°－Ｅを示す。断面は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルト・明黄褐色シルト・にぶい黄褐色シルトを主体とし、６層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（８世紀中葉）の須恵器（16）･土師器（17 ～ 20）が出土している。

SK203（図版 11・15・60・67）

５Ｐグリッドに位置する。SK251 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径 1.58m、短径 1.12 m、検出面からの深さ 26cm を測る。長軸方向はＮ－ 87°－Ｅを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代（８世紀中葉）の須恵器（14）・土師器、砥石（36）が出土している。

SK228（図版 11・15・60・66）

４Ｏグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 1.02m、短径 57cm、検出面からの深さ 62cm を測る。長軸方向はＮ－ 88°－Ｗを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SK271（図版 11・15・60）

５Ｐ･Ｑグリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 71 ～ 72cm、検出面からの深さ 19cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトを主体とし、３層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK359（図版 11・15・60）

４Ｏグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 1.03m、短径 45cm、検出面からの深さ 13cm を測る。長軸方向はＮ－ 86°－Ｗを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK213（図版 11・15・60・67）

４Ｐグリッドに位置する。SD109 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 79 ～ 80cm、検出面からの深さ 37cm を測る。長軸方向はＮ－ 78°－Ｗを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK160（図版 11・15・60・67）

４Ｏグリッドに位置する。SB287-P2 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 69 ～ 81cm、検出面からの深さ 49cm を測る。断面は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルト・黄褐色シルト・褐灰色シルトを主体とし、７層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK382（図版 11・15・60）

４Ｏグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 1.70m、短径 49cm、検出面からの深さ 50cm を測る。長軸方向はＮ－ 82°－Ｗを示す。断面形は台形状を呈する。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK282（図版 12・15・60）

５Ｏグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.43m、短径 1.14m、検出面からの深さ

19cm を測る。長軸方向はＮ－74°－Ｗを示す。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

４）畑　作　溝

北前田遺跡Ⅱで検出した溝は 30 条あり、このうち掘立柱建物の雨落ち溝（SD109・SX55）と SD122・138・469 を除く 25 条を調査区北東側で検出した。これらの溝群は東西方向に並行し、溝同士の間隔及び溝の幅・深さ・覆土が近似することから、畑作溝と考えられる。遺構同士の切り合い関係を見ると、SD116 が SB358-P3、SD130 が SB358-P2、SD131 が SK327、SD342 が SB383-P8、SD361 が SB383-P4・SB412-P4 とそれぞれ重複し、いずれもこれらを切っていることから、本遺跡の集落廃絶後にこれらの畑作溝が形成されたものと推定される。遺物は SD114 から古代の須恵器（30）が出土しているほか、SD118・135・136・177・315・342 を除く各溝から古代の須恵器・土師器が出土している。

４　遺　　物

Ａ　概　　要

出土した遺物は土師器５箱、須恵器１箱（箱サイズ 54 × 34 × 10cm）、灰釉陶器７点、円筒形土製品１点、土錘１点、砥石１点、刀子１点であり、いずれも古代に比定される。

以下、出土遺物の説明を行うが、土師器・須恵器・灰釉陶器に関しては分類を示した上で、遺構内出土土器、遺構外出土土器順に説明を行う。遺構内出土土器は遺構別に、遺構外出土土器は先に示した分類別に説明を行うものとする。土製品・石製品・鉄製品はそれぞれ種類別に説明を行うものとする。

Ｂ　土器の分類

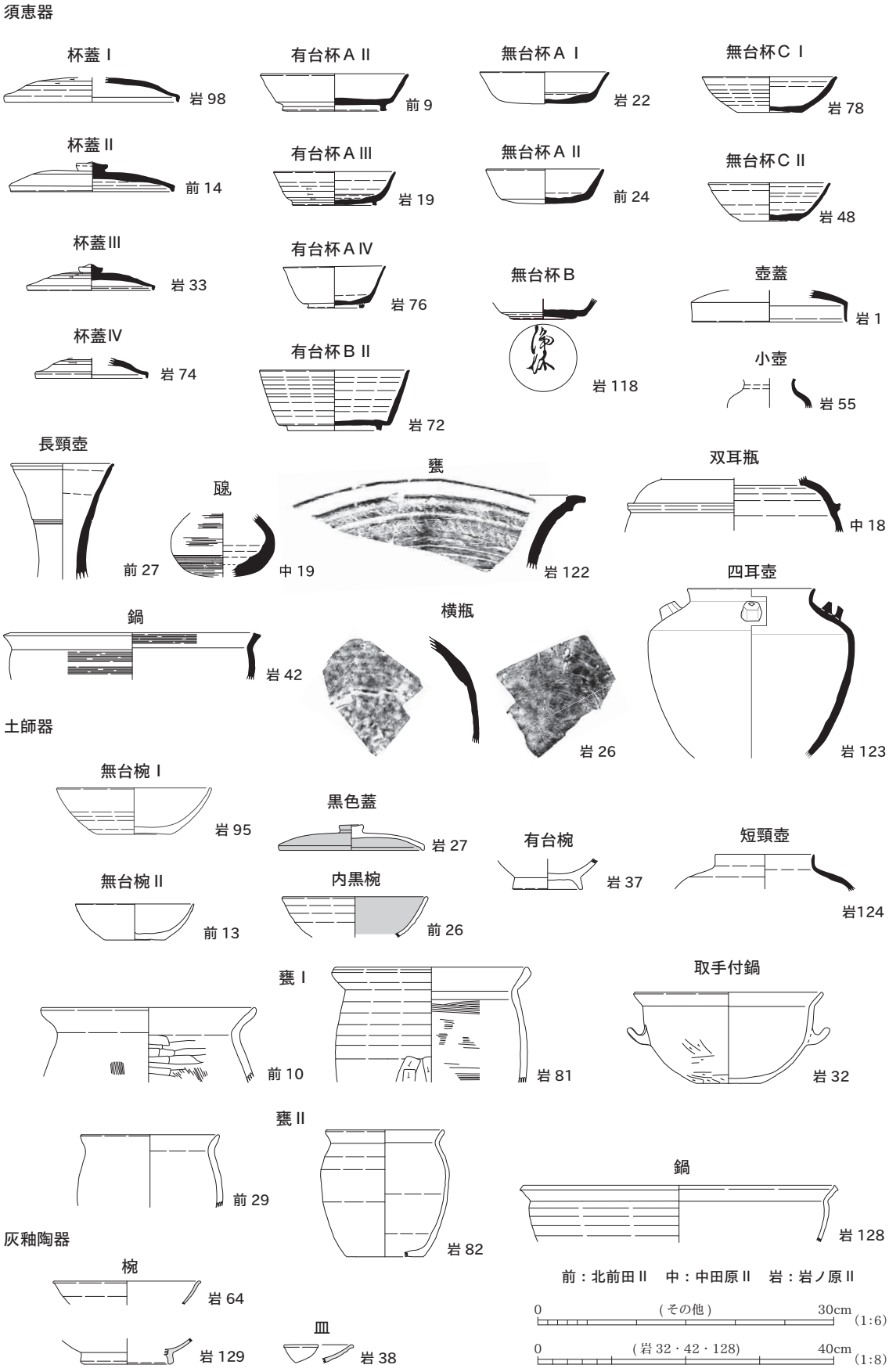
分類は北前田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱから出土した古代の土器を対象に行い、各遺跡共通のものとする。分類は滝寺・大貫古窯群［小田ほか 2006］、岩ノ原遺跡［髙橋ほか 2008］、北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ［金内ほか 2008］の各報告書、編年的位置付けについては［春日 1999］及び［笹澤 2003］等を参考にした。器種分類図（第 14 図）の番号は前→北前田遺跡Ⅱ、中→中田原遺跡Ⅱ、岩→岩ノ原遺跡Ⅱ出土のもので、数字はそれぞれの掲載番号である。

１）須　恵　器

杯蓋（前 14、岩 33・74・98）　口端部径によりⅠ：17cm 以上、Ⅱ：14 ～ 17cm、Ⅲ：12 ～ 14cm、Ⅳ：10 ～ 12cm の大きさに分類した。法量ⅡとⅢが多く、ⅠとⅣは少量である。

有台杯（前 9、岩 19・72・76）　器形ではＡ：器高５cm 以下の低いものと、Ｂ：器高５cm 以上の深身のものに分類した。また口径によりⅠ：16cm 以上、Ⅱ：13 ～ 16cm、Ⅲ：11 ～ 13cm、Ⅳ：９～ 11cm の大きさに分類した。器形Ａは法量ⅡとⅢが多く、ⅠとⅣは少量である。器形Ｂは法量Ⅱのみである。

無台杯（前 24、岩 22・48・78・118）　器形ではＡ：底部の切り離しがヘラ切りの箱型を呈するもの、Ｂ：底部の切り離しが糸切りで底部と体部の境に稜をもち「二段底」を呈するもの、Ｃ：糸切りの椀型を呈するものとに分類した。また口径によりⅠ：13cm 以上、Ⅱ：11 ～ 13cm に分類した。



第 14 図　器種分類図（古代）

このほか**壺蓋**（岩 1）、**小壺**（岩 55）、**長頸壺**（前 27）、**瑞**（中 19）、**甕**（岩 122）、**双耳瓶**（中 18）、**横瓶**（岩 26）、**四耳壺**（岩 123）、**鍋**（岩 42）、**短頸壺**（岩 124）を検出したが、出土数が少ないことから細別を行わなかった。

2）土　師　器

無台椀（前 13、岩 95）　口径によりⅠ：13cm 以上、Ⅱ：11 ～ 13cm に分類した。

甕（前 10・29、岩 81・82）　口径によりⅠ：19cm 以上、Ⅱ：15cm 未満に分類した。

このほか**有台椀**（岩 37）、**内黒椀**（前 26）、**黒色蓋**（岩 27）、**取手付鍋**（岩 32）、**鍋**（岩 128）を検出したが、出土数が少ないことから細別を行わなかった。

3）灰 釉 陶 器

椀（岩 64・129）、**皿**（岩 38）を検出したが、出土数が少ないことから細別を行わなかった。

C　土　　器

1）遺構内出土

SE277（図版 16- 1、図版 68）

土師器椀（1）が出土した。法量Ⅱに属し、内外面にススが付着する。

SE341（図版 16- 2、図版 68）

土師器椀（2）が出土した。法量Ⅰに属し、内面にミガキがかけられる。時期は 9 世紀中葉に比定される。

SE474（図版 16- 3、図版 68）

須恵器無台杯（3）が出土した。細別ＣⅠに属し、底部の切り離しは糸切りである。焼成が不十分なため、色調は橙色を呈する。時期は 9 世紀中葉に比定される。

SK112（図版 16- 4 ～ 7、図版 68）

須恵器杯蓋（4）、有台杯（5）、無台杯（6）、土師器甕（7）が出土した。4 は法量Ⅱに属する。体部外面に緑色の自然釉が掛かる。時期は 9 世紀中葉に比定される。5 は細別ＡⅡに属する。時期は 8 世紀中葉（春日編年Ⅲ - 2 期）に比定される。6 は細別ＡⅡに属し、底部の切り離しはヘラ切りである。

SK189（図版 16- 8 ～ 10、図版 68）

須恵器杯蓋（8）、有台杯（9）、土師器甕（10）が出土した。8 の摘みは低い擬宝珠形で、径は 3.4cm を測る。9 は細別ＡⅡに属し、体部外面に緑色の自然釉が掛かる。時期は 8 世紀中葉（春日編年Ⅲ - 2 ～Ⅳ - 1 期）に比定される。10 は法量Ⅰに属し、口縁端部は軽く摘み上げられる。

SK200（図版 16-11 ～ 13、図版 68）

須恵器有台杯（11）、無台杯（12）、土師器椀（13）が出土した。11 は細別ＡⅢに属し、体部下半の屈曲が明瞭である。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定される。時期は 9 世紀前半に比定される。12 は細別ＡⅠに属する。胎土から小泊窯産と推定される。時期は 9 世紀中葉（春日編年Ⅵ - 1 期）に比定される。13 は法量Ⅱに属し、時期は 9 世紀中葉（春日編年Ⅵ - 1 期）に比定される。

SK203（図版 16-14、図版 68）

須恵器杯蓋（14）が出土した。法量Ⅱに属し、摘みは低い擬宝珠形で、径は 3.1cm を測る。時期は 8 世紀中葉に比定される。

SK207（図版 16-15、図版 68）

土師器椀（15）が出土した。法量Ⅱに属し、底部の切り離しは糸切りである。時期は９世紀前葉～中葉（春日編年Ⅴ期）に比定される。

SK251（図版 16-16 ～ 19、17-20、図版 68・69）

須恵器有台杯（16）、土師器甕（17 ～ 20）が出土した。16 は細別ＡⅢに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定される。時期は８世紀後葉（春日編年Ⅳ - １期）に比定される。17 は法量Ｉに属し、ロクロ成形の後内外面ハケ調整を行っている。18 は法量Ｉに属し、内外面に粗いハケ調整が施される。外面のハケ調整は横位と縦位を交互に行い、底部外面にもハケ調整を行っている。時期は８世紀後葉に比定される。20 は法量Ｉに属し、底部は丸底を呈する。時期は８世紀後葉に比定される。

SK327（図版 17-21 ～ 24、図版 69）

須恵器杯蓋（21）、有台杯（22）、無台杯（23・24）が出土した。いずれも胎土から東頸城丘陵の窯産と推定される。21 は法量Ⅱに属し、外面全体に自然釉が掛かり、焼き歪みがある。時期は８世紀中葉（春日編年Ⅳ - １期）に比定される。23・24 は細別ＡⅡに属し、時期は８世紀末（春日編年Ⅳ - ２期）に比定される。

SK389（図版 17-25・26、図版 69）

須恵器有台杯（25）土師器内黒椀（26）が出土した。25 は細別ＡⅡに属し、体部下半の屈曲が明瞭である。26 は薄手の作りで、外面はロクロ目が目立つ。時期は９世紀中葉に比定される。

SK468（図版 17-27・28、図版 69）

須恵器長頸壺（27）、土師器甕（28）が出土した。27 は口縁部から頸部のみ残存している。外面口唇部と頸部中央に沈線が巡る。時期は８世紀に比定される。

SD109（図版 17-29、図版 69）

土師器甕（29）が出土した。法量Ⅱに属する。

SD114（図版 17-30、図版 69）

須恵器長頸壺（30）が出土した。体部下半の外面に浅い沈線が３条巡る。

P308（図版 17-31、図版 69）

須恵器無台杯（31）が出土した。細別ＡⅡに属し、体部外面に記号と考えられる墨書がある。胎土から小泊窯産と推定される。時期は９世紀第中葉（春日編年Ⅵ - １期）に比定される。

２）　遺構外出土（図版 17-32・33、図版 69）

須恵器長頸壺が出土した（32・33）。32 は体部下半、33 は頸部下半の破片である。

Ｄ　土　製　品（図版 17-34・35、図版 69）

34 はＩ層中から出土した土錘片である。直径は 3.6cm 程と推測される。35 は SB320-P ３から出土した円筒形土製品である。内外面にハケによる調整痕が見られる。

Ｅ　石　製　品（図版 17-36、図版 69）

36 は SK203 覆土中から出土した砥石（完形）である。長さ 10.1cm、幅 3.6cm、厚さ 2.5cm、重さ 160g を計る。石材は安山岩である。表裏面・左右側面・下側面に砥面が認められる。表面には細かい凹

凸は残るが、非常に滑らかで、線状痕はほとんど目立たない。

F　金属製品（図版 17-37、図版 69）

37 は SK365 覆土 1 層から出土した刀子（破損品）である。残存長 13.5cm、幅 1.25cm、厚さ 0.65cm、重さ 15.44g を計る。茎の大半は欠損しており、目釘穴は見られない。刀身部の断面は楔形を呈する。

5　まとめ

－北前田遺跡Ⅰ（B 地区）及びⅡにおける遺構の変遷－

北前田遺跡Ⅱは南側で平成 19 年度に調査を実施した北前田遺跡Ⅰ（B 地区）［金内ほか 2008］と隣接する一連の集落であった。北前田遺跡Ⅰでは調査によって、古墳時代前期から古代までの間、断続的に生活が営まれていた痕跡を検出した。また遺構の存続時期を伴出する土器の年代から 5 期に区分しており、B 地区は 3 ～ 4 期に限定されている［金内ほか 2008］。

北前田遺跡Ⅰ（B 地区）及びⅡの出土土器の年代は 8 世紀中葉～ 9 世紀初頭及び 9 世紀中葉～後葉のものがあり、遺構の存続時期もそれを基に**3 期**（8 世紀中葉～ 9 世紀初頭）と**4 期**（9 世紀中葉～後葉）の 2 時期に区分できるものと考えられる。したがって、北前田遺跡Ⅰ（A 地区）でのみ遺構・遺物を検出した**1 期**（古墳時代前期）、**2 期**（古墳時代後期）、**5 期**（10 世紀中葉～ 11 世紀初頭）については今回記述していない。

また掘立柱建物に関しては伴出する土器の年代や遺構の切り合い関係の他にも、長軸方向によるグループ分類を行い、近接する北新田・荒町南新田遺跡［金内ほか 2008・2010］で検出した当該期の掘立柱建物との比較・検討を行ったうえで時期決定を行いたい。

①　伴出する土器の年代・遺構の切り合い関係からの検討

3 期の土器を伴出する遺構は掘立柱建物 6 棟（SB381･319･358･259･287･100）、雨落ち溝 2 条（SD109･SX55）、土坑 6 基（SK468・189・327・251・203・91）がある。また SB108 は SD109 と SB99 は SX55 との関連が考えられるたことから、3 期に属するものと考えられる。

4 期の土器を伴出する遺構は井戸 3 基（SE378・474・341）、土坑 6 基（SK389・369・112・207・200・60）がある。また SB320・269 の柱穴は SK112 を切っており、同遺構よりも新しいと考えられること、北前田遺跡Ⅱから 9 世紀後葉以降の遺物が出土しないことから、4 期に属するものと考えられる。

②　掘立柱建物の長軸方向からの検討

北新田・荒町南新田遺跡（以下両遺跡）で検出した古代の掘立柱建物については、長軸方向により A ～ F の 6 つのグループに分類した［金内ほか 2008・2010］。分類は以下の通りである。両遺跡では 8 世紀前葉～中葉及び 9 世紀前葉～中葉の掘立柱建物が多数検出されている。8 世紀前葉～中葉のものは A・B・D・F グループが検出でき、柱並びが整然とせず、不整長方形を呈するものが多い。9 世紀前葉～中葉のものは A ～ E グループが検出でき、柱間寸法や柱並びが整然としているものが多い［金内 2008・2010］。

A グループ　南北方向が 0 ～ 10°西寄りにずれ、N － 0 ～ 10° － W・N － 80 ～ 90° － E を示すもの。

B グループ　南北方向が 0 ～ 10°東寄りにずれ、N － 0 ～ 10° － E・N － 80 ～ 90° － W を示すもの。

C グループ　南北方向が 11 ～ 20°西寄りにずれ、N － 11 ～ 20° － W･N － 70 ～ 79° － E を示すもの。

D グループ　南北方向が 21 ～ 40°東寄りにずれ、N － 21 ～ 40° － E･N － 50 ～ 69° － W を示すもの。

第15図 北前田遺跡Ⅱにおける遺構の変遷

Eグループ　南北方向が21～40°西寄りにずれ、N－21～50°－W・N－40～69°－Eを示すもの。
Fグループ　南北方向が11～20°東寄りにずれ、N－11～20°－E・N－70～79°－Wを示すもの。

この分類を北前田遺跡Ⅱの掘立柱建物（長軸方向が明らかではないSB482は除く）に当てはめると、A・Cグループは検出できず、Bグループ7棟（SB320･319･358･259･108･287･100）、Dグループ3棟（SB383･307・258）、Eグループ1棟（SB269）、Fグループ5棟（SB381・412・288・98・99）となる。FグループはSB412・288のように柱並びが整然とせず、不整長方形を呈しているものが多いこと、両遺跡の9世紀前葉～中葉の掘立柱建物にこのグループが検出できないことから、3期に属するものと考えられる。一方D・EグループはFグループと比較して柱間寸法や柱並びが整然としていること、Eグループが両遺跡の8世紀前葉～中葉の掘立柱建物に検出できないことから、4期に属するものと考えられる。

以上の点を考慮すると北前田遺跡Ⅰ（B地区）・Ⅱにおける遺構の変遷は次のように考えられる。

3期（第15図左）

掘立柱建物11棟（SB381・412・319・358・259・108・287・288・98・99・100）、雨落ち溝3条（SD109・58・SX55）、土坑6基（SK468・189・327・251・203・91）が当該期の遺構に位置付けられる。

掘立柱建物は調査区全体で検出できる。SB288を除く全てが東西棟で、長軸方向はN－72～85°－Wの範囲に収まる。また数棟の建物が東西方向に並び、五つの列を成しているのことが分かる（北側からSB381、SB412、SB319・358、SB259・108・287・288、SB98・99・100）。北側から2番目に位置するSB412を除く列同士の間隔は15～18mとほぼ均一であり、計画的に集落を構成していたことが窺える。また雨落ち溝や土坑はいずれも建物の近くに位置しており、建物との関連性が想定できる。

4期（第15図右）

掘立柱建物5棟（SB383・307・320・269・258）、井戸3基（SE378・474・341）、土坑6基（SK389・369・112・207・200・60）が当該期の遺構に位置付けられる。

掘立柱建物は全てが東西棟で、長軸方向はBグループに属するSB320を除くとN－43～64°－Wの範囲に収まる。建物は調査区北西側に集中しており、南東側では検出できなかった。そのため集落の中心は調査区の北西側に延びている可能性が考えられる。 井戸や土坑の多くは建物の近くに位置しているが、SK60のように建物から25m以上離れているものも見られる。

また、調査区北東側で検出した畑作溝の一部がSB383の柱穴を切っていることから、4期の集落が廃絶した後、この地が畑として利用されていたものと考えられる。畑作溝からは明確に伴う遺物が検出できないため断定はできないが、畑作溝の長軸方向が4期の建物のそれと異なっているため、集落廃絶後ある程度の期間を経てから畑が形成されたものと想定できる。

SB98

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	5Q22	隅丸方形	階段状	19.00	18.65	52	48	35	柱痕有	P1-P2:2.27m	土師器	
P2	5Q18	隅丸方形	漏斗状	19.02	18.79	52	47	23	柱痕有	P2-P3:1.93m	土師器	
P3	5Q13･14･18･19	隅丸方形	漏斗状	19.03	18.66	52	49	37	柱痕有	P3-P4:2.12m	土師器	
P4	5Q14	隅丸方形	階段状	19.02	18.68	59	54	34	柱痕有			

SB99

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	6P22	円形	U字状	18.98	18.66	36	33	32	柱痕有	P1-P2:1.68m		
P2	6P18･23	円形	半円状	19.03	18.76	39	35	27	柱痕有	P2-P3:1.96m	土師器	
P3	6P19	円形	漏斗状	19.02	18.81	50	45	21	柱痕有	P3-P4:2.10m		
P4	6P15･20	円形	階段状	18.97	18.16	50	49	81				

SB100

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	7P6	隅丸方形	階段状	18.93	18.61	43	38	32	柱痕有	P1-P2:2.36m	須恵器･土師器	
P2	7P2･7	円形	漏斗状	18.90	18.53	39	36	37	柱痕有	P2-P3:2.09m	土師器	
P3	7P3	隅丸方形	台形状	18.86	18.69	48	47	17			土師器	

SB108

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	3P10／4P6	隅丸方形	箱状	19.06	18.51	91	63	55	柱痕有	P1-P2:2.36m	土師器	
P2	4P1･2	隅丸方形	台形状	19.02	18.49	73	63	53	柱痕有	P2-P3:2.20m	土師器	
P3	4O22･23／4P2･3	隅丸長方形	漏斗状	19.05	18.37	89	64	68	柱痕有	P3-P4:2.19m	須恵器･土師器	
P4	4O23	隅丸長方形	箱状	19.07	18.38	74	57	69	柱痕有	P4-P5:2.36m	土師器	
P5	4O24／4P4	隅丸方形	箱状	19.08	18.51	63	59	57		P5-P6:2.35m	土師器	
P6	4P5･10	隅丸方形	箱状	19.08	18.38	79	75	70	柱痕有	P6-P7:2.19m	土師器	
P7	4P9	隅丸方形	階段状	19.06	18.33	72	68	73	柱痕有	P7-P8:2.29m	須恵器･土師器	
P8	4P13	隅丸方形	階段状	19.02	18.59	76	73	43	柱痕有	P8-P9:2.03m	土師器	
P9	4P12･17	円形	台形状	18.99	18.55	78	74	44		P9-P10:2.15m	土師器	
P10	4P11	楕円形	U字状	19.00	18.68	20	16	32		P10-P1:2.45m		

SB258

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	4Q3･8	楕円形	U字状	18.94	18.56	48	36	38	柱痕有	P1-P2:1.90m		
P2	4Q4	隅丸方形	台形状	18.90	18.66	29	29	24		P2-P3:1.77m		
P3	4Q5	円形	台形状	18.89	18.75	26	24	14		P3-P4:0.90m		
P4	4Q5	円形	台形状	18.90	18.69	32	27	21	柱痕有	P4-P5:2.05m		
P5	5Q6	隅丸方形	漏斗状	18.92	18.75	34	29	17	柱痕有	P5-P6:2.60m		
P6	5Q11	円形	漏斗状	18.90	18.74	36	31	16	柱痕有	P6-P7:3.41m		
P7	4Q15	円形	台形状	18.92	18.71	33	32	21	柱痕有	P7-P8:1.93m		
P8	4Q14･19	円形	台形状	18.94	18.84	36	36	10	柱痕有	P8-P1:4.03m		

SB259

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	4P16･21	円形	台形状	18.95	18.84	30	29	11		P1-P2:1.55m		
P2	4P16	楕円形	孤状	18.95	18.81	36	28	14	柱痕有	P2-P3:1.93m		
P3	4P17･22	円形	台形状	18.94	18.58	40	40	36	柱痕有	P3-P4:2.03m		
P4	4P23	楕円形	孤状	18.92	18.79	43	34	13	柱痕有	P4-P5:1.46m		
P5	4Q2	楕円形	U字状	18.93	18.65	37	29	28	柱痕有	P5-P1:4.12m	土師器	

SB269

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	3N8	円形	U字状	19.04	18.66	35	34	38	柱痕有	P1-P2:2.06m		
P2	3N9	隅丸方形	漏斗状	19.06	18.66	39	38	40	柱痕有	P2-P3:2.03m	土師器	
P3	3N10	隅丸方形	漏斗状	19.07	18.66	40	40	41	柱痕有	P3-P4:2.37m		
P4	3N15	円形	台形状	19.01	18.61	39	37	40	柱痕有	P4-P5:2.00m		
P5	3N20	円形	孤状	18.99	18.89	37	34	10	柱痕有	P5-P6:1.97m		
P6	3N19･20	円形	階段状	18.98	18.67	48	42	31	柱痕有	P6-P7:2.49m	土師器	SB269-P6＞SK112
P7	3N18	隅丸方形	階段状	18.94	18.62	28	28	32	柱痕有	P7-P8:2.95m		SB269-P7＞SB320-P7
P8	3N12	円形	孤状	18.96	18.85	35	32	11		P8-P9:2.20m	土師器	
P9	3N7	円形	孤状	18.99	18.92	25	24	7		P9-P1:2.00m		

第１表　北前田遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（１）

SB287

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	4O18･19･23･24	隅丸方形	U字状	19.04	18.46	49	47	58		P1-P2:2.49m	土師器	
P2	4O14･19･20	隅丸方形	階段状	19.05	18.38	55	56	67	柱痕有	P2-P3:2.58m	土師器	SB287-P2＜SK160
P3	4O15	円形	箱状	19.06	18.45	74	74	61	柱痕有	P3-P4:2.41m	土師器	SB287-P3＞P331
P4	5O16	円形	U字状	19.09	18.54	37	32	55	柱痕有	P4-P5:2.59m		
P5	5O17･22	楕円形	台形状	19.08	18.41	75	60	67	柱痕有	P5-P6:2.67m	土師器	SB287-P5＜P229
P6	5O21／5P1	円形	台形状	19.06	18.41	58	57	65	柱痕有	P6-P7:2.69m	土師器	
P7	4P5	隅丸方形	台形状	19.08	18.47	53	47	61	柱痕有	P7-P1:4.92m	土師器	

SB288

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	5O2	楕円形	台形状	19.05	18.83	47	38	22	柱痕有	P1-P2:1.93m	土師器	
P2	5N22･23	円形	箱状	19.06	18.79	28	27	27		P2-P3:1.62m		
P3	5N23	長方形	台形状	19.02	18.73	60	41	29		P3-P4:2.61m		
P4	5O4	円形	弧状	18.99	18.80	32	32	19		P4-P5:2.76m	土師器	
P5	5O10	楕円形	漏斗状	19.00	18.44	49	41	56	柱痕有	P5-P6:2.20m	土師器	
P6	5O14	隅丸方形	台形状	18.99	18.80	39	34	19	柱痕有	P6-P7:1.66m	土師器	
P7	5O13	隅丸方形	弧状	19.03	18.75	45	44	28	柱痕有	P7-P8:2.98m	土師器	
P8	5O7	円形	U字状	19.05	18.60	26	25	45		P8-P1:2.52m		

SB307

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	2M19	円形	箱状	19.03	18.63	45	41	40	柱痕有	P1-P2:1.99m		
P2	2M20	円形	箱状	19.06	18.64	50	47	42	柱痕有	P2-P3:1.80m		
P3	2M20／3M16	円形	箱状	19.05	18.64	44	41	41	柱痕有	P3-P4:1.94m		
P4	3M11･12	円形	箱状	19.04	18.64	47	42	40	柱痕有	P4-P5:2.13m		
P5	3M6	円形	半円状	19.00	18.76	45	41	24	柱痕有			

SB319

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	2N5／3N1	円形	箱状	18.98	18.66	41	40	32	柱痕有	P1-P2:2.11m		
P2	3N1	円形	箱状	19.02	18.65	44	44	37	柱痕有	P2-P3:1.69m		
P3	3M22	楕円形	箱状	19.04	18.66	61	42	38	柱痕有	P3-P4:2.06m	須恵器	
P4	3M18･23	円形	台形状	19.05	18.62	58	51	43	柱痕有	P4-P5:1.96m	土師器	
P5	3M18･19	隅丸長方形	漏斗状	19.06	18.56	64	50	50	柱痕有	P5-P6:2.44m	土師器	
P6	3M24･25	隅丸長方形	弧状	19.09	18.68	58	41	41	柱痕有	P6-P7:2.67m	須恵器･土師器	
P7	3N5	隅丸方形	台形状	19.07	18.56	52	48	51	柱痕有	P7-P8:3.87m	土師器	
P8	3N4･5･9･10	隅丸長方形	箱状	19.06	18.54	63	50	52	柱痕有	P8-P9:1.84m		
P9	3N9	隅丸方形	漏斗状	19.05	18.65	51	50	40	柱痕有	P9-P10:1.93m	須恵器･土師器	
P10	3N13	隅丸長方形	台形状	18.95	18.64	47	35	31	柱痕有	P10-P11:2.14m	土師器	
P11	3N12･17	楕円形	階段状	18.96	18.66	46	36	30	柱痕有	P11-P12:2.68m		
P12	3N6･11	円形	階段状	18.97	18.67	40	34	30	柱痕有	P12-P1:2.75m		
P13	3M14･15	円形	漏斗状	19.05	18.71	59	50	34	柱痕有	P13-P14:5.07m	須恵器･土師器	
P14	4M21	円形	漏斗状	19.07	18.60	52	48	47	柱痕有	P14-P7:2.14m	土師器	

SB320

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	3N7	楕円形	漏斗状	18.98	18.81	61	53	17	柱痕有	P1-P2:4.67m		
P2	3N4	隅丸長方形	階段状	19.03	18.93	75	59	10	柱痕有	P2-P3:2.22m	土師器	
P3	3N4･5･9･10	隅丸長方形	箱状	19.06	18.54	63	50	52	柱痕有	P3-P4:2.16m	土師器･土製品	
P4	3N10･15	隅丸長方形	階段状	19.07	18.62	64	56	45	柱痕有	P4-P5:1.68m	土師器	
P5	3N14･15	隅丸方形	箱状	19.08	18.65	62	49	43	柱痕有	P5-P6:1.70m	土師器	SB320-P5＞SK112
P6	3N14･19	隅丸方形	階段状	18.98	18.45	57	58	53	柱痕有	P6-P7:1.50m	土師器	SB320-P6＞SK112
P7	3N18･19	隅丸方形	箱状	18.97	18.65	67	58	32	柱痕有	P7-P8:2.34m	土師器	SB320-P7＜SB269-P7
P8	3N12･13	円形	階段状	18.95	18.64	66	61	31	柱痕有	P8-P1:2.44m		SB320-P8＞P310

SB358

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	3M20	円形	U字状	19.05	18.60	33	31	45	柱痕有	P1-P2:4.77m	土師器	SB358-P1＞P500
P2	4M12	隅丸方形	漏斗状	19.05	18.54	40	38	51	柱痕有	P2-P3:2.10m	土師器	SB358-P2＜SD130
P3	4M13･17･18	楕円形	漏斗状	19.05	18.62	47	35	43	柱痕有	P3-P4:2.00m	土師器	SB358-P3＜SD116
P4	4M18･23	隅丸長方形	階段状	19.02	18.46	54	38	56	柱痕有	P4-P5:4.49m	土師器	
P5	4N1	楕円形	漏斗状	19.07	18.54	55	40	53	柱痕有	P5-P6:2.07m		
P6	3M25／4M21	楕円形	半円状	19.06	18.87	37	32	19	柱痕有	P6-P1:1.94m	土師器	

第２表　北前田遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表（２）

観　察　表

SB381

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	2K10･15	円形	階段状	19.02	18.69	53	50	33		P1-P2:2.25m	土師器	
P2	2K15	円形	U字状	19.04	18.65	42	40	39	柱痕有	P2-P3:2.24m		
P3	3K16･21	隅丸方形	箱状	18.98	18.62	56	48	36	柱痕有	P3-P4:1.80m	土師器	
P4	2K25	隅丸長方形	階段状	18.99	18.60	82	47	39	柱痕有	P4-P5:1.62m	土師器	
P5	2K24･25	隅丸方形	階段状	19.01	18.66	55	47	35	柱痕有	P5-P6:1.58m	土師器	
P6	2L4	隅丸長方形	階段状	19.00	18.65	57	45	35	柱痕有	P6-P7:1.76m	土師器	
P7	2L3	隅丸方形	階段状	19.02	18.65	48	45	37	柱痕有	P7-P8:2.24m	土師器	
P8	2K22･23	円形	台形状	18.97	18.74	32	28	23	柱痕有			

SB383

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	3L6	円形	階段状	19.04	18.53	47	42	51	柱痕有	P1-P2:2.10m	土師器	
P2	3L2･7	円形	台形状	19.03	18.58	48	47	45	柱痕有	P2-P3:1.73m		
P3	3L3	楕円形	弧状	19.03	18.61	46	39	42	柱痕有	P3-P4:1.84m	土師器	
P4	3L4	円形	台形状	19.05	18.56	53	50	49	柱痕有	P4-P5:1.77m		SB383-P4＜SD361
P5	3L5	円形	台形状	19.00	18.49	46	39	51	柱痕有	P5-P6:2.45m	土師器	
P6	3L10	円形	U字状	19.05	18.57	55	49	48	柱痕有	P6-P7:2.59m	須恵器･土師器	
P7	3L15／4L11	円形	U字状	19.04	18.57	48	47	47	柱痕有	P7-P8:1.59m	土師器	
P8	3L15	円形	箱状	19.03	18.60	49	45	43	柱痕有	P8-P9:1.94m	土師器	SB383-P8＜SD342
P9	3L19	円形	階段状	19.04	18.54	50	46	50	柱痕有	P9-P10:1.96m	土師器	
P10	3L18	円形	U字状	19.02	18.55	48	46	47	柱痕有	P10-P11:1.75m		
P11	3L17	円形	箱状	18.99	18.56	48	47	43	柱痕有	P11-P12:2.32m		
P12	3L12	楕円形	箱状	19.03	18.48	56	46	55	柱痕有	P12-P1:2.57m	土師器	

SB412

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	2L10	円形	台形状	19.02	18.90	21	19	12		P1-P2:2.56m		
P2	3L1	円形	弧状	19.02	18.84	30	27	18		P2-P3:2.53m		
P3	3K23／3L3	方形	弧状	19.11	18.88	26	25	23		P3-P4:2.29m		
P4	3L3･8	円形	弧状	19.05	18.85	36	33	20		P4-P5:2.18m		SB412-P4＞SD361
P5	3L9･14	円形	台形状	18.98	18.83	28	27	15		P5-P6:2.67m		
P6	3L13	円形	U字状	19.04	18.74	33	29	30		P6-P7:2.44m		
P7	3L16･17	円形	弧状	19.03	18.83	33	28	20		P7-P8:2.20m		
P8	3L11	円形	弧状	19.03	18.94	30	29	9	柱痕有	P8-P1:2.15m		

SB482

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	3K	楕円形	弧状	18.93	18.46	(52)	61	47		P1-P2:2.25m	土師器	調査区外に延びる
P2	3･4K	方形	弧状	18.97	18.67	42	40	30	柱痕有	P2-P3:1.66m		
P3	4K	楕円形	U字状	18.96	18.44	(47)	44	52	柱痕有		土師器	調査区外に延びる

SA266

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	4Q25／5Q21	円形	不整形	18.95	18.81	42	38	15	柱痕有	P1-P2:2.34m	土師器	
P2	5Q17･21･22	円形	漏斗状	19.00	18.74	39	38	25	柱痕有	P2-P3:1.76m	土師器	
P3	5Q17	楕円形	弧状	18.99	18.85	41	34	14	柱痕有		土師器	

SA486

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	4L1	円形	U字状	19.00	18.78	24	22	22	柱痕有	P1-P2:2.27m		
P2	4L6･7	円形	台形状	19.05	18.78	27	22	27		P2-P3:2.11m	土師器	
P3	4L12	円形	台形状	19.04	18.67	23	21	37			土師器	

第３表　北前田遺跡Ⅱ　掘立柱建物・杭列柱穴観察表

溝番号	位置（グリッド）	断面形	規模			方向	覆土	遺物	備考
			長さ(m)	幅(cm)	深さ(cm)				
114	4M･N／5M	半円状	13.95以上	32	10	N-84°-E	単層	土師器･瓦	調査区外に延びる
115	5M	半円状	2.71	29	10	N-87°-E	単層		
116	4･5M	半円状	10.89	30	16	N-80°-W	単層	須恵器･土師器	SD116＞SB358-P3
117	5･6O	弧状	2.26	31	7	N-87°-W	単層	土師器	
118	5N･O	台形状	1.98	24	10	N-88°-W	2層		
119	5N	台形状	1.86	33	10	N-88°-W	2層	須恵器･土師器	
120	5･6N	弧状	0.90	24	7	N-81°-E	単層	土師器	
121	5N	弧状	0.98	29	12	N-84°-E	単層	土師器	
122	6N	台形状	6.48	33	7	N-24°-E	2層	土師器	
124	4M	台形状	0.81	19	9	N-88°-W	単層		
126	4･5M	弧状	4.39	25	6	N-76°-W	単層	土師器	
127	4N／5M･N	弧状	5.35以上	27	6	N-80°-W	単層	土師器	
128	5M･N	弧状	10.17以上	28	7	N-80°-W	単層	土師器	調査区外に延びる
130	4L･M	半円状	10.99	29	14	N-84°-W	2層	須恵器･土師器	SD130＞SB358-P2･P395
131	4L･M	弧状	11.37以上	28	12	N-87°-W	単層	土師器	SD131＞SK327 調査区外に延びる
133	3･4L	弧状	7.76	28	6	N-90°-W	単層	須恵器	
134	4L	弧状	5.45以上	23	7	N-90°-W	単層	土師器	調査区外に延びる
135	4L	弧状	3.46	13	2	N-90°-W	単層		
136	4･5M	弧状	5.55以上	28	10	N-87°-E	単層		調査区外に延びる
138	3M	弧状	2.88	45	3	N-20°-E	単層	須恵器･土師器	
174	5N･O	弧状	3.83	30	5	N-88°-W	単層	土師器	
176	5M	弧状	2.60以上	25	6	N-87°-W	3層	土師器	調査区外に延びる
177	5M	半円状	2.82	26	7	N-85°-W	3層		調査区外に延びる
201	5N／6M･N	弧状	8.43	38	7	N-90°-W	単層	須恵器	P202･P368＜SD201＜撹乱
315	5O	弧状	2.57	30	6	N-86°-W	単層		
342	3･4L	弧状	7.96	19	8	N-85°-W	単層		SD342＞SB383-P8
361	3K･L	半円状	7.12	26	13	N-79°-W	単層	土師器	SD361＞ SB383-P4･SB412-P4･P493
469	4･5N	弧状	9.85	55	4	N-0°	単層	土師器	SD469＞P380

第４表　北前田遺跡Ⅱ　畑作溝観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種	遺存状態	外径（cm）	内径（cm）	重さ（g）	備考
34	表採		土師器	土錘	破片	3.6（推定）			土師質
35	SB320-P3	覆土	土師器	カマドの芯材？	破片				土師質

第５表　北前田遺跡Ⅱ　土製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	遺存状態	備考
36	SK203		砥石	10.1	3.6	2.5	160	安山岩		

第６表　北前田遺跡Ⅱ　石製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	遺存状態	備考
37	SK365	覆土1	刀子	13.5	1.25	0.65	15.44	刃先部欠	

第７表　北前田遺跡Ⅱ　金属製品観察表

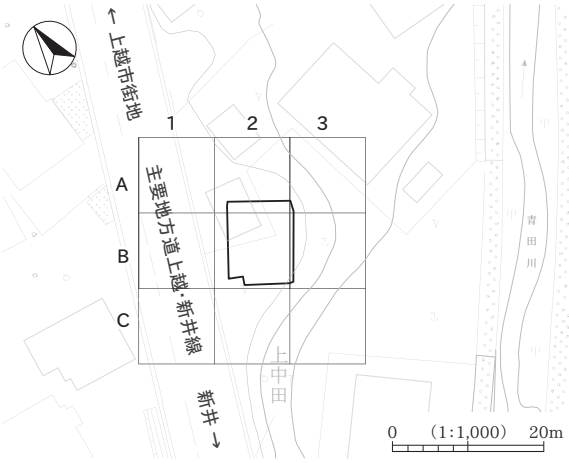
掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
1	SE277	覆土	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部破片	12.6			酸化炎・橙色			ロクロナデ		内外面にススが付着する
2	SE341	覆土	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部破片	14.7	5.9	4.9	酸化炎・橙色	砂		ロクロナデ・内面ミガキ？	9世紀第2四半期	
3	SE474	覆土3	須恵器	無台杯CⅠ	口縁部～底部破片	13.4	6.2	3.8	酸化炎・橙色	長・礫	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
4	SK112	覆土・覆土1	須恵器	杯蓋Ⅱ	端部1/3	16.0			還元炎・灰色	石		ロクロナデ	9世紀第2四半期	体部外面自然釉。産地不明
5	SK112	覆土・覆土2	須恵器	有台杯AⅡ	口縁部～底部1/4	13.2	8.9	4.2	還元炎・灰白色	白	糸切り	ロクロナデ	8世紀第2四半期	
6	SK112	覆土・覆土1	須恵器	無台杯AⅡ	口縁部～底部破片	12.3	8.0	3.4	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ		
7	SK112	覆土・覆土2	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	21.3			酸化炎・橙色	礫・赤		内外面ハケメ		
8	SK189	覆土1	須恵器	杯蓋	頂部～体部破片				還元炎・灰白色	白・長		外面上半ロクロケズリ		
9	SK189	覆土2	須恵器	有台杯AⅡ	口縁部～底部2/3	15.0	10.6	3.8	還元炎・灰色	石・黒		ロクロナデ	8世紀第2四半期～第3四半期	体部外面自然釉
10	SK189	覆土1	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	21.9			酸化炎・橙色	白・礫・赤・黒		外面ハケ？内面ナデ？		
11	SK200	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～体部破片	11.9			還元炎・灰色	石・白		ロクロナデ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
12	SK200	覆土	須恵器	無台杯AⅠ	口縁部～底部1/2	13.4	5.2	3.2	酸化炎・にぶい黄白色	白	ヘラ切り・左	ロクロナデ？	9世紀第3四半期	風化激しい。小泊窯産
13	SK200	覆土	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部1/2	12.0	6.0	3.6	酸化炎・黄橙色	赤・砂	糸切り	ロクロナデ	9世紀第3四半期	風化激しい
14	SK203	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部3/4	16.3		3.0	還元炎・灰色	石・長・黒		外面上半ロクロケズリ	8世紀第2四半期	
15	SK207	覆土	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部3/4	12.6	5.7	3.7	酸化炎・浅黄橙色	石・赤・砂	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第2四半期	
16	SK251	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部1/2	13.0	9.1	3.7	還元炎・灰色	長・礫・黒	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第3四半期	東頸城丘陵の窯産
17	SK251	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	26.0			酸化炎・浅黄橙色	石・白・礫		内外面ハケメ		
18	SK251	覆土	土師器	甕Ⅰ	体部～底部1/3		9.6		酸化炎・浅黄橙色	石・長・砂		内外面ハケメ	8世紀第3四半期	
19	SK251	覆土	土師器	甕	体部～底部破片		7.8		酸化炎・浅黄橙色	礫		内外面ハケメ		
20	SK251	覆土・覆土1・覆土3	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部1/3	22.9			酸化炎・橙色	石・礫		内外面ハケメ	8世紀第3四半期	
21	SK327	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部1/3	15.1		3.0	還元炎・灰色	石・黒・長		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期	歪み。外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
22	SK327	覆土	須恵器	有台杯AⅡ	体部～底部破片		10.0		還元炎・灰色	石・礫・黒		ロクロナデ	8世紀第3四半期～9世紀初頭	東頸城丘陵の窯産
23	SK327	覆土・覆土1	須恵器	無台杯AⅡ	口縁部～底部破片	11.7	6.1	3.6	酸化炎・にぶい黄橙色	石・黒・礫	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	東頸城丘陵の窯産
24	SK327	覆土	須恵器	無台杯AⅡ	口縁部～底部破片	12.0	5.7	3.5	還元炎・灰色	石・白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	東頸城丘陵の窯産
25	SK389	覆土	須恵器	有台杯AⅡ	口縁部～底部破片	13.2	8.2	2.9	還元炎	石・黒		ロクロナデ		
26	SK389	覆土	土師器	内黒椀	口縁部～体部破片	14.8			酸化炎・橙色	石		内面黒色処理	9世紀第2四半期	
27	SK468	覆土	須恵器	長頸壺	口縁部～頸部破片	10.5			還元炎・青灰色	白		ロクロナデ	8世紀	東頸城丘陵の窯産か？
28	SK468	覆土1・覆土2	土師器	甕	体部破片		10.5		酸化炎・にぶい黄白色	石・礫		内外面ハケメ		
29	SD109	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	14.1			酸化炎・橙色	礫				風化激しい
30	SD114	覆土1	須恵器	長頸壺	口縁破片				還元炎・灰色	石・黒・白		外面回転ケズリ、内面ロクロナデ		
31	P308	覆土	須恵器	無台杯AⅡ	完形	12.6	7.7	2.8	還元炎・灰色	白	ヘラ切り・左	ロクロナデ	9世紀第3四半期	墨書：体部外面「□」。小泊窯産
32	4N3	Ⅱ	須恵器	長頸壺	体部下半破片				還元炎・灰色	石・黒		ロクロナデ		
33	3M2	Ⅱ	須恵器	長頸壺	頸部下半破片				還元炎・灰色	石・黒		ロクロナデ		

第８表　北前田遺跡Ⅱ　土器観察表

第Ⅳ章　野 畔 遺 跡

1　グリッドの設定

グリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか2008］のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標178k100m（世界測地系X＝120937.0055: 北緯37°05′22.73502″、Y＝-23149.5914:東経138°14′22.54033″、5J杭）と同177k900m（世界測地系X＝120791.299、Y＝-23012.611、25J杭）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横10m方眼を組み、大グリッドとした。



第16図　野畔遺跡　グリッド設定図

大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。野畔遺跡は、横軸大グリッド1～3、縦軸がA～Cである（第16図）。両者を組み合わせて「2B」のように表記した。

小グリッドは第17図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「2B15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して46°46′05″東偏する。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

0　(1:400)　10m

第17図　小グリッド模式図

2　基 本 層 序（図版18）

野畔遺跡は青田川左岸の沖積地に立地する。調査前現況標高20m前後、遺構検出面標高約19.7m前後を測る。遺構検出面は基本的に平坦である。基本層序は3層に分層した。なおⅠ層の直上には砕石及び産業廃棄物を多量に含む盛土が約30cm堆積していた。

Ⅰ層：にぶい黄褐色シルト（10YR5/3）　粘性弱、しまり中。φ5mm以下の炭化物少量含む。

Ⅱ層：にぶい黄褐色シルト（10YR4/3）　粘性弱、しまり中。φ5mm以下の炭化物中量含む。

Ⅲ層：明黄褐色シルト（10YR6/6）　粘性弱、しまり中。φ3mm以下の炭化物少量含む（地山）。

3　遺　　構

A　概　　要

野畔遺跡は基本層序Ⅲ層（地山）を遺構検出面として、掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑2基、性格不

明遺構２基、溝１条、ピット 18 基を検出した。構築時期は遺構内もしくはその周辺から出土する土器の年代からいずれも古代に比定される。

B　遺 構 各 説

１）　掘立柱建物

SB34（図版 18・70）

２Ｂグリッドに位置する側柱建物である。P1 が SK14 と、P6 が SD1 とそれぞれ重複し、これらに切られている。建物の西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行２間以上（4.3m 以上）、梁行２間（3.22m）の東西棟と推定される。面積は 10.95㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 63°－Ｅを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱穴は東西方向に２基ずつ並んでおり、最低１回は建て替えられている。柱痕は各柱穴のいずれか１基に認められ、径約 10 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB46（図版 18・70）

２Ｂグリッドに位置する側柱建物である。P5 が SX41 と重複し、これに切られており、P3 が SK11 と重複し、これを切っている。南東隅の柱穴が調査区外に延びるが、桁行３間（4.33m）、梁行２間（3.48m）の長方形を呈する。面積は 14.65㎡を測る。長軸方向はＮ－ 48°－Ｅを示し、東西棟となる。柱穴の規模は P3 が長径 51cm とやや大きいが、長径 31 ～ 38cm に収まり、いずれも掘形を持つ。柱痕は P4・P5 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

２）　井　　戸

SE10（図版 18・19・71）

２A･B グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.17 ～ 1.25m、検出面からの深さ 1.67m を測る。断面は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトと褐灰色シルトを主体とし、８層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土１～３・５・６層から古代の土師器が出土している。

３）　土　　坑

SK11（図版 18・19・70・71）

２Ｂグリッドに位置する。SB46-P3 と重複し、これに切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、長径 1.92m、短径 97cm、検出面からの深さ 19cm を測る。長軸方向はＮ－２°－Ｅを示す。断面形は皿状を呈する。覆土は明黄褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器が出土している。

SK14（図版 18・19・71）

２Ｂグリッドに位置する。SB34-P1 と重複し、これを切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、長径 2.73m、短径 65cm、検出面からの深さ 21cm を測る。長軸方向はＮ－７°－Ｅを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は明黄褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

４）　性格不明遺構

SX41（図版 18・19・71）

２・３Ｂグリッドに位置する。SB46-P5 と重複し、これを切っている。東側が調査区外に延びるため明確ではないが、平面形は不整形を呈するものと推定される。径 2.75m、検出面からの深さ 27cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトと明黄褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SX43（図版 18・19・70・71）

２Ｂグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 1.15m、短径 36cm、検出面からの深さ 15cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は明黄褐色シルトブロックを含むにぶい黄褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

５）　溝

SD1（図版 18・71）

２Ｂグリッドに位置する。SB34-P6 と重複し、これを切っている。南側及び北側は調査区外に延びる。長さ 6.50m 以上、幅 1.11m、検出面からの深さ 41cm を測る。長軸方向はＮ－２°－Ｗを示す。断面形は弧状を呈する。覆土はにぶい黄褐色シルトと明黄褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（８世紀後半～９世紀前半）の須恵器（１～５）・土師器が出土している。

４　遺　　物

Ａ　概　　要

出土した遺物は土師器 401 点、須恵器 13 点があり、その大部分は SD1 からの出土である。いずれも古代に比定される。そのほかに砥石１点が出土している。

Ｂ　土　　器

SD1（図版 19- １～５、図版 71）

須恵器杯蓋（１）、横瓶（２）、甕（３・４）、長頸壺（５）が出土している。１は頂部で摘みが付される。摘みは低めの凝宝珠形である。時期は８世紀後半～９世紀前半に比定される。２は横瓶の口縁部破片で、口縁端部が平坦となる。３・４は共に甕の底部破片である。５は長頸壺の底部破片である。高台部は幅広で、外端接地する。

Ｃ　石　製　品（図版 19-6、図版 71）

６はⅡ層から出土した砥石で、上半部を欠損する。台形状に面取りされ、砥面は下端部を含めて６面認められる。砥面には極めて明瞭な線状痕を残す。裏面には線状痕の無い所もあり、素材形成時の面取りの痕跡を残している。現存長 12.9cm、幅 3.5cm、厚さ 3.7cm、重量 187g を測る。石材はガラス質安山岩である。

5　ま　と　め

本遺跡は青田川の左岸、標高約 19.7 mの高田面に立地し、現況は宅地で、盛土されている。検出した遺構は古代の掘立柱建物２棟、井戸１基、土坑２基、溝１条である。遺物包含層の残りも悪く、８世紀後半前後の遺物が若干している。須恵器の蓋･甕･長頸壺片等で、、生活の基本となる器種セットは存在しない。掘立柱建物２棟のうち１棟は調査対象地外へ棟の一部が延び、柱間等は明らかではないが、同位置に新旧の柱穴が検出され、建て替えが行われたことが明らかになった。２棟の掘立柱建物は軸線が多少異なっているが、基本的には東西棟である。近接した北前田遺跡Ⅰ（B 地区）・北新田遺跡Ⅰ［金内ほか 2008］や平成 20 年度に実施した北前田遺跡Ⅱでも規模等は若干異なっているが該期の東西棟の掘立柱建物が検出されている。本遺跡の掘立柱建物は、相対的に小さくなり、柱穴も小型化しているのが特徴的である。

本発掘調査面積が狭小で遺構数・遺物量も少ないため、遺跡の全体像を把握することは極めて困難であるが､高田平野の古代集落の変遷については大きく４つの画期があるという［笹澤 2003］。それによれば、第１画期は８世紀中葉で、平野中央部の関川の河岸段丘上に集落が成立する。第２画期は９世紀中葉で、平野中央部の関川の河岸段丘上の集落が再編され、有力集落が出現する。第３画期は 10 世紀後半で、関川の河岸段丘上の集落の解体と内陸部集落が衰退する。第４画期は 11 世紀中葉で､直江津方面（日本海側）に新たな有力集落が成立する。これに当てると本遺跡は第１期に該当しよう。

本遺跡周辺における地形を詳細に観察すると、かつての青田川の流路と考えられる浅い谷状の地形が南北方向に数条残っている。北新田遺跡Ⅰ及び荒町南新田遺跡の発掘調査でも旧青田川と推定される自然流路が検出され、古代末までは流れており、中世段階では完全に埋まっていることが判明した［金内ほか 2008・2010］。この流路は順次東側から西側へ移動し、現青田川の流路が最終的姿を反映した結果と考えられる。仮に、北前田遺跡と野畔遺跡が同一面上にあったとすれば、一連の遺跡と考えられる。しかし、本遺跡は集落の中心域とは言えず、縁辺部として把握されよう。今回、両遺跡の発掘調査では、青田川の崖面は検出されていないが、時期不明ながら両遺跡の間を青田川が流れたものと考えるのが最も妥当であろう（平成 10 年上越市役所発行の 5,000 分の１地形図でも検出できる。また､現地の微地形観察からも明らかである）。

SB34

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	2B7	長楕円形	不整形	19.63	19.12	47	26	51	柱痕有	P1-P2:1.62m		SB34-P1＜SK14
P2	2B2･3	楕円形	U字状	19.62	19.17	48	37	45	柱痕有	P2-P3:1.59m		
P3	2B8	楕円形	不整形	19.53	19.13	47	34	55	柱痕有	P3-P4:1.63m		
P4	2B13･14	長楕円形	漏斗状	19.67	19.18	68	42	49	柱痕有	P4-P5:1.87m		
P5	2B13	長楕円形	台形状	19.54	19.31	28	18	23	柱痕有	P5-P6:2.53m		
P6	2B12･16･17	円形	台形状	19.57	19.28	29	26	29	柱痕有			SB34-P6＜SD1

SB46

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	2B18	楕円形	U字状	19.73	19.25	36	27	48		P1-P2:1.27m		
P2	2B13･14	楕円形	U字状	19.73	19.17	33	24	56		P2-P3:1.73m		
P3	2B14	長楕円形	台形状	19.66	19.09	51	33	56		P3-P4:1.32m		SB46-P3＞SK11
P4	2B10	楕円形	U字状	19.63	18.96	37	32	68	柱痕有	P4-P5:1.56m		
P5	2B15	楕円形	半円状	19.43	19.14	32	27	29	柱痕有			SB46-P5＜SX41
P6	2B20	円形	U字状	19.59	18.99	33	29	60		P6-P7:1.72m		
P7	2B25	楕円形	U字状	19.36	19.17	31	26	19		P7-P8:1.12m		
P8	2B24	円形	U字状	19.55	19.16	32	28	40		P8-P9:1.69m		
P9	2B19	円形	U字状	19.65	19.32	38	36	33		P9-P1:1.74m		

第９表　野畔遺跡　掘立柱建物柱穴観察表

掲載番号	遺構名･出土地点	層位	種類	器種･細分	遺存部位･遺存率	口径（cm）	底径（cm）	焼成･色調	胎土	調整	時期	備考
1	SD1	覆土3	須恵器	蓋	頂部～体部破片			還元炎･灰色	白	外面上半 ロクロケズリ	8世紀後半～ 9世紀前半	
2	SD1	覆土1	須恵器	横瓶	口縁部～体部破片	20.7		還元炎･灰色	白			
3	SD1	覆土1	須恵器	甕	体部～底部破片		10.7	還元炎･黄灰色	白			内面自然釉
4	SD1	覆土1	須恵器	甕	体部～底部破片			還元炎･灰色	砂	外面下半 平行タタキ		内面自然釉
5	SD1	覆土1	須恵器	長頸壺	底部		9.8	還元炎･灰色	砂			

第 10 表　野畔遺跡　土器観察表

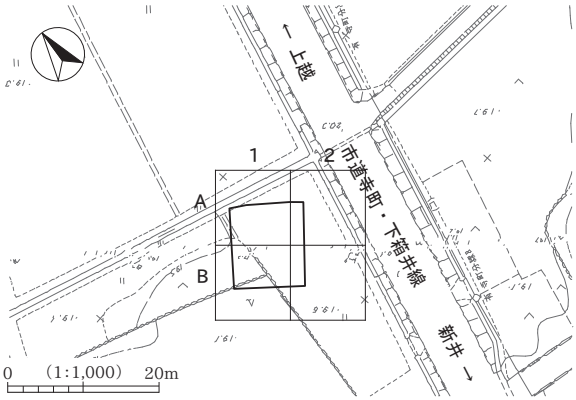
掲載番号	遺構名・出土地点	層位	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	遺存状態	備考
6		Ⅱ	砥石	12.9	3.5	3.7	187	ガラス質安山岩	上半部欠損	

第 11 表　野畔遺跡　石製品観察表

第Ⅴ章　諏訪前遺跡

1　グリッドの設定

グリッドは、新幹線本線部分の中心座標175k300m（世界測地系X＝118798.3303: 北緯37°04′13.50757″、Y＝-21343.2230：東経138°15′35.90869″）と同175k340m（世界測地系X＝118827.7994: 北緯37°04′14.46138″、Y＝-21370.2708: 東経138°15′34.81036″）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横10m方眼を組み、大グリッドとした。



第18図　諏訪前遺跡　グリッド設定図

大グリッドは一辺10mで、横軸方向の北西側から算用数字、縦軸方向の北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。両者を組み合わせて「1A」のように表記した。諏訪前遺跡は、横軸が大グリッド1～2、縦軸がA～Bである（第18図）。

小グリッドは第19図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「1A1」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して42°30′20″東偏する。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

0　(1:400)　10m

第19図　小グリッド模式図

2　基本層序（図版20）

諏訪前遺跡は矢代川と関川の間の沖積地に立地する。調査前現況標高は19.8m前後、検出面標高は18.9m前後を測る。遺構検出面はほぼ平坦である。

Ⅰa層：暗赤灰色砂質粘土（10R3/1）　粘性弱、しまり強。炭化物を少量含む。現水田耕作土。

Ⅰb層：赤灰色砂質粘土（10R5/1）　粘性弱、しまり強。水田の床土か客土と考えられる。

Ⅰc層：赤灰色粘土（10R5/1）　粘性弱、しまり強。水田の床土か客土と考えられる。

Ⅱ　層：黒褐色シルト（10YR3/2）　粘性中、しまり中。調査区西側で見られる。

Ⅲa層：黒褐色シルト（7.5YR3/1）　粘性中、しまりやや強い。

　　褐灰色砂質シルト（10YR4/1）　ブロックを中量含む。古代の遺物包含層である。

Ⅲa'層：褐灰色砂質シルト（10YR4/1）　粘性中、しまりやや強い。調査区南側で部分的に見られる。

Ⅲb層：黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性やや強、しまり中。古代の遺物包含層である。

Ⅳ　層：オリーブ黒色砂（7.5Y3/1）　粘性なし、しまりやや強い（地山）。

3　遺　　構

A　概　　要

基本層序Ⅳ層（地山）を遺構検出面として、調査区の東側と西側で土坑を２基検出した。いずれの土坑からも遺物は出土していないが、Ⅲ層から古代の土器が出土していることから、当該期の遺構と考えられる。

B　遺構各説

1）土　　杭

SK5（図版 20・72）

1A・B グリッドに位置する。試掘調査時に検出したもので、平面形は試掘トレンチで南西側の大部分を欠失しているものの、楕円形を呈すものと推定される。径 87cm、検出面からの深さ 19.5cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK11（図版 20・72）

１・２A グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.68m、短径 1.21m、検出面からの深さ 43cm を測る。主軸方向は N － 50° － W 示す。底面はやや凸凹があり、断面形は半円状を呈する。覆土は黒色砂質シルトと黒褐色粘土の２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

4　遺　　物

A　概　　要

出土した遺物は土師器 71 点、須恵器 21 点、木簡１点があり、全て遺構外出土である。包含層（Ⅲ層）から出土した土器の大多数は古代に属するが、中世の珠洲焼が１点確認されている。盛土及び撹乱からは須恵器、珠洲焼、青磁が少量出土している。木簡はその出土層位（Ⅱ層）から中世以降のものと考えられる。

B　土器・陶磁器

須恵器（図版 20- １～４、図版 72）

１は杯蓋の体部で緑色の自然釉が掛かる。２・３は有台杯で、２は腰部に明瞭な稜を持ち、高台は外端接地する。３は底部片で、底径が 9.2cm を測る大型のものである。底部にはヘラ切り痕が残る。４は無台杯の底部片である。内外面に火ダスキ痕が確認される。底部外面にはヘラ切り痕が残る。

珠洲焼（図版 20- ５、図版 72）

５は片口鉢で内面に３条の卸し目がみられるが、かなり磨耗している。時期は 14 世紀前半以降に比定される。

青磁（図版 20- ６、図版 72）

６は椀の体部下半である。釉は濃緑色で貫入が見られ、磁胎は明灰色である。時期は 14 世紀末に比定される。

C　土　製　品（図版 20- 7、図版 72）

７は現存長 4.8cm、直径 5.6cm を測る土師質土製品である。形態から高坏の脚部と考えられる。高温で焼けた痕跡があることから羽口に転用された可能性もある。

D　木　製　品（図版 20- 8、図版 72）

Ⅱ層から木簡が１点出土している（８）。上下端及び左右辺ともに原状をとどめるが、中央付近で図正面から刃物を入れて切断している。図正面に「廿一神」、裏面に九□〔神ヵ〕と記されていることから、日蓮宗で重視された三十番神の信仰に関わる可能性がある。

5　自然科学分析

基本土層におけるイネ科草本植生の変遷及び栽培植物の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

A　試　　料

試料は、調査区壁面から採取された土壌４点（第 20 図 - 試料番号１～４）である。土壌試料は、基本土層Ⅳ層（試料番号４）、Ⅲｂ層（試料番号３）、Ⅲa' 層（試料番号２）、Ⅱ層（試料番号１）から採取されており、Ⅳ層は古代の遺構検出面、Ⅲｂ層は古代の遺物包含層、Ⅲa' 層はⅢｂ層を被覆する砂層、Ⅱ層は中～近世の堆積物とされている。

試料の観察では、Ⅳ層（試料番号４）はオリーブ黒色の細粒砂、Ⅲｂ層（試料番号３）は黒褐色のシルト混じり極細粒砂、Ⅲa' 層（試料番号２）は褐灰色の極細粒砂、Ⅱ層（試料番号１）は黒褐色の砂混じりシルトからなることが観察された。本分析では、これらの４試料を対象に植物珪酸体分析を行う。

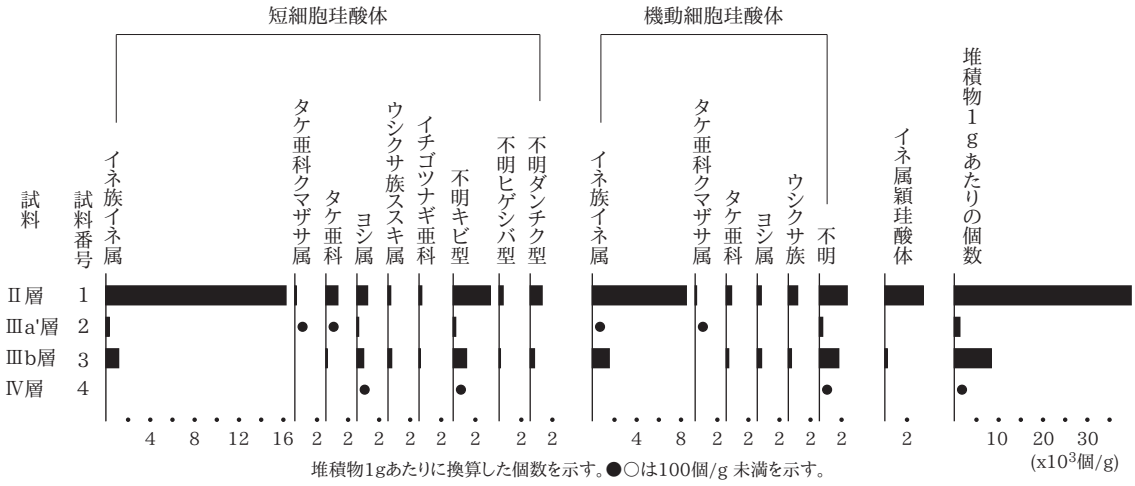
B　分 析 方 法

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）及び葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、［近藤 2004］の分類に基づいて同定・計数する。分析の際、試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物 1g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物 1g あたりの個数に換算）を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、100 個 /g 未満は「<100」で表示する。各分類群の含量は 100 単位とし、合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に 100 単位として表示する。各分類群の植物珪酸体含量とその層位的変化を図示する。

C 結　　果

結果を第 20 図及び第 12 表に示す。基本土層の各試料から検出された植物珪酸体は、表面に多数の小孔（溶食痕）が認められるなど保存状態は不良である。以下に、各試料の産状を記す。



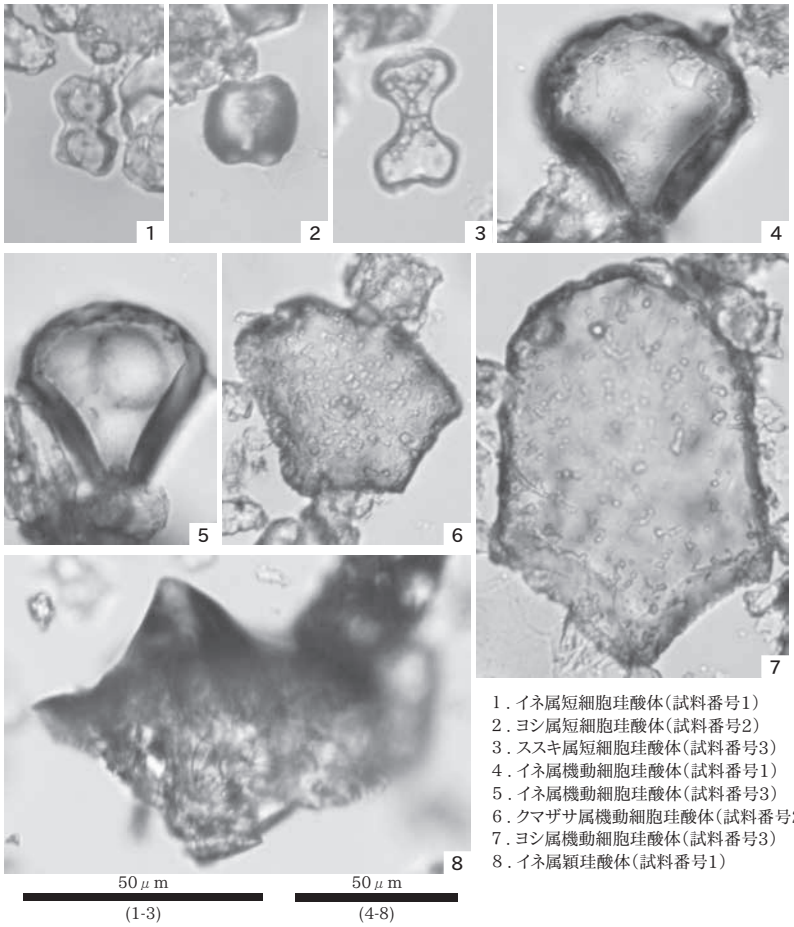
第 20 図　植物珪酸体含量

分類群＼試料	1（Ⅱ層）	2（Ⅲa層）	3（Ⅲb層）	4（Ⅳ層）
イネ科葉部短細胞珪酸体				
イネ族イネ属	16,200	300	1,100	-
タケ亜科クマザサ属	100	<100	-	-
タケ亜科	1,100	<100	100	-
ヨシ属	1,000	100	600	<100
ウシクサ族ススキ属	200	-	300	-
イチゴツナギ亜科	200	-	100	-
不明キビ型	3,300	200	1,200	<100
不明ヒゲシバ型	400	-	100	-
不明ダンチク型	1,100	-	400	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体				
イネ族イネ属	8,500	<100	1,500	-
タケ亜科クマザサ属	100	<100	-	-
タケ亜科	500	-	200	-
ヨシ属	400	-	400	-
ウシクサ族	800	-	300	-
不明	2,500	300	1,700	<100
珪化組織片				
イネ属穎珪酸体	3,500	-	200	-
合　計				
イネ科葉部短細胞珪酸体	23,600	800	4,000	100
イネ科葉身機動細胞珪酸体	12,800	400	4,100	100
珪化組織片	3,500	0	200	0
総　計	39,900	1,300	8,300	200

第 12 表　植物珪酸体含量

Ⅳ層（試料番号４）は、４試料中で最も植物珪酸体含量が低く、約 200 個 /g である。検出される分類群も少なく、ヨシ属等がわずかに認められるのみである。上位のⅢｂ層（試料番号３）では、植物珪酸体含量は約 8,300 個 /g である。栽培植物のイネ属の葉部や籾殻（穎）に形成される植物珪酸体が検出され、このうち穎珪酸体は珪化組織片が認められる。その含量は、短細胞珪酸体は約 1,100 個 /g、機動細胞珪酸体は約 1,500 個 /g、穎珪酸体は約 200 個 /g である。この他に、タケ亜科やヨシ属、ススキ属を含むウシクサ属、イチゴツナギ亜科などが検出される。Ⅲａ' 層（試料番号２）は、上・下位の試料に比べ植物珪酸体含量が低く、約 1,300 個 /g である。イネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体は約 300 個 /g、機動細胞珪酸体は 100 個 /g 未満である。この他に、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属などが検出されるが、上･下位の試料に比べ検出される分類群は少ない。Ⅱ層（試料番号１）は、試料中で植物珪酸体含量が最も高い値を示し、約４万個 /g である。イネ属の葉部に形成さ

れる短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体、籾殻（穎）に形成される穎珪酸体が検出される。その含量は、短細胞珪酸体は約 1.6 万個 /g、機動細胞珪酸体は約 8,500 個 /g、穎珪酸体は約 3,500 個 /g である。また、計数していないが、イネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体を含む珪化組織片の産出も顕著である。この他に、クマザサ属を含むタケ亜科、ヨシ属、ススキ属を含むウシクサ属、イチゴツナギ亜科などが検出される。



1．イネ属短細胞珪酸体（試料番号1）
2．ヨシ属短細胞珪酸体（試料番号2）
3．ススキ属短細胞珪酸体（試料番号3）
4．イネ属機動細胞珪酸体（試料番号1）
5．イネ属機動細胞珪酸体（試料番号3）
6．クマザサ属機動細胞珪酸体（試料番号2）
7．ヨシ属機動細胞珪酸体（試料番号3）
8．イネ属穎珪酸体（試料番号1）

第 21 図　植物珪酸体

D 考　　察

古代及び中～近世と考えられる堆積物を対象とした植物珪酸体分析結果では、基本土層間で検出される分類群や含量に変化が認められ、その産状はⅡ層（試料番号 1）が最も良好であった。なお、植物珪酸体含量の値が低いⅣ層やⅡ層は、試料の観察ではいずれも砂質な堆積物であったことから、堆積速度が速かったことや植物珪酸体が蓄積し難い環境であったことが推定される。

古代の遺構検出面のⅣ層（試料番号４）は、植物珪酸体含量は少なく、ヨシ属や不明キビ型がわずかに検出されるのみであった。ヨシ属は、河畔や湿地などの湿った環境に生育する種類であることから、周辺の河畔等に生育していた可能性がある。古代の遺物包含層のⅢ層（試料番号３）では、栽培植物のイネ属をはじめ、ヨシ属やススキ属、イチゴツナギ亜科等が検出された。このうち、イネ属は、短細胞珪酸体が約 1,100 個 /g、機動細胞珪酸体が約 1,500 個 /g、穎珪酸体が約 200 個 /g 認められた。水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（機動細胞由来）が試料 1g 当り 5,000 個以上の密度

で検出された場合に、そこで稲作が行われた可能性が高いと判断されている［杉山 2000］。このことから、本遺跡での稲作の可能性は低いとみられるが、イネの植物体の利用や集水域等で稲作が行われていた可能性がある。また、この他に検出された分類群から、周辺の河畔にはヨシ属やススキ属等が生育していた可能性がある。

Ⅲ a' 層（試料番号２）は、Ⅳ層と同様に植物珪酸体含量が少なく、わずかにイネ属、クマザサ属、ヨシ属等が検出されるのみであった。クマザサ属には、落葉広葉樹林の林床に生育する種類が含まれる。岩ノ原遺跡や北新田遺跡で実施された花粉分析では、西側の丘陵地などにブナ属を主体とした落葉広葉樹林の存在が示唆されている［パリノ・サーヴェイ株式会社 2008a・2008b］ことから、こうした落葉広葉樹林の林床に生育していた個体に由来する可能性がある。

中～近世の堆積物とされるⅡ層（試料番号１）では、栽培植物のイネ属を主体に、タケ亜科、ヨシ属等が検出された。イネ属の機動細胞珪酸体含量が約 8,500 個 /g と高い値を示すことやイネ属の葉部や穎に由来する珪化組織片の産状、上記の点を考慮すると、本土層において稲作が行われていた可能性や、イネ属に由来する植物体の供給が推定される。なお、本地点における稲作については、畦畔等の検出やこの他の稲作の可能性を示唆する資料の有無など発掘調査成果と合わせた評価が望まれる。一方、イネ属を除く分類群は、下位のⅢ a 層やⅢ b 層と類似していることや、含量におおきな変化が認められないことから、周辺には同様のイネ科草本類が生育したと考えられる。

6　ま　と　め

本遺跡の発掘調査では遺物包含層の残存状況が非常に悪く、古代及び中世の遺物が若干出土したのみである。遺構も土坑が２基検出されたものの、これに伴う遺物がないことから正確な時期決定はできない。主体となる時代は平安時代のもので、遺物総数及び器種構成から消費地遺跡としての把握は困難である。調査対象地外に中核的遺跡の存在が考えられると言いたい所であるが、この地域の該期の遺跡は相対的に関川右岸に発達した高田面上の自然堤防上の遺跡より劣っていると言えよう。

これは高田平野における段丘の形成に深く係わっていると思われる。高田平野は関川を中心に沖積地が良好に発達し、上面から高田面、関川面、最下面が関川氾濫原面の３面に区分されている。高田面が最も大きな比率を占め、関川面、関川氾濫原面は関川が著しく大規模に蛇行しながら上位面である高田面を開析した跡であると考えられている。本遺跡は関川左岸の高田面上に位置し、標高約 19 mである。東南 600 ～ 800 mには平成 15 年に県教委が発掘調査した台の上遺跡や峪ノ上遺跡［渡邊ほか 2005］があり、段丘の東端に当たり、関川面との比高差２m強を測るという。南側は標高 19 mで、妙高市杉明遺跡・倉田遺跡・東沖遺跡・栗原遺跡などの比較的大規模な７世紀代から８世紀の遺跡が分布している。一方、本遺跡の西側 500 mでは矢代川の蛇行原が始まる。本遺跡は関川と矢代川に挟まれた高田面上にある遺跡であるが、最も北端に位置し、関川面や矢代川の氾濫原に面していたと考えられる。

植物珪酸体分析結果でも、中世から近世は珪酸体が多く、顕著で、水田耕作（稲作）がなされていたとするが、古代の遺物包含層および遺構検出面の上層はいずれも砂質な堆積物で、堆積速度が速く、珪酸体が蓄積しにくい環境で、河畔や湿地に生育するヨシ属や不明キビ型が周辺に生育していた可能性があるという。発掘調査範囲が狭く、的確なことは言えないが、古代にあっては水田耕作（稲作）には適さない地で、当時の人々も生活し得難い地域であったのであろう。

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径(cm)	底径(cm)	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
1		Ⅲa	須恵器	杯蓋Ⅲ	体部～端部破片	13.7		還元炎・灰色	黒	外面上半ロクロケズリ	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	外面自然釉
2	2B6	Ⅲa	須恵器	有台杯	体部～底部破片			還元炎・青灰色	石・白		ロクロナデ	9世紀第2四半期～第3四半期	
3		Ⅲa	須恵器	有台杯	体部～底部破片		9.2	還元炎・灰色	白・黒	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第2四半期～第3四半期	
4	1B10	Ⅲb	須恵器	無台杯	体部～底部破片		7.1	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	火ダスキ
5		撹乱	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	14世紀前半以降	
6	1B7	撹乱	青磁	椀	体部下半破片		(5.2)	還元炎・濃緑色	磁胎・明灰色			14世紀末	

第 13 表　諏訪前遺跡土器観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種	遺存状態	外径（cm）	内径（cm）	重さ（g）	備考
7	1B5	Ⅲa	土師器	羽口？	片側端部欠	5.6	3.8		高杯の転用品？

第 14 表　諏訪前遺跡土製品観察表

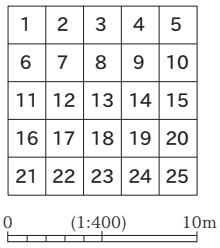
掲載番号	遺構名・出土地点	層位・取り上げNo.等	品名	樹種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	木取り	備考
8	1B13	Ⅱ	木簡		15.1	2	0.6	板目	

第 15 表　諏訪前遺跡木製品観察表

第Ⅵ章　北新田遺跡Ⅱ

1　グリッドの設定

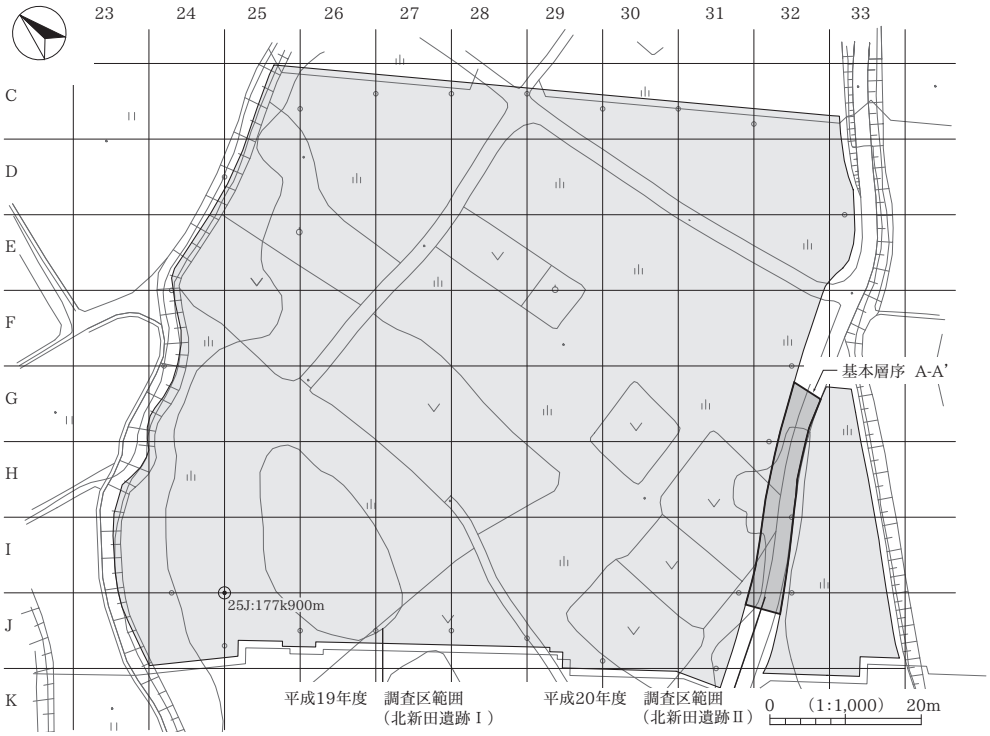
グリッドは、『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか2008］のグリッドを適用した。新幹線本線部分の中心座標178k100m（世界測地系X＝120937.0055：北緯37°05′22.73502″、Y＝-23149.5914：東経138°14′22.54033″、5J杭）と同177k900m（世界測地系X＝120791.299、Y＝-23012.611、25J杭）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦横10m方眼を組み、大グリッドとした。



第23図　小グリッド模式図

大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。北新田遺跡Ⅱは横軸が大グリッド31～32、縦軸がG～Jである（第22図）。これを組み合わせて「32G」のように表記した。

小グリッドは第23図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「32G15」のように表記した。グリッド縦軸は真北方向に対して46°46′05″東偏する。



第22図　北新田遺跡Ⅱ　グリッド設定図

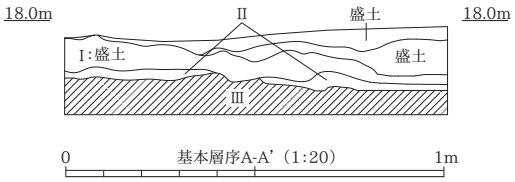
２　基本層序

北新田遺跡は高田平野の西縁を流れる青田川右岸の沖積地に立地する。調査前現況標高 18 m前後、遺構検出面標高 17.8m 前後を測る。遺構検出面は基本的には平坦である。現況は農道であり、農道敷設の際、遺構の一部分が削平されていた。また調査区中央では調査区を縦断するように水道送水管が敷設され、その部分の遺構・遺物は消滅していた。基本層序は３層に分層した（第 24 図）。

Ⅰ層：砕石を含む盛土。

Ⅱ層：黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性中、しまり中。最大 10cm 程度の堆積である。

Ⅲ層：明黄褐色シルト（10YR6/6）　粘性中、しまり中（地山）。



第 24 図　北新田遺跡Ⅱ　基本土層図

３　遺　　構

A　概　　要

北新田遺跡では基本層序Ⅲ層（地山）を遺構検出面として、竪穴住居３棟、掘立柱建物１棟、土坑４基、性格不明遺構３基、溝 14 条、ピット 27 基を検出した（平成 19 年度の調査で検出したものも一部含める）。構築時期に関しては、出土遺物の年代から判断できるものを列挙すると、古墳時代前期：竪穴住居１棟。古墳時代後期：竪穴住居１棟。古代：竪穴住居１棟、土坑１基、溝２条となる。

B　遺構各説

１）　古墳時代前期の遺構

a　竪穴住居

SI1660（図版 23・25・74）

31I、32I・J グリッドに位置する竪穴住居である。北側で SK1678・SD1644・1659、南側で SD1650・1658 とそれぞれ重複し、これらに切られている。形態から南東側が平成 19 年度の調査範囲まで延びていたものと考えられるが、遺跡の遺存状況が良好でなかったこともあり、平面全体を検出することはできなかった。

平面形は隅丸方形を呈すると考えられ、規模は長軸 7.64m 以上、短軸 4.22m 以上、検出面から床面までの深さ 12cm、面積は 34.56㎡以上と推定される。長軸方向は N － 16°－ E を示す。覆土は黒色シルトを主体とし、２層に識別される。覆土２層は褐灰色シルトと灰黄褐色シルトの混合土が厚さ４cm 程堆積しており、覆土１層に比べしまりがあることから貼床と認識した。壁面の立ち上がりは遺存状況が不良

のため、明らかにできなかった。

柱穴は北東隅に１基（SI1660-P1）検出した。掘形を持ち、規模は径 38 ～ 44cm、床面からの深さ 58cm を測る。柱痕が認められ、径約 12cm の柱が据えられていたものと推定する。周溝は北壁際から西壁際を巡り、南壁際付近まで幅 11 ～ 21cm、床面からの深さ 1 ～ 17cm を測る。炉は検出できなかった。遺物は覆土から古墳時代前期の器台（６）が出土している。遺構の存続時期は出土した遺物の年代から古墳時代前期と考えられる。

２）　古墳時代後期の遺構

a　竪 穴 住 居

SI203（図版 23・24・73・74）

31H・I、32H・I グリッドに位置する竪穴住居である。北側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。東側で SD1637・1638、中央部で SD1666・1667、南東側で SK1645 とそれぞれ重複し、これらに切られている。

平面形は隅丸方形を呈しており、長軸 6.68m、短軸 6.53m、検出面から床面までの深さ 28cm、面積は 38.04㎡を測る。長軸方向は N － 86° － E を示す。覆土は褐灰色と灰黄褐色シルトを主体とし、２層に識別され、水平に堆積する。床面はやや凹凸があり、しまりは中で硬化面は認められない。壁面の立ち上がりは一定でない。周溝は新たに南壁際西側で検出した。規模は幅 6 ～ 60cm、床面からの深さ 3 ～ 12cm を測る。その一方で平成 19 年度の調査で認めた周溝の続きは検出できなかった。農道敷設の際に削平されたためと考えられる。

柱穴は平成 19 年度の調査と合わせて北東隅、北西隅、南東隅（SI203-P1）に計３基検出した。南西隅の柱穴はその位置から水道管敷設の際に削平されたものと考えられる。いずれも掘形を持ち、規模は長径 55 ～ 60cm、短径 45 ～ 50cm、床面からの深さ 54 ～ 84cm を測る。柱痕が認められ、径約 22cm の柱が据えられていたものと推定される。

カマドは東辺の南寄りに存在する。火床部は長径 24cm、短径５cm を測る。火床部はわずかに掘り込まれている程度で、厚さ５cm で赤化している。袖・煙道部は残存していない。また住居中央部で地床炉を１基検出した（SX1676）。SX1676 は円形ないし楕円形を呈するものと考えられ、径 55 ～ 82cm 以上、床面からの深さ４cm で赤化している。遺物は大部分がカマドの南側から出土しており、総重量は 3.53kg を測る。須恵器杯蓋（１）・土師器甕（２～４）・甑（５）が出土している。遺構の存続時期は出土した遺物の年代から７世紀前半頃と推定される。

３）　古代の遺構

a　竪 穴 住 居

SI847（図版 22・24・75）

32G グリッドに位置する。北西側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。平面形は不整長方形を呈し、長軸 2.73m、短軸 2.04m、検出面からの深さ 13cm、面積は 5.42㎡を測る。長軸方向は N － 69° － W を示す。覆土は暗青灰色シルトと褐灰色シルトの２層に識別され、水平に堆積するが、北西側では覆土１層は検出されなかった。

床面はほぼ平坦で、硬化面は認められない。壁面は遺存状況が良くないため、その立ち上がりは不明で

ある。周溝・柱穴・カマド・炉は検出できなかったものの、平面形や床面が平坦であることから、土坑ではなく竪穴住居とした。遺物は覆土から古墳時代の土師器と古代の土師器・須恵器（７）が出土している。

b　土　　坑

SK1678（図版 23・25）

32I グリッドに位置する。SI1660 と重複し、これを切っている。形態から南東側が平成 19 年度の調査範囲まで延びていたものと考えられるが、遺跡の遺存状況が良好でなかったこともあり、全体は検出できなかった。平面形は方形を呈するものと推定され、長辺 53 ～ 61cm、検出面からの深さ 14cm を測る。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器と古代の須恵器が出土している。

c　溝

SD845（図版 22・24）

32G グリッドに位置する。北側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。長さ 9.30m 以上、幅 50 ～ 66cm、検出面からの深さ 20cm を測る。長軸方向はＮ－３°－Ｅを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗青灰色シルトを主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積するが、北側では覆土２層は検出されなかった。遺物は覆土から土師器及び古代の須恵器が出土している。

SD846（図版 22・24）

31・32G、32H グリッドに位置する。北側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。南側で SD1612・1614 と重複し、これに切られる。長さ 10.57m、幅 25 ～ 40cm、検出面からの深さ 14cm を測る。長軸方向はＮ－５°－Ｗを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は暗青灰色シルトと明黄褐色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器が出土している。

４）　時期不明の遺構

a　掘立柱建物

SB1605（図版 22・24・75）

32・33G グリッドに位置する側柱建物である。西側は水道送水管が敷設されているため一部の遺構が消滅しており、東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行３間（5.15 ～ 5.17m）、梁行２間（4.11 ～ 4.28m）の長方形を呈するものと考えられる。面積は、21.61㎡と推測される。長軸方向はＮ－83°－Ｗを示し、東西棟となる。P2 ～ 4 は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出したものである。柱穴はいずれも掘方を持つ。柱痕は P1 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

b　土　　坑

SK1619（図版 22・24）

32G グリッドに位置する。位置関係から SK857 と重複していたものと考えられるが、新旧関係は不明である。なお SK857 は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］では北側半分を検出したが、今回の調査ではこの続きを検出できなかった。農道敷設の際削平されたためと考えられる。平面形は不整形を呈する。長径 62cm、短径 27cm、検出面からの深さ 30cm を測る。長軸方向はＮ－54°－Ｗを示す。覆土は暗

赤褐色シルトと赤灰粘質シルトの混合土の単層である。遺物は出土していない。

SK1645（図版 23・25・75）

32H グリッドに位置する。東側は平成 19 年度の調査［金内ほか 2008］で検出した。西側で SI203 と重複し、これを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径 99cm、短径 85cm、検出面からの深さ 32cm を測る。長軸方向はＮ－ 61°－Ｅを示す。断面形は半円状を呈する。覆土は褐色シルトを主体とし、２層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

SK1679（図版 23・25）

32J グリッドに位置する。平面形は東側が撹乱を受けているため明らかではないが、方形を呈するものと考えられる。長径 2.73m 以上、短径 2.04m 以上、検出面からの深さ 13cm を測る。覆土は暗青灰色シルトを主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

c　性格不明遺構

ここでは平面形が不整形を呈するもの、撹乱等でその大半を消失している遺構を性格不明遺構とした。

SX1609（図版 22・24）

32H グリッドに位置する。平面形は南側が撹乱を受けて明らかではないが、不整方形を呈するものと考えられる。径 1.64m、検出面からの深さ 10cm を測る。断面形は底面に凹凸が見られ、不整形を呈する。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は覆土から土師器が出土しているが細片のため時期を特定することはできなかった。

SX1665（図版 23・25）

32I グリッドに位置する。平面形は西側が撹乱を受けて明らかではないが、楕円形を呈するものと考えられる。長径 51cm、短径 22cm 以上、検出面からの深さ５cm を測る。長軸方向はＮ－ 55°－Ｅを示す。覆土は暗青灰色シルトの単層である。遺物は出土していない。

d　溝

遺物が出土していない、もしくは遺物の時期が特定できないため時期不明とした溝は 12 条検出され、個別のデータは観察表にまとめた（第 11 表）。それらの位置関係や SD1650 を除くと長軸方向は東西方向を示すこと、切り合い関係から北新田遺跡Ⅱのなかでも最も新しい段階に位置付けられることを考慮すると、平成 19 年度の調査で検出した畑作溝Ⅱ群［金内ほか 2008］との関連が推定できる。なお畑作溝Ⅱ群の一部は北新田遺跡Ⅱの調査範囲まで延びているものと考えられるが、１条を除く全てが農道敷設の際に削平されていた。

4　遺　　物

A　概　　要

出土遺物は古墳時代前期の土師器、後期の須恵器・土師器、古代の須恵器・土師器があり、その中でも SI203 から出土した古墳時代後期の土器が大半を占める。

Ｂ　土　　器

SI203（図版 25- １～５、図版 75）

須恵器杯蓋（１）、土師器甕（２～４）、甑（５）が出土した。１は頂部が平坦で、端部は丸く収まっている。２・３は頸部の屈曲が緩やかで、体部は長胴を呈するものと考えられる。外面には粗いハケ調整が縦位に施されている。４も体部は長胴を呈するものと考えられる。外面は縦位のハケ調整が施され、内面は平滑である。５は底部が筒抜けの甑で、頸部の屈曲はほとんどない。外面は縦位のハケ調整、内面は横位のハケ調整が施されている。いずれの土器も時期は７世紀前半に比定される。

SI1660（図版 25- ６、図版 75）

器台（６）が出土した。脚部破片で、内外面ともに風化が著しく調整方法は不明である。時期は古墳時代前期に比定される。

SI847（図版 25- ７、図版 75）

須恵器甕（７）が出土した。体部下半の破片で、外面が平行タタキ、内面には同心円当て具痕がある。時期は９世紀に比定される。

遺構外出土（図版 25- ８、図版 75）

32H21 グリッドⅡ層から須恵器無台杯（８）が出土した。体部のロクロ目が目立ち、底部の切り離しはヘラ切りである。胎土から小泊窯産と推定され、時期は９世紀中葉に比定される。

５　ま　と　め

－北新田遺跡Ⅱにおける遺構の変遷－

平成 19 年度に調査を実施した北新田遺跡Ⅰの遺構の変遷［金内ほか 2008］を基に、北新田遺跡Ⅱについても遺構の存続時期を伴出する遺物の年代と遺構の形態から３時期に区分した。時期区分は『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』［金内ほか 2008］と共通のものとしたが、遺構・遺物を検出できなかった 1b 期（古墳時代前期後半）、３期（８世紀中葉）、５期（10 世紀中葉～ 11 世紀初頭）及び中世については記述していない。また比較対象として北新田遺跡Ⅰや南側に隣接する荒町南新田遺跡［金内ほか 2010］の遺構の様相も併せ考えて記述した。

1a 期（古墳時代前期初頭）　北新田遺跡Ⅱで検出した竪穴住居１棟（SI1660）は古墳時代前期の器台が出土しているが、脚部破片であるため詳細な時期決定はできなかった。しかしその面積は 34.56㎡と推定され、北新田遺跡Ⅰでの 1a 期の竪穴住居３棟の面積（36.25 ～ 38.18㎡）とほぼ同規模である。また住居中央部に炉が検出できず、周溝も明瞭ではないこと等共通性が多く見られる。さらに SI1660 は 31I、32I・Ｊグリッドに位置しており、北新田遺跡Ⅰでの 1a 期の遺構を検出した範囲内に納まる。このことから SI1660 は 1a 期に位置付けられるものと考えられる。

２期（古墳時代後期：７世紀前葉～中葉）　当該期の遺構は竪穴住居１棟（SI203）がある。北新田遺跡Ⅰ及び荒町南新田遺跡において当該期の竪穴住居 22 棟を検出しており、この段階では大規模な集落が営まれていたものと考えられる［金内ほか 2008・2010］。

SI203 は面積が 38.04㎡を測り、東辺にカマドを持ち、中央部に地床炉を有している。柱穴は撹乱により南西隅の１本を消失しているが、各コーナーに４本あったものと考えられる。周溝は壁際に断続的

に存在する。これらの特徴は北新田遺跡Ⅰ及び荒町南新田遺跡における当該期の竪穴住居と比較しても際立った違いは認められない。またカマドと炉を併設する竪穴住居はSI203以外にも北新田遺跡Ⅰで2棟、荒町南新田遺跡で3棟検出されている。カマド初現期の例では炉を併設するのが一般的で、炉が消滅しカマドのみとなるのは7世紀中葉以降とされているが［田嶋 1992］、両遺跡におけるカマドのみの竪穴住居と比較しても出土遺物の年代に際立った違いは見出せなかった。新潟県内においては類例が少ないため、今後の資料の増加が期待される。

4期（古代: 9世紀中葉）　当該期の遺構は竪穴住居1棟（SI847）、土坑1基（SK1645）、溝2条（SD845･846）がある。いずれも平成19年度の調査で検出したものの続きである。SI847は面積が5.42㎡を測る。柱穴・周溝・炉・カマドは検出できないものの、平面形や床面が平坦であることなどを考慮して土坑ではなく竪穴住居と考えておきたい。

北新田遺跡Ⅱはその位置関係から見ても北新田遺跡Ⅰで検出した集落の一部であり、その様相についても際立った違いは見受けられない。

SB1605

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	32G19	円形	半円状	17.66	17.40	33	30	26	柱痕有	P1-P2:1.62m		
P2	32G15	円形	半円状	17.59	17.43	31	29	16		P2-P3:1.89m		
P3	32G15	円形	半円状	17.57	17.48	27	27	9		P3-P4:1.62m		SB1605-P3＞ピット
P4	33G6	円形	半円状	17.55	17.40	30	29	15				
P5	32G8	円形	半円状	17.67	17.41	33	30	26		P5-P6:1.61m		
P6	32G8	円形	半円状	17.69	17.36	35	34	33				

第16表　北新田遺跡Ⅱ　掘立柱建物柱穴観察表

溝番号	位置（グリッド）	断面形	規模			方向	覆土	遺物	備考
			長軸(m)	短軸(cm)	深さ(cm)				
312	31J10	半円状	0.32	23	14	N-77°-E	単層		
1612	32H3	弧状	1.24	15	7	N-82°-E	単層		撹乱＞SD1612＞SD846
1614	32H3･4･8	半円状	3.25	10	5	N-81°-E	単層		SD1614＞SD846
1635	32H12	弧状	0.75	15	4	N-80°-E	単層		SD1635＜撹乱
1637	32H13･17･18･22	弧状	4.72	16	5	N-81°-E	単層	土師器	SI203＜SD1637＝SD1638＜撹乱
1638	32H13･17･18	半円状	1.67	16	7	N-81°-W	単層		SI203＜SD1638＝SD1637
1644	32I7･11･12･16･17	半円状	3.88	12	4	N-69°-E	単層	土師器	SD1644＞SI1660･P1662
1650	32I22／32J2	半円状	0.48	36	11	N-10°-W	単層		SD1650＞SI1660　調査区外に延びる
1658	32I22	弧状	0.64	17	5	N-86°-E	単層		SD1658＞SI1660
1659	32I16･17	不整形	1.30	22	6	N-71°-E	単層		SD1659＞SI1660
1666	32H21	不明	0.60	26	1	N-69°-W	単層		撹乱＞SD1666＞SI203　調査区外に延びる
1667	32H21	不明	0.52	37	1	N-60°-W	単層		撹乱＞SD1667＞SI203　調査区外に延びる

第17表　北新田遺跡Ⅱ　溝観察表

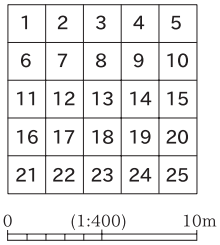
掲載番号	遺構名･出土地点	層位	種類	器種･細分	遺存部位･遺存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成･色調	胎土	切り離し･方向	調整	時期	備考
1	SI203	覆土1	須恵器	蓋杯	ほぼ完形	13.4		4.4	還元炎･浅青灰色	白	ヘラ切り･左	外面上半ロクロケズリ、内面ロクロナデ		
2	SI203	覆土1	土師器	甕	口縁部～体部破片	16.5			酸化炎･黄橙色	白		外面ハケメ？、内面ナデ	7世紀前半	
3	SI203	覆土1	土師器	甕	口縁部～体部1/3	16.0			酸化炎･浅黄橙色	赤･黒･礫		内外面ハケメ	7世紀前半	風化激しい
4	SI203	覆土1	土師器	甕	体部～底部1/3		5.4		酸化炎･浅黄橙色	黒･礫		外面ハケメ、内面ミガキ、内面底部ハケメ	7世紀前半	風化激しい
5	SI203	覆土1	土師器	甑	口縁部～底部3/4	15.6	4.3	18.2	酸化炎･浅黄橙色	石･赤･礫		内外面ハケメ	7世紀前半	風化激しい
6	SI1660	覆土	土師器	器台	脚部破片				酸化炎･浅橙色	赤･礫				風化激しい
7	SI847	覆土2	須恵器	甕	体部破片				還元炎･灰色	白		体部外面平行タタキ、内面同心円当て具	9世紀	
8	32H21	Ⅱ	須恵器	無台杯	口縁部～底部破片	12.6	8.7	3.3	還元炎･灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀中葉	小泊窯産

第18表　北新田遺跡Ⅱ　土器観察表

第Ⅶ章　中田原遺跡Ⅱ

1　グリッドの設定

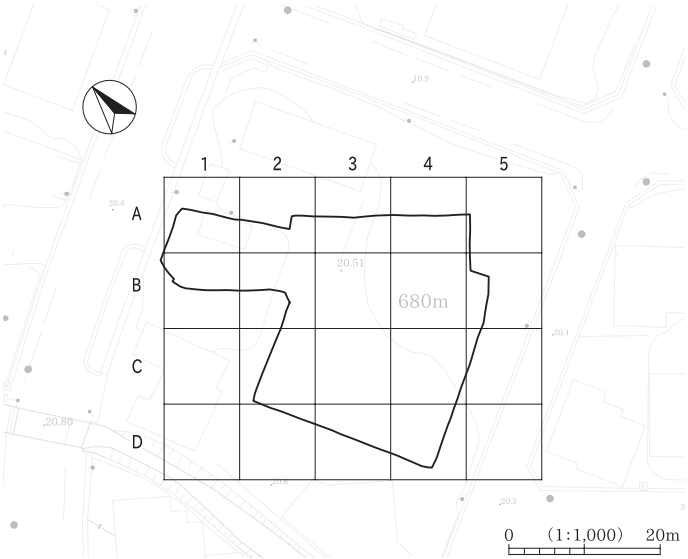
グリッドは、『岩ノ原遺跡』［高橋ほか2008］のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標179k300m（世界測地系のＸ座標＝121745.8335: 北緯37°05′48.894182″、Ｙ座標＝-24035.7343: 東経138°13′46.562452″）と同179k200m（世界測地系のＸ座標＝121679.3848: 北緯37°05′46.745386″、Ｙ座標＝-23961.0044: 東経138°13′49.596589″）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦軸10m方眼を組み、大グリッドとした。



第26図　小グリッド模式図

大グリッドは一辺10mで、横軸方向は北西側から算用数字（1～5）、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベット（A～D）を昇順に付した（第25図）。両者を組み合わせて「1A」のように表記した。

小グリッドは第26図のように北隅を起点として、大グリッドを2m方眼に25等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「1A15」のように表記した。グリッド横軸は真北から48°21′25″西偏する。



第25図　中田原遺跡Ⅱ　グリッド設定図

2　基本層序

中田原遺跡は、青田川と儀明川に挟まれた洪積台地と沖積地の境界付近に立地する。現況は宅地･車庫･駐車場跡であり、約1mの盛土が堆積していた。調査前現況標高20.5m前後、遺構検出面標高18.8～19.4m前後を測る。西側から東側に向かって傾斜しており、比高差約60cmを測る。基本層序は6層に分層した（第27図）。

Ⅰ層：暗褐色粘土（10YR3/3）　粘性中、しまり中。炭化物を少量含む。旧水田耕作土。

Ⅱ層：明黄褐色粘土（10YR7/6）　粘性中、しまり中。炭化物を少量含む。

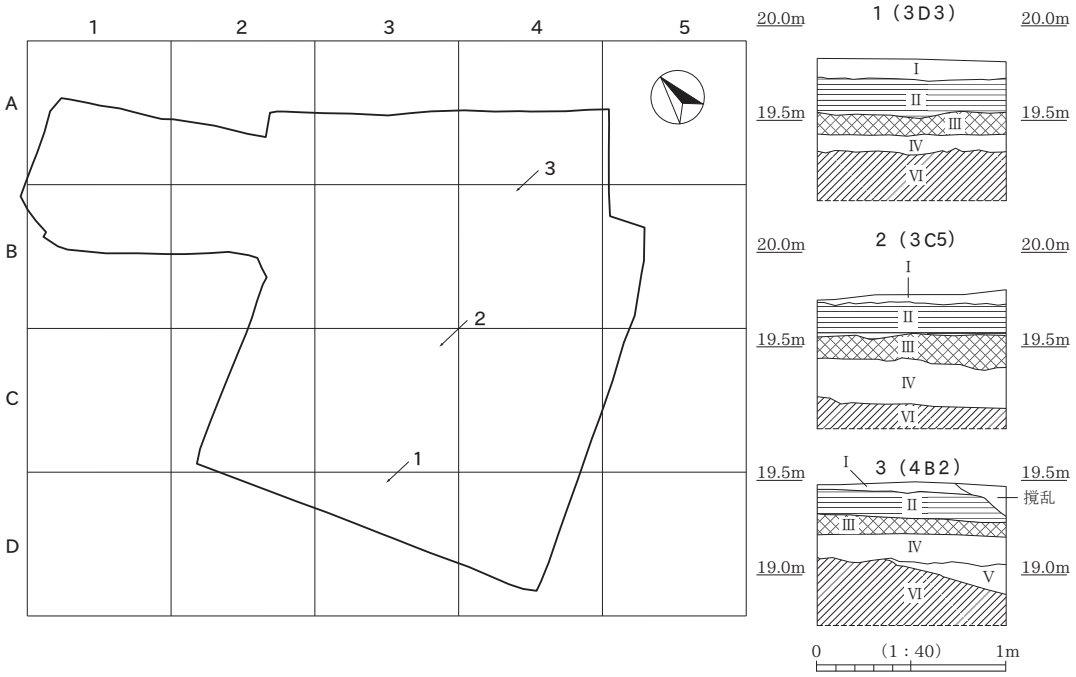
Ⅲ層：褐灰色粘土（10YR4/1）　粘性強、しまり中。炭化物を少量含む。

Ⅳ層：黒色粘土（10YR2/1）　粘性強、しまり中。炭化物を中量含む。

Ⅴ層：褐灰色粘土(10YR4/1)　粘性強、しまり中。炭化物を中量含む。植物遺体を多量に含む(遺物包含層)。

Ⅵ層：灰白色粘土（10YR7/1）　粘性強、しまり中（地山）。

Ⅰ～Ⅳ層は遺跡の全域で見られる。Ⅴ層は南側で部分的に見られる。



第 27 図　中田原遺跡Ⅱ　基本土層図

3　遺　　構

A　概　　要

中田原遺跡では基本層序Ⅵ層（地山）を遺構検出面として、縄文時代の陥穴８基、古代の井戸２基、土坑４基、性格不明遺構３基、道状遺構１条、動物の足跡等を検出した。遺構は標高の高い調査区北側から西側にかけて多くみられ、東側から南側は低湿地状をなしていることもあり、数は少ない。

B　遺 構 各 説

1）　縄文時代の遺構

a　陥　　穴

調査区北側の１～３A、１～２B グリッドで、平面形が細い長方形を呈する５基と楕円形を呈する１基、南側の４B・C グリッドで、細い長方形を呈する２基を検出した。平面が細い長方形を呈するものは底面が丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ちあがるという共通性がある。形状から縄文時代のものと考えられる。

TP14（図版 27・30・76）

1A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.37m、短辺 20cm、検出面からの深さ 81cm を測る。長軸方向はＮ－ 46°－Ｅを示す。断面はＵ字状を呈する。覆土は黒褐色粘土の単層である。遺物は出土していない。

TP18（図版 27・30・78）

1A グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.38m、短径 93cm、検出面からの深さ 1.28m を測る。長軸方向はＮ－ 11°－Ｅを示す。底面は丸みを帯び、中央に径 19cm、深さ 29cm の小ピットがある。壁面は底面からほぼ垂直に立ちあがり、断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色粘土の単層である。遺物は覆土から土師器が出土しているが、後世の混入と考えられる。

TP20（図版 27・30・77）

1A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.49m、短辺 21cm、検出面からの深さ 80cm を測る。長軸方向はＮ－ 36°－Ｅを示す。断面形はＵ字状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、２層に識別され、水平に堆積する。遺物は出土していない。

TP23（図版 27・30・77）

2A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.69m、短辺 22cm、検出面からの深さ 1.03m を測る。長軸方向はＮ－ 37°－Ｅを示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP24（図版 28・30・77）

2A・B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 2.91m、短辺 20cm、検出面からの深さ 85cm を測る。長軸方向はＮ－ 29°－Ｅを示す。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP26（図版 28・30・77）

3A グリッドに位置する。北側が調査区外へ延びるため明らかではないが、平面形は細い長方形を呈すと考えられ、長辺 1.44m 以上、短辺 18cm、検出面からの深さ 79cm を測る。長軸方向はＮ－ 23°－Ｅを示す。断面はＵ字状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP37（図版 29・30・78）

4B グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 3.01m、短辺 23cm、検出面からの深さ 63cm を測る。長軸方向はＮ－ 68°－Ｅを示す。底面は丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面形は漏斗状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

TP41（図版 29・30・78）

4C グリッドに位置する。平面形は細い長方形を呈し、長辺 2.74m、短辺 27cm、検出面からの深さ 86cm を測る。長軸方向はＮ－ 54°－Ｅを示す。底面は丸みを帯び、壁面は底面からほぼ垂直に立ち上がる。断面はＵ字状を呈する。覆土は黒褐色粘土と褐灰色シルトの２層に識別され水平に堆積する。遺物は出土していない。

２）　古代の遺構

a　井　　戸

SE13（図版 28・30・78）

２Ｃグリッドに位置する。SX40 と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は不整円形を呈し、長径 1.43m、短径 1.22m、検出面からの深さ 1.22m を測る。断面形は階段状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉～後半）の須恵器（１・２）、土師器（３・４）の他、用途不明の竹製品（22）、曲物（23）が出土している。

SE15（図版 28・30・79）

３Ｃグリッドに位置する。SX40 と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形を呈し、長径 1.67m、短径 1.31m、検出面からの深さ 92cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒色粘土・黒褐色粘土を主体とし、６層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉～後半）の須恵器（５）・土師器（６～９）のほか、曲物の底板（24）、側板（25）、用途不明の木製品（26）、有孔木製品（27）が出土している。

b　土　　坑

SK32（図版 28・30・79）

２Ｄ、３Ｃ・Ｄグリッドに位置する。平面形は隅丸方形を呈し、一辺 1.45 ～ 1.49m、検出面からの深さ 17cm を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黄橙色粘土ブロックを多量に含む黒色粘土の単層である。遺物は覆土から古代の土師器が出土している。

SK38（図版 28・30・79）

３Ｄグリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長径 1.32m、短径 1.03m、検出面からの深さ 34cm を測る。長軸方向はＮ－ 23°－ W を示す。断面形は半円状を呈する。覆土は黒色粘土を主体とし、３層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（10）・土師器が出土している。

c　性格不明遺構

SX12（図版 28・30・79）

２Ｃグリッドに位置する。SX40 と重複しているが、新旧関係は不明である。平面形は不整楕円形を呈し、長径 2.13m、短径 1.89m、検出面からの深さ 13cm を測る。長軸方向はＮ－ 29°－ W を示す。断面形は皿状を呈する。覆土は黒色シルトを主体とし、９層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器のほか、少量の炭化米が出土している。

SX31（図版 28・30・79）

２・３Ａ、３Ｂグリッドに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長径 3.13m、短径 2.41m、検出面からの深さ 25cm を測る。長軸方向はＮ－ 31°－ E を示す。底面は凹凸を持ち、断面形は不整形を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器のほか、曲物（28）が出土している。

３）　時期不明の遺構

a　土　　坑

SK42（図版 29・30・79）

４Ｂグリッドに位置する。平面形は不整楕円形を呈し、長径 1.66m、短径 1.09m、検出面からの深さ 22cm を測る。長軸方向はＮ－２°－Ｅを示す。底面は凹凸を持ち、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色粘土・灰黄褐色粘土を主体とし、５層に識別され、斜位に堆積する。遺物は出土していない。

SK44（図版 29・30・79）

３・４Ｂグリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長径 1.73m、短径 72cm、検出面からの深さ 14cm を測る。長軸方向はＮ－ 20°－Ｗを示す。底面は丸みを帯び、断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色粘土を主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

b　道 状 遺 構

SX40（図版 28・30・80）

２Ｂ・C、・３Ｂ・Ｃ・Ｄグリッドに位置する。SE13・15、SX12 と重複しているが、新旧関係は不明である。南北に延びる１条と東西に延びる１条が交差し、十字状を呈する。赤褐色粘土が厚さ約５cm 盛られているが一部削平を受けており、東西に延びる道の東側は３Ｂグリッド付近で消滅し、２条の道が交差する付近と南北に延びる道の北側で一部消失する。南側、西側は調査区外に延びる。規模は南北方向で長さ 25.8m 以上、幅 1.97m、東西方向で長さ 10.31m 以上、幅 1.97m を測る。遺物は出土していない。

c　性格不明遺構

SX39（図版 29・30・80）

４Ａ・Ｂグリッドに位置する。東側が調査区外に延びるため全容は明らかではない。長径 7.76m 以上、短径 4.42m 以上、検出面からの深さ 72cm を測る。覆土は黒褐色粘土と褐灰色粘土を主体とし、４層に識別される。遺物は覆土から板材（29 ～ 31）・割材（32 ～ 34）・櫂状木製品（35）・杭（36・39）・丸木弓の未成品（37・38）・棒状木製品（40）のほか、多量の杭、角材、板材、自然木が出土している。時期は遺構がＶ層の下から掘りこまれていることから古代以前と推定される。

d　動物の足跡（図版 80）

３・４Ｂグリッドで有蹄類の足跡を検出した。イノシシ、シカ、ウマなどの足跡と推定される。検出できた足跡は少数で単発的であったため、動物の歩行パターンを把握することはできなかった。

４　遺　　物

Ａ　概　　要

出土した遺物は土器･陶磁器２箱、石器･石製品 0.5 箱（箱サイズ 54 × 34 × 10cm）、木製品･竹製品２箱（箱サイズ 190 × 90 × 15cm）がある。土器･陶磁器を時期別に大別すると、古代及び中世のものに分けられる。古代の土器は土師器、須恵器、灰釉陶器があり、須恵器甕を除くと９世紀前半～後半に限定される。中世

の土器は珠洲焼、陶磁器は瀬戸美濃焼が出土しているが、出土量は少ない。

石器・石製品は不定形石器、石皿等が出土している。木製品は曲物、丸木弓、櫂状木製品、杭、割材、板材等があり、針状の竹製品も出土している。

以下、出土遺物の説明を行うが、古代の土器に関しては第Ⅲ章４Ｂの分類に基づき遺構内出土土器、遺構外出土土器の順に説明を行う。遺構内出土土器は遺構別に、遺構外出土土器は分類別に説明を行うものとする。石器・石製品は種類別、木製品・竹製品は遺構別に説明する。

Ｂ　土器・陶磁器

１）　遺構内出土

SE13（図版 31- １～４、図版 81）

須恵器杯蓋（１）、長頸壺（２）、土師器無台椀（３・４）が出土している。１は頂部で、摘みが付される。摘みは低めの擬宝珠形である。時期は９世紀前半（春日編年Ⅴ期）に比定される。２は頸部から体部下半の破片で、肩部外面に緑色の自然釉が掛かる。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀前半に比定される。３は法量Ⅰに属し、底部切り離しは糸切りである。４は法量Ⅱに属し、内面はミガキが施され、平滑である。口縁部の一部にススが付着している。体部外面に墨書で縦位の直線が２本記されている。時期は９世紀後半（春日編年Ⅵ期）に比定される。

SE15（図版 31- ５～８、図版 81）

須恵器有台杯（５）、土師器無台椀（６～９）が出土している。５は底部破片である。胎土は精良で調整も丹念である。底部外面には「大歳」の墨書が記されている。時期は９世紀前半に比定される。６は法量Ⅱに属し、内外面が燻されたように黒いが全面ではない。内面はミガキが施され、平滑である。体部外面の下半から底部にかけて墨書が対角線上に垂下するよう記されている。７は法量Ⅰに属し、胎土は精良で、内外面に横位のミガキが施される。体部外面に墨書で縦位の直線が２本１組で記されている。時期は９世紀後半に比定される。８は口径が 20.6cm を測る大型の椀で、外面はややロクロ目が目立ち、上半に横位のミガキが施される。内面は平滑で横位の粗いミガキが施される。体部外面に墨書で縦位の直線が２本１組で記されている。時期は９世紀後半に比定される。

SK38（図版 31-10、図版 81）

須恵器杯蓋（10）が出土している。法量Ⅲに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀前半に比定される。

P28（図版 31-11、図版 81）

珠洲焼甕（11）が出土している。口縁は肥厚して外反し、肩部はナデ肩である。外面は平行タタキである。時期は 14 世紀後葉～ 15 世紀前半（珠洲Ⅴ期）に比定される。

２）　遺構外出土

須恵器（図版 31-13・15 ～ 19、図版 81）

13 は甕の頸部から体部上半の破片である。15・16 は有台杯で、16 は細別ＢⅡに属する。胎土から滝寺窯産と推定され、時期は９世紀第１四半期に比定される。17 は無台杯で、細別ＡⅡに属する。底部外面にヘラ記号１条が刻まれている。時期は９世紀前半に比定できる。18 は双耳壺の体部破片で、肩部下に１条の凸帯が巡る。時期は９世紀に比定される。19 は瓹の体部破片で、内面はロクロ目が目立ち、外

面にカキメが見られる。時期は古墳時代後期と考えられる。

灰釉陶器（図版 31-14、図版 81）

14 は椀の底部片で、内面の施釉はハケ掛けと推定される。

珠洲焼（図版 31-12・20、図版 81）

12 は片口鉢の底部片で、幅 3 cm で 9 条の卸し目がある。20 は甕の底部片で外面に右上がりの条線状タタキ目がある。

瀬戸美濃焼（図版 31-21、図版 81）

21 は片口鉢の口縁部片である。内外面叩き締め後に鉄釉を施す。

C　石器・石製品

石器・石製品は SE13 から出土した 45 を除くと、いずれも遺構外（4 A ～ C グリッド）からの出土である。時期は縄文時代と推定されるが、陥穴との関連については不明である。

不定形石器（図版 34-42 ～ 45、図版 84）

42 は幅広な剥片を素材とし、右側縁では下半部に主要剥離面側から、上半部に背面側からの急斜度な調整加工が、左側縁下半部には主要剥離面側からの調整加工が認められる。石材はガラス質安山岩である。43 は微細剥離痕を有する剥片である。礫の表皮を表面に残す横長剥片を素材とする。剥片には鋭い縁辺が残され、全周するように微細剥離痕を残す。これは使用痕の可能性がある。石材は頁岩である。44 は調整打面を有する縦長剥片で、背面には主要剥離面と同方向の剥離面が残されており、同規格の剥片を連続的に生産していたことが窺える。石材はガラス質安山岩である。45 は背面には主要剥離面と同方向の剥離面が残されており、同規格の剥片を連続的に生産していたことが窺える。石材はガラス質安山岩である。

石皿（図版 34-49、図版 84）

49 は上半部を欠損する。表裏面両方に磨面が形成され、わずかに凹状に窪んでいる。表面上半には線状痕も残されている。石材は砂岩である。

器種不明の石器（図版 34-41、図版 84）

41 は欠損しており全体形状は不明である。平面形状は石鏃に似ているが、尖頭部を形成していない。残存する形態から、石匙のつまみ部か異形石器の可能性が考えられる。本石器は摩耗あるいは風化が著しく剥離面が明瞭ではない。石材はガラス質安山岩である。

石核（図版 34-46 ～ 48、図版 84）

46 は打面形成が作業面側から行われ、その打面から 2 回以上の剥片剥離を行っている。石材はチャートである。47 は打面転移を頻繁に行い、幅広な剥片を連続的に生産している。石材はガラス質安山岩である。48 は下半部を欠損する。上部に見られる平坦面を打面とし、3 回以上の縦長剥片を剥離している。石材はガラス質安山岩である。

D　木製品・竹製品

SE13（図版 31-22・23、図版 81）

22 は用途不明の針状竹製品である。現長 12.6cm、幅 0.6cm を測る。上部が太く、下部は細くなる。下部先端は欠損しているが尖ると思われる。23 は曲物の蓋または底と考えられる。側板の接合部には樹

皮の綴じ紐が２か所認められる。底板はしゃくり底になり側板の当たる部分に水平に段差が設けられ、裏面には刃物痕が４か所認められる。側板と底板の接合部に樹皮の綴じ紐が４か所認められ、そのうち１か所は側板の接合を兼ねている。

SE15（図版 32-24 ～ 27、図版 82）

24 は曲物の底板である。木取りは柾目板材になる。25 は曲物の側板である。木取りは柾目板材になる。摩耗が著しくケビキ痕等は確認できない。26 は用途不明の串状木製品である。下部が尖るように加工されている。27 は用途不明の串状木製品である。上部２か所に穿孔し、上端は圭頭状に加工される。

SX31（図版 32-28、図版 82）

28 は曲物の側板である。木取りは板目板材になる。裏面の両端にケビキ痕が認められる。

SX39（図版 32-29 ～ 35、図版 33-36 ～ 40、図版 82・83）

29・31 は溝に沿って割って得られた板材と推定できる。30 はミカン割りの板材である。樹種は 30・31 がトネリコである。32 ～ 34 は芯去りミカン割り材である。楔を打ち込んで付けたような溝がある。溝に沿って割り、板材を取っている可能性がある。35 は櫂状木製品で、柄の上部が欠損している未成品と考えられる。樹種はコナラ属コナラ亜属コナラ節である。36 は芯持ち丸木材の杭で先端部は尖るように両面加工されている。樹種はトネリコである。37・38 は粗製の丸木弓の未成品である。筈が削り出されていないが、弦の力が均等にかかるように枝材の先と枝元の太さを均一に調整加工しようとする意図が見えるので弓の未成品と考えられる。弓幹から枝元まで２～３cm 幅の平坦が作り出されている。樹種はカヤである。39 は両端部を丸く収めた丸木材の杭で、全面的に樹皮が残る。上部から 30cm の位置に長径２cm、短径 1.5cm、深さは 2.7cm の孔が開いているが貫通はしていない。40 は用途不明の棒状木製品である。全面に 0.2 ～ 0.7cm 幅の削出し加工が施され、真っすぐに加工しようという意図が見られる。両端は面取りが施される。樹種はスギである。

5　自然科学分析

中田原遺跡から出土した木製品を対象に樹種同定を実施し、木製品の樹種や木材利用を検討する。試料は SX39 から出土した木製品６点（30・31・35・37・38・40）である。試料の詳細は結果とともに第 19 表に示す。

A　分 析 方 法

各木製品の木取りを観察した後、剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本及び独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。木材組織の名称や特徴は、［島地・伊東 1982］、［Wheeler ほか 1998］、［Richter ほか 2006］を、日本産木材の組織配列は、［林 1991］や［伊東 1995・1996・1997・1998・1999］を参考にする。

B　結　　果

結果を第 19 表に示す。木製品は、針葉樹２分類群（スギ・カヤ）と広葉樹２分類群（コナラ属コナラ亜属コナラ節・トネリコ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・スギ（Cryptomeria japonica (L. f.) D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２～４個。放射組織は単列、１～ 10 細胞高。

・カヤ（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.）　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には２本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に１～４個。放射組織は単列、１～ 10 細胞高。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Quercus sect. Prinus）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～ 20 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・トネリコ属（Fraxinus）　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または２個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、１～３細胞幅、１～ 30 細胞高。

C　考　　察

丸木弓、櫂状木製品、杭、板材、棒状木製品等の木製品６点からは、針葉樹のスギとカヤ、広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節とトネリコ属の計４分類群が認められた。

弓２点（37･38）は、いずれも丸木弓（素木弓）で長さは約２m を測る。木取りはいずれも芯持丸木であり、針葉樹のカヤに同定される。カヤは、本来、暖温帯に分布する高木であり、新潟県には分布していないが、多雪地域に適応した変種であるチャボガヤが分布する。このことから、これらの丸木弓は、いずれもチャボガヤを利用している可能性がある。カヤ・チャボガヤは共に強靱で耐水性の高い材質を有していることから、丸木弓として折れにくく靱性のある木材を選択利用していたことが推定される。

上越市域では、下割遺跡の古墳時代前～中期の弓あるいは柄と考えられる木製品にイヌガヤ［パリノ・サーヴェイ株式会社 2004］、一之口遺跡から出土した平安時代とされる丸木弓に針葉樹のスギが認められている［パリノ・サーヴェイ株式会社 1994］。新潟県内のこのほかの地域では、青田遺跡（新発田市）の縄文時代後・晩期の丸木弓と弥生時代前期の丸木弓にイヌガヤ、縄文時代後・晩期の飾り弓にニシキギ属［鈴木ほか 2004］、桃川遺跡群（村上市）の古代とされる丸木弓にイヌガヤ［パリノ・サーヴェイ株式会社 2003］、平田遺跡（佐渡市）の弥生時代中期とされる丸木弓にイヌガヤ［松葉 2000］、千種遺跡（佐渡市）の弥生時代後期～古墳時代前期とされる丸木弓にハイイヌガヤ［亘理・山内 1953］等が検出されており、イヌガヤの利用が目立つ。カヤについては、野中土手付遺跡（新発田市）の弓の可能性があるとされた資

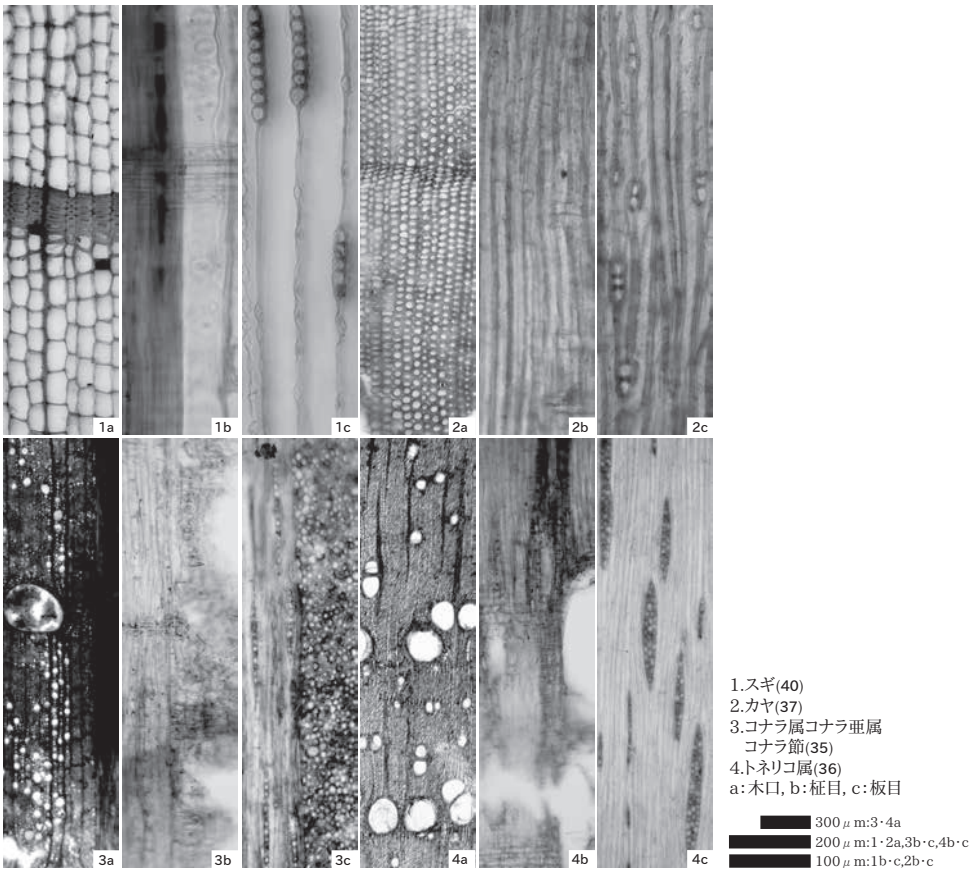
料に２例検出されているのみである［パリノ・サーヴェイ株式会社 2006a］。

櫂状木製品（35）は、身と柄を一木で作っており、身の部分が柾目板状、柄の部分が削出丸木となる木取である。樹種は、広葉樹のコナラ節であったことから、重硬で強度の高い木材が利用されたと推定される。新潟県内における櫂の樹種を明らかにした事例は、青田遺跡の縄文時代後・晩期の６例（スギ２、クリ４）と、千種遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の１例（スギ）の計７例ある［亘理・山内 1953；　鈴木ほか 2004］。古墳時代の調査事例はないため、木材利用の傾向は明らかとならないが、今回の分析結果からコナラ節が利用されていたことが窺われる。

板材２点（30・31）は、いずれも柾目板であったが、板材（30）は断面が三角形となるミカン割りの柾目板であった。樹種はいずれも広葉樹のトネリコ属に同定された。トネリコ属の木材は、重硬で強度の高い材質を有しており、上越市域では三角田遺跡の古代とされる柱根や下割遺跡の古墳時代前～中期とされる杭等に検出されている［パリノ・サーヴェイ株式会社 2004・2006］。板材の検出事例は知られていないが、トネリコ属の材質を考慮すると強度を要する用途が推定される。

遺構名	掲載番号	器　種	木取り	樹　種
SX39	30	板材	柾目（ミカン割）	トネリコ属
	31	板材	柾目	トネリコ属
	35	櫂状木製品	身：柾目、柄：削出丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	36	杭	芯持丸木	トネリコ属
	37	丸木弓	芯持丸木	カヤ
	38	丸木弓	芯持丸木	カヤ
	40	棒状木製品	削出丸木	スギ

第 19 表　樹種同定結果



第 28 図　樹種同定結果

棒状木製品（40）は、丸木状を呈するが、断面に認められた年輪はほぼ平行に入る状況が観察された。したがって、比較的径の大きな木材が利用されたと考えられる。また、樹種は針葉樹のスギであったことから、割裂性が高く加工が容易な材質を利用したと考えられる。上越市域では細田遺跡の時代・時期不明の棒状木製品にスギの削出丸木が認められている［株式会社古環境研究所 2005］。

本地域の古植生の検討結果によれば、周辺の山地･丘陵にはブナ属を主体とする落葉広葉樹林が存在し、低地部ではハンノキ属、サワグルミ属、クルミ属、クマシデ属－アサダ属、コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属、ヤナギ属等が河畔林・湿地林を形成し、スギが扇状地斜面や扇端部等に部分的に生育していた可能性が指摘されている［パリノ・サーヴェイ株式会社 2008a・2008b］。また、本遺跡北西の岩ノ原遺跡ではオニグルミ、ヤマグワ、フジキ属、トチノキ、トネリコ属の立木も検出されている［パリノ・サーヴェイ株式会社 2008a］。今回検出された樹種は、周辺の古植生調査で生育が推定されている種類や、現植生との比較から生育していたと考えられる種類であることから、いずれも本遺跡周辺から入手可能であったと考えられる。

6 ま と め

本遺跡の所在する中田原集落には洪積台地の一つである灰塚面が分布している。洪積台地は西頸城丘陵の山麓部に形成され、灰塚集落にかけての極く限られた範囲に分布している。標高は 25 ～ 30 mで、東に向って傾き、先端部は沖積面（高田面）に移行している。中田原集落は平成 18 年に発掘調査を行った岩ノ原遺跡の南東 200 mの位置にあり、比高差約 3 m下位の標高 20 m前後を測る。岩ノ原遺跡は儀明川の右岸に営まれた 8 世紀から 9 世紀中葉の荘園関連遺跡である。 8 世紀中葉に上越地方で成立した「東大寺領石井荘」の荘園遺跡で、荘所と指定される建物も検出されている［髙橋ほか 2008］。出土した墨書土器から荘園の所在地がより明確になった。

本遺跡では古代及び縄文期と思われる遺構が発見されている。古代の遺構は建物が発見されていないが、井戸・土坑があり、生活域の外郭部に当たるものと考えられる。注目される遺物として「大歳」と記された墨書土器が井戸から出土している。「大歳」とは木星の異名で、大歳神は陰陽家で祭る八将神の一つであるという。また平成 20 年度に発掘調査を行った岩ノ原遺跡Ⅱでも「大歳」という墨書土器が SK483 から出土している。これらの出土状況からその意味を充分知り尽くした人が当地に居住していた可能性が極めて強いと考えるべきであろう。遺構全体についてもこれら三遺跡を連続したものとして考えるべきであろう。荘所、そしてそこに働く人々の生活領域（空間）と把握すれば当該地はその外郭と位置付けることが可能であろう。

縄文期と思われる陥穴については 2 つの形態があり、総計 8 基検出されている。上越地方の関川流域で、高田平野西側の西頸城丘陵の緩斜面上には現在 10 か所の陥穴を検出した遺跡が知られている。一番古いのは大堀遺跡（妙高市関川）で、縄文草創期後半から早期前葉のものと考えられている。本遺跡の陥穴からの出土遺物はなく、詳細な時期は不明である。本遺跡に近接した下馬場遺跡（上越市下馬場）、黒田遺跡（上越市黒田）、蛇谷遺跡（上越市向橋）、大塚遺跡（上越市灰塚）でも陥穴が検出され、平面形は楕円形・長狭形をしたものが多く、本遺跡の陥穴と基本的に同じである。これらは丘陵上や山地にあって、標高が高い地域に位置している。しかし、分布から言えば本遺跡の陥穴は標高が一番低く、沖積面に面していることが特筆されよう。

遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
SE13	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～体部破片				還元炎・灰色	白・赤		外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	
SE13	覆土・覆土2	須恵器	長頸壺	頸部～体部破片				還元炎・外面にぶい赤褐色、内面灰色	白・黒		ロクロナデ	9世紀第2四半期	肩部自然釉。東丘陵産
SE13	覆土	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部破片	13.5	6.8	3.9	酸化炎・浅黄橙色	赤	糸切り	ロクロナデ		
SE13	覆土	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部3/4	12.4	5.6	3.8	酸化炎・にぶい黄橙色	砂	糸切り・右	ロクロナデ・内面ミガキ	9世紀後半	墨書：体部外面「‖」
SE15	覆土1	須恵器	有台杯	体部～底部1/3		8.5		還元炎・灰色	長		ロクロナデ	9世紀第2四半期	墨書：底部外面「大歳」。西丘陵産
SE15	覆土1	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部1/3	12.6	5.9	3.6	酸化炎・黒色	砂	糸切り・右	ロクロナデ・内外面ミガキ		墨書：体部底部外面「□」
SE15	覆土2	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部2/3	15.0	5.7	4.9	酸化炎・にぶい黄橙色	砂		ロクロナデ・内面ミガキ	9世紀後半	墨書：体部外面「‖」
SE15	覆土2	土師器	無台椀	口縁部～底部3/4	20.6	8.1	6.9	酸化炎・にぶい黄橙色	砂	糸切り・右	ロクロナデ・ミガキ	9世紀後半	墨書：体部外面「‖」
SE15	覆土2	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部破片	12.9	5.4	4.2	酸化炎・黄橙色	赤	糸切り・右	ロクロナデ		風化激しい
SK38	覆土1	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部破片	12.2		3.1	還元炎・灰色	白・礫		外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	東丘陵産
P28	覆土1	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片				還元炎・灰色	白		外面平行タタキ	14世紀後葉～15世紀前半	珠洲Ⅴ期
4B11	Ⅳ層	珠洲焼	片口鉢	底部破片				還元炎・橙褐色	白・黒				珠洲Ⅲ期？
1A23	Ⅳ層	須恵器	甕	頸部～体部破片				還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ・格子タタキ		
4B11	Ⅳ層	灰釉陶器	椀	底部破片		7.2		還元炎・灰色	白・黒				
一括	Ⅴ層	須恵器	有台杯	体部～底部破片		9.7		還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	
4A23／4B9／4C7・12	Ⅴ層	須恵器	有台杯BⅡ	口縁部～底部1/4	14.2	9.6	6.5	還元炎・灰色	白・赤	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第1四半期	滝寺・大貫産
4B19	Ⅴ層	須恵器	無台杯AⅡ	口縁部～体部破片	12.2	8.7	2.8	還元炎・灰色	石・白	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	ヘラ記号：底部外面
4C21	Ⅴ層	須恵器	双耳壺	体部破片				還元炎・灰色	白		ロクロナデ	9世紀	産地富山以西？
一括	Ⅴ層	須恵器	瓶	体部破片				還元炎・灰色	石・黒		外面上半ロクロナデ、下半回転カキメ	古墳時代後期	
1A23	Ⅴ層	珠洲焼	大甕	底部破片				還元炎・灰色	石・白・黒		外面タタキ		砂底
一括	Ⅴ層	瀬戸焼	片口鉢	口縁部破片				酸化炎・淡白茶褐色	白・黒		タタキシメ		

第 20 表　中田原遺跡Ⅱ　土器観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	遺存状態	備考
41	4C21	Ⅴ層	不明	3.2	2.9	0.8	5.77	ガラス質安山岩	一部欠損	
42	4C22	Ⅴ層	石核	3.2	6.5	2.4	39.64	ガラス質安山岩	下半部欠損	
43	4B13	Ⅴ層	石核	4.3	4.5	3.2	64.25	ガラス質安山岩	上半部欠損	
44	4C22	Ⅴ層	石核	3.3	4.3	3	44.74	チャート		
45	SE13	覆土	剥片	7.7	3.6	2.6	64.43	ガラス質安山岩		
46	4A24	Ⅴ層	剥片	10.2	2.5	2.1	44.4	ガラス質安山岩	上半部欠損	
47	4C12	Ⅴ層	剥片	5.5	10.2	1.6	77.04	頁岩	一部欠損	
48	4B7	Ⅳ層	剥片	4.4	2.3	0.5	6.41	ガラス質安山岩		
49	4C21	Ⅴ層	石皿	17.5	14.1	5.3	2400	砂岩	上半部欠損	

第 21 表　中田原遺跡Ⅱ　石器・石製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	品名	樹種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	木取り	備考
22	SE13	覆土	針状竹製品	竹	12.6	0.6	0.4		
23	SE13	覆土	曲物（蓋？、折敷？）		17.5	17.1	0.9	柾目	しゃくり底
24	SE15	覆土	曲物（底板）		15.8	13.5	0.7	柾目	
25	SE15	覆土	曲物（側板）		59.9	21.6	1.2	柾目	
26	SE15	覆土	串状木製品		38.6	2	1	板目	
27	SE15	覆土	串状木製品		38	3.2	1.2	板目	穿孔２か所
28	SX31	覆土	曲物（側板）		33.2	3.8	0.7	板目	
29	SX39	覆土	板材		41.9	15.7	1.6	柾目	
30	SX39	覆土	板材	トネリコ	37.6	8.3	2.9	柾目（ミカン割り）	
31	SX39	覆土	板材	トネリコ	34.3	13	2.7	柾目	
32	SX39	覆土	割材		122.8	13.6	4.1	柾目（ミカン割り）	
33	SX39	覆土	割材		80.5	14	8.8	柾目（ミカン割り）	
34	SX39	覆土	割材		73.2	14.8	9	柾目（ミカン割り）	
35	SX39	覆土	櫂状木製品	コナラ	（52.3）	12.6	4.8	身：柾目、 柄：削出丸木	未成品
36	SX39	覆土	杭	トネリコ	58.7	6	6.3	芯持丸木	
37	SX39	覆土	丸木弓	カヤ	174.6	3.5		芯持丸木	未成品
38	SX39	覆土	丸木弓	カヤ	186.9	4.1		芯持丸木	未成品
39	SX39	覆土	杭		207.3	11.3	8.2	芯持丸木	
40	SX39	覆土	棒状木製品	スギ	67.9	1.5	1.5	削出丸木	

第 22 表　中田原遺跡Ⅱ　木製品観察表

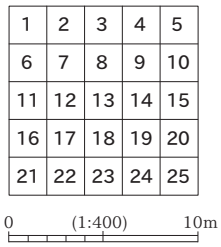
第Ⅷ章　岩ノ原遺跡Ⅱ

1　グリッドの設定

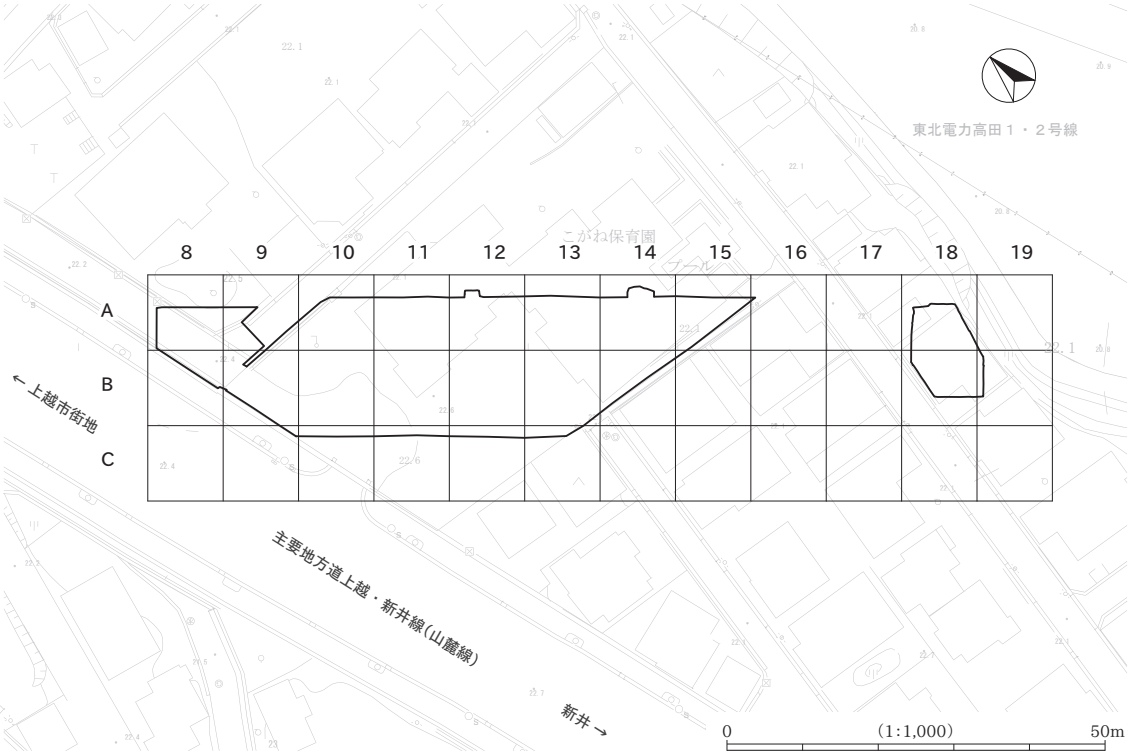
グリッドは、『岩ノ原遺跡』［髙橋ほか 2008］のグリッドを延長して設定した。新幹線本線部分の中心座標 179k300m（世界測地系のＸ座標＝ 121745.8335: 北緯 37° 05′ 48.894182″、Ｙ座標＝ -24035.7343: 東経 138° 13′ 46.562452″）と同 179k200m（世界測地系のＸ座標＝ 121679.3848: 北緯 37° 05′ 46.745386″、Ｙ座標＝ -23961.0044: 東経 138° 13′ 49.596589″）を結んだ線を横軸として設定した。これを基線とし、遺跡の調査範囲を覆う形で縦軸 10m 方眼を組み、大グリッドとした。

大グリッドは一辺 10m で、横軸方向は北西側から算用数字、縦軸方向は北東側から大文字のアルファベットを昇順に付した。岩ノ原遺跡Ⅱは横軸が大グリッド８～ 19、縦軸がＡ～Ｃである（第 29 図）。両者を組み合わせて「８Ａ」のように表記した。

小グリッドは第 30 図のように北隅を起点として、大グリッドを２m 方眼に 25 等分して算用数字を付し、大グリッドに続けて「８A15」のように表記した。グリッド横軸は真北から 48° 21′ 25″西偏する。



第30図　小グリッド模式図



第 29 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　グリッド設定図

2　基本層序

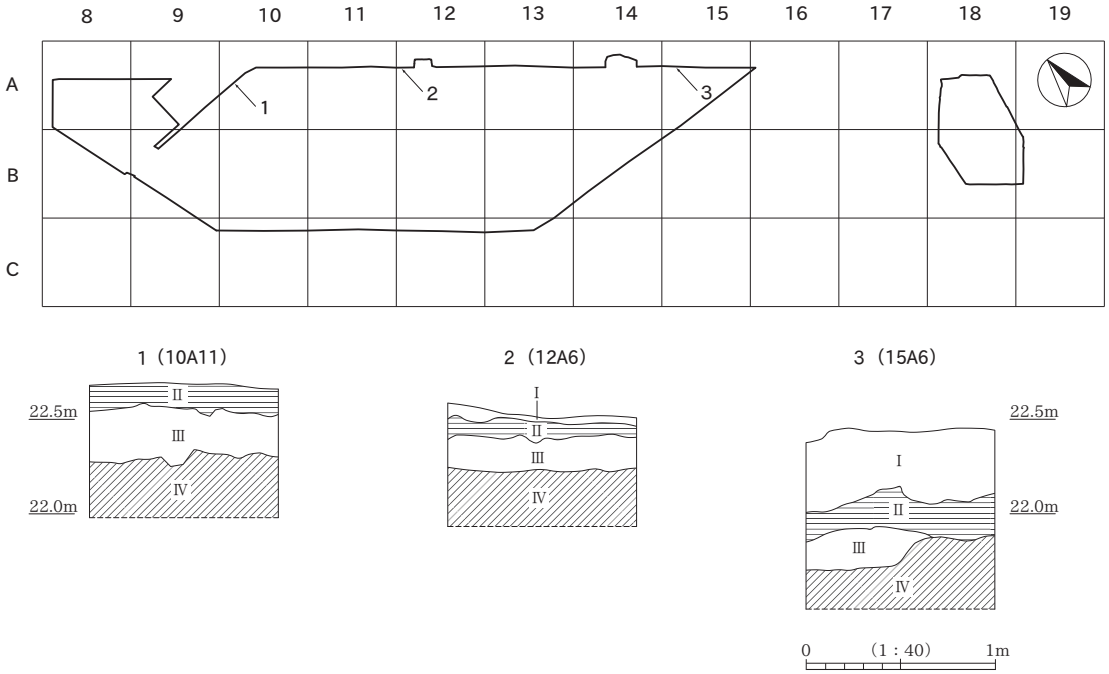
岩ノ原遺跡は高田平野西縁の丘陵裾部、青田川と儀明川に挟まれた洪積地（灰塚面）に立地する。調査前現況標高 22.5m 前後、遺構検出面標高 21 ～ 22.5 m前後を測る。調査区北西側から南東側にかけて比高差 1.5m 程の傾斜がある。基本層序は４層に分層した（第 31 図）。

Ⅰ層：砕石を含む盛土。

Ⅱ層：黒褐色シルト（10YR3/1）　粘性弱、しまり中。φ３～ 10mm の炭化物中量、12・13A グリッド付近にφ３～５mm の焼土少量含む。奈良・平安時代の遺物包含層。

Ⅲ層：黒褐色シルト（10YR3/1）　と明黄褐色シルト（10YR7/6）　の混合土。粘性弱、しまり中。Ⅱ層とⅣ層との漸移層。

Ⅳ層：明黄褐色シルト（10YR7/6）　粘性弱、しまり中（地山）。



第 31 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　基本土層図

3　遺　　構

A　概　　要

岩ノ原遺跡では基本層序Ⅲ及びⅣ層（地山）を遺構検出面として、竪穴住居３棟・掘立柱建物 36 棟（柱穴 238 基）、掘立柱建物の目隠し塀と推定される杭列５基、井戸 19 基、土坑 15 基、溝４条、その他ピットを多数検出した。構築時期は出土遺物等から古代及び中世に比定される。

古代の遺構は竪穴住居・掘立柱建物・井戸・土坑等がある。竪穴住居は調査区中央部（12A・13B グリッド）で検出され、これらの遺構群の中で最も古い段階（８世紀後半～９世紀初頭）に位置付けられる。SI1312 からは「庄」と墨書された須恵器が出土しており、東大寺領石井荘との関係が想定できる遺物の中では最

も古いものである。また調査区中央に位置する掘立柱建物の中には、出土土器の年代などから９世紀中葉～後葉に位置付けられるものが見られる。これは石井荘の荘所と推定される岩ノ原遺跡南東部の掘立柱建物［髙橋ほか2008］の所属時期とほぼ同じである。

中世の遺構は掘立柱建物・井戸・土坑がある。掘立柱建物は調査区南東側（18A・Bグリッド）に限定されるのに対し、井戸は調査区全域で検出される。出土遺物の年代から13世紀～15世紀前半にかけて存続し、14世紀に集落の規模が大きくなるものと推定される。

B　遺構各説

１）　古代の遺構

a　竪穴住居

竪穴住居は３棟検出し、いずれも古代に位置付けられる。調査区中央部の東端に１棟及び西側に２棟が重複して位置する。規模は３棟ともほぼ均一である。

SI1312（図版41・42・86・87）

12Aグリッドに位置する。南東側でSE1221・1139と重複し、これらに切られる。北東側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。長軸は3.73m以上、短軸3.30～4.42 m、検出面から床面までの深さ12～15cm、面積は11.51㎡以上を測る。長軸方向はN－122°－Eを示す。覆土は暗褐色シルト・黒褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。

南東壁から北西側約1m先から数cm程度の段が見られる。この部分に黒褐色シルトブロックと明黄褐色シルトブロックの混合土が堆積していた。覆土に比べしまりがあることから貼床と認識した。貼床内から出土した遺物はない。壁面の立ち上がりは比較的緩傾斜に立ち上がる。

柱穴は住居中央部に２基検出した。いずれも掘形を持ち、規模は長径21～32cm、短径19～25cm、床面からの深さ７～11cmを測る。カマドは南東辺の北寄りに存在する。遺構の重複が著しく、袖や煙道は検出できなかった。

遺物は覆土から古代（８世紀後半）の須恵器（５～26）・土師器（27～32）が出土している。

SI1311（図版44・45・86）

13Bグリッドに位置する。西側でSI1344と重複し、これを切っている。南西側でSK1345と重複し、これに切られる。また上面は撹乱によって破壊されていた。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸4.45m、短軸3.08 m、検出面から床面までの深さ12cm、面積は13.25㎡を測る。長軸方向はN－３°－Wを示す。覆土は暗褐色シルトの単層である。

中央部西寄りに方形の掘り込みを検出した。床面から高いところで10cmほどの低い段となる。この部分に明黄褐色シルトと褐灰色シルトの混合土が堆積していた。覆土に比べしまりがあることから貼床と認識した。北側の壁面の立ち上がりは急傾斜であるが、南側及び東側は緩傾斜に立ち上がる。

柱穴は北西隅と南西隅に２基検出した。いずれも掘形を持ち、規模は長径45～51cm、短径34～38cm、床面からの深さ16～25cmを測る。柱痕はP1に認められ、径約15cmの柱が据えられていたと推定される。カマド・周溝は検出できなかった。

遺物は覆土から古代（８世紀末～９世紀初頭）の須恵器（１～４）・土師器が出土している。

SI1344（図版 44・45・87）

13B グリッドに位置する。東側で SI1311、中央部で SK1345・1554、西側で SB1525-P1 とそれぞれ重複し、これらに切られる。平面形は隅丸長方形を呈していたものと推定される。長軸 4.22m、短軸 3.41 m、検出面から床面までの深さ 23cm、面積は 7.58㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 48°－ W を示す。覆土は撹乱により遺存していない。床面は黒褐色シルトと明黄褐色シルトの混合土で、貼床と考えられる。

南西壁際から東壁隅付近で幅 15 ～ 20cm、深さ 6 ～ 8 cm の周溝を検出した。北東側の壁面の立ち上がりは急傾斜だが、南及び南東側は緩傾斜に立ち上がる。柱穴は南西隅に１基検出した。柱穴は掘形を持ち、規模は長径 49cm、短径 44cm、床面からの深さ 21cm を測る。柱痕が認められ、径約 25cm の柱が据えられていたものと推定される。カマドは検出できなかった。

遺物は覆土から古代（８世紀末～９世紀初頭）の須恵器（33 ～ 35）・土師器（36・37）が出土している。

ｂ　掘立柱建物

古代の掘立柱建物を 17 棟検出した。調査区東側の 12 ～ 15 グリッド列に集中して存在する。11 列グリッドは遺構数が比較的希薄で、これより西側は SB1504 の１棟が存在するだけである。検出した遺構はすべて側柱建物で、面積は 5.59㎡から 55.83㎡まで幅がある。面積が 35㎡を超える３棟（SB1519・1520・1522）には、目隠し塀が伴う。桁行と梁行の間数は、３×２間が５棟と最も多く存在する。次いで３×１間が３棟存在し、桁行３間の建物がほぼ半数を占める。

SB1504（図版 36・37・90）

９・10B グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（5.52 ～ 5.75m）、梁行２間（3.19 ～ 3.20m）で、西側桁行中央の柱穴が若干外側に張り出す不整長方形を呈する。面積は 17.88㎡を測る。長軸方向はＮ－３°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P4・P6・P8 に認められ、径約 10 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P7 から古代の土師器が出土している。

SB1518（図版 39・40・92）

11・12A グリッドに位置する側柱建物である。西側は撹乱を受け柱穴が検出できないものの、桁行４間（7.16m）、梁行３間（4.65m）の長方形を呈するものと推定される。面積は 32.55㎡を測る。長軸方向はＮ－ 60°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P5・P9・P10 に認められ、径約 20 ～ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P3・P8 から古代の土師器が出土している。

SB1505（図版 41・42・90・91）

12B グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（5.15 ～ 5.28m）、梁行２間（3.60 ～ 4.04m）の不整長方形を呈する。面積は 19.97㎡を測る。長軸方向はＮ－ 0°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P4・P8 ～ P10 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1・P4・P8 から古代の土師器・須恵器が出土している。

SB1511（図版 41・42・91）

12A･B、13B グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（4.83 ～ 5.15m）、梁行２間（4.44 ～ 4.53m）の不整方形を呈する。面積 22.27㎡を測る。長軸方向はＮ－２°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規

模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP3を除く全ての柱穴に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2・P4・P5・P8から古代の須恵器・土師器が出土している。

SB1512（図版41・42・91）

12A･B、13A･Bグリッドに位置する側柱建物である。P2がSB1515-P1と重複し、これを切っている。桁行2間（4.34～4.40m）、梁行2間（3.57～3.81m）の長方形を呈する。面積は15.99㎡を測る。長軸方向はN－21°－Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P2・P5に認められ、径約20～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1から古代の土師器・灰釉陶器（38）が、P2・P6から土師器が出土している。

SB1514（図版41・43・91・92）

12A・B、13A・Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間（2.73～2.87m）、梁行2間（2.55～2.66m）の方形を呈する。面積は7.13㎡を測る。長軸方向はN－3°－Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP3～P5から古代の須恵器・土師器が出土している。

SB1515（図版41・43・91・92）

13A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P1がSB1512-P2と重複し、これに切られている。桁行2間（4.46～4.70m）、梁行1間（3.14～3.40m）で、東側桁行中央の柱穴が若干外側に張り出すため不整方形を呈する。面積は15.12㎡を測る。長軸方向はN－25°－Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、径約15～20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1・P3から古代の須恵器・土師器が出土している。

SB1516（図版41・43・92）

12A･B、13A･Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間(4.12～4.16m)、梁行1間(3.60～3.74m)の方形を呈する。面積は15.12㎡を測る。長軸方向はN－79°－Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P4に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1・P4から古代の土師器が出土している。

SB1517（図版41・43・92）

13Bグリッドに位置する側柱建物である。桁行1間（2.70～2.83m）、梁行1間（1.98～2.09m）の長方形を呈する。面積は5.59㎡を測る。長軸方向はN－36°－Eを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物はP4から古代の土師器が出土している。

SB1519（図版44・45・46・93・103）

SB1519は13A・B、14A・Bグリッドに位置する側柱建物である。P1はSB1523-P3、P2はSB1523-P4、P3はSB1523-P5、P4はSB1523-P6、P5はSB1523-P7、P7はSA1524-P5、P12はSK1500とそれぞれ重複し、これらを切っている。またP3はSE488・SK483、P4はSK483、P10はSB1520-P8とそれぞれ重複し、これらに切られる。さらにSB1525とは直接の切り合い関係がないもののP9がP522を切っており、SB1525-P5はP522に切られているため、本遺構はSB1525より新しい建物である。桁行4間（8.44～8.73m）、梁行2間（6.30～6.31m）の長方形を呈する。面積は55.83㎡を測る。長軸方向はN－64°－Wを示し、東西棟となる。

柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径73～121cm、短径39～106cm、検出

面からの深さ 34 ～ 67cm を測る。規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。全ての柱穴に柱痕を検出し、柱痕の規模は長径 21 ～ 46cm、短径 13 ～ 34cm を測る。遺物は P1・P2・P4 ～ P11 から古代の須恵器（39 ～ 42）・土師器（43 ～ 46）が出土している。また P8・P11 から珠洲焼が出土しているが、その出土状況や遺構の切り合い関係から後世の混入である可能性が高い。

SA1524 は 13・14B グリッドに位置する杭列である。P3 は SB1520-P7、P5 は SB1519-P7・SB1520-P6 とそれぞれ重複し、これらに切られる。東西方向に４間（５本）検出した。長さ 6.62m、柱間寸法は 1.24 ～ 1.89m を測る。長軸方向は N － 64° － W を示す。柱穴の規模は SB1519・1520 のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P3 に認められ、径約 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P4 から古代（８世紀末～９世紀初頭）の須恵器が出土している。SB1519･1520 の南側に近接し、長軸方向が近似することから、両遺構いずれかの目隠し塀と推定される。

SB1520（図版 44・46・93・96）

SB1520 は 13A・B、14A・B グリッドに位置する側柱建物である。P4 は SB1523-P8、P6 は SA1524-P5、P7 は SA1524-P3、P8 は SB1519-P10 とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行３間（7.77 ～ 7.78m）、梁行１間（5.26 ～ 5.62m）の長方形を呈する。面積は 41.59㎡を測る。長軸方向は N － 64° － W を示し、東西棟となる。

柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径 79 ～ 101cm、短径 45 ～ 79cm、検出面からの深さ 26 ～ 57cm を測る。規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。全ての柱穴に柱痕が認められ、柱痕の規模は長径 14 ～ 42cm、短径 12 ～ 37cm を測る。遺物は全ての柱穴から古代の須恵器・土師器が出土している。

SA1530 は 13A グリッドに位置する杭列である。P2 は SE488、P3 は SK483 とそれぞれ重複し、これらに切られる。東西方向に２間（３本）検出した。長さ 3.68m、柱間寸法 1.78m を測る。長軸方向は N － 64° － W を示す。柱穴の規模は SB1520 のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P3 に認められ、径約 10 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P3 から古代の土師器が出土している。SB1520 の北側約１m 先に位置し、長軸方向が近似することから同遺構の目隠し塀と推定される。

SB1523（図版 44・46・94）

13・14A グリッドに位置する側柱建物である。P3 は SB1519-P1、P4 は SB1519-P2、P5 は SB1519-P3・SE488・SK483、P6 は SB1519-P4、P7 は SB1519-P5、P8 は SB1520-P4 とそれぞれ重複し、これらに切られる。東側が調査区外に延びるため明確ではないが、桁行５間（10.25m）、梁行２間（3.6m）で、平面形は六角形を呈するものと考えられる。面積は 25.12㎡以上を測る。長軸方向は N － 62° － W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P3・P6 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P6 から古代の須恵器が出土している。

SB1525（図版 44・46・94）

13・14B グリッドに位置する側柱建物である。P1 が SI1344 と重複し、これを切っている。SB1519 とは直接の切り合い関係にないものの、P5 は P522 に切られており、SB1519-P9 が P522 を切っていることから、本遺構は SB1519 よりも古い建物である。桁行３間（6.2 ～ 6.47m）、梁行２間（4.08 ～ 4.15m）の長方形で、面積は 26.00㎡を測る。長軸方向は N － 68° － W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はば

らつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP1・P3・P5～P7に認められ、径約20～30cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1から古代の土師器が出土している。

SB1522（図版48・49・94・96）

SB1522は14･15Aグリッドに位置する側柱建物である。P5はSB1527-P4と重複し、これに切られる。北東側は調査区外へ延びるため明らかではないが、柱並びから桁行3間（6.86m）、梁行2間（5.92m）の長方形と推定される。面積は35.86㎡を測る。長軸方向はN－65°－Wを示し、東西棟と推定される。

柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径78～116cm、短径47～90cm、検出面からの深さ26～55cmを測る。規模にばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。P7を除く全ての柱穴に柱痕が認められ、柱痕の規模は長径21～41cm、短径14～35cmを測る。遺物はP1～P5から古代（9世紀中葉）の須恵器・土師器が出土している。

SA1531は14A・B、15Aグリッドに位置する杭列である。東西方向に5間（6本）検出した。長さ7.11m、柱間寸法0.89～1.76mを測る。長軸方向はN－69°－Wを示す。柱穴の規模はSB1522のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2・P3に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP1～P3から古代（9世紀中葉）の須恵器･土師器が出土している。SB1522の南西側約1.5～2.0m先に位置し、長軸方向が近似することから、同遺構の目隠し塀と推定される。

SA1532は14A・B、15Aグリッドに位置する杭列である。P11はSB1527-P2と重複し、これに切られる。東西方向に8間（9本）検出し、15A21グリッドからほぼ直角に屈曲し南北方向に2間検出し、L字形を呈する。長さ10.94m、柱間寸法0.43～1.68mを測る。長軸方向はN－67°－W、短軸方向はN－25°－Eを示す。柱穴の規模はSB1522のそれと比べて小さいものの、いずれも掘形を持つ。柱痕はP3～P5・P7・P11に認められ、径約10～25cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2・P3・P5・P10・P11から古代の須恵器（49）・土師器が出土している。またP5から珠洲焼が出土しているが、その出土状況から後世の混入である可能性が高い。SB1522の南西側約1.0～2.0m先に位置し、長軸方向が近似することから、同遺構の目隠し塀と推定される。

SB1526（図版48・49・94）

15Aグリッドに位置する側柱建物である。東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行3間（4.39m）、梁行1間以上（2.64m以上）の長方形を呈すると推定される。面積は7.73㎡以上を測る。長軸方向はN－18°－Wを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は全ての柱穴に認められ、太さ20～25cm程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物はP2～P4から古代（9世紀中葉～末葉）の須恵器・土師器・灰釉陶器（47）が出土している。

SB1527（図版48・49・95）

14A･B、15Aグリッドに位置する側柱建物である。P2はSA1532-P11、P4はSB1522-P5と重複し、これらを切っている。南東隅の柱穴は検出できなかったが、桁行3間（5.18m）、梁行1間（3.1m）の長方形を呈する。面積は16.47㎡を測る。長軸方向はN－73°－Wを示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕はP2・P5に認められ、径約20cmの柱が据えられていたものと推定される。遺物は全ての柱穴から古代（9世紀中葉）の須恵器・土師器が出土している。

SB1528（図版48・49・95）

14Aグリッドに位置する側柱建物である。桁行2間（3.12～3.24m）、梁行1間（1.89～2.26m）の長

方形を呈する。面積は 6.59㎡を測る。長軸方向はＮ－ 21°－Ｅを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P3 ～ P6 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P5 から古代（９世紀中葉）の須恵器（48）・土師器が出土している。

ｃ　井　　戸

古代の井戸を６基検出した。全て素掘りの井戸で、建物の近くに位置する。覆土の堆積状況は、レンズ状に堆積するもの・水平に堆積するもの・単層のものがある。SE1405 と堆積状況が不明な SE1493 以外の井戸は、遺構の約３分の２ないしそれ以上まで短期的に埋め戻されている。

SE337（図版 36・38・97・98）

10B グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 92 ～ 99cm、検出面からの深さ 1.97m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、２層に識別され、水平に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SE609（図版 36・38・98）

10B グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.08 ～ 1.13m、検出面からの深さ 2.18m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は極暗褐色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器・灰釉陶器が出土している。

SE826（図版 39・40・99）

12A グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、径 1.11 ～ 1.19m、検出面からの深さ 2.21m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SE1139（図版 41・43・99・100）

12・13A グリッドに位置する。SI1312 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 1.03 ～ 1.13m、検出面からの深さ 1.42m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は暗褐色シルトと黒褐色シルトを主体とし、3 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（８世紀中葉）の須恵器（57）・土師器が出土している。

SE1493（図版 44・47・101）

13B グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈し、径 1.06 ～ 1.09m、検出面からの深さ 1.23m を測る。断面形は箱状を呈する。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SE1405（図版 48・50・100・101）

14A グリッドに位置する。南西側で SK1399 と重複し、これを切っている。平面形は不整方形を呈し、径 1.44 ～ 1.50m、検出面からの深さ 1.44m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、７層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代の須恵器（61・62）・土師器（63）・灰釉陶器（64・65）が出土している。

ｄ　土　　坑

古代の土杭を８基検出した。調査区東側の 13 ～ 15 グリッド列に存在し、掘立柱建物の分布状況に類似する傾向があることから、比較的限定された範囲に遺構が展開していることが窺える。遺物が出土している土杭は、須恵器片・土師器片が散在的に出土する傾向があることから、その多くは廃棄土杭であると

考える。中でも、SK477・483・1087 からは墨書土器が出土していることから、廃棄儀礼のひとつと考える。

SK1345（図版 44・45・102・103）

13B グリッドに位置する。SI1311・1344・SK1554 と重複し、これらを切っている。平面形は楕円形を呈し、長径 1.51m、短径 1.23m、検出面からの深さ 55cm を測る。断面は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（94）・土師器（95・96）が出土している。

SK476（図版 44・47・102）

14A グリッドに位置する。SK477 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 87 ～ 96cm、検出面からの深さ 34cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

SK477（図版 44・47・102）

14A グリッドに位置する。SK476 と重複し、これに切られる。平面は楕円形を呈し、長径 95cm、短径 75cm、検出面からの深さ 25cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトと暗褐色シルトの混合土の単層である。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（70 ～ 72）・土師器が出土している。

SK483（図版 44・47・102）

13A グリッドに位置する。SB1519-P3・SB1519-P4・SB1523-P5・SA1530-P3 とそれぞれ重複し、これらを切っている。また SE488 と重複し、これに切られる。平面は長楕円形を呈し、長径 2.45m、短径 1.40m、検出面からの深さ 49cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルト・明黄褐色シルトブロック・黒色シルト・暗赤灰色シルトを主体とし、６層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（73 ～ 78）・土師器（79 ～ 83）が出土している。

SK1500（図版 44・47・103）

13A グリッドに位置する。SB1519-P12 と重複し、これに切られる。平面形は円形を呈するものと推定され、径 78cm、検出面からの深さ 35cm を測る。断面形は半円状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。遺構の切り合い関係から存続時期は古代と推定される。

SK1554（図版 44・47）

13B グリッドに位置する。SI1344 と重複し、これを切っている。また SK1345 と重複し、これに切られる。平面形は楕円形を呈するものと推定され、短径 1.04m、検出面からの深さ 13cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。遺構の切り合い関係から存続時期は古代と推定される。

SK1087（図版 48・50・102）

14B グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、長径 2.62m、短径 2.04m、検出面からの深さ 16cm を測る。断面は弧状を呈する。覆土は褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から古代（９世紀中葉）の須恵器（84 ～ 91）・土師器（92・93）が出土している。

SK1399（図版 48・50・103）

14A グリッドに位置する。北東側で SE1405 と重複し、これに切られる。平面は円形を呈し、径 1.67 ～ 1.85m、検出面からの深さ 10cm を測る。断面は皿状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から古代の須恵器・土師器が出土している。

２）　中世の遺構

a　掘立柱建物

中世の掘立柱建物を５棟検出した。調査区東側の 18 グリッド列に存在する。検出した遺構はすべて側柱建物である。桁行と梁行の間数は、２×１間が３棟で最も多く、４×２間と２×２間が１棟ずつ存在する。面積は、調査区外に延びて明らかでないものを除き、16.82 ～ 24.09㎡で当遺跡の中では小～中規模な建物である。また、SB276・288 は相対する柱間数が異なる。

SB276（図版 51・52・88・89）

18A・B グリッドに位置する側柱建物である。P7 は SK187、P10 は SK183 と重複し、これらを切っている。桁行４間（6.02 ～ 6.45m）、梁行２間（3.79 ～ 3.93m）の不整長方形を呈する。面積は 24.09㎡を測る。長軸方向はＮ－７°－Ｅを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P7・P9 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P6・P7 から土師器もしくは土師質土器、P6 から須恵器、P7 から珠洲焼が出土している。

SB288（図版 51・52・88・89）

18A・B グリッドに位置する側柱建物である。P1 は SK183、P4 は SD106 とそれぞれ重複し、これらを切っている。P6 は SK184 と重複し、これに切られる。桁行２間（4.45 ～ 4.71m）、梁行２間（3.71 ～ 4.06m）の不整方形を呈する。面積は 18.10㎡を測る。長軸方向はＮ－ 11°－Ｅを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P4・P7 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から須恵器、P2・P4 から珠洲焼・土師器もしくは土師質土器が出土している。

SB289（図版 51・52・88・89・101）

18B グリッドに位置する側柱建物である。P1 は SB290-P1・SK182、P2 は SE200・SK206、P4 は SK187、P8 は SK61 とそれぞれ重複し、これらを切っている。桁行２間（4.43 ～ 5.2m）、梁行１間（3.35 ～ 3.39m）の六角形を呈する。面積は 16.82㎡を測る。長軸方向はＮ－ 32°－Ｗを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3・P7・P8 に認められ、径約 20 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P3・P6 ～ P8 から土師器もしくは土師質土器、P1・P4・P7・P8 から須恵器、P3 から珠洲焼が出土している。

SB292（図版 51・52・88・89）

18B グリッドに位置する側柱建物である。P1・P2 は SK ４と重複し、これを切っている。南西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行２間（2.88m）、梁行１間以上（0.92m 以上）の南北棟と推定される。面積は 2.05㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 26°－Ｗを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P3・P4 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から須恵器・珠洲焼、P3 から須恵器が出土している。

SB294（図版 51・53・88）

18A グリッドに位置する側柱建物である。南東側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行２間以上（2.08m 以上）・梁行１間以上（0.82m 以上）の南北棟と推定される。面積は 1.93㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 23°－Ｗを示す。柱穴の規模はばらつきが見られる。遺物は P1 から須恵器、P3 から珠洲焼・土師器もしくは土師質土器が出土している。

b　井　　戸

中世の井戸を９基検出した。全て素掘りの井戸で、建物の近くに位置する。覆土の堆積状況は、レンズ状に堆積するものと単層のものがある。SE143・488・1155 以外は、遺構の約半分ないしそれ以上まで短期的に埋め戻されている。

SE760（図版 36・38・98）

10・11B グリッドに位置する。南側は撹乱を受けているが、平面形は円形を呈し、径 94cm、検出面からの深さ 2.11m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は極暗褐色シルトと黒褐色粘土の２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼が出土している。

SE788（図版 39・40・98）

11B グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長辺 1.15m、短辺 1.13m、検出面からの深さ 1.90m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと灰白色粘土＋黒褐色粘土の混合土を主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器（55）のほか珠洲焼（56）・石臼（143）が出土している。

SE834（図版 39・40・99）

12A グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.04 ～ 1.10m、検出面からの深さ 2.11m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼が出土している。

SE1565（図版 39・40・101）

12A グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、長辺 1.57m、短辺 1.37m、検出面からの深さ 2.40m を測る。断面は箱状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から須恵器のほか珠洲焼(66)が出土している。

SE1221（図版 41・43・100）

12A グリッドに位置する。SI1312 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 89 ～ 92cm、検出面からの深さ 1.83m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器･土師器のほか珠洲焼（60）が出土している。

SE488（図版 44・47・98）

13A グリッドに位置する。SB1519-P3・SB1523-P5・SA1530-P2・SK483 と重複し、これらを切っている。平面形は円形を呈し、径 1.16 ～ 1.26m、検出面からの深さ 2.17m を測る。断面形は U 字状を呈する。覆土は黒褐色シルト・黒色シルトを主体とし、13 層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から須恵器・土師器（53）のほか珠洲焼（54）が出土している。

SE1155（図版 44・47・100）

13A グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.13 ～ 1.19m、検出面からの深さ 1.80m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、11 層に識別され、レンズ状に堆積する。側壁には、検出面からの深さ 1.0m・1.3m・1.5m の位置に、長径 35 ～ 50cm、短径 24 ～ 30cm、奥行き 19 ～ 21cm の穴が穿かれていた。井戸浚いの際に使用したものであろうか、井戸の出入りのための「足掛け穴」と考えられる。「足掛け穴」は、相対する位置には存在しない。遺物は覆土から須恵器・土師器のほか珠洲焼（58・59）が出土している。

SE143（図版 51・53・97）

18A グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.07 ～ 1.19m、検出面からの深さ 1.86m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色シルトを主体とし、９層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は覆土から珠洲焼（50）、覆土９層底面から漆器椀（147）が出土している。

SE203（図版 51・53）

18A グリッドに位置する。北側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は楕円形を呈するものと考えられる。検出面からの深さ 1.54m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から珠洲焼（51・52）が出土している。

c　土　　坑

SK183（図版 51・53・101）

18A グリッドに位置する。SB276-P10・SB288-P1 と重複し、これらに切られる。平面形は楕円形を呈し、長径 1.26m、短径 0.88m、検出面からの深さ 12cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は覆土から珠洲焼（67・68）が出土している。

３）　時期不明の遺構

a　掘立柱建物

SB1501（図版 36・37・89・90）

９A・B グリッドに位置する側柱建物である。建物の北東側は調査区外へ延びるが、柱並びから桁行２間（3.65m）以上、梁行２間（2.84m）の東西棟と推定される。面積 17.7㎡以上を測る。長軸方向はＮ－41°－Ｅを示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3・P5 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推測される。遺物は出土していない。

SB1502（図版 36・37・90）

９B･C、10B･C グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間(7.27 ～ 7.39m)、梁行３間(4.27 ～ 4.55m)の長方形を呈すが、梁行南側中央の柱は検出できなかった。面積 32.79㎡を測る。長軸方向はＮ－0°－Ｅを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P3・P5・P7 に認められ、太さ 20 ～ 25cm 程度の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2・P5 から土師器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB1503（図版 36・37・90）

９･10B グリッドに位置する側柱建物である。P2 が SB1533-P8 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行２間(4.95 ～ 5.06m)、梁行２間(4.79 ～ 4.98m)の方形を呈するが、梁行中央の柱穴は検出できなかった。面積は 24.40㎡を測る。長軸方向はＮ－3°－Ｅを示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P3 ～ P5・P7 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から土師器・須恵器と珠洲焼が、P3 から土師器が出土しているが、いずれも細片であり明確な時期を特定することはできなかった。

SB1533（図版 36・38・95）

10A・B グリッドに位置する側柱建物である。P1 が SB1534-P1、P3 が SB1534-P2、P4 が SB1534-P3、P5 が SB1534-P4、P6 が SB1534-P5、P7 が SB1534-P6 とそれぞれ重複し、これらを切っ

ている。P8 が SB1503-P2 と重複するが、新旧関係は不明である。桁行２間（4.65 ～ 4.77m）、梁行２間（3.67 ～ 3.69m）の長方形を呈する。面積は 17.75㎡を測る。長軸方向はＮ－ 32°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P7 に認められ、径約 10 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P8 から土師器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB1534（図版 36・38・96）

10A・B グリッドに位置する側柱建物である。桁行２間（4.73 ～ 5.16m）、梁行２間（3.38 ～ 3.48m）の長方形を呈するが、北側中央の柱穴は検出できなかった。面積は 17.22㎡を測る。長軸方向はＮ－ 33°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1 ～ P3・P7 に認められ、径約 10 ～ 25cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB1533 と検出位置がほぼ重なっており、建物の規模や長軸方向も近似している。柱穴の切り合い関係から SB1534 の後に SB1533 を建て替えたものである。

SB1508（図版 39・40・91）

10A・B、11A・B グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（4.38 ～ 4.75m）、梁行２間（3.95 ～ 4.12m）で、南側梁行中央の柱穴が内側に寄るため不整長方形を呈する。面積は 17.70㎡を測る。長軸方向はＮ－ 1°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P4 ～ P6・P8 に認められ、径約 10 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P2 から須恵器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB1521（図版 39・40・93）

SB1521 は 11B・C、12B グリッドに位置する側柱建物である。南西側は調査区外に延びているため、桁行・梁行は不明である。長軸方向はＮ－ 73°－ W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P2 に認められ、径約 15cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SA1510 は 12B・C グリッドに位置する杭列である。南北方向に１間検出し、長さ 2.02m を測る。長軸方向はＮ－ 21°－ E を示す。柱痕は P1・P2 に認められ、径約 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。SB1521 の東側約 2.50m 先に位置し、軸方向が近似することから、同遺構の目隠し塀と推定される。

SB1513（図版 41・43・91）

12B グリッドに位置する側柱建物である。桁行３間（4.50 ～ 4.76m）、梁行２間（4.22 ～ 4.36m）で、桁行中央の柱穴が若干外側に張り出すため不整方形を呈する。面積は 21.58㎡を測る。長軸方向はＮ－ 11°－ E を示し、南北棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P4・P5・P9 に認められ、径約 10cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB1529（図版 44・46・95）

13・14A グリッドに位置する側柱建物である。北東側は調査区外に延びるため明らかではないが、柱並びから桁行２間以上（4.13m 以上）、梁行２間（3.69m）の六角形を呈するものと考えられる。面積は 8.59㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 3°－ W を示し、南北棟となるものと考えられる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2 ～ P5 に認められ、径約 20 ～ 30cm の柱が据えられ

ていたものと推定される。遺物は出土していない。

SB1576（図版 44・46・96）

13・14B グリッドに位置する側柱建物である。南側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行２間以上（4.47m 以上）、梁行１間以上（1.48m 以上）の長方形を呈するものと考えられる。面積 6.84㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 58°－ W を示し、東西棟となる。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。

SB290（図版 51・52・88・89）

18B グリッドに位置する側柱建物である。P1 は SK182・SB289-P1 と重複し、前者を切っており、後者に切られている。SB289 と重複し、これに切られることから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。南西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行２間以上（3.63m）、梁行２間（2.69m）の南北棟と推定される。面積は 7.93㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 12°－ E を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2・P3 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から須恵器、P3 から土師器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB291（図版 51・52・88・89）

18B グリッドに位置する側柱建物である。P3 は SK61 と重複し、これを切っている。南西側は調査区外に延びるため明らかではないが、桁行２間（2.83m）、梁行１間以上（1.34m）の南北棟と推定される。面積は 4.14㎡以上を測る。長軸方向はＮ－ 14°－ E を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。柱痕は P2･P3 に認められ、径約 15 ～ 20cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から須恵器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

SB293（図版 51・53・88）

18A グリッドに位置する。東側は調査区外に延びるため明らかではないが、既存値で桁行２間以上（3.59m 以上）の柱穴が直線に並んでおり、方形ないし長方形を呈するものと考えられる。長軸方向はＮ－ 22°－ W を示す。柱穴の規模はばらつきが見られるが、いずれも掘形を持つ。遺物は出土していない。

SB295（図版 51・53・88・89）

18・19B グリッドに位置する。南西側は調査区外に延びるため、桁行・梁行・長軸方向は不明である。柱穴の規模は周辺の掘立柱建物のそれと比べて大きく、長径 109 ～ 81cm、短径 78 ～ 82cm、検出面からの深さ 43 ～ 56cm を測る。いずれも掘形を持つ。柱痕は P1・P2 に認められ、長径 30 ～ 40cm、短径 25 ～ 30cm の柱が据えられていたものと推定される。遺物は P1 から土師器･須恵器が出土しているが、細片のため時期を特定することはできなかった。

ｂ　井　　戸

SE830（図版 39・40・99）

12A グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、径 1.21 ～ 1.26m、検出面からの深さ 2.64m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は暗褐色シルトを主体とし、３層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE200（図版 51・53・97）

18B グリッドに位置する。SB289-P2 と重複し、これに切られる。このことから、構築時期は中世以

前と推定されるが、詳細は不明である。また、SK206 と重複し、これを切っている。平面形は不整楕円形を呈し、長径 1.22m、短径 99cm、検出面からの深さ 1.19m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトを主体とし、４層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE201（図版 51・53・97）

18B グリッドに位置する。SK206 と重複し、これを切っている。平面形は円形を呈し、径 84 ～ 88cm、検出面からの深さ 1.62m を測る。断面形は箱状を呈する。覆土は黒褐色シルトと黒色シルトを主体とし、７層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SE202（図版 51・53）

18A グリッドに位置する。北西側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は円形を呈するものと推定される。径 71cm、検出面からの深さ 1.82m を測る。断面形はＵ字状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

c　土　　坑

SK ４（図版 51・53・101）

18B グリッドに位置する。SB292-P1･SB292-P2 とそれぞれ重複し、これらに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。西側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は円形ないしは楕円形を呈するものと推定される。径 1.67m、検出面からの深さ 24cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK61（図版 51・53・101）

18B グリッドに位置する。SB289-P8・SB291-P3 とそれぞれ重複し、これらに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。平面形は不整形を呈し、長径 1.31m、短径 73cm、検出面からの深さ 27cm を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK132（図版 51・53・101）

18B グリッドに位置する。北東側は撹乱を受けている。平面形は円形を呈し、径約 76cm、検出面からの深さ 18cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK182（図版 51・53・101）

18B グリッドに位置する。SB289-P1･SB290-P1 とそれぞれ重複し、これらに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。西側は調査区外に延びるため明らかではないが、平面形は円形を呈するものと推定される。径 1.05m、検出面からの深さ 28cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SK187（図版 51・53・102）

18A・B グリッドに位置する。SB276-P ７・SB289-P ４とそれぞれ重複し、これらに切られている。平面形は円形を呈し、径 1.19 ～ 1.42m、検出面からの深さ 13cm を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は覆土から須恵器（69）が出土しているが、後世の混入と考えられる。

SK206（図版 51・53）

18B グリッドに位置する。SB289-P2・SE200・201 とそれぞれ重複し、これらに切られる。SB289 と重複することから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。平面形は不整円形を呈し、

径 91 ～ 104cm、検出面からの深さ 35cm を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は黒色シルトと黒褐色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

ｄ　溝

SD1265（図版 36・38・103）

10A グリッドに位置する。長さ 1.13m、幅 23cm、検出面からの深さ 35cm を測る。長軸方向はＮ－83°－Ｗを示す。断面形は箱状を呈する。覆土は暗褐色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD724（図版 48・50・103）

15A グリッドに位置する。南側が調査区外に延びるため明らかではないが、長さ 88cm 以上、幅 56cm、検出面からの深さ 11cm を測る。長軸方向はＮ－１°－Ｅを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトと黒褐色シルトの２層に識別され、レンズ状に堆積する。遺物は出土していない。

SD190（図版 51・53・103）

18A グリッドに位置する。長さ 94cm、幅 19cm、検出面からの深さ５cm を測る。長軸方向はＮ－61°－Ｅを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

SD106（図版 51・53・103）

18A グリッドに位置する。SB288-P4 と重複し、これに切られる。このことから、構築時期は中世以前と推定されるが、詳細は不明である。長さ 2.05m 以上、幅 21cm、検出面からの深さ４cm を測る。長軸方向はＮ－５°－Ｗを示す。断面形は弧状を呈する。覆土は黒色シルトの単層である。遺物は出土していない。

４　遺　　物

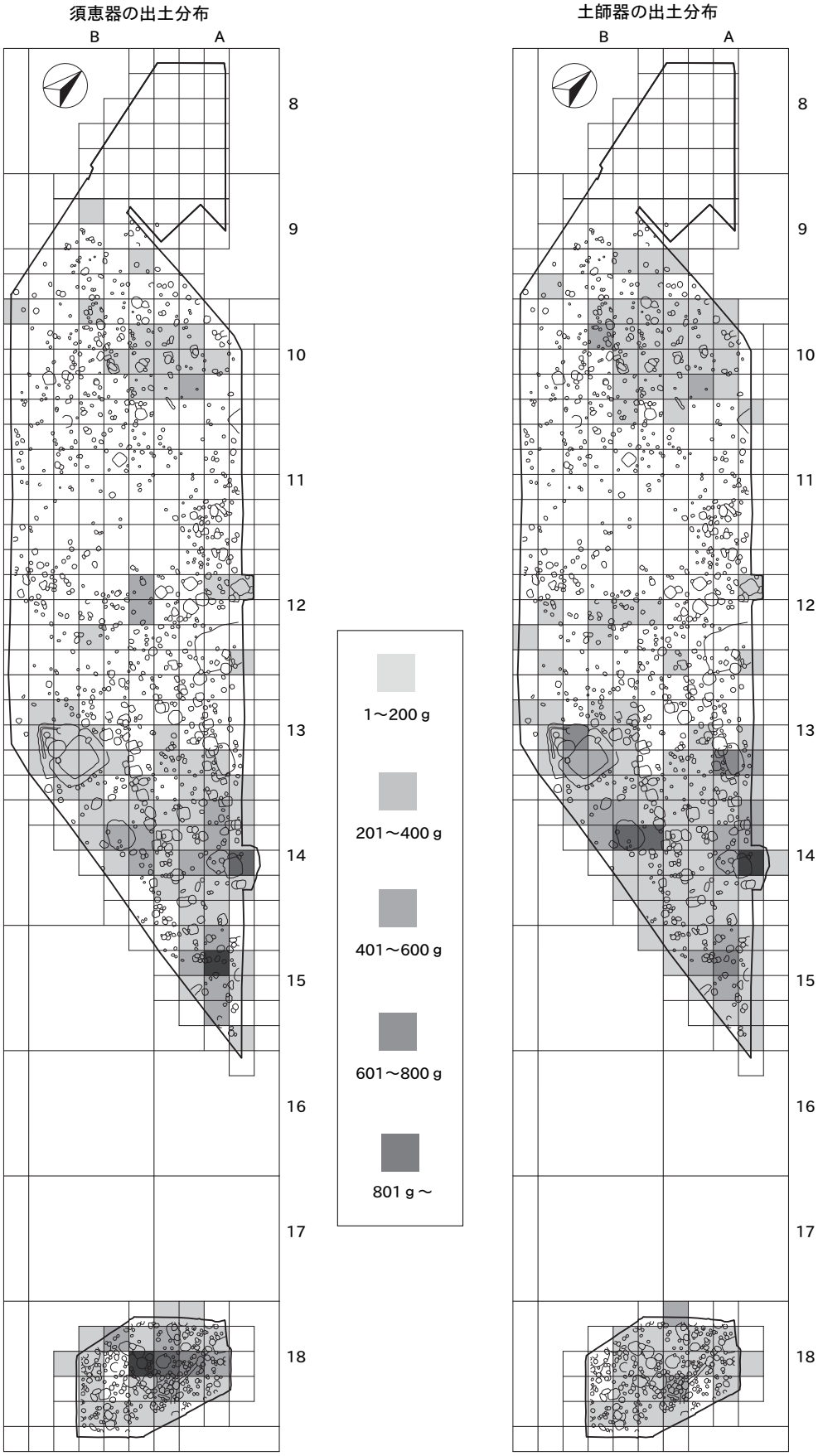
Ａ　概　　要

出土遺物を大別すると、土器・陶磁器、土製品、石製品、銭貨、木製品がある。土器・陶磁器を時代別に大別すると、古代及び中世に分けられる。古代の土器は土師器 26 箱、須恵器 20 箱（箱サイズ 54 × 34 × 10cm）、灰釉陶器があり、８世紀中葉～９世紀末までのものが出土している。中世の土器は珠洲焼が１箱あり、13 世紀～ 14 世紀中葉までのものが出土している。土製品は鞴の羽口があり、共伴する土器の年代から古代に位置付けられる。

遺構検出面直上には遺物包含層が存在し、古代の土器が多く出土していることから、小グリッドを単位として須恵器と土師器の重量分布図を作成した（第 32 図）。なお 11B グリッド付近は撹乱によって包含層が存在していなかった。そのためこの付近は空白となっている。須恵器と土師器は近似した分布傾向を示し、掘立柱建物群が存在する 10A・B、・13A・B、14A・B、15A グリッドで多く見られる。また 18A・B グリッドでも多く見られるが、珠洲焼と混在して出土している。

石製品は砥石と石臼が出土した。銭貨は北宋銭に限定される。木製品は井戸から出土した漆器椀がある。

以下、出土遺物の説明を行うが、古代の土器に関しては第Ⅲ章４Ｂの分類、珠洲焼の器種分類・編年に関しては［吉岡 1994］を参考にした上で記述した。遺構内出土土器、遺構外出土土器の順に説明を行う。遺構内出土土器は遺構別に、遺構外出土土器は分類別に説明を行うものとする。土製品、石製品、銭貨、木製品はそれぞれ種類別に説明を行うものとする。



第 32 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　出土土器分布図

Ｂ　土器・陶磁器

１）　遺構内出土

SI1311（図版 54-1 ～ 4、図版 104）

須恵器壺蓋（１）、杯蓋（２・３）、無台杯（４）が出土している。１の胎土は緻密で、胎土から西頸城丘陵の窯産と考えられる。２は法量Ⅱに属する。外面の天井部は回転ヘラケズリ痕が明瞭に残る。４は底部破片で外面に「大山」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と考えられる。２・３・４の時期は８世紀末～９世紀初頭（春日編年Ⅳ - ２～３期）に比定される。

SI1312（図版 54- 5 ～ 29・図版 55-30 ～ 32、図版 104・105）

須恵器杯蓋（５～ 14）、有台杯（15 ～ 21）、無台杯（22 ～ 25）、横瓶（26）、土師器黒色蓋（27）、甕（28 ～ 30）、把手付鍋（31・32）が出土している。

５は法量Ⅱに属する。厚手の作りで、胎土には１mm 大の黒色粒が多量に混入している。天井部にヘラ切り痕が明瞭に残る。摘みはボタン形を呈する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀第３四半期（春日編年Ⅳ - １期）に比定される。６は法量Ⅱに属し、外面に自然釉が掛かる。端部がわずかに外反する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀後半～９世紀初頭に比定される。７は法量Ⅱに属し、摘みは低いが径の大きな擬宝珠形で作りがシャープである。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀第３四半期に比定される。８～ 10・12 ～ 14 はいずれも法量Ⅱに属し、器高が浅い。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８・９・14 が８世紀後半～９世紀初頭、10 ～ 13 が８世紀第３四半期に比定される。

15 は細別ＡⅢに属する。高台は内端接地で内端の突出が顕著である。外面全体に黄緑色の自然釉が掛かる。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定される。16 は細別ＡⅡに属する。色調は濃い灰色で全体にやや厚手のつくりである。高台は内端接地で腰部にはっきりした稜を持たない。底部外面に「庄」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀中葉に比定される。17 は細別ＡⅡに属し、底部外面に「×」のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀第３四半期（春日編年Ⅳ - １期）に比定される。18・19 は共に細別ＡⅢに属する。胎土は砂質で、西頸城丘陵の窯産と推定される。時期は８世紀末（春日編年Ⅳ - ２期）に比定される。21 は細別ＡⅡに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀後半に比定される。

22 は細別ＡⅠに属し、内外面に火ダスキ痕が見られる。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀第３四半期（春日編年Ⅳ - １期）に比定される。23 は細別ＡⅠに属する。器厚は底部が厚く、口縁部が薄い。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀第３四半期に比定される。24 は内外面に火ダスキ痕が見られる。底部外面に「十」の墨書がある。25 は細別ＡⅡに属し、底部外面に「福」の墨書がある。口縁部内外面にスス痕が見られる。24・25 は胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末（春日編年Ⅳ - ２期）に比定される。

26 は横瓶の閉塞部付近の破片である。外面に自然釉が掛かる。時期は８世紀第３四半期に比定される。27 は内外面を黒色処理した土師器蓋である。外面は黒色処理後、丁寧な横位のミガキが施されている。時期は９世紀第１四半期に比定される。28 は法量Ⅱに属する。全体に薄い作りで、内面の輪積み痕が顕著に残る。外面全体と口縁部内面にスス痕が見られる。31 は口縁部が短く、頸部の屈曲が明瞭である。

32 は体部が半円形に立ち上がり、明瞭な屈曲を持って口縁部に至るものである。内外面とも風化が著しい。

SI1344（図版 55-33 ～ 37、図版 105）

須恵器杯蓋（33）、有台杯（34）、無台杯（35）、土師器無台椀（36）、有台椀（37）が出土している。33 は法量Ⅲに属する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は 8 世紀末～ 9 世紀初頭に比定される。34 は細別ＢⅡに属する。高台は内端接地する。胎土は砂質である。時期は 9 世紀第 1 四半期（春日編年Ⅳ - 3 期）に比定される。35 は細別ＣⅠに属する。色調は灰色で胎土は硬くしまっている。36 は法量Ⅰに属する。底部切り離しは糸切りである。37 は脚足の長い高台を持つ椀で、全体に風化が著しい。出土状況から後世の混入と考えられる。

SB1512（図版 55-38、図版 105）

灰釉陶器皿（38）が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は美濃系と推定され、光ヶ丘 1 号窯式併行と考えられる。時期は 9 世紀後半に比定される。

SB1519（図版 55-39 ～ 46、図版 105）

須恵器有台杯（39 ～ 41）、鍋（42）土師器甕（43 ～ 46）が出土している。39 は細別ＡⅢに属する。体部の立ち上がりが急で、高台は内端接地する。底部外面はヘラ切り痕が明瞭に残る。時期は 8 世紀末～ 9 世紀初頭（春日編年Ⅳ - 2 ～ 3 期）に比定される。40 は底部外面に「大山」の墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は 8 世紀末～ 9 世紀初頭に比定される。41 は細別ＡⅢに属する。底面の切り離しは糸切りで、底部外半部を回転ヘラケズリ調整している。底部外面に「東」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は 9 世紀中葉（春日編年Ⅴ - 2 期）に比定される。42 の色調は灰白色を呈する。外面にカキメ痕がある。43 ～ 45 は法量Ⅱに属する。全体に薄い作りである。46 は法量Ⅰに属する。ロクロ成形で、内面と外面上半はカキメ調整で外面下半は縄巻工具による平行タタキ痕が見られる。

SB1526（図版 55-47、図版 105）

灰釉陶器椀（47）が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され、黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は 9 世紀後半に比定される。

SB1528（図版 55-48、図版 105）

須恵器無台椀（48）が出土している。細別ＣⅡに属する。底部外面に読解不可能な墨書がある。胎土から西頸城丘陵の滝寺窯産と推定され、時期は 9 世紀第中葉に比定される。

SA1532（図版 55-49、図版 105）

須恵器長頸壺（49）が出土している。頸部片である。

SE143（図版 55-50、図版 105）

珠洲焼甕（50）が出土している。底部片で、時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。

SE203（図版 55-51・52、図版 105）

珠洲焼片口鉢（51）、甕（52）が出土している。51 は口縁端部が平坦で内傾している。時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。52 は口縁端部が丸く、頸部の屈曲が明瞭で肩部が張っている。時期は 13 世紀前半（珠洲Ⅱ期）に比定される。

SE488（図版 55-53・54、図版 105）

土師器（53）、珠洲焼片口鉢（54）が出土している。53 は深皿状の体部を持ち脚が付くと考えられるが、

器種は不明である。54 は口縁端部が平坦で内傾している。時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。

SE788（図版 56-55・56、図版 105）

須恵器小壺（55）、珠洲焼片口鉢（56）が出土している。55 は頸部片で、肩部に灰色の自然釉が掛かる。56 は口縁部片である。胎土は砂質である。時期は 14 世紀後葉～ 15 世紀前半（珠洲Ⅴ期）に比定される。

SE1139（図版 56-57、図版 105）

須恵器有台杯（57）が出土している。細別ＡⅡに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀中葉に比定される。

SE1155（図版 56-58・59、図版 105）

珠洲焼片口鉢（58・59）が出土している。58 は口縁部片で内面に６条の卸し目がある。時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。59 は体部下半片で内面に 14 条の卸し目がある。時期は 14 世紀（珠洲Ⅳ期以降）に比定される。

SE1211（図版 56-60、図版 105）

珠洲焼片口鉢（60）が出土している。内面に 22 条の卸し目がある。時期は 13 世紀後半（珠洲Ⅲ期）に比定される。

SE1405（図版 56-61 ～ 65、図版 105・106）

須恵器杯蓋（61・62）、土師器椀（63）、灰釉陶器椀（64・65）が出土している。61 は法量Ⅲに属する。胎土は砂質である。内面中央に「－」のヘラ記号が刻まれている。時期は８世紀末～９世紀初頭（春日編年Ⅳ - ２～３期）に比定される。62 は法量Ⅱに属する。天井部が平坦である。外面に「□」〔菜ヵ〕の墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀後半に比定される。63 は法量Ⅰに属する。底部は小さく突出し体部は内湾して上部で緩やかに外反する。時期は９世紀中葉（春日編年Ⅴ - ２期）に比定される。64 は口縁端部が小さく丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けである。胎土から産地は美濃系と推定され、光ヶ丘１号窯式併行と考えられる。時期は９世紀後半に比定される。65 は口縁端部が外反丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され、黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は９世紀後半に比定される。

SE1565（図版 56-66、図版 106）

珠洲焼片口鉢（66）が出土している。内外面共に風化が著しい。時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。底面の切り離しは静止糸切りである。

SK183（図版 56-67・68、図版 106）

珠洲焼片口鉢(67･68)が出土している。67 は口縁部片で端部がやや丸味をなしている。時期は 13 世紀(珠洲Ⅱ～Ⅲ期）に比定される。68 は口縁端部が平坦で内傾している。内面に卸し目が５条確認できる。時期は 14 世紀中葉（珠洲Ⅳ期後半）に比定される。

SK187（図版 56-69、図版 106）

須恵器横瓶（69）が出土している。口縁部片で、端部がやや平坦をなしている。

SK477（図版 56-70 ～ 72、図版 106）

須恵器杯蓋（70）、有台杯（71・72）が出土している。70 は外面に読解不可能な墨書がある。71 は細別ＡⅢに属し、底部外面に「大□」〔山ヵ〕の墨書がある。胎土から滝寺窯産と推定され、時期は９世紀初頭（春日編年Ⅳ - ３期）に比定される。72 は細別ＢⅡに属する。底部は平坦で腰部の屈曲が明瞭である。

底部外面に「□」〔物ヵ〕の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産で、時期は９世紀第１四半期に比定される。

SK483（図版 56-73 ～ 80、図版 57-81 ～ 83、図版 106）

須恵器杯蓋（73 ～ 75）、有台杯（76）、無台杯（77･78）、土師器椀（79･80）、甕（81 ～ 83）が出土している。73 は胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀前半（春日編年Ⅴ期）に比定される。74 は法量Ⅳに属する。時期は８世紀末～９世紀初頭（春日編年Ⅳ - ２～３期）に比定される。75 は体部外面に「大歳」の墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀前半に比定される。

76 は細別ＡⅣに属し、胎土に長石を多く含む。時期は９世紀中葉に比定される。77 は細別ＣⅡに属する。体部が内湾して端部は細くなる。時期は８世紀末～９世紀初頭に比定される。78 は細別ＣⅠに属する。時期は９世紀前半に比定される。

79 は法量Ⅱに属する。底部は糸切り無調整である。時期は９世紀第１四半期に比定される。81 は法量Ⅰに属し、ロクロ成形である。82 は法量Ⅱに属し、ロクロ成形で内外面にススが付着している。83 は法量Ⅰに属し、ロクロ成形で外面のカキメが明瞭である。

SK1087（図版 57-84 ～ 93、図版 106・107）

須恵器杯蓋（84 ～ 86）、有台杯（87 ～ 89）、無台杯（90･91）、土師器黒色蓋（92）、椀（93）が出土している。84・85 は法量Ⅲに属する。摘みは低めの擬宝珠形を呈する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期（春日編年Ⅴ期）に比定される。86 は体部片で外面に墨書がある。

87 は細別ＡⅢに属する。腰部の稜は弱く、高台は外端接地する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定される。88 は底部破片で高台は外端接地する。外面に墨書が確認できる。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期に比定される。89 は細別ＢⅡに属し、体部内外面はロクロ目が目立つ。時期は９世紀第２四半期に比定される。90 は底部がヘラ切りで、胎土から佐渡小泊窯産と推定される。時期は９世紀第２四半期に比定される。91 は底部破片で糸切り無調整である。外面に墨書がある。

92 は内外面を黒色処理した土師器蓋である。内外面は黒色処理の後、丁寧な横位のミガキが施されている。時期は９世紀前半に比定される。93 は法量Ⅰに属する。全体に風化が激しい。

SK1345（図版 57-94 ～ 96、図版 107）

須恵器無台杯（94）、土師器椀（95・96）が出土している。94 は細別ＡⅠに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期（春日編年Ⅴ期）に比定される。95 は法量Ⅰに属する。時期は９世紀第２四半期に比定される。96 は底部が糸切り無調整で、外面に「十」の墨書がある。

P198（図版 57-97、図版 107）

珠洲焼片口鉢(97)が出土している。口縁端部が平坦で内傾している。内面に３条･13 条の卸し目がある。時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。

P470（図版 57-98 ～ 100、図版 107）

須恵器杯蓋（98）、有台杯（99）、無台杯（100）が出土している。98 は法量Ⅰに属し、外面に「十」の墨書がある。時期は８世紀後半～９世紀初頭（春日編年Ⅳ期）と考えられる。99 は細別ＡⅢに属する。腰部の稜が明確で、底部は糸切りで周囲を回転ヘラケズリ調整している。胎土から西頸城丘陵の窯産で、時期は９世紀中葉（春日編年Ⅴ - ２期）に比定される。100 は細別ＣⅡに属する。底部は糸切り無調整で、底部外面に「W」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期に比定される。

P474（図版 57-101、図版 107）

須恵器無台杯（101）が出土している。細別ＡＩに属し、底部外面に墨書がある。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末～９世紀初頭（春日編年Ⅳ - ２～３期）に比定される。

P744（図版 57-102、図版 107）

灰釉陶器椀（102）が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は９世紀後半に比定される。

P745（図版 57-103、図版 107）

灰釉陶器椀（103）が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は美濃系と推定され光ヶ丘１号窯式併行と考えられる。時期は９世紀後半に比定される。

P1200（図版 57-104、図版 107）

須恵器壺（104）が出土している。体部片で、貼付文がある。

P1291（図版 57-105、図版 107）

須恵器長頸壺（105）が出土している。口縁部片である。

P1328（図版 57-106、図版 107）

土師器椀（106）が出土している。底部の切り離しは糸切りで、底部外面に「後」の墨書がある。

P1365（図版 57-107、図版 107）

須恵器甕(107)の肩部片が出土している。胎土から佐渡小泊窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期(春日編年Ⅴ期）以降と考えられる。

P1441（図版 58-108・109、図版 107）

須恵器無台杯（108)、珠洲焼片口鉢（109）が出土している。108 は細別ＡⅡに属し、底部外面に「×」のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末（春日編年Ⅳ - ２期）に比定される。109 は内面に卸し目が３条確認できる。時期は 14 世紀前葉～中葉(珠洲Ⅳ期)に比定される。

P1564（図版 58-110、図版 107）

灰釉陶器椀（110）が出土している。口縁端部が丸く曲げられており、内外面の施釉はハケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定され黒笹 90 号窯式併行と考えられる。時期は９世紀後半に比定される。

２）　遺構外出土

須恵器杯蓋（図版 58-111 ～ 114、図版 107）

111 は法量Ⅲに属し、内面に「一」のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期（春日編年Ⅴ期）に比定される。112 は天井部片で、外面に「東」の墨書がある。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末～９世紀初頭（春日編年Ⅳ - ２～３期）に比定される。113 は法量Ⅱに属する。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀第２四半期に比定される。114 は法量Ⅲに属する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末～９世紀初頭に比定される。

須恵器有台杯（図版 58-115 ～ 117、図版 107）

115 は細別ＡⅢに属する。底部外面に「十」の墨書がある。また「一」状のヘラ記号が刻まれている。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末（春日編年Ⅳ - ２期）に比定される。116 は細別ＡⅣに属する。115 と比べて器壁が薄く、腰部の稜が明瞭で体部は直線的である。胎土から西頸城丘陵の窯産と推定され、時期は９世紀中葉（春日編年Ⅴ - ２期）に比定される。117 は細別ＢⅠに属する。体部下半が欠損するが、器形から有台杯と考えられる。体部は丸みを持ち、口縁部で外反する。胎土から東頸城丘陵の窯産と推定され、時期は８世紀末～９世紀前半に比定される。

須恵器無台杯（図版 58-118 ～ 120、図版 107・108）

118 は細別Ｂに属する。いわゆる「二段底」で、底部切り離しは糸切りである。底部外面に「浄坏」の墨書がある。時期は８世紀後半（春日編年Ⅳ期）に比定される。119 は底部外面に「大□」の墨書がある。120 は細別ＡⅡに属する。胎土から佐渡小泊窯産と推定され、時期は９世紀第３四半期（春日編年Ⅵ - １期）に比定される。

須恵器凸帯付四耳壺（図版 58-121、図版 108）

121 は体部片である。凸帯及び耳部の断面は台形を呈する。凸帯の上面から直径３mm、耳部の上面から直径 1.8mm の穿孔が施されているが、いずれも貫通していない。時期は８世紀後半～９世紀前半に比定される。

須恵器甕（図版 58-122、図版 108）

122 は口縁部片である。外面に一条の凸帯と２条の櫛描波状文及び沈線がある。

須恵器四耳壺（図版 58-123、図版 108）

123 は口縁部から体部下半までの破片である。体部は肩に稜線があり耳部が付されている。耳部の形状は胴張長方形で、中央に１か所穿孔が施されている。時期は９世紀に比定される。

須恵器短頸壺（図版 58-124、図版 108）

124 は口縁部から体部の破片である。体部の肩上半に稜線があり、自然釉が見られる。

須恵器横瓶（図版 58-125、図版 108）

125 は横瓶の閉塞部付近の破片である。時期は８世紀第３四半期に比定される。

土師器黒色蓋（図版 58-126、図版 108）

126 は体部片である。内外面は黒色処理した後、ミガキを施す。

土師器有台椀（図版 58-127、図版 108）

127 は底部片である。内外面は黒色処理した後、ミガキを施す。

土師器鍋（図版 59-128、図版 108）

128 は口縁部片である。頸部の屈曲は明瞭で口縁部は直線的である。端部は平坦である。

灰釉陶器椀（図版 59-129 ～ 131、図版 108）

129 ～ 131 は底部片である。高台径からみて大型の椀と考えられる。高台端部はヘラで面取りする。施釉方法は 129 が不明、130・131 はツケ掛けと考えられる。胎土から産地は瀬戸系と推定される。

珠洲焼片口鉢（図版 59-132 ～ 137、図版 108）

133 は口縁部片である。口縁端部はやや丸みを帯びる。内面に４条・７条の卸し目がある。時期は 13 世紀後半（珠洲Ⅲ期）に比定される。134 は口縁部破片である。口縁端部が平坦で内傾している。時期は 14 世紀前葉～中葉（珠洲Ⅳ期）に比定される。135 は口縁部片である。口縁端部が平坦で内傾している。

内面に３条・５条の卸し目がある。時期は 13 世紀後半（珠洲Ⅲ期）に比定される。136 は底部片である。内面に７条･14 条の卸し目がある。時期は 14 世紀中葉(珠洲Ⅳ期)以降に比定される。137 は底部片である。残存する内面全体に卸し目が施されている。時期は13 世紀後半～14 世紀中葉(珠洲Ⅲ～Ⅳ期)に比定される。

C　土　製　品（図版 59-138、図版 108）

138 は SI1312 の覆土から出土した鞴の羽口である。外径は 6.1cm と推測される。鉄滓等の付着物は見られない。共伴する土器の年代から８世紀後半～９世紀初頭に比定される。

D　石　製　品（図版 59-139 ～ 144、図版 108）

139 はSE143 の覆土から出土した砥石である。上半部を欠損する。砥面は表裏面､両側縁に認められる。表面の砥面は中央部で左右二単位に別れており、幅広くやや深い線条痕が横位に連続して認められる。長さ 8.4cm、幅 5.2cm、厚さ 4.1cm、重量 190g を計り、石材は凝灰岩である。

140 は P502 の覆土から出土した砥石である。上半部を欠損する。やや扁平な角柱状を呈し、下端部に最大幅･最大厚を有する。砥面は下端部を含み５単位認められる。長さ 9.0cm､幅 3.8cm､厚さ 3.0cm､重量 136g を計り、石材は凝灰岩である。

141 は P591 の覆土から出土した砥石である。上半部を欠損する。断面形は角柱状を呈し、下端部を含め５単位の砥面が形成される。長さ 5.4cm、幅 2.6cm、厚さ 2.5cm、重量 51g を計り、石材は凝灰岩である。

142 は P893 の覆土から出土した砥石である。断面形は角柱状を呈し、表裏、両側面、上下両端部に砥面が形成される。表裏両側面の砥面は平坦であるが、上下両端部には丸みを持つ砥面が形成される。長さ 7.3cm、幅 2.7cm、厚さ 2.3cm、重量 99g を計り、石材は凝灰岩である。

143 は SE788 の覆土１層から出土した。石臼の下臼部分に相当する。４分の１程度残存する。本来の大きさは直径 30cm 程度と推定される。摺目は比較的明瞭に残っており、中央部には、軸穴がある。石材は安山岩で、残存する重量は 3,200g を量る。

144 は P623 の覆土から出土した。石臼の下臼部分に相当する。欠損しているが、本来の大きさは直径 30cm 程度と推定される。長期間の使用のためか摺目は全く残っておらず、光沢のある滑らかな平坦面が形成される。石材は安山岩で、残存する重量は 4,200g を量る。

E　銭　　貨（図版 59-145・146、図版 108）

P1591 の覆土から銭貨２枚が密着した状態で出土した（145・146）。145 は 1094 年に初鋳された「紹聖元寳」で､直径 2.4cm､厚さ 1.4mm､重さ 2.58g を量る。146 は 1078 年に初鋳された「元豊通寳」で、直径 2.4cm、厚さ 1.5mm、重さ 1.96g を量る。いずれも北宋銭である。

F　木　製　品（図版 59-147、図版 108）

147 はSE143 の覆土９層底面から出土した総黒色の漆器椀である。低い高台が付くが欠落している。口径 13cm、残存する器高 4.4cm、底径 7.3cm を測る。

5　ま　と　め

A　岩ノ原遺跡における遺構の変遷

今回の調査で岩ノ原遺跡Ⅱ（以下Ⅱ地区）からは古代及び中世の遺構・遺物を検出した。特に古代に関しては出土した墨書土器の内容（第Ⅷ章５Ｂで後述）から、平成 18 年度に調査を実施した岩ノ原遺跡Ⅰ［髙橋ほか 2008］（以下Ⅰ地区）と同様に「東大寺領石井荘」の荘園遺跡と推定される。ここでは両地区を対象として、遺構の存続時期を伴出する遺物の年代などから３時期に区分して、それらの変遷を記述する（第 33 図）。

岩ノ原ⅰ期（古代：８世紀中葉～９世紀初頭）

Ⅰ地区では北西部から８世紀中葉～後葉（春日編年Ⅳ - １期）に比定される須恵器[1)]が出土しており、後述する南東部の遺構群及びその周辺からはこの時期に比定される土器は見つかっていない。そのため北西部で検出した掘立柱建物３棟（SB ２・３・６）、杭列１基（SA ９）、土坑３基（SK １・７・８）、性格不明遺構１基（SX ４）が当該期の遺構に位置付けられるものと考えられる。掘立柱建物は一部を除き、柱穴に掘形を持たない打ち込み柱である。その形態や規模から住居ではなく倉庫もしくは小屋と推定され、儀明川に近いという立地から物資の搬入出のためのものと想定される［髙橋ほか 2008］。

Ⅱ地区では出土遺物の年代から竪穴住居３棟（SI1311・1312・1344）、井戸１基（SE1139）、土坑１基（SK1399）が当該期の遺構に位置付けられる。また掘立柱建物１棟（SB1523）は平面形が SB ２・６と同様に六角形を呈すること、柱穴が岩ノ原ⅱ期の遺構（SB1519・SK483）に切られていることから、当該期に位置付けられる可能性を持つ。

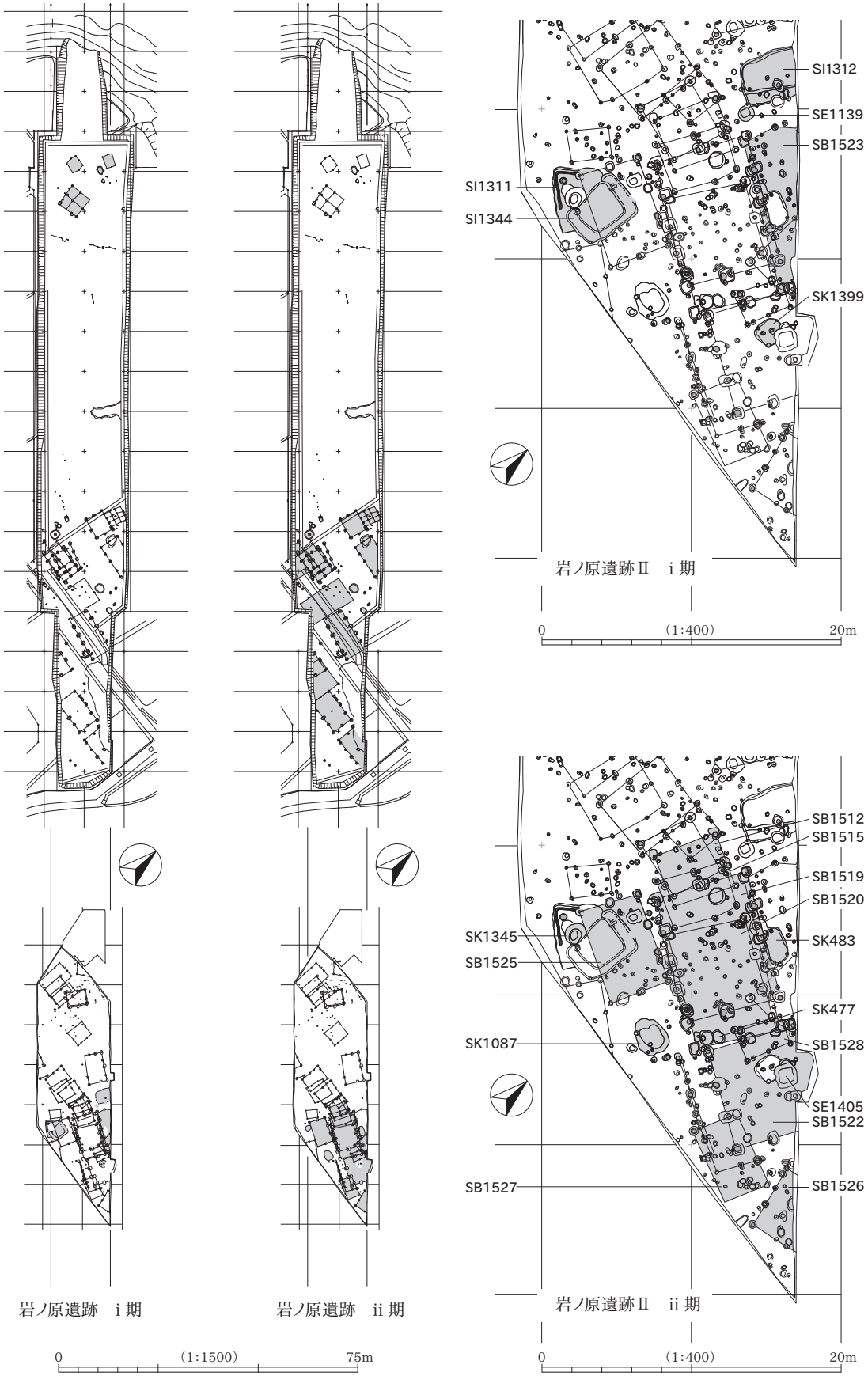
SI1312 からは「庄」の墨書が書かれた８世紀中葉に比定される須恵器有台杯（16）が出土した。Ⅰ地区の調査成果［髙橋ほか 2008］と合わせて考慮すると、両地区における当該期の遺構は「東大寺領石井荘」に関連する可能性が高い。遺構・遺物の検出状況から、Ⅱ地区が荘所、Ⅰ地区北西部が石井荘の物資の搬出入の場所として機能していたものと推定できる。しかし両者は直線距離にして約 250m 離れている。両者の間がどのように利用されていたかについては、現時点では不明である。

岩ノ原ⅱ期（古代：９世紀中葉～後葉）

Ⅰ地区では南東部に位置する遺構及びその周辺から９世紀中葉に比定される土器が多量に出土しており、土器の中には「石井庄」「石庄」「庄」と墨書したものが多く認められる。そのため南東部で検出した掘立柱建物 13 棟、井戸１基、土坑８基、性格不明遺構７基、溝１条、畑作溝 80 条が当該期の遺構に位置付けられ、この地が石井荘の荘所として機能していたものと考えられる。掘立柱建物は地形に直行する形で３列に分布し、配置に強い規則性が認められた。また畑作溝は掘立柱建物等を切っており、建物が廃絶した後、あまり時を経ずに畑を構築したものと推定される［髙橋ほか 2008］。

Ⅱ地区では出土遺物の年代及び遺構の切り合い関係から掘立柱建物９棟（SB1512・1515・1519・1520・1522・1525・1526・1527・1528）、井戸１基（SE1405）、土坑４基（SK477・483・1087・1345）が当該期の遺構に位置付けられる。９世紀中葉に比定される出土土器の中には「石井庄」「石庄」「庄」と

1）岩ノ原遺跡Ⅰの報告書ではこれらの土器の年代を８世紀末葉（笹沢編年Ⅳ - ２期）とした［金内 2008］が、後日、春日真実氏から他遺跡での一括資料との比較から８世紀中葉～後葉に位置付けられるとの指摘を受けたため、本稿ではその指摘に基づいた記述を行うものとする。



第 33 図　岩ノ原遺跡における遺構の変遷

墨書したものは認められなかったが、建物（群）に方角を冠して示したものと推定できる「東」（41）や、豊作を祈念する祭祀に関連するものと考えられる「大歳」（75）と墨書したものが確認できる。そのことから一般の集落とは考えられず、石井荘の荘所であった可能性が高い。またⅡ地区ではⅠ地区で確認できなかった灰釉陶器が一定量出土している。頸城郡において灰釉陶器の搬入が本格化するのは９世紀中葉～末葉と考えられており［笹澤 2003］、Ⅰ地区南東部の建物群が廃絶した後もしばらくの間、Ⅱ地区において荘所が営まれていた可能性がある。

またⅠ地区とⅡ地区の掘立柱建物の長軸方向を比較すると、Ⅰ地区の南北棟長軸はＮ－５～17°－Ｅ、東西棟長軸はＮ－72～79°－Ｗ及びＮ－83～86°－Ｗの範囲に収まる［髙橋ほか 2008］。これに対してⅡ地区の南北棟長軸はＮ－18°－Ｗ及びＮ－21～25°－Ｅ、東西棟長軸はＮ－64～73°－Ｗの範囲に収まり、地区によって異なっていることがわかる。また建物の面積を比較してもⅠ地区は 15.90～75.44㎡の範囲に収まるのに対し、Ⅱ地区は 6.59～55.83㎡と一回り小さい。このことから両地区の建物の役割が異なっていた可能性も考えられる。

岩ノ原ⅲ期（中世：13 世紀～ 15 世紀前半）

Ⅰ地区では当該期の遺構は検出できず、遺物包含層上面から珠洲焼（珠洲Ⅳ期・14 世紀）が数点出土したのみである［髙橋ほか 2008］。

Ⅱ地区では珠洲焼等中世の遺物が出土することから、掘立柱建物５棟（SB276・288・289・292・294）、井戸９基（SE760・788・834・1565・1221・488・1155・143・203）、土坑１基（SK183）が当該期の遺構に位置付けられる。掘立柱建物は南東側（18A・Ｂグリッド）に限定されるのに対して、井戸はⅡ地区全域（10・11B、12・13・18A グリッド）に渡って検出できた。したがって岩ノ原ⅲ期における集落の中心はⅡ地区南東側にあったものと考えられるが、調査区域が限定されているため、その様相を判断することは困難である。出土遺物の大半は珠洲焼で、珠洲Ⅱ期（13 世紀前半）～Ⅴ期（14 世紀後葉～ 15 世紀前半）に比定されるものが確認できるが、Ⅳ期に比定されるものが多い。このため集落の中心となる時期は 14 世紀頃と推定できる。

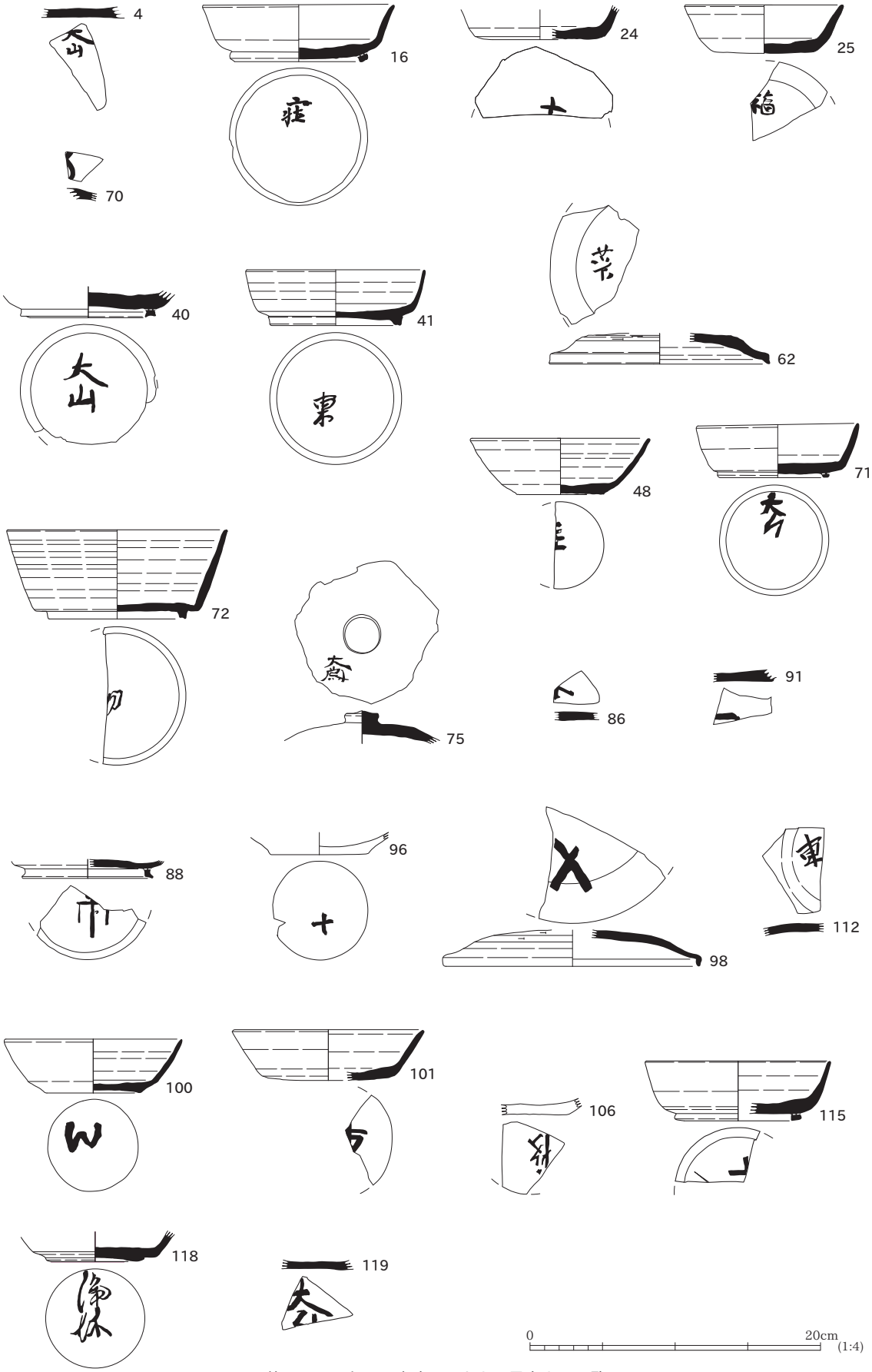
Ｂ　岩ノ原遺跡Ⅱ出土の墨書土器について

１）概　　要

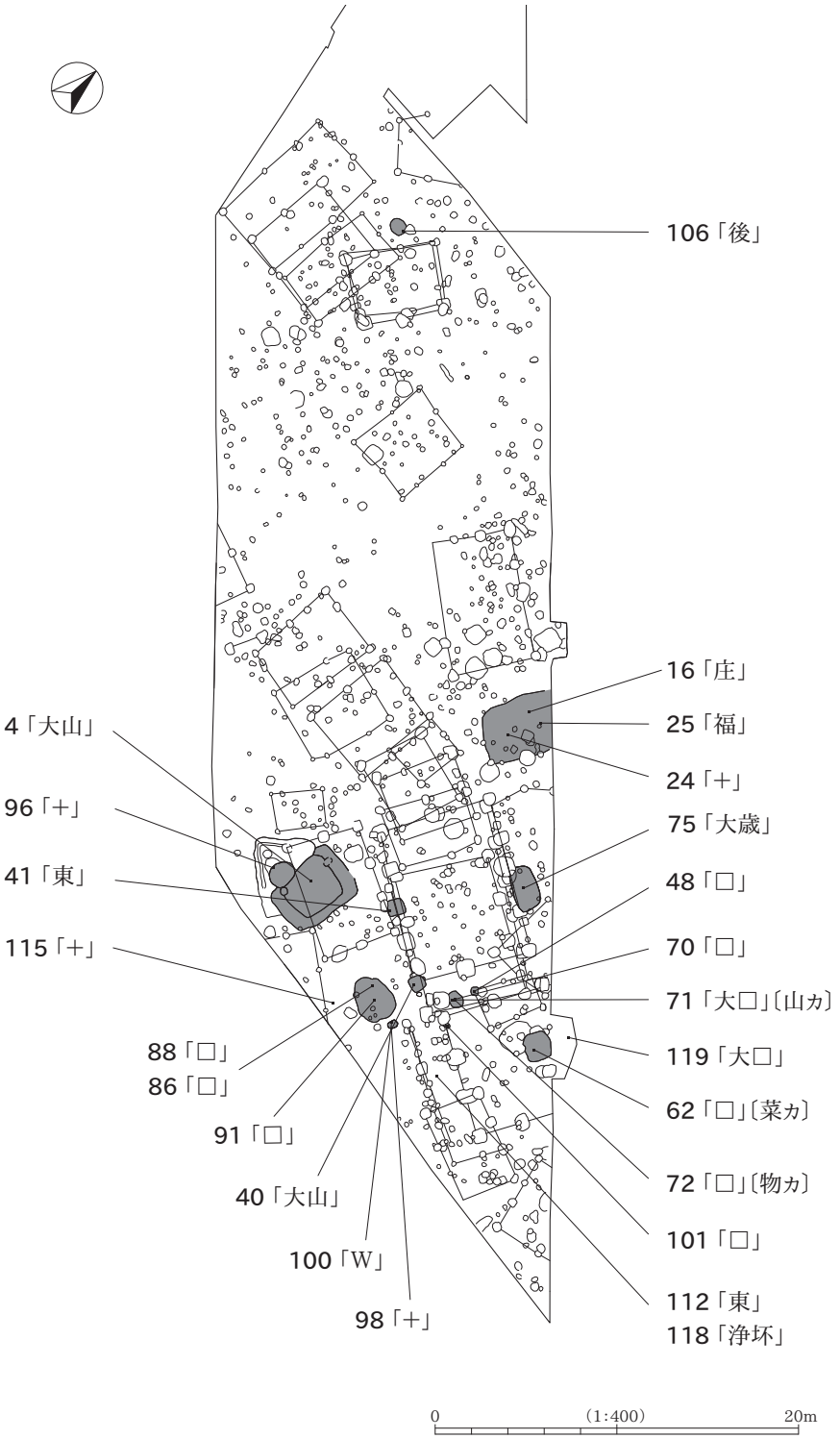
岩ノ原遺跡Ⅱの発掘調査では 24 点の墨書土器が出土した（第 34・35 図）。ほとんどが調査区東側の竪穴住居や掘立柱建物、土坑等の遺構が密集する範囲から出土しており、調査区西側からの出土は 106 の１点だけである。墨書土器の出土遺構には、竪穴住居や掘立柱建物の柱穴、土坑、井戸、ピットがある。SI1312 から３点、SB1519 の柱穴から２点、SK477 から３点、SK1087 から３点と同一遺構から複数点出土しているが、特定の文字が集中する傾向は見られない。墨書土器 24 点の内訳は、須恵器が 22 点、土師器が２点であり、器種は須恵器が無台坏・有台坏・坏蓋、土師器が無台椀で、すべて食膳具である。

２）主な文字の検討

墨書土器 24 点の内、文字を判読できたものは 18 点（推定によるものを含む）である。以下、主な文字について述べる。「浄坏」は須恵器無台坏(118)の底部外面にやや大きく記されている。偏は連続的に記し、旁はややくずして記している。「浄坏」の例は管見の限り見出すことができなかったが、「○＋坏」の例として「酒坏」（宮城県山王遺跡、石川県浄水寺跡ほか）や「寺坏」（千葉県囲護台遺跡、熊本県洗切遺跡ほか）など



第 34 図　岩ノ原遺跡Ⅱ　出土の墨書土器一覧



第 35 図　岩ノ原遺跡Ⅱの墨書土器出土地点

がある[1)]。「浄坏」は文字通り“清浄な坏”を意味すると考えられる。胎土や作り方など、土器そのものは決して特別なものとは考えられないが、「浄坏」という文字を記すことによって特別な器であることが示され、祭祀などの場で使用されたのであろう。

「大山」は須恵器有台坏（40）の底部外面にやや大きく記されている。須恵器無台坏（4）にも「大山」と書かれているが、こちらは底部外面に小さく記している。71 は二文字目の墨痕が薄く読みきることができないが、「大□〔山ヵ〕」と同じ文字を記している可能性がある。「大山」の意味は不明である。

「東」は須恵器有台坏（41）の底部外面に記されている。須恵器坏蓋（112）の外面にも「東」と書かれている。41 と 112 は文字の大きさや字形が類似している。古代の初期荘園の荘所とされる遺跡からは「北館」（上越市榎井Ａ遺跡）、「東庄」（石川県金沢市上荒屋遺跡）など、方角を冠する語句が記された墨書土器が出土している。これらは複数の建物（群）から構成される施設において、それぞれの建物（群）に方角を冠して示したものと考えられる。また、天平神護２（766）年の「越前国足羽郡道守村開田地図」[2)]によれば、荘所と思われる建物群が２か所に描かれており、荘所が複数の建物群から構成されていることが分かる。41 と 112 には「館」「家」など建物を表す語句が書かれていないが、これらの例からすれば、複数の建物（群）から構成される施設において、特定の建物（群）に方角呼称を用いて示している可能性があろう。

「大歳」は須恵器坏蓋（75）の外面にやや小さく書かれている。「歳」はかなりくずしている。本遺跡の南側に隣接する中田原遺跡Ⅱの調査でも「大歳」と記された須恵器有台坏が出土しているが、字形は異なる。「大歳」は“大歳神”のことであろう。大歳（年）神は『古事記』に須佐之男命と神大市比売の間に生まれた神としてみえ、年穀を掌る穀物神とされている[3)]。また、『古事記』によれば大歳神の子として御年（歳）神がおり、同様の神格とされている。『古語拾遺』には、御歳神の祟りによって大地主神の田の苗が枯れそうになったので、白猪・白馬・白鶏などを供えたところ苗が再び茂ったという説話がある[4)]。さらに千葉県山武郡芝山町庄作遺跡からは「×秋人歳神奉進　上総×」と書かれた墨書土器が出土しており、上総国○○郡○○郷某秋人が歳神を招き入れるために、土器にご馳走を盛り奉進したものと考えられている[5)]。これらの例からすれば、本遺跡出土の「大歳」と書かれた墨書土器は、穀物の豊作を祈念する祭祀において、大歳神に対するお供えに用いられたものと考えられよう。

「庄」は須恵器有台坏（16）の底部外面のやや上寄りに小振りに記されている。「庄」の墨書土器は北側に位置する岩ノ原遺跡Ⅰでも出土している。岩ノ原遺跡Ⅰの調査では「庄」のほかに、「石井庄」「石庄」など「庄」の文字を含む墨書土器が 28 点出土しているが、字形はいずれも 16 とは異なる。16 はまだれの左側に点が付く字形であり、石川県金沢市上荒屋遺跡出土の墨書土器などにも見られる字形である。県内では岩ノ原遺跡の他に、上越市（旧頸城村）の榎井Ａ遺跡からも「庄」と書かれた墨書土器が出土している。また、北蒲原郡聖籠町山三賀Ⅱ遺跡からは「□〔庄ヵ〕」、加茂市馬越遺跡からは「妙越□〔庄ヵ〕」と判読される墨書土器が出土している。

1）墨書土器の出土例の検索にあたっては、「出土文字資料データベース－墨書・刻書土器編－」（平成 11 ～ 13 年度科学研究費補助金　基礎研究 B2）「古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究」（研究代表者　吉村武彦、2002 年）、小林昌二ほか編『新潟県内出土古代文字資料集成』（新潟墨書土器検討会、2004 年）、『青森県史　資料編古代２出土文字資料』（2008 年）などを用いた。

2）『大日本古文書　家わけ第 18　東大寺文書４』（東京大学出版会、1966 年）

3）倉野憲司校注『古事記』（岩波書店、1963 年）

4）西宮一民校注『古語拾遺』（岩波書店、1985 年）

5）平川南「“古代人の死”と墨書土器」『墨書土器の研究』（吉川弘文館、2000 年）

「福」は須恵器無台坏（25）の底部外面に小さく記されている。「福」は事物の良好な状態を表す吉祥的な文字であり、県内では新潟市山木戸遺跡で「福」、新潟市（旧潟東村）土手内遺跡で「善福」と記された墨書土器が出土している。

３）　ま　と　め

岩ノ原遺跡Ⅱの調査では、岩ノ原遺跡Ⅰの調査と共通する「庄」（16）の墨書土器が出土した。このことから、本遺跡が８世紀中頃に成立した「東大寺領石井荘」の荘所であり、さらに土器の年代から成立直後にはこの地に荘所が営まれていたものと考えられる。また、「東」（41・112）の墨書土器からは、荘所の施設が複数の建物（群）から構成されていたことが推測される。荘所は、春と夏の出挙や収穫後の稲の収納など、初期荘園における農業経営の拠点として機能していたことは勿論のこと、「大歳」（75）の墨書土器に見られるような、豊作を祈念する祭祀が行なわれており、そのような祭祀の場では「浄坏」（118）と記された特別な器が使用されていたのである。

SB276

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18A16･17	円形	U字状	21.25	20.83	37	32	42	柱痕有	P1-P2:3.82m		
P2	18A13	長楕円形	台形状	21.19	20.93	28	15	26		P2-P3:1.77m		調査区外に延びる
P3	18A13･14	楕円形	U字状	21.17	20.89	30	23	28		P3-P4:1.65m	土師器	SB276-P3＜P94
P4	18A19	円形	台形状	21.22	21.01	23	23	21		P4-P5:1.39m		
P5	18A24	楕円形	不整形	21.19	20.87	33	29	31		P5-P6:1.67m		SB276-P5＞P103
P6	18A25	円形	U字状	21.13	20.77	25	22	37		P6-P7:1.78m	須恵器･土師器	SB276-P6＞P90
P7	18B4	円形	台形状	21.25	20.87	42	38	38	柱痕有	P7-P8:2.01m	土師器･珠洲焼	SK187＜SB276-P7＜P116･168
P8	18B3	円形	U字状	21.34	20.63	33	30	70		P8-P9:3.17m		
P9	18A22	円形	U字状	21.27	20.89	24	22	39	柱痕有	P9-P10:1.27m		
P10	18A17･22	楕円形	台形状	21.27	20.83	52	45	44		P10-P11:1.54m		SB276-P10＞SK183･P192
P11	18A18	円形	U字状	21.24	20.75	35	31	50		P11-P3:1.96m		

SB288

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18A21･22	円形	U字状	21.25	20.60	52	45	65	柱痕有	P1-P2:2.04m	須恵器	SB288-P1＞SK183･P191
P2	18A17	楕円形	U字状	21.26	20.94	85	62	33	柱痕有	P2-P3:2.14m	土師器･珠洲焼	
P3	18A18	長楕円形	U字状	21.16	20.73	44	30	44	柱痕有	P3-P4:2.34m		SB288-P3＜P153
P4	18A19･24	円形	階段状	21.16	20.78	62	57	38	柱痕有	P4-P5:2.23m	土師器･珠洲焼	SB288-P4＞SD106
P5	18B4	楕円形	U字状	21.22	21.08	47	40	13		P5-P6:1.68m		SB288-P5＞P116
P6	18B4	長楕円形	U字状	21.08	20.94	37	22	14		P6-P7:2.04m		SB288-P6＜SK184
P7	18B8	楕円形	不整形	21.41	20.91	44	34	50	柱痕有	P7-P1:4.67m		

SB289

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18B7	楕円形	U字状	21.53	21.10	37	30	43		P1-P2:1.97m	須恵器	SB289-P1＞SB290-P1･SK182
P2	18B2	楕円形	不整形	21.29	20.80	55	43	49	柱痕有	P2-P3:1.51m		SB289-P2＞SE200･P205
P3	18B3	楕円形	台形状	21.28	20.68	64	54	59	柱痕有	P3-P4:2.19m	土師器･珠洲焼	
P4	18B4	楕円形	台形状		20.81	50	38	47		P4-P5:2.22m	須恵器	SK187＜SB289-P4＜P168
P5	18B5	円形	台形状	21.23	20.94	28	27	30		P5-P6:1.90m		
P6	18B10	楕円形	箱状	21.35	20.62	23	18	73		P6-P7:1.52m	土師器	
P7	18B14･15	長楕円形	台形状	21.43	21.01	74	42	42	柱痕有	P7-P8:2.17m	須恵器･土師器	SB289-P7＜P27
P8	18B13	楕円形	台形状	21.44	20.92	33	27	52	柱痕有	P8-P1:2.41m	須恵器･土師器	SB289-P8＞SK61

SB290

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18B7	楕円形	台形状	21.52	21.10	29	22	43		P1-P2:1.48m	須恵器	SK182＜SB290-P1＜SB289-P1
P2	18B8	楕円形	階段状	21.43	20.77	50	36	67	柱痕有	P2-P3:1.19m		SB290-P2＞P149
P3	18B8	楕円形	不整形	21.29	20.84	42	34	45	柱痕有	P3-P4:1.63m	土師器	SB290-P3＞P129
P4	18B9･14	円形	台形状	21.43	21.17	27	25	26		P4-P5:1.59m		
P5	18B14	楕円形	台形状	21.52	21.37	33	23	15				

SB291

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18B7	楕円形	U字状	21.47	20.53	36	25	95		P1-P2:1.21m	須恵器	調査区外に延びる
P2	18B8･13	楕円形	U字状	21.49	21.07	33	27	42	柱痕有	P2-P3:1.62m		
P3	18B14	円形	台形状	21.45	21.10	32	29	35	柱痕有	P3-P4:1.28m		SB291-P3＞SK61
P4	18B13	楕円形	U字状	21.47	21.07	42	34	39				調査区外に延びる

SB292

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18B13	長楕円形	不整形	21.54	21.20	41	23	34		P1-P2:0.87m	須恵器･珠洲焼	SB292-P1＞SK4 調査区外に延びる
P2	18B13	円形	半円状	21.45	21.23	29	29	22		P2-P3:1.32m		SB292-P2＞SK4
P3	18B13･14	円形	台形状	21.52	21.32	39	39	20	柱痕有	P3-P4:1.56m	須恵器	
P4	18B14	円形	箱状	21.52	21.37	34	23	15	柱痕有			調査区外に延びる

第 23 表　岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表（1）

SB293

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18A13	長楕円形	台形状	21.22	20.77	30	19	45		P1-P2:1.62m		調査区外に延びる
P2	18A13･14	円形	台形状	21.19	20.94	38	35	25		P2-P3:1.97m		
P3	18A14･19	円形	台形状	21.14	20.44	31	30	70				調査区外に延びる

SB294

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18A14	長楕円形	箱状	21.18	20.97	44	28	21		P1-P2:0.83m	須恵器	
P2	18A19	楕円形	台形状	21.20	21.09	22	18	11		P2-P3:1.14m		
P3	18A19	楕円形	箱状	21.16	20.68	23	19	49		P3-P4:0.94m	土師器･珠洲焼	
P4	18A20	円形	台形状	21.10	20.94	30	27	16				

SB295

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	18B9･14	楕円形	台形状	21.40	20.97	109	82	43	柱痕有	P1-P2:2.51m	須恵器･土師器	SB295-P1＜P27
P2	18B10／19B6	円形	台形状	21.38	20.82	81	78	56	柱痕有			SB295-P2＞P62

SB1501

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	9A19･20	円形	U字状	22.27	22.14	23	9	13		P1-P2:1.91m		調査区外に延びる
P2	9A24	楕円形	不整形	22.25	22.01	44	32	25	柱痕有	P2-P3:1.64m		
P3	9B4	円形	U字状	22.29	21.82	41	37	48	柱痕有	P3-P4:1.59m		
P4	9B3	円形	半円状	22.34	22.14	34	12	22		P4-P5:1.25m		SB1501-P4＜撹乱
P5	9B3	円形	半円状	22.35	22.25	31	30	10	柱痕有	P5-P6:1.62m		
P6	9A22･23	楕円形	半円状	22.10	21.72	30	25	38				

SB1502

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	9B13	円形	U字状	22.43	22.17	23	21	27		P1-P2:1.37m		SB1502-P1＞P645
P2	9B13	円形	U字状	22.44	21.98	26	25	45		P2-P3:1.43m	土師器	SB1502-P2＞P642
P3	9B9	円形	U字状	22.25	22.00	35	33	26	柱痕有	P3-P4:1.75m		
P4	9B9	円形	半円状	22.31	22.20	19	17	11		P4-P5:3.10m		
P5	9B15／10B11	円形	台形状	22.43	21.77	44	40	66	柱痕有	P5-P6:2.26m	土師器	
P6	10B16	円形	U字状	22.39	21.99	22	20	40		P6-P7:2.05m		
P7	10B22	楕円形	U字状	22.41	21.98	42	35	42	柱痕有	P7-P8:4.27m		
P8	9C5	円形	U字状	22.41	22.00	43	41	41		P8-P9:3.25m		
P9	9B24	楕円形	半円状	22.47	22.39	32	24	8		P9-P10:2.34m		
P10	9B18	楕円形	半円状	22.46	22.33	31	23	13		P10-P1:1.69m		SB1502-P10＜P1218

SB1503

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	9B14･15	楕円形	U字状	22.41	21.58	68	50	83	柱痕有	P1-P2:4.98m	須恵器･ 土師器･珠洲焼	
P2	10B6	円形	台形状	22.35	21.97	47	45	38		P2-P3:2.52m		SB1503-P2＝SB1533-P8
P3	10B12	楕円形	台形状	22.41	21.98	42	36	43	柱痕有	P3-P4:2.54m	土師器	SB1503-P3＜P542
P4	10B18	楕円形	U字状	22.50	21.92	41	34	58	柱痕有	P4-P5:2.33m		
P5	10B17･22	楕円形	U字状	22.33	22.11	41	33	23	柱痕有	P5-P6:2.46m		
P6	10B21	円形	半円状	22.40	22.20	47	41	20		P6-P7:2.46m		
P7	9B20	円形	U字状	22.39	21.94	41	39	22	柱痕有	P7-P1:2.49m		SB1503-P3＜P623

SB1504

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	9B10	円形	台形状	22.38	22.21	22	19	17		P1-P2:1.45m	土師器	
P2	10B6	円形	台形状	22.33	22.19	21	20	14	柱痕有	P2-P3:1.74m		
P3	10B1･2	円形	U字状	22.31	22.05	22	22	25		P3-P4:1.66m		
P4	10B7	楕円形	U字状	22.40	21.91	51	36	49	柱痕有	P4-P5:2.98m		SB1504-P4＜P1471
P5	10B13	円形	台形状	22.50	22.35	20	19	15		P5-P6:1.13m		SB1504-P5＞P902
P6	10B13	楕円形	半円状	22.44	22.05	46	37	39	柱痕有	P6-P7:3.04m		
P7	10B17	楕円形	半円状	22.34	22.24	23	18	10		P7-P8:2.95m	土師器	
P8	10B11	楕円形	台形状	22.39	22.16	41	35	23	柱痕有	P8-P1:2.57m		

第 24 表　岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表（２）

SB1505

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12B11	楕円形	台形状	22.40	21.93	50	42	46	柱痕有	P1-P2:1.08m	須恵器･土師器	
P2	12B11	楕円形	不整形	52.48	21.99	53	36	42	柱痕有	P2-P3:3.00m		
P3	12B7	楕円形	半円状	22.44	22.17	46	37	28	柱痕有	P3-P4:1.28m		SB1505-P3＞P805
P4	12B7･8･12･13	円形	U字状	22.45	22.03	43	39	42	柱痕有	P4-P5:1.53m	須恵器	
P5	12B13	長楕円形	半円状	22.47	22.36	48	28	11		P5-P6:2.55m		
P6	12B19	円形	半円状	22.55	22.47	23	21	7		P6-P7:2.70m		
P7	12B23	円形	台形状	22.62	22.42	34	31	20		P7-P8:0.88m		SB1505-P7＜P1040
P8	12B22	楕円形	U字状	22.67	22.12	39	33	55	柱痕有	P8-P9:2.56m	土師器	
P9	12B16･17	円形	U字状	22.48	22.07	43	38	41	柱痕有	P9-P10:1.18m		
P10	12B16	円形	U字状	22.46	22.11	40	36	34	柱痕有	P10-P1:1.45m		

SB1508

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	10B5	楕円形	台形状	22.40	22.26	31	21	14		P1-P2:1.57m		SB1508-P1＜P922
P2	11A21	円形	台形状	22.32	22.20	29	26	12		P2-P3:2.41m	須恵器	
P3	11A17	円形	台形状	22.29	22.25	17	16	4		P3-P4:1.44m		
P4	11A22	円形	半円状	22.31	22.10	26	24	21	柱痕有	P4-P5:1.89m		
P5	11B3	楕円形	台形状	22.35	22.20	23	18	15	柱痕有	P5-P6:1.04m		
P6	11B3	楕円形	台形状	22.28	22.10	28	22	18	柱痕有	P6-P7:1.86m		
P7	11B7	円形	U字状	22.39	22.07	30	29	33		P7-P8:2.29m		
P8	11B6･7	円形	半円状	22.37	22.22	30	27	22	柱痕有	P8-P9:2.69m		
P9	11B1	円形	半円状	22.41	22.27	18	17	14		P9-P1:2.07m		

SB1511

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12B2･3･7･8	楕円形	U字状	22.47	21.89	43	32	57	柱痕有	P1-P2:2.18m		
P2	12B3･4	楕円形	U字状	22.37	21.90	47	34	47	柱痕有	P2-P3:2.35m	土師器	
P3	12A24	楕円形	台形状	22.43	22.16	36	27	27		P3-P4:1.38m		
P4	12B5	楕円形	不整形	22.44	22.04	40	32	40	柱痕有	P4-P5:1.38m	須恵器	
P5	12B5	楕円形	U字状	22.43	21.85	48	37	58	柱痕有	P5-P6:2.07m	須恵器･土師器	
P6	13B6	楕円形	U字状	22.44	21.65	46	35	79	柱痕有	P6-P7:4.44m		
P7	12B14･19	楕円形	半円状	22.51	22.07	52	39	44	柱痕有	P7-P8:2.53m		
P8	12B8･13	円形	半円状	22.47	22.10	46	41	37	柱痕有	P8-P9:1.68m	土師器	
P9	12B8	長楕円形	半円状	22.46	22.19	45	29	27	柱痕有	P9-P1:0.94m		

SB1512

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12A25	楕円形	台形状	22.50	22.21	91	74	29	柱痕有	P1-P2:2.33m	土師器･ 灰釉陶器	
P2	13A16	楕円形	漏斗状	22.24	21.58	57	49	66	柱痕有	P2-P3:1.48m	土師器	SB1512-P2＞SB1515-P1
P3	13A17	円形	台形状	22.19	21.88	42	42	31		P3-P4:4.34m		
P4	13B2･3	長楕円形	U字状	22.44	22.06	35	23	38		P4-P5:3.57m		
P5	13B6	長楕円形	半円状	22.39	22.07	71	47	32	柱痕有	P5-P6:1.50m		
P6	13B1	長楕円形	半円状	22.44	22.34	40	25	10		P6-P1:2.90m	土師器	

SB1513

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12B7･12	円形	U字状	22.45	22.03	32	30	42		P1-P2:2.72m		
P2	12B8･9	円形	U字状	22.45	22.06	28	28	39	柱痕有	P2-P3:1.64m		
P3	12B4･9	楕円形	漏斗状	22.39	21.74	41	33	65		P3-P4:1.42m		
P4	12B10	楕円形	半円状	22.42	22.32	27	20	10	柱痕有	P4-P5:2.65m		
P5	12B15	楕円形	U字状	22.52	22.32	30	22	20	柱痕有	P5-P6:0.80m		
P6	12B15･10	円形	半円状	22.51	22.41	21	20	10		P6-P7:4.22m		
P7	12B23･24	楕円形	漏斗状	22.64	22.29	33	27	35		P7-P8:1.45m		
P8	12B18	長楕円形	半円状	22.54	22.39	40	27	14		P8-P9:1.97m		
P9	12B12･13	円形	半円状	22.47	22.33	31	28	13	柱痕有	P9-P1:1.36m		SB1513-P9＜撹乱

SB1514

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12A24	楕円形	漏斗状	22.41	21.77	46	37	64	柱痕有	P1-P2:1.19m		
P2	12A25	円形	半円状	22.44	22.25	36	32	19	柱痕有	P2-P3:1.38m		SB1514-P2＜P1136
P3	12A20･25	楕円形	半円状	22.39	22.26	36	29	13	柱痕有	P3-P4:2.73m	須恵器･土師器	
P4	13A21／13B1	円形	U字状	22.37	21.92	43	41	46	柱痕有	P4-P5:2.55m	土師器	
P5	12B5	円形	半円状	22.41	22.30	26	23	11	柱痕有	P5-P1:2.87m	土師器	

第 25 表　岩ノ原遺跡 II 掘立柱建物柱穴観察表（3）

SB1515

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13A16･21	円形	台形状	22.31	21.55	67	65	76	柱痕有	P1-P2:3.14m	須恵器･土師器	SB1515-P1＜SB1512-P2･P1544
P2	13A17･18	楕円形	台形状	22.22	22.02	49	36	21	柱痕有	P2-P3:1.60m		
P3	13A23	円形	U字状	22.26	21.56	43	39	70	柱痕有	P3-P4:2.86m	土師器･黒色土器	
P4	13B3	円形	台形状	22.37	22.04	40	38	33	柱痕有	P4-P5:3.34m		
P5	13B7	長楕円形	U字状	22.47	21.76	58	40	71	柱痕有	P5-P6:2.59m		
P6	13A21／13B1	楕円形	半円状	22.36	22.15	54	40	22	柱痕有	P6-P1:2.10m		

SB1516

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12A24･25／12B4･5	楕円形	U字状	22.41	21.96	72	62	45	柱痕有	P1-P2:4.12m	土師器	
P2	13A16･21	円形	台形状	22.17	21.98	44	42	20		P2-P3:3.60m		
P3	13B2	楕円形	U字状	22.42	21.84	42	31	58		P3-P4:4.16m		
P4	12B10／13B6	楕円形	台形状	22.41	22.19	61	46	22	柱痕有	P4-P1:3.74m	土師器	SB1516-P4＞P941

SB1517

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13B11	円形	半円状	22.53	22.36	25	24	18		P1-P2:1.98m		
P2	13B12	長楕円形	U字状	22.56	22.28	31	21	28		P2-P3:2.70m		
P3	13B17･22	楕円形	半円状	22.55	22.36	30	23	19		P3-P4:2.09m		
P4	13B21	円形	半円状	22.63	22.55	19	17	8		P4-P1:2.83m	土師器	

SB1518

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	11A24	楕円形	台形状	22.30	22.15	48	41	15	柱痕有	P1-P2:1.43m		
P2	11A19	円形	漏斗状	22.38	21.82	65	62	56	柱痕有	P2-P3:1.71m		
P3	11A14	楕円形	台形状	22.33	21.93	93	65	40	柱痕有	P3-P4:2.09m	土師器	SB1518-P3＜P867･1388
P4	11A15	円形	不整形	22.41	22.22	58	57	22	柱痕有	P4-P5:1.65m		P821＜SB1518-P4＜P822
P5	11A15／12A11	長楕円形	半円状	22.39	21.84	102	68	55	柱痕有	P5-P6:2.14m		SB1518-P5＞P824
P6	12A12	長楕円形	不整形	22.30	21.83	49	31	47		P6-P7:1.36m		
P7	12A7･8･12･13	円形	半円状	22.26	21.82	51	49	44		P7-P8:1.52m		SB1518-P7＞P1059
P8	12A12･13	楕円形	漏斗状	22.31	21.54	59	48	77		P8-P9:3.08m	土師器	
P9	12A23	円形	U字状	22.35	21.84	67	59	52	柱痕有	P9-P10:1.85m		
P10	12A22	円形	台形状	22.44	22.04	58	54	40	柱痕有			SB1518-P10＜撹乱

SB1519

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13A11･16･17	円形	半円状	22.07	21.73	73	70	34	柱痕有	P1-P2:2.42m	須恵器	SB1519-P1＞SB1523-P3
P2	13A12･13･17･18	楕円形	半円状	22.21	21.69	93	77	51	柱痕有	P2-P3:2.06m	須恵器･土師器	SB1519-P2＞SB1523-P4
P3	13A13･14	長楕円形	台形状	22.15	22.28	91	39	47	柱痕有	P3-P4:1.86m		SB1523-P5＜SB1519-P3＜SE488･SK483
P4	13A14･15	楕円形	台形状	22.05	21.68	86	69	37	柱痕有	P4-P5:2.43m	土師器	SB1523-P6＜SB1519-P4＜SK483
P5	13A10･15／14A6･11	円形	台形状	22.14	21.62	89	85	51	柱痕有	P5-P6:4.00m	須恵器･土師器	SB1519-P5＞SB1523-P7
P6	14A16･21	楕円形	台形状	22.29	21.83	121	99	46	柱痕有	P6-P7:2.68m	須恵器･土師器	SB1519-P6＜P1310･1315
P7	14A21･22／14B1･2	楕円形	台形状	22.18	21.76	100	82	42	柱痕有	P7-P8:2.27m	須恵器･土師器	SB1519-P7＞SA1524-P5･P1309
P8	13B5／14B1	楕円形	台形状	22.33	21.75	114	87	59	柱痕有	P8-P9:1.87m	須恵器･土師器･珠洲焼	
P9	13A4･5	円形	台形状	22.35	21.72	114	106	62	柱痕有	P9-P10:2.04m	須恵器･土師器	SB1519-P9＞P522
P10	13B3･4･8･9	楕円形	台形状	22.26	21.78	103	88	48	柱痕有	P10-P11:2.30m	須恵器	SB1519-P10＜SB1520-P8
P11	13B2･7･8	楕円形	台形状	22.50	21.83	102	76	67	柱痕有	P11-P12:2.93m	須恵器･珠洲焼	SB1519-P11＜P492･493
P12	13A22	楕円形	台形状	22.27	21.77	92	80	51	柱痕有	P12-P1:3.36m		SK1500＜SB1519-P12＜P1129

第 26 表　岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表（4）

SB1520

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13A18	円形	台形状	22.25	21.80	77	70	45	柱痕有	P1-P2:2.44m	土師器	P504･1361＜SB1520-P1＜P1362
P2	13A14･19	円形	台形状	22.30	21.73	87	79	57	柱痕有	P2-P3:2.39m	土師器	
P3	13A15	楕円形	台形状	22.18	21.92	86	73	26	柱痕有	P3-P4:2.95m	土師器	P1280＜SB1520-P3＜P1279
P4	14A12	楕円形	台形状	21.96	21.49	70	58	47	柱痕有	P4-P5:5.44m	土師器	SB1520-P4＞SB1523-P8
P5	14A22･23／14B2	楕円形	箱状	22.09	21.73	92	68	36	柱痕有	P5-P6:2.71m	須恵器･土師器	SB1520-P5＜P530･1420
P6	14A21／14B1	楕円形	弧状	22.27	21.83	101	76	45	柱痕有	P6-P7:2.44m	土師器	SB1520-P6＞SA1524-P5
P7	13B5	楕円形	箱状	22.35	21.94	79	57	41	柱痕有	P7-P8:2.65m	須恵器･土師器	SB1520-P7＞SA1523-P3
P8	13B3･4	長楕円形	漏斗状	22.36	21.96	82	45	39	柱痕有	P8-P1:5.26m	須恵器･土師器	SB1520-P8＞SB1519-P10

SB1521

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	11C4･5	円形	台形状	22.58	22.37	46	44	21	柱痕有	P1-P2:2.25m		
P2	11B25／12B21	楕円形	台形状	22.66	22.36	54	47	30	柱痕有			

SB1522

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	14A6･7	長楕円形	台形状	21.91	21.65	78	47	26	柱痕有	P1-P2:2.97m	土師器	SB1522-P1＞P506
P2	14A12･17	楕円形	漏斗状	22.10	21.81	83	71	30	柱痕有	P2-P3:2.92m	土師器	SB1522-P2＜P1543
P3	14A22･23	楕円形	台形状	22.02	21.63	80	64	40	柱痕有	P3-P4:2.34m	須恵器･土師器	P474＜SB1522-P3＜P1589
P4	14A18･19･23･24	楕円形	不整形	22.07	21.52	108	90	55	柱痕有	P4-P5:2.29m	須恵器･土師器	P1418＞SB1522-P4＞P473･1582
P5	14A19･20･24･25	長楕円形	不整形	21.90	21.45	116	74	46	柱痕有	P5-P6:2.21m	須恵器･土師器	SB1522-P5＜SB1527-P4
P6	15A16／14A20	楕円形	台形状	21.86	21.47	90	75	39	柱痕有	P6-P7:2.60m		SB1522-P6＜P1254
P7	14A15／15A11	楕円形	不整形	21.88	21.58	97	72	29				SB1522-P7＜P734･1255

SB1523

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13A6	（円形）	半円状	22.35	22.05	46	21	30		P1-P2:1.53m		調査区外に延びる
P2	13A11	円形	U字状	22.14	21.74	42	39	40		P2-P3:2.34m		
P3	13A16･17	楕円形	台形状	22.19	21.87	83	62	32	柱痕有	P3-P4:1.95m		SB1523-P3＜SB1519-P1
P4	13A13･17･18	楕円形	箱状	22.23	22.00	85	70	23		P4-P5:2.29m		SB1523-P4＜SB1519-P2
P5	13A13･14	長楕円形	箱状	22.21	21.75	86	31	46		P5-P6:1.81m		SB1523-P5＜SB1519-P3･SE488･SK483
P6	13A14･15	楕円形	台形状	22.18	21.97	69	52	21	柱痕有	P6-P7:2.01m	須恵器	SB1523-P6＜SB1519-P4･P1487
P7		長楕円形	不整形	22.25	21.89	80	39	36		P7-P8:2.02m		SB1523-P7＜SB1519-P5･P486
P8	14A6･7･11･12	長楕円形	台形状	21.96	21.66	89	45	30				SB1523-P8＜SB1520-P4･P506

SB1525

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13B18	長楕円形	残り悪い	22.42	22.31	49	28	11	柱痕有	P1-P2:2.10m	土師器	SB1525-P1＞SI1344
P2	13B12･13	円形	箱状	22.54	22.26	70	65	28		P2-P3:1.99m		
P3	13B7	楕円形	台形状	22.52	22.20	68	52	32	柱痕有	P3-P4:2.09m		SB1525-P3＜撹乱
P4	13B8	円形	台形状	22.48	22.33	64	57	15		P4-P5:1.97m		
P5	13B4･9	楕円形	台形状	22.42	22.01	60	47	41	柱痕有	P5-P6:2.06m		SB1525-P5＜P522
P6	13B5	円形	台形状	22.32	22.03	53	47	29	柱痕有	P6-P7:2.00m		
P7	13B10／14B6	楕円形	不整形	22.31	22.21	66	46	10	柱痕有	P7-P8:2.18m		
P8	14B11	楕円形	弧状	22.18	22.12	37	29	6		P8-P1:6.49m		

第 27 表　岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表（５）

SB1526

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）確認面	標高（m）底面	規模（cm）長軸	規模（cm）短軸	規模（cm）深さ	柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
P1	15A6	楕円形	台形状	21.74	21.53	40	34	21	柱痕有	P1-P2:1.53m		SB1526-P1＞P1413
P2	15A12	円形	漏斗状	21.79	21.31	34	31	47	柱痕有	P2-P3:1.31m	土師器	
P3	15A12･13	円形	漏斗状	21.71	21.44	50	48	27	柱痕有	P3-P4:1.55m	須恵器･土師器	
P4	15A13･18	円形	台形状	21.69	21.51	55	53	18	柱痕有	P4-P5:2.64m	須恵器･土師器･灰釉陶器	
P5	15A9	楕円形	台形状	21.69	21.40	38	29	30	柱痕有			SB1526-P5＜P1253

SB1527

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）確認面	標高（m）底面	規模（cm）長軸	規模（cm）短軸	規模（cm）深さ	柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
P1	15A12	長楕円形	台形状	21.80	21.59	52	33	21		P1-P2:1.77m	須恵器･土師器	
P2	15A11	楕円形	台形状	21.77	21.48	64	48	28	柱痕有	P2-P3:1.64m	須恵器	SB1527-P2＞SA1532-P11
P3	14A15･20	円形	不整形	21.82	21.68	64	58	13		P3-P4:1.76m	須恵器･土師器	
P4	14A19･20	円形	台形状	21.84	21.40	71	64	44		P4-P5:3.18m	須恵器･土師器	SB1527-P4＞SB1522-P5
P5	14A25／14B5	円形	台形状	22.01	21.70	65	60	30	柱痕有	P5-P6:1.94m	土師器	
P6	15A21	円形	台形状	21.92	21.48	45	39	43		P6-P7:1.61m	土師器	SB1527-P6＞P1482･1483
P7	15A22	楕円形	U字状	21.88	21.79	26	22	8			須恵器･土師器	

SB1528

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）確認面	標高（m）底面	規模（cm）長軸	規模（cm）短軸	規模（cm）深さ	柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
P1	14A6･11	楕円形	半円状	22.09	22.01	23	19	8		P1-P2:1.54m		
P2	14A11	楕円形	半円状	22.13	22.04	28	25	10		P2-P3:1.72m		
P3	14A17	円形	台形状	22.16	21.83	52	50	33	柱痕有	P3-P4:2.27m		SB1528-P3＜P532
P4	14A18	楕円形	台形状	22.12	21.90	43	36	22	柱痕有	P4-P5:1.55m		
P5	14A12	円形	台形状	22.07	21.90	30	28	18	柱痕有	P5-P6:1.56m	須恵器･土師器	
P6	14A7	円形	台形状	22.07	21.90	30	28	18	柱痕有	P6-P1:1.89m		

SB1529

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）確認面	標高（m）底面	規模（cm）長軸	規模（cm）短軸	規模（cm）深さ	柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
P1	13A9	円形	台形状	22.01	21.90	30	27	11		P1-P2:1.83m		
P2	13A15	楕円形	台形状	22.18	21.73	57	41	46	柱痕有	P2-P3:2.30m		
P3	13A15･20／14A11･16	楕円形	台形状	22.20	21.87	67	56	32	柱痕有	P3-P4:1.99m		
P4	14A11	楕円形	台形状	22.19	21.78	60	44	42	柱痕有	P4-P5:1.70m		
P5	14A7	円形	U字状	22.07	21.54	39	36	52	柱痕有			

SB1533

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）確認面	標高（m）底面	規模（cm）長軸	規模（cm）短軸	規模（cm）深さ	柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
P1	10A21	楕円形	台形状	22.28	22.15	33	25	14	柱痕有	P1-P2:2.46m		SB1533-P1＞SB1534-P1
P2	10A22	長楕円形	箱状	22.33	22.26	34	22	7	柱痕有	P2-P3:1.21m		
P3	10A23	楕円形	半円状	22.32	21.94	70	49	38	柱痕有	P3-P4:2.32m		SB1533-P3＞SB1534-P2
P4	10B3	楕円形	半円状	22.38	22.07	86	67	31	柱痕有	P4-P5:2.34m		SB1534-P3＜SB1533-P4＜P387
P5	10B8	楕円形	半円状	22.27	21.75	83	68	52	柱痕有	P5-P6:1.81m		SB1534-P4＜SB1533-P5＜P1498
P6	10B7･8	長楕円形	半円状	22.36	22.24	47	26	12	柱痕有	P6-P7:2.29m		SB1533-P6＞SB1534-P5･P1357
P7	10B6･7･11･12	楕円形	半円状	22.44	22.13	78	67	31	柱痕有	P7-P8:1.51m		SB1533-P7＞SB1534-P6
P8	10B6	円形	台形状	22.35	21.97	47	45	38		P8-P1:3.25m	土師器	SB1533-P8＝SB1503-P2

SB1534

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）確認面	標高（m）底面	規模（cm）長軸	規模（cm）短軸	規模（cm）深さ	柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
P1	10A21	楕円形	台形状	22.29	22.13	45	38	17	柱痕有	P1-P2:3.42m		SB1534-P1＜SB1533-P1
P2	10A23	長楕円形	半円状	22.30	22.07	80	55	23	柱痕有	P2-P3:2.24m		SB1534-P2＜SB1533-P3
P3	10B3	長楕円形	半円状	22.31	22.14	76	46	17	柱痕有	P3-P4:2.52m		P1475＜SB1534-P3＜SB1533-P4
P4	10B8	長楕円形	半円状	22.33	22.18	90	57	16		P4-P5:1.29m		P451＜SB1534-P4＜SB1533-P5･P1266･1498
P5	10B7･8･12･13	長楕円形	半円状	22.36	22.36	41	24	15		P5-P6:1.89m		SB1534-P5＜SB1533-P6
P6	10B11	長楕円形	半円状	22.43	22.25	49	19	18		P6-P7:3.18m		SB1534-P6＜SB1533-P7
P7	10B1	楕円形	台形状	22.31	21.79	45	34	52	柱痕有	P7-P1:1.99m		

第 28 表　岩ノ原遺跡Ⅱ掘立柱建物柱穴観察表（６）

SB1576

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13B20	円形	半円状	22.37	22.25	37	35	12		P1-P2:1.47m		
P2	13B15･20	円形	半円状	22.35	22.14	36	32	21		P2-P3:2.20m		
P3	14B11	円形	半円状	22.26	22.01	30	27	25		P3-P4:2.26m		
P4	14B12	楕円形	半円状	22.05	21.96	24	21	9				

SA1510

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	12B22	楕円形	台形状	22.67	22.42	78	57	25	柱痕有	P1-P2:2.02m		SA1510-P1＜P1021
P2	12C2	楕円形	台形状	22.65	22.49	66	47	16	柱痕有			

SA1524

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13B3･8	楕円形	半円状	22.43	22.14	72	50	30	柱痕有	P1-P2:1.68m		
P2	13B4･9	円形	U字状	22.34	21.97	53	51	38		P2-P3:1.88m		
P3	13B5	楕円形	U字状	22.34	21.80	54	46	55	柱痕有	P3-P4:1.89m		SA1524-P3＜SB1520-P7
P4	14B1	円形	半円状	22.28	22.03	42	41	25		P4-P5:1.24m	土師器	
P5	14B1	長楕円形	台形状	22.19	22.07	52	20	12				SA1524-P5＜SB1519-P7･SB1520-P6

SA1530

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	13A12･17	楕円形	半円状	22.10	21.93	49	39	17	柱痕有	P1-P2:1.78m		
P2	13A13	長楕円形	台形状	22.13	21.94	45	22	20		P2-P3:1.78m		P1570＜SA1530-P2＜SE488
P3	13A14	長楕円形	不整形	22.20	21.87	48	14	33	柱痕有		土師器	SA1530-P3＜SK483

SA1531

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	14B2･3	円形	半円状	22.18	21.96	54	48	22		P1-P2:1.71m	須恵器･土師器	SA1531-P1＞P717
P2	14B3	楕円形	漏斗状	22.09	21.74	42	35	35	柱痕有	P2-P3:1.76m	土師器	
P3	14A24	円形	不整形	21.96	21.78	36	32	18	柱痕有	P3-P4:1.33m	土師器	
P4	14A25	楕円形	半円状	21.99	21.92	29	20	6		P4-P5:0.89m		
P5	14A25	長楕円形	U字状	21.97	21.68	48	29	29		P5-P6:1.38m		
P6	15A21	楕円形	半円状	21.91	21.81	32	24	10				

SA1532

柱穴番号	位置（グリッド）	平面形	断面形	標高（m）		規模（cm）			柱遺存状況	柱間寸法（m）	遺物	備考
				確認面	底面	長軸	短軸	深さ				
P1	14B3	楕円形	台形状	22.13	22.04	31	24	9		P1-P2:0.86m		
P2	14B3	楕円形	台形状	22.13	22.06	26	20	7		P2-P3:1.39m	須恵器	
P3	14A24／14B4	円形	不整形	22.10	21.81	77	70	29	柱痕有	P3-P4:1.38m	須恵器	
P4	14A24･25	円形	階段状	22.01	21.80	48	46	21	柱痕有	P4-P5:0.53m		
P5	14A25／14B5	楕円形	U字状	22.01	21.76	39	34	25	柱痕有	P5-P6:0.43m	土師器･珠洲焼	SA1532-P5＜P1271
P6	14A25	円形	台形状	21.99	21.64	32	30	35		P6-P7:0.87m		
P7	14A25	楕円形	不整形	21.92	21.61	44	36	31	柱痕有	P7-P8:0.99m		
P8	15A21	円形	U字状	21.85	21.60	21	19	26		P8-P9:1.29m		SA1532-P8＞P742
P9	15A21	楕円形	台形状	21.90	21.78	28	23	12		P9-P10:1.68m		
P10	15A16	楕円形	漏斗状	21.82	21.64	39	33	19		P10-P11:1.52m	須恵器	SA1532-P10＞P1585
P11	15A11	楕円形	U字状	21.75	21.24	35	30	51	柱痕有		須恵器･土師器･黒色土器	SA1532-P11＜SB1527-P2

第 29 表　岩ノ原遺跡 II 掘立柱建物・杭列柱穴観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
1	SI1311	覆土	須恵器	壺蓋	体部～端部破片	15.7			還元炎・灰色	黒		ロクロナデ		西頸城丘陵の窯産
2	SI1311	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部1/3	14.2		3.6	還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀末～9世紀初頭	
3	SI1311	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～体部1/3				酸化炎・にぶい赤褐色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀末～9世紀初頭	
4	SI1311	覆土	須恵器	無台杯	底部破片				還元炎・灰色	白	糸切り		8世紀第3四半期～9世紀初頭	墨書：底部外面「大山」。 西頸城丘陵の窯産
5	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部1/4	16.2		3.7	還元炎・灰色	長・黒	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第3四半期	東頸城丘陵の窯産
6	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部1/2	14.1		3	還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期～9世紀初頭	外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
7	SI1312・13A9	覆土・Ⅰ	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部3/4	14		2.9	酸化炎・にぶい黄橙色	白	ヘラ切り？	外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期？	西頸城丘陵の窯産？
8	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部1/2	14.7		2.5	酸化炎・黄灰色	石・黒		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期～9世紀初頭	東頸城丘陵の窯産
9	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	体部～端部破片	14		2.1	還元炎・灰色	長		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期～9世紀初頭	外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
10	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部3/4	14.2		3.1	還元炎・灰色	長		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期	外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
11	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	体部～端部破片	13.8			還元炎・暗灰色	長		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期	東頸城丘陵の窯産
12	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	体部～端部破片	14.8			還元炎・灰色	黒			8世紀第3四半期	外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
13	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	体部～端部破片	14.9			還元炎・灰色	長・砂		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期	外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
14	SI1312	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	体部～端部破片	15.1			還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀後半～9世紀初頭？	外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
15	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部・ほぼ完形	11.1	7.6	3.8	還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ		外面自然釉。東頸城丘陵の窯産
16	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅡ	ほぼ完形	13.3	9.5	3.9	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	750年をまたぐ時期	墨書：底部外面「庄」。 西頸城丘陵の窯産
17	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅡ	口縁部～底部2/3	13.2	8.8	3.7	還元炎・灰色	長・白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第3四半期	ヘラ記号：底部外面「×」。 東頸城丘陵の窯産
18	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部1/3	12.6	8	3.4	還元炎・灰色	白		外面上半ロクロナデ・下半回転ヘラケズリ・内面ロクロナデ	8世紀後半～9世紀初頭	西頸城丘陵の窯産
19	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	ほぼ完形	12.4	8.5	3.4	還元炎・灰色	長・砂	ヘラ切り？	ロクロナデ・外面下半回転ヘラケズリ	8世紀後半～9世紀初頭	西頸城丘陵の窯産
20	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部1/2	12.9	8.2	3.7	還元炎・灰色	長	ヘラ切り？	ロクロナデ	8世紀第3四半期～第4四半期	東頸城丘陵の窯産
21	SI1312	覆土	須恵器	有台杯AⅡ	口縁部～底部1/3	13.1			還元炎・黄灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第3四半期	東頸城丘陵の窯産
22	SI1312	覆土	須恵器	無台杯AⅠ	ほぼ完形	13.1	8.1	3.2	還元炎・青灰色	白・黒	ヘラ切り・右	ロクロナデ	8世紀第3四半期	内外面火タスキ痕。 東頸城丘陵の窯産
23	SI1312	覆土	須恵器	無台杯AⅠ	口縁部～底部破片	13.5	9	3	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第3四半期	西頸城丘陵の窯産
24	SI1312	覆土	須恵器	無台杯	体部～底部破片		9		酸化炎・浅黄色	石・白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末	墨書：底部外面「十」。 内外面火ダスキ。東頸城丘陵の窯産
25	SI1312	覆土	須恵器	無台杯AⅡ	体部～底部破片	11	6.9	3.3	還元炎・灰色	白・黒	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末	墨書：底部外面「福」。 東頸城丘陵の窯産
26	SI1312	覆土	須恵器	横瓶	体部破片				還元炎・黄灰色	黒		回転ナデ	8世紀第3四半期？	外面自然釉
27	SI1312	覆土	土師器	蓋	頂部～端部1/3	14.6		2.6	酸化炎・黒	白		内外面ミガキ	9世紀第1四半期	内外面黒色処理
28	SI1312	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～底部2/3	13.9	7.1	13.8	酸化炎・黄橙色	石・白・赤・礫		外面ヘラケズリ・内面ハケメ		内面輪積み痕
29	SI1312	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	13.1			酸化炎・橙色	赤・砂				風化激しい
30	SI1312	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	25.1			酸化炎・橙色	石・白・礫		外面ヘラケズリ		内面風化激しい
31	SI1312	覆土	土師器	鍋	口縁部～体部破片	22.6			酸化炎・橙色	白・礫		外面ヘラケズリ、内面ハケメ・ナデ	8世紀第3四半期	

第30表　岩ノ原遺跡Ⅱ土器・陶磁器観察表（1）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
32	SI1312	覆土	土師器	把手付鍋	口縁部～底部1/3	25.7	8.7	12.3	酸化炎・黄橙色	白・黒・赤				風化激しい
33	SI1344	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部1/3	12.7		2.6	酸化炎・黄橙色	石・礫		外面上半ロクロケズリ	8世紀後半～9世紀初頭	西頸城丘陵の窯産
34	SI1344	覆土	須恵器	有台杯BⅡ	口縁部～底部1/2	15.2	9	6.3	還元炎・灰色	白・黒・砂	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第1四半期	外面自然釉
35	SI1344	覆土	須恵器	無台杯CⅠ	口縁部～底部破片	13.8	7.1	3.5	還元炎・灰色	白	糸切り	ロクロナデ		
36	SI1344	覆土	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部2/4	13.4	5.9	3.9	酸化炎・橙色	砂	糸切り・右	ロクロナデ		
37	SI1344	覆土	土師器	有台杯	体部～底部破片		7		酸化炎・明黄褐色	赤・砂		ロクロナデ？	9世紀代？	風化激しい
38	SB1512-P1	覆土	灰釉陶器	皿	口縁部破片				還元炎・灰白色				9世紀第4四半期	ハケ掛け。美濃系
39	SB1519-P7	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部1/3	11.1	8.9	4	還元炎・黄灰色	白・黒	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	
40	SB1519-P7	覆土	須恵器	有台杯	体部～底部破片		9.3		還元炎・灰色	白・礫	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	墨書：底部外面「大山」。 東頸城丘陵の窯産
41	SB1519-P9	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部2/3	12.4	9.1	3.8	還元炎・青灰色	長	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期～第3四半期	墨書：底部外面「東」。 西頸城丘陵の窯産
42	SB1519-P11	覆土	須恵器	鍋	口縁部～体部破片	34.9			還元炎・灰白色	砂		外面回転ハケメ・ 内面回転ナデ		
43	SB1519-P6	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	14.1			酸化炎・にぶい黄橙色	砂			9世紀	風化激しい
44	SB1519-P6	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	11.8			酸化炎・にぶい黄橙色	砂				口縁部上半スス
45	SB1519-P8	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～体部破片	12.1			酸化炎・にぶい橙色	砂				内外面スス。風化激しい
46	SB1519-P8	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	19.9			酸化炎・黄橙色	石・白・礫		外面回転カキメのち タタキ・ 内面回転カキメ		
47	SB1526-P4	覆土	灰釉陶器	椀	口縁部破片	15.1			還元炎・灰色	黒			9世紀第4四半期	ハケ掛け。瀬戸系
48	SB1528-P3	覆土	須恵器	無台杯CⅡ	口縁部～底部破片	12.4	6	3.9	還元炎・灰色	白	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	墨書：底部外面「□」。滝寺窯産
49	SA1532-P11	覆土	須恵器	長頸瓶	頸部破片				還元炎・灰色	白		ロクロナデ		
50	SE143	覆土	珠洲焼	大甕	底部破片				還元炎・灰色	白・黒・礫		ナデ・状腺状タタキ	14世紀前葉～中葉	珠洲Ⅳ期
51	SE203	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	長		ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	珠洲Ⅳ期
52	SE203	覆土	珠洲焼	甕	口縁部～体部破片				還元炎・暗青灰色	白・砂		外面平行タタキ	13世紀前半	珠洲Ⅱ期
53	SE488	覆土	土師器	不明	口縁部～体部破片	12			酸化炎・浅黄橙色	長・白・黒・礫		ロクロナデ		
54	SE488	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片	27.1			還元炎・灰色	白		ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	内面自然釉。珠洲Ⅳ期
55	SE788	覆土	須恵器	壺	頸部～体部破片				還元炎・灰色	黒		ロクロナデ	古墳時代後期？	内外面自然釉
56	SE788	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片				還元炎・灰色	白・礫		ロクロナデ	14世紀後葉～15世紀前半	内面自然釉。珠洲Ⅴ期
57	SE1139	覆土	須恵器	有台杯AⅡ	口縁部～底部1/3	15.3	10	4.1	酸化炎・黄灰色	赤	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀第2四半期	東頸城丘陵の窯産
58	SE1155	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・黒・礫		ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	珠洲Ⅳ期
59	SE1155	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部下半破片				還元炎・灰色	白・黒・礫		ロクロナデ	14世紀	珠洲Ⅳ期以降
60	SE1221	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部破片				還元炎・灰色	白・礫		ロクロナデ	13世紀後半	珠洲Ⅲ期
61	SE1405	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部3/4	12.1			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	ヘラ記号あり。 内面・外面自然釉
62	SE1405	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	体部～端部破片	15.1			還元炎・灰色	白・礫		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期～9世紀初頭	墨書：体部外面「□」〔菜ヵ〕。 東頸城丘陵の窯産
63	SE1405	覆土	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部2/3	13.3	4.8	3.7	酸化炎・橙色	砂	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	
64	SE1405	覆土	灰釉陶器	椀	口縁部破片	15			還元炎・灰白色				9世紀第4四半期	ハケ掛け。美濃系
65	SE1405	覆土	灰釉陶器	椀	口縁部～体部破片				還元炎・灰色				9世紀第4四半期	ハケ掛け。瀬戸系
66	SE1565	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		11		還元炎・灰色	長・白	静止糸切り	ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	内面摩滅。珠洲Ⅳ期

第 31 表　岩ノ原遺跡Ⅱ土器・陶磁器品観察表（2）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
67	SK183	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	長・黒		ロクロナデ	13世紀	珠洲Ⅱ期ないしⅢ期
68	SK183	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白		ロクロナデ	14世紀中葉	珠洲Ⅳ期後半
69	SK187	覆土	須恵器	横瓶	口縁部破片	11.1			還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	8世紀第3四半期？	
70	SK477	覆土	須恵器	蓋	体部破片				還元炎・灰黄色			ロクロナデ		墨書：体部外面「□」
71	SK477	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	ほぼ完形	11.3	7.7	3.7	酸化炎・黄橙色	石・白・砂	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀初頭	墨書：底部外面「大□」〔山ヵ〕。 滝寺窯産
72	SK477	覆土	須恵器	有台杯BⅡ	口縁部～底部2/3	15.2	9.4	6.1	還元炎・灰色	白	糸切り	ロクロナデ	9世紀第1四半期	墨書：底部外面「□」〔物ヵ〕。 西頸城丘陵の窯産
73	SK483	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～体部破片				還元炎・灰色	石・白		外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
74	SK483	覆土	須恵器	杯蓋Ⅳ	体部～端部	11.2			還元炎・黒灰色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀末～9世紀初頭	内面自然釉
75	SK483	覆土	須恵器	杯蓋	頂部～体部1/2				還元炎・黄灰色	白・黒	ヘラ切り	外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	墨書：底部外面「大歳」。 東頸城丘陵の窯産
76	SK483	覆土	須恵器	有台杯AⅣ	口縁部～底部2/3	10.4	5.8	4.2	還元炎・灰色	長	ヘラ切り・右	ロクロナデ	9世紀第2四半期	笹神窯産？
77	SK483	覆土	須恵器	無台杯CⅡ	口縁部～底部1/3	11.9	7.3	3.3	酸化炎・橙色	白・黒	糸切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	
78	SK483	覆土	須恵器	無台杯CⅠ	口縁部～底部1/2	13.7	6.6	3.6	還元炎・灰色	石・白	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	今熊窯産
79	SK483	覆土	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部2/3	12.9	6	3.7	酸化炎・橙色	砂	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第1四半期	
80	SK483	覆土	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部1/3	13	6.6	4	酸化炎・橙色	砂	糸切り	ロクロナデ		
81	SK483	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	20.2			酸化炎・浅黄橙色	白・黒		ロクロナデ・ 外面下半ヘラケズリ		
82	SK483	覆土	土師器	甕Ⅱ	口縁部～底部破片	12.1	7.7	12.9	酸化炎・橙色	白	糸切り	ロクロナデ		内外面スス
83	SK483	覆土	土師器	甕Ⅰ	口縁部～体部破片	21.2			酸化炎・にぶい橙色	長・白・赤・砂		内外面回転ハケメ		
84	SK1087	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部破片	13.5		2.9	還元炎・黄灰色	白		外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
85	SK1087	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部1/4	12.5		2.8	還元炎・暗灰色	長		外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
86	SK1087	覆土	須恵器	蓋	底部破片				還元炎・灰色	白	ヘラ切り			墨書：外面「□」
87	SK1087	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部1/4	11.3	8.2	3.4	還元炎・灰色	白		ロクロナデ		西頸城丘陵の窯産
88	SK1087	覆土	須恵器	有台杯	体部～底部破片		9.1		還元炎・灰黄色	白	ヘラ切り？	ロクロナデ	9世紀第2四半期	墨書：底部外面「□」。 西頸城丘陵の窯産
89	SK1087	覆土	須恵器	有台杯BⅡ	口縁部～底部破片	15.8	10.3	6.7	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	9世紀第2四半期	
90	SK1087	覆土	須恵器	無台杯	体部～底部破片		7.4		還元炎・灰色	長	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	小泊窯産
91	SK1087	覆土	須恵器	無台杯	底部破片				還元炎・灰色	白・黒	糸切り			墨書：底部外面「□」
92	SK1087	覆土	土師器	杯蓋	体部～端部破片	13.4			酸化炎・にぶい黄褐色	白		内外面ミガキ	9世紀前半	内外黒色処理
93	SK1087	覆土	土師器	無台椀Ⅱ	口縁部～底部1/3	12.1	5.7	3.4	酸化炎・浅黄橙色	砂	糸切り	ロクロナデ	9世紀後半	風化激しい
94	SK1345	覆土	須恵器	無台杯AⅠ	口縁部～底部破片	13.2	8	3.4	還元炎・灰白色	長	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	東頸城丘陵の窯産
95	SK1345	覆土	土師器	無台椀Ⅰ	口縁部～底部	15.8	7.5	4.7	酸化炎・にぶい橙色	白・赤・砂	ヘラ切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	
96	SK1345	覆土	土師器	椀	体部～底部破片		6.7		酸化炎・浅黄橙色	赤・黒	糸切り	ロクロナデ		墨書：底部外面「十」
97	P198	覆土	珠洲焼	片口鉢	口縁部～体部破片	25.5			還元炎・灰色	白・礫		ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	珠洲Ⅳ期
98	P470・14B3	覆土・Ⅰ	須恵器	杯蓋Ⅰ	体部～端部破片	17.5			還元炎・灰白色	長		外面上半ロクロケズリ	8世紀第3四半期～ 9世紀初頭以降	墨書：体部外面「十」
99	P470	覆土	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部破片	11.7	8.9	4.1	還元炎・浅黄色	石	糸切り	ロクロナデ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
100	P470・14B3	覆土・Ⅰ	須恵器	無台杯CⅡ	口縁部～底部2/3	12.3	6.5	3.7	還元炎・灰黄色	石・白・黒	糸切り・右	ロクロナデ	9世紀第2四半期	墨書：底部外面「W」。 西頸城丘陵の窯産
101	P474	覆土	須恵器	無台杯AⅠ	口縁部～底部破片	13.2	8.2	3.5	還元炎・黄灰色	白・黒・礫	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末～9世紀初頭	墨書：底部外面「□」。 東頸城丘陵の窯産
102	P744	覆土	灰釉陶器	椀	口縁部破片				還元炎・灰色				9世紀第4四半期	ハケ掛け。瀬戸系

第32表　岩ノ原遺跡Ⅱ土器・陶磁器観察表（3）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種・細分	遺存部位・遺存率	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成・色調	胎土	切り離し・方向	調整	時期	備考
103	P745	覆土	灰釉陶器	椀	口縁部破片				還元炎・灰白色				9世紀第4四半期	ハケ掛け。美濃系
104	P1200	覆土	須恵器	壺	体部破片				還元炎・灰色	白		カキメ		貼付文
105	P1291	覆土	須恵器	長頸壺	口縁部破片	7			還元炎・灰色	黒		ロクロナデ		外面摩耗が著しい。自然釉
106	P1328	覆土	土師器	無台椀	底部破片				酸化炎・にぶい褐色	白	糸切り・右	ロクロナデ		墨書：底部外面「後」
107	P1365	覆土	須恵器	甕	頸部～体部破片				還元炎・灰色	白		外面格子タタキ・ 内面同心円当て具	9世紀第2四半期以降	外面自然釉。小泊窯産
108	P1441	覆土	須恵器	無台杯	ほぼ完形	12.6	9	3.3	還元炎・灰黄色	長	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末	ヘラ記号：底部外面「×」。 東頸城丘陵の窯産
109	P1441	覆土	珠洲焼	片口鉢	体部～底部破片		10.2		還元炎・灰色	長		ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	珠洲Ⅳ期
110	P1564		灰釉陶器	椀	口縁部破片				還元炎・灰白色				9世紀第4四半期	ハケ掛け。瀬戸系
111	14B3	覆土	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部2/3	12.4		2.4	還元炎・灰色	長・黒	ヘラ切り	外面上半ロクロケズリ	9世紀第2四半期	ヘラ記号：内面「一」。 東頸城丘陵の窯産
112	試掘Tr		須恵器	蓋	体部破片				還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀末以降	墨書：体部外面「東」。 西頸城丘陵の窯産
113	14A7	覆土	須恵器	杯蓋Ⅱ	頂部～端部1/3	16			酸化炎・橙色	長・赤		ロクロナデ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
114	試掘3Tr	Ⅰ	須恵器	杯蓋Ⅲ	頂部～端部1/3	12.7		3	還元炎・灰色	白		外面上半ロクロケズリ	8世紀末～9世紀初頭	東頸城丘陵の窯産
115	14B12	Ⅰ	須恵器	有台杯AⅢ	口縁部～底部破片	12.8	8.8	4.1	還元炎・灰色	白	ヘラ切り	ロクロナデ	8世紀末	ヘラ記号：底部外面。 墨書：底部外面「十」。 東頸城丘陵の窯産
116	14B12	Ⅰ	須恵器	有台杯AⅣ	口縁部～底部1/4	11.8	8.4	3.6	還元炎・灰色	白		ロクロナデ	9世紀第2四半期	西頸城丘陵の窯産
117	14A9	Ⅰ	須恵器	有台杯BⅠ	口縁部～体部破片	17.5			還元炎・灰白色	長・黒		ロクロナデ	8世紀後半～9世紀前半	東頸城丘陵の窯産
118	試掘Tr		須恵器	無台杯B	体部～底部破片		6.7		還元炎・浅黄色	白・礫	糸切り	ロクロナデ	8世紀後半	墨書：底部外面「浄坏」。 西頸城丘陵の窯産？
119	14A3	Ⅰ	須恵器	無台杯	底部破片				還元炎・灰黄色	砂	糸切り	ロクロナデ		墨書：底部外面「大□」
120		Ⅱ	須恵器	無台杯AⅡ	口縁部～底部1/2	11.6	6.8	2.5	還元炎・灰色	長	ヘラ切り・左	ロクロナデ	9世紀第3四半期	小泊窯産
121		Ⅱ	須恵器	凸帯付四耳壺	体部破片				還元炎・灰色	長		ロクロナデ	8世紀後半～9世紀前半	外面自然釉
122	10C1	覆土	須恵器	甕	口縁部破片				還元炎・灰色	石・白		ロクロナデ		外面凸帯・櫛描波状文・沈線
123	14B12	Ⅰ	須恵器	四耳壺	口縁部～体部破片	13			還元炎・灰色	長		ロクロナデ	9世紀	産地不明 （西頸城丘陵の窯産の可能性あり）
124	10A19	Ⅰ	須恵器	短頸壺	口縁部～体部破片	10			還元炎・灰色	石・黒		ロクロナデ		体部自然釉
125	14A11	Ⅰ	須恵器	横瓶	体部破片				還元炎・灰色	白・黒・礫		回転ケズリ	8世紀第3四半期？	
126	14B7	Ⅰ	土師器	黒色蓋	体部～口縁部破片	12			酸化炎・黒	白・黒		内外面ミガキ		内外面黒色処理
127	18A22	Ⅱ	土師器	有台椀	底部破片		9		酸化炎・黒	白		内外面ミガキ		内外面黒色処理
128	14A8	Ⅰ	土師器	鍋	口縁部～体部破片	43			酸化炎・にぶい黄橙色	砂		内面回転ナデ		
129	15A11	Ⅰ	灰釉陶器	椀	体部～底部破片		9.5		還元炎・灰色			ロクロナデ		
130	14A12	Ⅰ	灰釉陶器	椀	体部～底部破片				還元炎・灰色			ロクロナデ		ツケ掛け。瀬戸系
131	10A22	Ⅰ	灰釉陶器	椀	体部～底部破片				還元炎・灰色			ロクロナデ		ツケ掛け。瀬戸系
132	18A23	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・黒・礫				
133	14A12	Ⅰ	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	13世紀後半	珠洲Ⅲ期
134	18A23	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	白・黒		ロクロナデ	14世紀前葉～中葉	珠洲Ⅳ期
135	18A23	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	口縁部破片				還元炎・灰色	長・白・黒・礫		ロクロナデ	13世紀後半	珠洲Ⅲ期
136	11B25	Ⅰ	珠洲焼	片口鉢	底部破片		12		還元炎・灰色	白・黒			14世紀中葉	珠洲Ⅳ期以降。全周磨滅している
137	12C5	Ⅱ	珠洲焼	片口鉢	底部破片		10.8		還元炎・灰色	白・黒	静止糸切り		13世紀後半～14世紀中葉	珠洲Ⅲ～Ⅳ期

第33表　岩ノ原遺跡Ⅱ土器・陶磁器観察表（4）

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	種類	器種	遺存状態	外径（cm）	内径（cm）	重さ（g）	備考
138	SI1312	覆土	土師器	羽口	破片	6.1（推定）			

第 34 表　岩ノ原遺跡Ⅱ土製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	石材	遺存状態	備考
139	SE143	覆土	砥石	8.4	5.2	4.1	190	凝灰岩	上半部欠損	
140	P502	覆土	砥石	9	3.8	3	136	凝灰岩	上半部欠損	
141	P591	覆土	砥石	5.4	2.6	2.5	51	凝灰岩	上半部欠損	
142	P893	覆土	砥石	7.3	2.7	2.3	99	凝灰岩		
143	SE788	覆土1	石臼	30（推定）			3200	安山岩	4分の1	下臼
144	P623	覆土	石臼	30（推定）			4200	安山岩	6分の1	下臼

第 35 表　岩ノ原遺跡Ⅱ石製品観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位	銭名	直径（cm）	厚さ（cm）	重さ（cm）	備考
145	P1591	覆土	紹聖元寶	2.4	0.14	2.58	
146	P1591	覆土	元豊通寶	2.4	0.15	1.96	

第 36 表　岩ノ原遺跡Ⅱ銭貨観察表

掲載番号	遺構名・出土地点	層位・取り上げ№等	品名	樹種	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	木取り	備考
147	SE143	覆土9（底面）	漆器		13	4.4（残存）	7.3		

第 37 表　岩ノ原遺跡Ⅱ木製品観察表

要　　約

北前田遺跡Ⅱ

1　北前田遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字上中田字北前田 471 番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川右岸の沖積地に立地し、標高は約 19m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年４月 17 日～６月 25 日まで実施した。調査面積は 2,100 ㎡である。調査の結果、古代の遺構・遺物を検出した。

3　遺構は掘立柱建物 17 棟、杭列２基、井戸５基、土坑 36 基、溝 30 条である。出土遺物の年代　から判断すると、８世紀中葉～９世紀初頭のものと、９世紀中葉～後葉のものである。

4　遺物は土師器、須恵器、円筒形土製品、土錘、砥石、刀子である。

5　古代における集落跡で、数棟の建物が東西方向に並び、ほぼ均等な間隔で複数の列を成していることが確認できた。計画的に集落を形成していたものと考えられる。

野畔遺跡

1　野畔遺跡は、新潟県上越市大字上中田字野畔 1085 番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川左岸の沖積地に立地し、標高は約 19.7m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年６月 16 日～７月 14 日まで実施した。調査面積は 160 ㎡である。調査の結果、古代の遺構・遺物を検出した。

3　遺構は掘立柱建物２棟、井戸１基、土坑２基、性格不明遺構２基、溝１条である。出土遺物の年代から判断すると、８世紀中葉～９世紀初頭と考えられる。

4　遺物は土師器、須恵器があり、大部分が溝からの出土である。ほかにも砥石が１点出土している。

5　古代における集落跡で、北前田遺跡Ⅱに近接し、所属時期もほぼ同時期と考えられることから、両遺跡は同一の集落であった可能性が高い。

諏訪前遺跡

1　諏訪前遺跡は、新潟県上越市大字寺町字諏訪前 1365 番地ほかに所在する。矢代川と関川の間の沖積地に立地し、標高は約 18.9m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年６月 17 日～７月 17 日まで実施した。調査面積は 230 ㎡である。調査の結果、古代と推定される遺構、古代及び中世の遺物を検出した。

3　遺構は土坑２基である。

4　遺物は全て遺構外からの出土で、土師器、須恵器、珠洲焼、青磁、木簡である。木簡は「廿一神」などと書かれていたことから、日蓮宗で重視された三十番神の信仰に関わる可能性がある。

5　関川面や矢代川の氾濫原に面していたと考えられる。古代においては稲作には適さない地で、当時の人々も生活し得難い地域であったものと推定される。

北新田遺跡Ⅱ

1　北新田遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字荒町字南新田に所在する。高田平野の西縁部、青田川右岸の自然堤　防上に立地し、標高は約 17.8m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年 6 月 23 日～ 8 月 8 日まで実施した。調査面積は 250㎡である。調査の結果、古墳時代及び古代の遺構・遺物を検出した。

3　古墳時代の遺構は竪穴住居 2 棟であり、前期と後期に分けられる。古代の遺構は竪穴住居 1 棟、土坑 1 基、溝 2 条である。

4　遺物は土師器、須恵器であり、大部分が古墳時代後期の竪穴住居から出土したものである。

5　平成 19 年度に調査を行った北新田遺跡Ⅰの集落の一部分である。

中田原遺跡Ⅱ

1　中田原遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字上中田字中田原 81 番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川と儀明川に挟まれた洪積台地と沖積地の境界付近に立地し、標高は約 18.8 ～ 19.4m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年 7 月 10 日～ 9 月 30 日まで実施した。調査面積は 830㎡である。調査の結果、縄文時代及び古代の遺構、古代及び中世の遺物を検出した。

3　縄文時代の遺構は陥穴 8 基である。古代の遺構は井戸 2 基、土坑 2 基、性格不明遺構 2 基であり、出土遺物の年代から判断すると 9 世紀中葉と考えられる。

4　遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、珠洲焼、瀬戸美濃焼、石器・石製品のほか、曲物、丸木弓、板材などの木製品が出土している。

5　縄文時代には狩猟場として利用されていたものと考えられる。古代では建物が発見されないことと、北側に近接する岩ノ原遺跡Ⅱでも確認した「大歳」と記した墨書土器が出土していることから、「東大寺領石井荘」の外郭に位置付けられるものと考えられる。

岩ノ原遺跡Ⅱ

1　岩ノ原遺跡Ⅱは、新潟県上越市大字向橋字岩ノ原 162 番地ほかに所在する。高田平野の西縁部、青田川と儀明川に挟まれた洪積地（灰塚面）に立地し、標高は約 22m を測る。

2　調査は北陸新幹線の建設に伴い、平成 20 年 9 月 16 日～ 11 月 27 日まで実施した。調査面積は 1,250㎡である。調査の結果、古代及び中世の遺構・遺物を検出した。

3　古代の遺構は竪穴住居 3 棟、掘立柱建物 17 棟、井戸 6 基、土坑 8 基である。出土遺物の年代から判断すると、8 世紀中葉～ 9 世紀初頭のものと、9 世紀中葉～後葉のものである。

4　中世の遺構は掘立柱建物 5 棟、井戸 9 基、土坑 1 基である。出土遺物の年代から判断すると、14 世紀が中心となるものと考えられる。

5　遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、珠洲焼のほか、鞴の羽口、砥石、石臼、銭貨、漆器椀である。

6　古代では出土した墨書土器の内容や掘立柱建物の形状から「東大寺領石井荘」の荘園遺跡と考えられる。また、時間的に断続はあるものの、中世には集落が形成されていた。

引用・参考文献

青森県教育委員会　2008　『青森県史　資料編古代２　出土文字資料』

浅香年木ほか 1978　『古代の地方史　第４巻　東海・東山・北陸編』 朝倉書店

網野善彦ほか 1993　『講座日本荘園史６　北陸地方の荘園　近畿地方の荘園Ⅰ』 吉川弘文館

荒川隆史・加藤　学　1999　『和泉Ａ遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

石川県松江市教育委員会　1996　『東大寺領横江庄遺跡Ⅱ』 松江市教育委員会

市澤　哲　2004　「第３部　古代　第４章　越後古代荘園と説話世界　第１節　11 世紀以前の石井荘」『上越市史　通史編１　自然・原始・古代』 新潟県上越市

伊東隆夫　1995　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 I」『木材研究・資料』31　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1996　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 II」『木材研究・資料』32　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1997　「日本産広葉樹材の解剖学ｚ的記載 III」『木材研究・資料』33　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1998　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 IV」『木材研究・資料』34　京都大学木質科学研究所

伊東隆夫　1999　「日本産広葉樹材の解剖学的記載 V」『木材研究・資料』35　京都大学木質科学研究所

井上慶隆　1973　「越後の条里制と石井荘の位置」『かみくひむし』11　かみくひむしの会

宇野隆夫　2001　『荘園の考古学』 青木書店

荻野正博　1986　「第５章　律令制下の越後・佐渡国　第６節　初期荘園の成立と推移」『新潟県史　通史編１　原始・古代』

小田由美子ほか 2006　『滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999　「第４章　古代　第２節　土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会

加藤　学ほか 2006　『用言寺遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか 2007　『用言寺遺跡Ⅱ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

金内　元　2007　「中田原遺跡」『平成 18 年度　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』

金内　元ほか 2008　『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

金内　元ほか 2010　『荒町南新田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

金田章裕　1985　『条里と村落の歴史地理学研究』 大明堂

株式会社古環境研究所　2005　「細田遺跡出土木製品の樹種同定」『下馬場遺跡・細田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

木村宗文　1984　「第Ⅱ章　今池遺跡郡の位置と環境　３文献からみた古代・中世の頸城地方」『今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』新潟県教育委員会

倉野憲司校柱　1963　『古事記』 岩波書店

小口雅史　1991　「律令国家と荘園」『講座日本荘園史２　荘園の成立と領有』 吉川弘文館

小口雅史　1999　「論考編　第２章　律令制下寺院経済の管理統制機構　―東大寺領北陸初期庄園分析の一視角として―　論考編　第３章　初期庄園の展開」『デジタル古文書集　日本古代土地経営関係史料集成　―東大寺領・北陸編―』

小林昌二ほか 2004　『新潟県内出土古代文字資料集成』 新潟墨書土器検討会

近藤錬三　2004　「植物ケイ酸体研究」『ペドロジスト』48

坂井秀弥　1993　「上越市今池遺跡国府説・本長者原廃寺国分寺説の現状」『新潟考古学談話会会報』11　新潟考古学談話会

笹澤正史　2003　「第５章　古代　第１節　時代概説」『上越市史　資料編２　考古』 新潟県上越市

島地　謙・伊東隆夫　1982　『図説木材組織』 地球社

杉山真二　2000　「植物珪酸体 (プラント・オパール)」『考古学と自然科学３　考古学と植物学』 同成社

鈴木俊成ほか 1994　『一之口遺跡東地区』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

鈴木三男・小川とみ・能城修一　2004　「青田遺跡出土木材の樹種」『青田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

高田平野団体研究グループ　1981　「高田平野の第四系とその形成史―新潟県の第四系・そのＸＸⅣ―」『研究紀要』第 25 号 新潟大学教育学部高田分校
高野武男　2004　「第１部　自然　第１章　大地の生い立ち　第４節　原始･古代･中世の地形と環境の変化」『上越市史　通史編１　自然・原始・古代』 新潟県上越市
高橋　勉　1984　『栗原遺跡　第７次・第８次発掘調査報告書』 新潟県新井市教育委員会
髙橋保雄ほか 2008　『岩ノ原遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
竹内理三　1999　「第３篇　荘園発生期の東大寺領　第１章　寺領の成立と分布　第３節　寺領の成立と分布２」『竹内理三著作集　第二巻　日本上代寺院経済史の研究』 角川書店
田嶋明人　1992　「北陸の竈とその周辺　３北陸の竈」『第 32 回　埋蔵文化財研究集会　古墳時代の竈を考える　第三分冊　－追加資料・発表要旨』和歌山県文化財センター
東京大学出版会　1966　『大日本古文書　家わけ第 18　東大寺文書４』
田海義正　1999　「第２章　縄文時代　第４節　生業　第２項　狩猟」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
富山県教育委員会　1974　『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　井波町高瀬遺跡　入善町じょうべのま遺跡　発掘調査報告書』
中川清隆・横山宏太郎　2002　「第２章　気候」『上越市史　資料編１　自然』 新潟県上越市
西宮一民校柱　1985　『古語拾遺』 岩波書店
林　昭三　1991　『日本産木材　顕微鏡写真集』 京都大学木質科学研究所
パリノ・サーヴェイ株式会社　1994　「一之口遺跡東地区から出土した木質遺物および種実遺体の同定」『一之口遺跡東地区』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
パリノ・サーヴェイ株式会社　2003　「桃川遺跡群の自然化学分析」『桃川遺跡群　石川遺跡･草田遺跡･桃川板碑･堤下瓦窯跡』 新潟県神林村教育委員会
パリノ・サーヴェイ株式会社　2004　「木製品の樹種同定」『下割遺跡 II』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
パリノ・サーヴェイ株式会社　2006a　「自然科学分析」『野中土手付遺跡・砂山中道下遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
パリノ・サーヴェイ株式会社　2006b　「自然科学分析」『三角田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
パリノ・サーヴェイ株式会社　2008a　「古植生と木材利用」『岩ノ原遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
パリノ・サーヴェイ株式会社　2008b　「自然科学分析」『北前田遺跡Ⅰ・北新田遺跡Ⅰ』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
平川　南　2000　「“古代人の死”と墨書土器」『墨書土器の研究』 吉川弘文館
藤井一二　1986　「第３章　東大寺領荘園の形成と支配　第３節　荘地の一円的支配」『初期荘園史の研究』 塙書房
松葉礼子　2000　「平田遺跡出土木製品の樹種同定」『平田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
森田　悌　1975　「古代の村落について　―東大寺北陸庄園を素材に―」『日本海域研究所報告』６・７　金沢大学日本海域研究所
吉岡康暢　1983　『東大寺領横江庄遺跡』 松江市教育委員会・石川考古学研究会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』 吉川弘文館
吉川町教育委員会　1994　『樋詰遺跡発掘調査報告書』
吉田　孝ほか 1995　『岩波講座　日本通史　第５巻』 岩波書店
吉村武彦ほか 2002　『古代文字資料のデータベース構築と地域社会の研究』
渡邊裕之ほか 2005　『台の上遺跡・峪ノ上遺跡・五反田遺跡』（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
亘理俊次・山内　文　1953　「千種出土の樹種」『千種』 新潟県教育委員会　77-81p.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.　2006　『針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 海青社
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.　1998　『広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト』 海青社

図　　版

凡　例

図版に用いるトーンは以下の通りである。

1　遺構実測図

柱　　痕

焼　土　範　囲

2　遺物実測図

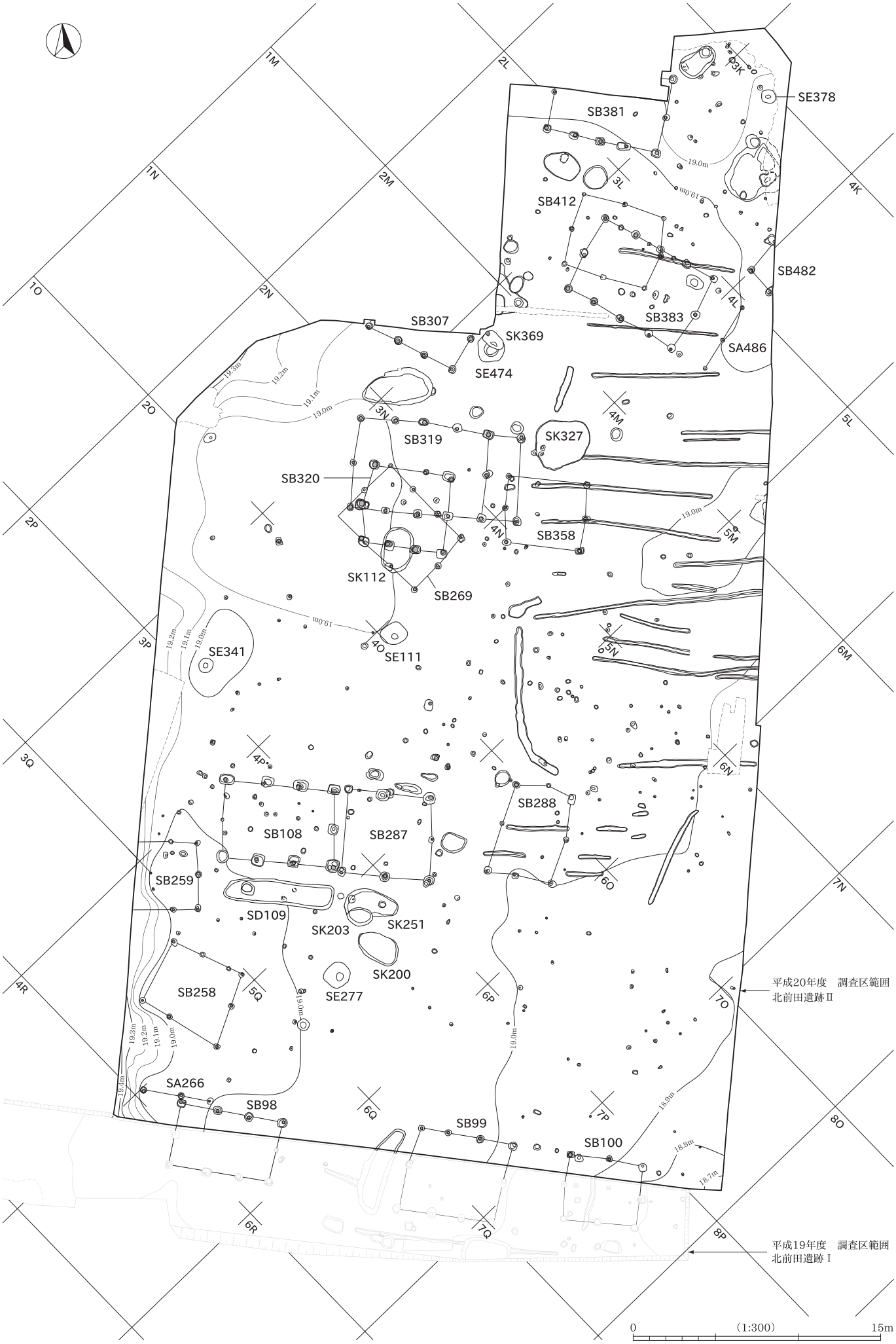
須　恵　器

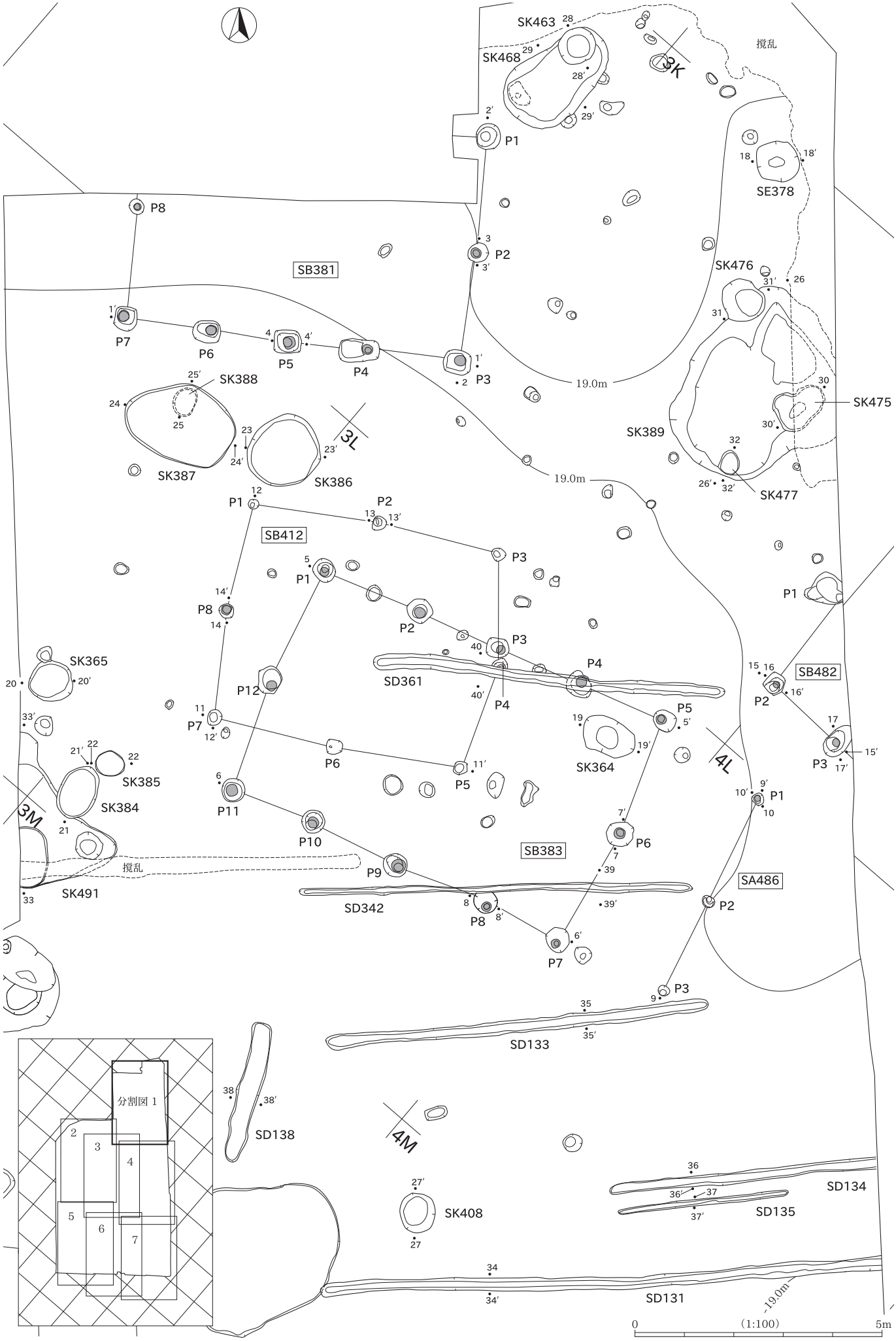
土　師　器

土師器黒色処理

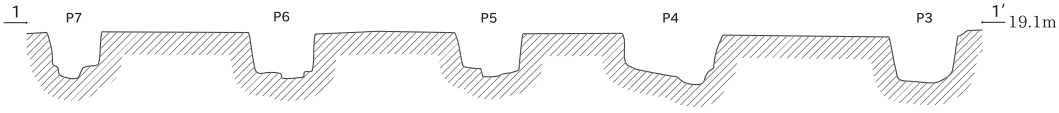
灰　釉　陶　器

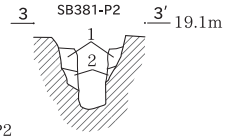
漆　　椀

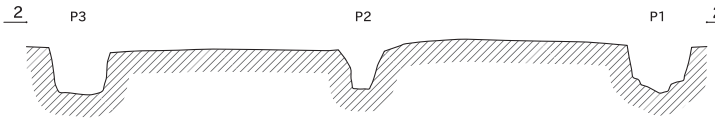

SE378
SB381
SB412
SB482
SB383
SA486
SB307
SK369
SE474
SB319
SK327
SB320
SB358
SK112
SB269
SE341
SE111
SB288
SB108
SB287
SB259
SD109
SK203
SK251
SK200
SB258
SE277
SA266
SB98
SB99
SB100
平成20年度　調査区範囲
北前田遺跡Ⅱ
平成19年度　調査区範囲
北前田遺跡Ⅰ
0
(1:300)
15m

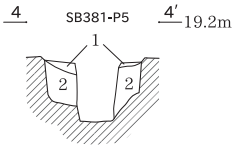

SK463
SK468
3K
撹乱
P1
SE378
P8
P2
SB381
SK476
P7
P6
P5
P4
P3
19.0m
SK475
SK388
SK389
SK387
SK386
3L
SK477
SB412
P1
P2
P3
P8
P4
SD361
SK365
P12
SB482
P7
P6
P5
SK364
4L
SK385
SK384
3M
P11
P10
P9
SB383
P6
P1
撹乱
SK491
SD342
P8
P7
SA486
P2
P3
SD133
分割図 1
SD138
4M
SK408
SD134
SD135
SD131
19.0m
0
(1:100)
5m

SB381





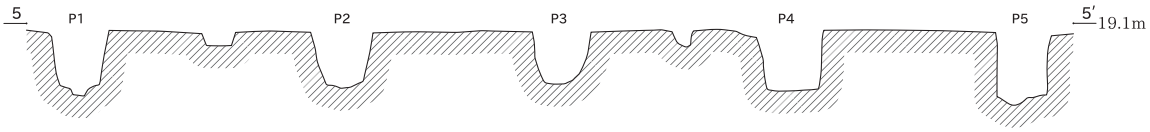


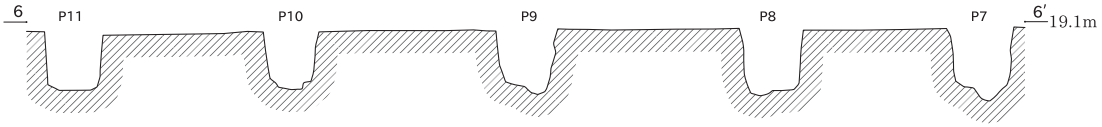


SB381-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の明黄褐色シルト粒少量含む。

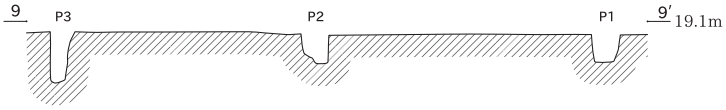
SB381-P5
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ5mm前後の黒褐色シルト粒少量含む。

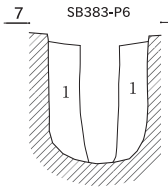
SB383

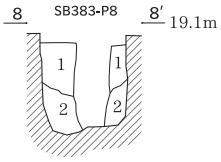


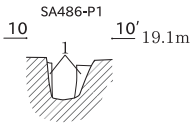


SA486







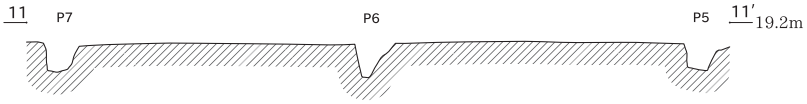


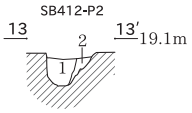
SA486-P1
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。

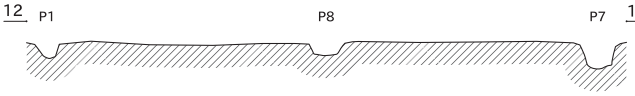
SB383-P6
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm前後のにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。

SB383-P8
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。

SB412



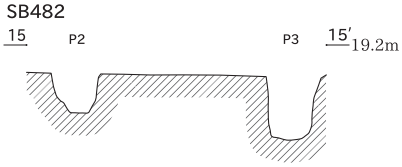


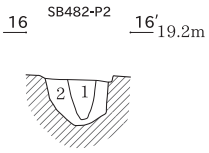


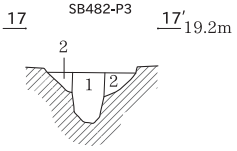
SB412-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。

SB412-P8
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ1～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

SB482

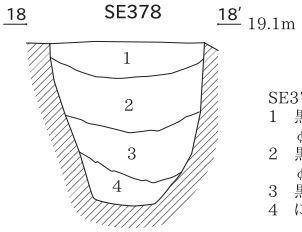




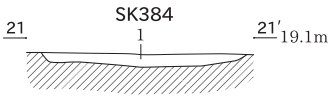


SB482-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
2　φ10mmの黒褐色シルトブロック＋φ10mmのにぶい黄褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。

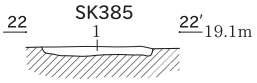
SB482-P3
1　黒色シルト　粘性弱、しまり中。
2　φ10mmの黒褐色シルトブロック＋φ10mmのにぶい黄褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。



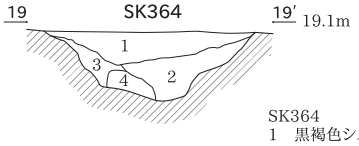
SE378
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の黄褐色シルトブロック中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの黄褐色シルトブロック少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
4　にぶい黄褐色シルト　粘性中、しまり弱。



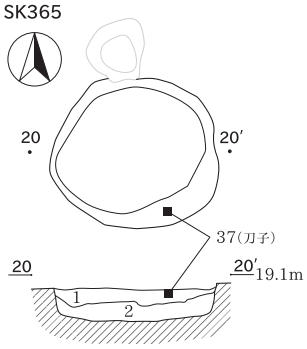
SK384
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の灰黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。



SK385
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1～3mm灰黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。



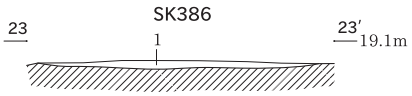
SK364
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量、
　φ3～5mmの炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック中量含む。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量含む。
4　にぶい黄褐色シルト地山ブロック　粘性中、しまり中。



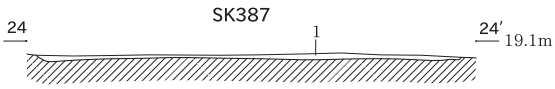
SK365
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。

0　セクション図（1:40）　2m

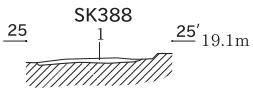
0　エレベーション図（1:60）　3m



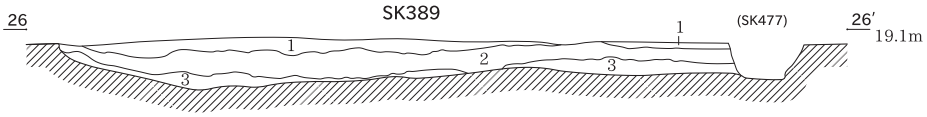
SK386
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの黒褐色シルト中量含む。



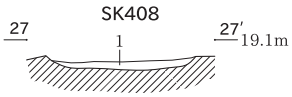
SK387
1　灰黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。



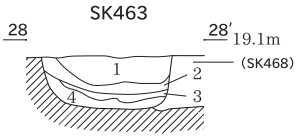
SK388
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。



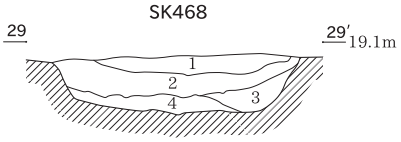
SK389
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック少量含む。



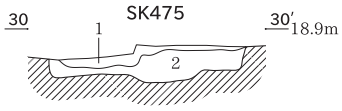
SK408
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。



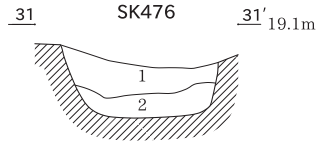
SK463
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm前後のにぶい黄褐色シルト粒少量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の明黄褐色シルト粒少量含む。
4　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm前後の明黄褐色シルト粒少量含む。



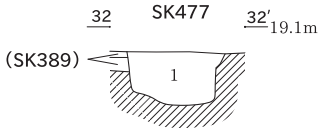
SK468
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量、φ1mm以下の焼土少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量、
　φ10～30mmの炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の明黄褐色シルト粒多量含む。
4　灰黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の炭化物中量含む。



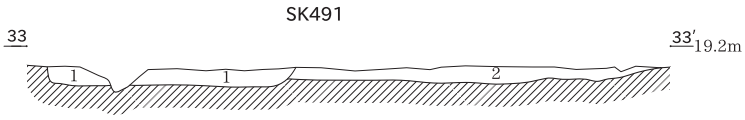
SK475
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。



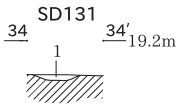
SK476
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。
2　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック+
　φ10～30mmの黒褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。



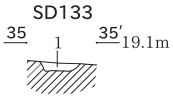
SK477
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック
　中量含む。



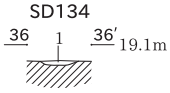
SK491
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、φ10mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の炭化物少量含む。

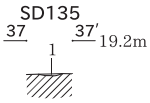


SD361
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルト
　地山ブロック中量含む。

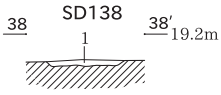


SD133
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mm以下のにぶい黄褐色シルト
　地山ブロック中量含む。

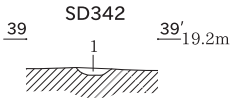


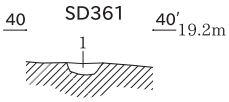


SD134･SD135
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。



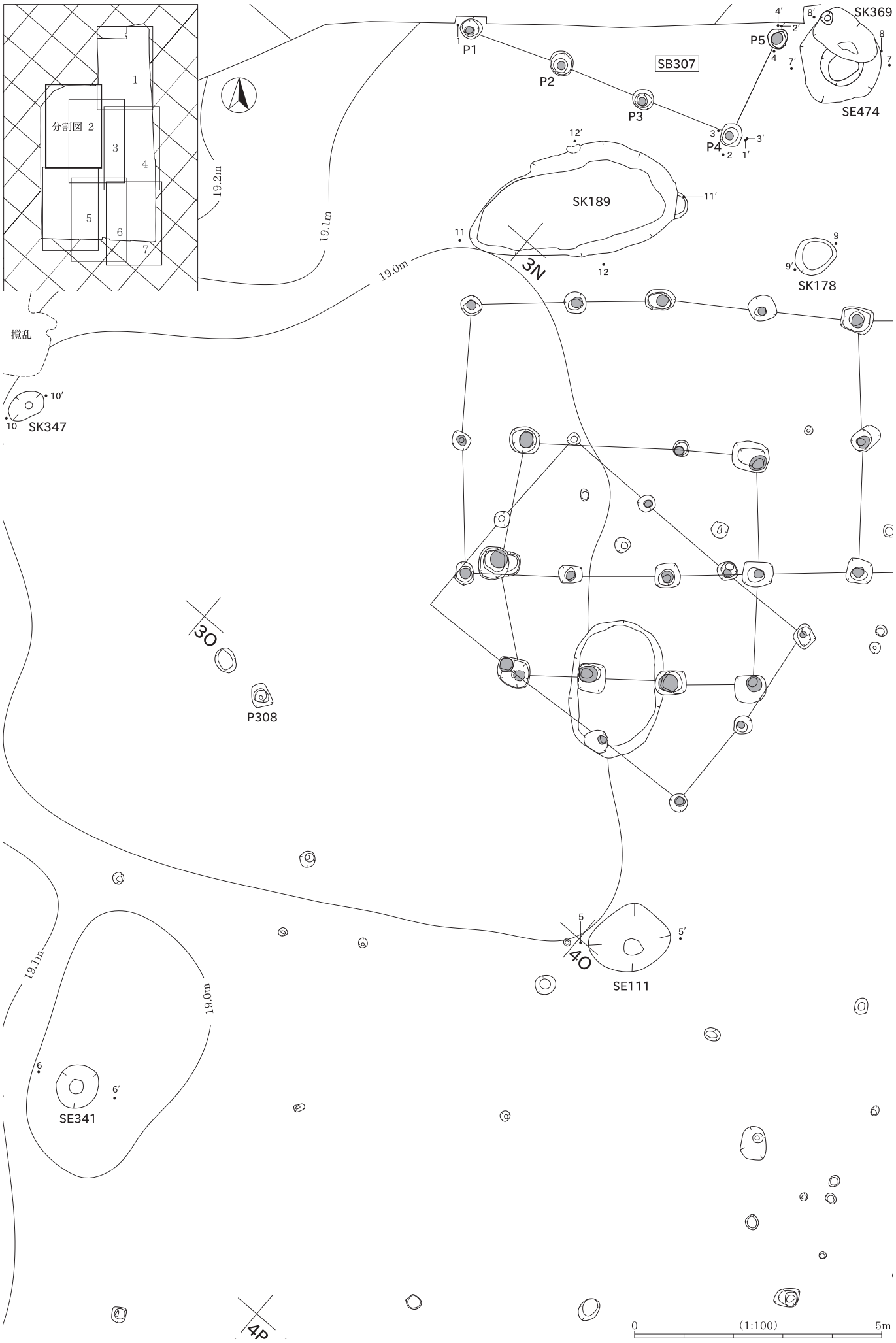
SD138
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mm以下のにぶい黄褐色シルト
　地山ブロック中量含む。



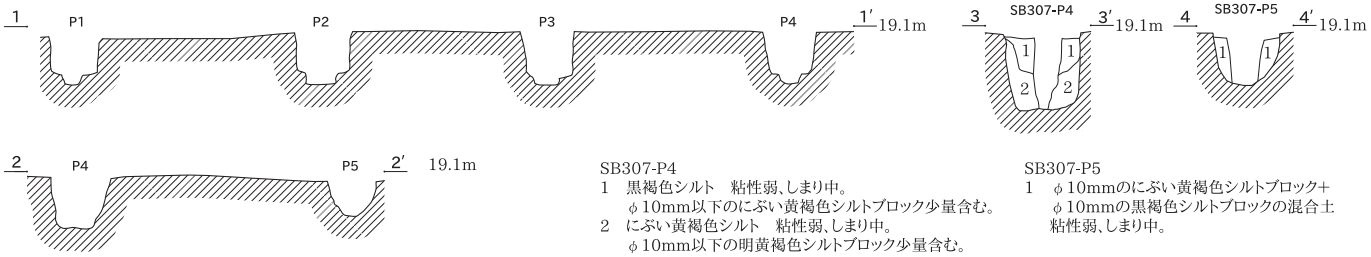


SD342･SD361
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

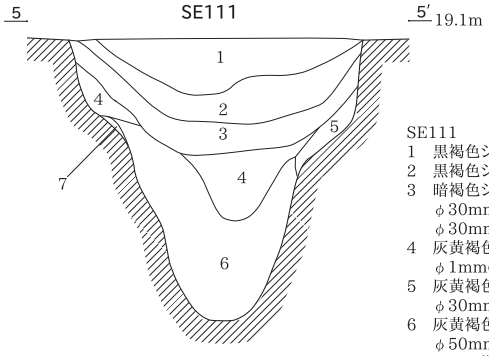

分割図 2
1
3
4
5
6
7
19.2m
19.1m
19.0m
P1
P2
P3
P4
P5
SB307
SK369
SE474
SK189
SK178
SK347
SE111
SE341
P308
3N
3O
4O
4P
搬乱
0
(1:100)
5m

SB307

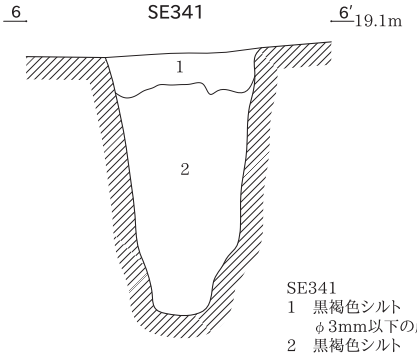


SB307-P4
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。

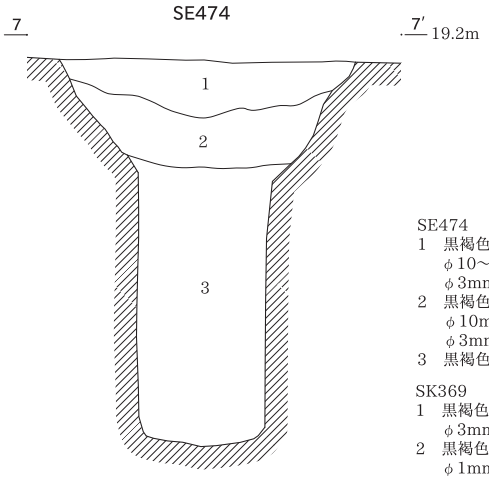
SB307-P5
1　φ10mmのにぶい黄褐色シルトブロック+
　φ10mmの黒褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。

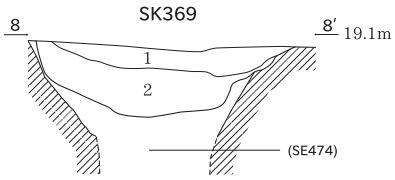


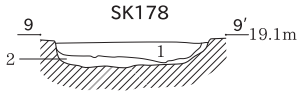
SE111
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
3　暗褐色シルト　粘性強、しまり弱。
　φ30mmの明黄褐色シルト地山ブロック多量、
　φ30mmの黒色シルトブロック多量含む。
4　灰黄褐色シルト　粘性中、しまり弱。
　φ1mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
5　灰黄褐色シルト　粘性中、しまり弱。
　φ30mmの明黄褐色シルト地山ブロック中量含む。
6　灰黄褐色シルト　粘性強、しまり弱。
　φ50mmの明黄褐色シルト地山ブロック中量含む。
7　にぶい黄褐色シルト地山ブロック　粘性強、しまり弱。



SE341
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまりやや弱。
　φ10mm以下の炭化物中量含む。



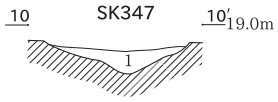




SK178
1 黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2 黒色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

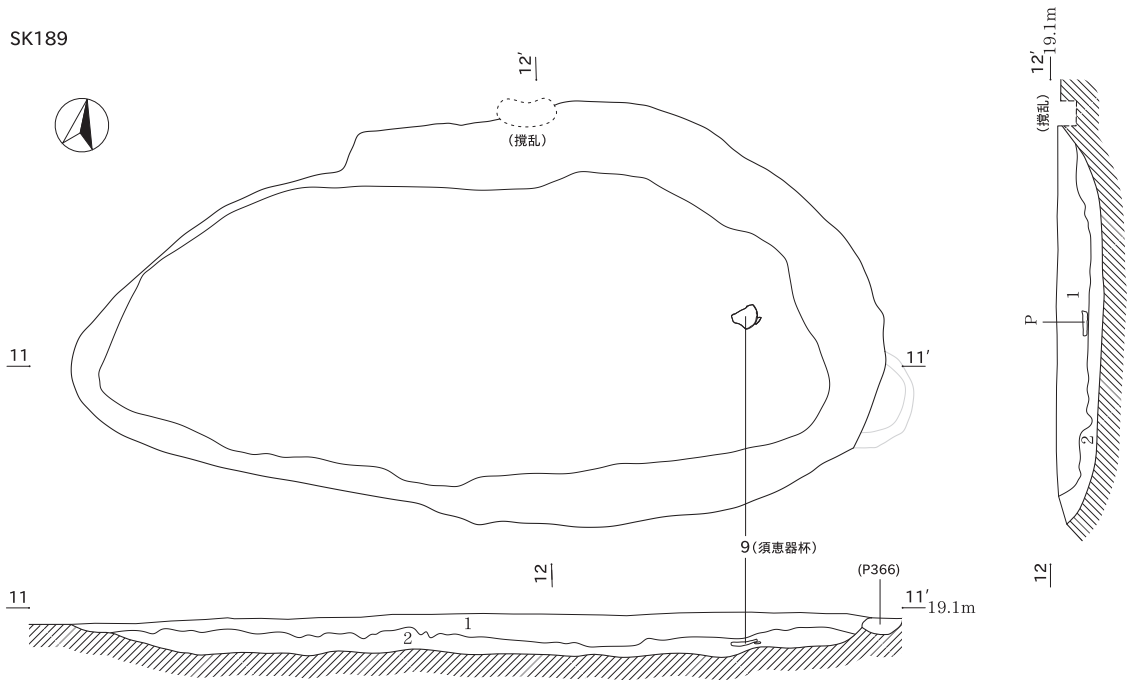
SE474
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。

SK369
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1mm以下の炭化物少量含む。



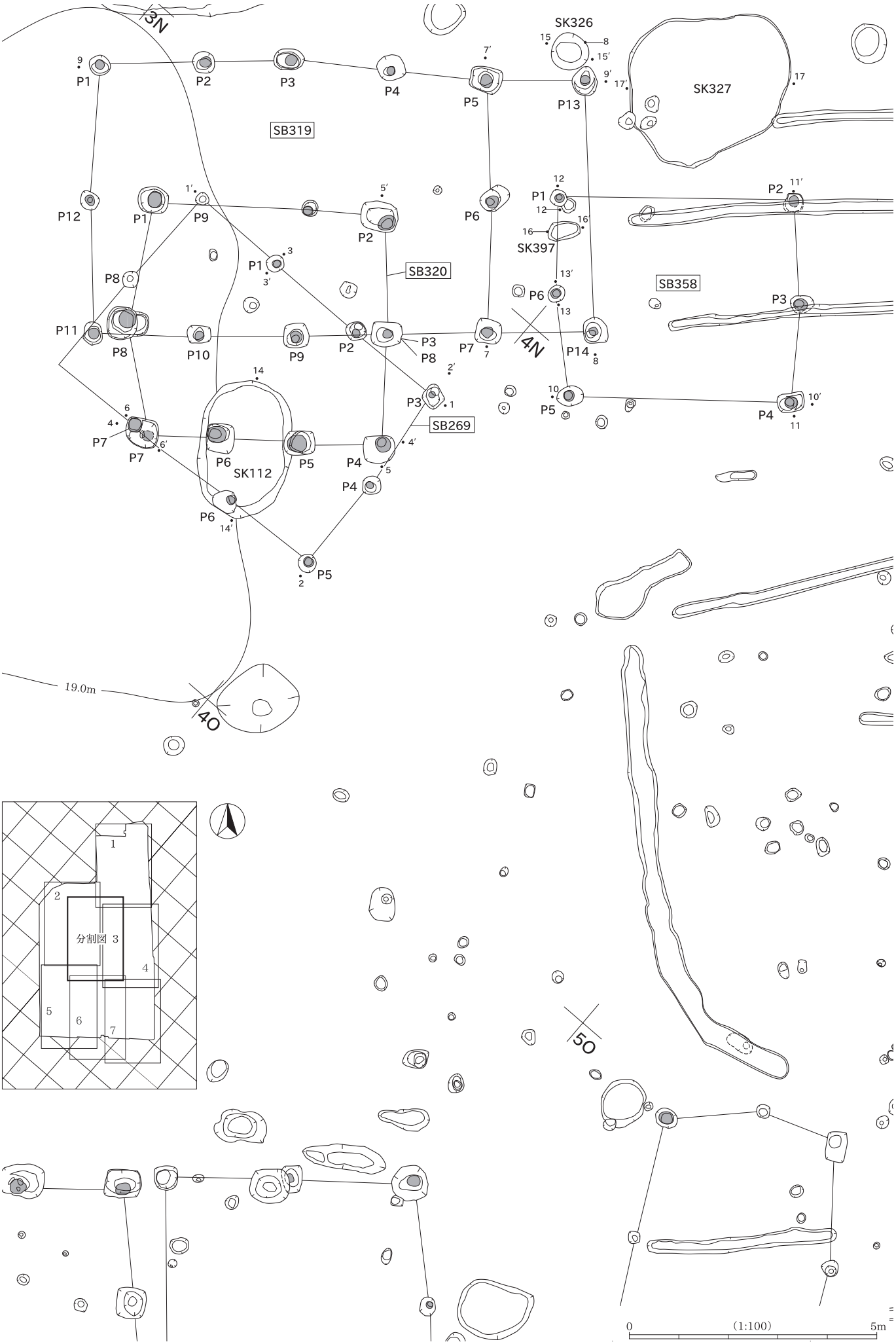
SK347
1 黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

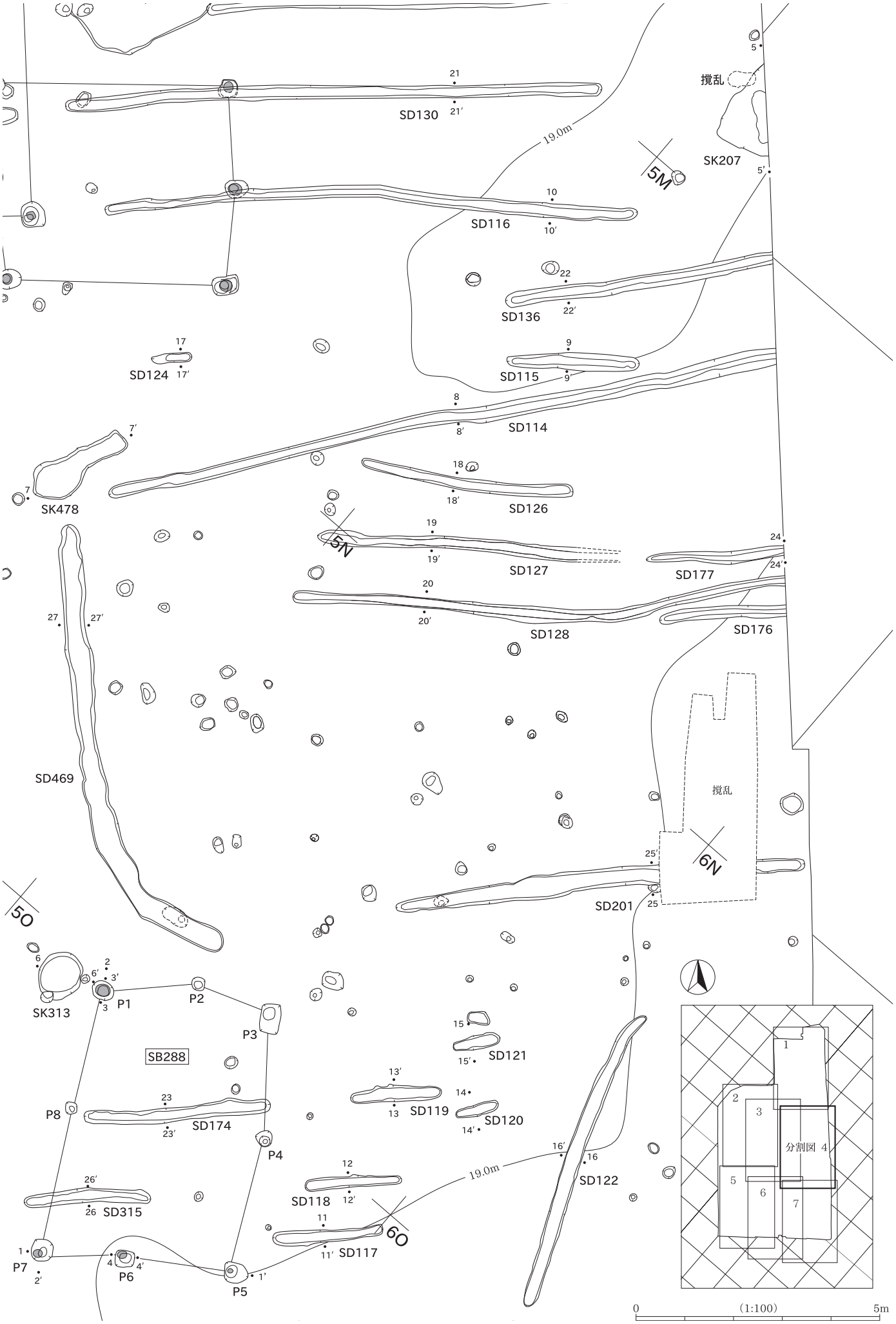
SK189



SK189
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ1mm以下の灰白色粘土粒子微量、φ1mm以下の炭化物少量、φ1mm以下の焼土少量含む。
2　黒色粘質シルト　粘性強、しまり中。

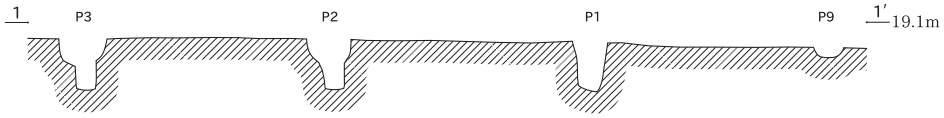
0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

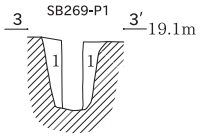

3N
SK326
SK327
SB319
SB320
SB269
SB358
SK397
SK112
4N
4O
5O
19.0m
分割図 3
0
(1:100)
5m

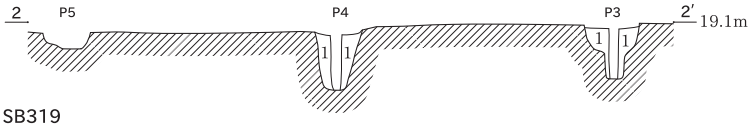

SD130
SD116
SD136
SD124
SD115
SD114
SK478
SD126
SD127
SD177
SD128
SD176
SD469
SK207
撹乱
SK313
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
SB288
SD174
SD315
SD118
SD117
SD119
SD120
SD121
SD122
SD201
19.0m
5M
5N
5O
6N
6O
分割図 4
0
(1:100)
5m

遺構分割図3

SB269

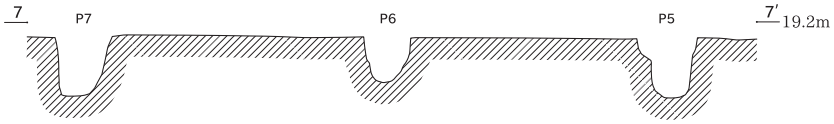


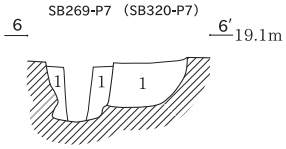


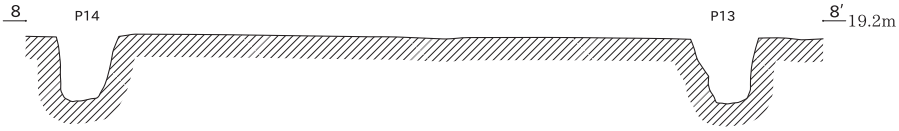


SB269-P1
1　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
SB269-P3
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　φ5mmのにぶい黄褐色シルト粒少量含む。
SB269-P4
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　φ1mm前後のにぶい黄褐色シルト粒少量含む。

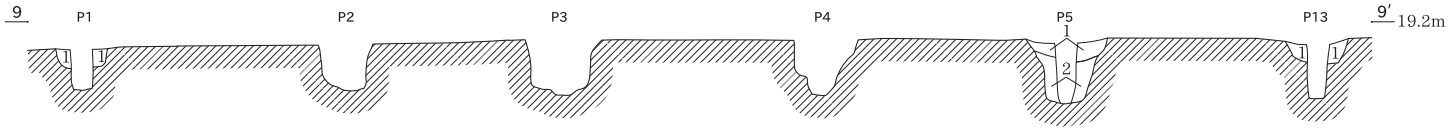
SB319



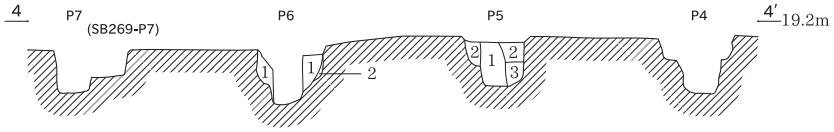


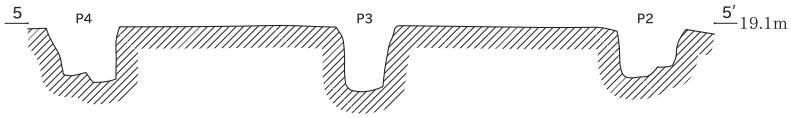


SB269-P7
1　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
SB320-P7
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。



SB320

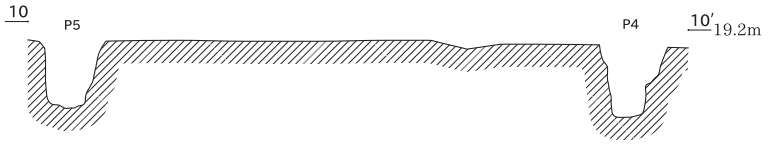


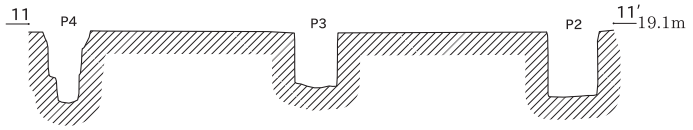


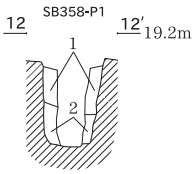
SB319-P1
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック少量含む。
SB319-P5
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　にぶい黄褐色シルトブロック+黒褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。
SB319-P13
1　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック+にぶい黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック少量含む。

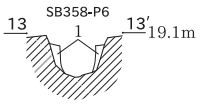
SB320-P5
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中、
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。
SB320-P6
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

SB358

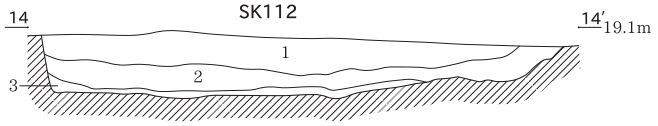




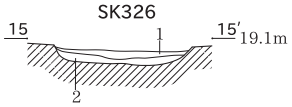




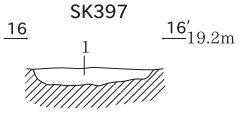
SB358-P1
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
SB358-P6
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。



SK112
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ1～3mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物、φ3mm以下の焼土含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のシルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物中量含む。
3　灰黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ1～3mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。

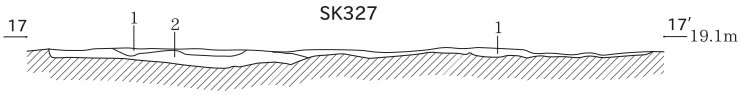


SK326
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。



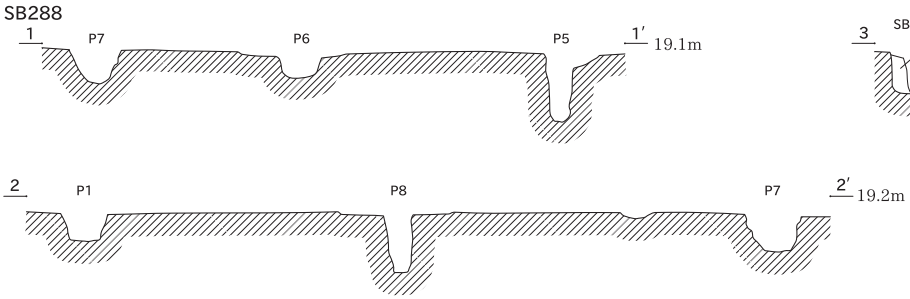
SK397
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。

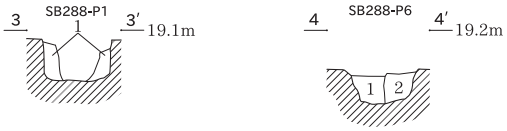
0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m



SK327
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック中量、φ1mm以下の炭化物中量、φ1mm以下の焼土中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック中量、φ1mm以下の炭化物少量、φ1mm以下の焼土少量含む。

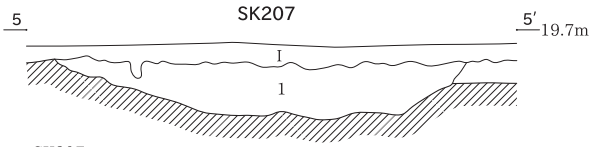
遺構分割図4



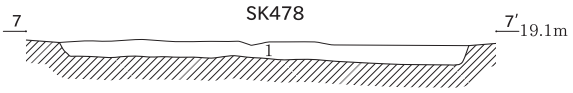


SB288-P1
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
φ10mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量、φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。

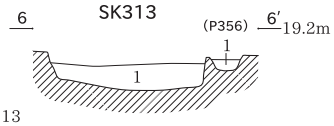
SB266-P6
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm前後の黒褐色シルトブロック少量含む。



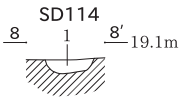
SK207
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。



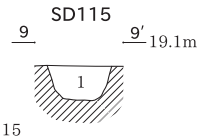
SK478
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量、φ3mm以下の炭化物少量含む。



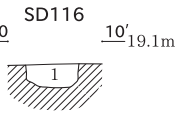
SK313
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ3mm以下の炭化物少量含む。
P356
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下のにぶい明黄褐色シルトブロック少量含む。



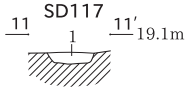
SD114
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。



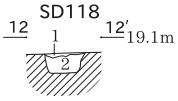
SD115
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ30mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。



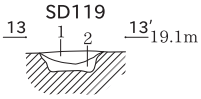
SD116
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10～30mmの褐色シルトブロック少量含む。



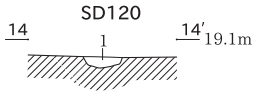
SD117
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。



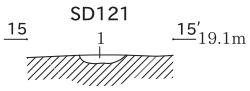
SD118
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10～30mmのにぶい暗黄褐色シルト地山ブロック少量含む。



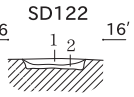
SD119
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。



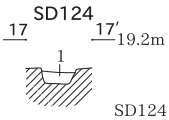
SD120
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。

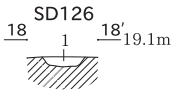


SD121
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。

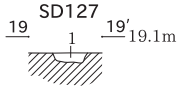


SD122
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。

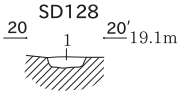


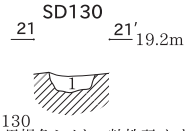


SD124・SD126
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。

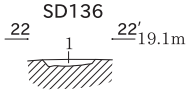


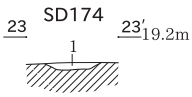
SD127・SD128
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10～30mmにぶい黄褐色シルト地山ブロック中量含む

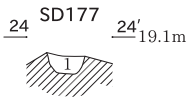




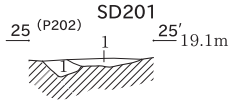
SD130
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。



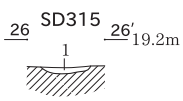




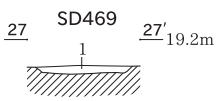
SD136・SD174・SD177
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下のにぶい黄褐色シルト地山ブロック少量含む。



SD201
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10～30mmのにぶい黄褐色シルト地山ブロック中量含む。
P202
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm前後のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。



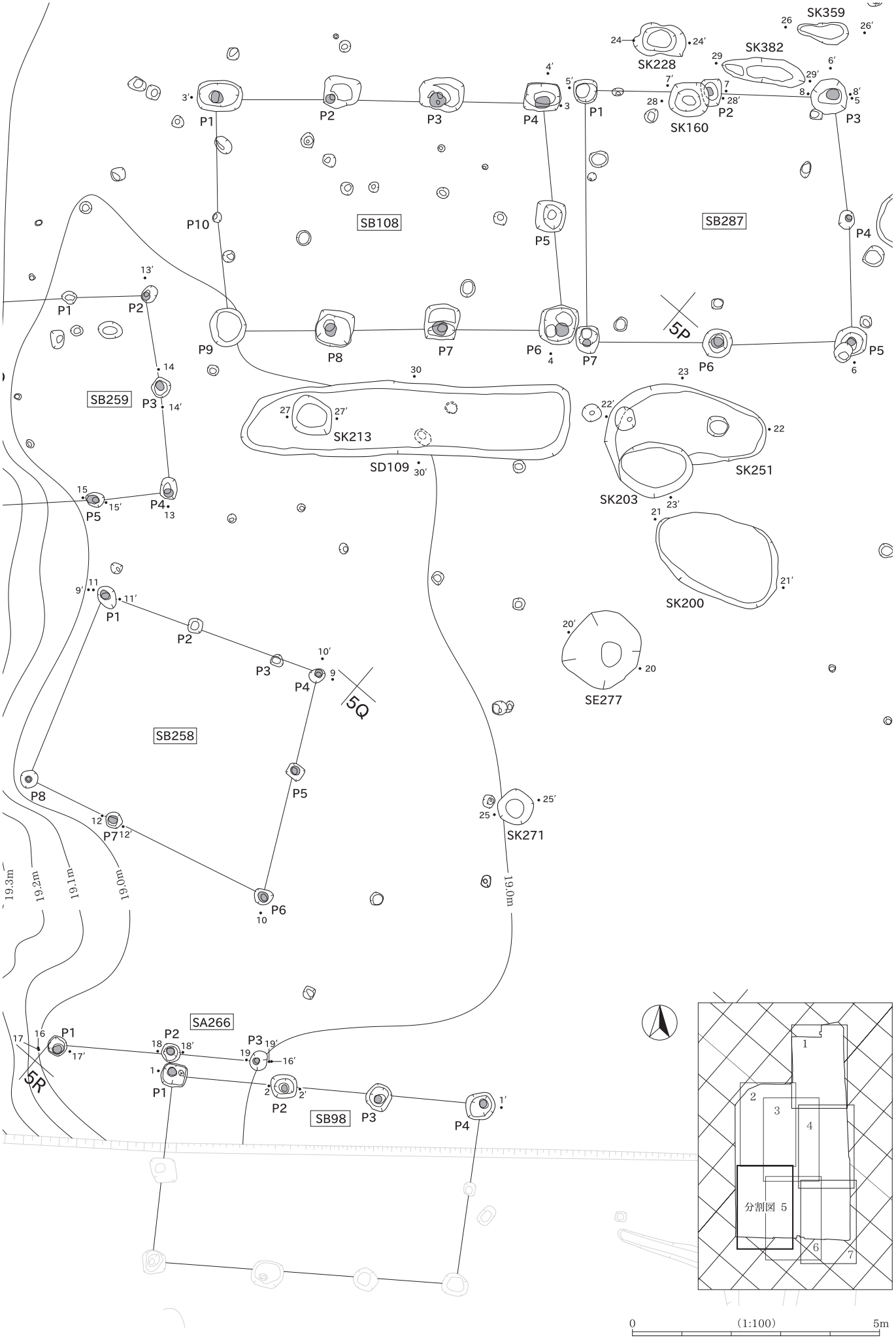
SD135
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。



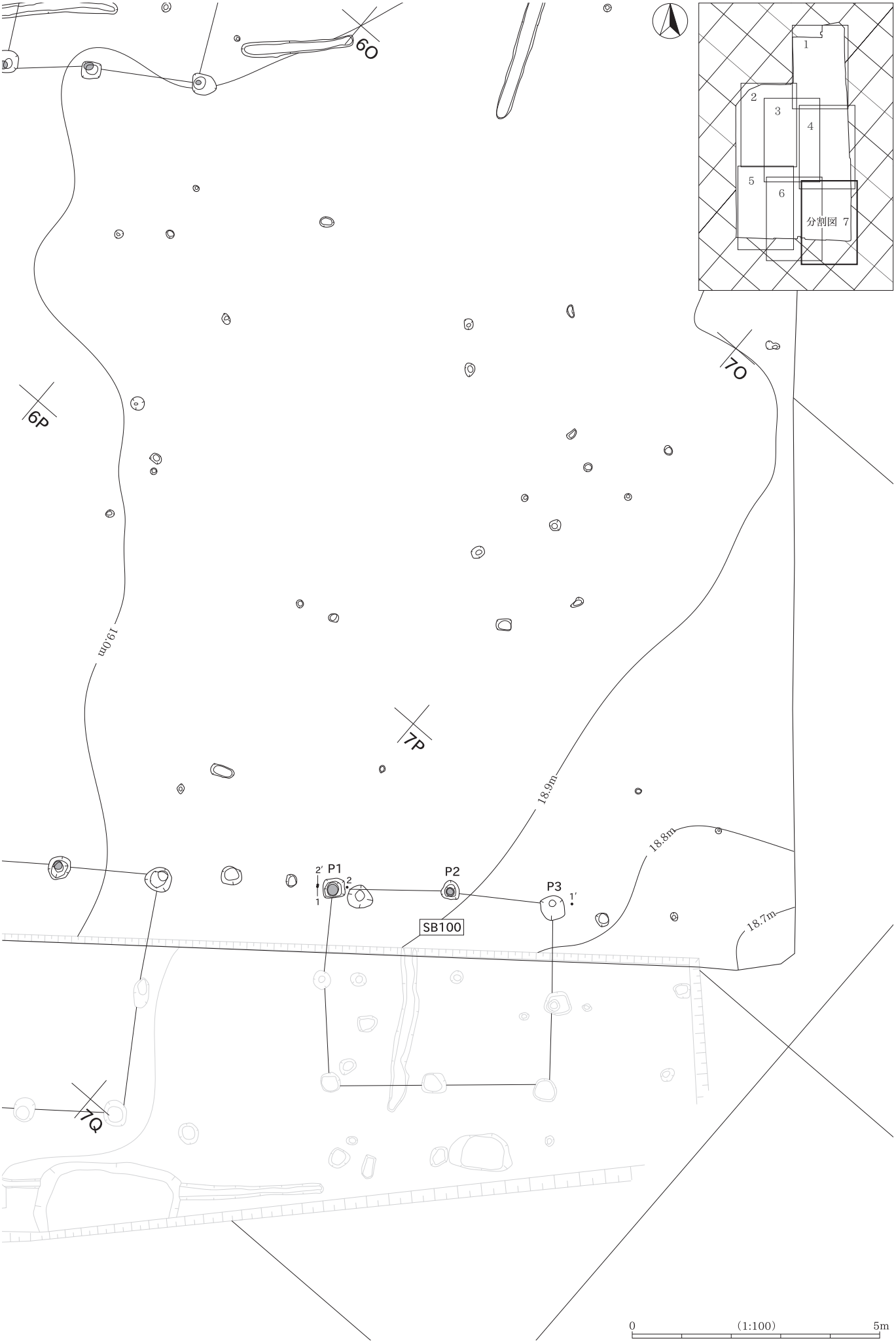
SD469
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。

0　セクション図（1:40）　2m

0　エレベーション図（1:60）　3m

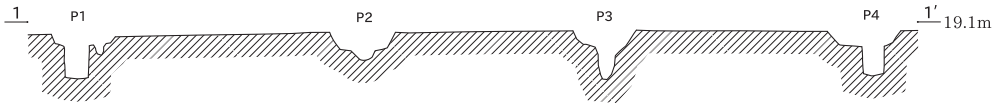

SK359
SK228
SK382
SK160
SB108
SB287
SB259
SB258
SA266
SB98
SK213
SD109
SK203
SK251
SK200
SE277
SK271
5P
5Q
5R
19.3m
19.2m
19.1m
19.0m
分割図 5
0
(1:100)
5m

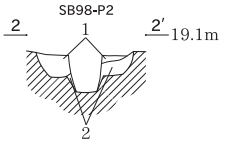
SK282
3
3′
5P
6P
6Q
7Q
19.0m
19.0m
SX55
4′
4
P1
P2
P3
P4
1
1′
2
2′
SB99
1
2
3
4
5
7
分割図 6
0
(1:100)
5m


6O
6P
7O
7P
7Q
19.0m
18.9m
18.8m
18.7m
P1
P2
P3
2′
2
1
1′
SB100
1
2
3
4
5
6
分割図 7
0
(1:100)
5m

遺構分割図 5

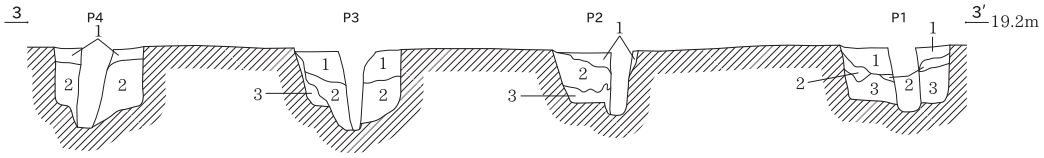
SB98





SB98-P2
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の暗褐色シルトブロック少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

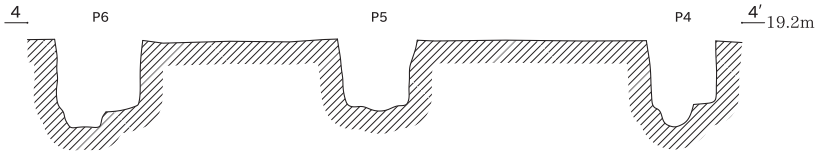
SB108



SB108-P4
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ5～10mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量、
φ1mm以下の炭化物少量含む。

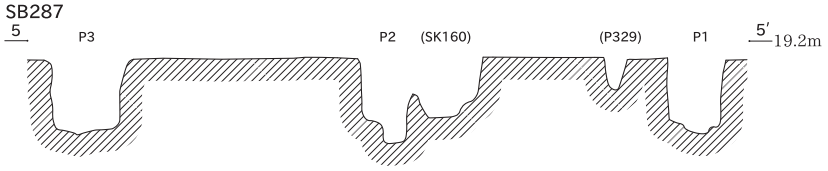
SB108-P3
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mmの明黄褐色シルトブロック少量含む。

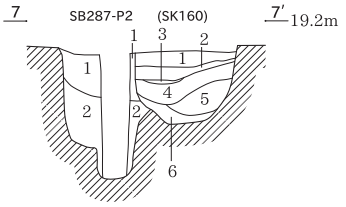
SB108-P1
1　φ5mmの黒褐色シルトブロック＋φ5mm以下のにぶい黄褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。
2　φ5～10mmの黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
褐灰色シルトブロック少量含む。
3　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm前後の黒色シルトブロック少量含む。

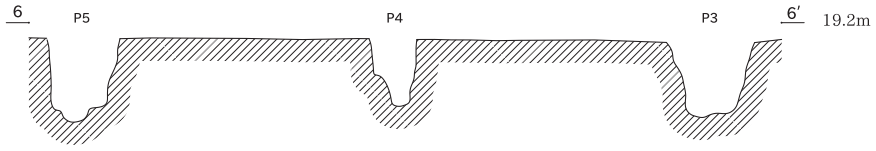


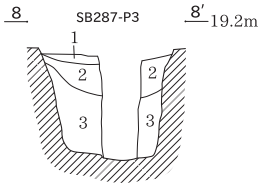
SB108-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
3　黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下の黒褐色シルトブロック中量含む。

SB287







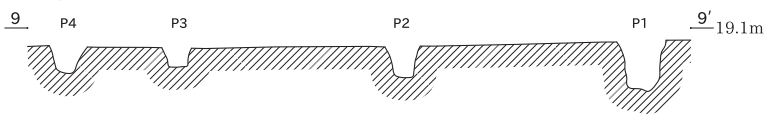


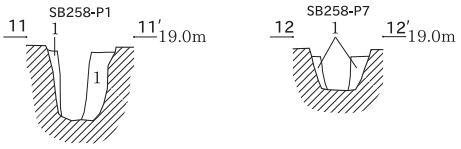
SK160
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mm以下のにぶい黄褐色シルト斑状に少量、
φ5mm以下の炭化物中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。
4　黄褐色シルト　粘性強、しまり弱。
5　褐灰色シルト　粘性強、しまり弱。
6　褐灰色シルト　粘性強、しまり弱。
φ30mm前後のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

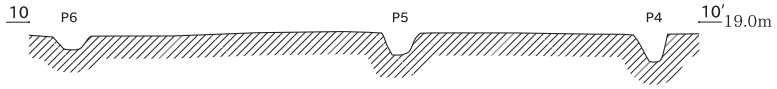
SB287-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
φ5mm以下のにぶい黄褐色シルト粒中量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
φ10～20mmの黒褐色シルトブロック少量含む。

SB287-P3
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
φ10mm以下の炭化物少量。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

SB258



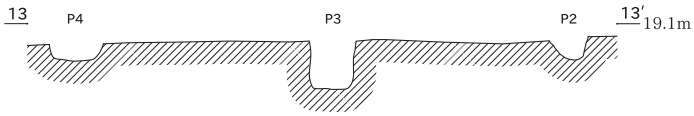


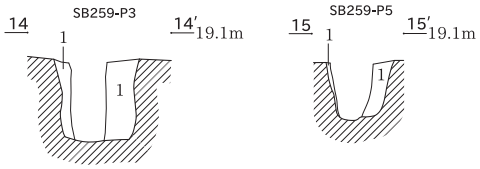


SB258-P1
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。

SB258-P7
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
φ10～20mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

SB259

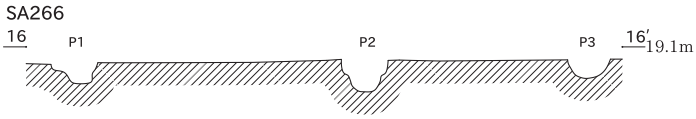


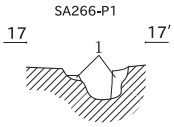


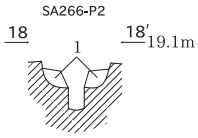
SB259-P3
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mmの明黄褐色シルトブロック中量含む。

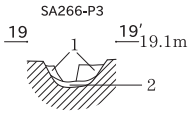
SB259-P5
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m



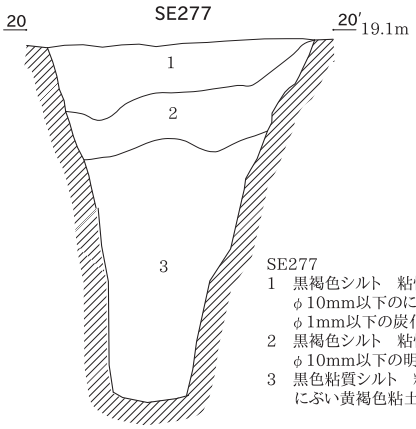




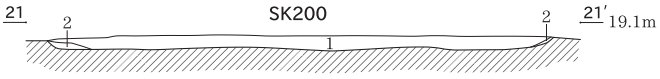


SA266-P1・SA266-P2
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。

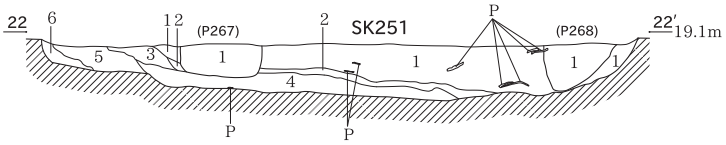
SA266-P3
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。

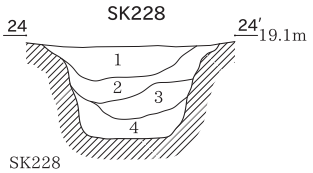


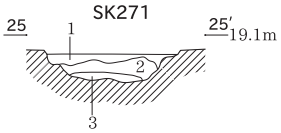
SE277
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。
　φ10mm以下の明黄褐色粘土ブロック少量含む。
3　黒色粘質シルト　粘性中、しまり弱。
　にぶい黄褐色粘土含む。

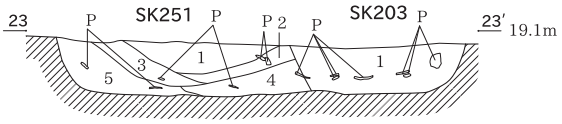


SK200
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量、
　φ10mm以下の灰黄褐色シルトブロック少量含む。
2　明黄褐色シルト地山ブロック　粘性中、しまり中。









SK228
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ1mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。
4　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5～10mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。

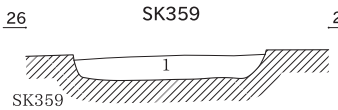
SK271
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ5～10mmのにぶい黄褐色シルトブロック中量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mm以下の黒褐色シルトブロック少量含む。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量含む。

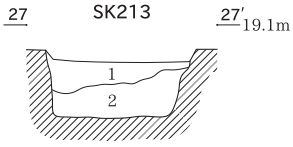
P267
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ1mm以下の焼土少量含む。

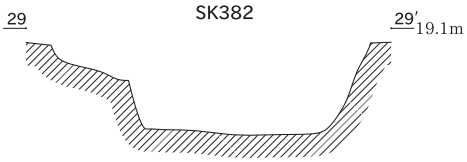
P268
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

SK203
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmの灰黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量、φ1mm以下の焼土少量含む。

SK251
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mmの明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1mm以下の炭化物少量、φ1mm以下の焼土少量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の明黄褐色シルトブロック中量含む。
3　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　φ5～10mm以下の焼土ブロック多量含む。
4　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック中量、
　φ5mm以下の炭化物少量、φ5mm以下の焼土少量含む。
5　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
6　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5～10mmの黒褐色シルトブロック少量含む。

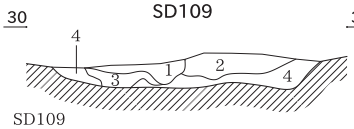


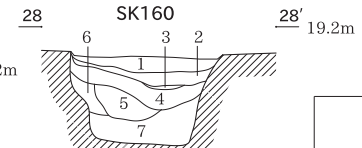




SK359
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

SK213
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、φ1mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。

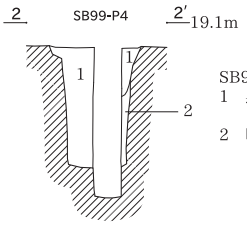




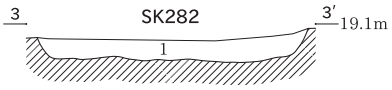
SD109
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mm以下の炭化物多量、φ5mm以下の焼土多量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　黄褐色ブロック少量、φ5mm以下の炭化物中量、
　φ5mm以下の焼土少量含む。
3　暗褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　灰黄褐色シルトブロック少量含む。
4　にぶい黄褐色シルト地山ブロック　粘性中、しまり中。

SK160
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mm以下のにぶい黄褐色シルト斑状に少量、
　φ5mm以下炭化物中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。
4　黄褐色シルト　粘性強、しまり弱。
5　褐灰色シルト　粘性強、しまり弱。
6　褐灰色シルト　粘性強、しまり弱。　φ30mm前後のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
7　褐灰色シルト　粘性強、しまり弱。

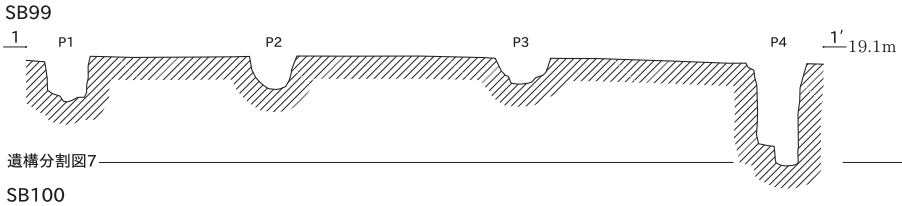
遺構分割図6



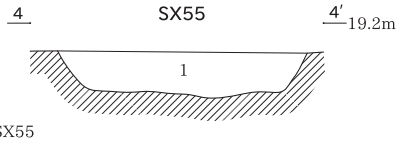
SB99-P4
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。



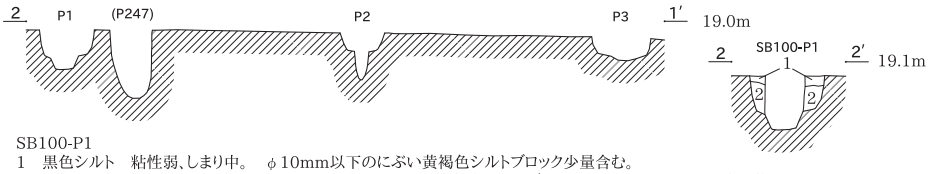
SK282
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～20mmのにぶい黄褐色シルトブロック少量、
　φ5mm以下の炭化物少量含む。



遺構分割図7



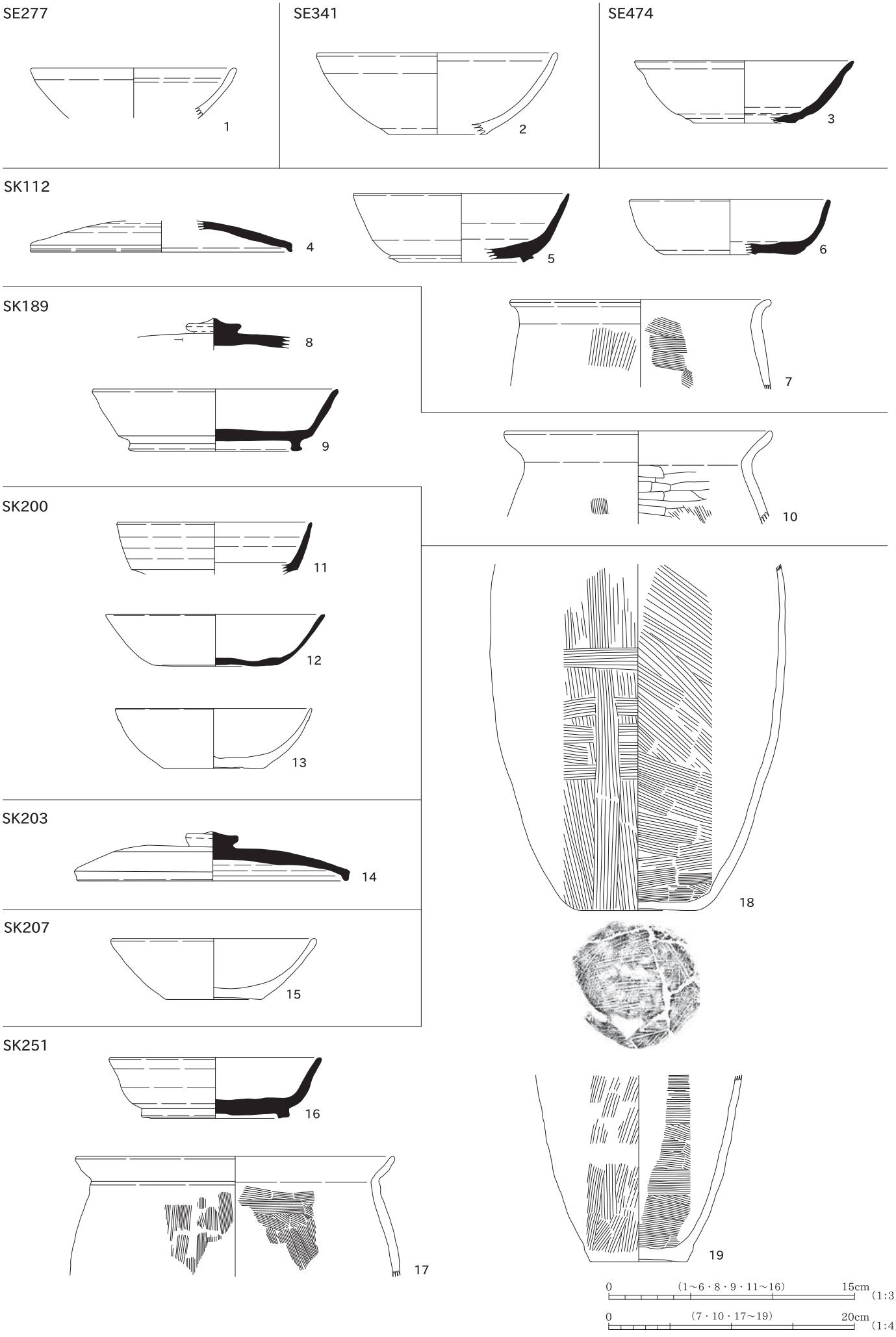
SX55
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。



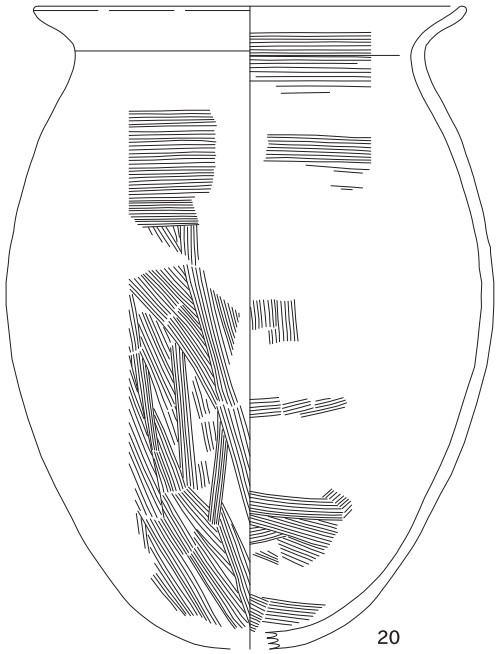
SB100-P1
1　黒色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量、φ3mm以下の炭化物少量。

0　セクション図（1:40）　2m

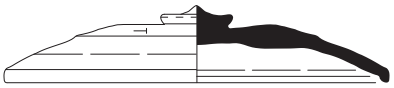
0　エレベーション図（1:60）　3m

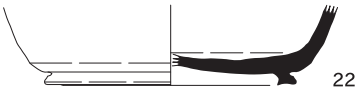

SE277
1
SE341
2
SE474
3
SK112
4
5
6
SK189
8
9
7
10
SK200
11
12
13
SK203
14
SK207
15
SK251
16
17
18
19
0 (1～6・8・9・11～16) 15cm (1:3)
0 (7・10・17～19) 20cm (1:4)

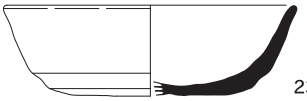
SK251

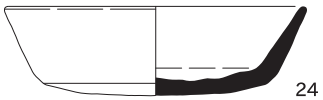


SK327

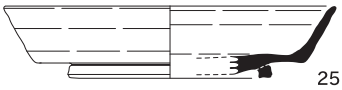


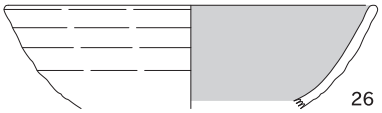




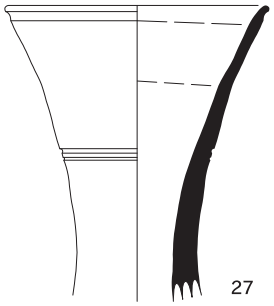


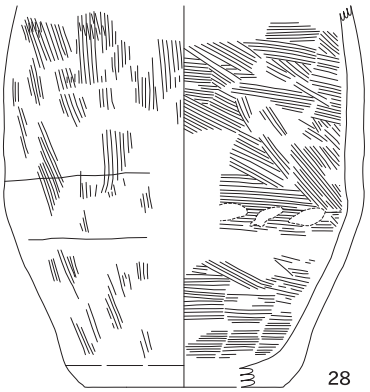
SK389



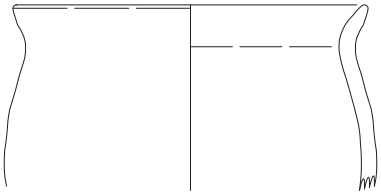


SK468

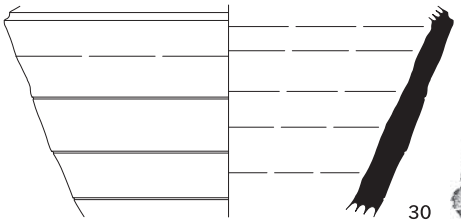




SD109

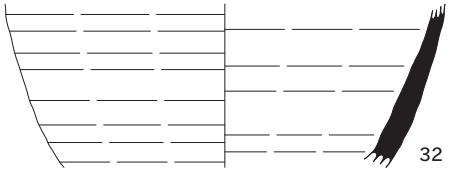


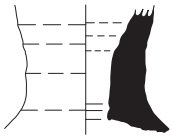
SD114



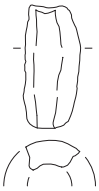
P308

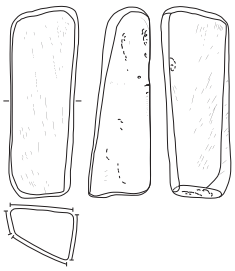
Ⅱ層

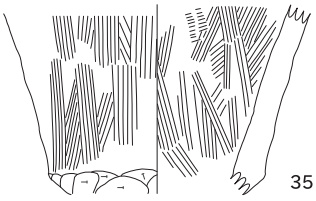


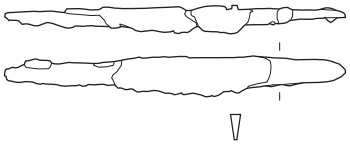


土製品・石製品・金属製品





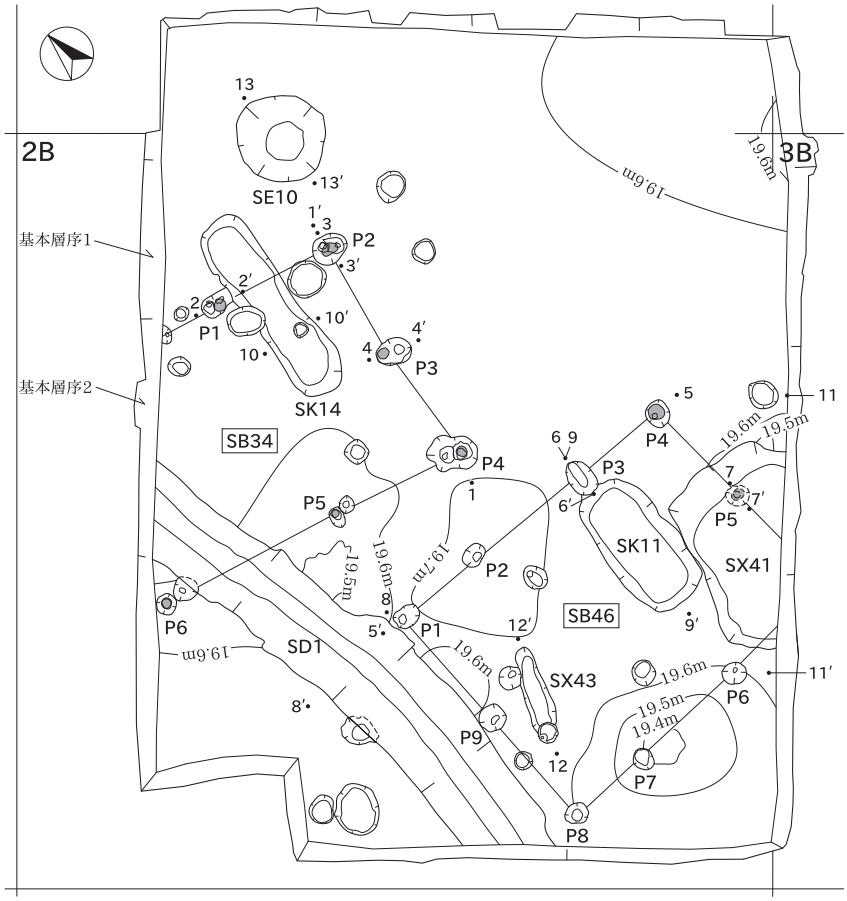




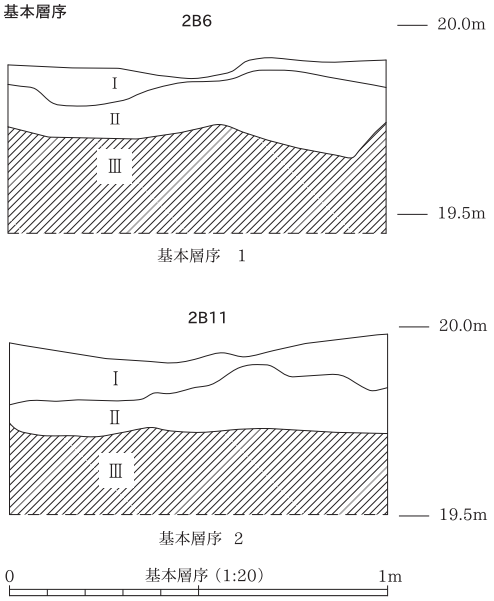
0　(21～27・29～34・36・37)　20cm　(1:3)

0　(20・28・35)　15cm　(1:4)

遺構配置図



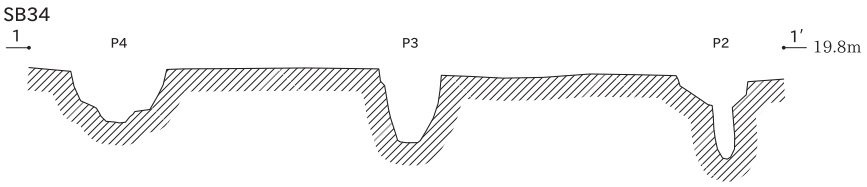
基本層序

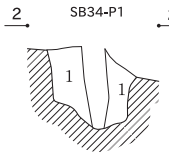


Ⅰ層：にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ5mm以下の炭化物少量含む。
Ⅱ層：にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ5mm以下の炭化物中量含む。
Ⅲ層：明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ3mm以下の炭化物少量含む。　地山。
　　(遺構検出面)

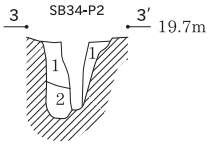
0　（1:100）　5m

遺構個別図 1

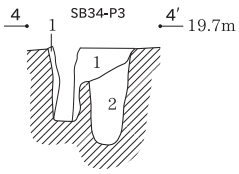




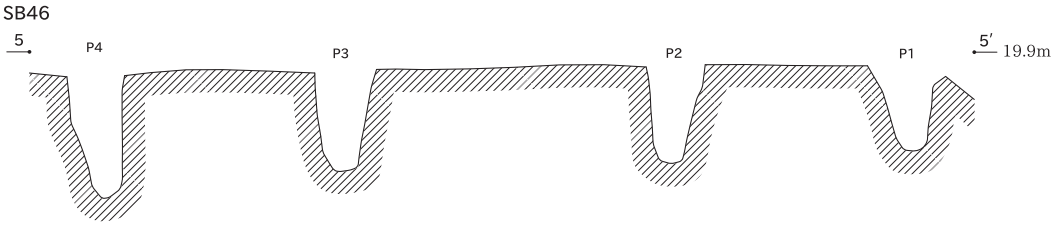
SB34-P1
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック中量含む。

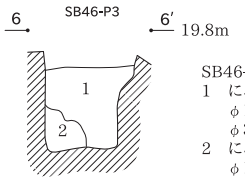


SB34-P2
1　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック＋φ10mm以下の
　　にぶい黄褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。
2　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック＋φ10～30mmの
　　にぶい黄褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。

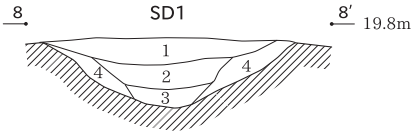


SB34-P3
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の
　　明黄褐色シルトブロック中量、φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ10mm前後の明黄褐色シルトブロック中量含む。

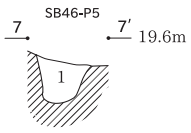




SB46-P3
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
　　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック少量、
　　φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック少量含む。



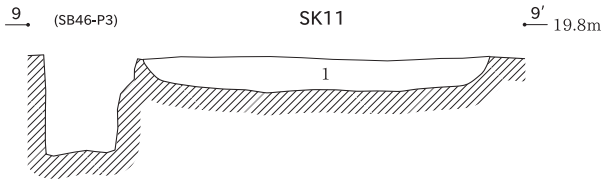
SD1
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の灰黄褐色シルトブロック中量、
　　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
3　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の明黄褐色ブロック中量含む。
4　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック多量含む。



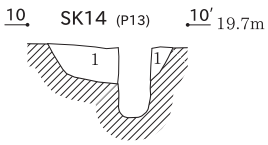
SB46-P5
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　　φ10mm前後の明黄褐色シルトブロック中量含む。

0　セクション図（1:40）　2m

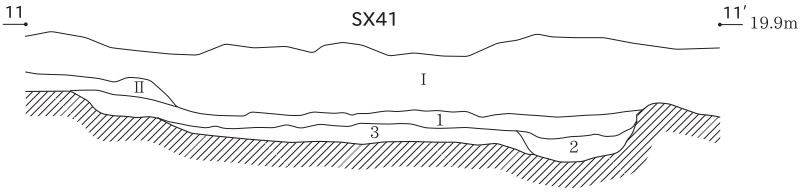
遺構個別図２



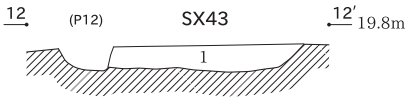
SK11
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック中量、φ3mm以下の炭化物少量含む。



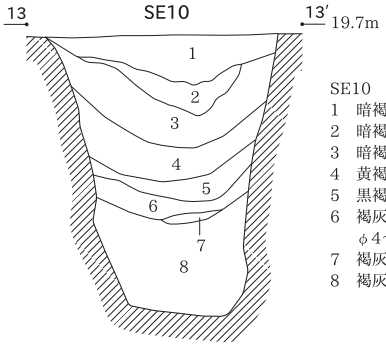
SK4
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。



SX41
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量含む。
2　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり弱。　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
3　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック＋φ10～30mmのにぶい黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。



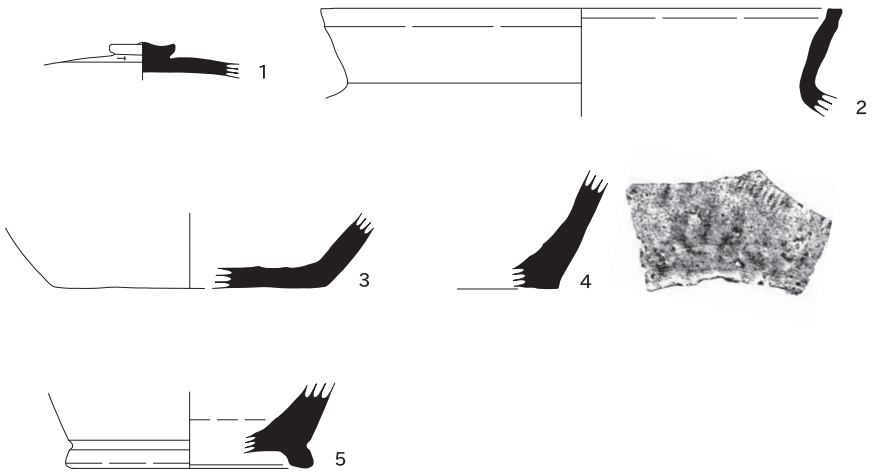
SX43
1　にぶい黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm前後の明黄褐色シルトブロック中量含む。



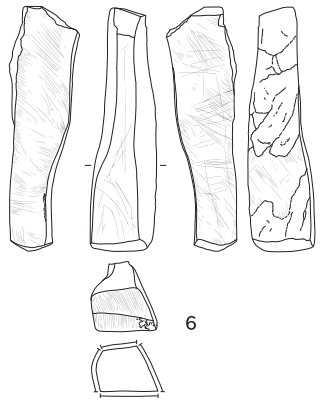
SE10
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり強。　φ5～25mmの黄褐色シルトブロック少量、φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　暗褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～25mmの黄褐色ブロック斑状に中量、φ8mm以下の炭化物中量含む。
3　暗褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ3～22mmの黄褐色シルトブロック少量、φ6mm以下の炭化物少量含む。
4　黄褐色シルト　粘性中、しまり弱。　明黄褐色シルトブロックと褐灰色シルトブロックの混合土、φ5mm以下の炭化物少量含む。
5　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。　φ7～27mmの明黄褐色シルトブロック斑状に少量、φ5mm以下の炭化物少量含む。
6　褐灰色シルト＋黄褐色シルトの混合土　粘性強、しまり中。
　φ4～17mmの黄橙褐色シルトブロック少量、φ16mm以下の炭化物少量含む。
7　褐灰色シルト　粘性強、しまり中。　φ5～38mmの黄橙褐色シルトブロック含む。
8　褐灰色シルト　粘性強、しまり中。　φ8mm以下の炭化物少量含む。

0　セクション図（1:40）　2m

SD1

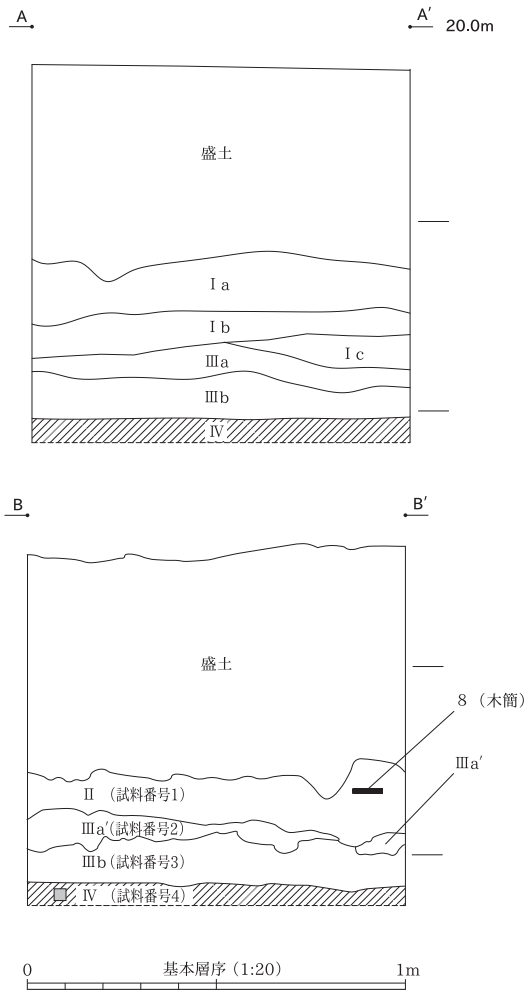


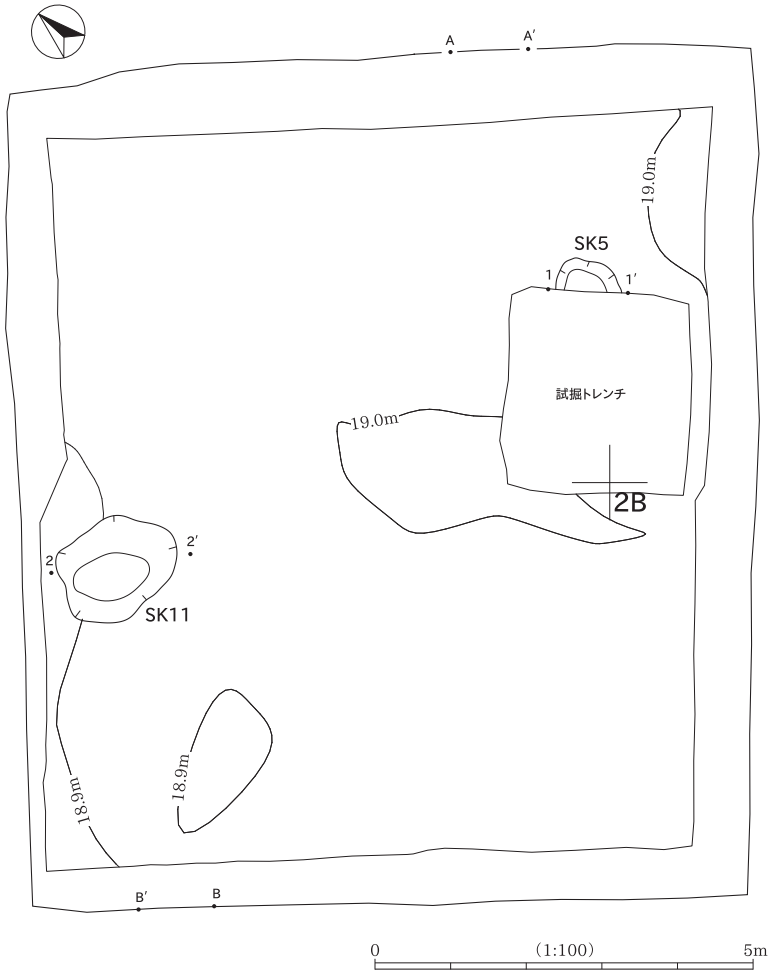
石製品



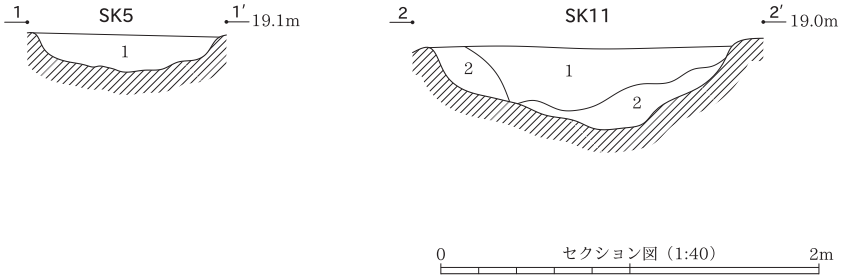
0　(1～5)　15cm　(1:3)

0　(6)　20cm　(1:4)

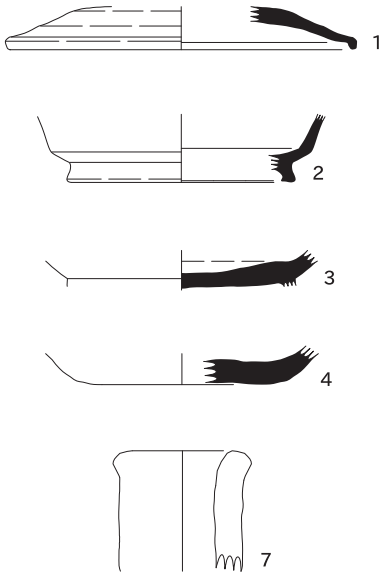




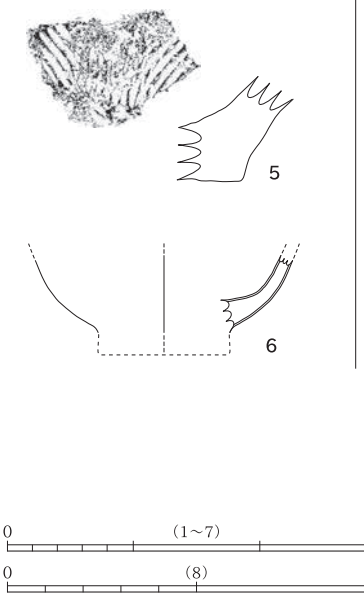
Ⅰa 層：暗赤灰色砂質粘土　粘性弱、しまり強。
Ⅰb 層：炭化物を少量含む。
Ⅰc 層：赤灰色砂質粘土　粘性弱、しまり強。
Ⅱ　層：赤灰色粘土　粘性弱、しまり強。
Ⅲa 層：黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　黒褐色シルト　粘性中、しまりやや強。
Ⅲa′層：褐灰色砂質シルトブロックを中量含む。
Ⅲb 層：褐灰色砂質シルト　粘性中、しまりやや強。
Ⅳ　層：黒褐色シルト　粘性やや強、しまり中。
　　オリーブ黒色砂　粘性なし、しまりやや強。
　　（遺構検出面）



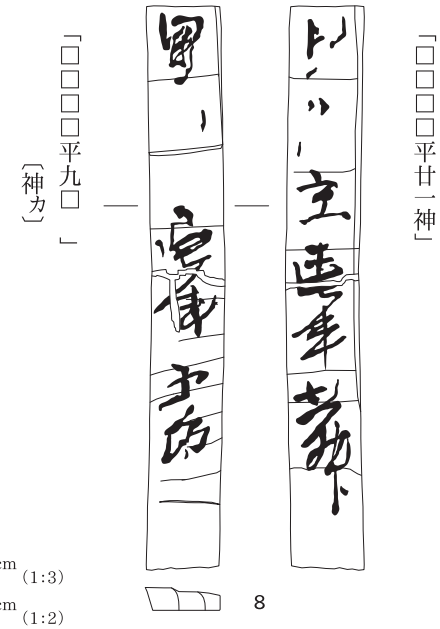
Ⅲ a 層

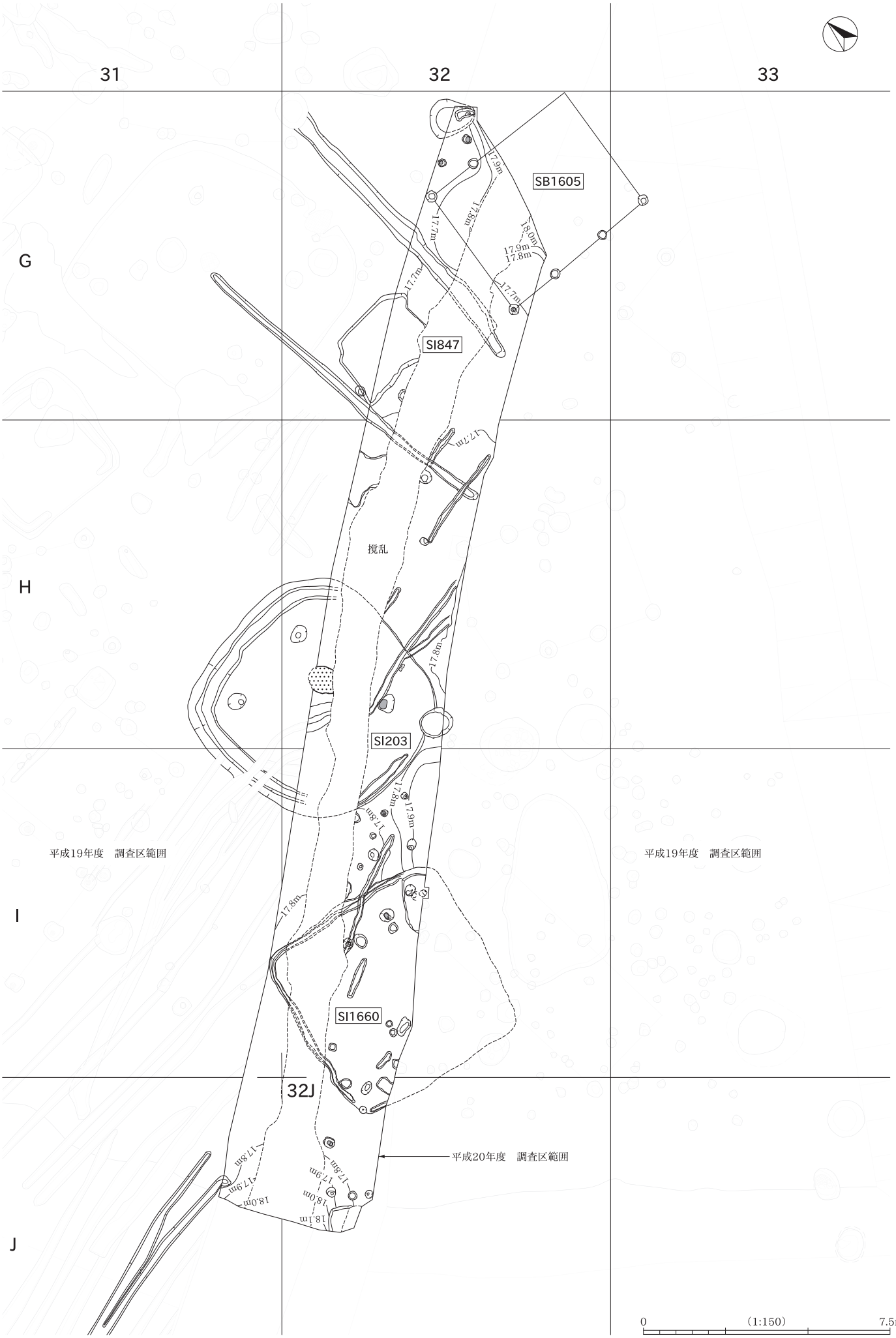


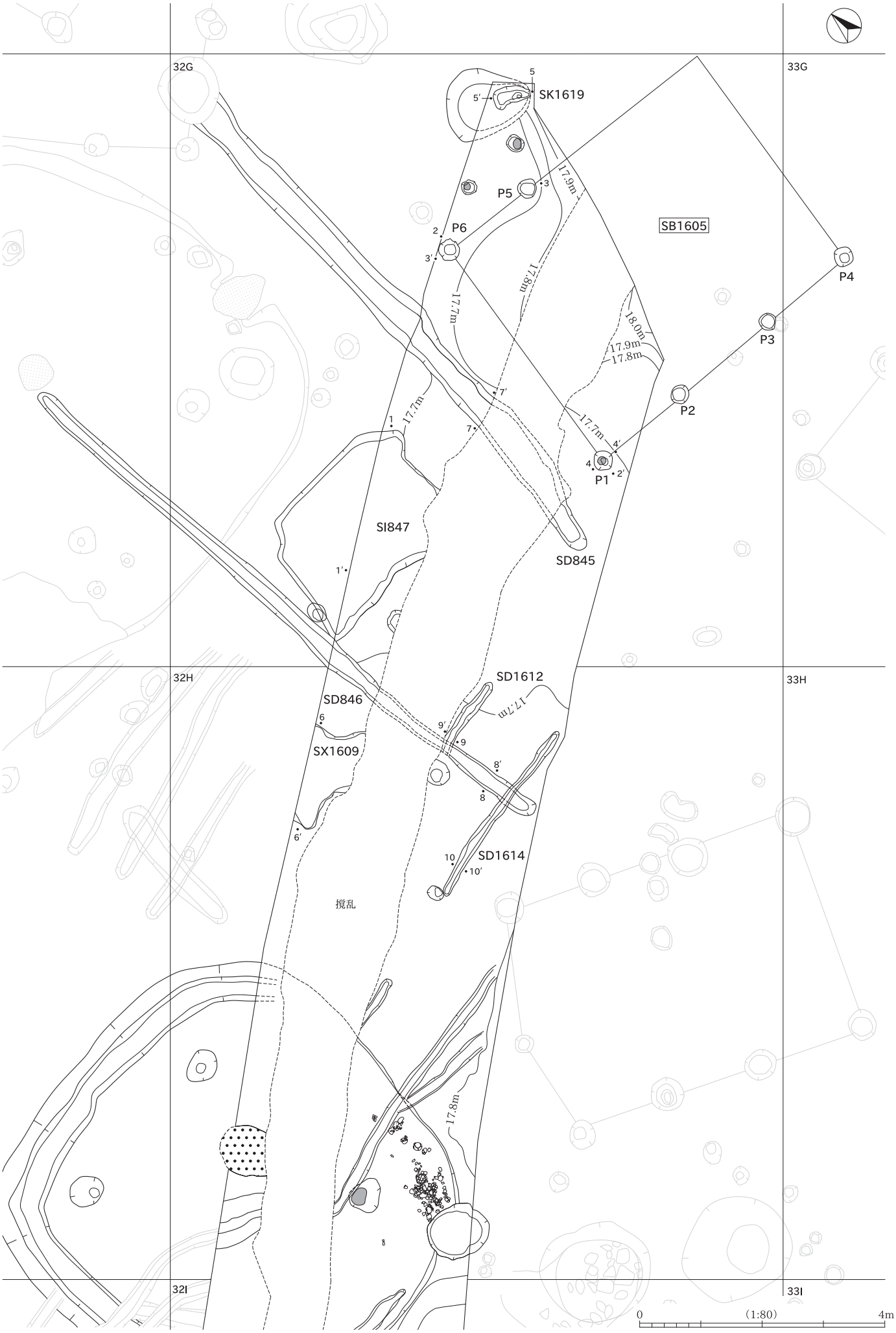
撹乱

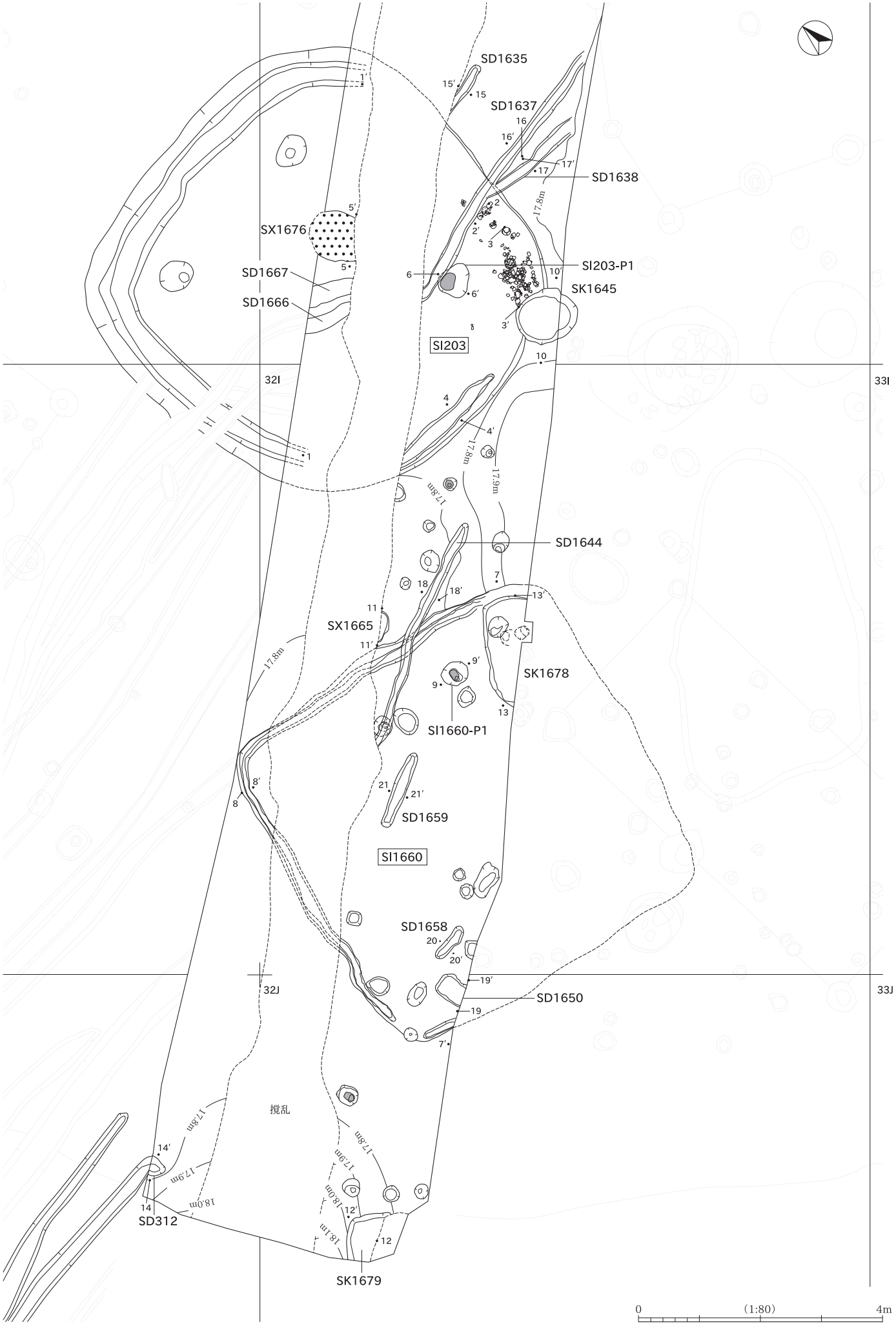


木製品



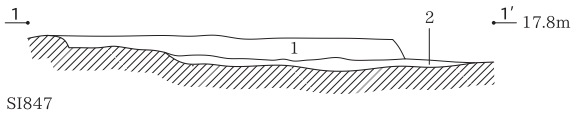

31
32
33
G
H
I
J
32J
SB1605
SI847
SI203
SI1660
撹乱
平成19年度　調査区範囲
平成19年度　調査区範囲
平成20年度　調査区範囲
17.9m
17.8m
17.7m
18.0m
17.9m
17.8m
17.7m
17.7m
17.7m
17.8m
17.8m
17.9m
17.8m
17.8m
17.8m
17.9m
18.0m
18.0m
18.1m
0
(1:150)
7.5m


32G
33G
32H
33H
32I
33I
SK1619
P5
P6
SB1605
P4
P3
P2
P1
SI847
SD845
SD846
SX1609
SD1612
SD1614
撹乱
17.9m
17.8m
17.7m
18.0m
17.9m
17.8m
17.7m
17.7m
17.7m
17.8m
0
(1:80)
4m


SD1635
SD1637
SD1638
SX1676
SD1667
SD1666
SI203-P1
SK1645
SI203
32I
33I
SD1644
SX1665
SK1678
SI1660-P1
SD1659
SI1660
SD1658
SD1650
32J
33J
撹乱
SD312
SK1679
17.8m
17.9m
18.0m
18.1m
0
(1:80)
4m

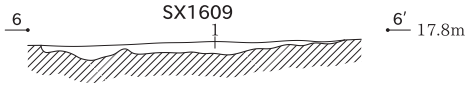
遺構分割図 1

SI847

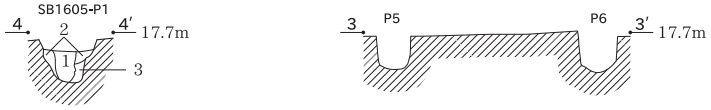


SI847
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。
　赤褐色シルト斑状に微量、φ1～22mmの炭化物少量含む。
2　褐灰色シルト　粘性やや強、しまり中。
　赤褐色シルト斑状に微量、φ1～3mmの炭化物少量含む。

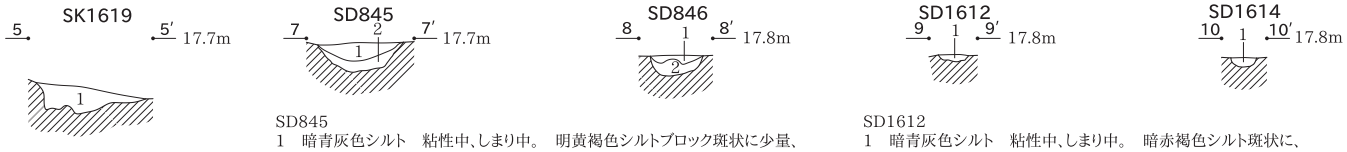
SB1605



SX1609
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、赤褐色シルト斑状に微量、
　φ1～8mmの炭化物微量含む。



SB1605-P1
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　φ2～4mmの炭化物微量含む。
2　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量含む。　炭化物なし。
3　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量含む。　炭化物なし。



SK1619
1　暗赤褐色シルト+赤灰粘質シルト
　粘性強、しまり弱。
　暗褐色シルト斑状に、
　φ1～9mmの炭化物少量含む。

SD845
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック斑状に少量、
　φ2～11mmの炭化物少量含む。
2　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。

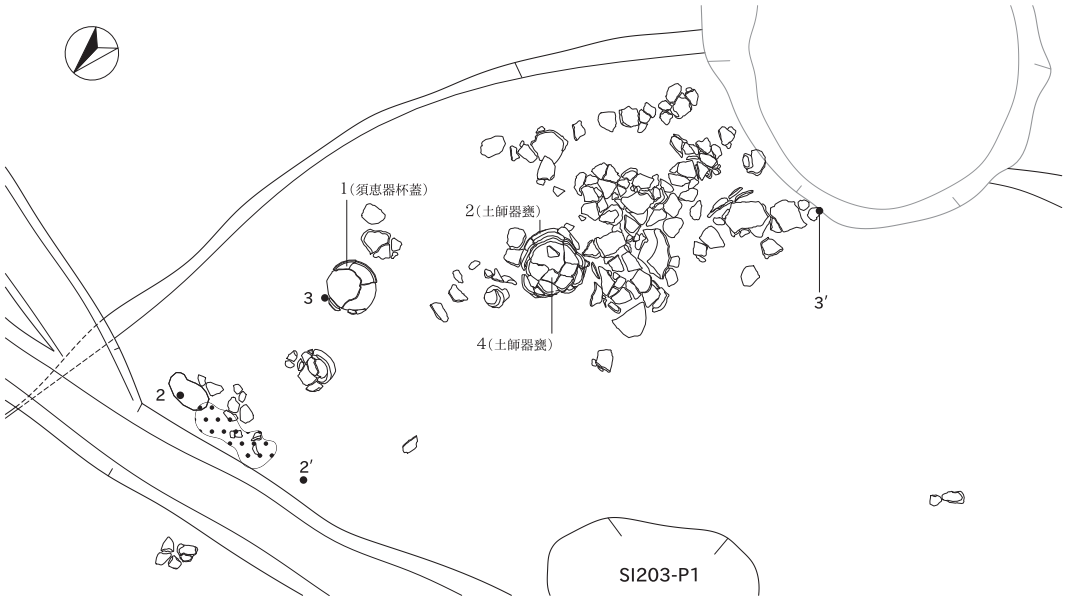
SD846
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量、
　暗赤褐色シルトブロック微量、φ2～6mmの炭化物微量含む。
2　明黄褐色シルト　粘性中、しまり中。　暗青灰色ブロック微量含む。

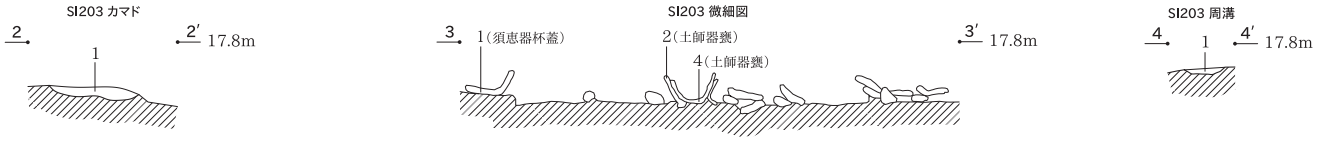
SD1612
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　暗赤褐色シルト斑状に、
　φ1mm以下の炭化物極微量含む。

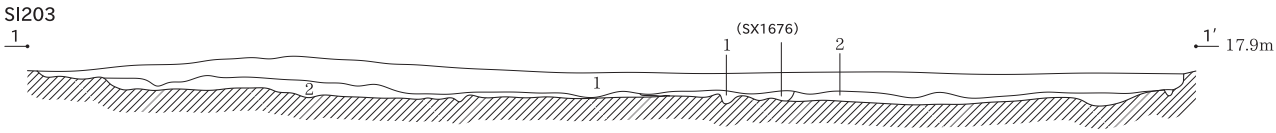
SD1614
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐シルトブロック微量、
　赤褐色シルトブロック微量、φ1～2mmの炭化物微量含む。

遺構分割図 2

SI203 カマド 微細図







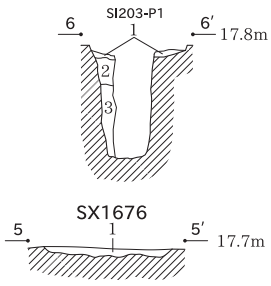
SI203
1　褐灰色シルト+灰黄褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～26mmの炭化物少量含む。
2　褐灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量含む。　炭化物なし。

SI203カマド
1　暗赤褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mm以下の炭化物少量、φ1～15mm焼土ブロック中量含む。

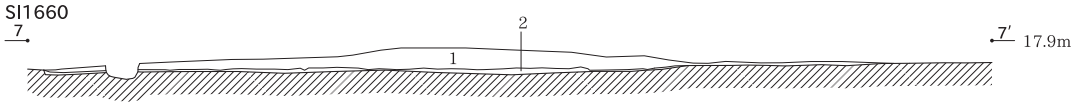
SI203周溝
1　灰黄褐色シルト　粘性やや強、しまり中。　明黄褐色シルト斑状に微量、赤褐色シルト斑状に微量、φ1～26mmの炭化物微量含む。

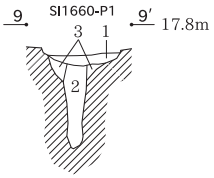
SI203-P1
1　暗褐色シルト　粘性強、しまり中。　褐灰色シルト斑状に少量、φ1～6mmの炭化物微量含む。
2　灰白色粘質シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量含む。　炭化物なし。
3　褐灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量含む。　炭化物なし。

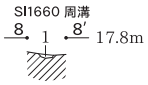
SX1676
1　褐灰色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック斑状に微量、暗赤褐色シルト斑状に微量、φ1～6mmの炭化物少量含む。



0　SI203 カマド 微細図・2-2′・3-3′　（1:10）　50cm　　0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m



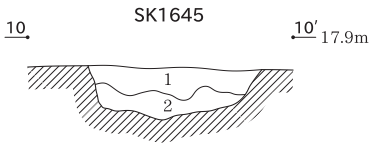


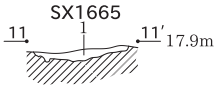


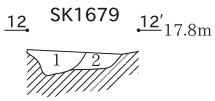
SI1660
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～17mmの炭化物少量含む。　明黄褐色シルトブロック微量含む。
2　褐灰色シルト+灰黄褐色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。

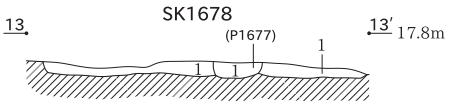
SI1660周溝
1　褐灰色シルト　粘性中、しまり中。

SI1660-P1
1　褐灰色シルト　粘性中、しまり中。　褐灰色シルトブロック少量、φ1～3mmの炭化物微量含む。









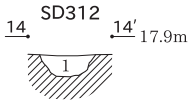
SK1645
1　褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～6mmの炭化物少量含む。
2　褐色シルト+明黄褐色シルト 粘性中、しまり中。　φ1～3mmの炭化物少量含む。

SX1665
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。
明黄褐色シルトブロック少量、φ1mm以下の炭化物少量含む。

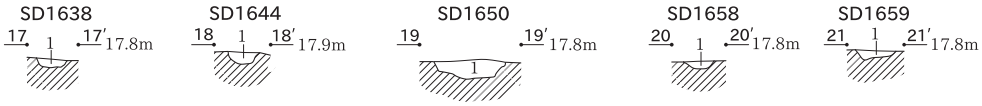
SK1679
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～15mm以下の炭化物少量含む。
2　暗青灰色シルト+明黄褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～3mmの炭化物微量含む。

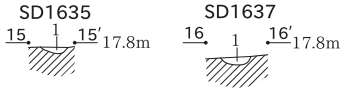
SK1678
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　φ2～30mmの炭化物微量含む。

P1677
1　暗青灰色シルト+褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1mm以下の炭化物微量含む。



SD312
1　褐色シルト　粘性中、しまり中。





SD1644
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　φ1mm以下の炭化物微量含む。
明黄褐色シルトブロック少量、にぶい黄褐色が斑状に微量混入。

SD1658
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。
φ1～3mmの炭化物微量含む。

SD1635
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。
明黄褐色シルト斑状に、にぶい黄褐色シルト斑状に含む。

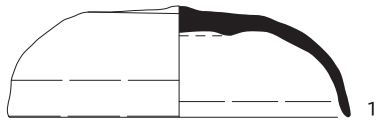
SD1650
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
明黄褐色シルトブロック少量、にぶい黄褐色が斑状に微量混入。

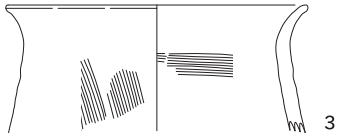
SD1659
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。
明黄褐色シルトブロック少量、暗青灰色シルト斑状に少量、
φ4×6mm角の炭化物少量含む。

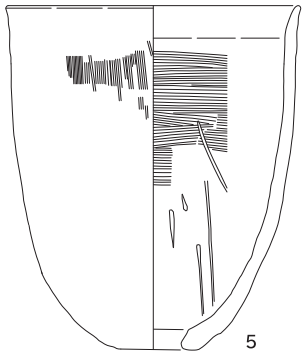
SD1637・SD1638
1　暗青灰色シルト　粘性中、しまり中。

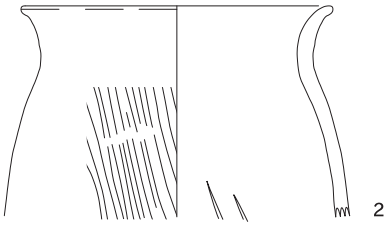
0　セクション図（1:40）　2m　　0　7-7′（1:60）　3m

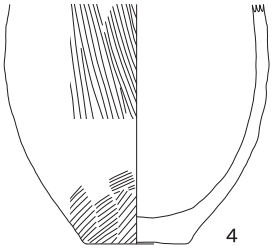
SI203



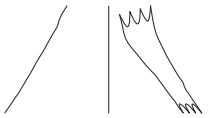








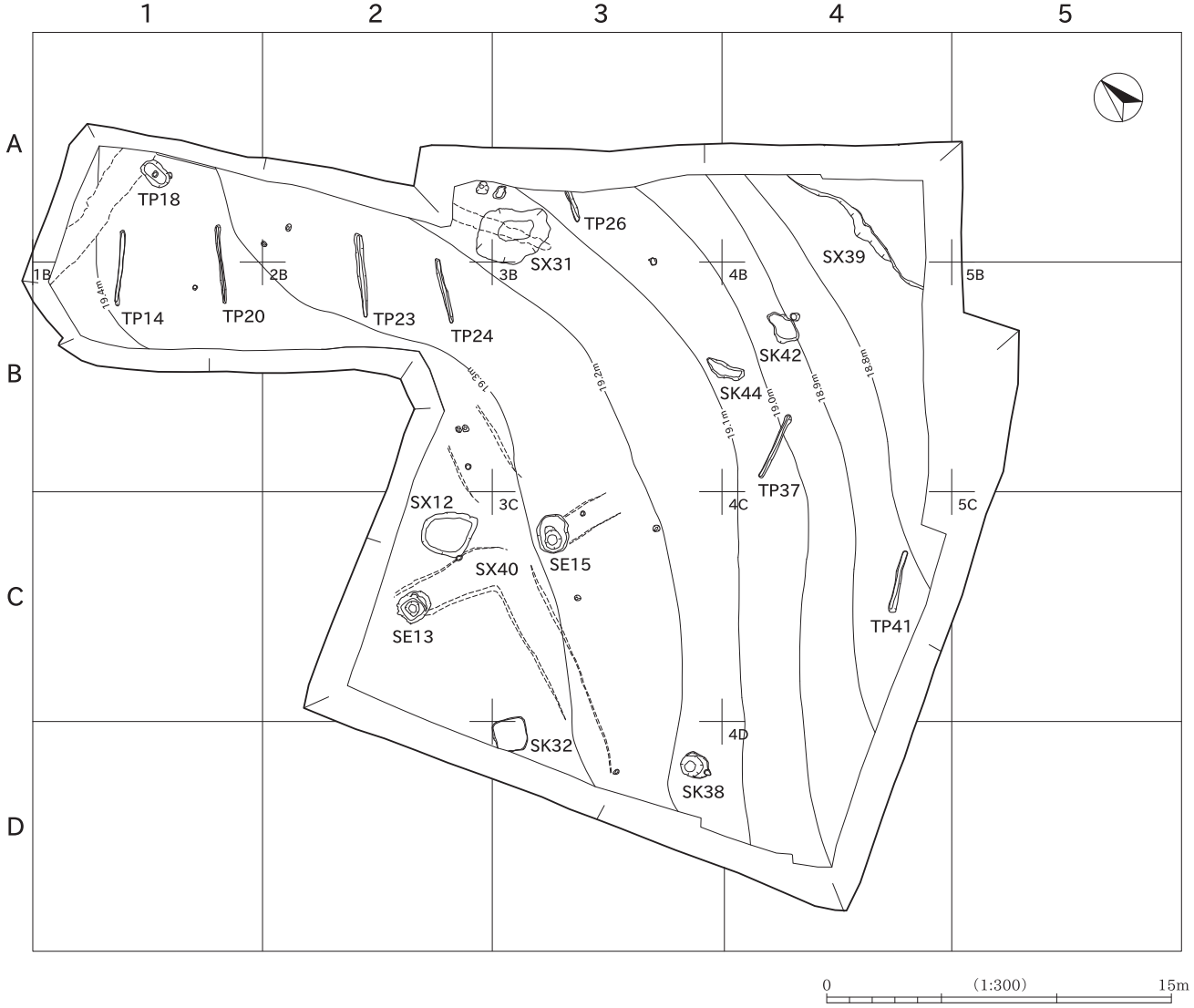
SI1660

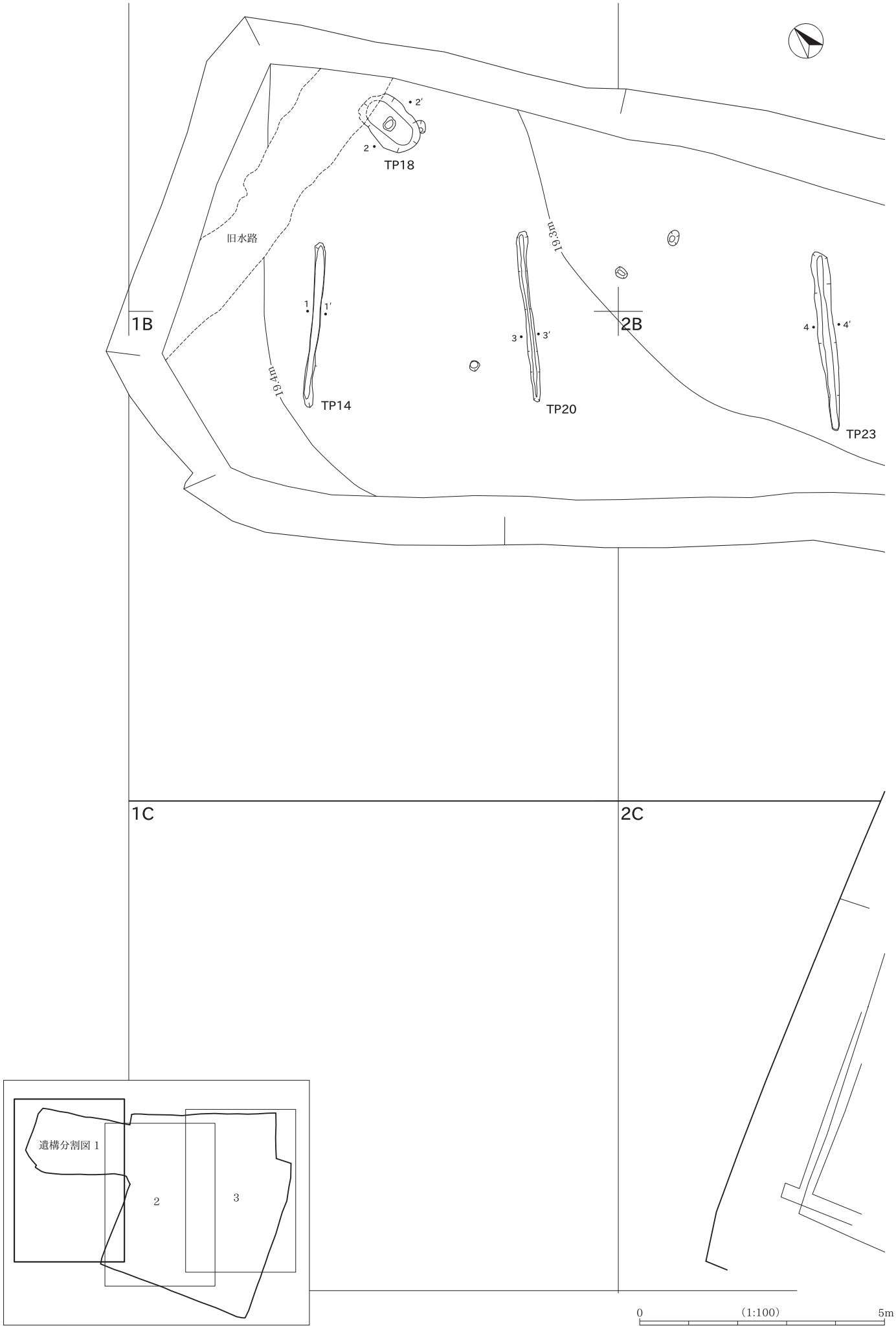


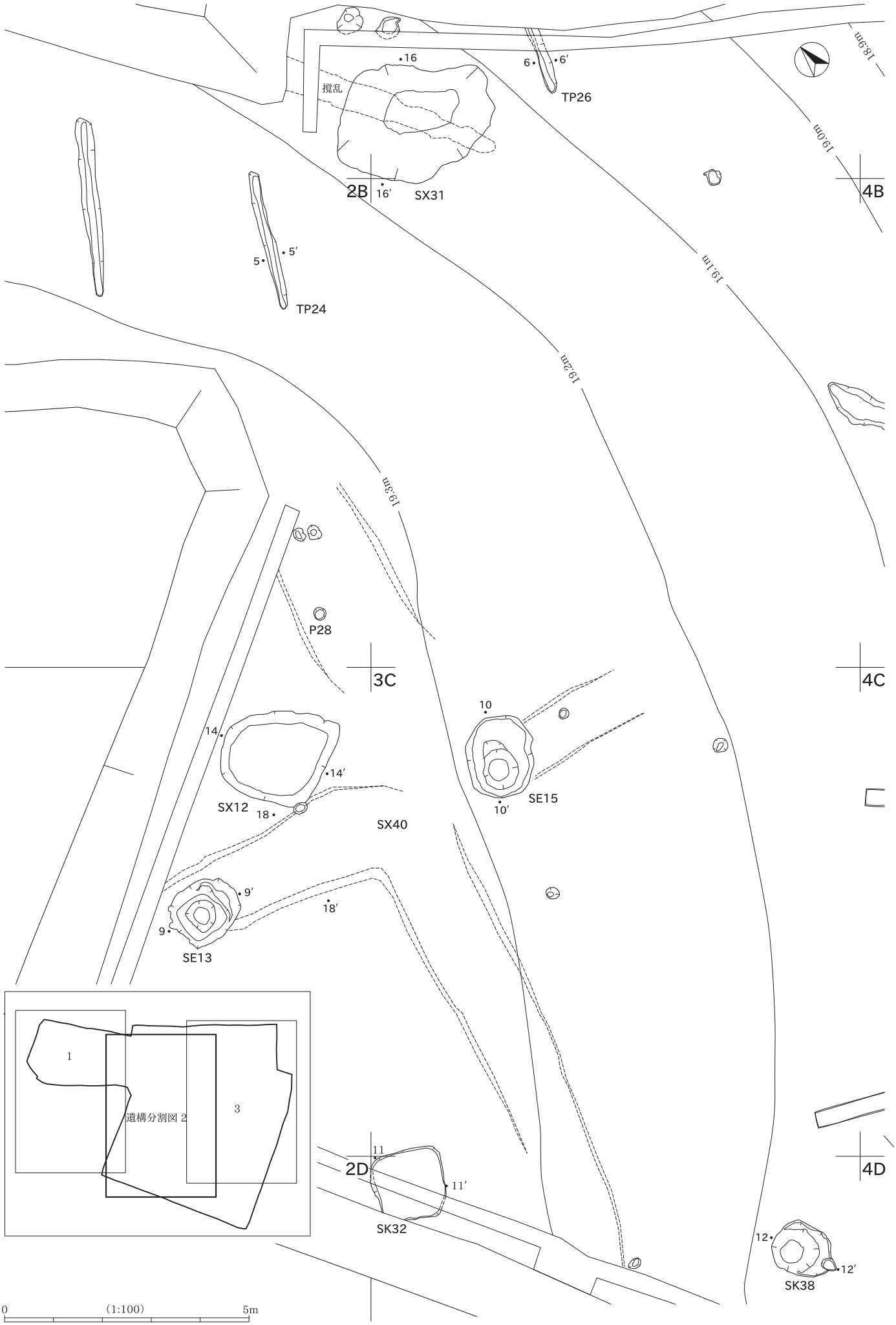
SI847

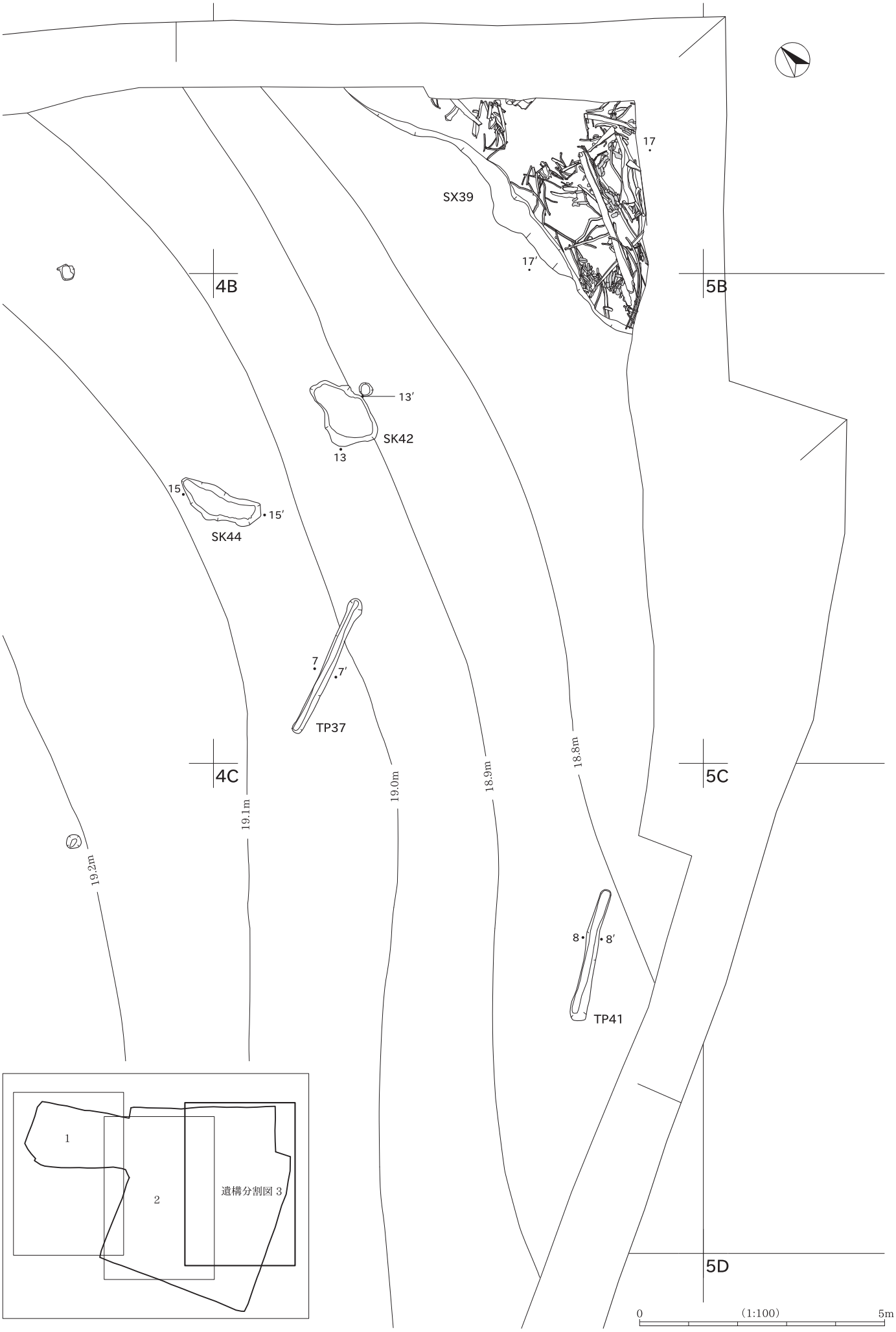
Ⅱ層

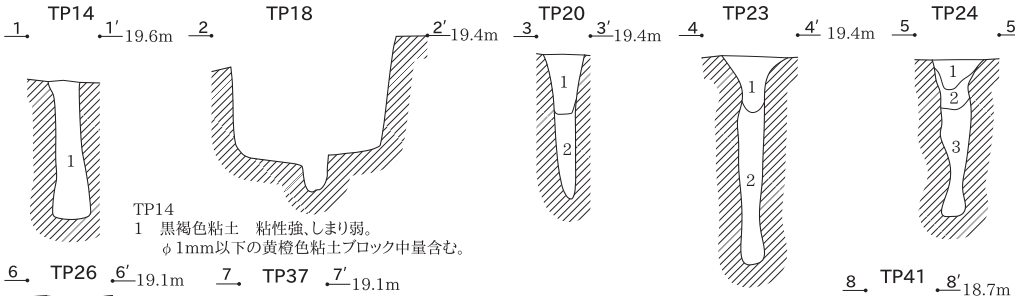
0　（1・6～8）　15cm　（1:3）
0　（2～5）　20cm　（1:4）


1
2
3
4
5
A
B
C
D
1B
2B
3B
4B
5B
3C
4C
5C
4D
TP18
TP14
TP20
TP23
TP24
TP26
SX31
SX39
SK42
SK44
TP37
SX12
SX40
SE15
SE13
TP41
SK32
SK38
19.4m
19.3m
19.2m
19.1m
19.0m
18.9m
18.8m
0
(1:300)
15m


2′
2
TP18
旧水路
19.3m
1
1′
TP14
19.4m
3
3′
TP20
4
4′
TP23
1B
2B
1C
2C
遺構分割図 1
2
3
0
(1:100)
5m


16
6
6′
TP26
撹乱
18.9m
19.0m
2B
16′
SX31
4B
5
5′
TP24
19.1m
19.2m
19.3m
P28
3C
4C
10
14
14′
SX12
18
SX40
10′
SE15
9′
18′
9
SE13
1
遺構分割図 2
3
11
2D
11′
SK32
4D
12
12′
SK38
0
(1:100)
5m


SX39
17
17′
4B
5B
13′
SK42
13
15
15′
SK44
7
7′
TP37
4C
5C
19.1m
19.0m
18.9m
18.8m
19.2m
8
8′
TP41
5D
1
2
遺構分割図 3
0
(1:100)
5m

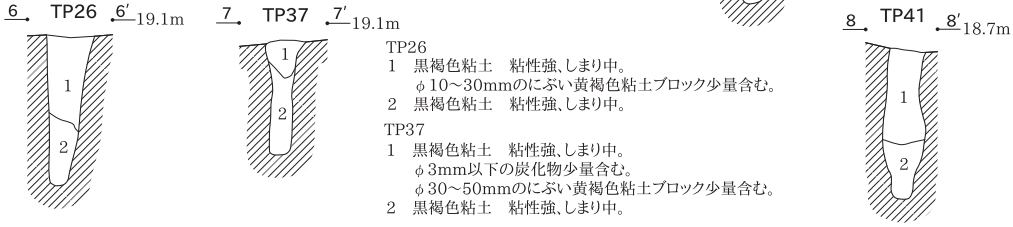


TP14
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり弱。
　φ1mm以下の黄橙色粘土ブロック中量含む。

TP20
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ10mm以下の黄橙色シルトブロック中量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。

TP23
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ10mm以下のにぶい黄褐色シルトブロック少量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。

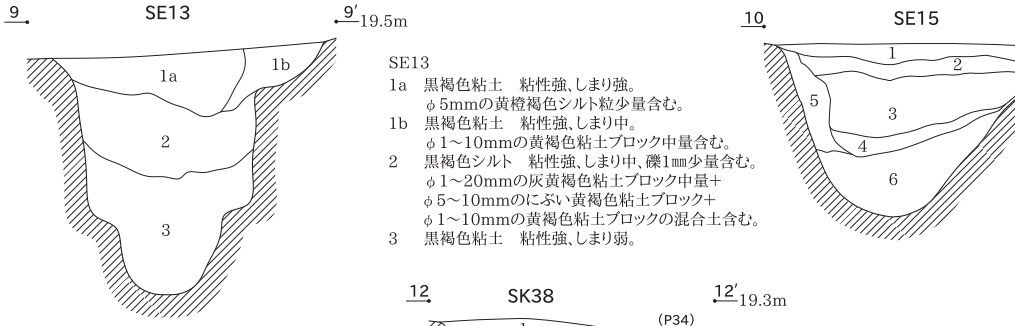
TP24
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ10mm以下の黄橙色粘土ブロック中量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ10mm位の黄橙色シルトブロック多量含む。
3　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。



TP26
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ10～30mmのにぶい黄褐色粘土ブロック少量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。

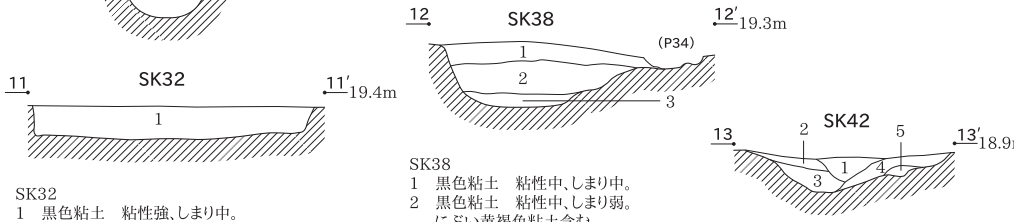
TP37
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
　φ30～50mmのにぶい黄褐色粘土ブロック少量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。

TP41
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり弱。
　φ3mm以下の炭化物の少量含む。
　φ10～30mmの褐灰色粘土ブロック少量含む。
2　褐灰色シルト　粘性強、しまり弱。



SE13
1a　黒褐色粘土　粘性強、しまり強。
　φ5mmの黄橙褐色シルト粒少量含む。
1b　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ1～10mmの黄褐色粘土ブロック中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性強、しまり中、礫1mm少量含む。
　φ1～20mmの灰黄褐色粘土ブロック中量＋
　φ5～10mmのにぶい黄褐色粘土ブロック＋
　φ1～10mmの黄褐色粘土ブロックの混合土含む。
3　黒褐色粘土　粘性強、しまり弱。

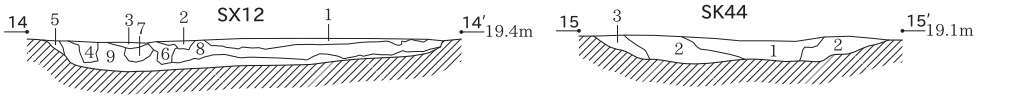
SE15
1　黒褐色粘土　粘性中、しまり強。
　φ10mm以下の炭化物少量含む。
2　黒色粘土　粘性強、しまり強。
　φ10mm以下の炭化物極少量含む。
3　黒褐色粘土　粘性中、しまり弱。
　φ10mm以下の炭化物極少量含む。
4　黒色粘土　粘性強、しまり弱。
5　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ5mm以下の炭化物少量含む。
6　黒褐色粘土＋にぶい黄褐色シルトの混合土
　粘性強、しまり中。
　φ5mm以下の炭化物少量含む。



SK32
1　黒色粘土　粘性強、しまり中。
　φ1～20mmのにぶい黄橙色粘土ブロック
　多量含む。

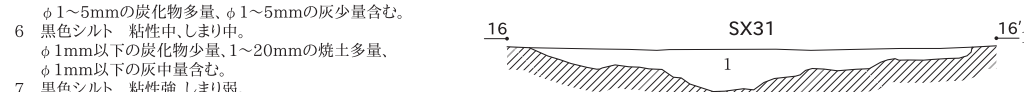
SK38
1　黒色粘土　粘性中、しまり中。
2　黒色粘土　粘性中、しまり弱。
　にぶい黄褐色粘土含む。
3　黒色粘土　粘性強、しまり弱。
　φ1～20mmの褐色シルトブロック中量含む。

SK42
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
　φ1mm以下の浅黄褐色粘土中量含む。
2　灰黄褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ1mm以下の浅黄褐色粘土少量含む。
3　灰黄褐色粘土　粘性強、しまり弱。
4　にぶい黄褐色シルト　粘性強、しまり弱。
　φ2mmの焼土中量、φ20mm以下の
　浅黄褐色粘土ブロック中量含む。
5　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。

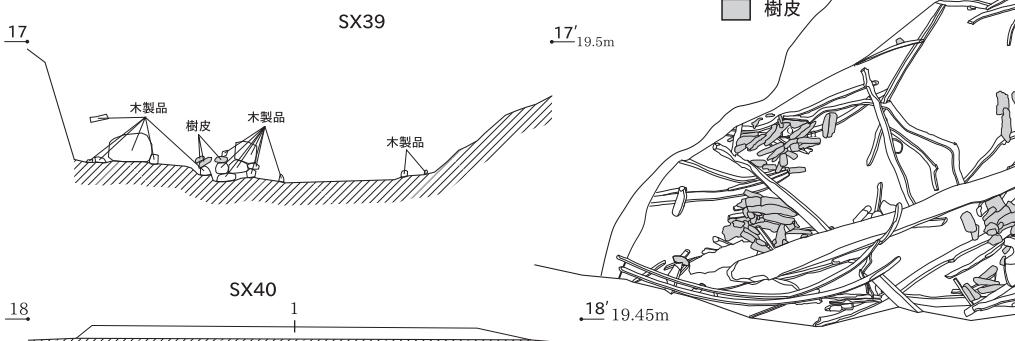


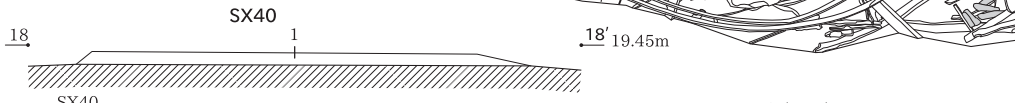
SX12
1　黒色粘質シルト　粘性強、しまり中。
　φ1～10mmの炭化物少量、φ8mm以下の焼土少量含む。
　φ1～10mmのにぶい黄褐色シルト粒中量含む。
2　黒色シルト　粘性中、しまり強。　φ5～15mmの焼土中量含む。
3　黒色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
4　黒色シルト　粘性強、しまり弱。
　φ1～5mmの炭化物少量、φ5～20mmの焼土少量、
　灰多量含む。
5　黒色シルト　粘性強、しまり中。
　φ1～5mmの炭化物多量、φ1～5mmの灰少量含む。
6　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1mm以下の炭化物少量、1～20mmの焼土多量、
　φ1mm以下の灰中量含む。
7　黒色シルト　粘性強、しまり弱。
　φ1mm以下の炭化物少量、φ1～5mmの焼土少量、
　φ1～10mmの灰中量含む。
8　黒色シルト　粘性中、しまり弱。
　φ1mm以下の炭化物少量、φ1～5mmの焼土少量、
　φ1～5mmの灰少量含む。
9　にぶい黄橙色シルト　粘性強、しまり強。
　φ1mm以下の炭化物少量、φ1～10mmの焼土少量含む。

SK44
1　黒褐色粘土　粘性強、しまり強。
　φ3mm以下の炭化物中量、
　φ1～10mmのにぶい黄褐色粘土中量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり弱。
　φ5mm以下の焼土中量、にぶい黄褐色粘土中量含む。
3　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ1mm以下の炭化物中量、
　φ10～30mmのにぶい黄褐色粘土ブロック少量含む。
4　黒褐色粘土　粘性強、しまり中。
　φ1mm以下のにぶい黄褐色粘土粒量含む。

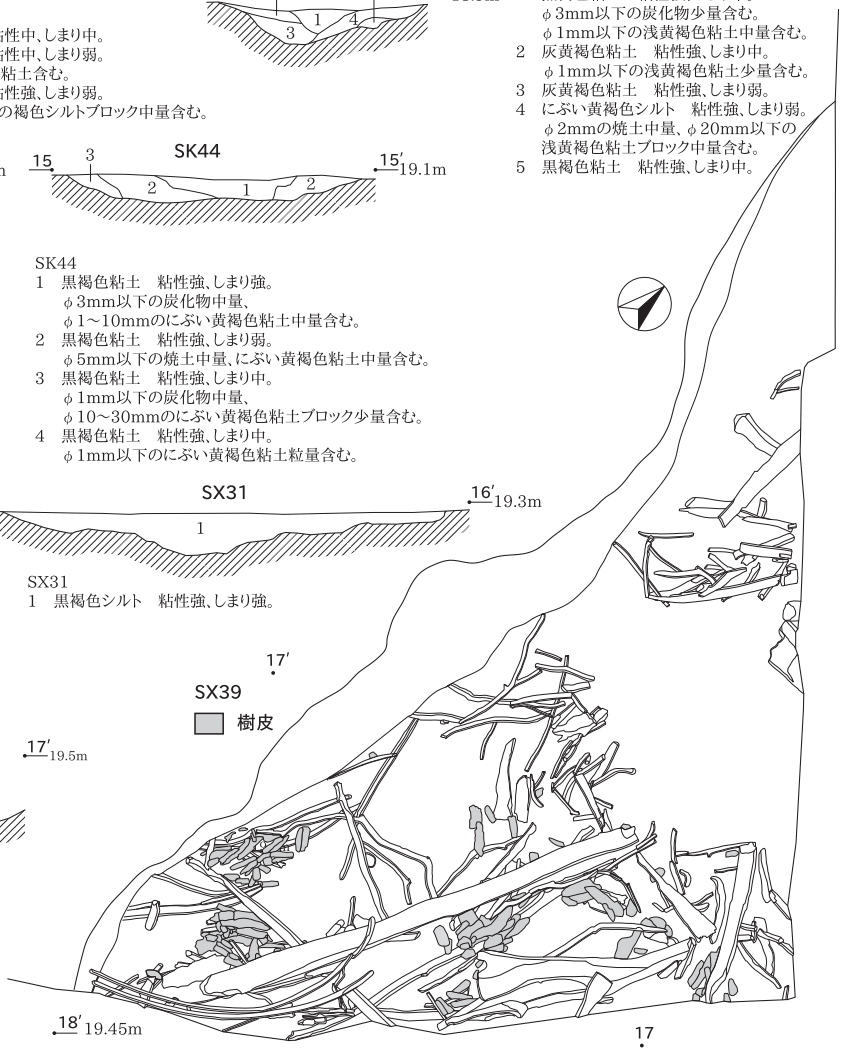


SX31
1　黒褐色シルト　粘性強、しまり強。



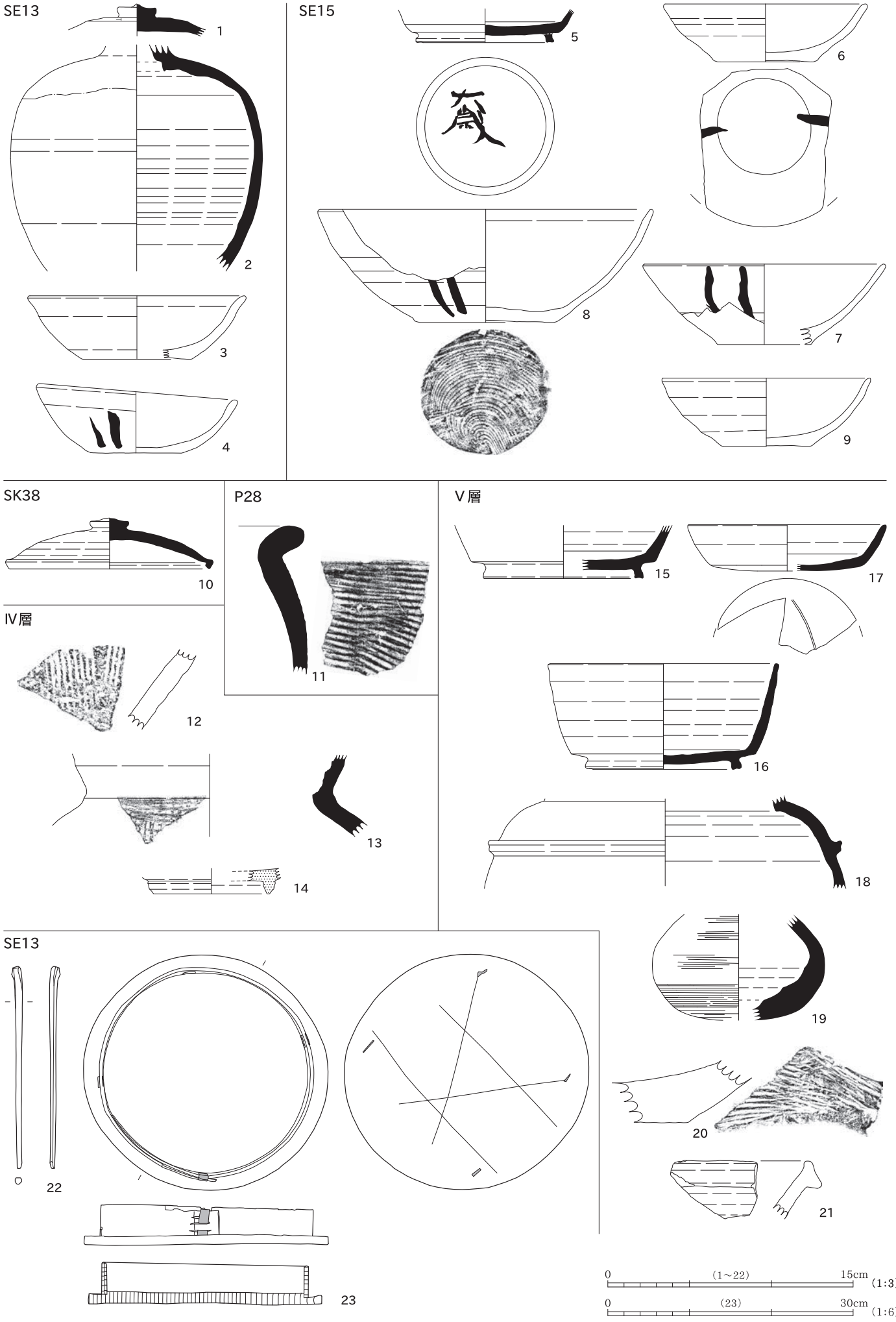


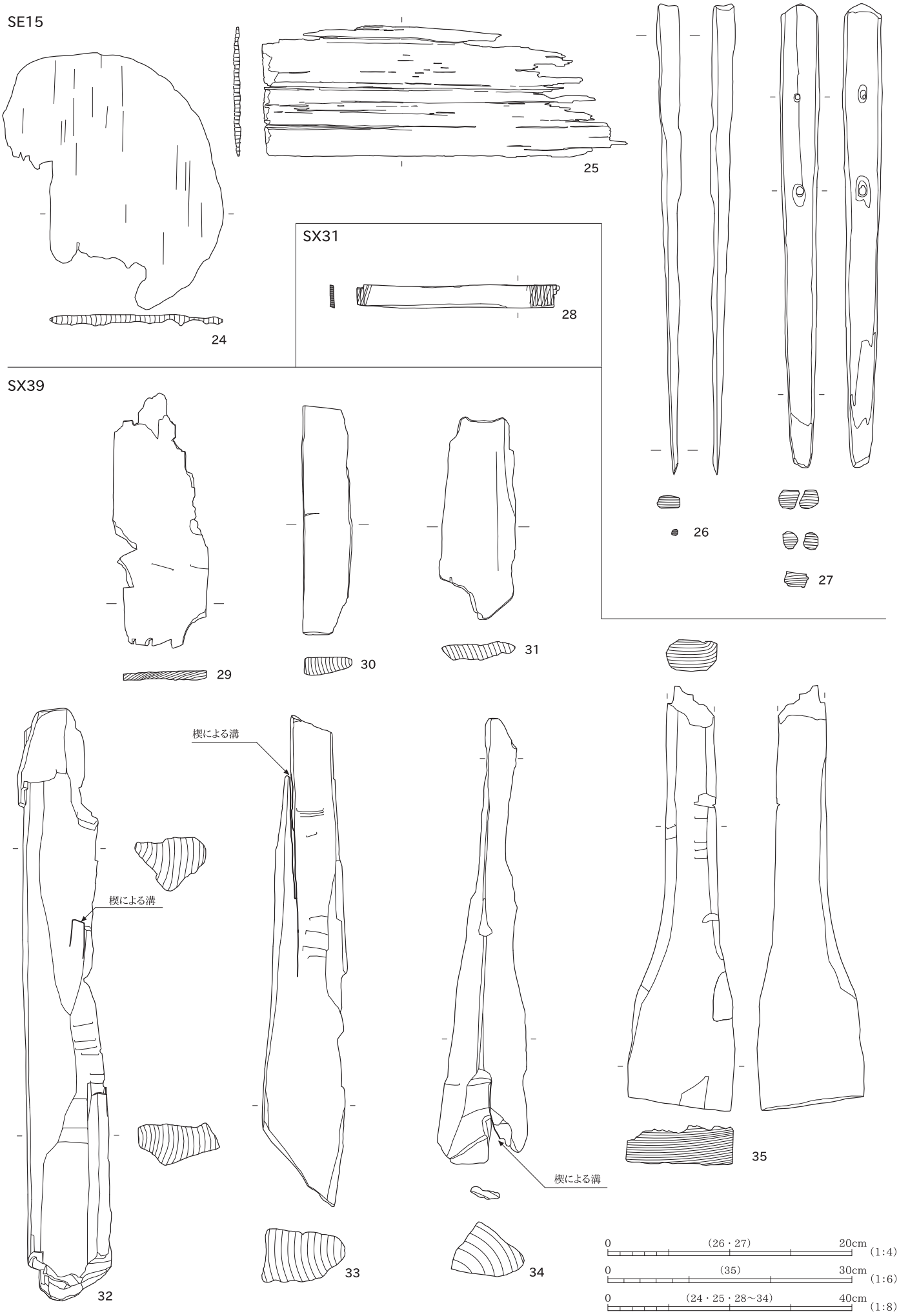
SX40
1　赤褐色粘土　粘性強、しまり強。



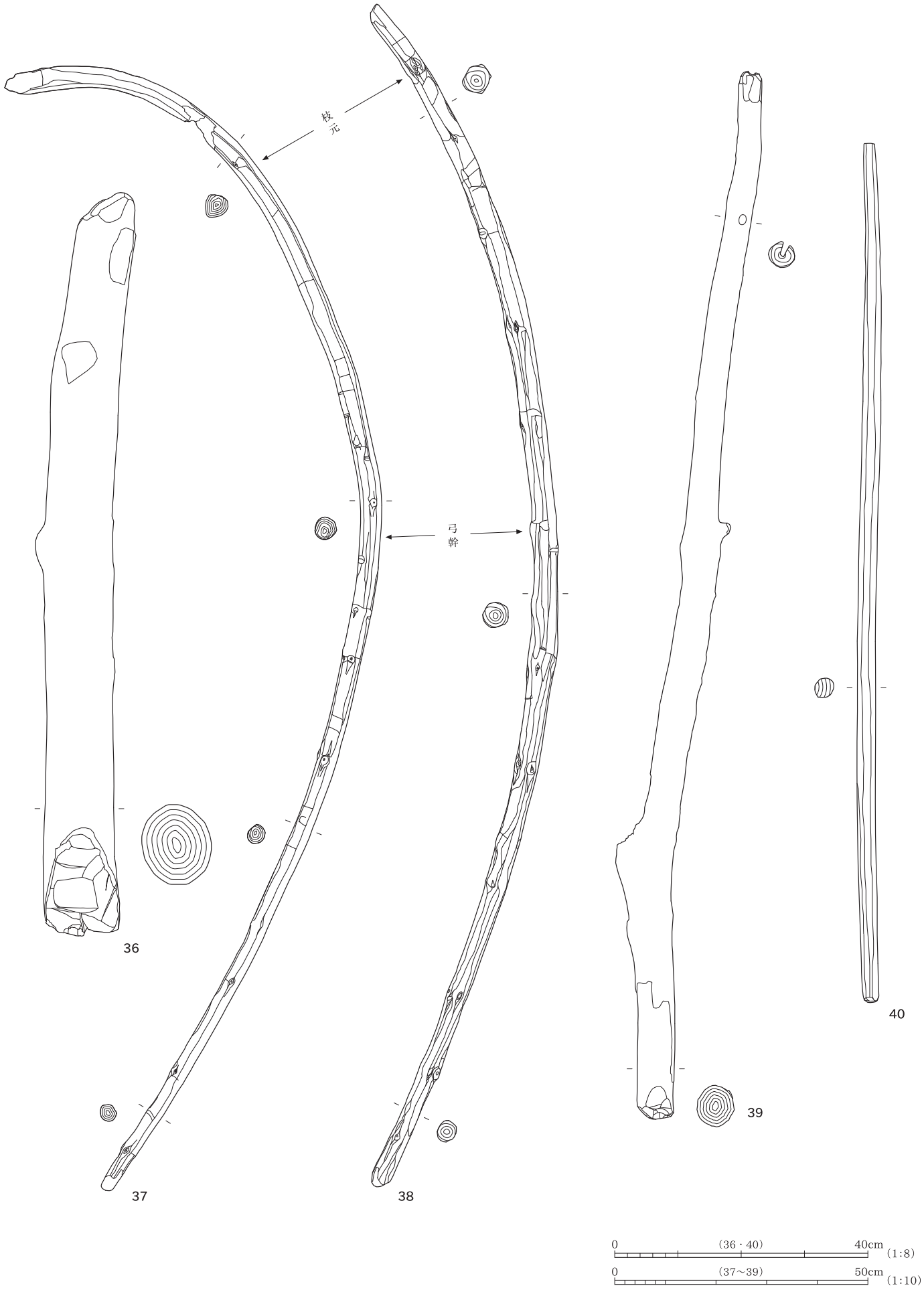
0　セクション図（1:40）　2m

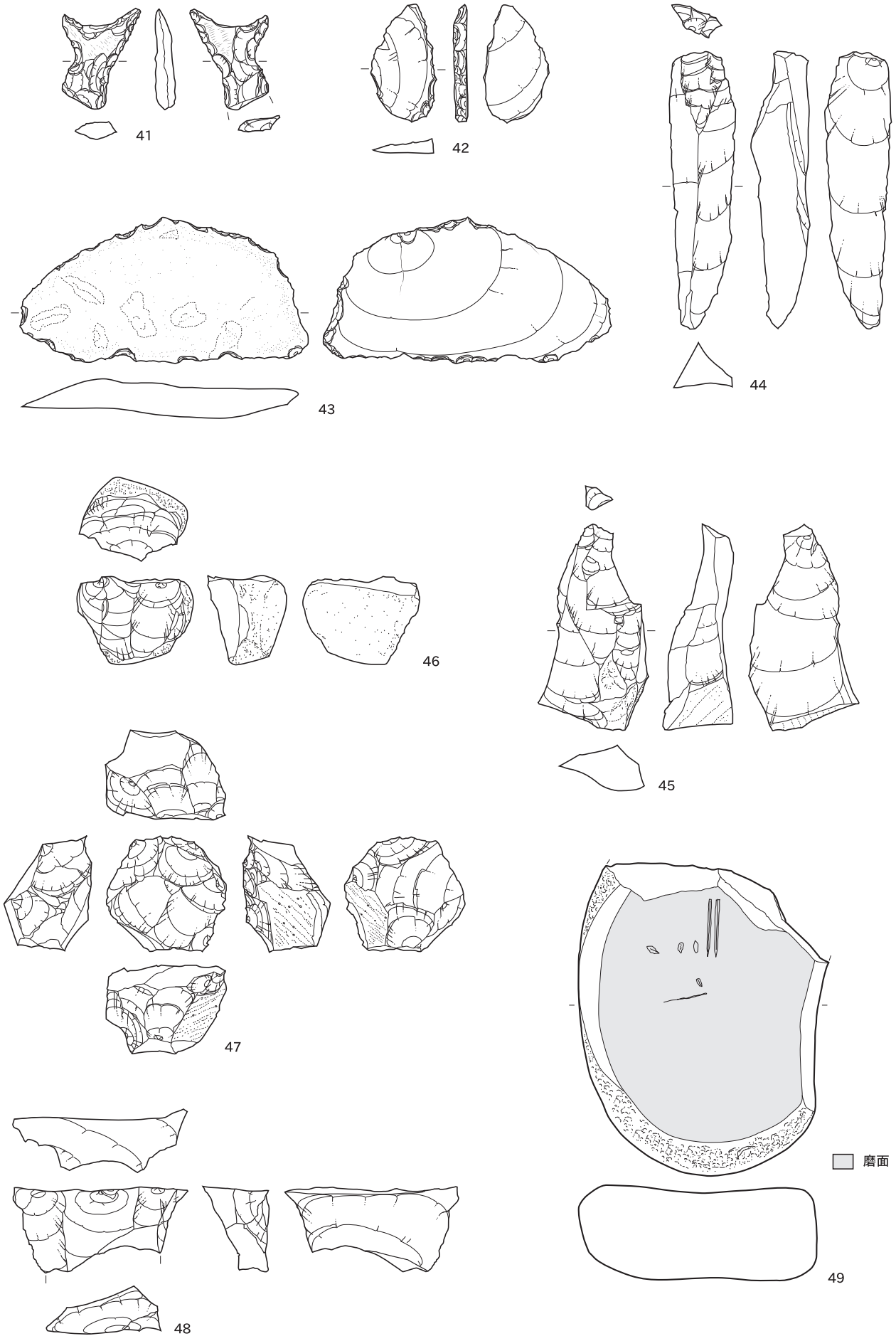
0　SX39（1:50）　2.5m


SE13
1
2
3
4
SE15
5
6
8
7
9
SK38
10
P28
11
Ⅳ層
12
13
14
Ⅴ層
15
17
16
18
19
20
21
SE13
22
23
0
(1～22)
15cm
(1:3)
0
(23)
30cm
(1:6)

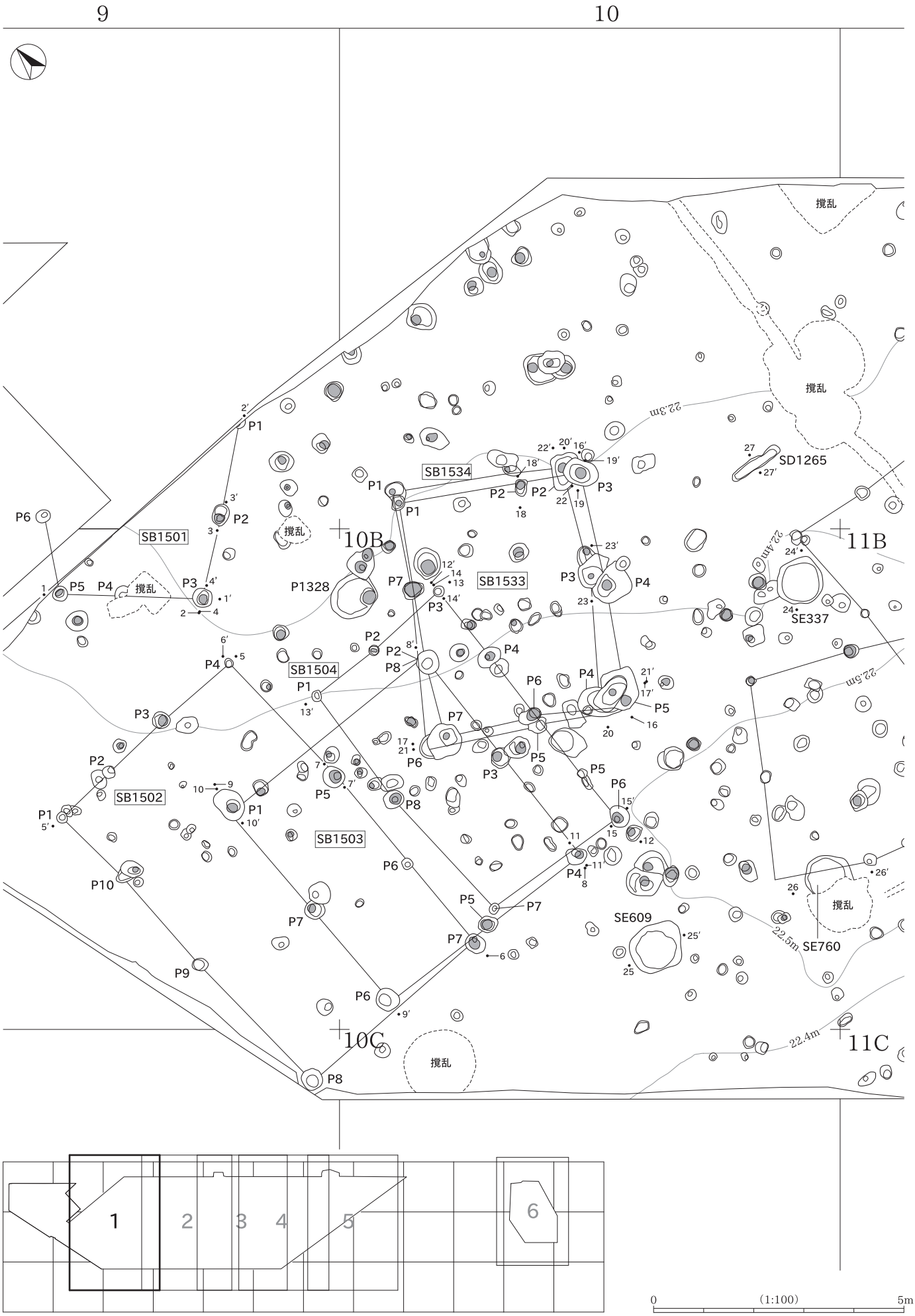

SE15
24
25
SX31
28
26
27
SX39
29
30
31
楔による溝
楔による溝
楔による溝
32
33
34
35
0 (26・27) 20cm (1:4)
0 (35) 30cm (1:6)
0 (24・25・28～34) 40cm (1:8)

SX39

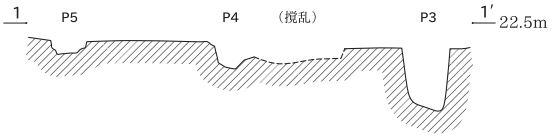


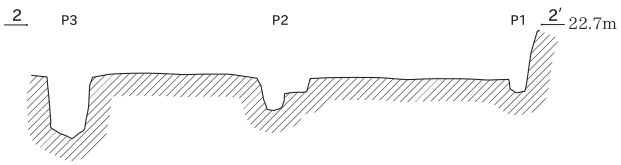

41
42
43
44
46
45
47
磨面
48
49
0
(41～48)
10cm
(1:2)
0
(49)
20cm
(1:4)

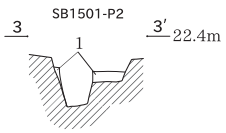
A
B
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
0
(1:300)
15m

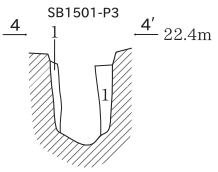

9
10
10B
11B
10C
11C
SB1501
SB1502
SB1503
SB1504
SB1533
SB1534
SD1265
SE337
SE609
SE760
P1328
撹乱
22.3m
22.4m
22.5m
0
(1:100)
5m
1
2
3
4
5
6

SB1501

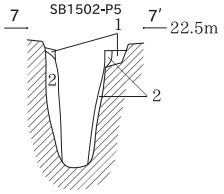




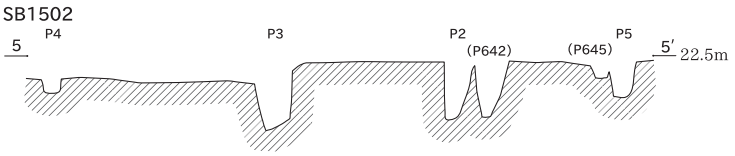




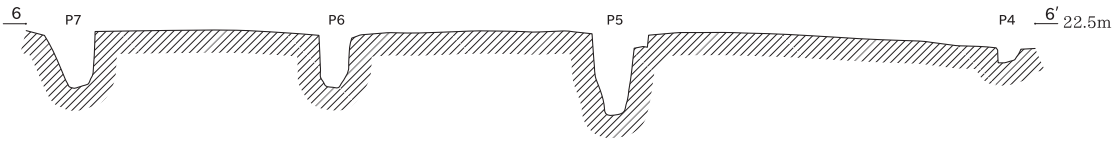
SB1501-P2
1　褐色シルト　粘性強、しまり強。　黒褐色シルトブロック含む。
SB1501-P3
1　黒褐色シルト　粘性強、しまり強。



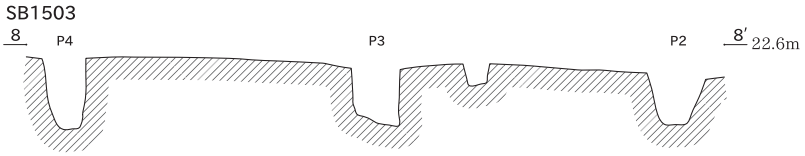
SB1502

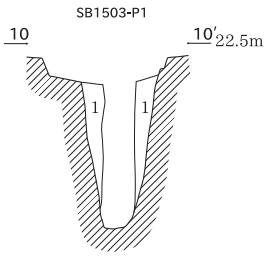


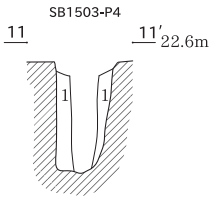
SB1502-P5
1　明褐色シルト　粘性中、しまり強。
　φ1～10mmの褐色シルトブロック中量、φ1mm以下の炭化物少量含む。
2　明褐色シルト　粘性中、しまり強。　φ1mm以下の炭化物少量含む。

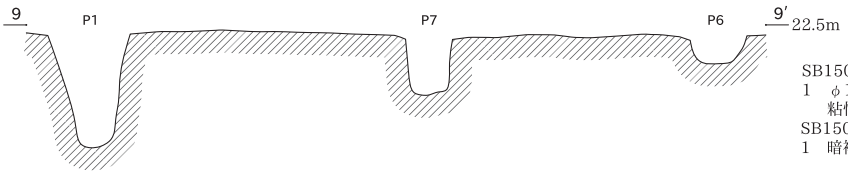


SB1503



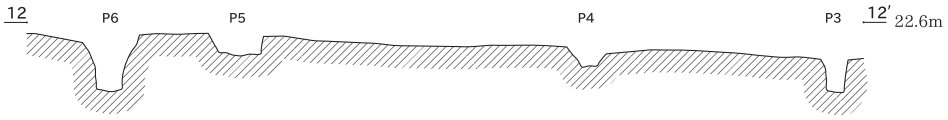


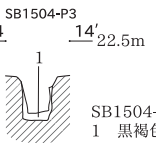




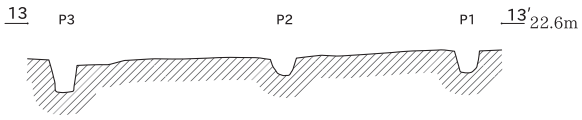
SB1503-P1
1　φ1～30mmの黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり強。
SB1503-P4
1　暗褐色シルト+黄褐色シルトの混合土　粘性強、しまり中。

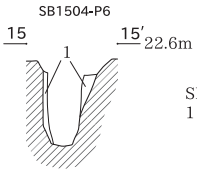
SB1504





SB1504-P3
1　黒褐色シルト　粘性強、しまり強。

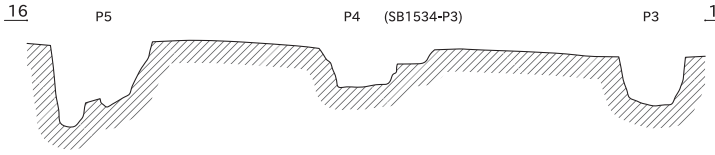


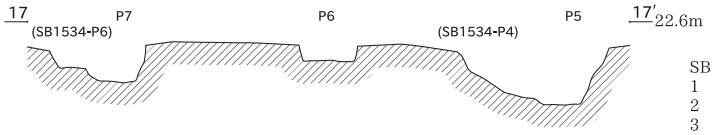


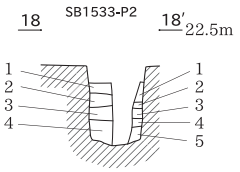
SB1504-P6
1　褐色シルト+黄褐色シルトの混合土
　粘性強、しまり強。　φ1mm以下の炭化物少量含む。

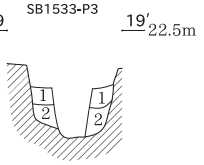
0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

SB1533





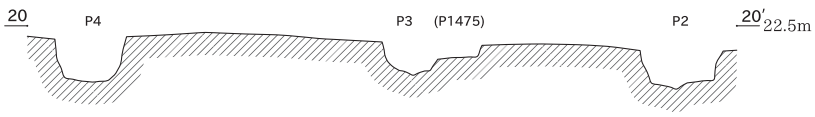


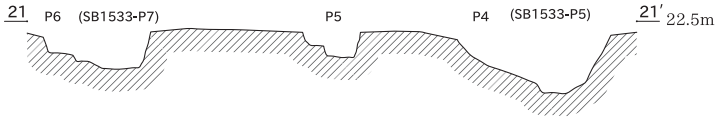


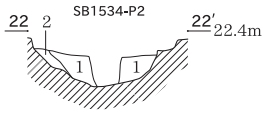
SB1533-P2
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
2　暗褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～5mmの暗灰黄褐色シルト粒少量含む。
3　暗灰褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ10～50mmの暗黄褐色粘土ブロック中量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
5　暗褐色シルト　粘性中、しまり中。

SB1533-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～20mmの暗黄褐色シルトブロック少量含む。
2　暗褐色シルト+暗灰黄褐色シルトの混合土　粘性中、しまり強。

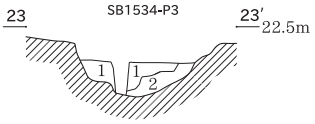
SB1534





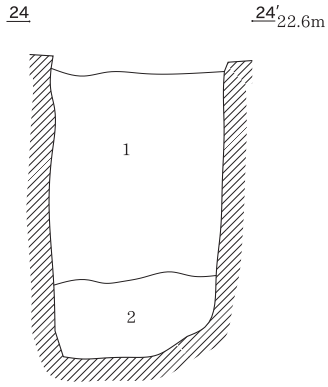


SB1534-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり強。
2　黒褐色シルト+暗黄褐色粘土の混合土
　粘性弱、しまり強。

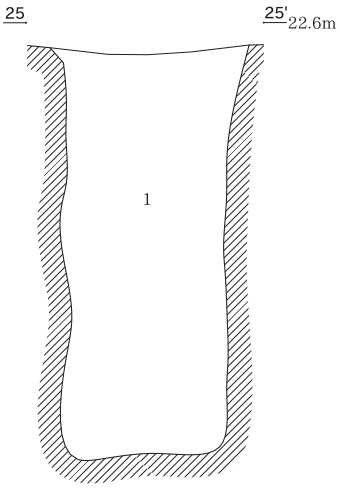


SB1534-P3
1　黒色シルト　粘性弱、しまり強。
　φ1～2mmの黄褐色シルト粒少量含む。
2　暗黄褐色粘土　粘性弱、しまり強。
　φ1～30mmの暗灰褐色シルトブロック少量含む。

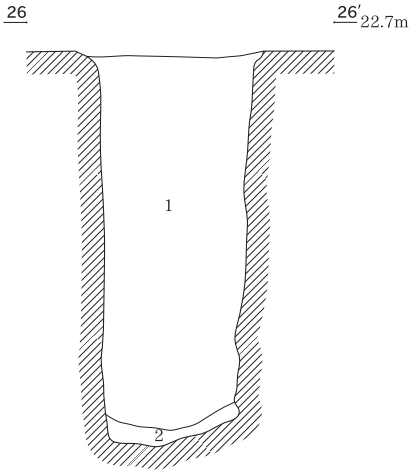
SE337



SE609



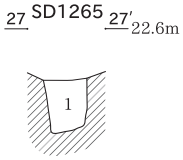
SE760



SE337
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり強。
　φ5～20mmの褐色シルトブロック中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり強。
　φ5mm以下の礫少量、
　φ30～50mmの明褐色シルトブロック中量含む。

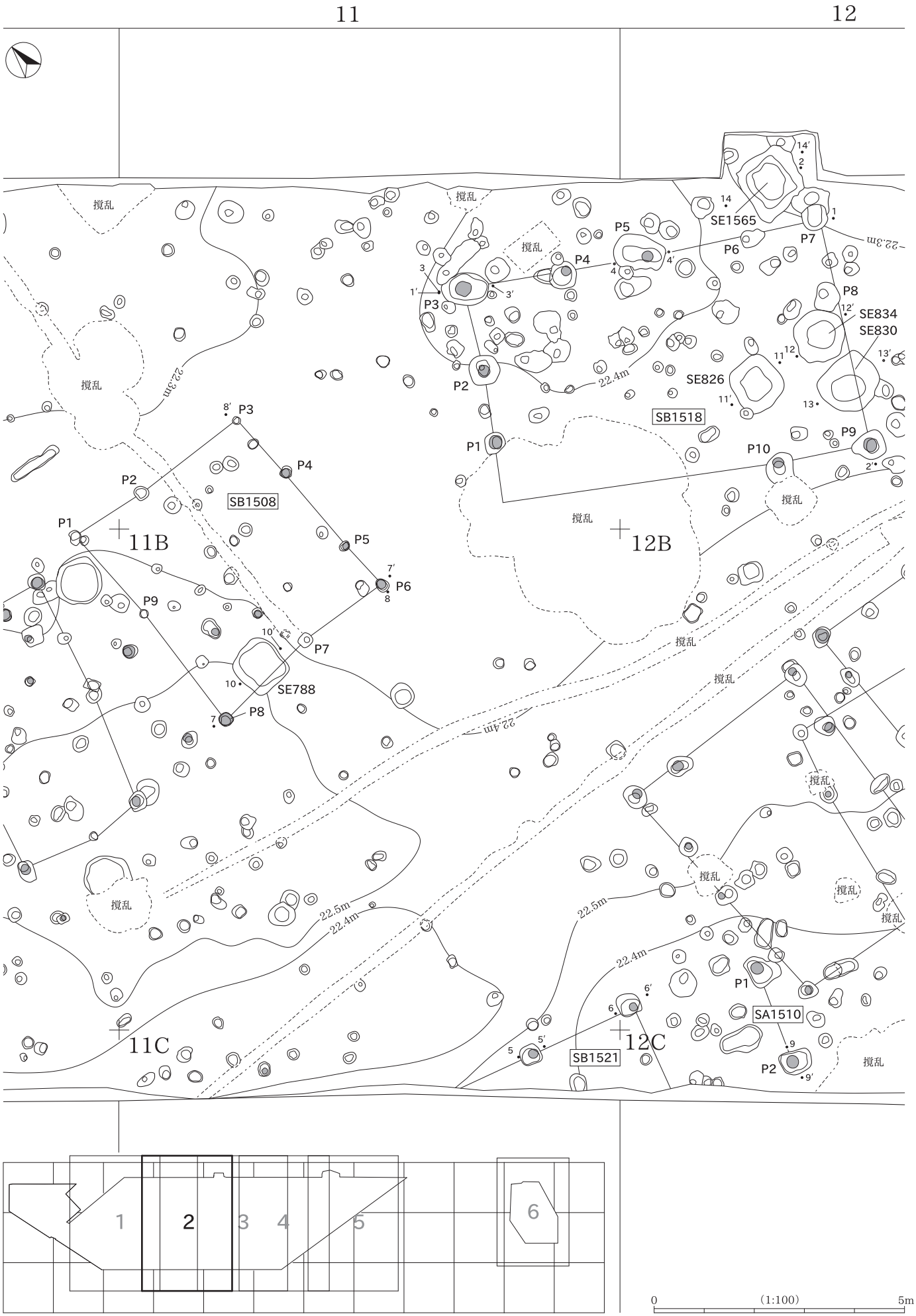
SE609
1　極暗褐色シルト　粘性弱、しまり強。
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
　φ5～70mmの明黄褐色ブロック少量、粒子中量含む。

SE760
1　極暗褐色シルト　粘性弱、しまり強。
　φ5～70mmの明黄褐色シルトブロック少量、粒子中量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色粘土　粘性強、しまり強。
　φ10～70mmの明黄褐色粘土ブロック少量含む。

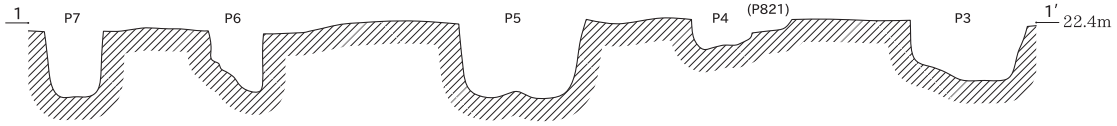


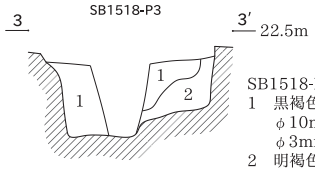
SD1265
1　暗褐色シルト　粘性中、しまり強。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

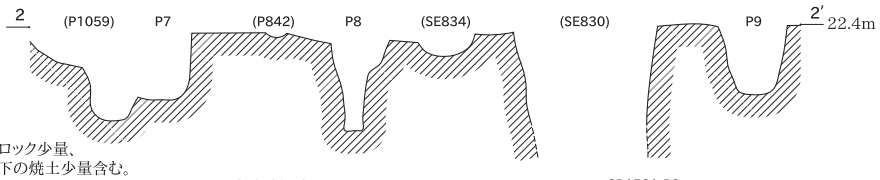

11
12
撹乱
SE1565
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
SE834
SE830
SE826
SB1518
SB1508
SE788
SA1510
SB1521
11B
12B
11C
12C
22.3m
22.4m
22.5m
1
2
3
4
5
6
0
(1:100)
5m

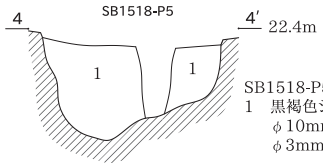
SB1518



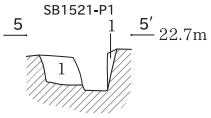


SB1518-P3
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　明褐色シルト+黒褐色シルトの混合土
　粘性中、しまり中。

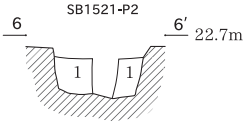




SB1518-P5
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物、φ3mm以下の焼土少量含む。

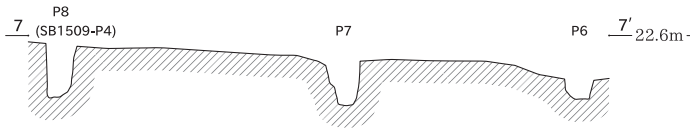


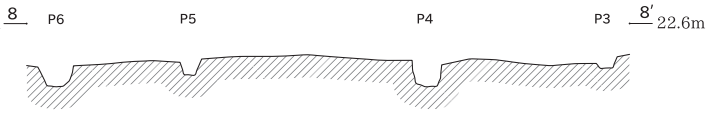
SB1521-P1
1　φ10～50mmの明褐色シルトブロック+
　φ10～50mmの黒褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり強。

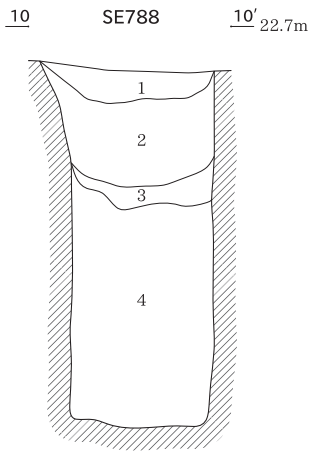


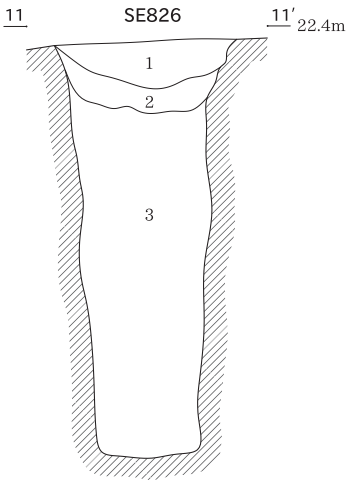
SB1521-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。

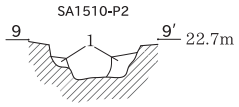
SB1508







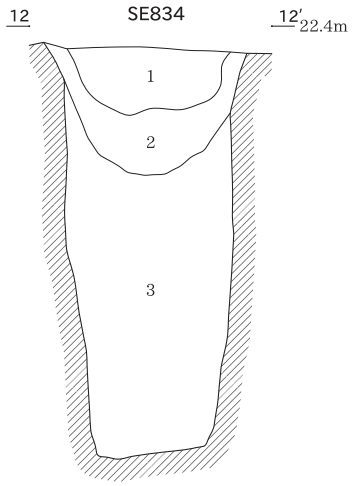


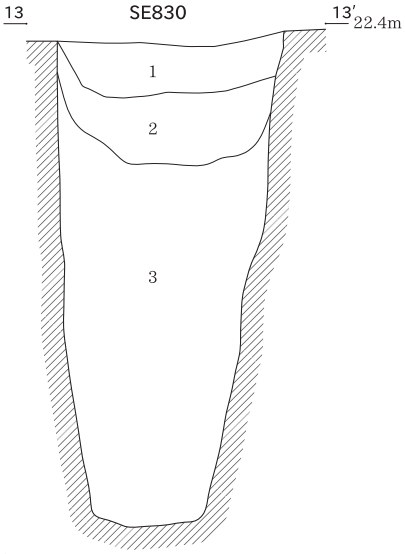


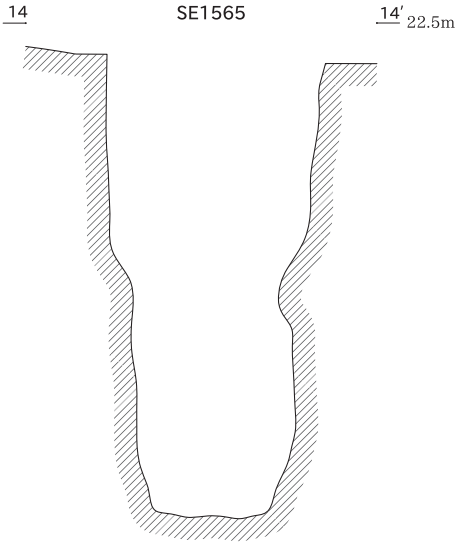
SA1510-P2
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。

SE788
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mm灰白色ブロック多量、
　φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
2　灰白色粘土+黒褐色粘土の混合土
　粘性中、しまり中。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
4　灰白色粘質シルト+黒褐色粘土の混合土
　粘性中、しまり中。

SE826
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
　φ3mm以下の炭化物少量含む。
3　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ5mm以下の炭化物少量含む。





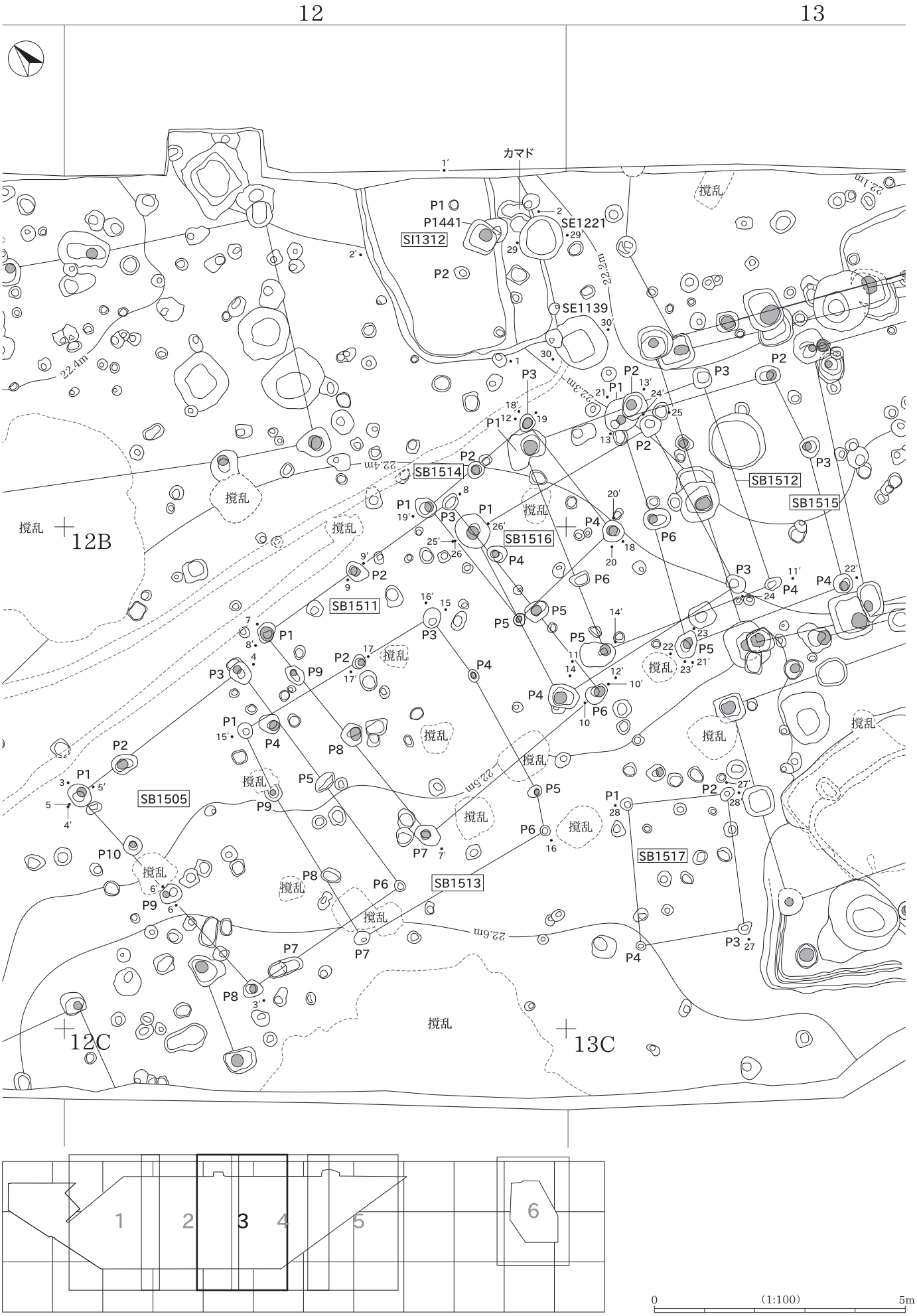


SE834
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～20mmの灰白色ブロック中量、φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ30～60mmの灰白色ブロック中量、φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
3　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック多量含む。

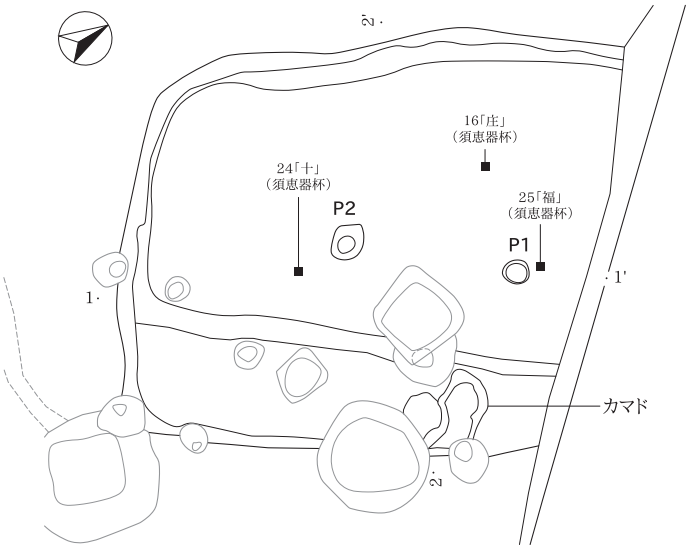
SE830
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ30～50mmの灰白色ブロック中量、φ3mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
3　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。

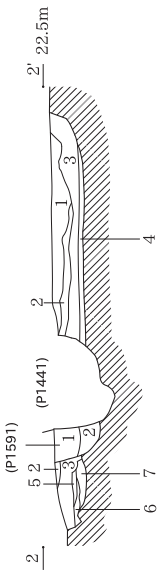
0　16-16′・セクション図（1:40）　2m

0　エレベーション図（1:60）　3m


12
13
カマド
SI1312
SE1221
SE1139
SB1514
SB1512
SB1515
SB1516
SB1511
SB1505
SB1517
SB1513
12B
12C
13C
撹乱
22.1m
22.2m
22.3m
22.4m
22.5m
22.6m
0
(1:100)
5m

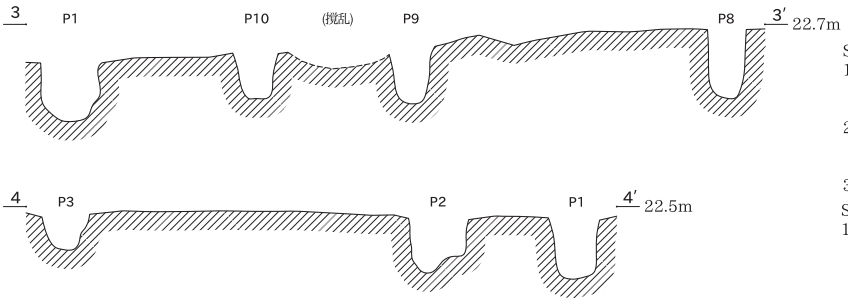
SI1312

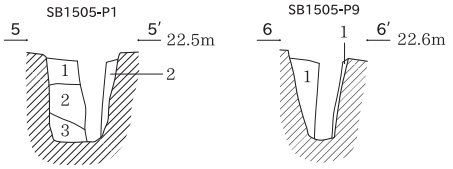




SI1312
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1mm以下の明黄褐色シルトブロック多量、
　φ5mm以下の炭化物中量、φ5mm以下の焼土多量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1mm以下の明黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1mm以下の淡褐色シルトブロック中量、
　φ5mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土少量含む。
4　黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性中、しまり強。（貼床）
カマド
5　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ5mm以下の炭化物少量、
　φ15mm以下の焼土多量含む。
6　暗褐色シルト　粘性中、しまり強。
　φ1～3mmの明黄褐色シルトブロック多量含む。
7　明黄褐色シルトブロック 粘性中、しまり中。
P1441
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
P1556
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
P1591
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ3mm以下の炭化物少量、
　φ3mm以下の焼土少量含む。
2　明黄褐色シルトブロック+暗褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。

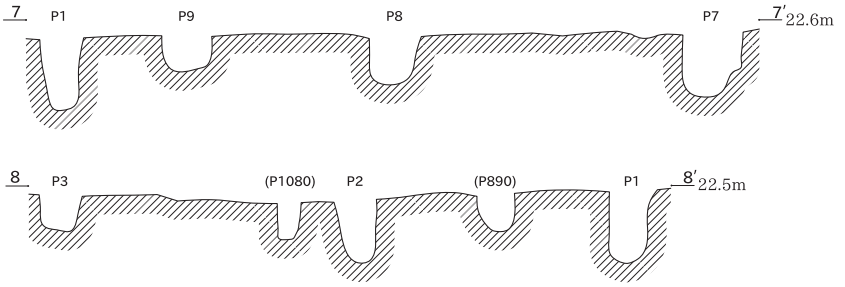
SB1505

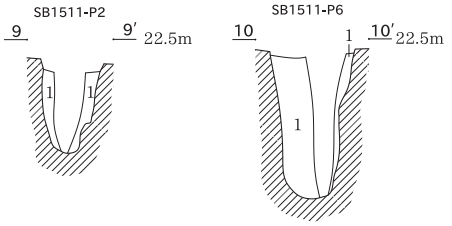




SB1505-P1
1　φ10mm以下の黒褐色シルトブロック+
　φ10mm以下の灰白色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。
　φ5mm以下の炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック中量、φ3mm以下の炭化物少量、
　φ3mm以下の焼土少量含む。
3　明黄褐色シルト+黒褐色シルトの混合土　粘性弱、しまり中。
SB1505-P9
1　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック+
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。　φ1～3mmの灰褐色粘土ブロック中量含む。

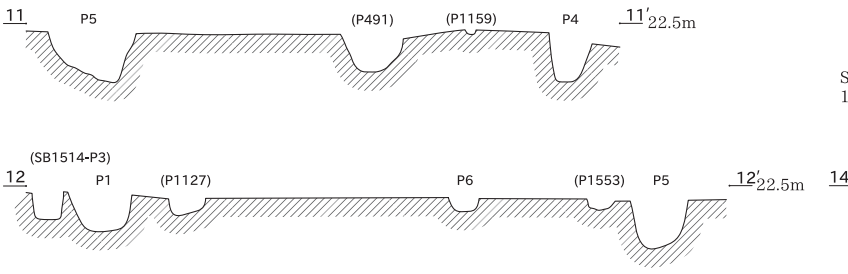
SB1511

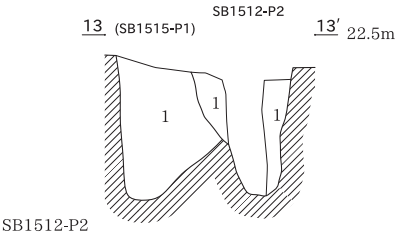




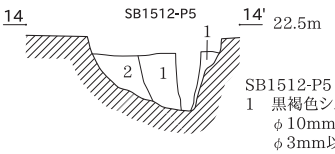
SB1511-P2
1　φ1～3mm黒褐色シルトブロック+φ1～3mmの明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。　φ1～3mmの灰褐色粘土ブロック中量含む。
SB1511-P6
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。　φ10mm前後の黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。

SB1512





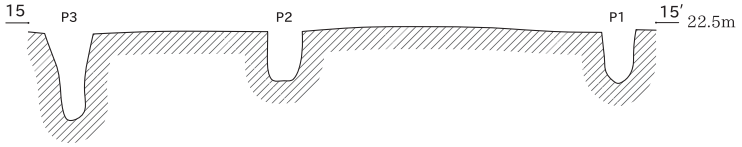
SB1512-P2
1　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック+
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロックの混合土　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの灰黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
SB1515-P1
1　黒褐色シルト+明黄褐色シルトの混合土　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。

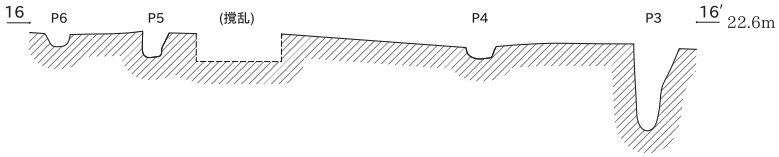


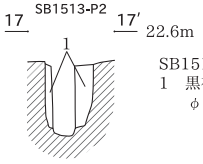
SB1512-P5
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　SI1312・エレベーション図（1:60）　3m

SB1513

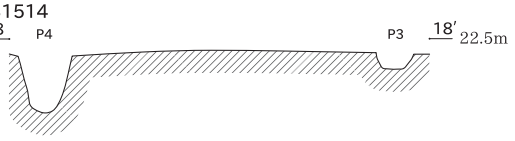


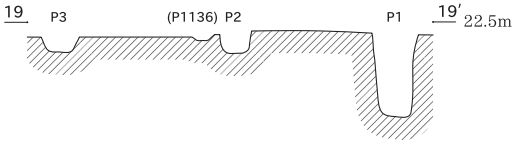


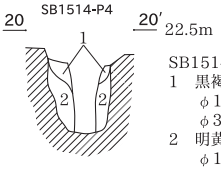


SB1514-P4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物中量含む。

SB1514

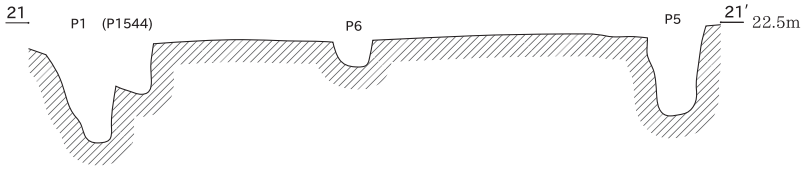


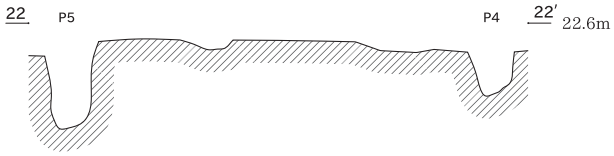


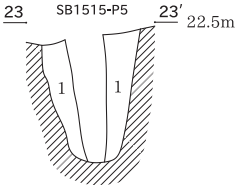


SB1514-P4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　φ10mm以下の明黄褐色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量含む
2　明黄褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック中量含む。

SB1515

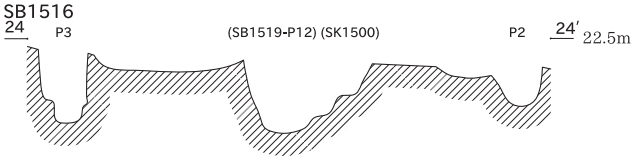


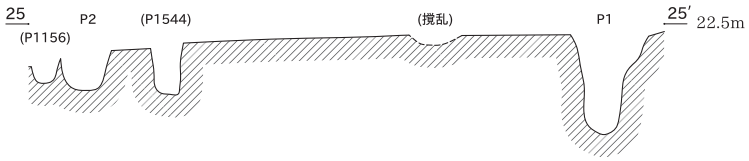


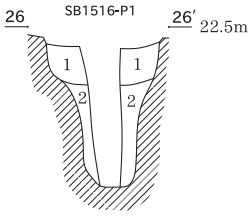


SB1515-P5
1　φ10～30mmの黒褐色シルトブロック+
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性弱、しまり中。
　φ10mm以下の灰白色シルトブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。

SB1516

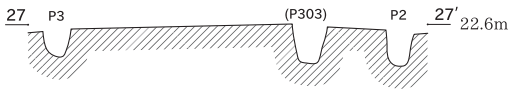


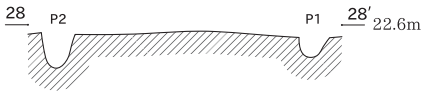




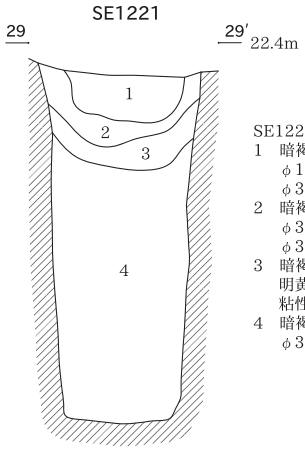
SB1516-P1
1　黒褐色シルト 粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ5mm以下の炭化物中量、φ3mm以下の焼土中量含む。
2　明黄褐色シルト+灰褐色シルトの混合土 粘性弱、しまり中。

SB1517



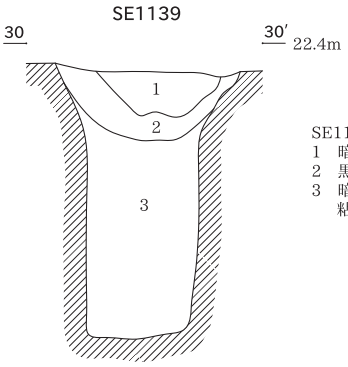


SE1221



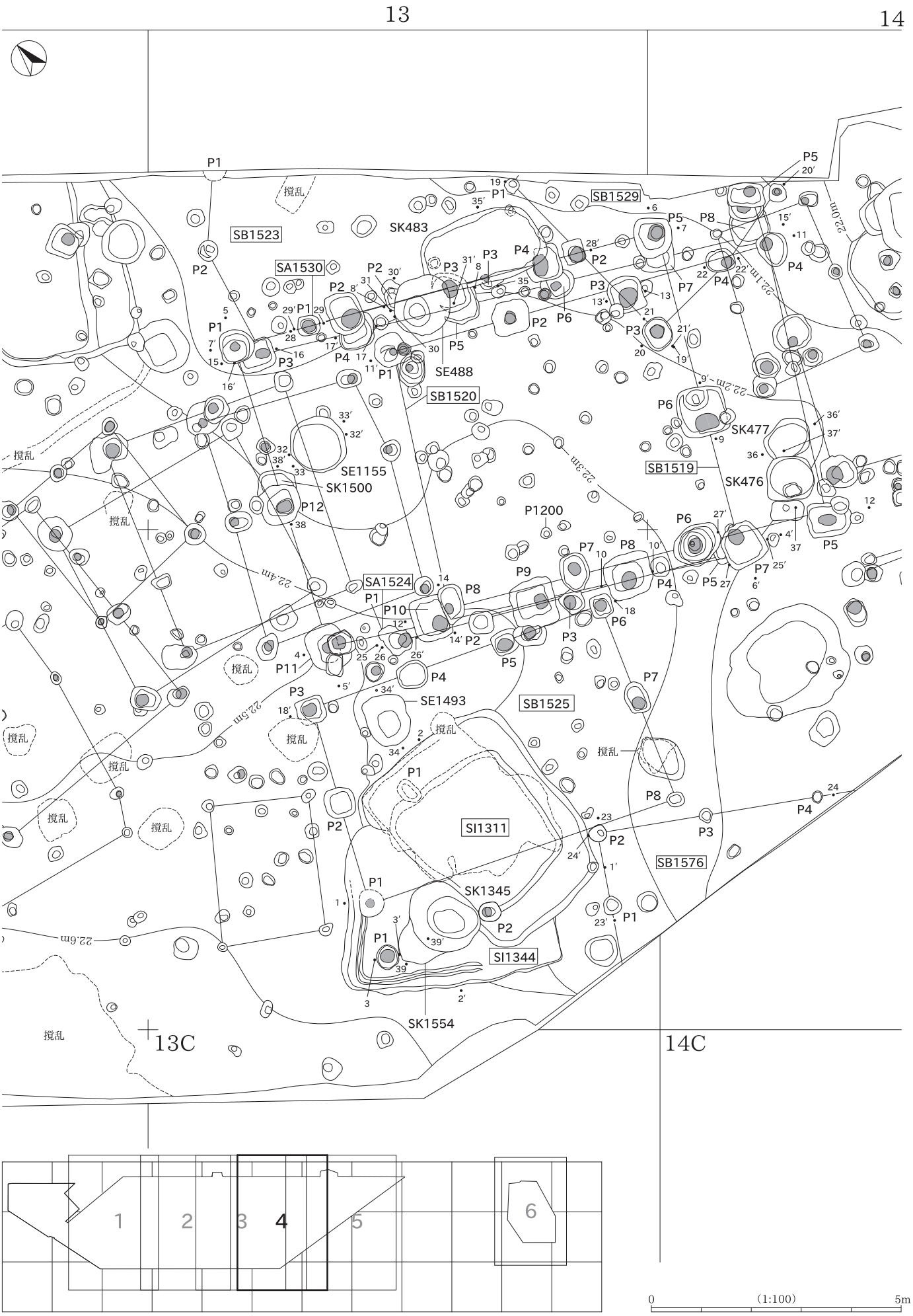
SE1221
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの灰オリーブ色粘土ブロック中量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
2　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3～6mmの明黄褐 色シルトブロック多量、
　φ3mm以下の炭化物少量、φ3mm以下の焼土少量含む。
3　暗褐色シルト+灰オリーブ粘質シルト+
　明黄褐色シルトの混合土
　粘性弱、しまり弱。　φ3mm以下の炭化物少量含む。
4　暗褐色シルト　粘性弱、しまり弱。
　φ30～60mmの明黄褐色シルトブロック中量含む。

SE1139

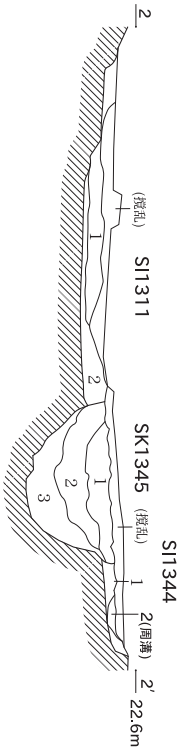


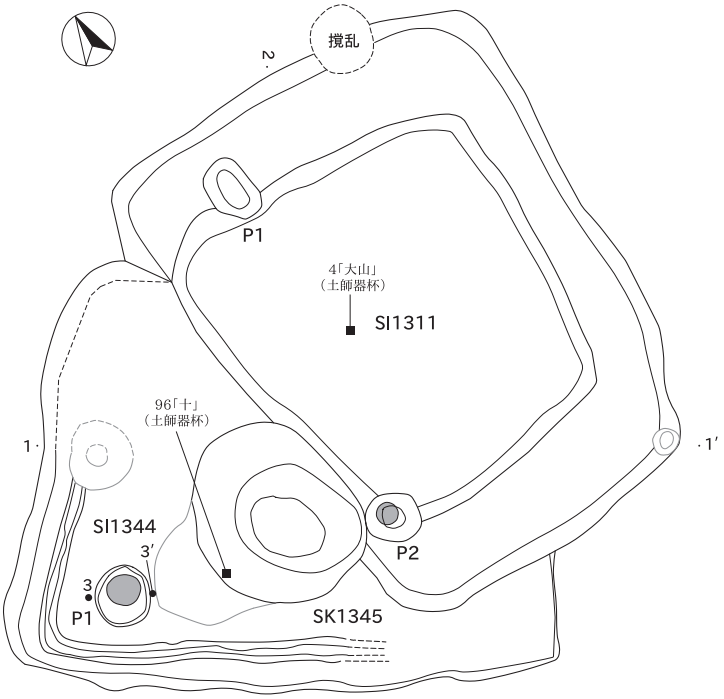
SE1139
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
3　暗褐色シルト+明黄褐色シルトの混合土
　粘性弱、しまり弱。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

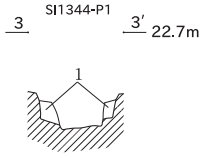

13
14
13C
14C
SB1523
SA1530
SK483
SB1529
SE488
SB1520
SK477
SB1519
SK476
SE1155
SK1500
P12
P1200
SA1524
P10
P11
SE1493
SB1525
SI1311
SK1345
SI1344
SK1554
SB1576
22.0m
22.1m
22.2m
22.3m
22.4m
22.5m
22.6m
撹乱
0
(1:100)
5m
1
2
3
4
5
6

SI1311・1344・SK1345

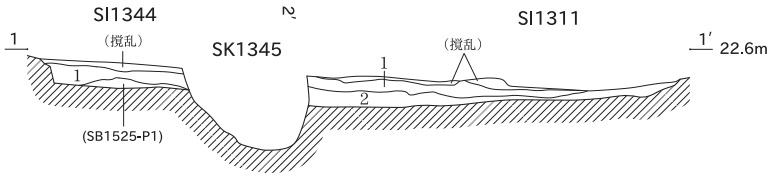




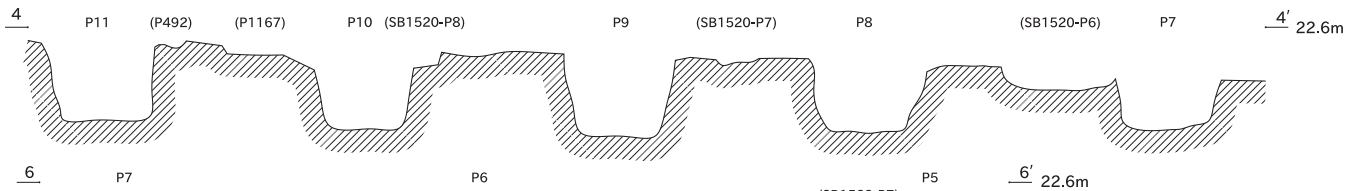
SI1311
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック多量含む。
2　明黄褐色シルト+褐灰色シルトの混合土
　粘性弱、しまり中。
　φ5mm以下の炭化物中量含む。（貼床）。
SI1344
1　黒褐色シルト+明黄褐色シルトの混合土
　粘性中、しまり強。
2　黒褐色シルト 粘性中、しまり中。（周溝）。
SK1345
1　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ3mm以下の炭化物中量、
　φ3mm以下の焼土中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1mm以下の明黄褐色シルトブロック少量、
　φ3mm以下の炭化物中量、
　φ3mm以下の焼土中量含む。
3　黒褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ1～3mmの明黄褐色ブロック多量、
　φ5mm以下の炭化物多量、
　φ5mm以下の焼土多量含む。

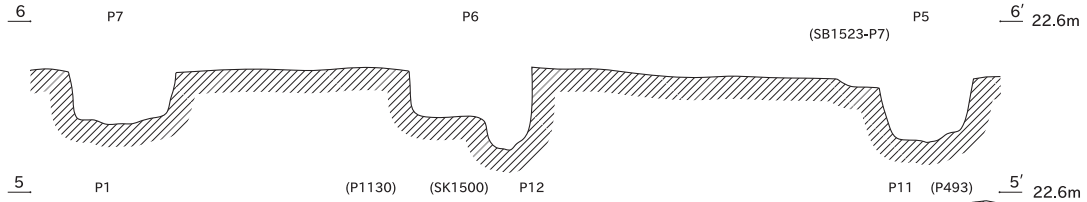


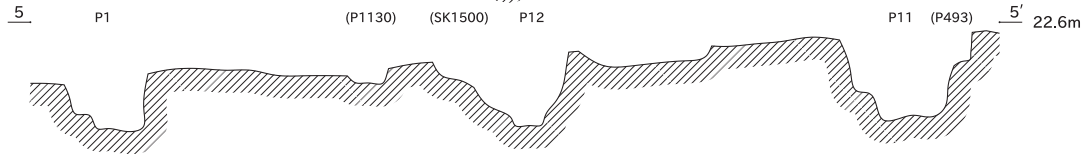
SI1344-P1
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。

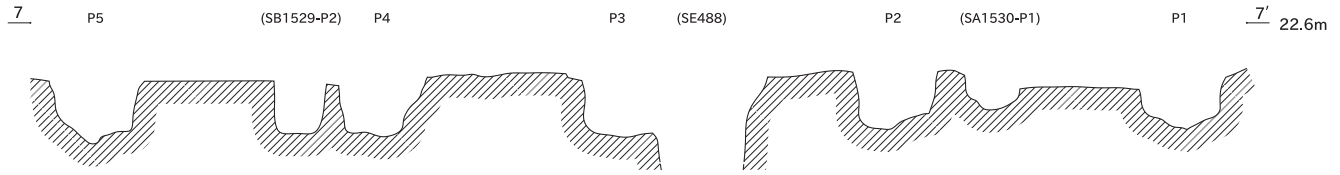


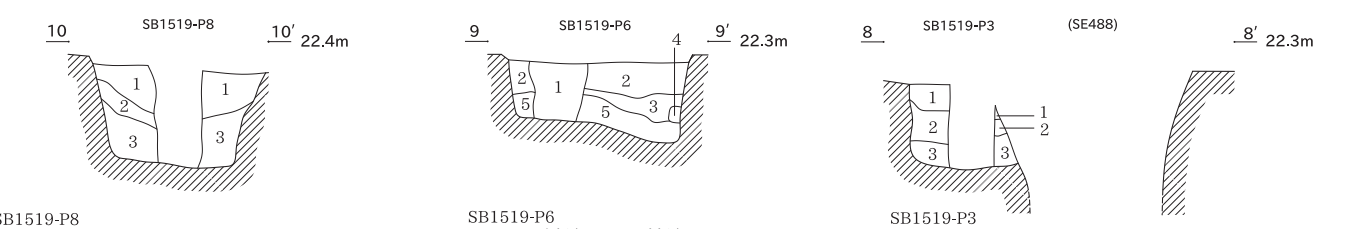
SB1519











SB1519-P8
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄橙色シルトブロック中量、φ1～7mmの炭化物微量含む。
2　暗褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ3～9mmの炭化物微量、
　黄褐色シルトブロック少量含む。
3　黒褐色シルト　粘性やや強、しまり中。
　黄橙色シルトブロック微量、φ3～11mmの炭化物微量含む。

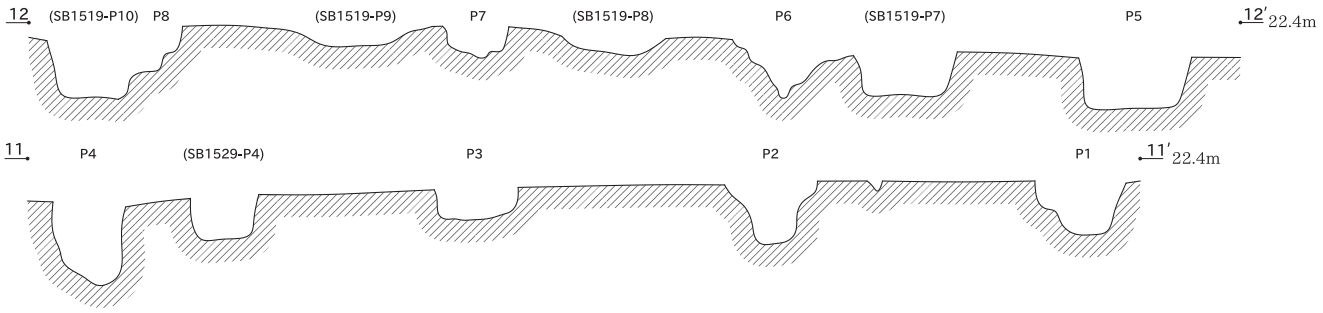
SB1519-P6
1　にぶい赤褐色シルト+暗褐色シルト
　粘性中、しまり中。　φ1～3mmの炭化物極微量含む。
2　にぶい赤褐色シルト+暗褐色シルト
　粘性中、しまり中。　φ1～3mmの炭化物極微量含む。
3　1層と同様
4　にぶい赤褐色シルト+暗褐色シルト
　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
5　にぶい赤褐色シルト+暗褐色シルト
　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック少量、
　黒褐色シルトブロック微量、
　φ1～5mmの炭化物極微量含む。

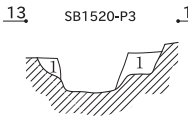
SB1519-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック、φ1～7mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック微量、φ1mm以下の炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性やや強、しまり中。
　明黄褐色ブロック中量含む。

0　セクション図（1:40）　2m

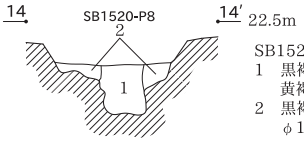
SI1311・1344・SK1345
0　エレベーション図（1:60）　3m

SB1520



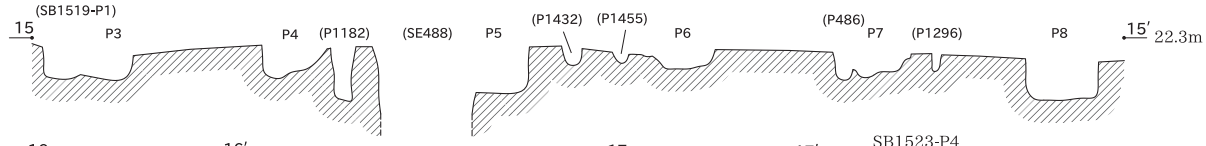


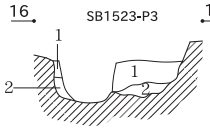
SB1520-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　褐色シルトブロック少量、
　　φ1～10mmの炭化物微量含む。



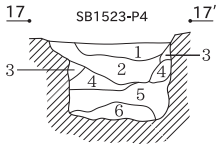
SB1520-P8
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　黄褐色シルトブロック中量、φ1～2mmの炭化物極微量含む。　柱痕。
2　黒褐色シルト＋黄褐色シルトの混合土　粘性中、しまり中。
　　φ1～2mmの炭化物微量含む。

SB1523



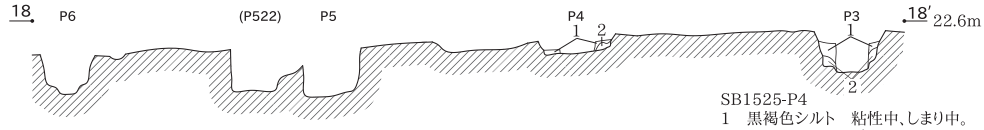


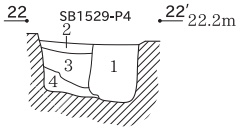
SB1523-P3
1　黒色シルト　粘性やや強い、しまり中。
2　黒色シルトブロック＋
　　明黄褐色シルトブロックの混合土
　　粘性やや強い、しまり中。



SB1523-P4
1　黒色シルト　粘性やや強、しまり中。
　　黄橙色シルトブロック含む。　炭化物なし。
2　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄橙色シルトブロック中量、φ2mm以下の炭化物中量含む。
3　明橙色シルト　粘性やや強、しまりやや弱。　崩落土。
4　黒色シルト　粘性やや強、しまり中。
　　黄橙色シルトブロック少量、φ1mm以下の炭化物微量含む。
5　黒色シルト　粘性中、しまりやや弱。
　　明黄褐色シルトブロック微量含む。

SB1525



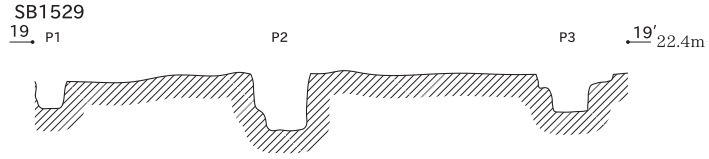


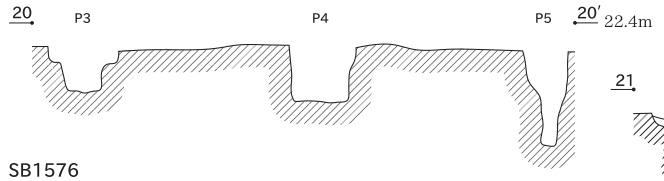
SB1525-P4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄褐色シルトブロック少量、
　　φ1～6mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄褐色シルトブロック多量含む。

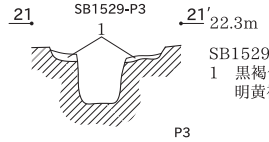
SB1525-P4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄褐色シルトブロック中量、
　　φ1～4mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルトブロック＋
　　明黄褐色シルトブロックの混合土
　　粘性中、しまり中。

SB1529-P4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。
　　φ1～12mmの黄褐色シルトブロック少量、
　　φ1～11mmの炭化物微量含む。　柱痕。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　黄褐色シルトブロック多量、
　　φ1mm以下の炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　φ2～18mmの黄褐色シルトブロック中量、
　　φ1～3mmの炭化物微量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　黄褐色シルトブロック多量、
　　φ1mm以下の炭化物微量含む。

SB1529

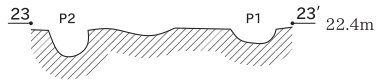


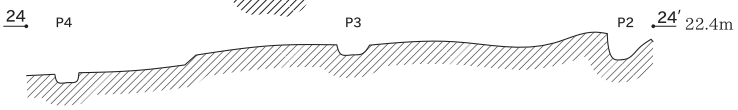




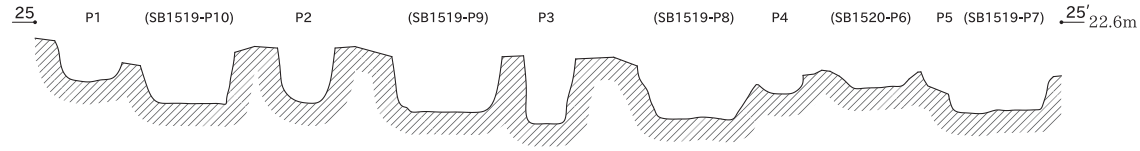
SB1529-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄褐色シルトブロック中量含む。

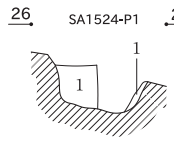
SB1576



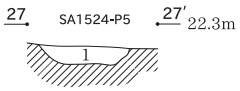


SA1524

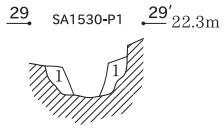




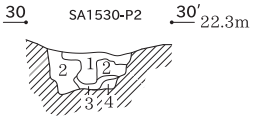
SA1524-P1
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　黄褐色シルトブロック中量、
　　φ1mm以下の炭化物微量含む。



SA1524-P5
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　黄橙色シルトブロック微量、
　　φ1～2mmの炭化物少量含む。

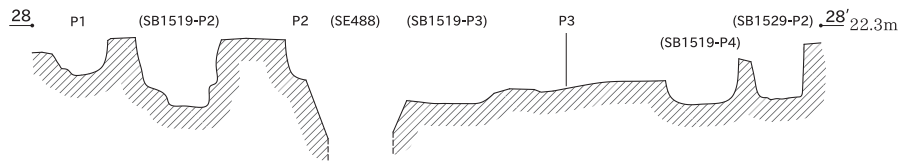


SA1530-P1
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　φ1mm以下の炭化物微量含む。



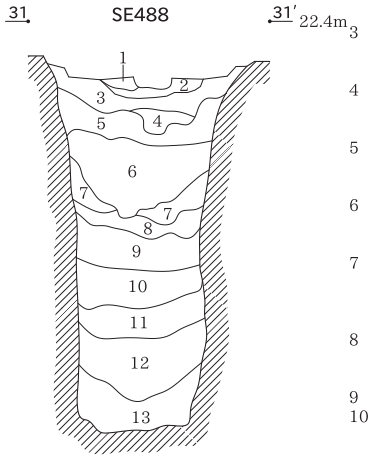
SA1530-P2
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　φ2mm以下の明黄褐色シルトブロック微量、
　　φ1～3mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄褐色シルトブロック中量含む。
　　炭化物なし。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　明黄褐色シルト中量、
　　φ2mm以下の炭化物微量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　　φ2mm以下の明黄褐色シルトブロック微量、
　　φ1～3mmの炭化物微量含む。

SA1530

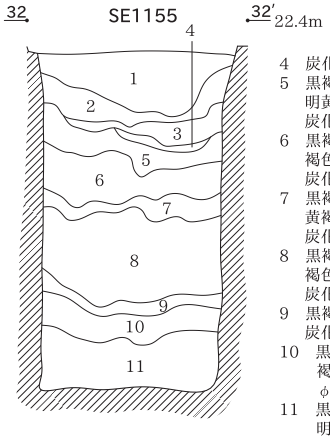


0　セクション図（1:40）　2m

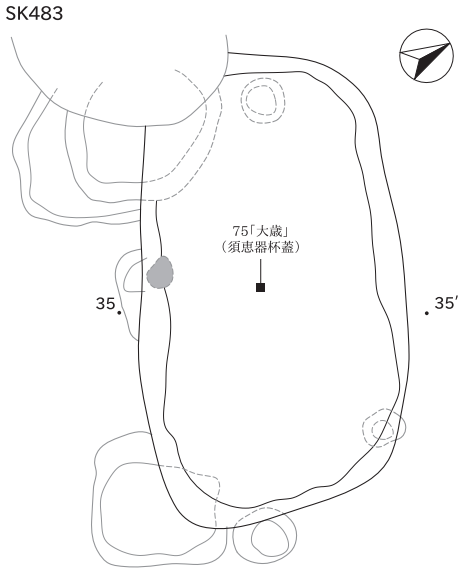
0　エレベーション図（1:60）　3m

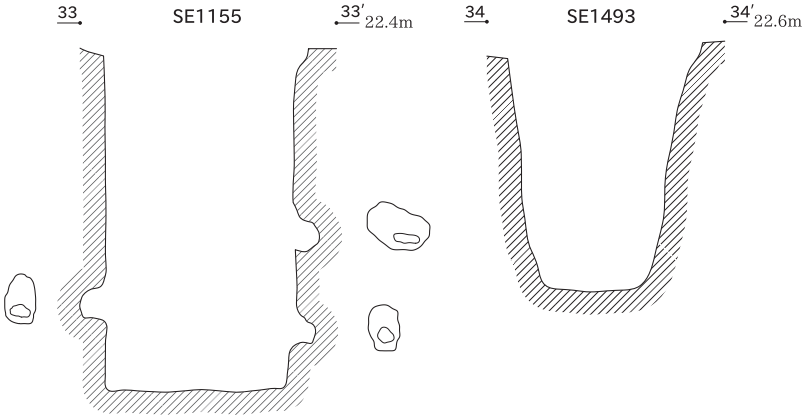


SE488
1　にぶい黄褐シルト　粘性中、しまり中。
　灰白色粘質シルトブロック少量、
　φ1～3mmの炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色シルトブロック少量、
　灰白色粘質シルトブロック少量、
　φ1～6mmの炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中。しまりやや弱。
　浅黄橙色シルトブロック中量、
　φ1～5mmの炭化物微量含む。
4　黒褐色シルト　粘性やや強。しまりやや弱。
　灰白色粘質シルトブロック微量、
　黄橙色シルトブロック多量含む。　炭化物なし。
5　黒褐色シルト　粘性やや強、しまり中。
　明黄褐色シルトブロックが下部に集中して多量、
　φ1～7mmの炭化物微量含む。
6　黒色シルト　粘性やや強、しまり中。
　黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～9mmの炭化物少量含む。
7　黒褐色シルト　粘性やや強、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　灰白色粘質シルトブロック少量、
　φ1～6mmの炭化物少量含む。
8　黒褐色シルト　粘性強、しまり中。
　褐灰白シルトブロック少量、
　明黄褐色シルトブロック少量含む。　炭化物なし。
9　黒色シルト　粘性強、しまり弱。　炭化物なし。
10　黒色シルト　粘性強、しまり弱。
　灰白色粘質シルトブロック多量、
　φ1mm以下の炭化物少量含む。
11　黒色シルト　粘性強、しまり弱。
　灰白色粘質シルトブロック少量。　炭化物なし。
12　黒褐色シルト　粘性強、しまり中。
　灰白色粘質シルトブロック少量、
　明黄褐色シルトブロック中量、
　φ2mm以下の炭化物微量含む。
13　黒褐色シルト　粘性強。しまり中。
　灰白色粘質シルトブロック多量、
　明黄褐色シルトブロック多量含む。　炭化物なし。

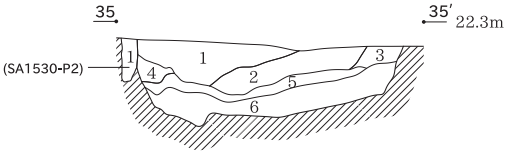


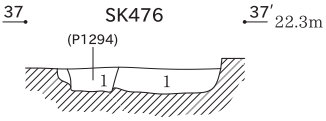
SE1155
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック中量、
　φ1～6mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色粘質シルトブロック中量、
　φ1～3mmの炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック中量、
　φ1～3mmの炭化物微量含む。
4　炭化物層　粘性やや強、しまり弱。
5　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック中量含む。
　炭化物なし。
6　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色粘質シルトブロック少量含む。
　炭化物なし。
7　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック中量含む。
　炭化物なし。
8　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色粘質シルトブロック中量含む。
　炭化物なし。
9　黒褐色シルト　粘性強、しまり弱。
　炭化物なし。
10　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色シルトブロック中量含む。
　φ1～30mmの炭化物中量含む。
11　黒褐色シルト　粘性強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック中量、
　黄橙色シルトブロック中量、
　灰白色シルトブロック中量、
　φ1～5mmの炭化物少量含む。



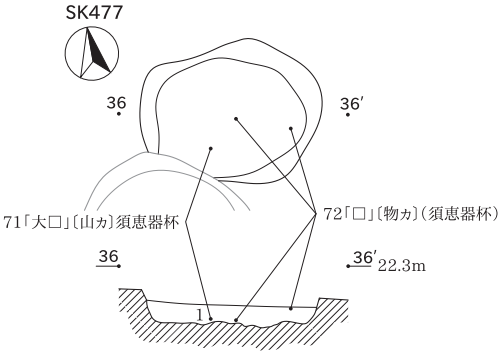


SK483
1　黒褐色シルト+明黄褐色シルトの混合土　粘性中、しまり中。　φ1～10mmの炭化物微量含む。
2　明黄褐色シルトブロック　粘性中、しまり中。　崩落土。
3　黒色シルト　粘性中、しまり中。　暗褐色シルトブロック少量、φ1～12mmの炭化物少量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　にぶい黄褐色シルトブロック少量、φ1～2mm炭化物の炭化物微量含む。
5　暗赤灰色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～14mmの炭化物少量含む。
6　黒褐色シルト+浅黄橙シルトの混合土　粘性強、しまり弱。　φ1～21mmの炭化物多量含む。

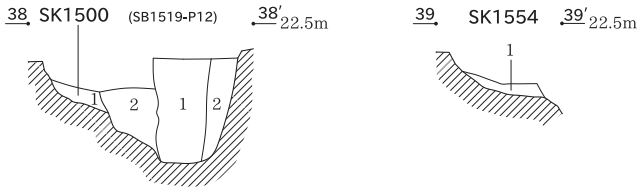




SK476
1　黒色シルト　粘性中、しまりやや強。
　φ1～11mmの明黄褐色シルトブロック少量、φ1～8mmの炭化物微量含む。

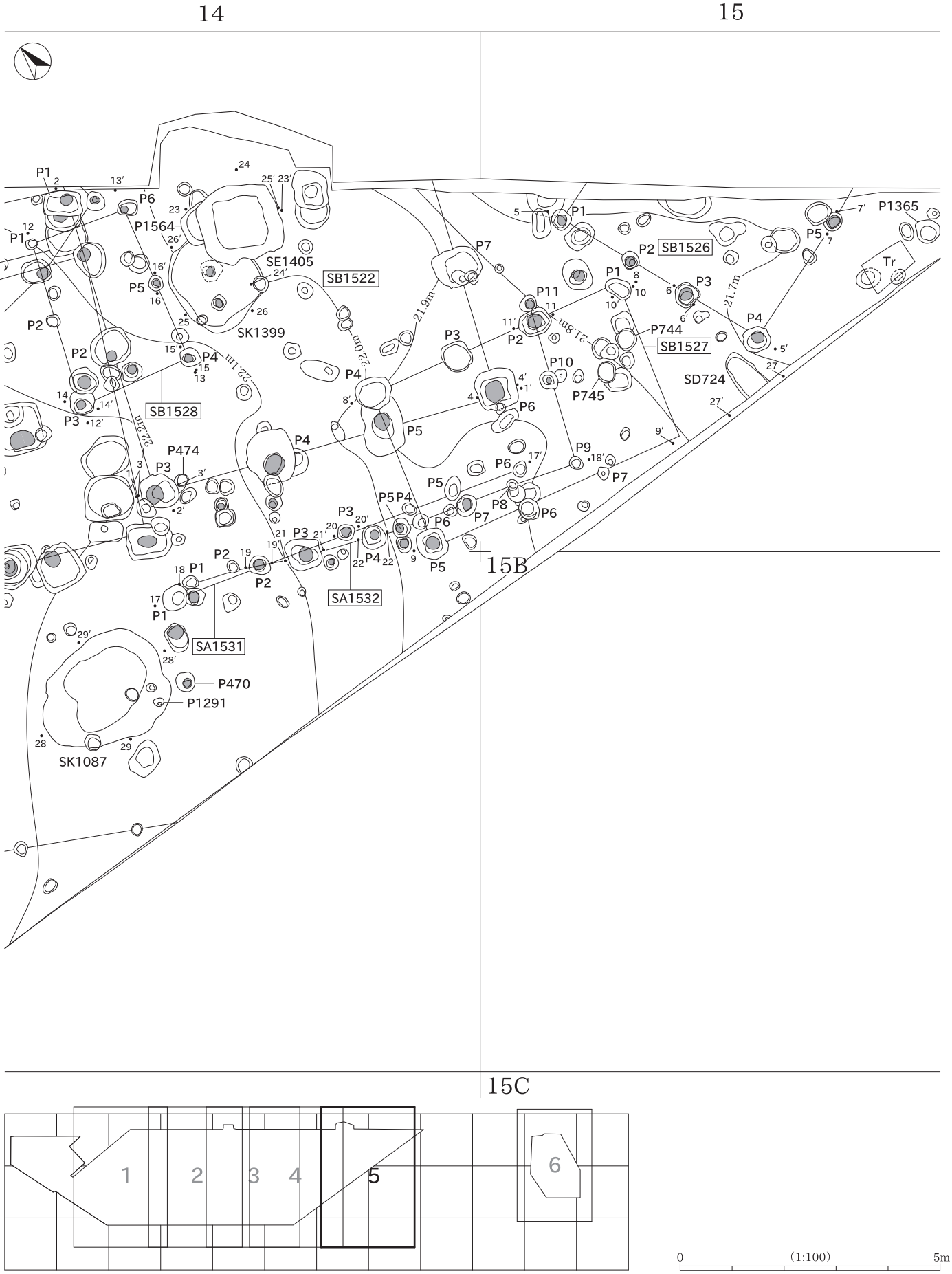


SK477
1　黒褐色シルト+暗褐色シルトの混合土　粘性中、しまり中。
　明黄褐色粘質シルトブロック中量、浅黄橙粘質シルトブロック少量、
　φ1～8mmの炭化物少量、φ1～3mmの焼土微量含む。

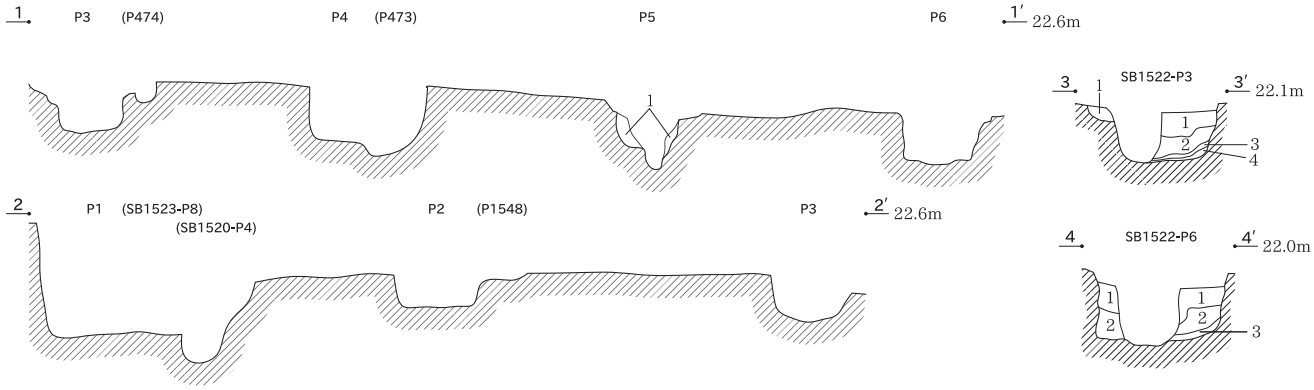


SB1519-P12
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　褐色シルトブロック微量、φ1～3mmの炭化物微量含む。
2　明黄褐シルト　粘性やや強、しまり強。　炭化物なし。
SK1500
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量、φ1～9mmの炭化物微量含む。
SK1554
1　暗褐色シルト　粘性弱、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量含む。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m


14
15
15B
15C
SB1522
SB1526
SB1527
SB1528
SA1531
SA1532
SE1405
SK1399
SK1087
SD724
P1564
P1365
P474
P470
P1291
P744
P745
Tr
21.9m
22.0m
22.1m
22.2m
21.8m
21.7m
1
2
3
4
5
6
0
(1:100)
5m

SB1522

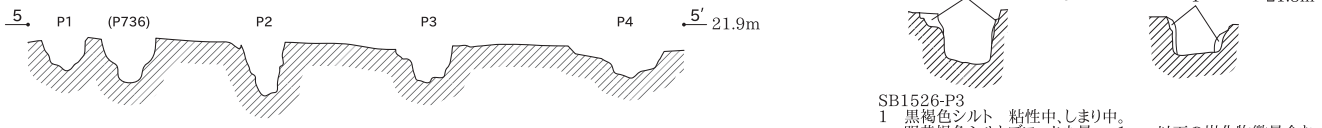


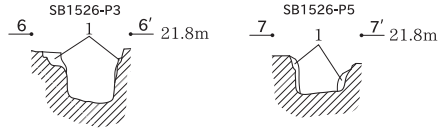
SB1522-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック中量、φ2～4mm以下の炭化物微量含む。
2　黒色シルト　粘性中、しまり中。　黄褐色シルトブロック少量、
　φ2mm以下の炭化物微量含む。
3　黒色シルト　粘性中、しまり中。　黄褐色シルトブロック含む。　炭化物なし。
4　黒色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック含む。　炭化物なし。

SB1522-P5
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量、φ2mm以下の炭化物微量含む。

SB1522-P6
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～6mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック少量含む。　炭化物なし。
3　黒色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック中量含む。　炭化物なし。

SB1526

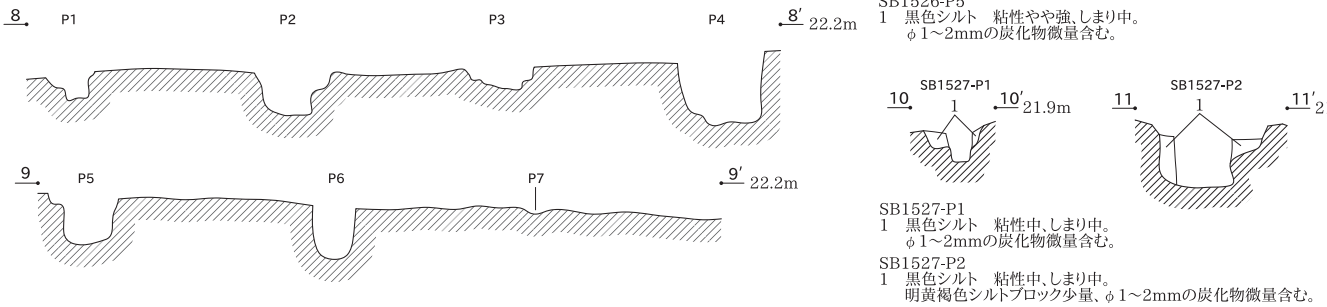




SB1526-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1mm以下の炭化物微量含む。

SB1526-P5
1　黒色シルト　粘性やや強、しまり中。
　φ1～2mmの炭化物微量含む。

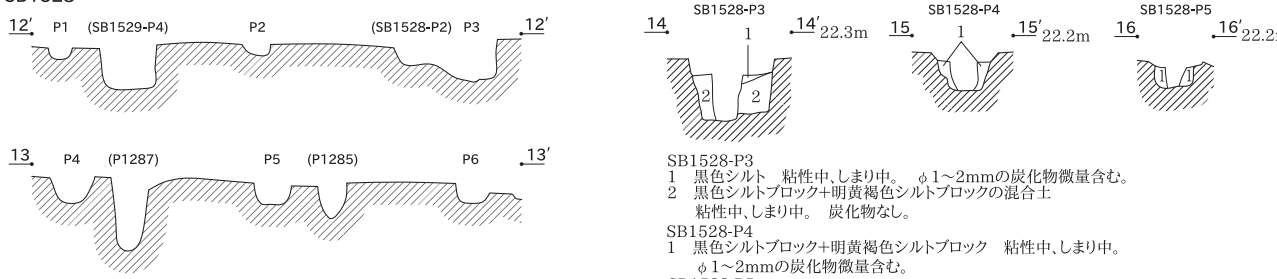
SB1527



SB1527-P1
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～2mmの炭化物微量含む。

SB1527-P2
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～2mmの炭化物微量含む。

SB1528

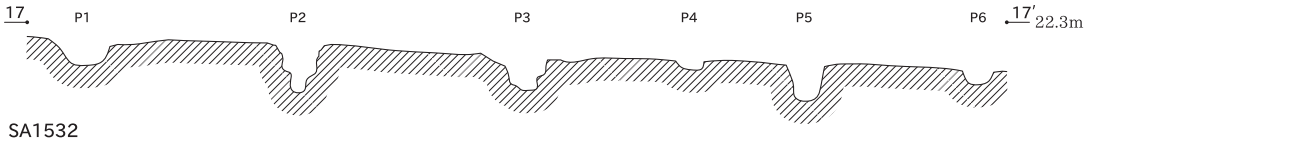


SB1528-P3
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～2mmの炭化物微量含む。
2　黒色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性中、しまり中。　炭化物なし。

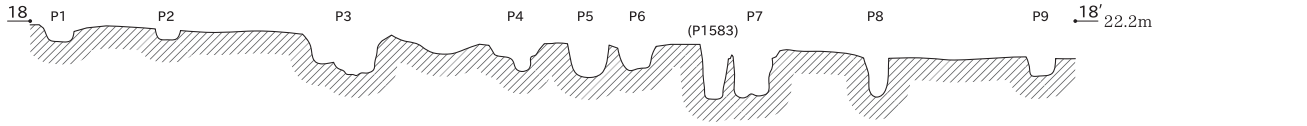
SB1528-P4
1　黒色シルトブロック+明黄褐色シルトブロック　粘性中、しまり中。
　φ1～2mmの炭化物微量含む。

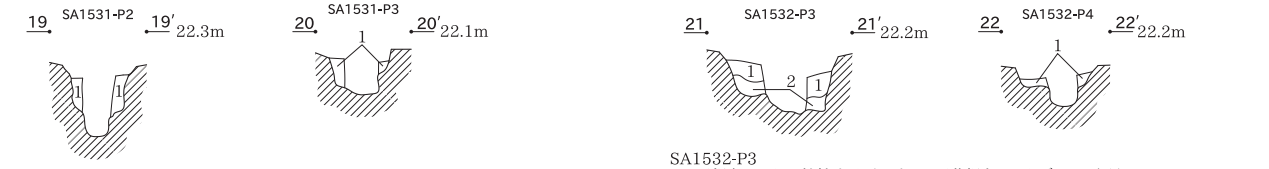
SB1528-P5
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～12mmの炭化物微量含む。

SA1531



SA1532





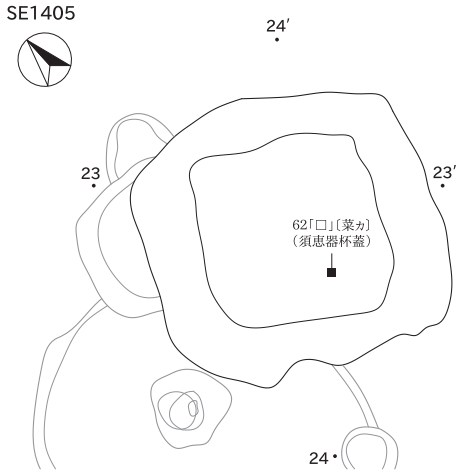
SA1531-P2
1　黒褐色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック微量、φ2～5mmの炭化物微量含む。

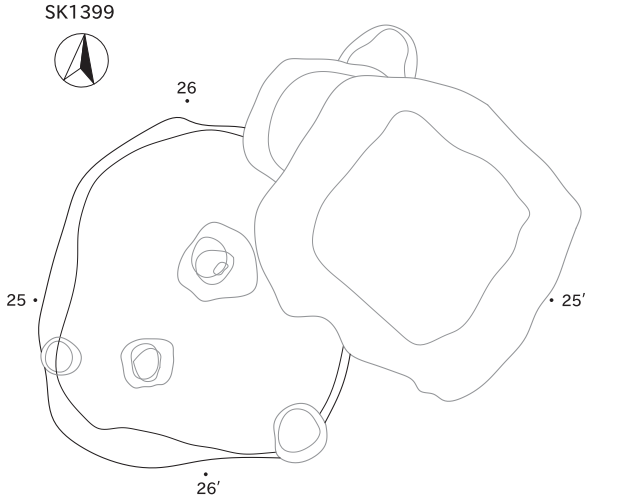
SA1531-P3
1　黒褐色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～7mmの炭化物微量含む。

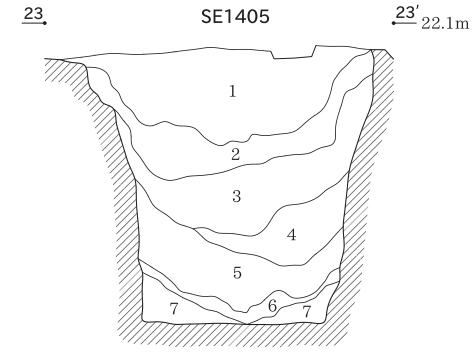
SA1532-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量、
　φ1～3mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～6mmの炭化物微量含む。

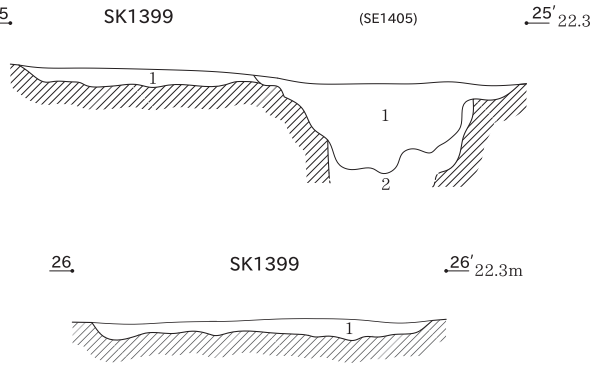
SA1532-P4
1　黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロック　粘性やや強、しまり中。
　明黄褐色シルトブロックの割合多い。　炭化物なし。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

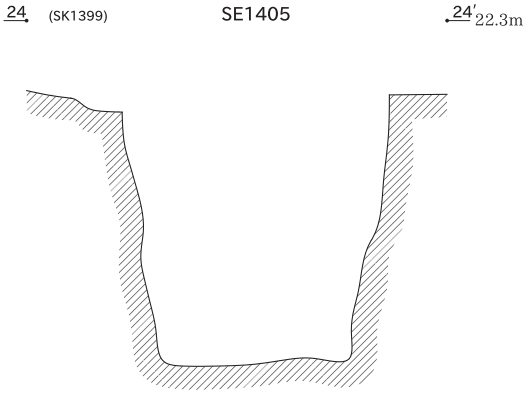


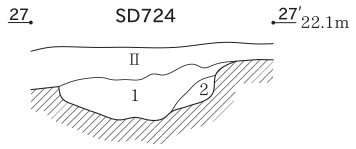






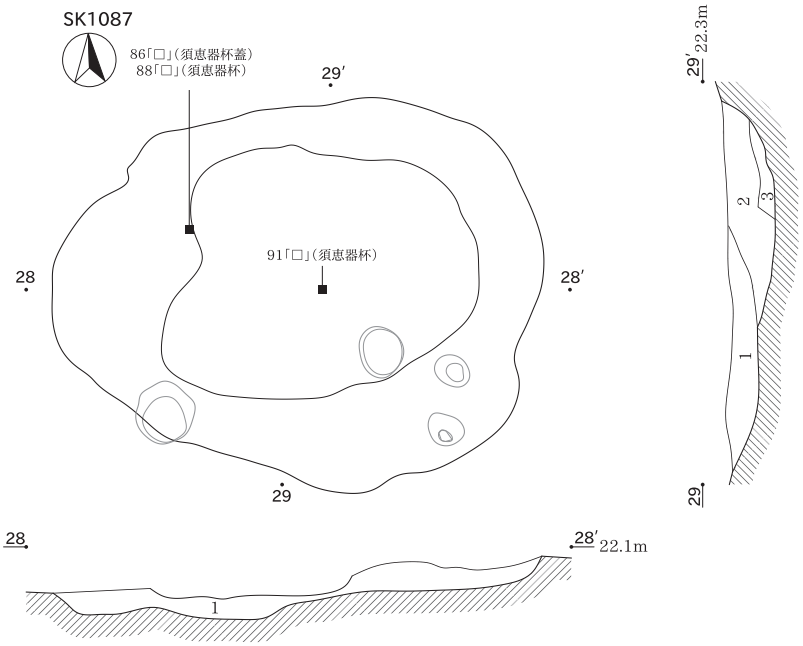
SK1399
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～3mm以下の炭化物微量含む。





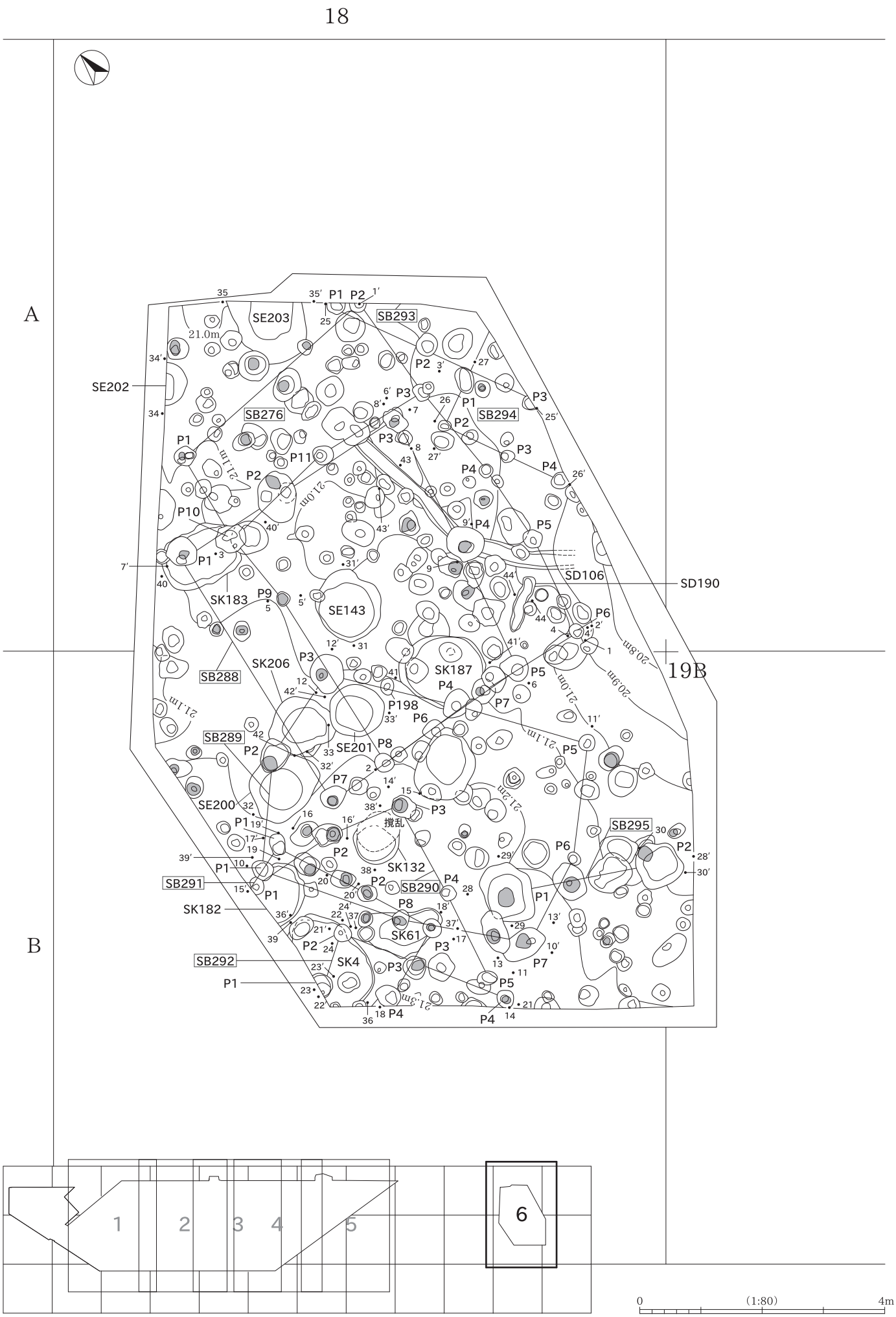
SD724
1　黒色シルト　粘性強、しまり弱。
　明黄褐色粘質シルトブロック微量、
　φ1mm以下の炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色粘質シルトブロック少量含む。　炭化物なし。

SE1405
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック少量、浅黄橙シルトブロック少量、
　φ1～13mmの炭化物少量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック多量、φ2mm以下の炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色シルトブロック多量、浅黄橙色シルトブロック多量含む。
　炭化物なし。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　黄褐色シルトブロック多量含む。炭化物なし。
5　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色シルトブロック中量、φ1～7mmの炭化物微量含む。
6　黒褐色シルト　粘性強、しまり弱。
　黄橙色粘質シルトブロック多量、
　浅黄橙粘質シルトブロック多量含む。　炭化物なし。
7　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　褐色シルトブロック少量、φ1～7mmの炭化物微量含む。

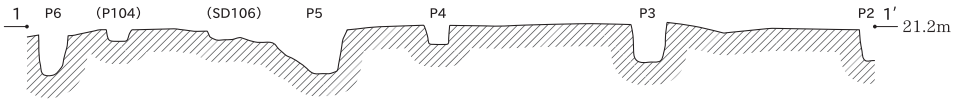


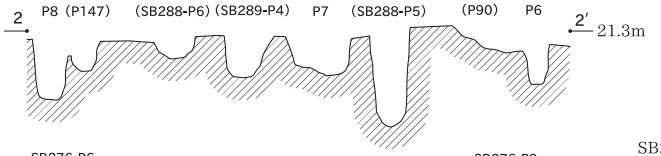
SK1087
1　褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mmの明黄褐色シルトブロック少量、
　φ5mm以下の炭化物中量、φ5mm以下の焼土中量含む。
2　褐色シルト　粘性弱、しまり中。
　φ10～30mm明黄褐色シルトブロック中量、
　φ5mm以下の炭化物少量、φ5mm以下の焼土少量含む。
3　褐色シルト　粘性弱、しまり中。

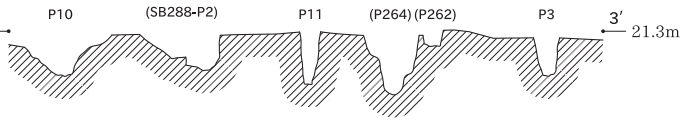
0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

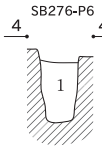

18
19B
A
B
SE203
SB293
SB276
SB294
SE202
SD106
SD190
SK183
SE143
SB288
SK206
SK187
P198
SB289
SE201
SE200
SB291
SK182
SB292
SK4
SK132
SK61
SB290
SB295
撹乱
21.0m
20.8m
20.9m
21.1m
21.2m
21.3m
1
2
3
4
5
6
0
(1:80)
4m

SB276

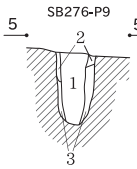




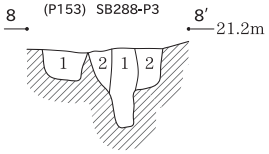




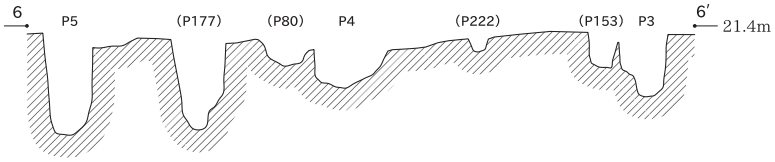
SB276-P6
1　黒色シルト　粘性やや強、しまり中。
　φ1～3mmの炭化物微量含む。

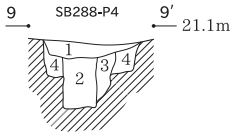


SB276-P9
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～4mmの明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～4mmのにぶい黄褐色シルトブロック極微量、
　φ1～12mmの炭化物極微量含む。　柱痕。
2　黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
3　黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性中、しまり中。
　2層よりも明黄褐色シルトブロックの割合高い。

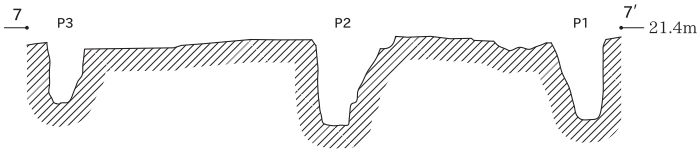


SB288



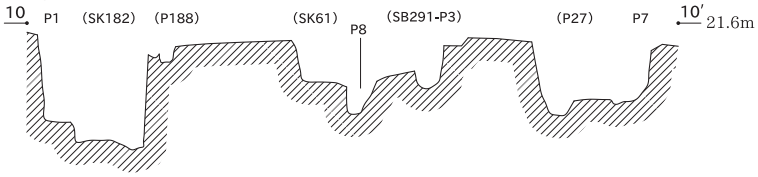


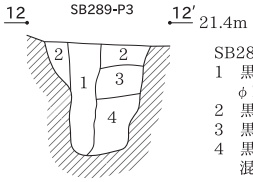
SB288-P3
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～9mmの炭化物微量含む。　柱痕。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック多量、
　炭化物微量含む。



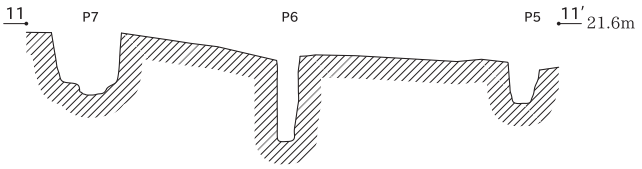
SB288-P4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～2mmの炭化物微量含む。
2　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～4mmの炭化物少量含む。　柱痕。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1mm以下の炭化物極微量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
P153
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。

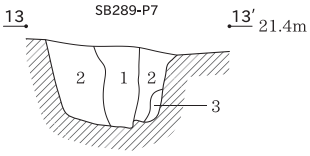
SB289





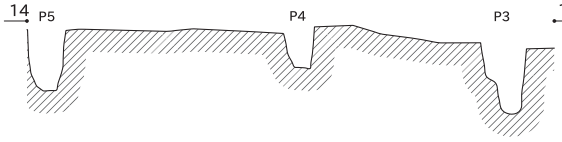
SB289-P3
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～2mmの炭化物微量含む。　柱痕。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
3　黒色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
4　黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの
　混合土　粘性中、しまり中。　炭化物なし。

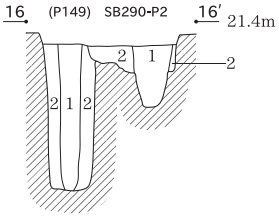




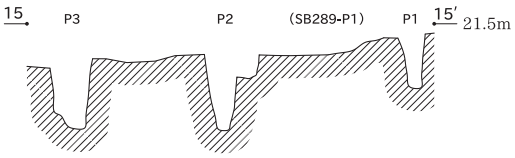
SB289-P7
1　黒色シルトブロック+黒褐色シルトブロックの混合土
　粘性中、しまり中。
　φ1～7mmの明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～12mmの炭化物少量含む。　柱痕
2　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～30mmの明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～4mmの炭化物微量含む。
3　黒色シルトブロック+暗灰黄色シルトブロックの
　混合土　粘性中、しまり中。
　φ10～19mmの明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1mm以下の炭化物微量含む。

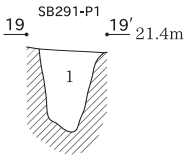
SB290

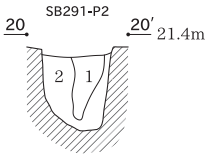




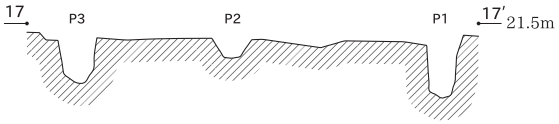
SB290-P2
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルト
　ブロック微量含む。　炭化物なし。　柱痕。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～12mmの炭化物微量含む。
P149
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量含む。　炭化物なし。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～12mmの炭化物微量含む。

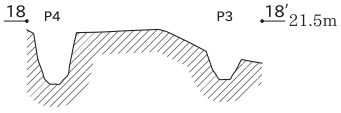






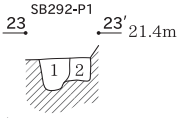
SB291

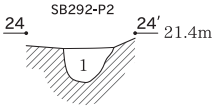




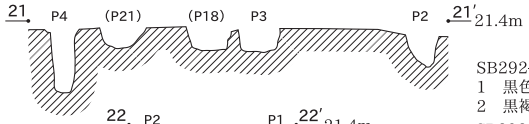
SB291-P1
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～28mmのにぶい黄橙色シルトブロック中量、
　φ1～13mmの炭化物極微量含む。

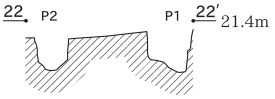
SB291-P2
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～25mmのにぶい黄橙色シルトブロック微量、
　φ1～3mmの炭化物微量含む。
2　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～11mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ1～10mmのにぶい黄橙色シルトブロック少量、
　φ1～12mmの炭化物微量含む。





SB292

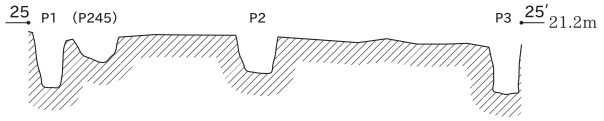




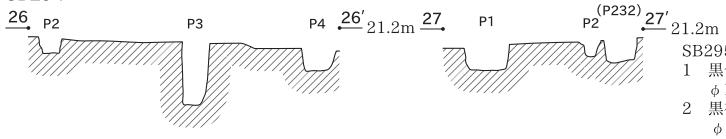
SB292-P1
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～14mmの明黄褐色シルトブロック微量、φ1～7mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～17mmの明黄褐色シルトブロック中量、φ1～4mmの炭化物極微量含む。
SB292-P2
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量含む。

0　セクション図（1:40）　2m　　0　エレベーション図（1:60）　3m

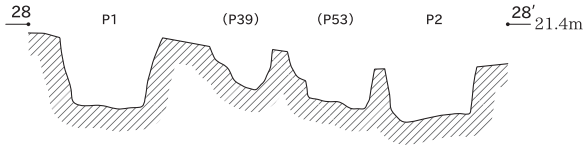
SB293

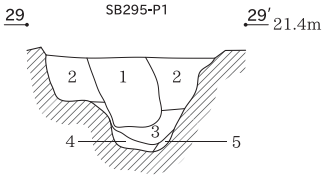


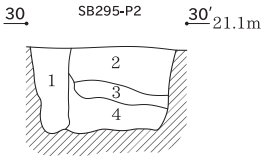
SB294



SB295

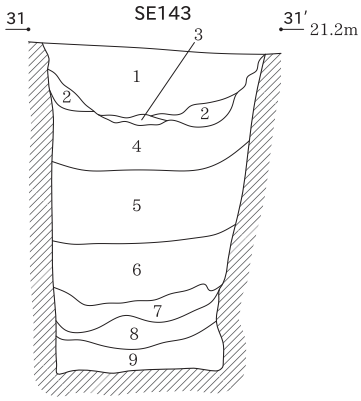




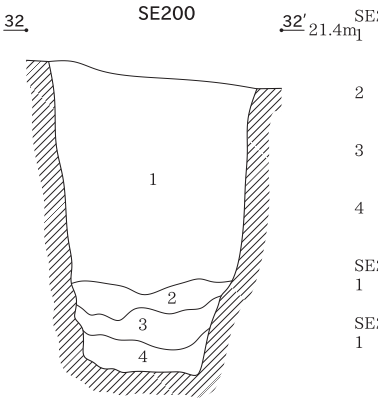


SB295-P1
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～6mmの明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～4mmの炭化物少量、φ40mm角の炭化物含む。　柱痕。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～12mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ1～2mmの炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性やや強、しまりやや弱。
　φ1～3mmの明黄褐色シルトブロック微量、φ1～3mmの炭化物微量、φ32mm角の炭化物含む。
4　黒色シルト　粘性中、しまり中。　炭化物なし。
5　黒褐色シルトブロック+明黄褐色シルトブロックの混合土　粘性中、しまり中。　炭化物なし。

SB295-P2
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　柱痕。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック多量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。



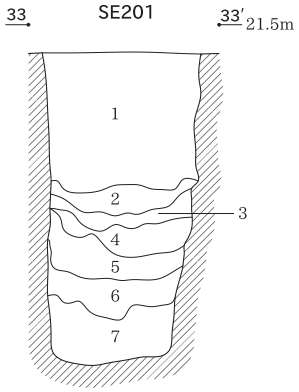
SE143
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～34mmの明黄褐色シルトブロック中量、
　φ1～23mmのにぶい黄橙色シルトブロック中量、
　φ1～16mmの炭化物中量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～21mmのにぶい黄橙色シルトブロック多量、
　φ1～5mmの炭化物微量含む。
3　黒褐色シルトブロック+
　にぶい黄橙色シルトブロックの混合土
　粘性やや強、しまりやや弱。
　炭化物なし。
4　黒褐色シルトブロック+
　にぶい黄橙色シルトブロックの混合土
　粘性やや強、しまりやや弱。
　φ1～13mmの炭化物少量含む。
5　黒色シルトブロック+
　明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性やや強、しまりやや弱。
　炭化物なし。
　明黄褐色シルトブロックの割合高い。
6　黒色シルトブロック+
　明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性やや強、しまりやや弱。
　炭化物なし。
　黒色シルトブロックの割合高い。
7　黒色シルトブロック+
　明黄褐色シルトブロックの混合土
　粘性やや強、しまり弱。
　φ1～32mmの炭化物少量含む。
　黒色シルトブロックの割合高い。
8　黒色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～20mmの炭化物少量含む。
9　黒色シルト　粘性強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック多量含む。
　炭化物なし。



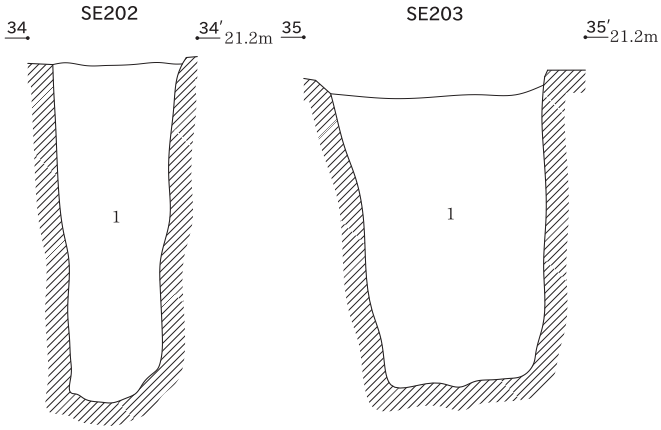
SE200
1　黒褐色シルト　粘性中、しまりやや強。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～11mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～5mmの炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性やや強、しまりやや弱。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～20mmの炭化物微量含む。
4　黒色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ1～12mmの炭化物微量含む。

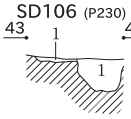
SE202
1　黒色シルト　粘性強、しまりやや弱。
　1層下部はしまり弱。　炭化物なし。

SE203
1　黒色シルト　粘性強、しまりやや弱。
　φ1～15mmの炭化物中量含む。
　1層下部はしまり弱。

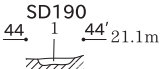


SE201
1　黒褐色シルト　粘性中、しまりやや強。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～9mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ3mm前後の炭化物微量含む。
3　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、
　φ1～10mmの炭化物微量含む。
4　黒褐色シルト　粘性中、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック極微量、
　φ2mm以下の炭化物微量含む。
5　黒色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック微量、
　φ2mm以下の炭化物微量含む。
6　黒色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック極微量、
　φ10mm前後の炭化物極微量含む。
7　黒色シルト　粘性やや強、しまり弱。
　明黄褐色シルトブロック極微量含む。
　炭化物なし。

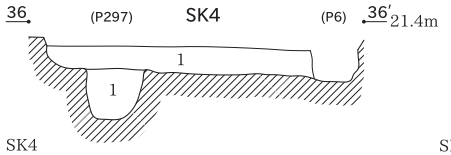




SD106
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1mm以下の炭化物極微量含む。

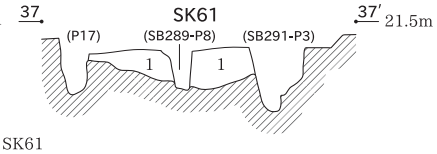


SD190
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～5mmの炭化物極微量含む。

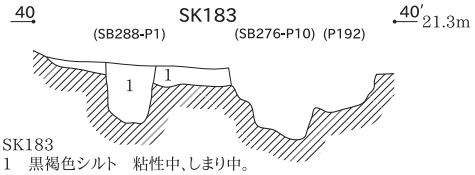


SK4
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック多量、φ1～5mmの炭化物微量、
　φ1～7mmの植物遺体微量含む。

P297
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量含む。

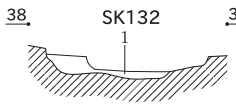


SK61
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～4mmの炭化物少量含む。

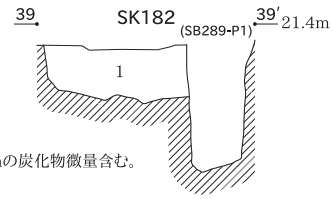


SK183
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～12mmの炭化物少量含む。

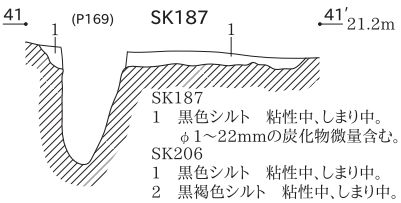
SB288-P1
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～3mmの炭化物極微量含む。



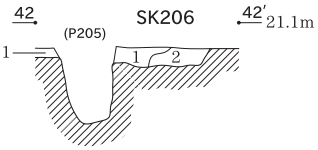
SK132
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック少量、φ1～7mmの炭化物微量含む。



SK182
1　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。
　明黄褐色シルトブロック微量、φ1～5mmの炭化物微量含む。



SK187
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。
　φ1～22mmの炭化物微量含む。

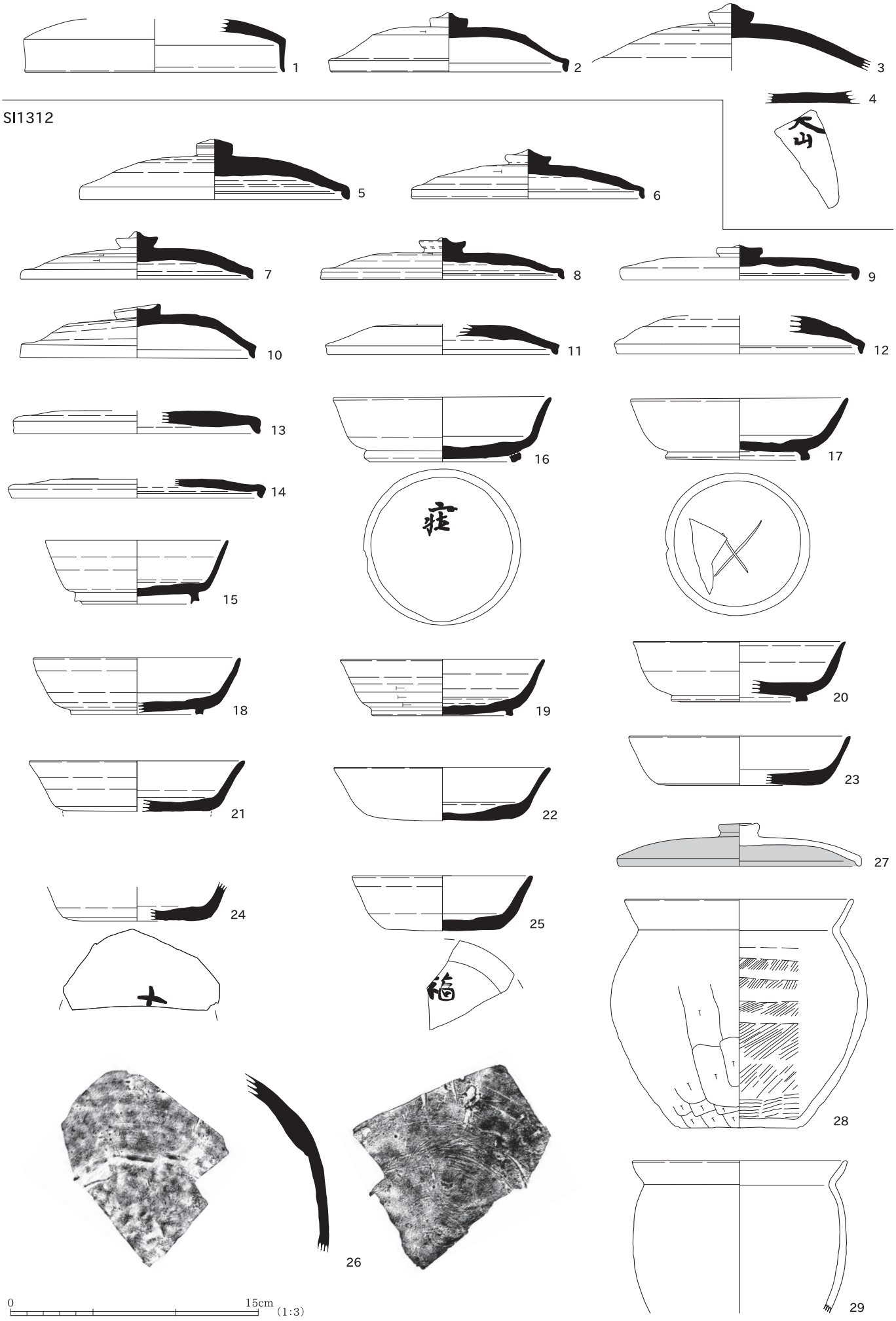


SK206
1　黒色シルト　粘性中、しまり中。　φ1～22mmの炭化物微量含む。
2　黒褐色シルト　粘性中、しまり中。　明黄褐色シルトブロック微量含む。

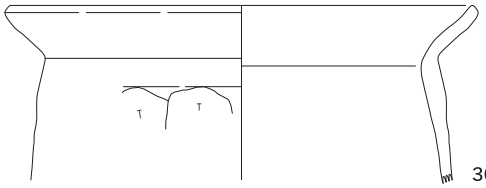
0　セクション図（1:40）　2m

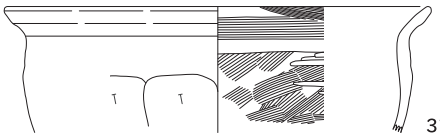
0　エレベーション図（1:60）　3m

SI1311

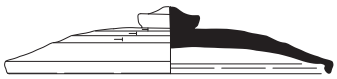

1
2
3
4
SI1312
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
15cm
(1:3)

SI1312

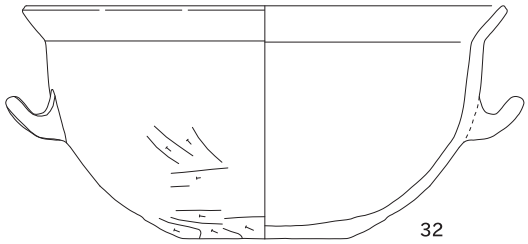

30

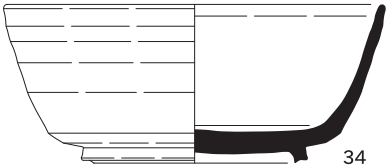

31

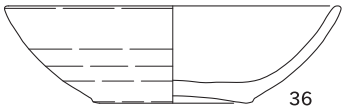
SI1344

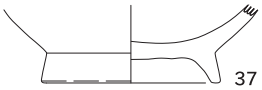

33

35

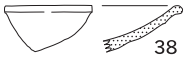

32


34


36


37

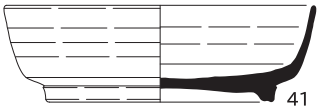
SB1512


38

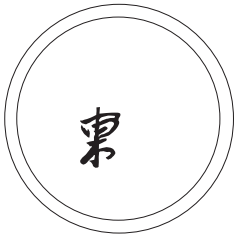
SB1519

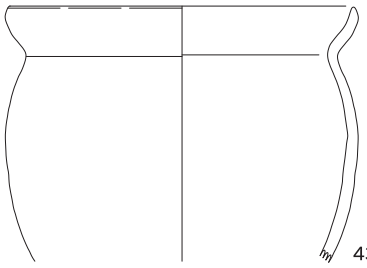
39

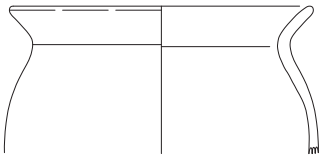
40

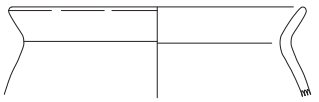

41

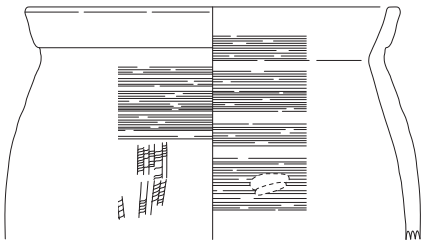
42



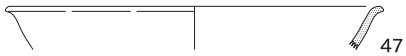

43


44

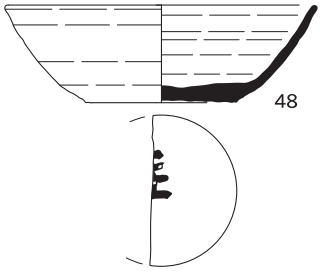

45


46

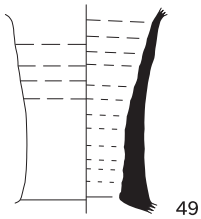
SB1526


47

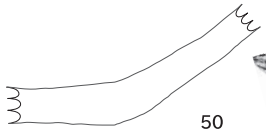
SB1528


48

SA1532

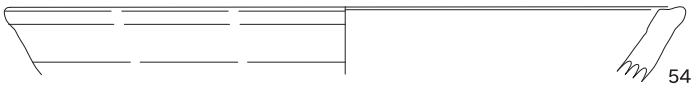

49

SE143


50

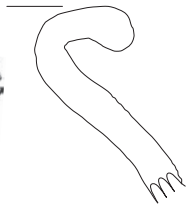
SE488

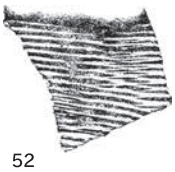
53


54

SE203

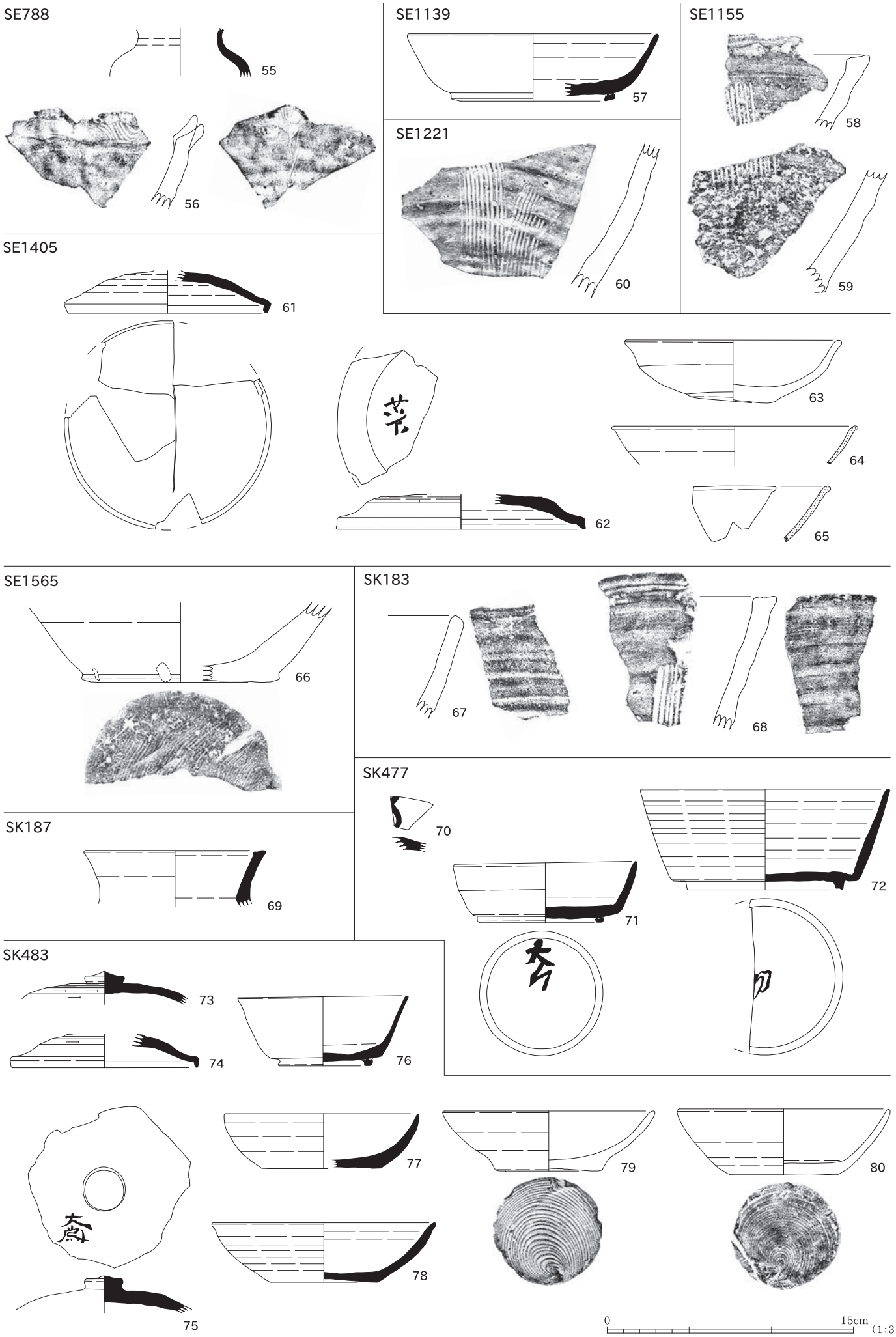
51


52



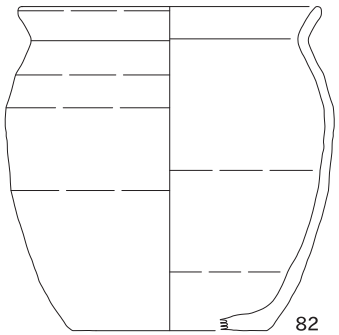
0　(33～41・43～45・47～49・51～54)　15cm　(1:3)

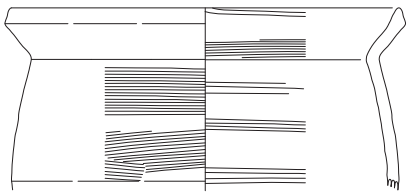
0　(30～32・42・46・50)　20cm　(1:4)


SE788
55
56
SE1139
57
SE1221
60
SE1155
58
59
SE1405
61
62
63
64
65
SE1565
66
SK183
67
68
SK187
69
SK477
70
71
72
SK483
73
74
76
77
78
79
80
75
0
15cm
(1:3)

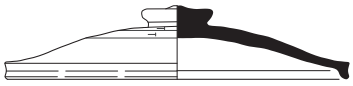
SK483

81

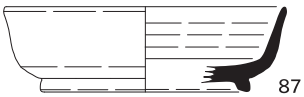

82


83

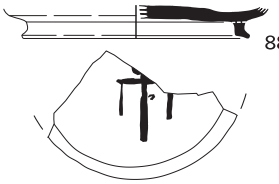
SK1087

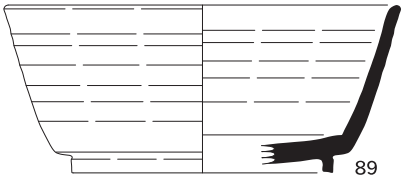

84

85


87

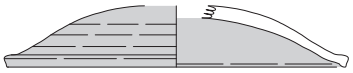
86

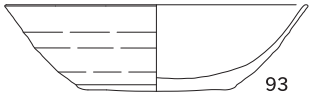

88


89

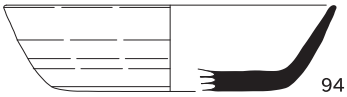
90

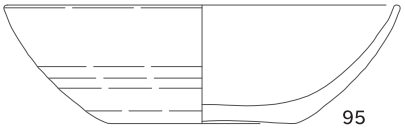
91

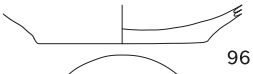

92

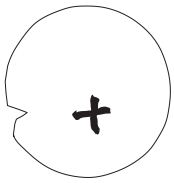

93

SK1345

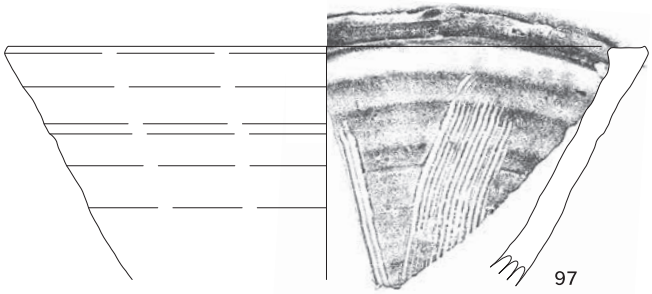

94


95

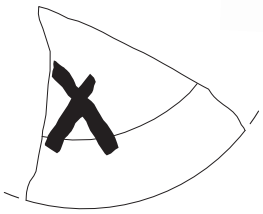

96



P198

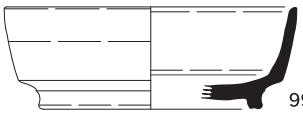

97

P470

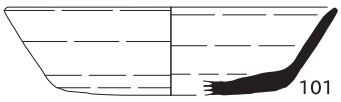


100

98


99

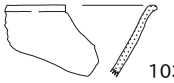
P474


101

P744

102

P745


103

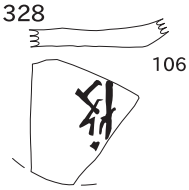
P1200

104

P1291

105

P1328

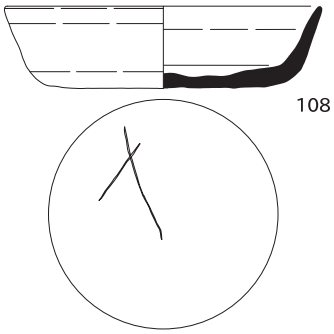

106

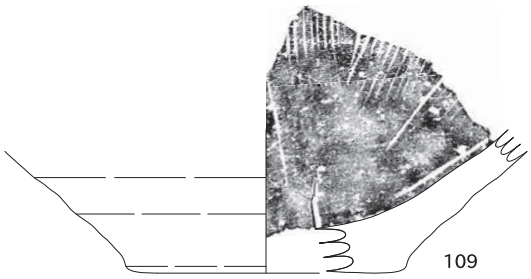
P1365

107

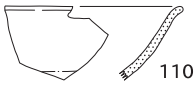
0　(82・84～107)　15cm　(1:3)　　0　(81・83)　20cm　(1:4)

P1441


108

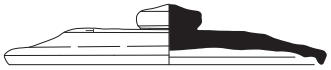

109

P1564

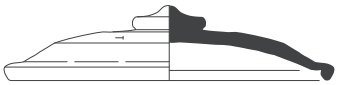

110

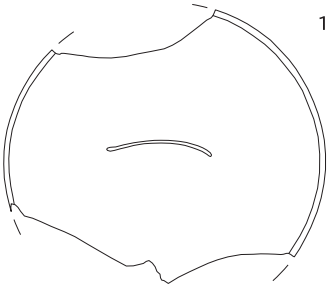
112

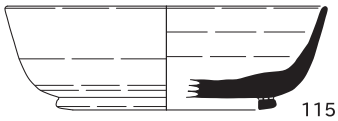
遺構外

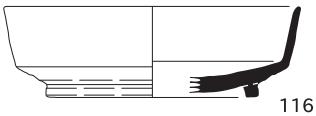

111

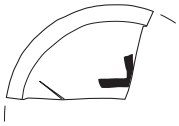
113

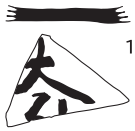

114

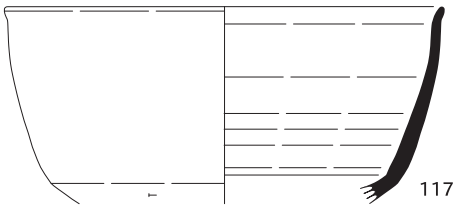



115


116

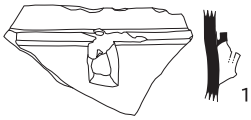


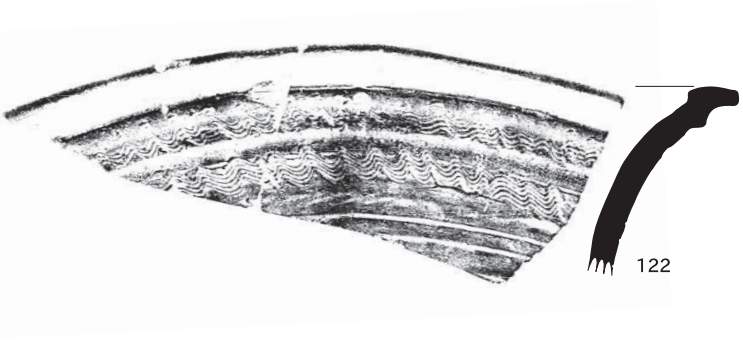

119

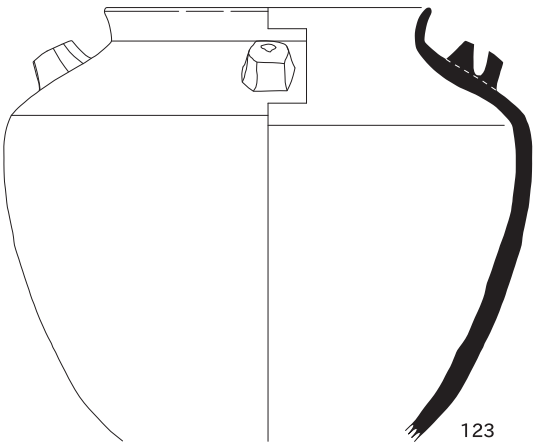

117

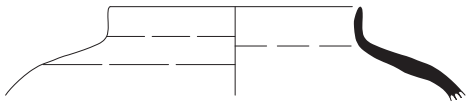
118

120

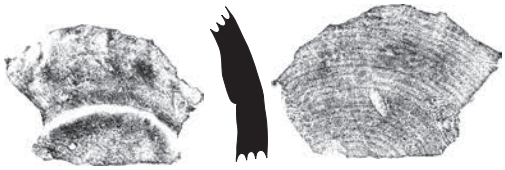

121


122


123


124

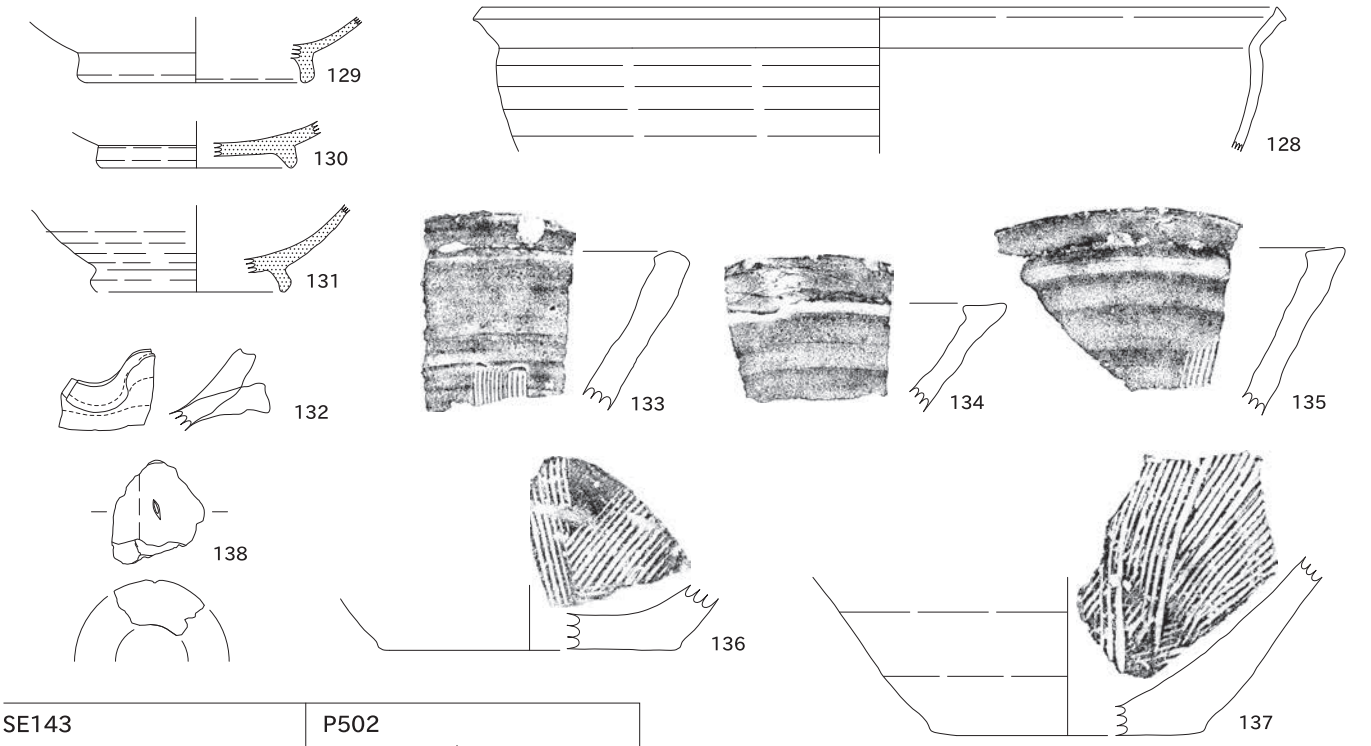
126


125

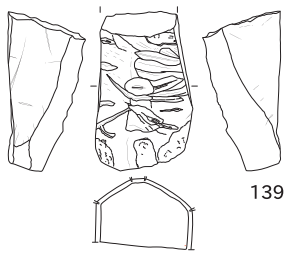
127

0　15cm（1:3）

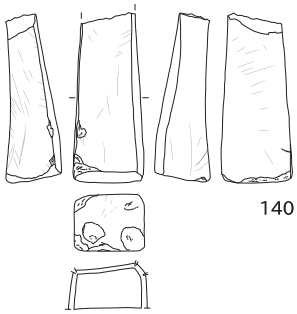
遺構外



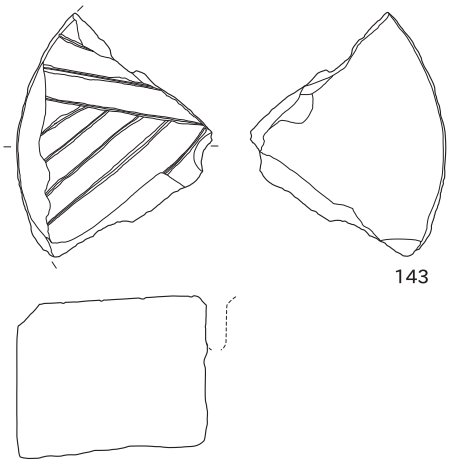
SE143



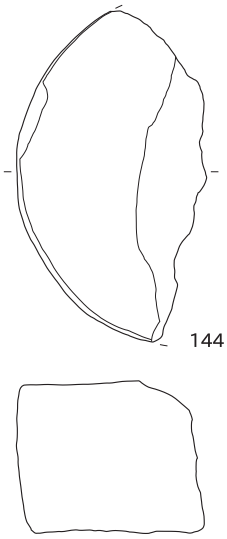
P502



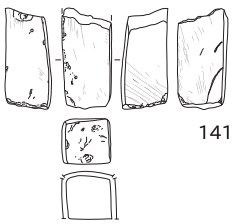
SE788



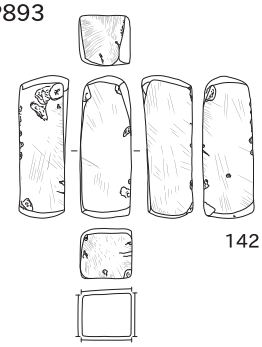
P623



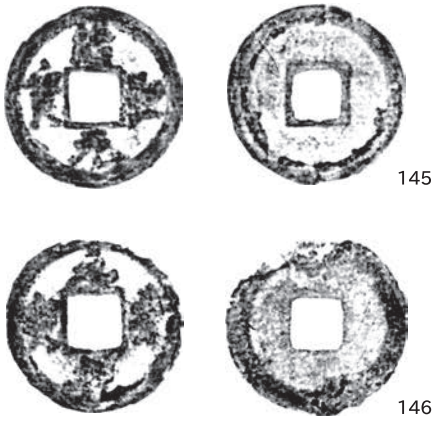
P591



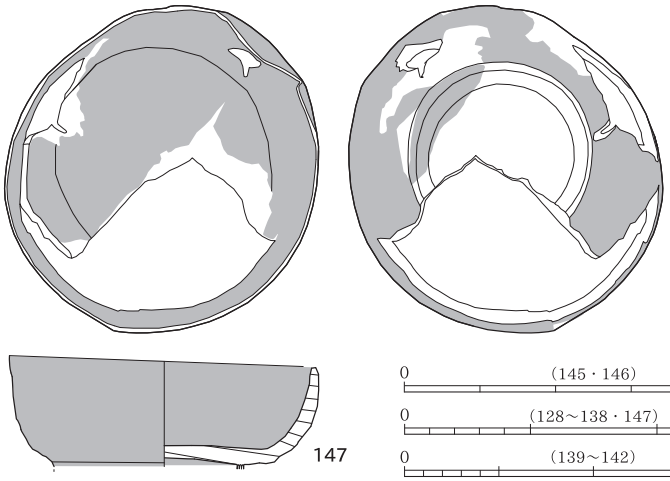
P893

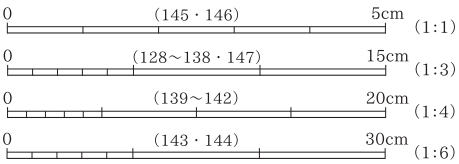


P1591

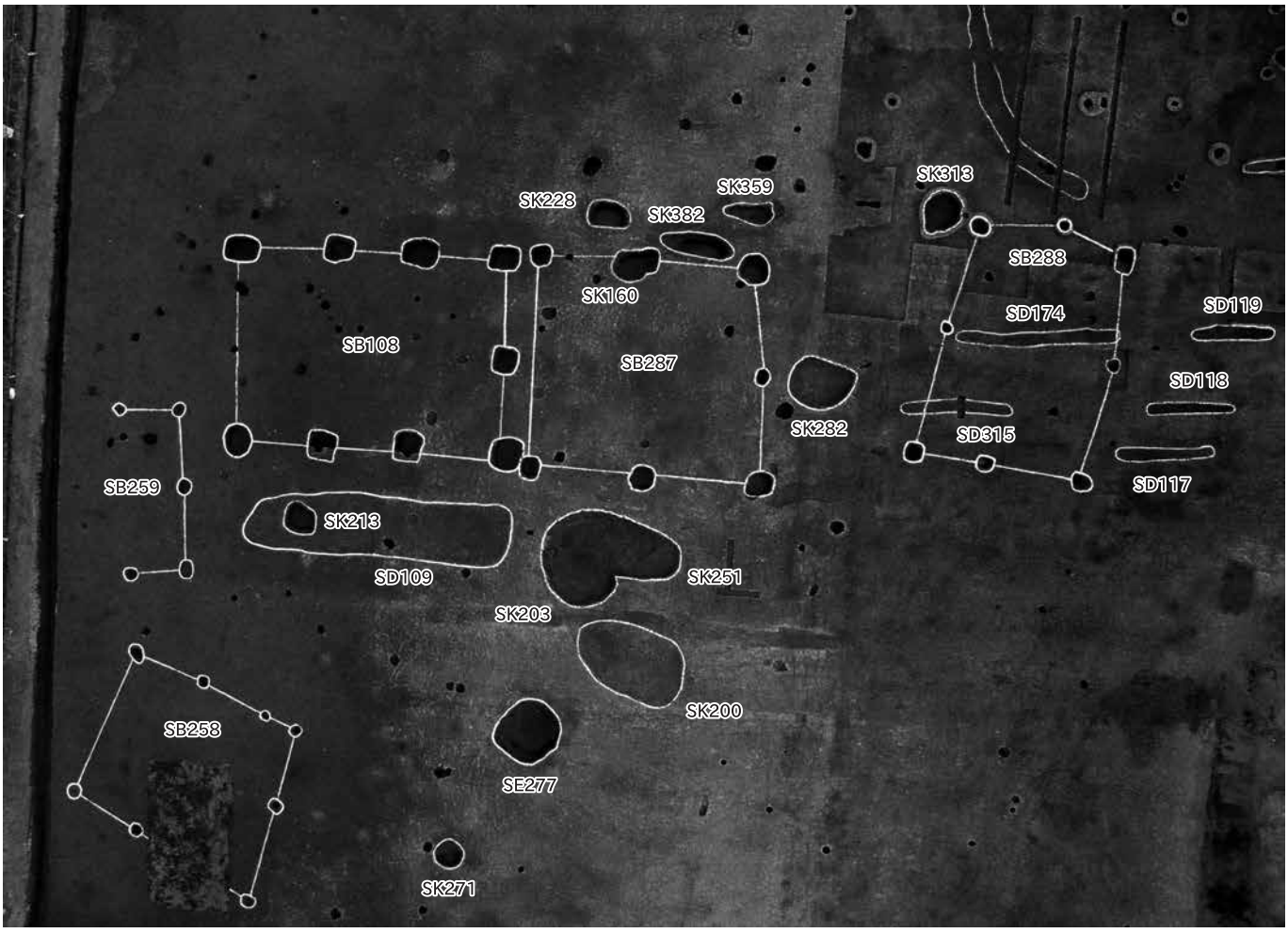


SE143

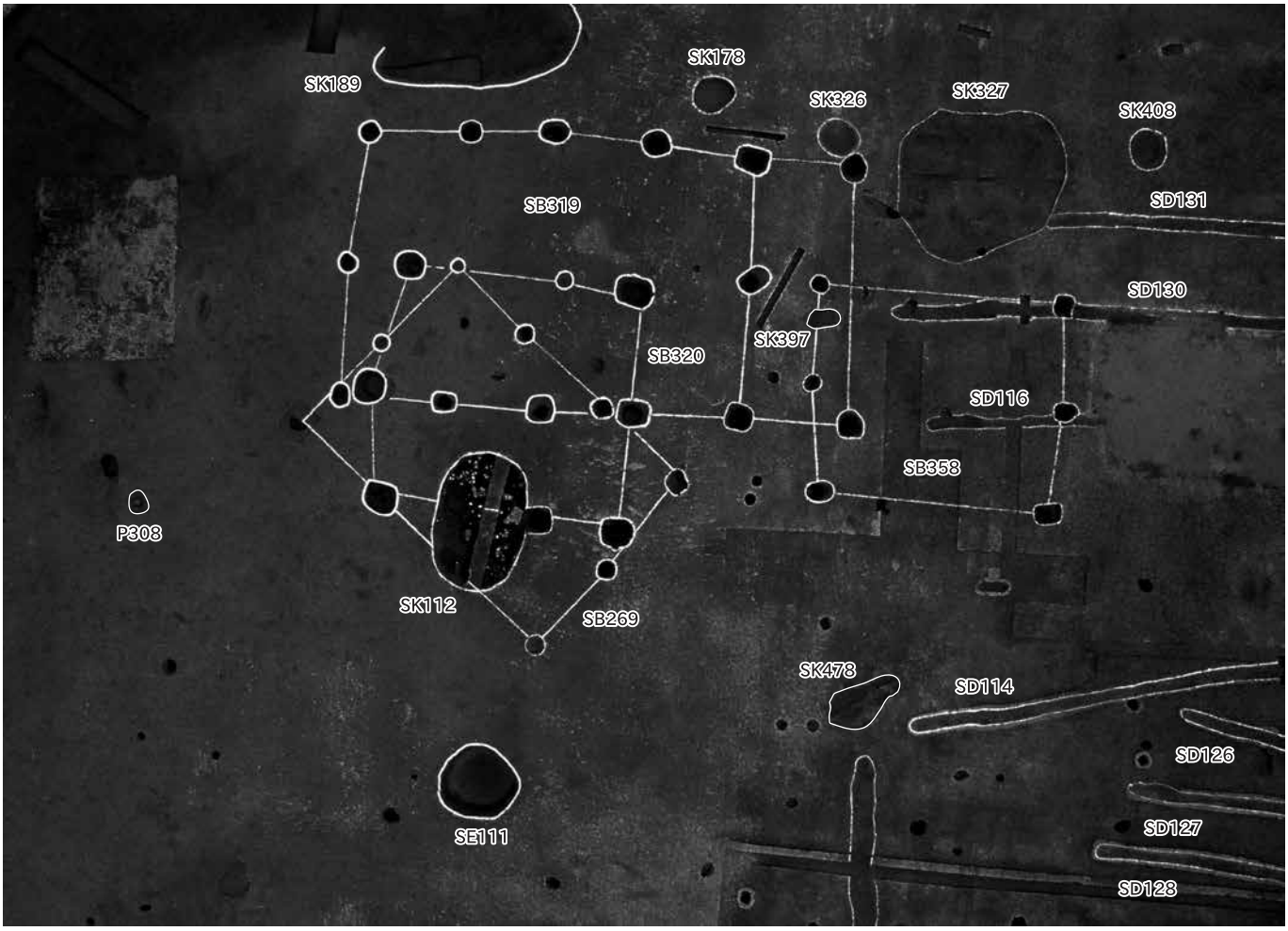




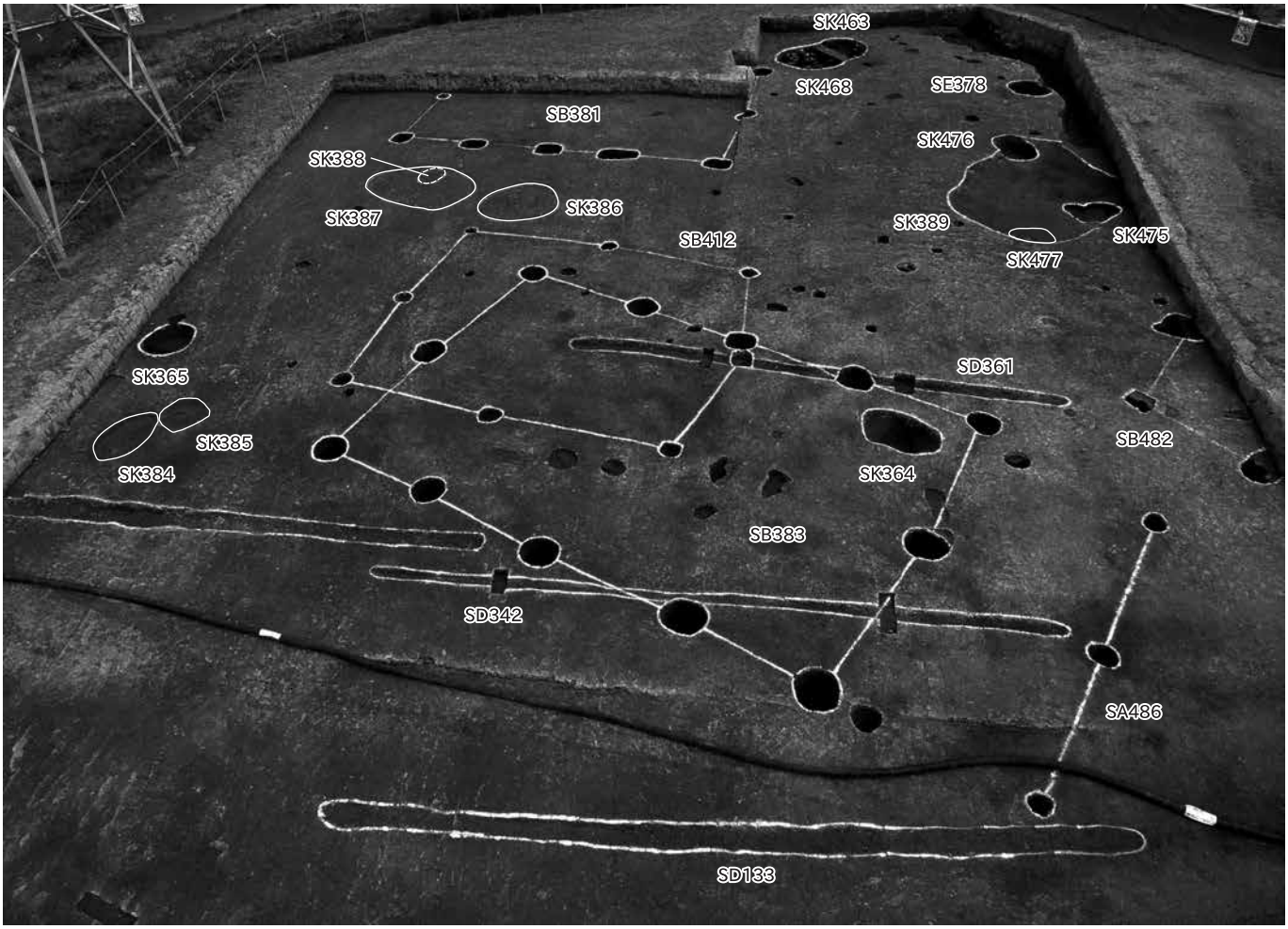
北前田遺跡Ⅱ　調査区全景（東から）



3P・4O～Q・5N～Qグリッド　全景（南から）



3M～O・4M～Oグリッド　全景（南から）

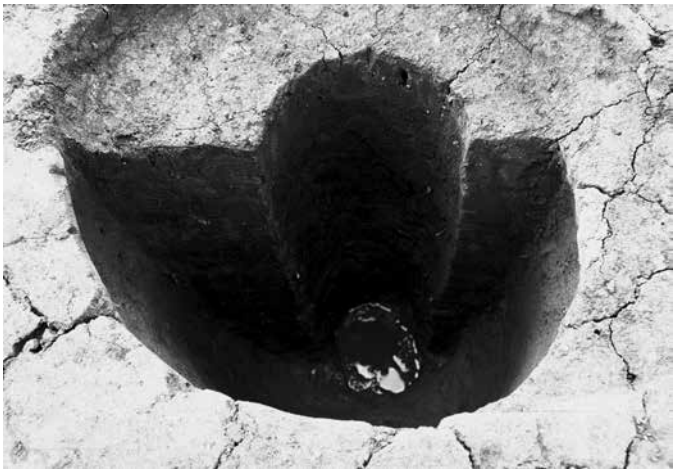


2～4K・Lグリッド　全景（南から）

4O16　基本層序（南から）

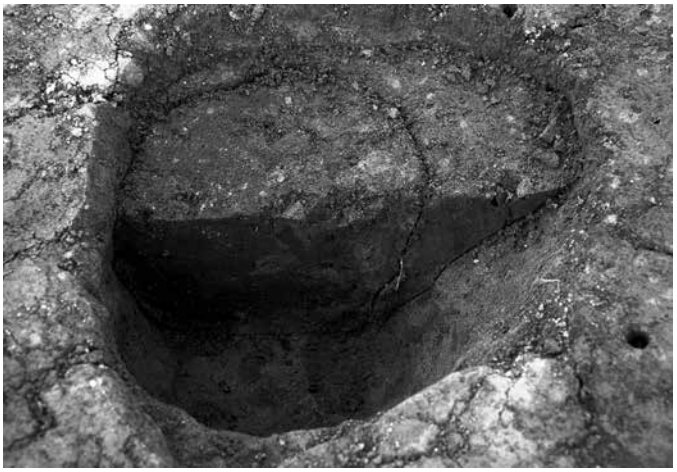
6N6　基本層序（南から）

SB381-P5　土層断面（西から）



SB383-P6　土層断面（南から）

SB482-P3　土層断面（西から）



SB412-P2　土層断面（南から）

SB269-P1　土層断面（北東から）

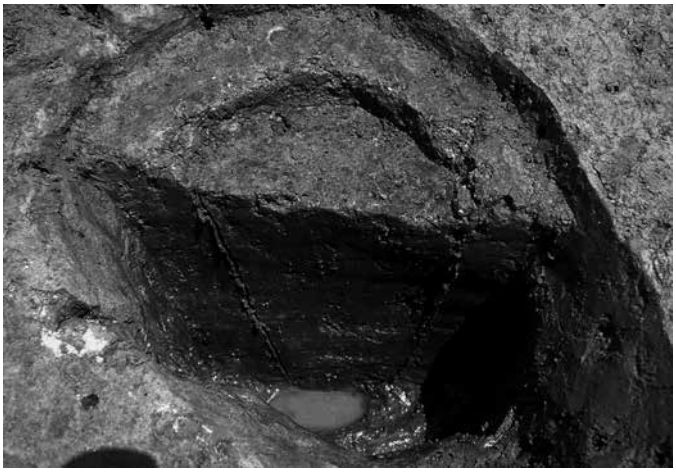
SB307-P4　土層断面（北東から）

SB319-P5　土層断面（南から）

SB320-P5　土層断面（南から）

SB358-P1　土層断面（西から）

SB108-P1　土層断面（北から）

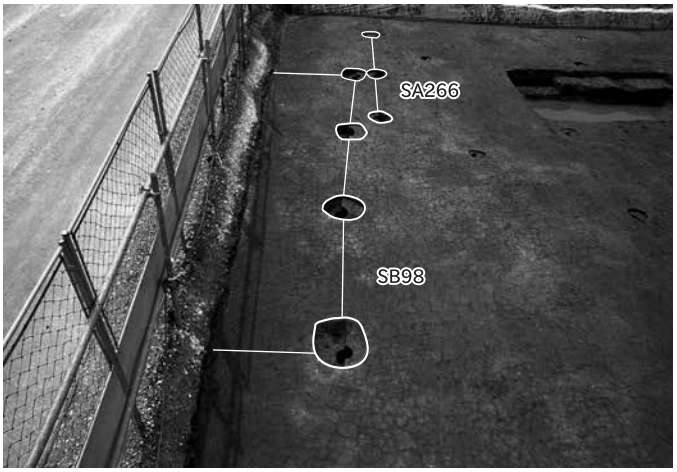


SB258-P1　土層断面（南から）

SB259-P5　土層断面（南から）

SB287-P3　土層断面（南から）

SB288-P1　土層断面（東から）



SB98・SA266　完掘（東から）

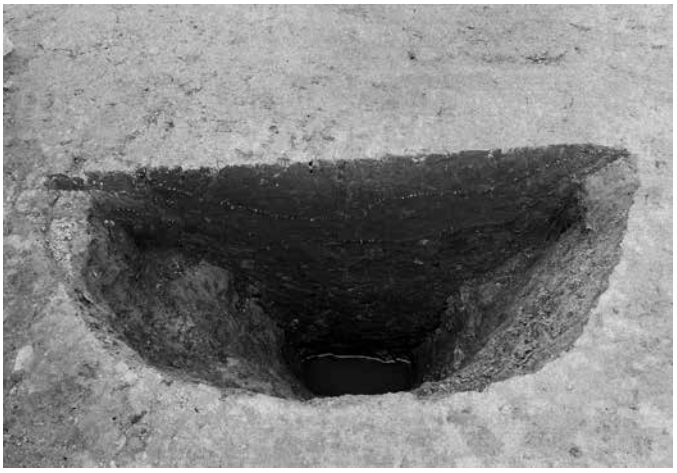
SB98-P2　土層断面（南から）

SB99-P4　土層断面（南から）

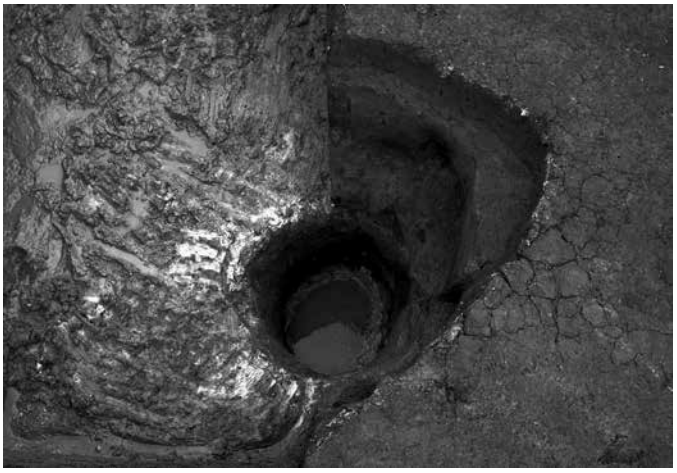
SB100-P1　土層断面（南から）

SE378　土層断面（南から）

SE474　土層断面（北から）

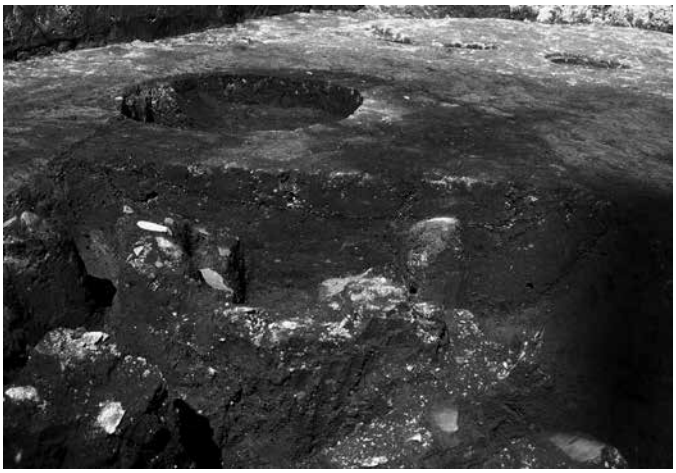


SE111　土葬断面（南から）



SE277　完掘（北から）

SK463　土層断面（西から）



SK468　土層断面（南西から）

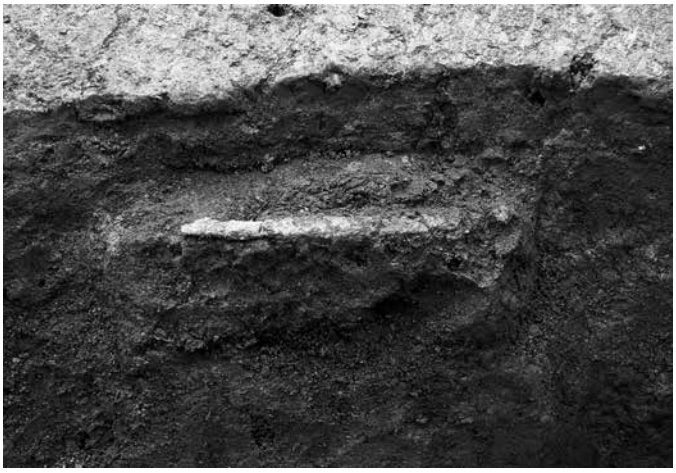
SK476　土層断面（南から）

SK475　土層断面（北から）

SK389　土層断面（西から）

SK491　土層断面（東から）

SK364　土層断面（南から）



SK365　刀子出土状況（北から）

SK369　土層断面（北東から）

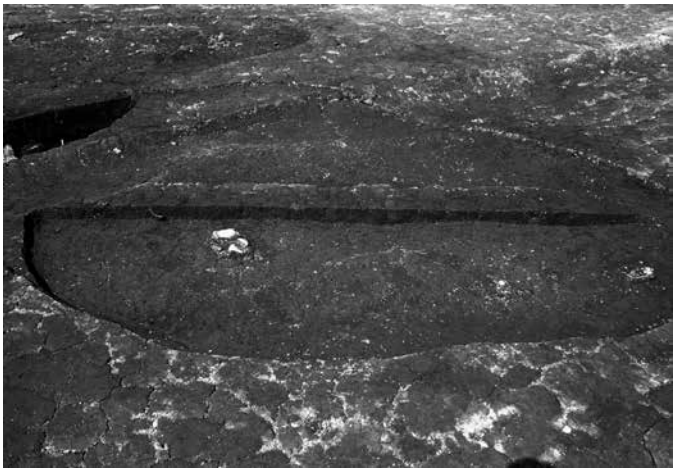
SK189　土層断面（南から）

SK327　土層断面（北から）

SK207　土層断面（西から）

SK228　土層断面（南から）

SK112　土層断面（西から）



SK200　土層断面（南西から）

SK313　土層断面（南から）

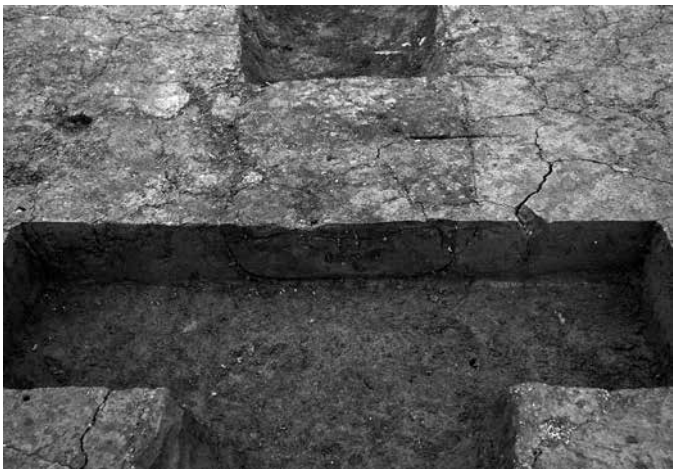
SK251・SK203　土層断面（北から）

SK160　土層断面（南から）

SK213　土層断面（北から）

P308　墨書土器出土状況（南から）

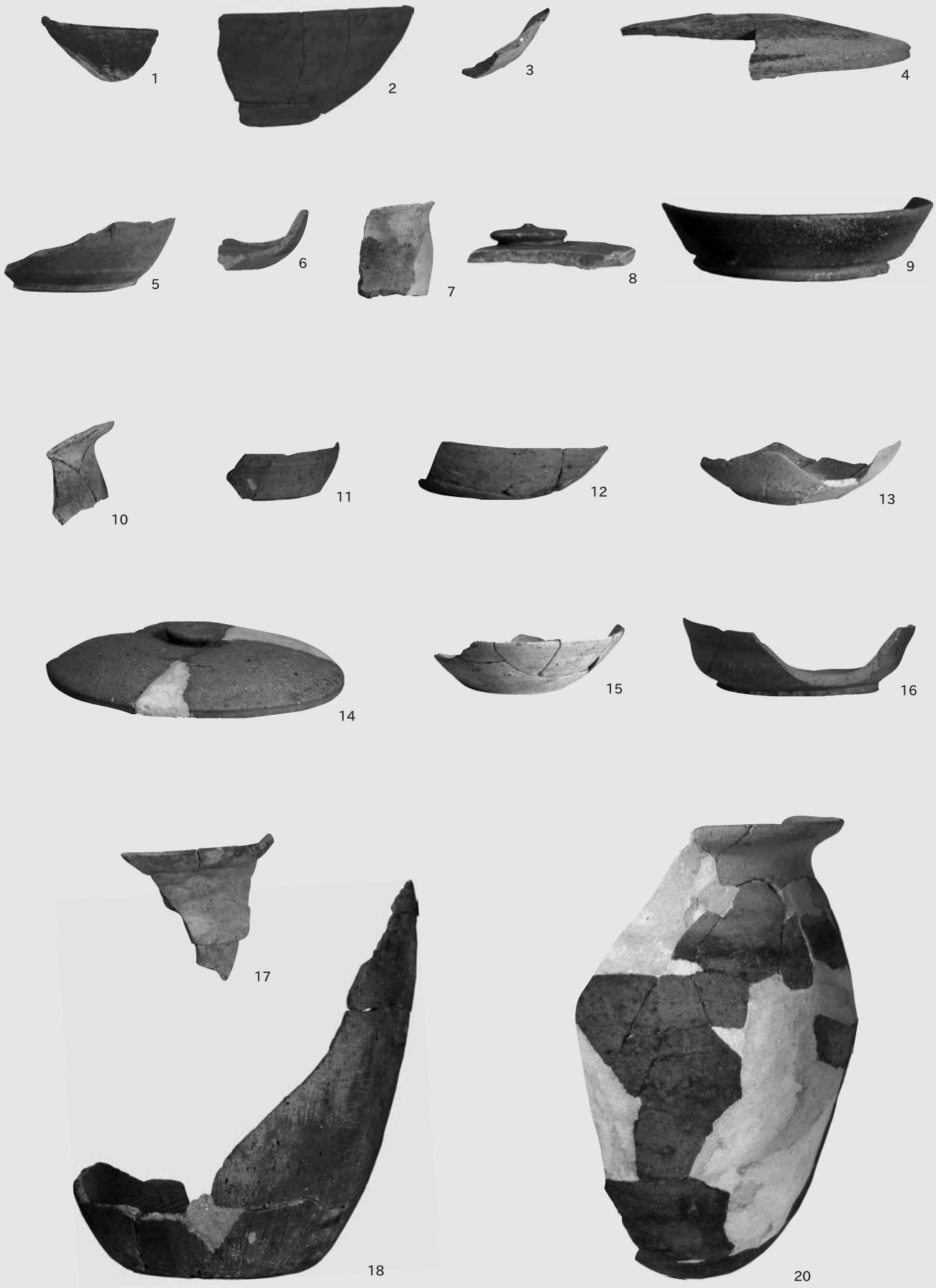
SD115　土層断面（西から）



SD116　土層断面（東から）

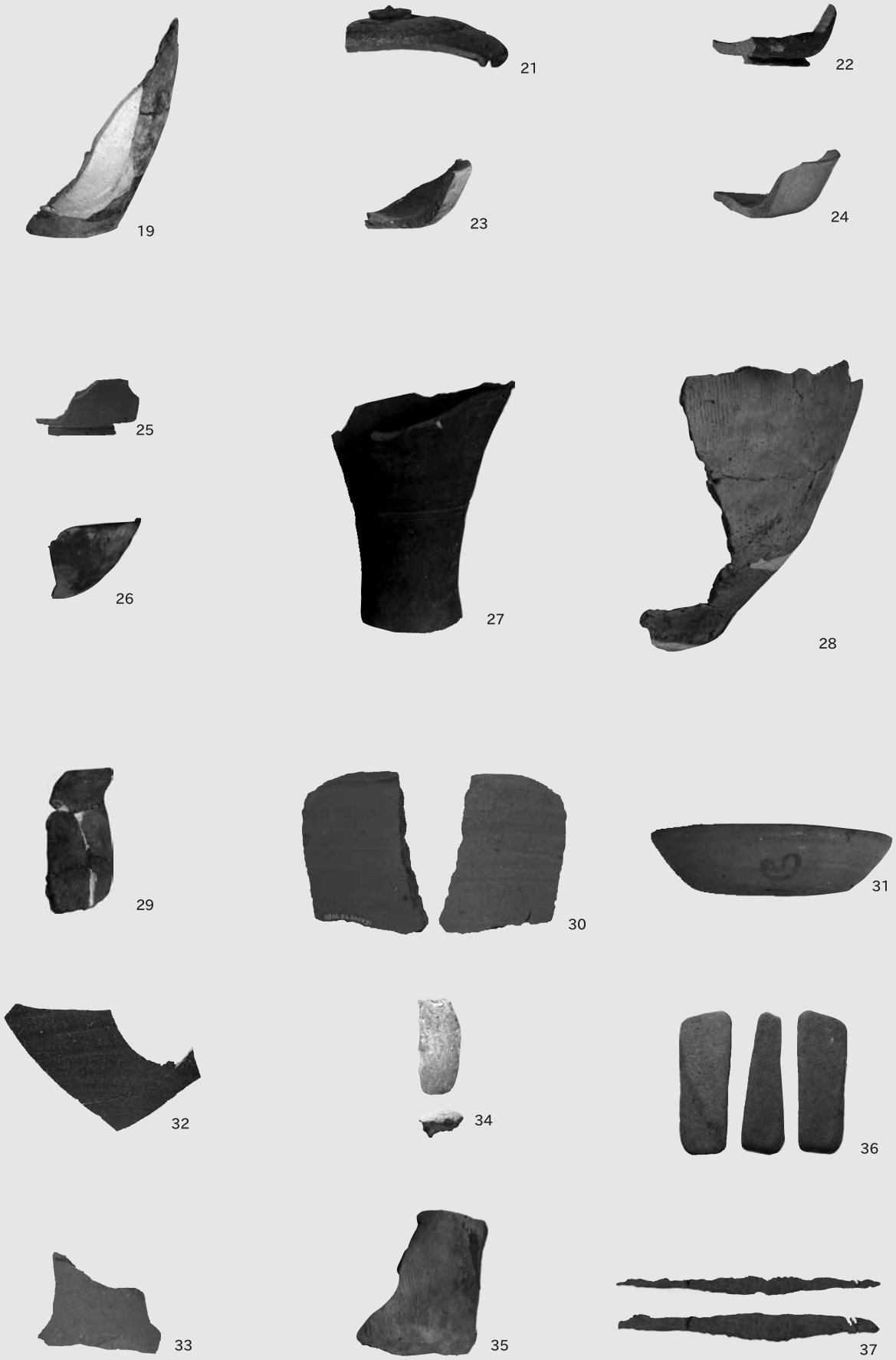
SD119　土層断面（東から）

SD109　土層断面（西から）



SE277(1)・SE341(2)・SE474(3)・SK112(4 ～ 7)・SK189(8 ～ 10)・SK200(11～ 13)・SK203(14)・SK207(15)・SK251(16～ 18・20)

S=1/3 (1 ～ 6・8・9・11～ 16)　S=1/4 (7・10・17・18・20)



SK251(19)・SK327(21 ～ 24)・SK389(25・26)・SK468(27 ・ 28)・SD109(29)・SD114(30)・P308(31)・Ⅱ層(32・33)
土製品・石製品・金属製品(34 ～ 37)
S=1/3 (21 ～ 34・36・37)　S=1/4 (19・29・35)

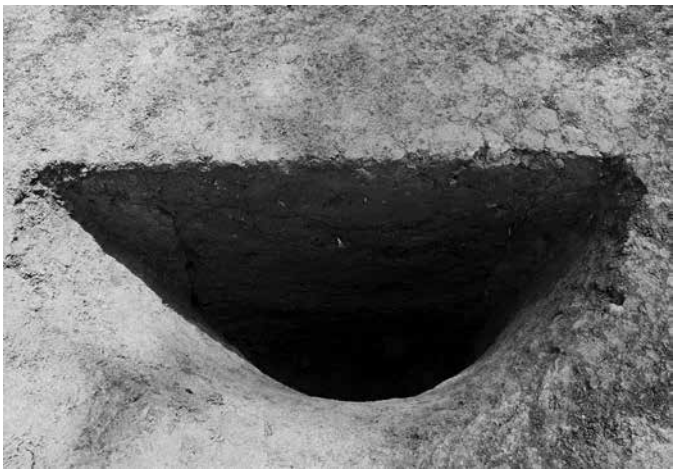
野畔遺跡 調査区全景（北から）

基本層序（東から）

SB34-P2　土層断面（西から）

SB34-P3　土層断面（東から）

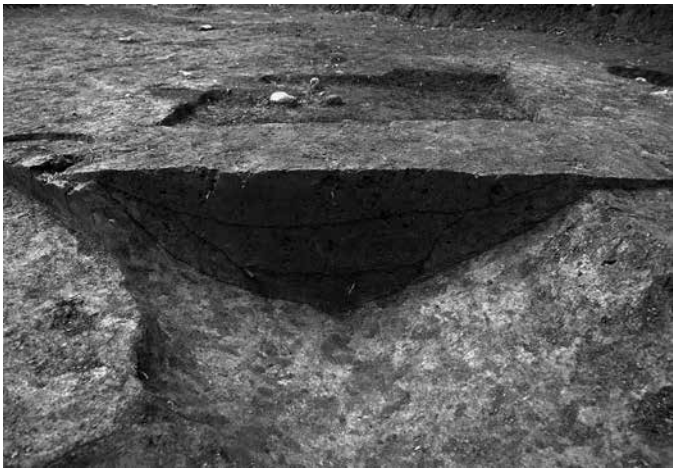
SB46-P3　土層断面（西から）



SE10　土層断面（西から）

SK11　土層断面（西から）

SK14・P13　土層断面（南から）



SD1　土層断面（北西から）

SX41　完掘（西から）

SX43・P42　土層断面

SD1（1～5）・石製品（6）　S=1/3（1～5）　S=1/4（6）

諏訪前遺跡　調査区全景（東から）

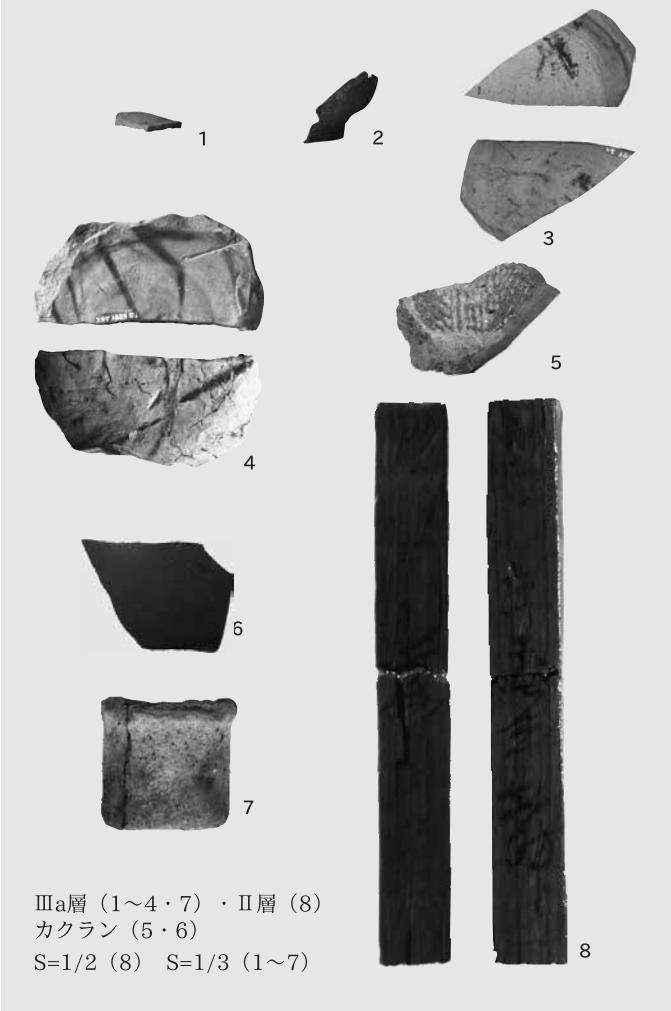
南壁基本層序（北から）

SK5 土層断面（南から）

SK5　完掘（北から）

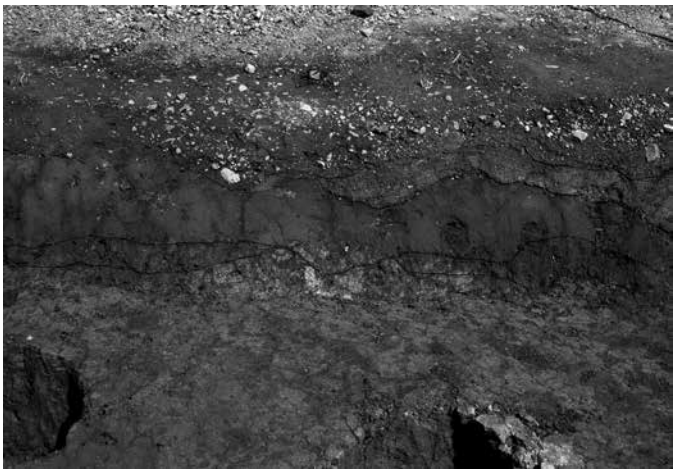
SK11　土層断面（南から）

SK11　完掘（東から）



Ⅲa層（1～4・7）・Ⅱ層（8）
カクラン（5・6）
S=1/2（8）　S=1/3（1～7）

北新田遺跡Ⅱ　調査区全景（南西から）

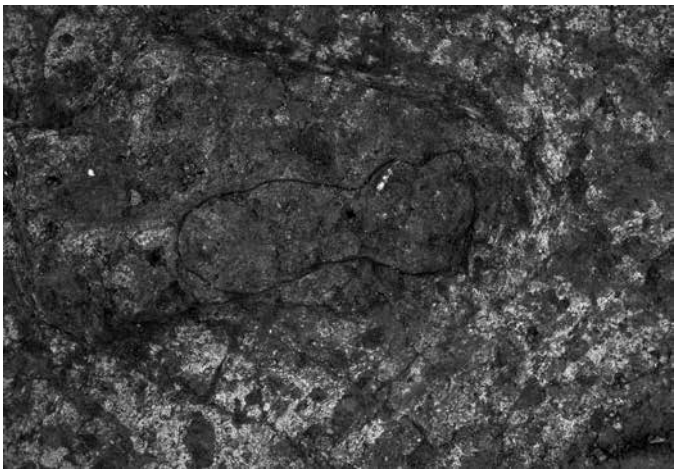


32G4・9　基本層序（西から）

SI203　土層断面（南東から）

SI203　完掘（南西から）

SI203　カマド周辺遺物出土状況（西から）



SI203　カマド検出状況（北から）

SI203　炉土層断面（南東から）

SI203　周溝土層断面（西から）

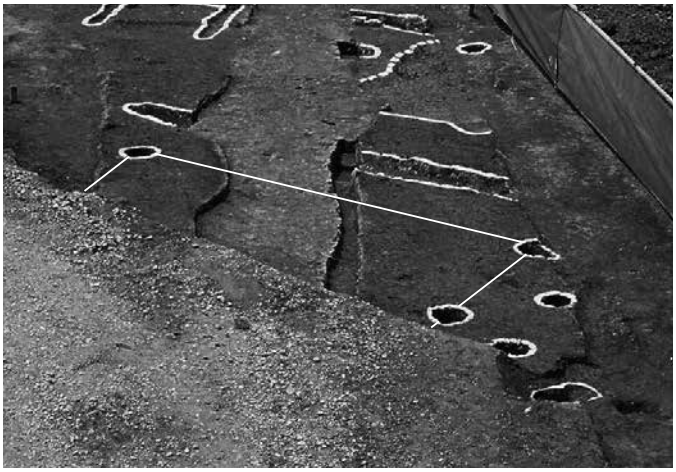
SI203-P1　土層断面（西から）

SI1660　土層断面（北西から）

SI1660　完掘（南西から）

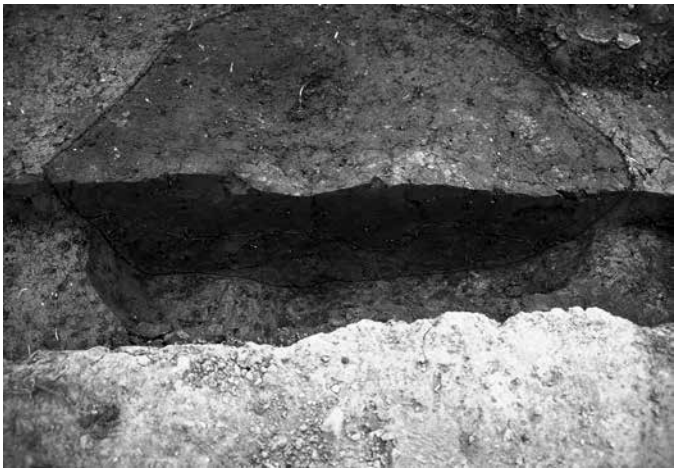
SI1660　周溝検出状況（南東から）

SI1660-P1　土層断面（南から）

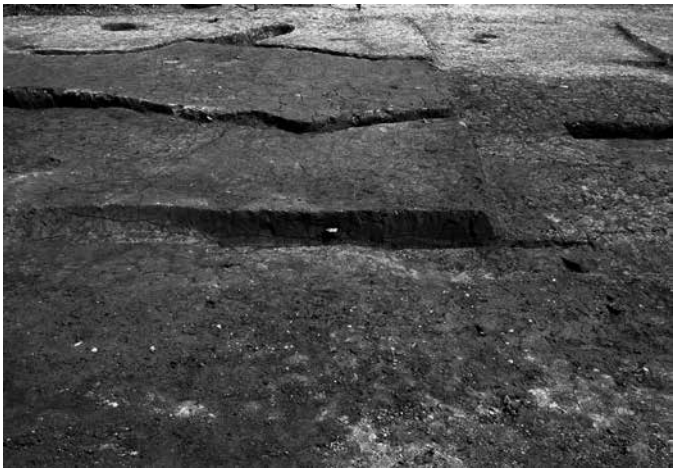


SB1605　完掘（北東から）

SB1605-P1　土層断面（南から）



SK1645　土層断面（南東から）



SI847　土層断面（北から）

SI203(1 ～ 5)・SI1660(6)・SI847(7)・Ⅱ層(8)　　S=1/3 (1・6 ～ 8)　S=1/4 (2 ～ 5)

中田原遺跡Ⅱ　調査区全景（南東から）

3C5　基本層序（南東から）

4A17　基本層序（南西から）

TP14　土層断面（南西から）

TP14　完掘（南東から）

TP20　土層断面（南西から）

TP20　完掘（南西から）

TP23　土層断面（北東から）

TP23　完掘（東から）

TP24　土層断面（北西から）

TP24　完掘（東から）

TP26　土層断面（西から）

TP26 完掘（西から）

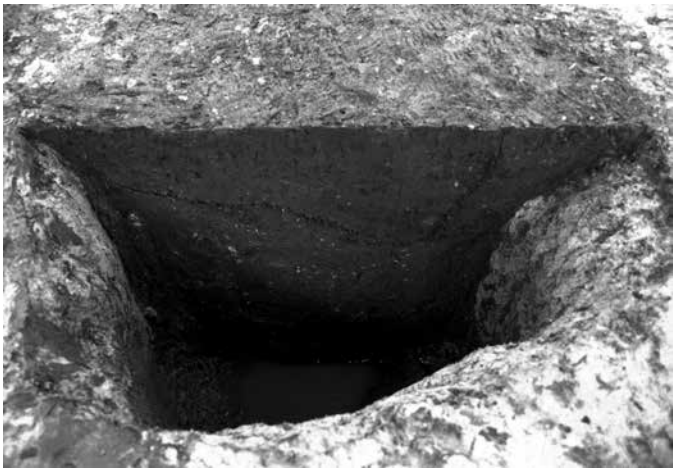
TP18　完掘（西から）

TP37　土層断面（西から）

TP37　完掘（東から）

TP41　土層断面（南東から）

TP41　完掘（南東から）

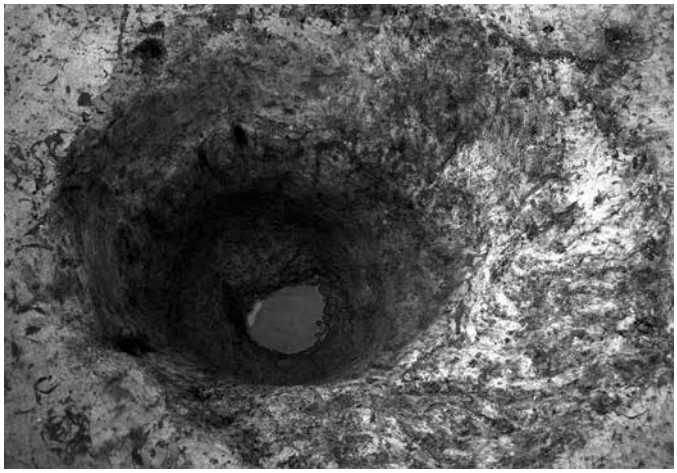


SE13　土層断面（南から）

SE13　曲物出土状況（南西から）

SE13　完掘（南から）

SE15　遺物出土（南から）



SE15　完掘（南から）

SK32　土層断面（東から）

SK38　土層断面（南西から）

SK42　土層断面（南西から）

SK44　土層断面（西から）

SX12　土層断面（南西から）

SX31　土層断面（北から）

SX39　木製品出土状況１回目（西から）

SX39　木製費出土状況２回目（西から）

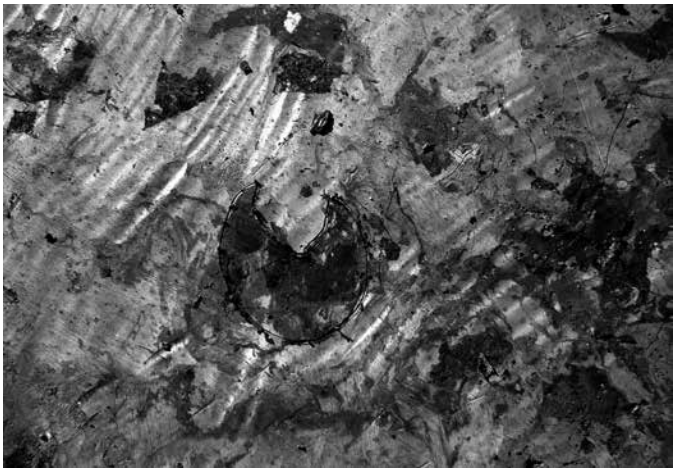
SX39　弓出土状況（北西から）

SX39　完掘（北東から）

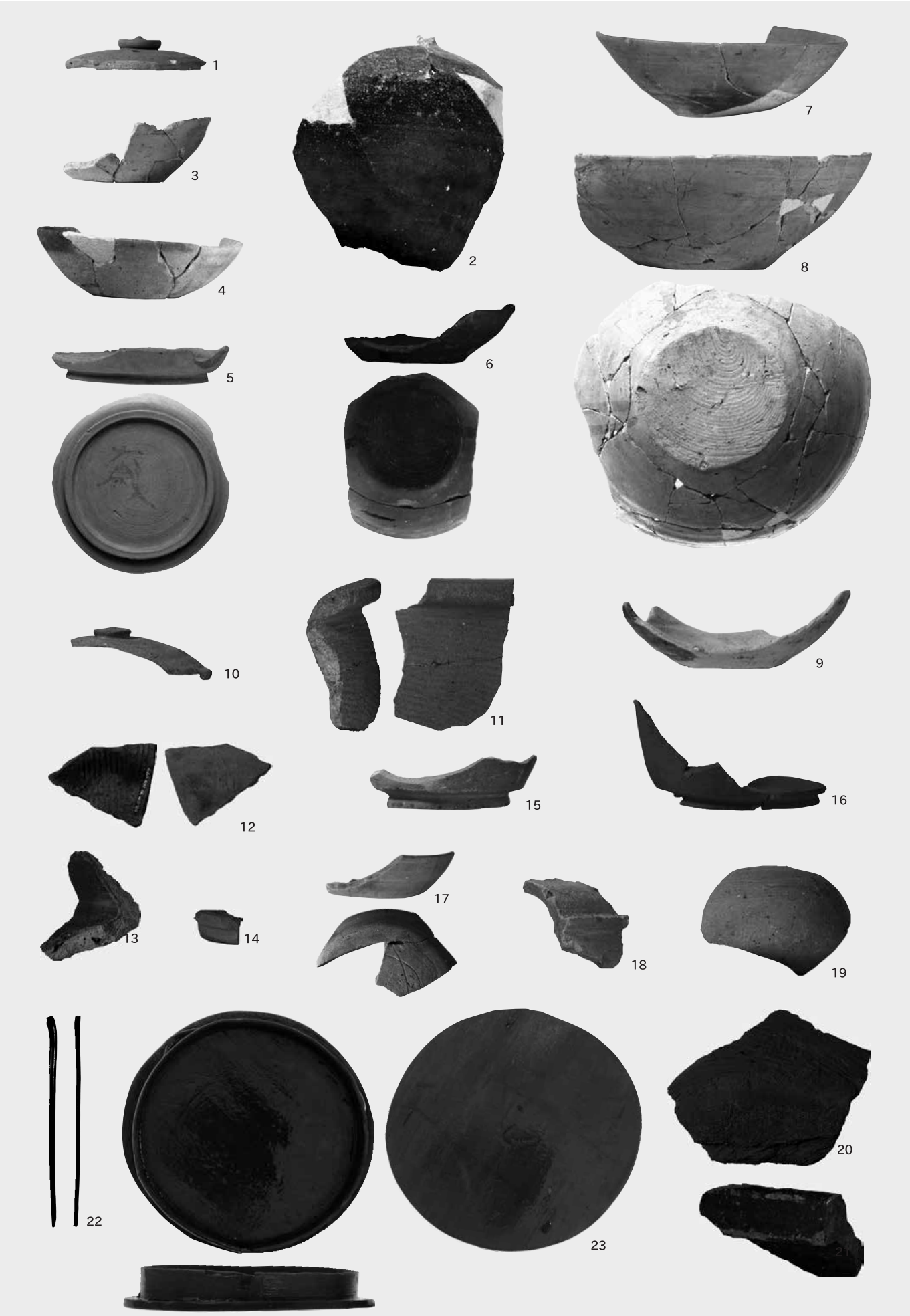
SX40　全景（南から）

SX40　全景（西から）

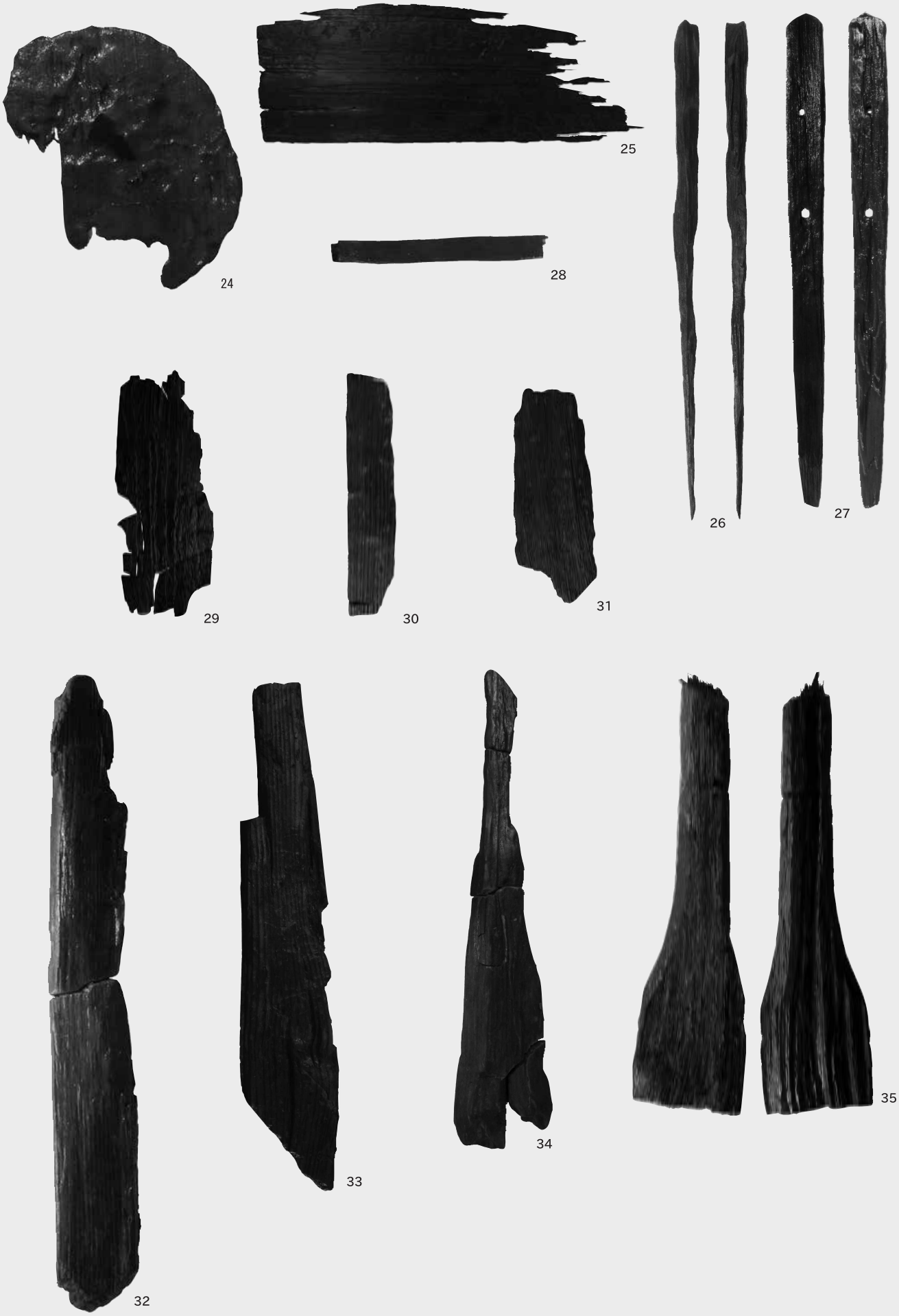
足跡１



足跡２

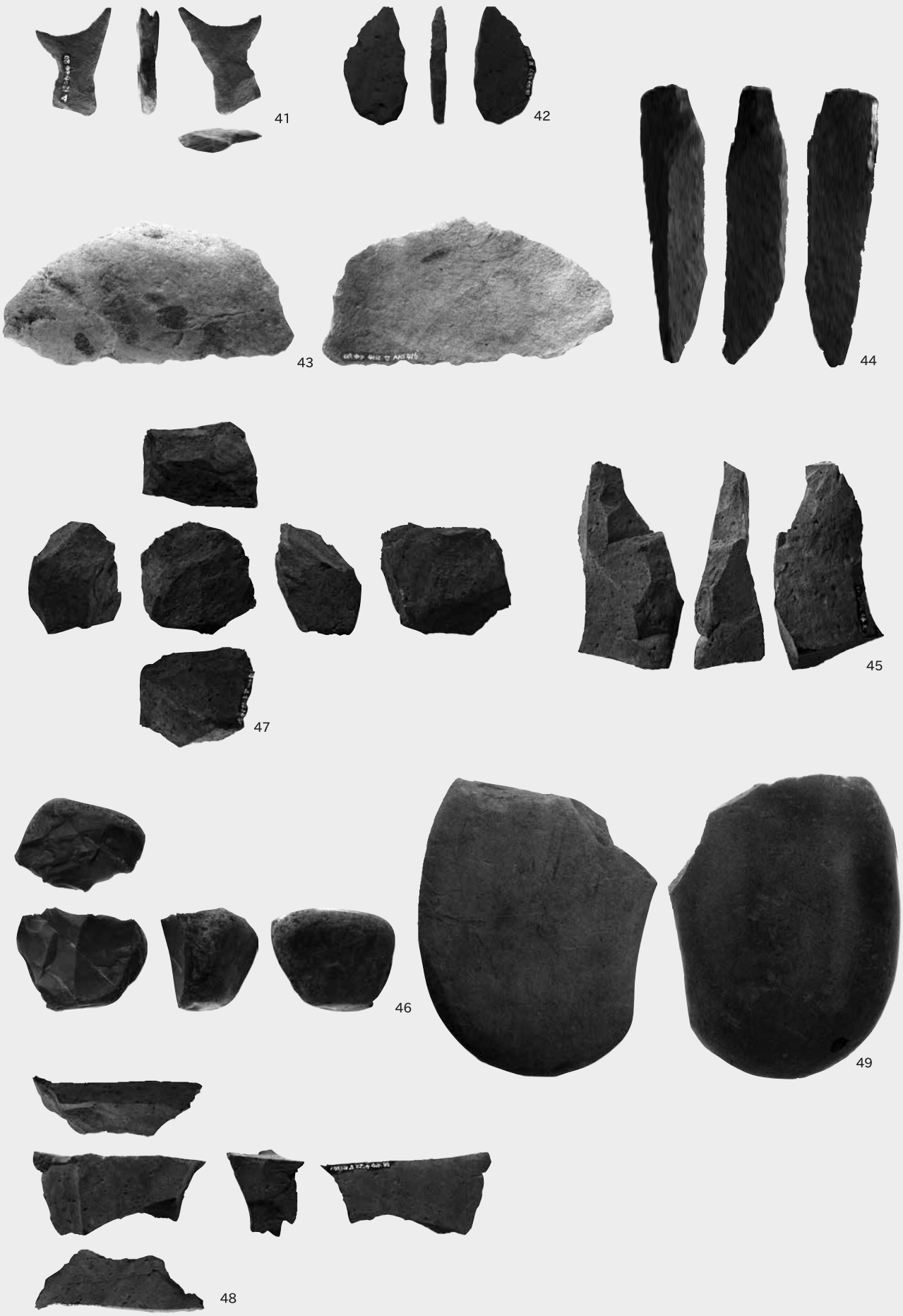


SE13（1～4・22・23）・SE15（5～9）・SK38（10）・P28（11）・Ⅳ層（12～14）・Ⅴ層（15～21）
S=1/3（1～22）S=1/6（23）



SE15(24～ 27)・SX31(28)・SX39(29～ 35)　S=1/4 (26・27)　S=1/6 (35)　S=1/8 (24・25・28 ～ 34)

SX39(36～ 40)　S=1/8 (36・40)　S=1/10 (37～ 39)

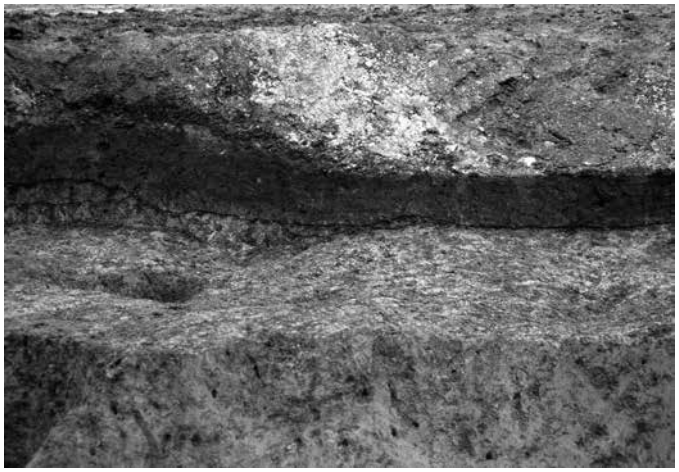


石器・石製品(41 ～ 49)　S=1/2 (41 ～ 48)　S=1/4 (49)

岩ノ原遺跡Ⅱ　調査区遠景（南東から）

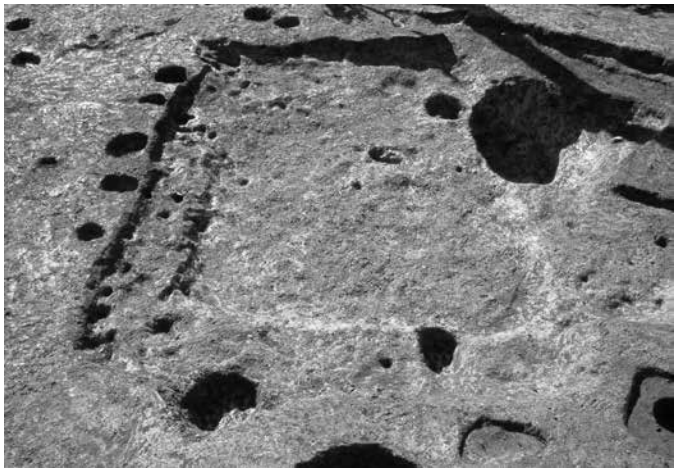
岩ノ原遺跡Ⅱ　調査区全景（北東から）

13～15A・Bグリッド　掘立柱建物群（北東から）

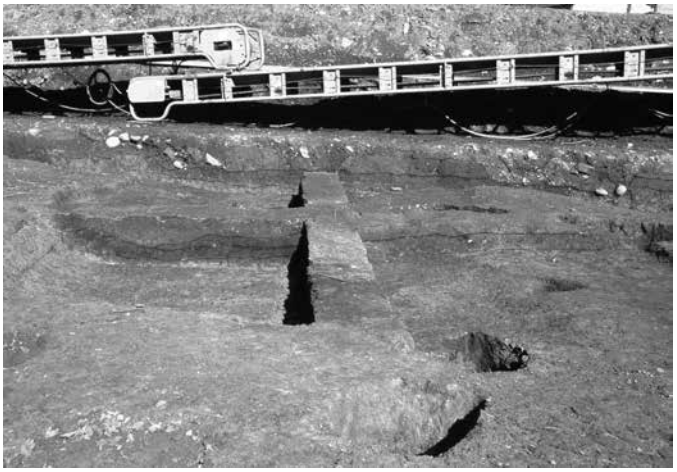


14A3　基本層序（南西から）

SI1311　土層断面（北東から）



SI1311　完掘（北から）



SI1312　土層断面（南西から）

SI1312　完掘（北西から）

SI1312　カマド土層断面（西から）

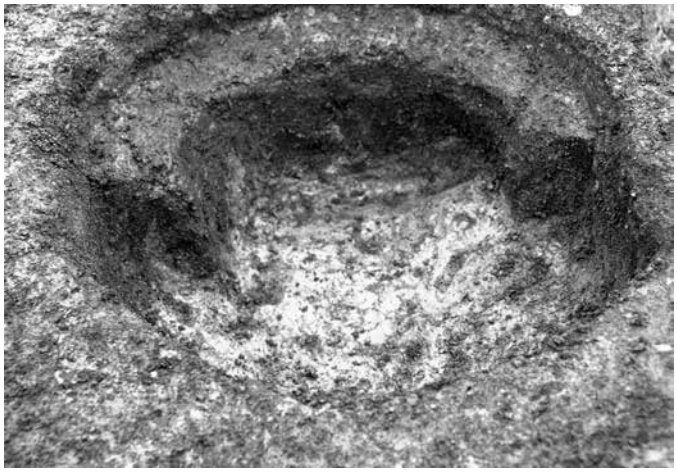
SI1312-P1　土層断面（南から）

SI1312　遺物出土状況（南西から）

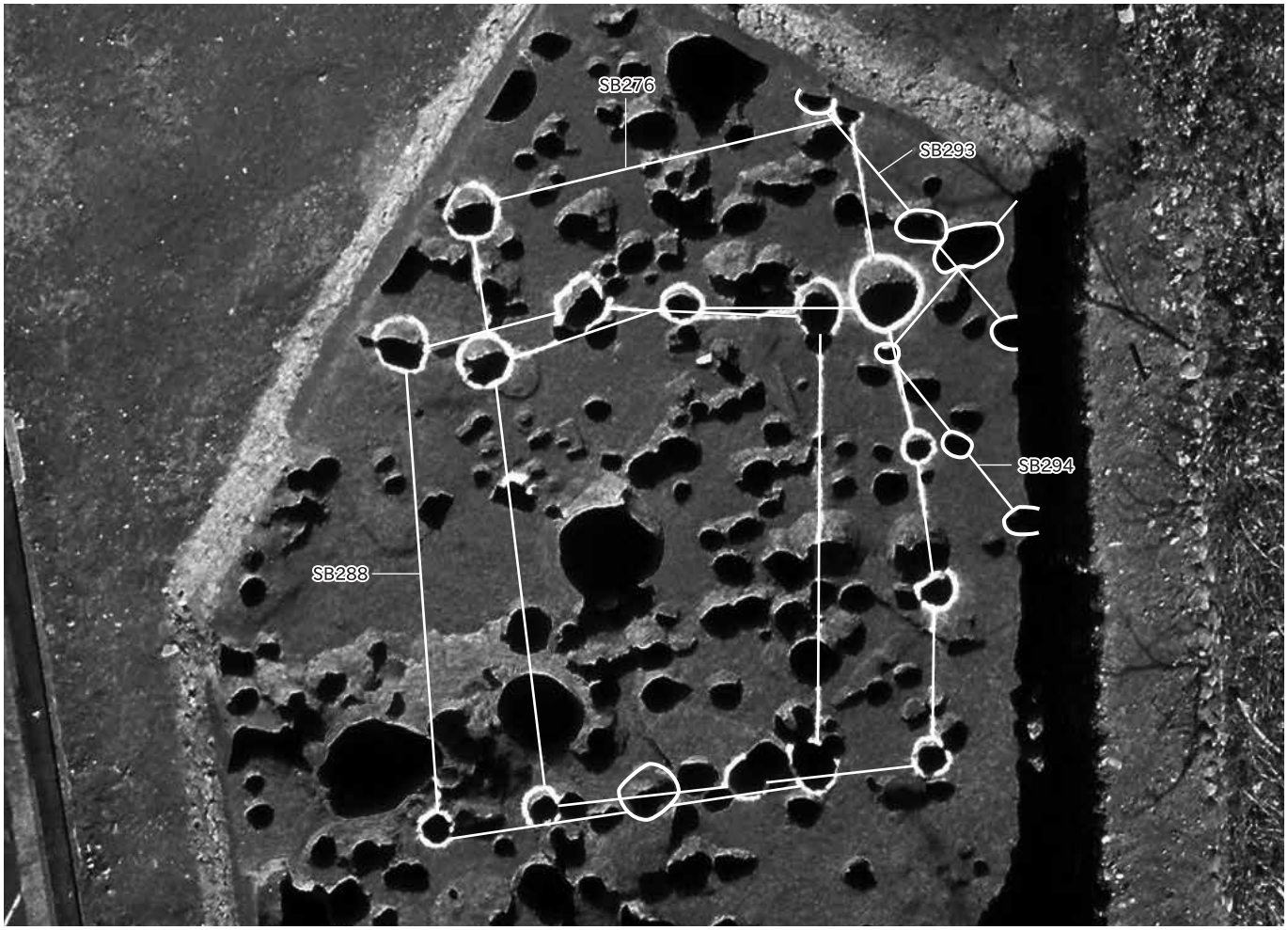
SI1344　土層断面（1）（北東から）

SI1344　土層断面（2）（北東から）

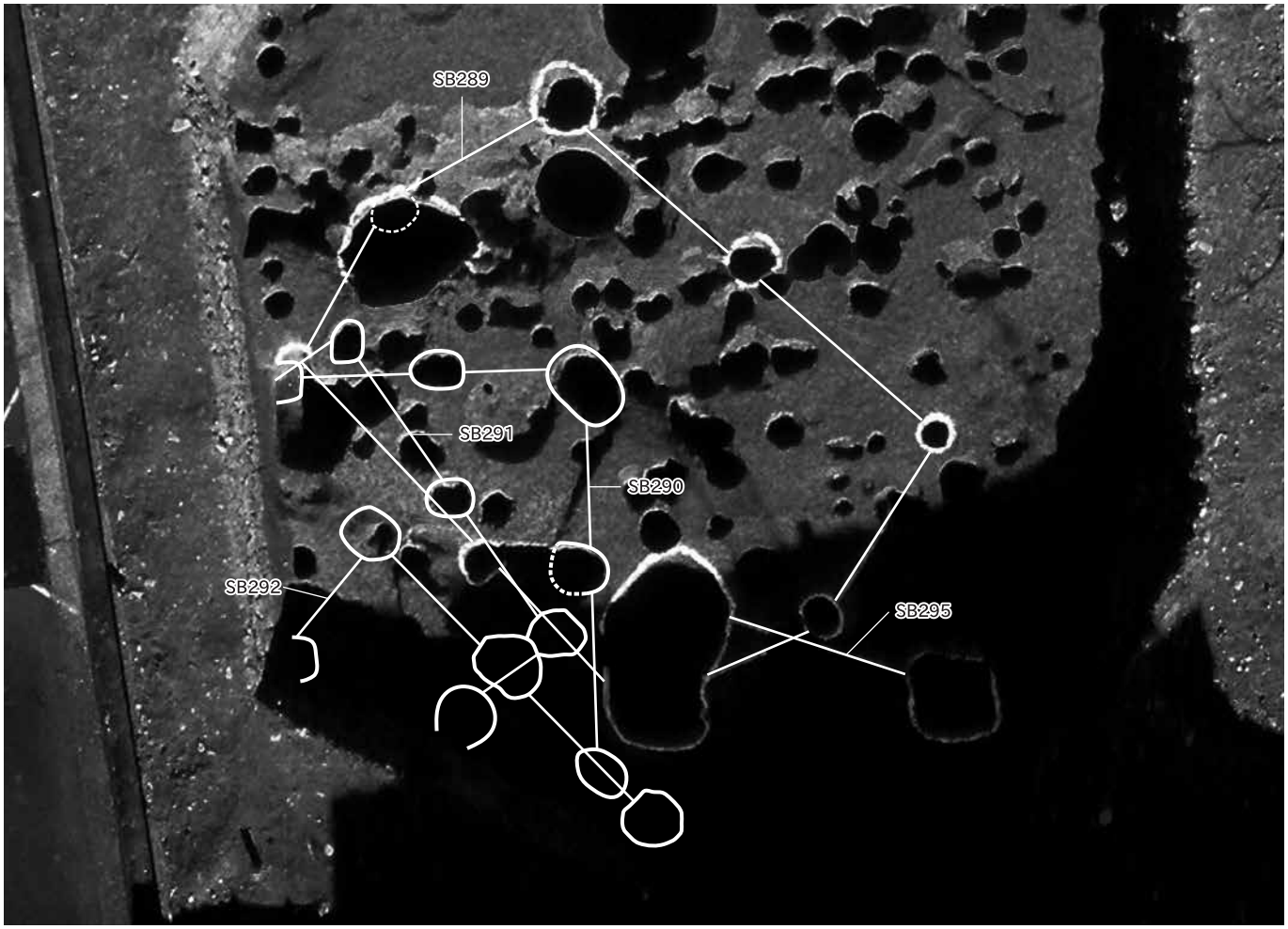
SI1344　完掘（北西から）



SI1344-P1　土層断面（南西から）



SB276・288・293・294　完掘（南から）



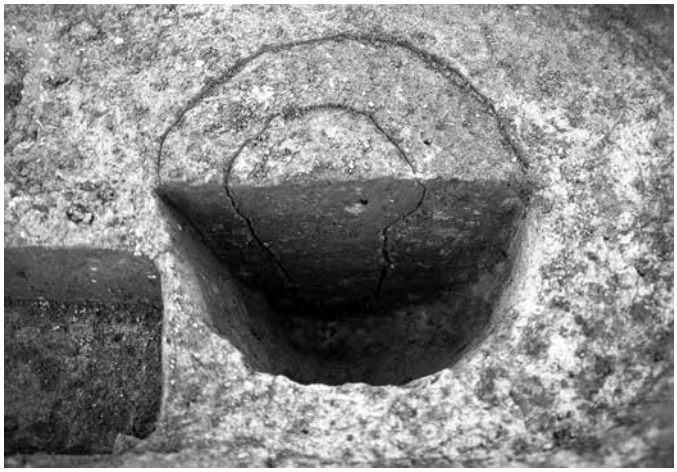
SB289・290・291・292・295　完掘（南から）

SB276-P9　土層断面（南西から）

SB288-P3　土層断面（東から）

SB289-P7　土層断面（南から）

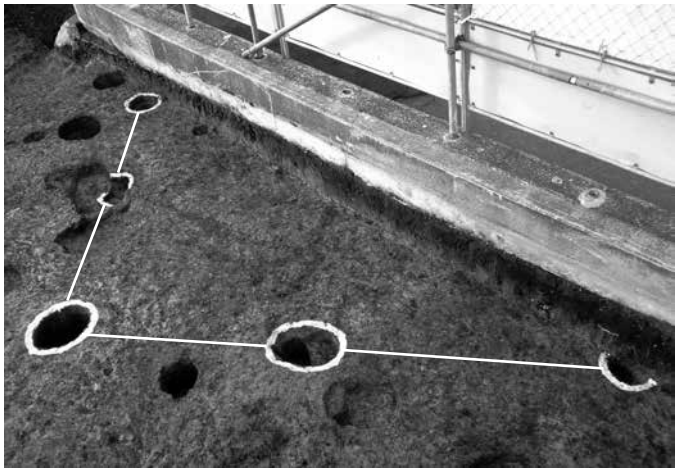
SB290-P2　土層断面（南西から）



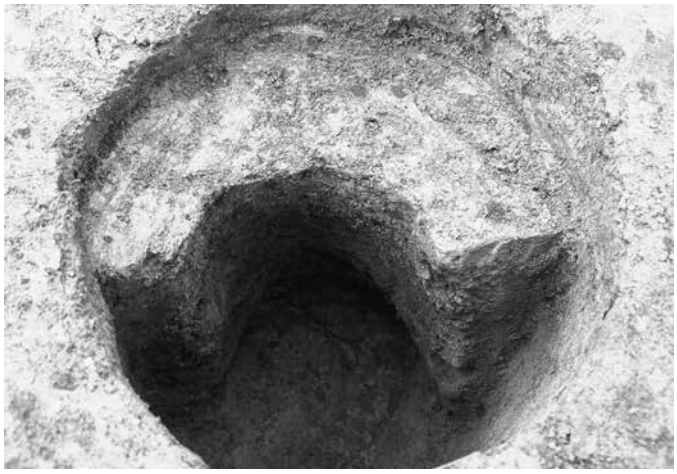
SB291-P3　土層断面（南西から）

SB292-P1　土層断面（北から）

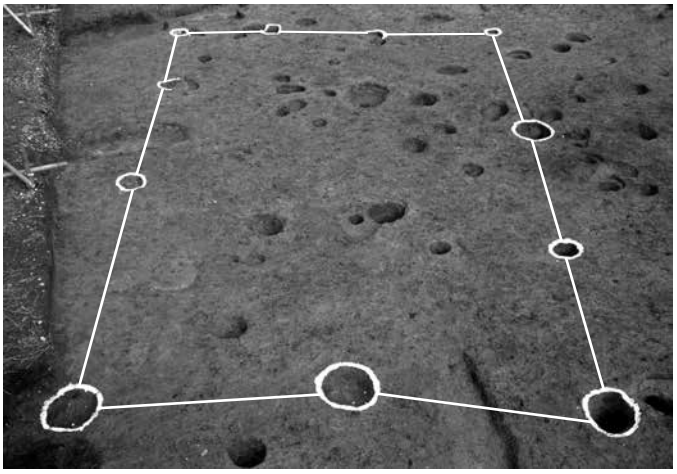
SB295-P1　土層断面（南東から）



SB1501　完掘（南東から）

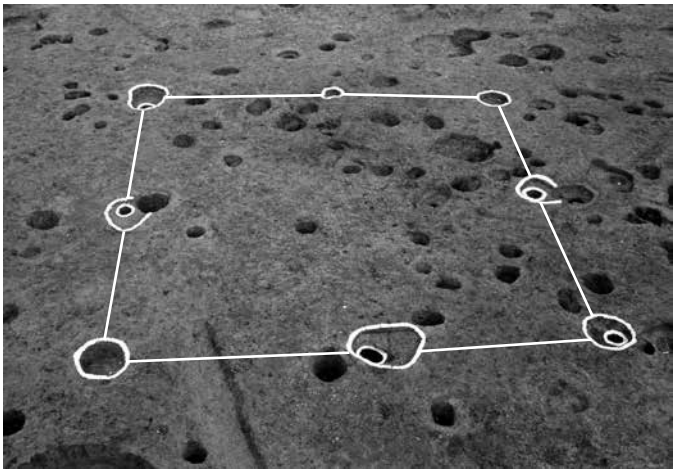


SB1501-P3　土層断面（南東から）



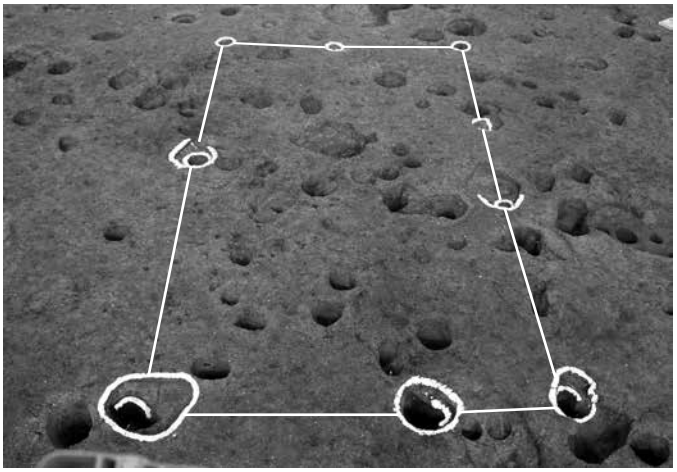
SB1502　完掘（南から）

SB1502-P3　土層断面（南から）



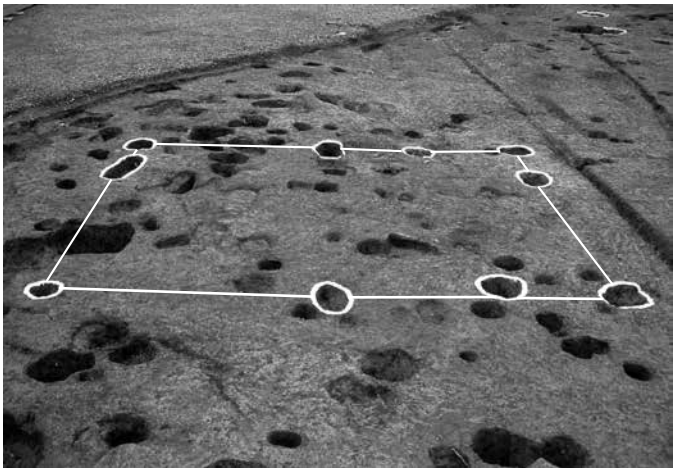
SB1503　柱痕完掘（南から）

SB1503-P1　土層断面（西から）



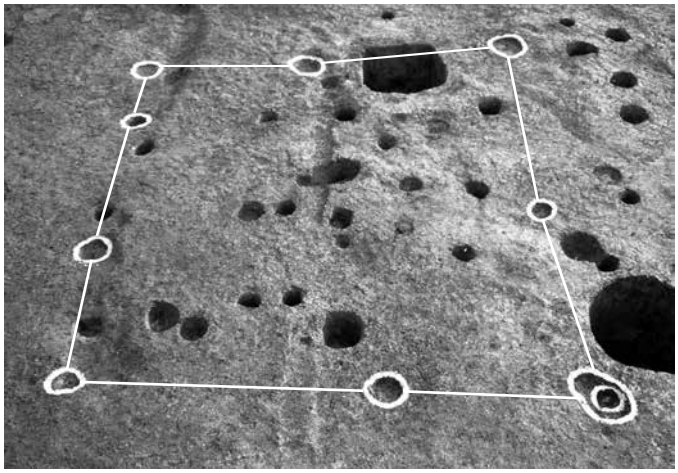
SB1504　柱痕完掘（南から）

SB1504-P5　土層断面（南西から）

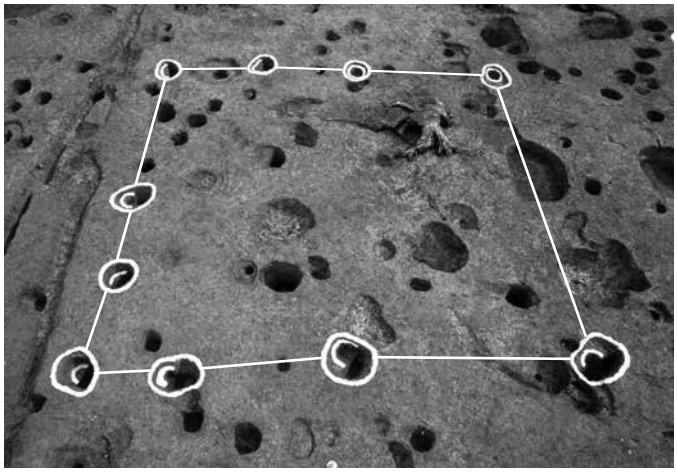


SB1505　完掘（東から）

SB1505-P1　土層断面（南から）

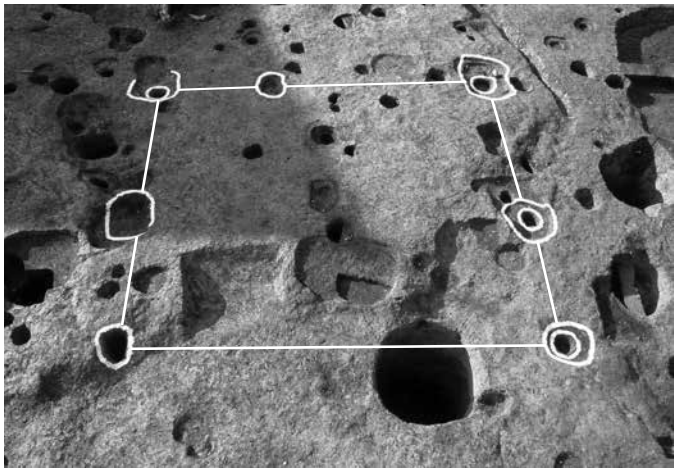


SB1508　柱痕完掘（北から）



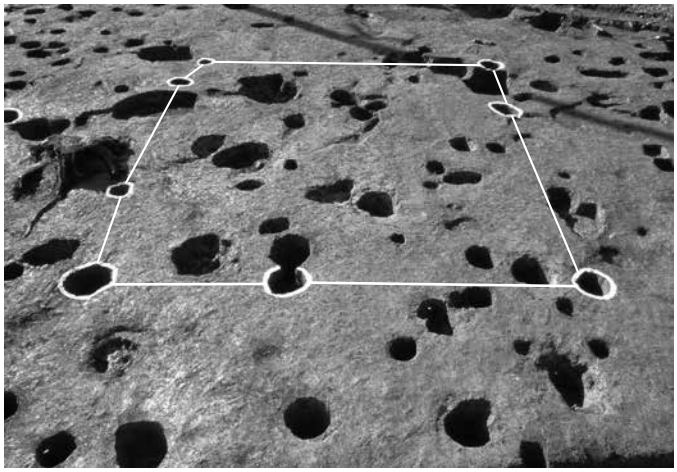
SB1511　柱痕完掘（西から）

SB1511-P5　土層断面（南から）

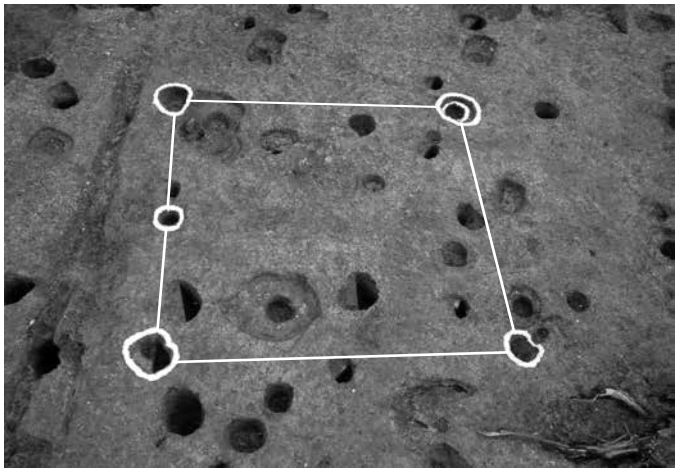


SB1512　柱痕完掘（北西から）

SB1512-P2・SB1515-P1　土層断面（南から）

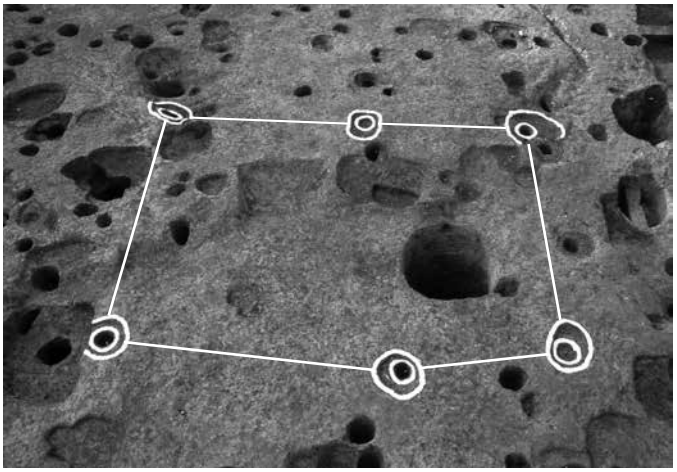


SB1513　完掘（北から）



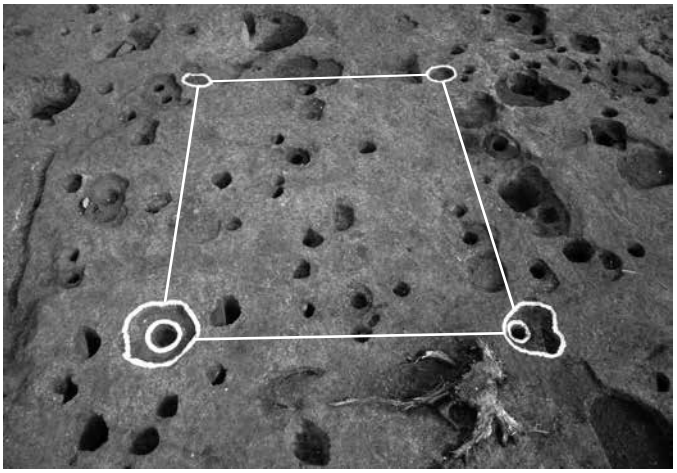
SB1514　柱痕完掘（西から）

SB1514-P4　土層断面（南東から）



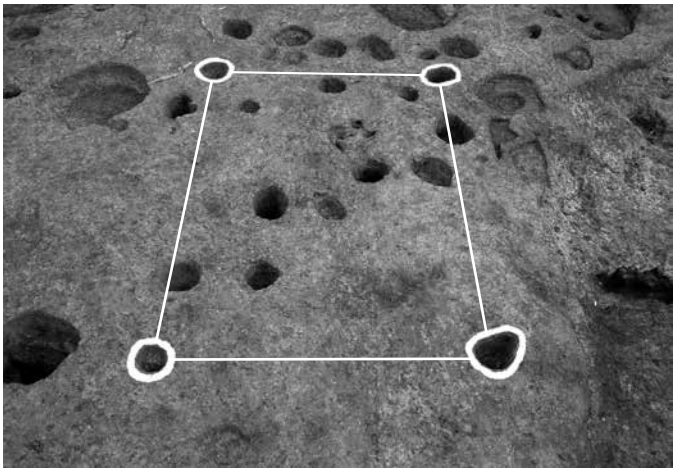
SB1515　柱痕完掘（南東から）

SB1515-P6　土層断面（南から）

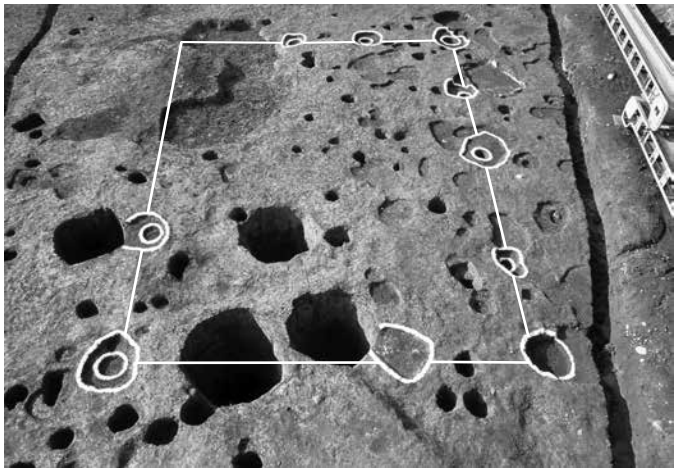


SB1516　柱痕完掘（西から）

SB1516-P1　土層断面（南から）

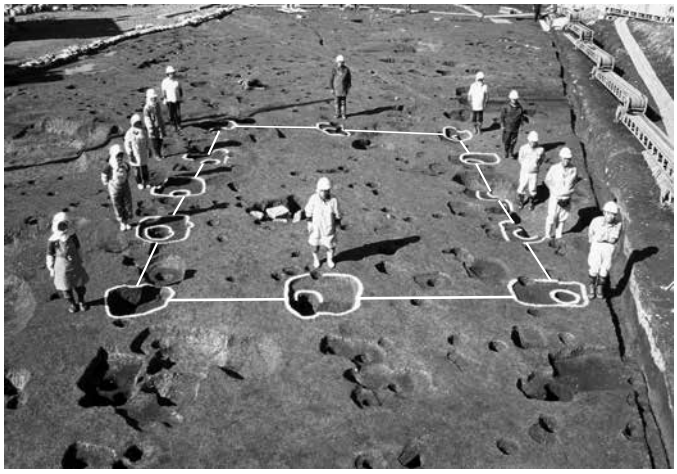


SB1517　完掘（南西から）



SB1518　柱痕完掘（南東から）

SB1518-P1　土層断面（南から）

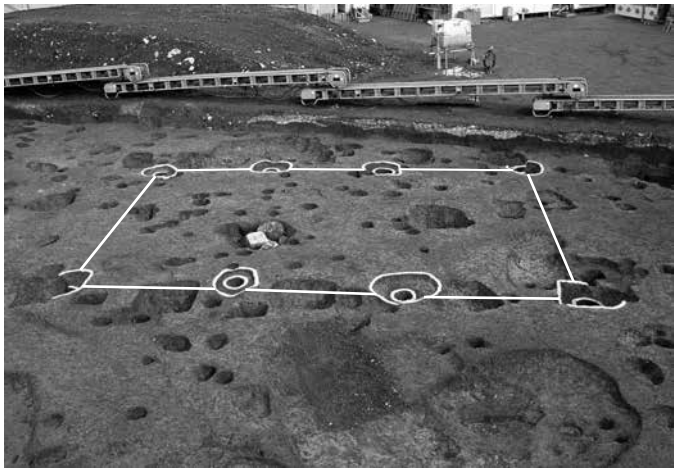


SB1519　柱痕完掘（南東から）

SB1519-P8　柱痕検出状況（南西から）

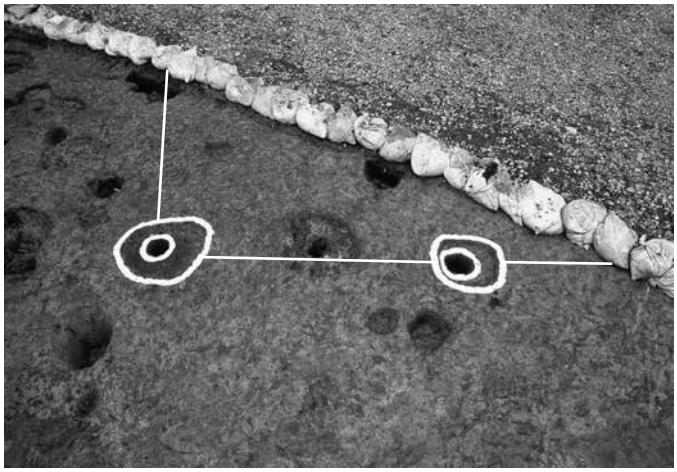
SB1519-P3　土層断面（北東から）

SB1519-P9　土層断面（南西から）



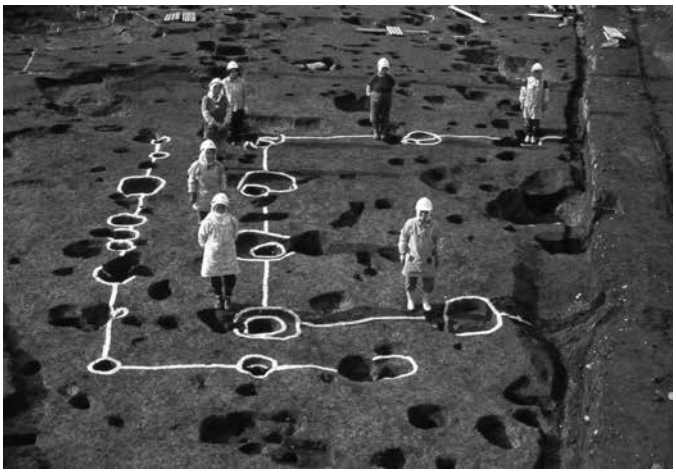
SB1520　柱痕完掘（南西から）

SB1520-P8　土層断面（北西から）

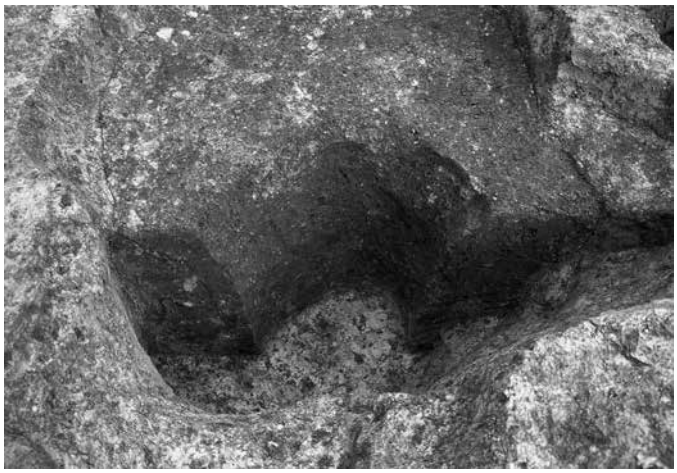


SB1521　柱痕完掘（北から）

SB1521-P2　土層断面（南から）



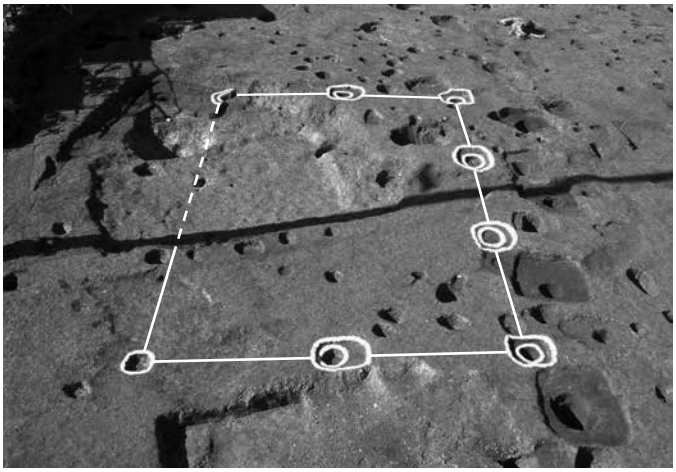
SB1522・SA1532　柱痕完掘（南東から）



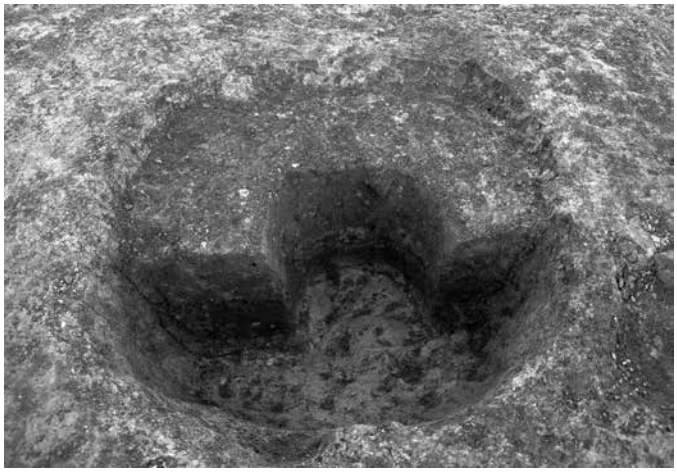
SB1522-P4　土層断面（南西から）

SB1523　完掘（南東から）

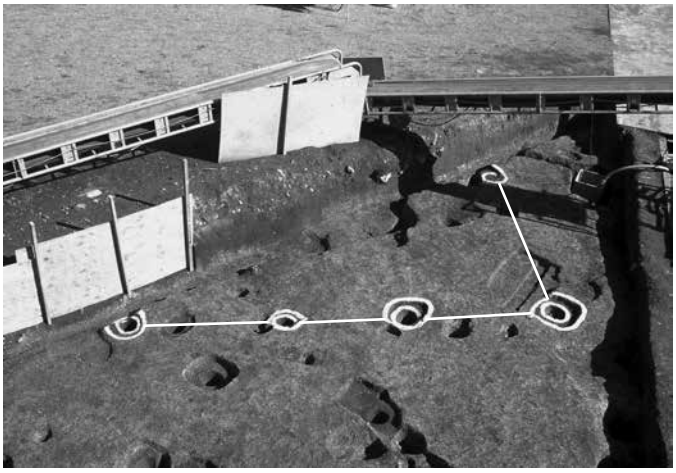
SB1523-P4　土層断面（北東から）



SB1525　柱痕完掘（南東から）

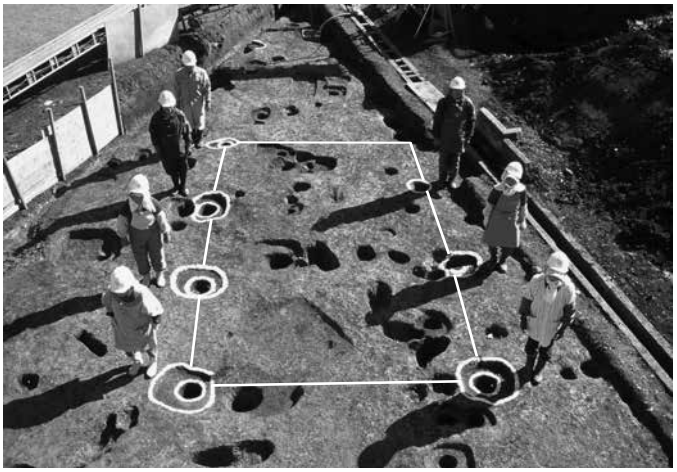


SB1525-P2　土層断面（北西から）



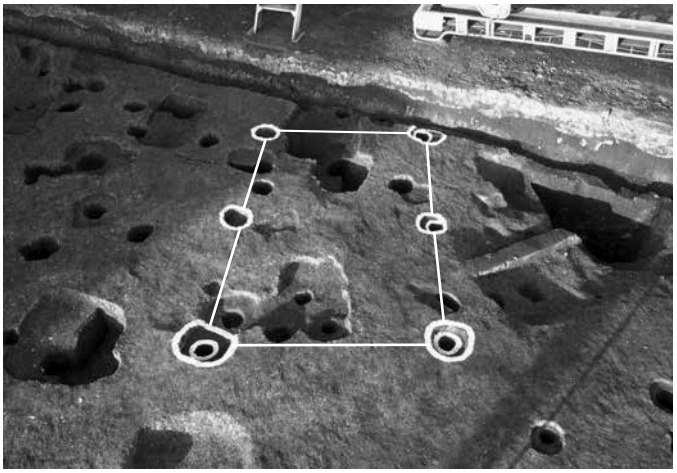
SB1526　柱痕完掘（南西から）

SB1526-P2　土層断面（西から）



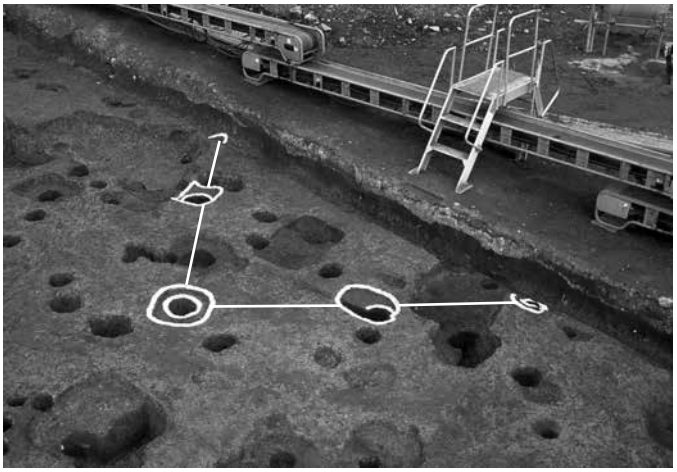
SB1527　柱痕完掘（北西から）

SB1527-P5　土層断面（南から）

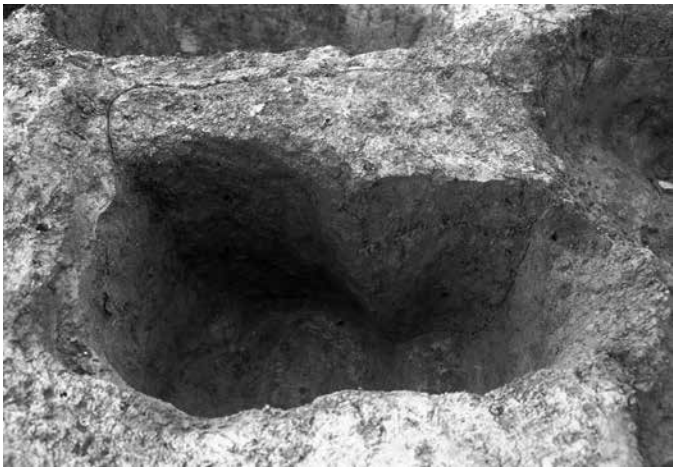


SB1528　柱痕完掘（南西から）

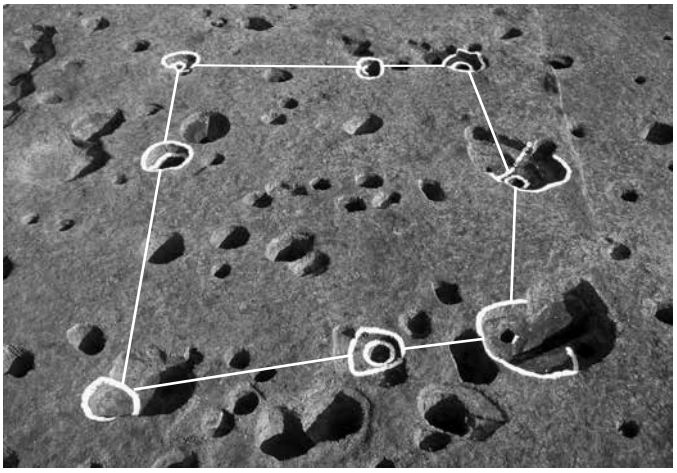
SB1528-P4　土層断面（東から）



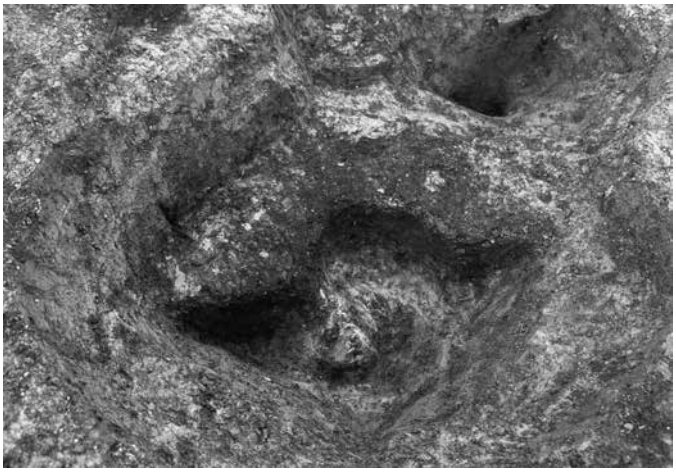
SB1529　柱痕完掘（南西から）



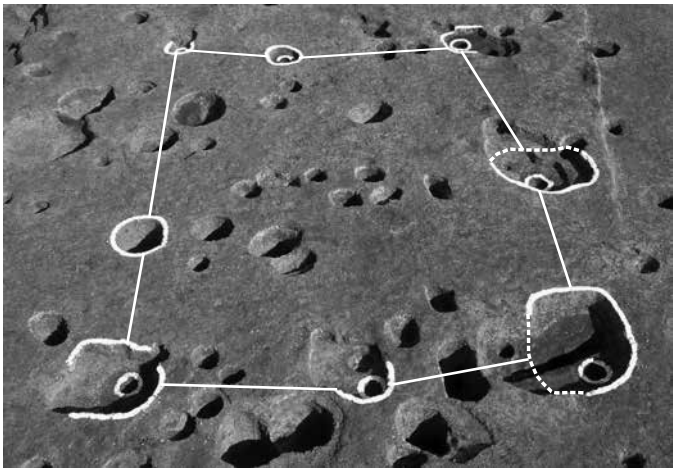
SB1529-P2　土層断面（東から）



SB1533　柱痕完掘（南西から）

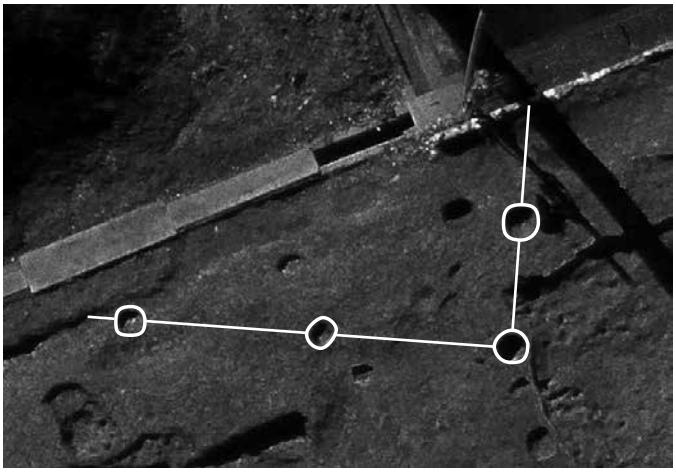


SB1533-P4　土層断面（南東から）



SB1534　柱痕完掘（南西から）

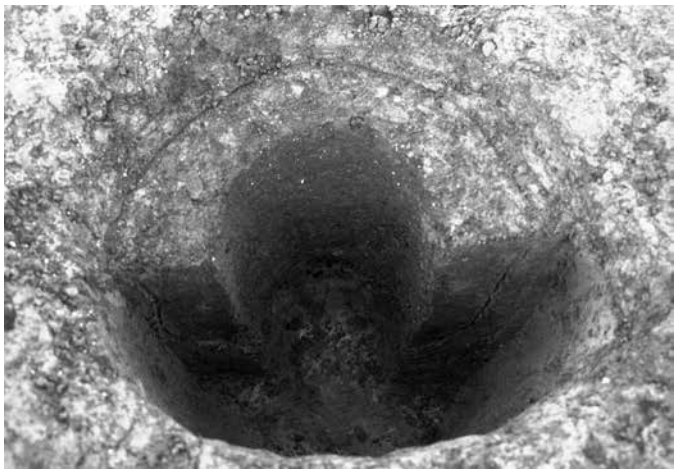
SB1534-P2　土層断面（東から）



SB1576　完掘（北東から）

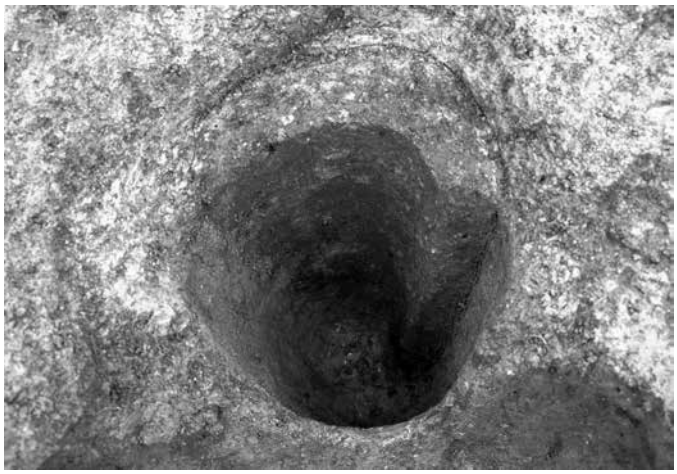
SA1530-P1　土層断面（北東から）

SA1531　柱痕完掘（北西から）

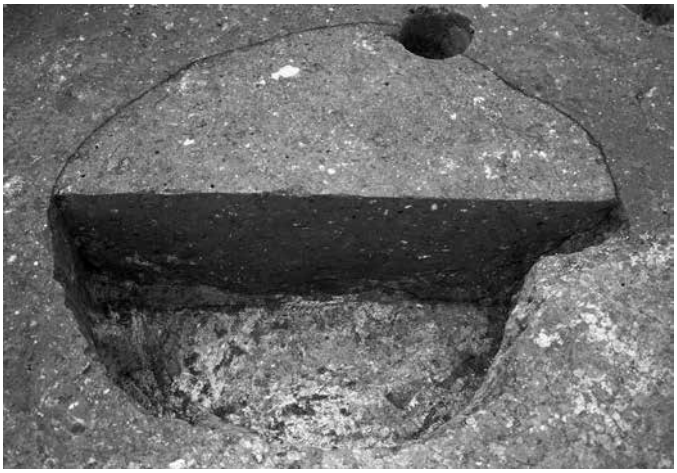


SA1531-P2　土層断面（北西から）

SA1532　柱痕完掘（北西から）



SA1532-P11　土層断面（南から）

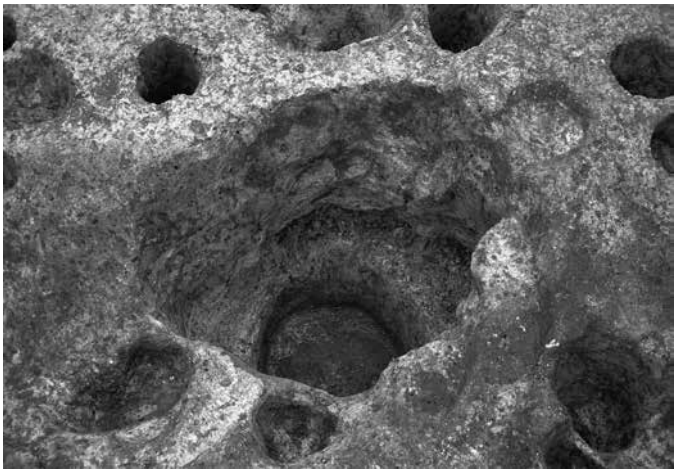


SE143　土層断面　1～3層（東から）

SE143　土層断面　4～7層（東から）

SE143　遺物出土状況（東から）

SE200　土層断面（南から）

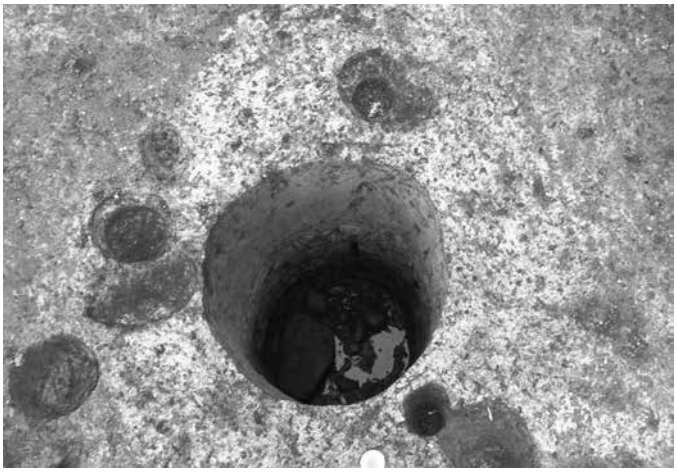


SE200　完掘（南西から）

SE201　土層断面（南西から）

SE201　完掘（北から）

SE337　土層断面（南東から）

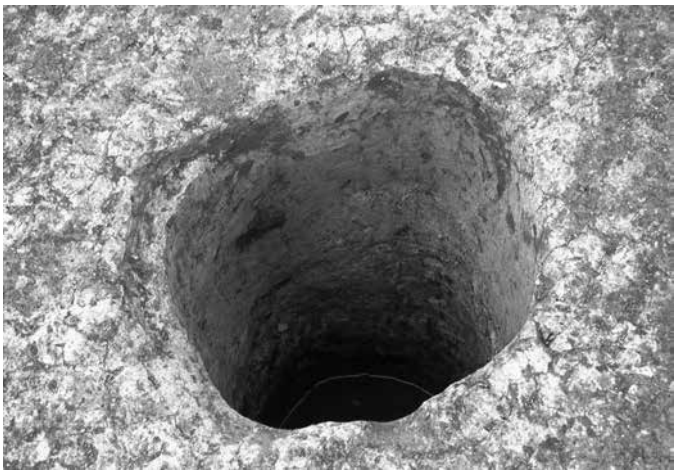


SE337　完掘（南から）

SE488　土層断面　1～5層（南西から）

SE488　完掘（南西から）

SE609　土層断面（南から）



SE609　完掘（西から）

SE760　土層断面（南から）

SE760　完掘（南から）

SE788　土層断面（南から）

SE826　土層断面（南から）

SE826　遺物出土状況（南西から）

SE826　完掘（南東から）

SE830　土層断面（南から）

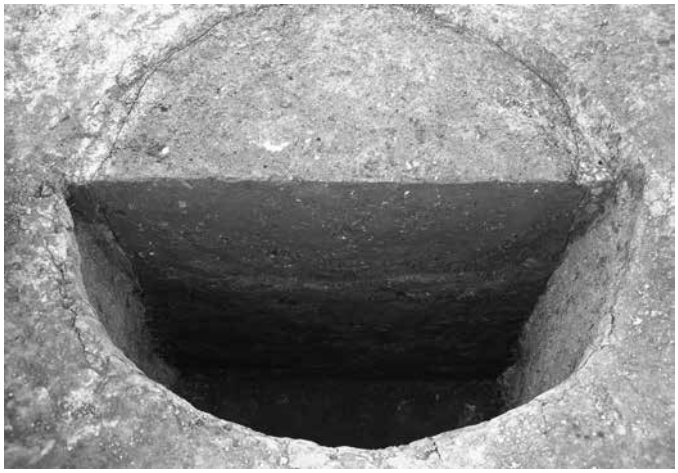
SE834　土層断面（南から）

SE834　完掘（北から）

SE1139　土層断面（南から）

SE1139　遺物出土状況（西から）

SE1139　完掘（西から）

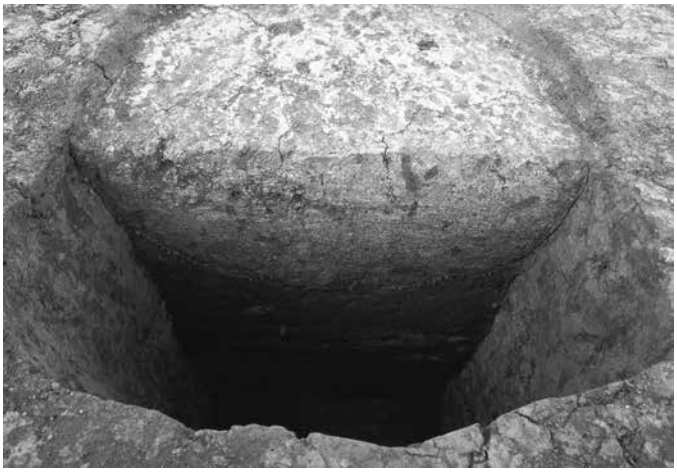


SE1155　土層断面　1～8層（南から）

SE1155　完掘（南西から）

SE1221　土層断面（南西から）

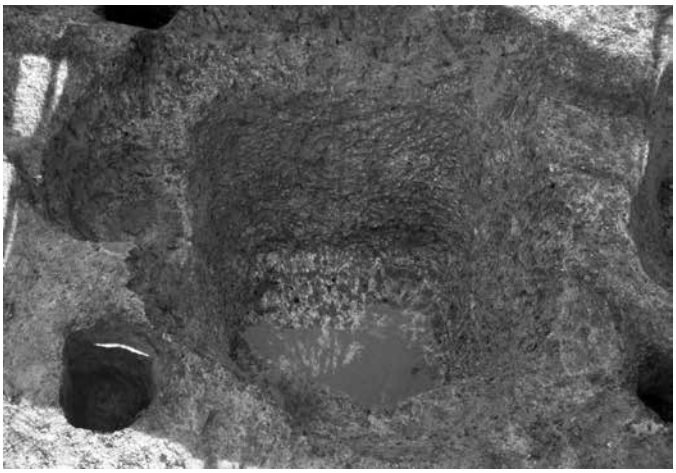
SE1221　完掘（東から）



SE1363　土層断面（南から）

SE1363　完掘（西から）

SE1405　土層断面（南西から）



SE1405　完掘（南西から）

SE1493　完掘（北から）

SE1565　完掘（南から）

P6・SK4・P297　土層断面（東から）

P16・SK61　土層断面（南西から）

SK132　土層断面（北東から）

SB289-P1・SK182　土層断面（東から）

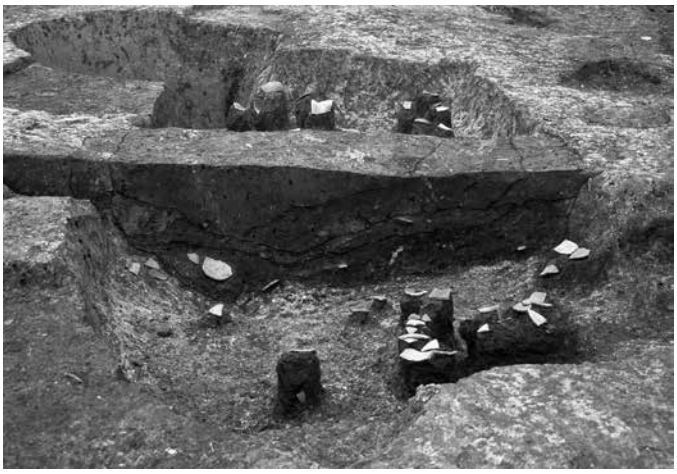
SK183　土層断面（南から）

P169・SK187　土層断面（南西から）

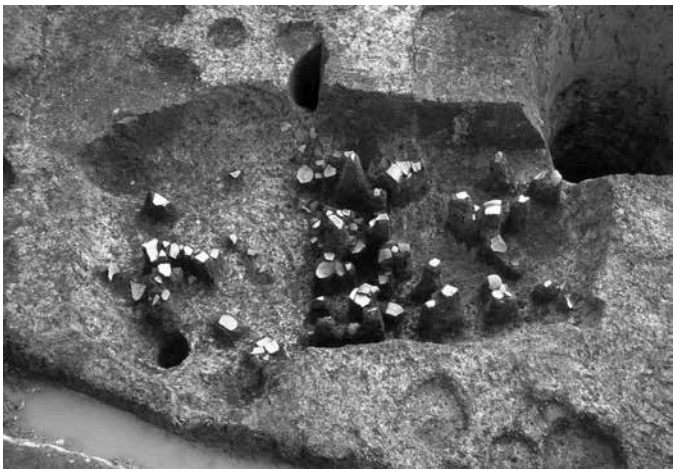
SK476　土層断面（南東から）

SK477　土層断面（南から）

SK477　遺物出土状況（南から）

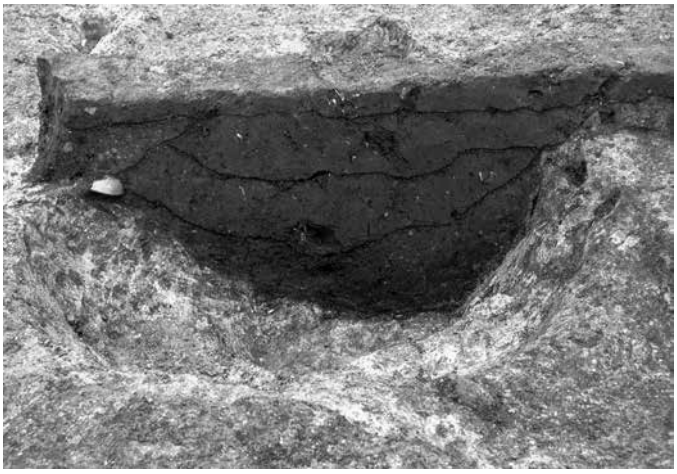


SK483　土層断面（南東から）

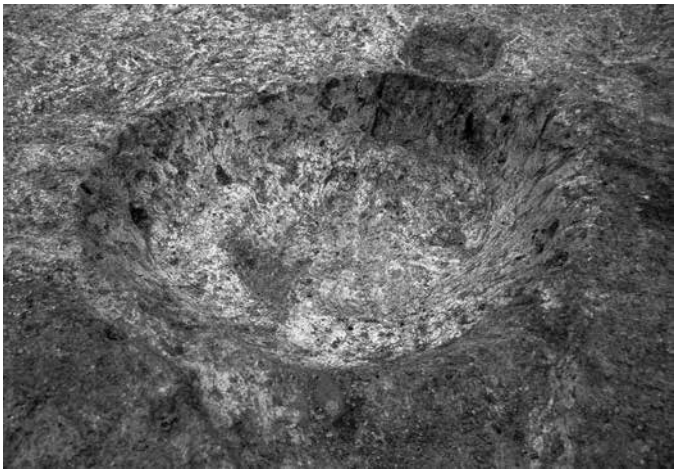


SK483　遺物出土状況（北東から）

SK1087　完掘（西から）



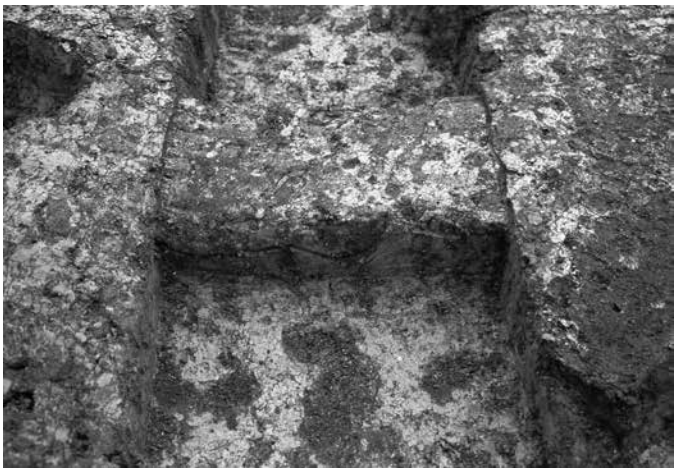
SK1345　土層断面（北西から）



SK1345　完掘（西から）

SK1399　土層断面（西から）

SB1519-P12・SK1500　土層断面（南東から）

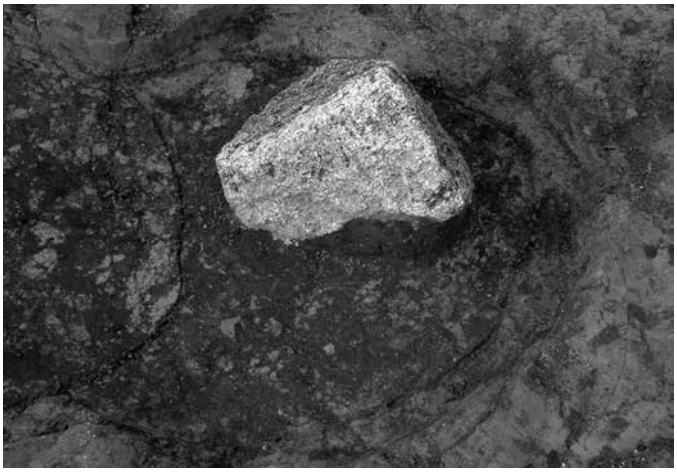


SD106　土層断面（北から）

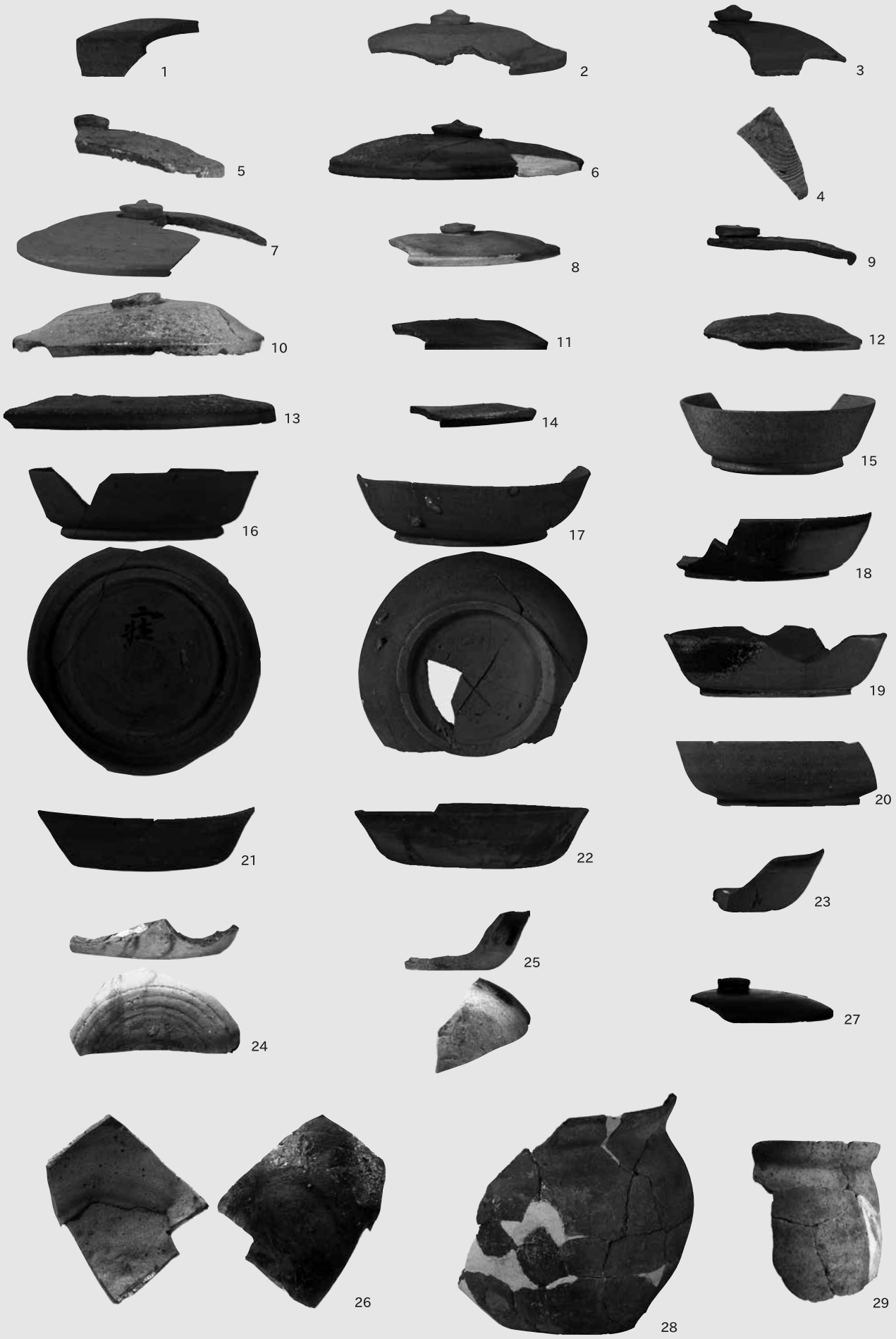
SD190　土層断面（北東から）

SD724　土層断面（北から）

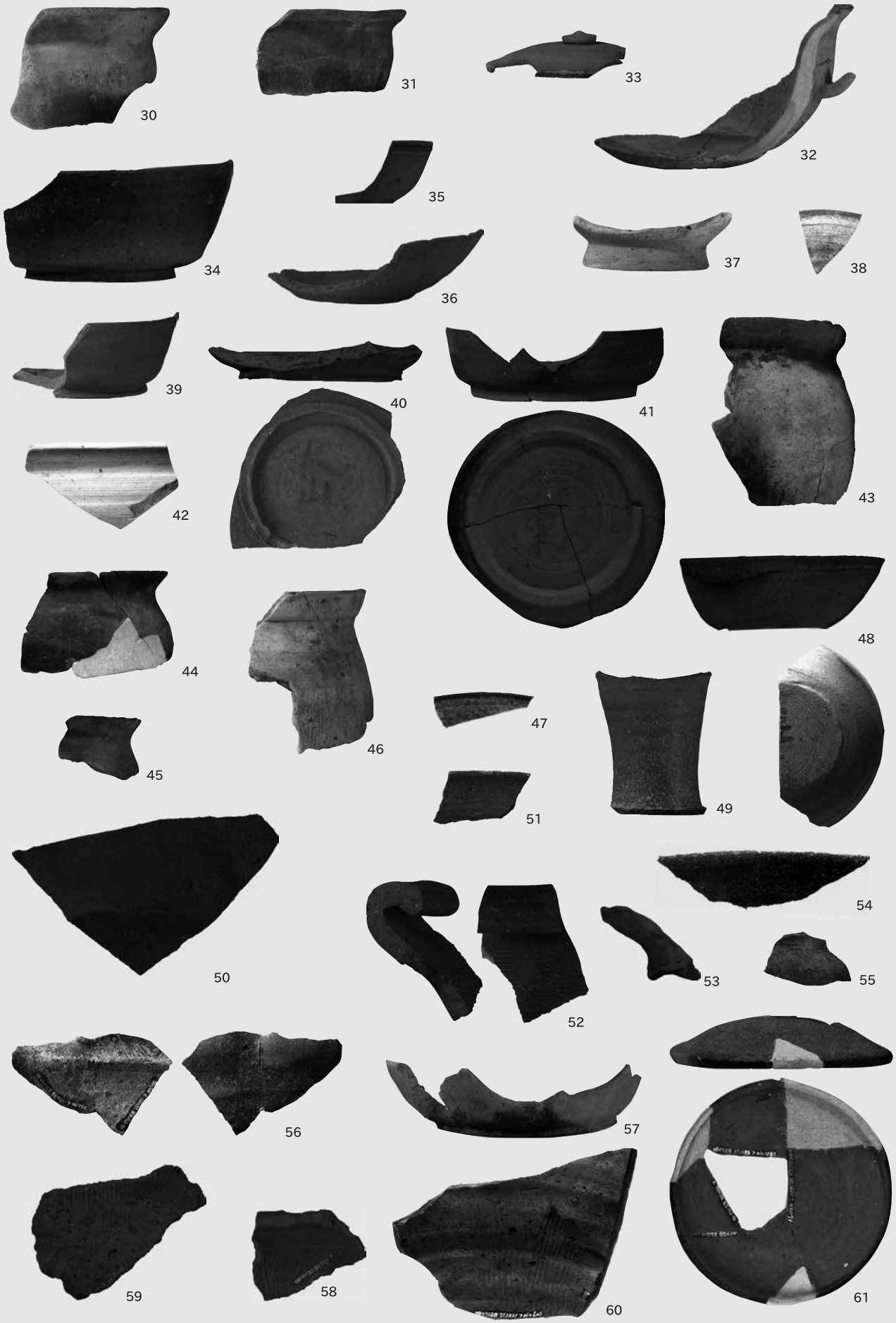
SD1265　土層断面（西から）



P623　遺物出土状況（東から）

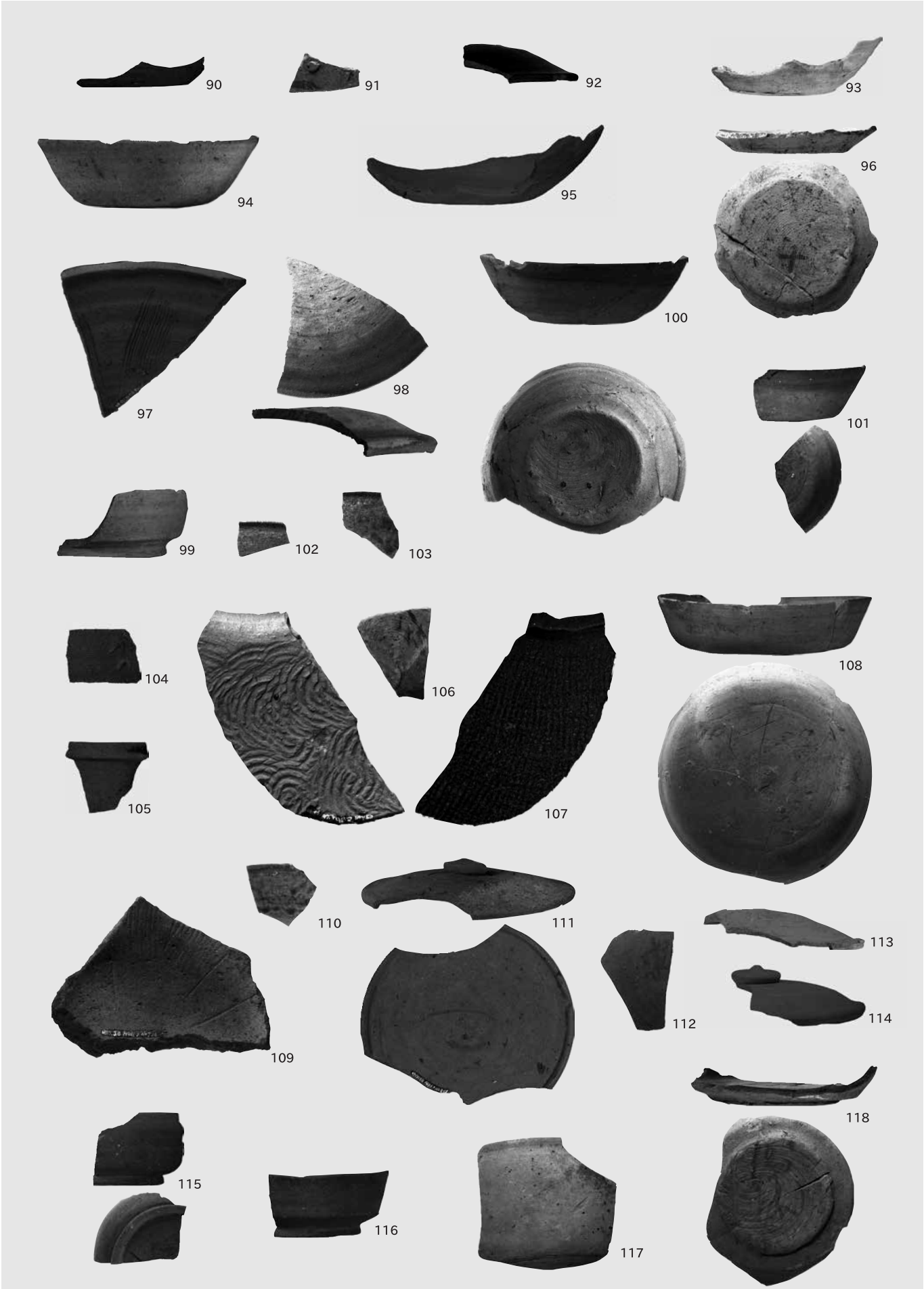


SI1311(1 ～ 4)・SI1312(5 ～ 29)　S=1/3 (1 ～ 29)

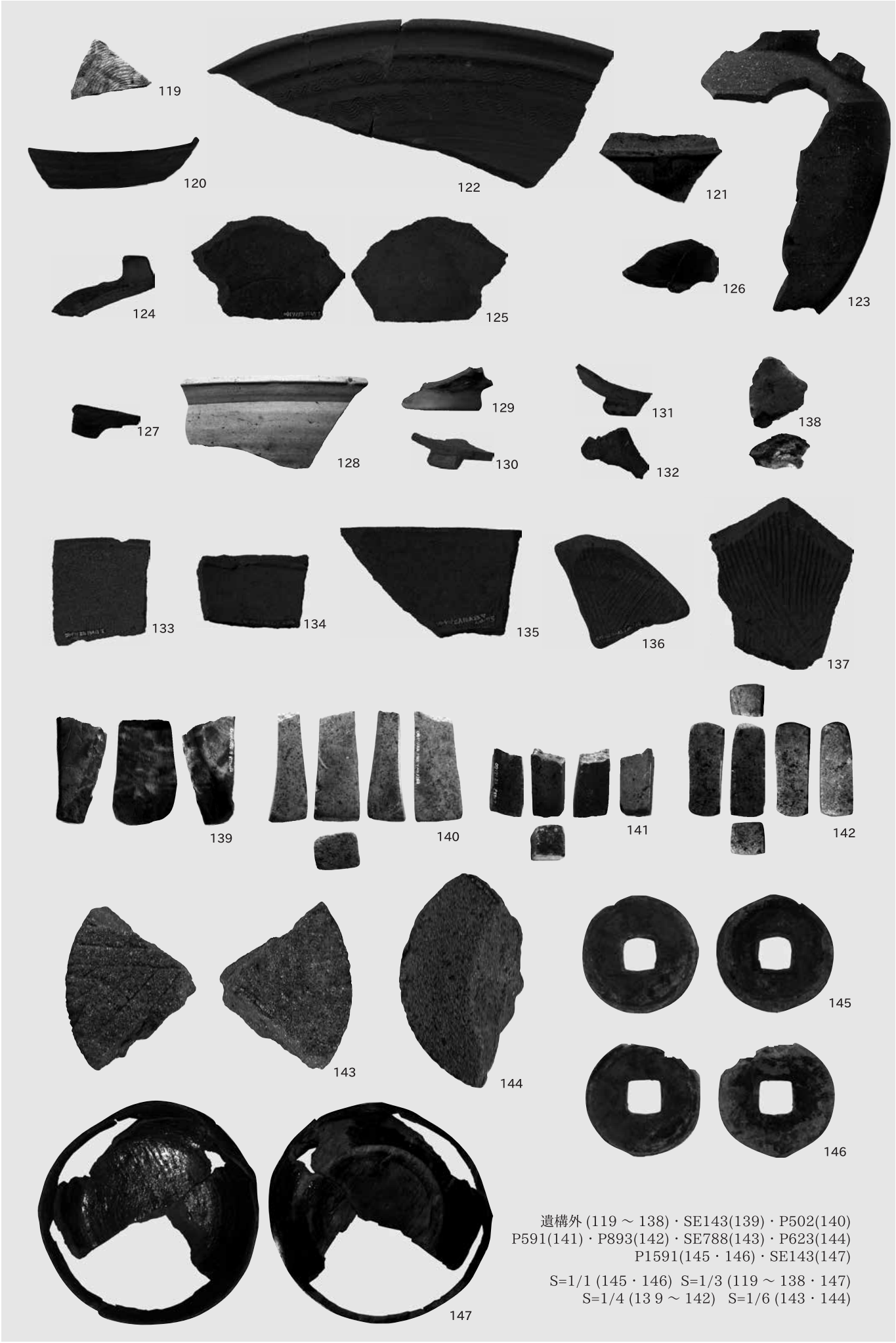


SI1312(30 ～ 32)・SI1344(33 ～ 37)・SB1512(38)・SB1519(39 ～ 46)・SB1526(47)・SB1528(48)・SA1532(49)・SE143(50)
SE203(51・52)・SE488(53・54)・SE788(55・56)・SE1139(57)・SE1155(58・59)・SE1221(60)・SE1405(61)
S=1/3 (33 ～ 41・43 ～ 45・47 ～ 49・51 ～ 61)　S=1/4 (30 ～ 32・42・46・50)

SE1405(62 ～ 65)・SE1565(66)・SK183(67・68)・SK187(69)・SK477(70 ～ 72)・SK483(73～83)・SK1087(84 ～ 89)
S=1/3 (62 ～ 80 ・82・84～ 89)　S=1/4 (81・83)

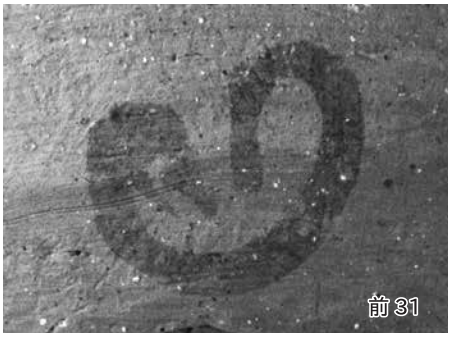


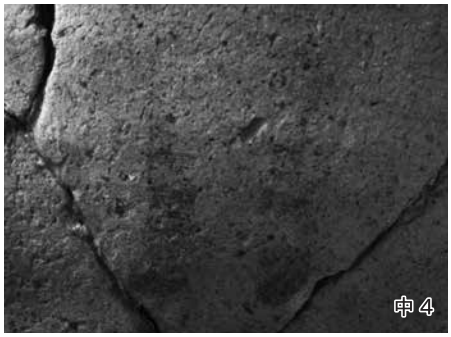
SK1087(90 ～ 93)・SK1345(94～ 96)・P198(97)・P470(98 ～ 100)・P474(101)・P744(102)・P745(103)・P1200(104)
P1291(105)・P1328(106)・P1365(107)・P1441(108・109)・P1564(110)・遺構外(111 ～ 118)
S=1/3 (90 ～ 118)

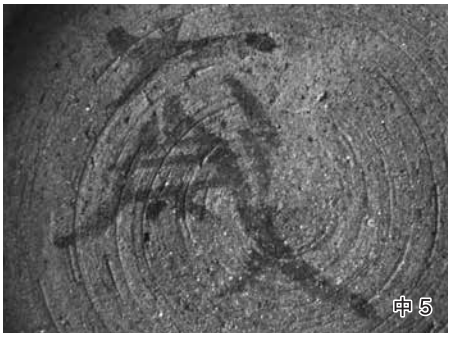


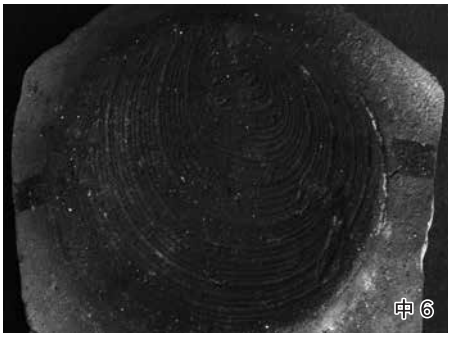
遺構外 (119 ～ 138)・SE143(139)・P502(140)
P591(141)・P893(142)・SE788(143)・P623(144)
P1591(145・146)・SE143(147)

S=1/1 (145・146)　S=1/3 (119 ～ 138・147)
S=1/4 (13 9 ～ 142)　S=1/6 (143・144)


前 31

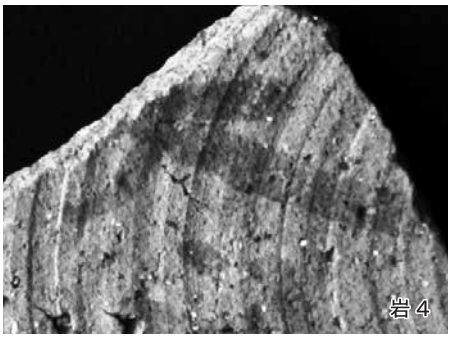

中 4

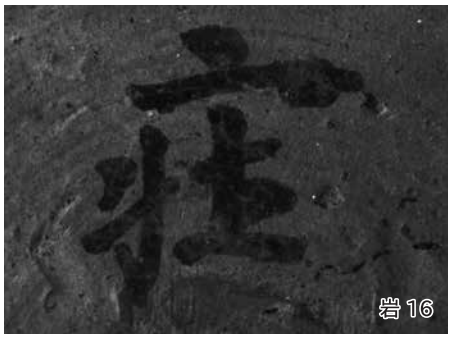

中 5

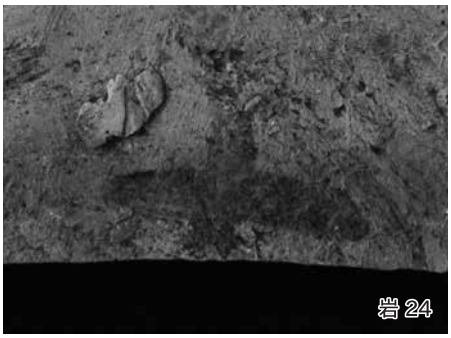

中 6

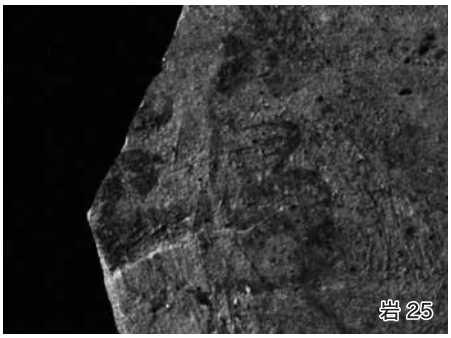
中 7

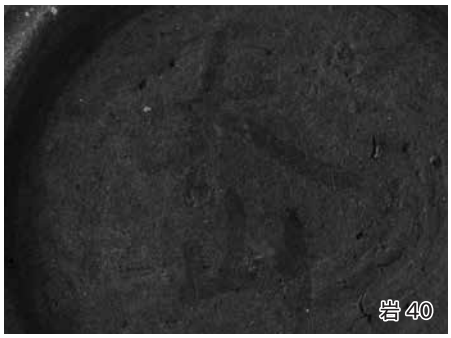
中 8

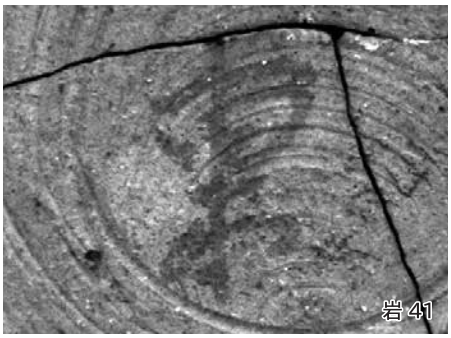

岩 4

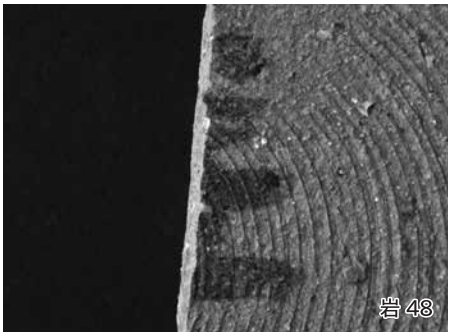

岩 16

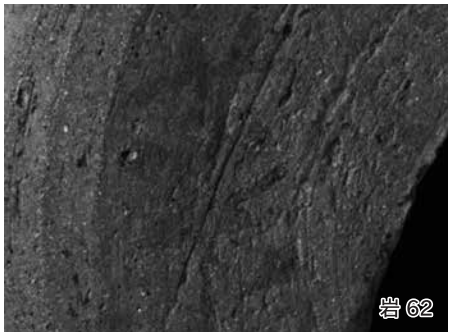

岩 24

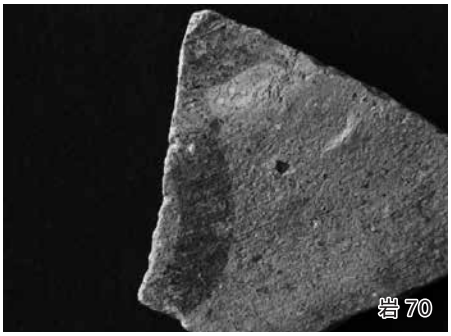

岩 25

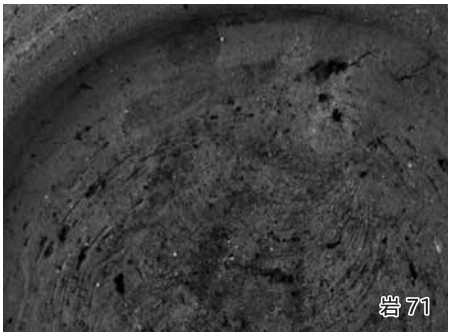

岩 40

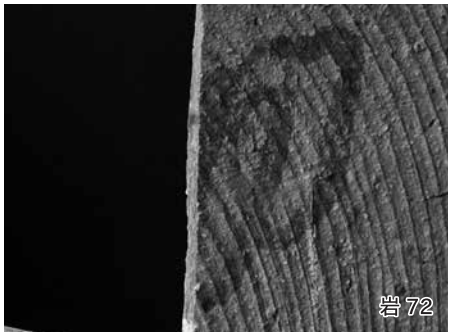

岩 41

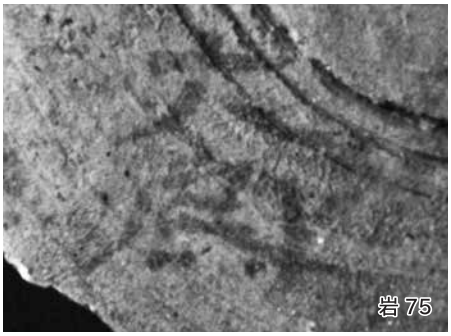

岩 48

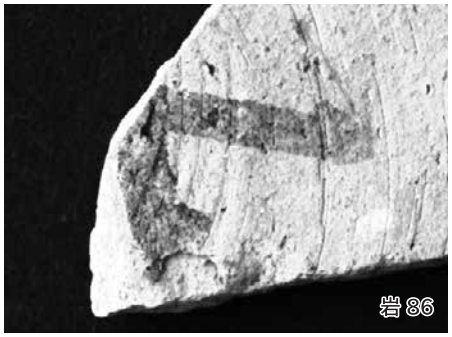

岩 62

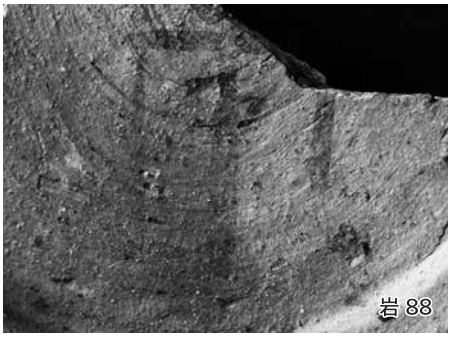

岩 70

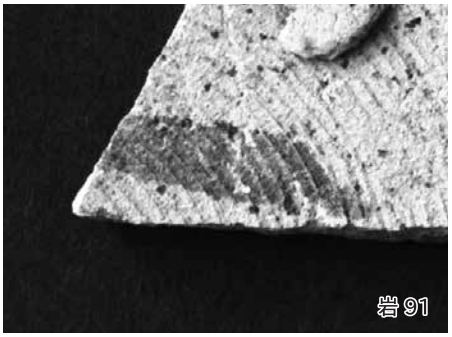

岩 71

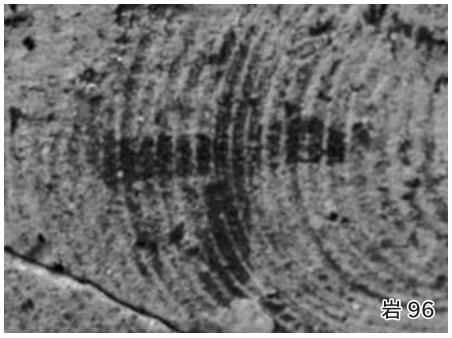

岩 72

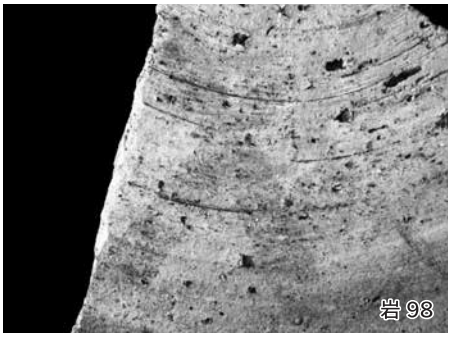

岩 75

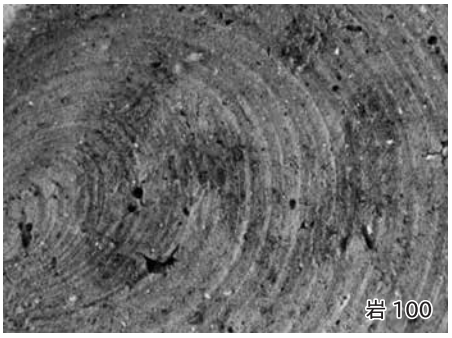

岩 86

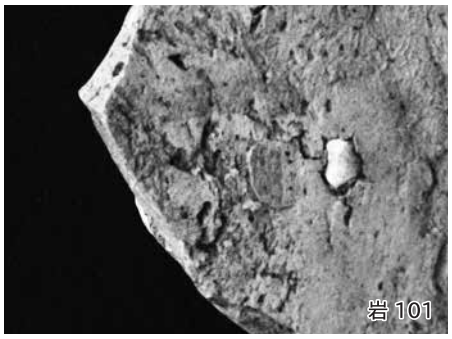

岩 88

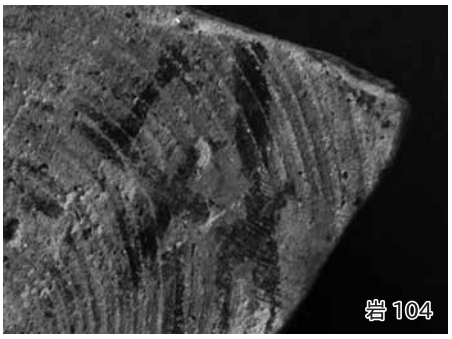

岩 91

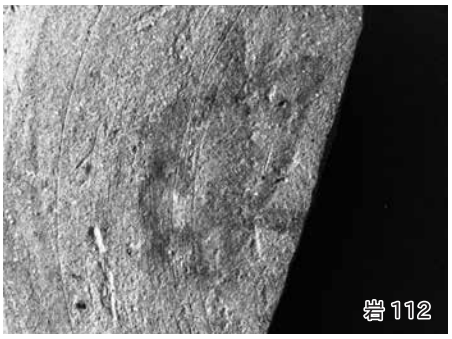

岩 96

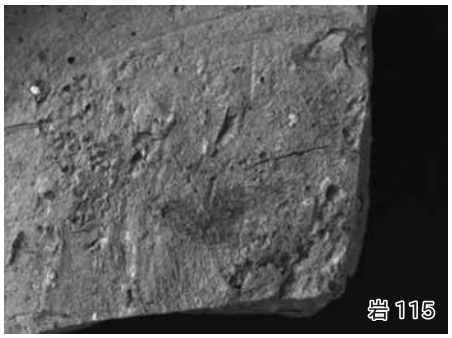

岩 98


岩 100

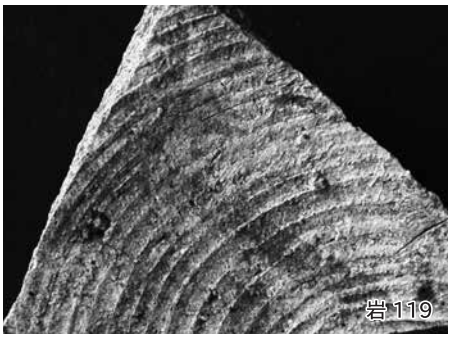

岩 101


岩 104


岩 112


岩 115

岩 118


岩 119

報　告　書　抄　録

ふりがな	きたまえだいせき に・のあぜいせき・すわまえいせき・きたしんでんいせき に・なかたはらいせき に・いわのはらいせき に
書名	北前田遺跡Ⅱ・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱ
副書名	北陸新幹線関係発掘調査報告書
巻次	XⅦ
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第212集
編著者名	戸根与八郎・岡本範之・土沼章一・大谷祐司・金内　元・村端和樹・秋山泰利（株式会社ノガミ）、千葉博俊・高橋　敦・馬場健司（パリノ・サーヴェイ株式会社）、相沢　央（新潟市教育委員会）、高橋保雄（財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団）
編集機関	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団・株式会社　ノガミ
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93-1　　電話 0250(25)3981 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団 〒950-1136 新潟県新潟市江南区曽川甲527-3 電話 025(280)6620 (株)ノガミ
発行年月日	2010（平成22）年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
きたまえだいせき 北前田遺跡Ⅱ	にいがたけんじょうえつしおおあざかみ 新潟県上越市大字上 なかたあざ　きたまえだ 中田字北前田471ほか	15222	1502	37度 05分 22秒	138度 14分 21秒	20080417～ 20080625	2,100	北陸新幹線建設
の あぜいせき 野畔遺跡	にいがたけんじょうえつしおおあざかみ 新潟県上越市大字上 なかたあざ　のあぜ 中田字野畔1085ほか	15222	1511	37度 05分 26秒	138度 14分 19秒	20080616～ 20080714	160	北陸新幹線建設
すわ　まえいせき 諏訪前遺跡	にいがたけんじょうえつしおおあざてら 新潟県上越市大字寺 まちあざ　すわまえ 町字諏訪前1365ほか	15222	1518	37度 04分 14秒	138度 15分 35秒	20080617～ 20080717	230	北陸新幹線建設
きたしんでんいせき 北新田遺跡Ⅱ	にいがたけんじょうえつしおおあざ 新潟県上越市大字 あらまちあざみなみしんでん 荒町字南新田	15222	1503	37度 05分 17秒	138度 14分 31秒	20080623～ 20080808	250	北陸新幹線建設
なかたはら いせき 中田原遺跡Ⅱ	にいがたけんじょうえつしおおあざかみ 新潟県上越市大字上 なかたあざ　なかたはら 中田字中田原81ほか	15222	1494	37度 05分 38秒	138度 14分 02秒	20080710～ 20080930	830	北陸新幹線建設
いわのはら いせき 岩ノ原遺跡Ⅱ	にいがたけんじょうえつしおおあざむか 新潟県上越市大字向 ばしあざ いわのはら 橋字岩ノ原162ほか	15222	1483	37度 05分 42秒	138度 13分 56秒	20080916～ 20081127	1,250	北陸新幹線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北前田遺跡Ⅱ	集落跡	古代（8世紀中葉～9世紀後葉）	掘立柱建物17棟、杭列2基、井戸5基、土坑36基、溝30条	古代の土師器・須恵器・円筒形土製品・土錘・砥石・刀子	
野畔遺跡	集落跡	古代（8世紀中葉～9世紀初頭）	掘立柱建物2棟、井戸1基、土坑2基、性格不明遺構2基、溝1条	古代の土師器・須恵器・砥石	
諏訪前遺跡	集落跡	古代（8世紀中葉～9世紀中葉） 中世（14世紀）	土坑2基	古代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼・青磁・木簡	
北新田遺跡Ⅱ	集落跡	古墳時代後期（7世紀前半） 古代（9世紀中葉）	竪穴住居3棟、掘立柱建物1棟、土坑4基、性格不明遺構3基、溝14条	古墳時代の土師器・須恵器、古代の土師器・須恵器	
中田原遺跡Ⅱ	集落跡	縄文時代 古代（9世紀中葉） 中世(14～15世紀)	井戸2基、土坑4基、性格不明遺構3基、陥穴8基、道条遺構1条	縄文時代の石器・石製品、古代の土師器・須恵器、中世の珠洲焼・瀬戸美濃焼・木製品	
岩ノ原遺跡Ⅱ	荘園関連・集落跡	古代（8世紀中葉～9世紀後半） 中世（13世紀～15世紀前半）	竪穴住居3棟、掘立柱建物36棟、杭列5基、井戸19基、土坑15基、溝4条	古代の土師器・須恵器・灰釉陶器、中世の珠洲焼・羽口・砥石・石臼・銭貨・漆器椀	古代においては東大寺領石井荘の荘園遺跡と考えられる。

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第212集

北陸新幹線関係発掘調査報告書ⅩⅦ

北前田遺跡Ⅱ・野畔遺跡・諏訪前遺跡・北新田遺跡Ⅱ・中田原遺跡Ⅱ・岩ノ原遺跡Ⅱ

平成22年3月30日印刷
平成22年3月31日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市中央区新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市秋葉区金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　北越印刷株式会社
〒940-1164　長岡市南陽2丁目949番8
電話　0258（23）7711
FAX　0258（23）9712